

Hitachi Command Suite

Tuning Manager Software

運用管理ガイド

3020-3-W41-B0

対象製品

Hitachi Tuning Manager 7.6.1

JP1/Performance Management - Manager 09-50

JP1/Performance Management - Manager 10-00

Hitachi Tuning Manager - Agent for RAID 7.6.1

Hitachi Tuning Manager - Storage Mapping Agent 7.6.0

Hitachi Tuning Manager - Agent for SAN Switch 7.6.0

Hitachi Tuning Manager - Agent for Network Attached Storage 7.6.0

JP1/Performance Management - Agent Option for Platform 10-00

JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle 10-00

これらの製品には、他社からライセンスを受けて開発した部分が含まれています。

適用 OS の詳細については「ソフトウェア添付資料」でご確認ください。

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe、および Flash は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AIX 5L は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

DB2 は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

DB2 Universal Database は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Firefox は Mozilla Foundation の登録商標です。

HP-UX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P. のオペレーティングシステムの名称です。

InstallShield は、Macrovision Corporation の米国および/または他の国における登録商標または商標です。

Intel Xeon は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Kerberos は、マサチューセッツ工科大学 (MIT : Massachusetts Institute of Technology) で開発されたネットワーク認証のプロトコルの名称です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Lotus は、IBM Corporation の登録商標です。

Lotus Domino は、IBM Corporation の登録商標です。

Microsoft Exchange Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Office および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ODBC は、米国 Microsoft Corporation が提唱するデータベースアクセス機構です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

RSA および BSAFE は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SAP、R/3、および本文書に記載されたその他の SAP 製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、ドイツおよびその他の国々における SAP AG の商標または登録商標です。

SOAP (Simple Object Access Protocol) は、分散ネットワーク環境において XML ベースの情報を交換するための通信プロトコルの名称です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標がついた製品は、米国 Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。

SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

VERITAS および VERITAS ロゴは、Symantec Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Visual Basic は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

VMware, vCenter Server は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

VMware, VMware vSphere は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

VMware, VMware vSphere Client は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

VMware, VMware vSphere ESX は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

VMware, VMware vSphere ESXi は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

WebSphere は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル, Intel, および Intel Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

プログラムプロダクト「Hitachi Tuning Manager, JP1/Performance Management - Manager, Hitachi Tuning Manager - Agent for RAID, Hitachi Tuning Manager - Storage Mapping Agent, Hitachi Tuning Manager - Agent for SAN Switch, Hitachi Tuning Manager - Agent for Network Attached Storage, JP1/Performance Management - Agent Option for Platform, JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle」には、Oracle Corporation またはその子会社、関連会社が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「Hitachi Tuning Manager, JP1/Performance Management - Manager, Hitachi Tuning Manager - Agent for RAID, Hitachi Tuning Manager - Storage Mapping Agent, Hitachi Tuning Manager - Agent for SAN Switch, Hitachi Tuning Manager - Agent for Network Attached Storage, JP1/Performance Management - Agent Option for Platform, JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle」には、UNIX System Laboratories, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。

Hitachi Tuning Manager は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R) ソフトウェアを搭載しています。

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>.

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).

This product includes software developed by Daisuke Okajima and Kohsuke Kawaguchi (<http://relaxngcc.sf.net/>).

This product includes software developed by the Java Apache Project for use in the Apache JServ servlet engine project (<http://java.apache.org/>).

This product includes software developed by Andy Clark.



発行

2014年1月 3020-3-W41-B0

著作権

All Rights Reserved. Copyright © 2010, 2014, Hitachi, Ltd.

目次

はじめに.....	19
対象読者.....	20
マニュアルの構成.....	20
マイクロソフト製品の表記について.....	21
読書手順.....	21
このマニュアルで使用している記号.....	21
このマニュアルの数式中使用している記号.....	22
フォルダおよびディレクトリの統一表記.....	22
このマニュアルでのコマンドの表記.....	22
このマニュアルでのサービス ID の表記.....	22
インストール先ディレクトリの表記.....	23
製品のバージョンと表示されるバージョンの対応.....	23
1. Tuning Manager server の管理と設定.....	25
1.1 管理画面について.....	26
1.1.1 グローバルタスクバーエリア.....	27
1.1.2 エクスプローラエリア.....	27
1.1.3 アプリケーションバーエリア.....	28
1.1.4 ナビゲーションエリア.....	28
1.1.5 タイトルエリア.....	28
1.1.6 インフォメーションエリア.....	28
1.1.7 入力文字の制限事項.....	28
1.2 管理者としてのログイン.....	32
1.2.1 初期のユーザーアカウントについて.....	34
1.3 ログアウト.....	34
1.4 サービスの起動.....	34
1.4.1 サービスを起動する.....	35
(1) Tuning Manager server のサービス (HiCommand Suite TuningManager)	35
(2) Performance Reporter のサービス (HiCommand Performance Reporter)	35
(3) HiRDB のサービス.....	35
(4) すべての Hitachi Command Suite 製品および HiRDB のサービス.....	35
1.4.2 サービスの状態を確認する (起動時)	36
1.4.3 サービス起動時の注意事項.....	36
1.5 サービスの停止.....	37
1.5.1 サービスを停止する.....	37
(1) Tuning Manager server のサービス (HiCommand Suite TuningManager)	37
(2) Performance Reporter のサービス (HiCommand Performance Reporter)	37
(3) HiRDB のサービス.....	37
(4) すべての Hitachi Command Suite 製品および HiRDB のサービス.....	38

1.5.2 サービスの状態を確認する（停止時）	38
1.5.3 サービス停止時の注意事項	38
1.6 ユーザープロパティファイルの設定について	39
1.7 Tuning Manager server の使用ポート	44
1.7.1 Device Manager と接続するポート番号の変更	44
(1) ファイアウォールを設定したネットワークでの運用	44
(2) ポート番号の変更手順	44
1.7.2 PFM - Manager と接続するポート番号の変更	45
1.8 ホスト名または IP アドレスの設定	45
1.9 Tuning Manager server に接続できる Web 端末を制限する	46
1.10 SSL の設定	47
1.11 JP1/IM との連携	47
1.12 マシンの時刻調整について	49
1.12.1 Tuning Manager server とエージェントでマシンの時刻のずれによって発生する現象	49
(1) Tuning Manager server の時刻がエージェントよりも過去の場合	49
(2) Tuning Manager server の時刻がエージェントよりも未来の場合	50
1.12.2 Tuning Manager server と Device Manager サーバでマシンの時刻のずれによって発生する現象	50
(1) Tuning Manager server と Device Manager サーバの時刻のずれが一定の場合	50
(2) 運用中に Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも遅らせた場合	51
(3) 運用中に Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも進ませた場合	51
1.12.3 Tuning Manager シリーズをインストールするマシンの時刻変更に関する注意事項	51
1.13 PFM - Manager に接続するための認証キーファイルの作成	52
1.14 Oracle JDK を使用する場合の設定	53
2. ライセンス管理	55
2.1 Tuning Manager server のライセンスについて	56
2.2 ライセンスキーの登録	56
2.3 ライセンスと Tuning Manager server のバージョン情報の見方について	57
3. データベース管理	59
3.1 Tuning Manager server のデータベース	60
3.2 データベースの容量表示	60
3.3 データベースのバックアップ	60
3.4 データベースのリストア	62
3.5 データベースの総容量の変更	63
3.5.1 データベースの総容量の見積もり方法	64
3.5.2 データベースの総容量の拡張手順	67
3.5.3 データベースの総容量の縮小手順	68
3.6 データベースの移行	69
3.6.1 データベースを移行する場合の注意事項	69
3.6.2 移行先サーバへの Hitachi Command Suite 製品のインストール	70
3.6.3 移行元サーバでのデータベースのエクスポート	71
3.6.4 移行先サーバでのデータベースのインポート	72
4. ユーザー管理	75
4.1 ログインモード	76
4.2 ユーザー管理とは	76
4.2.1 ユーザー権限	77
4.3 ユーザーを管理する	77
4.3.1 ユーザーを追加する	78

4.3.2 ユーザーに権限を設定する.....	79
4.3.3 ユーザーのプロファイルを参照または編集する.....	80
(1) ほかのユーザーのプロファイルを参照または編集する.....	80
(2) 自分のプロファイルを参照または編集する.....	80
4.3.4 パスワードを変更する.....	81
(1) ほかのユーザーのパスワードを変更する.....	81
(2) 自分のパスワードを変更する.....	81
4.3.5 ユーザーアカウントのロック状態を変更する.....	82
4.3.6 ユーザーを削除する.....	83
4.4 ログイン時のセキュリティオプションの設定.....	83
4.4.1 パスワードの条件を設定する.....	84
4.4.2 ユーザーアカウントの自動ロックを設定する.....	84
4.4.3 警告バナーのメッセージを設定する.....	85
5. ツールの設定.....	87
5.1 Device Manager の接続設定.....	88
5.1.1 htm-dvm-setup コマンドを手動で実行する.....	88
5.1.2 htmsetup コマンドを手動で実行する.....	89
5.2 エージェントの接続設定.....	89
5.3 Performance Reporter の初期設定.....	90
5.3.1 初期設定ファイル (config.xml) に指定する日付の形式.....	99
(1) 日付の表示形式のタグ指定.....	99
(2) 日付の表示形式の指定例.....	100
5.3.2 ブックマークの定義情報を保存するリポジトリ.....	103
(1) リポジトリの格納先の変更.....	103
(2) リポジトリファイルの破損.....	104
(3) リポジトリファイルのバックアップとリストア.....	104
(4) アンインストール時のリポジトリファイルの管理.....	104
5.3.3 リアルタイムレポート表示時のデータキャッシュ.....	104
5.3.4 初期設定ファイルのファイル例.....	105
5.3.5 初期設定ファイルの編集 (Windows)	112
5.3.6 初期設定ファイルの編集 (Solaris)	113
5.3.7 初期設定ファイルの編集 (Linux)	114
5.4 Performance Reporter の起動時に開く画面の変更方法.....	115
6. エージェント, Device Manager からのデータ取得.....	117
6.1 Tuning Manager server のデータ取得 (ポーリング)	118
6.1.1 情報取得元から取得する情報.....	118
6.1.2 ホストの情報取得元 (ホストの監視モード) の選択.....	119
(1) ホストの監視モードの特徴.....	119
(2) ホストの監視モードが有効になる条件.....	120
(3) ホストの監視モードの切り替え.....	120
(4) ホストの監視モードの違いによる表示情報の差異.....	120
6.1.3 Device Manager が保持する情報のリフレッシュ.....	120
6.1.4 サポートエージェント.....	121
6.1.5 ポーリングを実行するための準備.....	122
(1) Device Manager の設定.....	122
(2) エージェントの設定.....	123
(3) ポーリングオフセットの設定.....	123
6.1.6 初期データの取得.....	123
6.1.7 仮想環境を監視するための運用手順.....	124
(1) 仮想環境への Tuning Manager server 導入手順.....	124
(2) 本番稼働後の性能問題発生時および構成変更時の運用手順.....	125
(3) 本番稼働後の容量情報監視時の運用手順.....	125

(4) 仮想化サーバを監視対象外にする手順.....	126
6.1.8 Agent-less モードでホストを監視するための運用手順.....	126
(1) ホストを Agent-less ホストとして監視対象に追加する手順.....	126
(2) Agent-less ホストの情報をリフレッシュする手順.....	127
(3) 本番稼働後の性能問題発生時および構成変更時の運用手順.....	127
(4) ホストの監視モードを切り替える手順.....	128
(5) Agent-less ホストを監視対象外にする手順.....	130
(6) ホスト名にエイリアスを設定している場合の運用手順.....	130
6.2 エージェントの管理と設定.....	131
6.2.1 サービスの稼働状況を確認する.....	131
6.2.2 パフォーマンスデータの記録方法の設定.....	132
(1) GUI でパフォーマンスデータの記録方法を変更する.....	132
(2) コマンドでパフォーマンスデータの記録方法を変更する.....	136
6.2.3 パフォーマンスデータの保存条件の設定.....	137
(1) パフォーマンスデータの保存条件を変更する (Store データベースバージョン 2.0 の場合) ..	137
(2) GUI でパフォーマンスデータの保存条件を変更する (Store データベースバージョン 1.0 の場合)	139
(3) コマンドでパフォーマンスデータの保存条件を変更する.....	142
6.2.4 複数エージェントへの一括設定.....	142
(1) エージェントのプロパティの配布手順.....	143
(2) Agent Store のバージョンによるプロパティの配布可否.....	145
(3) エージェント固有のプロパティの一括配布.....	145
6.2.5 パフォーマンスデータが使用しているディスク容量の確認.....	151
6.2.6 イベントデータの管理.....	152
(1) イベントデータのレコード数の上限値を変更する.....	152
(2) イベントデータが使用しているディスク容量を確認する.....	153
6.3 ポーリング設定.....	154
6.3.1 ポーリング設定を確認する.....	155
6.3.2 ポーリング設定を編集する.....	156
6.3.3 手動でポーリングを操作する.....	158
(1) ポーリングの開始.....	158
(2) ポーリングの停止.....	158
6.3.4 サマータイム移行時のポーリングについて.....	159
(1) サマータイム移行時のポーリングデータ.....	159
(2) サマータイム移行時のポーリングスケジュール.....	160
(3) Tuning Manager server で管理する時刻の入力.....	161
6.4 データ保持期間.....	161
6.4.1 データ保持期間の設定を確認する.....	161
6.4.2 データ保持期間の設定を編集する.....	162
6.5 システムレポート.....	163
6.5.1 ポーリング状態レポートを確認する.....	163
6.5.2 システムアラートを確認する.....	165
6.5.3 エージェントポーリング状態アラートを設定する.....	165
6.6 モデルをアップグレードした HUS100 シリーズまたは Hitachi AMS2000 シリーズを監視する場合の注意事項	166
.....	166
7. トラブルへの対処方法.....	169
7.1 対処の手順.....	170
7.2 トラブルシューティング.....	170
7.2.1 データ更新の遅れが発生する.....	170
7.2.2 データベースの容量が不足する.....	172
7.2.3 Agent インスタンスの数が 1 つの Tuning Manager server で監視できる上限を超える.....	172
7.2.4 デスクトップのヒープ不足が発生する.....	174
7.2.5 jpcrpt コマンドでのレポート出力時に PFM - Manager へのアクセスでエラーが発生する.....	175
(1) ViewServer error code: -2001.....	175

(2) ViewServer error code: -2004 または ViewServer error code: -2005.....	175
7.2.6 [ポーリング設定] 画面にエージェントが表示されない.....	175
7.2.7 データベースの作業領域が不足する.....	176
(1) データベースを再作成する手順.....	176
(2) データベースを再作成する手順 (クラスタ環境)	178
7.2.8 すべてのユーザーアカウントがロックされた.....	181
7.2.9 データベースの起動に失敗する.....	182
7.2.10 大量データのレポートが表示できない.....	183
7.3 トラブル発生時に採取が必要な資料.....	184
7.3.1 Windows イベントログ (Windows の場合)	184
(1) イベントログに出力される Main Console の情報.....	184
(2) イベントログに出力される Performance Reporter の情報.....	185
7.3.2 syslog (Solaris および Linux の場合)	185
(1) 設定ファイルの編集方法.....	186
(2) syslog に出力される Main Console の情報.....	186
(3) syslog に出力される Performance Reporter の情報.....	186
7.3.3 Main Console のログ.....	187
(1) Main Console のログの出力先.....	187
(2) Main Console のメッセージログの出力形式.....	188
(3) Main Console のログの設定変更方法.....	189
(4) Main Console のログのトレースレベル詳細.....	190
7.3.4 Performance Reporter のログ.....	191
(1) Performance Reporter のログの出力先.....	191
(2) Performance Reporter のログの出力形式.....	191
(3) Performance Reporter のログの初期設定情報.....	193
(4) Performance Reporter のログのトレースレベル詳細.....	193
7.4 保守情報の採取方法.....	194
7.4.1 コマンドで保守情報を採取する方法.....	194
(1) Tuning Manager server の保守情報を採取する手順.....	194
(2) 特定の保守情報を採取するためのコマンド.....	195
(3) 保守情報の採取に掛かる時間の目安.....	195
7.4.2 手動でログファイルを収集する方法.....	196
(1) Windows 環境の場合.....	196
(2) Solaris および Linux 環境の場合.....	197
7.4.3 トラブル発生時の状況を確認するための情報.....	197
(1) トラブル発生時の操作内容および環境に関する情報.....	198
(2) 画面上のエラー情報.....	198
(3) その他の情報.....	198
7.5 メッセージ.....	199
7.5.1 メッセージの出力形式.....	199
(1) Main Console のメッセージの出力形式.....	199
(2) Performance Reporter のメッセージの出力形式.....	200
7.5.2 メッセージの記載形式.....	201
7.5.3 メッセージの出力先一覧.....	201
7.5.4 メッセージ一覧.....	203
(1) Main Console が出力するメッセージの一覧.....	203
(2) Performance Reporter が出力するメッセージの一覧.....	289
8. ユーティリティ.....	377
8.1 コマンドの記載形式.....	378
8.2 コマンド一覧.....	378
8.3 Main Console のコマンド.....	380
8.3.1 htm-db-setup.....	380
8.3.2 htm-db-status.....	382
8.3.3 htm-dvm-setup.....	383

8.3.4 htm-dump.....	387
8.3.5 htm-getlogs.....	389
8.4 Performance Reporter のコマンド.....	391
8.4.1 コマンド入出力.....	391
(1) コマンド実行の前提条件.....	391
(2) パラメーターファイルの作成.....	392
(3) コマンドの出力形式.....	393
(4) コマンドの同時実行.....	394
8.4.2 jpcasrec update.....	395
8.4.3 jpcasrec output.....	402
8.4.4 jpcaspsv update.....	405
8.4.5 jpcaspsv output.....	416
8.4.6 jpcpragtsetup.....	419
8.4.7 jpcprauth.....	420
8.4.8 jpcprras.....	424
9. 共通コンポーネント.....	427
9.1 共通コンポーネントの概要.....	428
9.2 共通コンポーネントのインストールとアンインストール.....	428
9.3 統合ログイン.....	429
9.3.1 統合ログイン出力.....	429
9.3.2 共通コンポーネントトレースログのプロパティ.....	430
(1) トレースログファイルの設定 (Windows)	430
(2) トレースログファイルの設定 (Solaris および Linux)	430
9.4 共通コンポーネントのコマンド.....	431
9.4.1 ユーザーアカウントを管理するサーバの登録.....	431
(1) 形式.....	431
(2) 機能.....	431
(3) オプション.....	432
(4) 結果.....	432
9.5 共通コンポーネントのサービス (Windows)	432
9.6 共通コンポーネントの使用ポート.....	433
9.6.1 Windows のポート変更.....	434
9.6.2 Solaris のポート変更.....	436
9.6.3 Linux のポート変更.....	438
9.7 共通コンポーネントの常駐プロセス.....	440
9.7.1 Windows 版.....	440
9.7.2 Solaris および Linux 版.....	441
9.8 共通コンポーネントのトラブルシューティング.....	441
9.9 共通コンポーネントの保守情報の採取.....	442
9.9.1 hcmdsgetlogs コマンド.....	442
(1) 形式.....	442
(2) 機能.....	442
(3) オプション.....	442
(4) 結果.....	443
(5) 注意事項.....	444
(6) 使用例.....	444
9.9.2 共通コンポーネントの JavaVM スレッドダンプの採取.....	444
(1) HBase Storage Mgmt Common Service のスレッドダンプ.....	444
(2) HiCommand Suite TuningManager のスレッドダンプ.....	445
(3) HiCommand Performance Reporter のスレッドダンプ.....	446
9.10 管理サーバのホスト名または IP アドレスの変更.....	447
9.10.1 Device Manager がインストールされているマシンのホスト名または IP アドレスを変更する場合.....	447
9.10.2 Tuning Manager server がインストールされているマシンのホスト名を変更する場合.....	448

(1) 共通コンポーネントの設定を変更する.....	448
(2) Tuning Manager server ホストのホスト名を変更する.....	450
9.10.3 Tuning Manager server がインストールされているマシンの IP アドレスを変更する場合.....	450
(1) 共通コンポーネントの設定を変更する.....	451
(2) Tuning Manager server ホストの IP アドレスを変更する.....	451
9.10.4 Tuning Manager server の起動 URL を変更する.....	452
9.11 Hitachi Command Suite 製品の URL の変更.....	452
9.12 Web Client からアプリケーションを起動するための設定.....	454
9.13 ユーザーアカウントに関するセキュリティの設定.....	456
9.13.1 password.min.length.....	457
9.13.2 password.min.uppercase.....	458
9.13.3 password.min.lowercase.....	458
9.13.4 password.min.numeric.....	458
9.13.5 password.min.symbol.....	458
9.13.6 password.check.userID.....	458
9.13.7 account.lock.num.....	458
9.14 System アカウントのロックに関する設定.....	459
9.15 警告バナーの設定.....	460
9.15.1 メッセージの編集.....	460
9.15.2 メッセージの登録.....	461
9.15.3 メッセージの削除.....	461
9.16 監査ログの採取.....	462
9.16.1 Tuning Manager server で監査ログに出力する種別と監査事象.....	463
9.16.2 監査ログの環境設定ファイルの編集.....	467
9.16.3 監査ログの出力形式.....	469
9.17 共通コンポーネントのメッセージ一覧.....	470
付録 A jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の見積もり方法.....	473
A.1 メモリー見積もりを実施する前に.....	474
A.2 jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の見積もり方法.....	474
A.2.1 グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値の見積もり方法.....	474
(1) 1 回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値の見積もり方法.....	475
(2) グラフ描画用ワーク領域の見積もり方法.....	476
A.2.2 データ変換用のワーク領域の最大値の見積もり方法.....	477
(1) 選択したフィールドごとのワーク領域のサイズの合計を見積もる方法.....	477
A.3 jpcrpt コマンドで必要なメモリー量とデフォルトのメモリー量との比較およびメモリー拡張の検討.....	478
A.4 注意事項.....	479
付録 B このマニュアルの参考情報.....	481
B.1 関連マニュアル.....	482
B.2 このマニュアルでの表記.....	483
B.3 このマニュアルで使用している略語.....	485
B.4 KB (キロバイト) などの単位表記について.....	487
索引.....	489

目次

図 1-1 管理画面.....	26
図 1-2 エクスプローラエリア.....	27
図 1-3 Tuning Manager server ログイン画面.....	33
図 5-1 Performance Reporter の [メイン] 画面を表示した場合.....	115
図 5-2 Performance Reporter の [レポートツリー選択] 画面を表示した場合.....	116
図 6-1 Agent Collector サービスのプロパティ階層の表示例.....	133
図 6-2 記録方法の設定例.....	134
図 6-3 保存条件の設定例 (Store データベースバージョン 2.0 の場合).....	138
図 6-4 保存条件の設定例 (Store データベースバージョン 1.0 の場合).....	140
図 6-5 配布先サービスの選択例.....	144
図 6-6 プロパティの配布の設定例.....	144
図 6-7 新規システム構築時に全エージェントを同じ設定にする.....	146
図 6-8 システム運用中に全エージェントを同じ設定にする.....	146
図 6-9 システム運用中に複数のエージェントで特定のプロパティの値を更新する.....	147
図 6-10 更新するプロパティで「適用」を選択する.....	147
図 6-11 システム運用中に複数のエージェントでノードを追加する.....	148
図 6-12 システム運用中に複数のエージェントでノードを削除する.....	148
図 6-13 「更新」を選択した場合に対象になるノード.....	149
図 6-14 「追加」を選択した場合に対象になるノード.....	150
図 6-15 「削除」を選択した場合に削除対象になるノード.....	150
図 6-16 「配布先にのみ存在するノードを削除する」チェックボックスを選択した場合に削除対象になるノード.....	150
図 6-17 レコード数の上限の設定例 (イベントデータ).....	153
図 6-18 太平洋標準時間から太平洋夏時間への調整.....	159
図 6-19 太平洋夏時間から太平洋標準時間への調整.....	160
図 7-1 [システムレポート] 画面.....	171
図 8-1 コマンドの指定形式.....	378

表目次

表 1-1 Tuning Manager server 管理者フィールドの入力時に指定できる値.....	28
表 1-2 ユーザープロパティファイルのプロパティ一覧.....	39
表 1-3 dbvup.workDir プロパティの指定可能値について.....	42
表 1-4 cli.workDir プロパティの指定可能値について.....	43
表 1-5 Tuning Manager server が Device Manager と接続するときに使用するポート番号.....	44
表 3-1 見積もり式の中の変数の説明.....	64
表 3-2 デバイスファイル数を変数DM に代入する必要がある MPIO 環境.....	65
表 3-3 容量データの保持件数の計算方法.....	66
表 3-4 データベースの総容量の見積もり式が前提とする条件.....	66
表 4-1 権限一覧.....	77
表 5-1 初期設定ファイル (config.xml) に設定する項目.....	90
表 5-2 ロケール設定に対応した日付の表示形式 (デフォルト状態の Performance Reporter での表示)	99
表 5-3 日付の表示形式のタグ一覧.....	100
表 6-1 情報取得元と監視対象リソースの関係.....	118
表 6-2 Agent モードおよび Agent-less モードの特徴.....	119
表 6-3 Agent モードおよび Agent-less モードが有効になる条件.....	120
表 6-4 Tuning Manager server が情報取得の対象とするエージェントとデータモデルのバージョン.....	121
表 6-5 ポーリング対象のエージェントで設定が必要なレコード.....	123
表 6-6 ポーリング対象のレコードが生成されるまでの時間の目安.....	124
表 6-7 ノードとレコードタイプの対応.....	134
表 6-8 各プロパティの説明および設定値 (パフォーマンスデータの記録方法を変更する場合)	134
表 6-9 [ログ収集条件設定] 画面での表示内容.....	135
表 6-10 レコードタイプと設定できる保存条件 (Store データベースバージョン 2.0 の場合)	137
表 6-11 レコードタイプと設定できる保存条件 (Store データベースバージョン 1.0 の場合)	137
表 6-12 各プロパティの説明および設定値 (パフォーマンスデータの保存条件を変更する場合 (Store データベースバージョン 2.0))	138
表 6-13 各プロパティの説明および設定値 (パフォーマンスデータの保存条件を変更する場合 (Store データベースバージョン 1.0))	141
表 6-14 プロパティの一括配布で参照・選択可能なノード一覧.....	143
表 6-15 Agent Store のバージョンによるプロパティの配布可否.....	145
表 6-16 プロパティの説明および設定値 (イベントデータのレコード数の上限を変更する場合)	153
表 6-17 [ポーリング設定] 画面の表示項目.....	155
表 6-18 サマータイム移行時のポーリングスケジュールの回避策.....	160
表 6-19 データ保持期間の設定を確認する画面の表示項目.....	161
表 6-20 ポーリングステータスを確認する画面の表示項目.....	163
表 6-21 ポーリング処理結果の詳細情報を確認する画面の表示項目.....	164
表 6-22 システムアラート設定を確認する画面の表示項目.....	165

表 7-1 保守情報採取対象プログラムと保守情報採取コマンドの対応.....	170
表 7-2 Tuning Manager server ホスト分割の例.....	172
表 7-3 ログファイル出力の項目 (Main Console の場合)	185
表 7-4 ログファイル出力の項目 (Performance Reporter の場合)	185
表 7-5 syslog ファイル出力の項目 (Main Console の場合)	186
表 7-6 syslog ファイル出力の項目 (Performance Reporter の場合)	187
表 7-7 ログ情報の出力形式 (Main Console の場合)	189
表 7-8 イベント種別コード (Main Console の場合)	189
表 7-9 ロギングプロパティファイルのプロパティ一覧.....	190
表 7-10 トレースレベル詳細 (Main Console の場合)	190
表 7-11 ログ情報の出力形式 (Performance Reporter の場合)	191
表 7-12 イベント種別コード (Performance Reporter の場合)	191
表 7-13 メッセージログ ID フォーマット.....	192
表 7-14 Performance Reporter イベント種別コード.....	192
表 7-15 初期設定ファイルの Performance Reporter ログ関連設定情報.....	193
表 7-16 トレースレベル詳細 (Performance Reporter の場合)	193
表 7-17 保守情報を採取するためのコマンド一覧.....	195
表 7-18 Tuning Manager server がインストールされているホスト.....	195
表 7-19 エージェントがインストールされているホスト.....	196
表 7-20 ストレージシステム.....	196
表 7-21 ログの収集に掛かる時間 (Tuning Manager server ホストでコマンドを実行した場合)	196
表 7-22 パッケージ ID 一覧 (Performance Reporter のメッセージ)	200
表 7-23 Main Console のメッセージの出力先一覧.....	201
表 7-24 Performance Reporter のメッセージの出力先一覧.....	202
表 7-25 Main Console が出力するメッセージ.....	203
表 7-26 Performance Reporter が出力するメッセージ.....	289
表 8-1 コマンドの文法の説明に使用する記号.....	378
表 8-2 Main Console のコマンド.....	378
表 8-3 Performance Reporter のコマンド.....	379
表 8-4 htm-db-setup コマンドのオプション一覧.....	381
表 8-5 htm-db-setup コマンドを実行した場合の戻り値.....	382
表 8-6 htm-db-status コマンドを実行した場合の戻り値.....	383
表 8-7 htm-dvm-setup コマンドのオプション一覧.....	385
表 8-8 list オプション指定時の表示項目.....	386
表 8-9 htm-dvm-setup コマンドを実行した場合の戻り値.....	387
表 8-10 htm-dump コマンドのオプション一覧.....	388
表 8-11 htm-dump コマンドを実行した場合の戻り値.....	389
表 8-12 htm-getlogs コマンドのオプション一覧.....	390
表 8-13 htm-getlogs コマンドを実行した場合の戻り値.....	391
表 8-14 pr-cli-parameters の説明.....	392
表 8-15 コマンドがサポートする DTD ファイル.....	393
表 8-16 詳細情報の出力.....	393
表 8-17 同時実行できないコマンド.....	394
表 8-18 jpcasrec update コマンドのオプション一覧.....	395
表 8-19 agent-store-db-record-definition.....	395
表 8-20 service.....	396
表 8-21 record.....	396
表 8-22 log.....	396
表 8-23 collection-interval.....	397
表 8-24 collection-offset.....	397
表 8-25 logif.....	398

表 8-26 expression.....	398
表 8-27 and.....	399
表 8-28 or.....	400
表 8-29 jpcasrec output コマンドのオプション一覧.....	403
表 8-30 jpcaspsv update コマンドのオプション一覧.....	405
表 8-31 agent-store-db-preserve-definition.....	405
表 8-32 service.....	406
表 8-33 product-interval.....	406
表 8-34 minute-drawer.....	407
表 8-35 hour-drawer.....	407
表 8-36 day-drawer.....	407
表 8-37 week-drawer.....	408
表 8-38 month-drawer.....	408
表 8-39 product-detail.....	408
表 8-40 detail-record.....	408
表 8-41 product-log.....	409
表 8-42 log-record.....	409
表 8-43 ex-product-interval.....	409
表 8-44 ex-interval-record.....	410
表 8-45 minute-drawer-days.....	410
表 8-46 hour-drawer-days.....	410
表 8-47 day-drawer-weeks.....	410
表 8-48 week-drawer-weeks.....	411
表 8-49 month-drawer-months.....	411
表 8-50 ex-product-detail.....	411
表 8-51 ex-detail-record.....	411
表 8-52 ex-product-log.....	412
表 8-53 ex-log-record.....	412
表 8-54 Store バージョンが 1.0 と 2.0 による処理内容の違い.....	414
表 8-55 pr-cli-parameters の ver 属性による処理内容の違い.....	415
表 8-56 jpcaspsv output コマンドのオプション一覧.....	416
表 8-57 Store バージョンが 1.0 と 2.0 による出力内容の違い.....	418
表 8-58 jpcprauth コマンドのオプション一覧.....	421
表 8-59 user オプションまたは password オプションの値の指定方法 (Windows の場合)	422
表 8-60 user オプションまたは password オプションの値の指定方法 (Solaris および Linux の場合)	423
表 8-61 jpcprras コマンドのオプション一覧.....	425
表 9-1 統合ロギング出力.....	429
表 9-2 hcmdsprmset コマンドのオプション一覧.....	432
表 9-3 共通コンポーネントの使用ポート一覧.....	433
表 9-4 Windows のポート変更	435
表 9-5 Solaris のポート変更.....	437
表 9-6 Linux のポート変更.....	439
表 9-7 共通コンポーネントの常駐プロセス (Windows)	440
表 9-8 共通コンポーネントの常駐プロセス (Solaris および Linux)	441
表 9-9 原因と解決方法.....	442
表 9-10 logtypes オプションに指定する値と、作成されるアーカイブファイルとの対応.....	443
表 9-11 監査ログの種別と説明.....	462
表 9-12 監査ログに出力する種別と監査事象.....	463
表 9-13 auditlog.conf に設定する項目.....	467
表 9-14 Log.Facility に指定できる値と syslog.conf での指定値の対応.....	468
表 9-15 監査事象の重要度, syslog.conf の重要度, およびイベントログの種類の対応.....	468

表 9-16 メッセージ部に出力される情報.....	469
表 A-1 フィールド形式とサイズの対応.....	475
表 A-2 フィールドのデータ型とワーク領域のサイズの対応.....	477
表 A-3 jpcrpt コマンドの使用可能メモリー量.....	478

はじめに

このマニュアルは、Tuning Manager シリーズのサーバ側を管理する方法について説明したものです。

サーバ側にインストールするソフトウェアのインストール方法および設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」およびマニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を、エージェント側にインストールするソフトウェアのインストール方法および設定方法については、各エージェントのマニュアルを参照してください。

また、GUI (Graphical User Interface) の操作方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。

- 対象読者
- マニュアルの構成
- マイクロソフト製品の表記について
- 読書手順
- このマニュアルで使用している記号
- このマニュアルの数式中で使用している記号
- フォルダおよびディレクトリの統一表記
- このマニュアルでのコマンドの表記
- このマニュアルでのサービス ID の表記
- インストール先ディレクトリの表記
- 製品のバージョンと表示されるバージョンの対応

対象読者

- SAN (Storage Area Network) に関する基本的な知識をお持ちの方。
- Tuning Manager server の前提 OS (Operating System) に関する基本的な知識をお持ちの方。
- ストレージシステムおよびその管理ソフトウェアに関するユーザーマニュアルの内容を理解されている方。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章および付録から構成されています。なお、このマニュアルは、Windows および UNIX の各 OS に共通のマニュアルです。OS ごとに差異がある場合は、本文中でそのつど内容を書き分けています。

第 1 章 Tuning Manager server の管理と設定

Tuning Manager server コンポーネントの設定と操作を含むシステム管理作業で必要となる項目について説明しています。

第 2 章 ライセンス管理

Tuning Manager server のライセンスを管理するために必要な手順について説明しています。

第 3 章 データベース管理

Tuning Manager server のデータベースの管理方法について説明しています。

第 4 章 ユーザー管理

Tuning Manager server のユーザーアカウントの作成と管理について重要な項目を説明しています。

第 5 章 ツールの設定

関連アプリケーションを起動するために必要な設定について説明しています。

第 6 章 エージェント、Device Manager からのデータ取得

エージェントおよび Device Manager からのデータ取得（ポーリング）機能とデータ取得の設定方法について説明しています。

第 7 章 トラブルへの対処方法

Tuning Manager server でトラブルが発生した場合、トラブルシューティングを実施するために有用な情報について説明しています。

第 8 章 ユーティリティ

Tuning Manager server が提供するコマンドについて説明しています。

第 9 章 共通コンポーネント

共通コンポーネントの使用方法について説明しています。

付録 A jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の見積もり方法

jpcrpt コマンドを使用してレポートを HTML 形式で出力する場合に必要なメモリー量の見積もり方法を説明しています。

付録 B このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Hyper-V	Microsoft(R) Hyper-V(R)
MSCS	Microsoft(R) Cluster Service
Windows	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">Windows Server 2003Windows Server 2008Windows Server 2012
Windows Server 2003	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">Windows Server 2003(x86)Windows Server 2003(x64)
Windows Server 2003(x64)	Tuning Manager server がサポートしている 64 ビット版の Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 の総称です。エディションは問いません。
Windows Server 2003(x86)	Tuning Manager server がサポートしている 32 ビット版の Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 の総称です。エディションは問いません。
Windows Server 2008	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none">Windows Server 2008(x86)Windows Server 2008(x64)
Windows Server 2008(x64)	Tuning Manager server がサポートしている 64 ビット版の Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 の総称です。エディションは問いません。
Windows Server 2008(x86)	Tuning Manager server がサポートしている 32 ビット版の Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 の総称です。エディションは問いません。
Windows Server 2012	Tuning Manager server がサポートしている Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 の総称です。エディションは問いません。
WSFC	Windows Server(R) Failover Cluster

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
Tuning Manager server の設定方法および運用方法について知りたい。	1～6 章
障害発生時の対処方法について知りたい。	7 章
Tuning Manager server のコマンドについて知りたい。	8 章
共通コンポーネントについて知りたい。	9 章

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルで使用している記号を次に示します。

記号	意味
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず 1 組の項目が該当することを示します。項目の区切りは で示します。 (例) {A B C} は「A, B, または C のどれかが該当する」ことを示す。

記号	意味
[]	画面、タブ、ダイアログボックス、ダイアログボックスのボタン、ダイアログボックスのチェックボックスなどを示します。 (例) [メイン] 画面 [アラーム階層] タブ
< >	可変値であることを示します。
斜体	重要な用語、または利用状況によって異なる値であることを示します。

このマニュアルの数式中で使用している記号

このマニュアルの数式中で使用している記号を次に示します。

記号	意味
*	乗算記号を示します。
/	除算記号を示します。

フォルダおよびディレクトリの統一表記

このマニュアルでは、Windows で使用されている「フォルダ」と UNIX で使用されている「ディレクトリ」とが同じ場合、原則として、「ディレクトリ」と統一表記しています。

このマニュアルでのコマンドの表記

Performance Management 09-00 以降では、08-51 以前のコマンドと互換性を持つ新形式のコマンドが追加されました。このため、このマニュアルではコマンドを次のように表記しています。

新形式のコマンド (08-51 以前のコマンド)

(例)

```
jpccconf agent setup (jpcagtsetup)
```

この例では、jpccconf agent setup が新形式のコマンドで、jpcagtsetup が 08-51 以前のコマンドになります。

新形式のコマンドを使用できるのは、PFM - Manager のバージョンが 09-00 以降の場合です。なお、PFM - Manager のバージョンが 09-00 以降の場合でも、08-51 以前のコマンドは使用できません。

このマニュアルでのサービス ID の表記

Tuning Manager シリーズは、Performance Management のプロダクト名表示機能に対応していません。プロダクト名表示機能を有効に設定しているホスト上の PFM - Agent および PFM - Manager のサービスを、従来のサービス ID の形式で表示します。

このマニュアルでは、プロダクト名表示機能を無効とした場合の形式でサービス ID を表記しています。

インストール先ディレクトリの表記

このマニュアルでは、Windows ホストでの各プログラムのインストール先ディレクトリを<インストール先フォルダ>、Linux ホストでの各プログラムのインストール先ディレクトリを<インストール先ディレクトリ>と表記しています。

Windows ホストおよび Linux ホストでの各プログラムのデフォルトのインストール先ディレクトリは、次のとおりです。

Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ

- Windows Server 2003(x86)および Windows Server 2008(x86)の場合
%SystemDrive%\Program Files\HiCommand\TuningManager
- Windows Server 2003(x64), Windows Server 2008(x64)および Windows Server 2012 の場合
%SystemDrive%\Program Files (x86)\HiCommand\TuningManager
- Linux の場合
/opt/HiCommand/TuningManager

共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ

- Windows Server 2003(x86)および Windows Server 2008(x86)の場合
%SystemDrive%\Program Files\HiCommand\Base
- Windows Server 2003(x64), Windows Server 2008(x64)および Windows Server 2012 の場合
%SystemDrive%\Program Files (x86)\HiCommand\Base
- Linux の場合
/opt/HiCommand/Base

Performance Reporter のインストール先ディレクトリ

- Windows の場合
<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>\PerformanceReporter
- Linux の場合
/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter

製品のバージョンと表示されるバージョンの対応

Tuning Manager server の製品のバージョンと、インストール時およびバージョン確認時に表示されるバージョンの対応を次の表に示します。

製品のバージョン	インストール時のバージョン表示 (Windows, UNIX 共通)	バージョン確認時のバージョン表示 (Windows, UNIX 共通)
7.6.1-00	7.6.1(7.6.1-00)	7.6.1-00
7.6.1-01	7.6.1(7.6.1-01)	7.6.1-01
7.6.1-02	7.6.1(7.6.1-02)	7.6.1-02
7.6.1-03	7.6.1(7.6.1-03)	7.6.1-03

エージェントの製品のバージョンと、インストール時およびバージョン確認時に表示されるバージョンの対応例については、各エージェントのマニュアルを参照してください。

Tuning Manager server の管理と設定

この章では、Tuning Manager server コンポーネントの設定と操作を含むシステム管理作業で必要となる項目について説明します。本文中で説明している GUI のフレームワークについては、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。

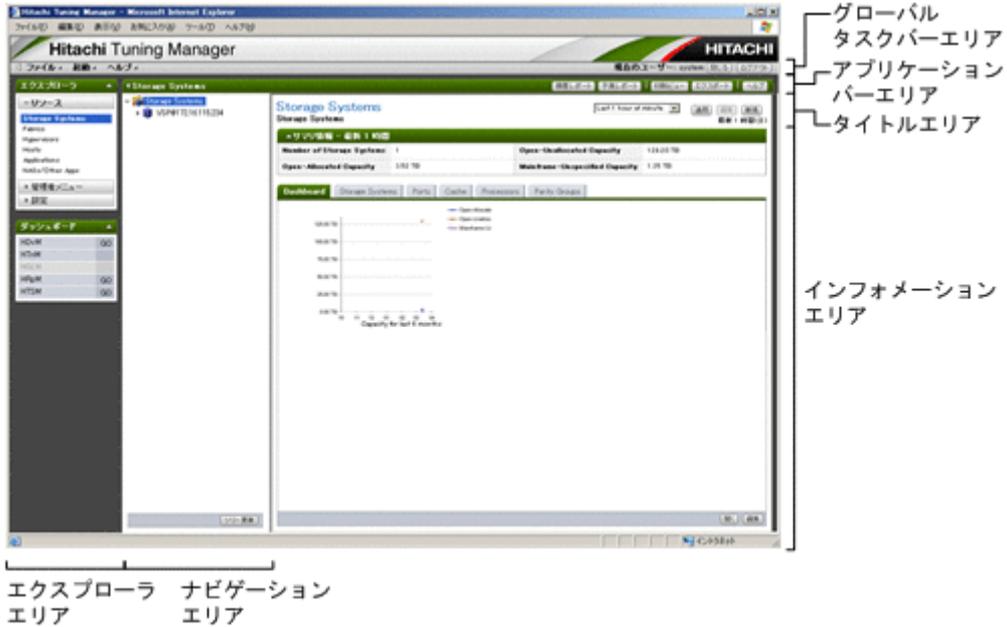
- 1.1 管理画面について
- 1.2 管理者としてのログイン
- 1.3 ログアウト
- 1.4 サービスの起動
- 1.5 サービスの停止
- 1.6 ユーザープロパティファイルの設定について
- 1.7 Tuning Manager server の使用ポート
- 1.8 ホスト名または IP アドレスの設定
- 1.9 Tuning Manager server に接続できる Web 端末を制限する
- 1.10 SSL の設定
- 1.11 JP1/IM との連携
- 1.12 マシンの時刻調整について
- 1.13 PFM - Manager に接続するための認証キーファイルの作成
- 1.14 Oracle JDK を使用する場合の設定

1.1 管理画面について

ログイン情報については、「1.2 管理者としてのログイン」を参照してください。

Tuning Manager server の管理画面は、製品の全体にわたって 6 つのエリアを共有しています。

図 1-1 管理画面



- グローバルタスクバーエリア
Hitachi Command Suite 製品を起動したり、オンラインヘルプを表示したりできます。詳細については、「1.1.1 グローバルタスクバーエリア」を参照してください。
- エクスプローラエリア
管理タスクを選択するためのメニューおよびサブメニューを表示します。詳細については、「1.1.2 エクスプローラエリア」を参照してください。
- アプリケーションバーエリア
ヘルプボタンを表示します。詳細については、「1.1.3 アプリケーションバーエリア」を参照してください。
- ナビゲーションエリア
管理タスクごとにメニューを表示します。詳細については、「1.1.4 ナビゲーションエリア」を参照してください。
- タイトルエリア
タイトルを表示します。詳細については、「1.1.5 タイトルエリア」を参照してください。
- インフォメーションエリア
管理タスクごとの情報を表示します。詳細については、「1.1.6 インフォメーションエリア」を参照してください。

注意

ブラウザでポップアップウィンドウを抑止する設定をしている場合、またはセキュリティソフトなどで、ポップアップウィンドウを抑止する設定をしている場合は、Tuning Manager server を使用する際に、ポップアップウィンドウの抑止の設定を必ず解除してください。

1.1.1 グローバルタスクバーエリア

グローバルタスクバーエリアには次の項目が表示されます。

- グローバルメニュー
グローバルメニューには、次の項目が表示されます。
 - ファイル (File)
プルダウンメニューから [閉じる] または [ログアウト] を選択できます。
 - 起動 (Go)
プルダウンメニューから [Performance Reporter] またはほかのアプリケーションを選択できます。このメニューにほかのアプリケーションを表示するには、Tuning Manager server への登録が必要です。詳細については、「9.12 Web Client からアプリケーションを起動するための設定」を参照してください。
 - ヘルプ (Help)
プルダウンメニューから [ヘルプ] または [バージョン] を選択できます。詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。
- 現在のユーザー表示
現在のユーザー表示には、現在ログインしているユーザーのフルネームが表示されます。フルネームが省略されている場合はユーザー ID が表示されます。ユーザーのフルネームは、ユーザープロファイルで設定します。詳細については、「4.3.3 ユーザーのプロファイルを参照または編集する」を参照してください。
- 閉じる、ログアウト
[閉じる] または [ログアウト] ボタンをクリックすると、[メイン] 画面が閉じられます。

1.1.2 エクスプローラエリア

エクスプローラエリアは、Tuning Manager server が提供する機能へのリンクを提供しています。

図 1-2 エクスプローラエリア



- リソース

インフォメーションエリアの中でナビゲーションエリア、およびリソースツリーを表示します（この機能の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください）。

- 管理者メニュー
Tuning Manager server の管理機能の設定を変更します。
- 設定
ユーザーの情報を表示します（この機能の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください）。

1.1.3 アプリケーションバーエリア

アプリケーションバーエリアは、エクスプローラエリアから選択した管理タスクを表示します。また、[ヘルプ] ボタンをクリックすると、別ウィンドウにマニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software 運用管理ガイド」が表示されます。

1.1.4 ナビゲーションエリア

ナビゲーションエリアは、エクスプローラエリアで選択した管理タスクのメニューを表示します。それぞれの管理タスクのメニューは異なり、メニューを持たない管理タスクもあります。

1.1.5 タイトルエリア

タイトルエリアは、ナビゲーションエリアで選択されたメニューを表示します。ナビゲーションエリアに表示されるメニューを持たない管理タスクの場合、エクスプローラエリアから選択された管理タスク名を表示します。

1.1.6 インフォメーションエリア

インフォメーションエリアは、Tuning Manager server が管理するリソースの情報を表示します。また、エラーや警告メッセージが表示される場合もあります。インフォメーションエリアに表示されるテーブルでは、ソートとフィルタリングを実行できます。使用するときには、次の内容に注意してください。

- 各項目のソート順序は、監視対象の種別ごとに異なります。
- フィルタリングの条件指定で、「一致(=)」または「不一致(<>)」の指定で抽出されない場合は、範囲指定条件(<, >, >=, <=)を使用してフィルタリングしてください。

1.1.7 入力文字の制限事項

管理者が [ユーザー追加] 画面などのテキストフィールドに入力できる文字は、次の表に示すとおり定義されています。

表 1-1 Tuning Manager server 管理者フィールドの入力時に指定できる値

Tuning Manager server の画面名	テキストフィールド名	入力可能文字	最大文字数	最小文字数	注記
[ユーザー追加]	[ユーザー ID] ※1※2	0~9 a~z A~Z ! @ # \$ % ^ & * () _ + - ¥ ' . =	256	1	<ul style="list-style-type: none"> • 先頭にはハイフンを指定できません。 • ユーザーを追加する場合、入力は必須です。 • スペースは使用できません。

Tuning Manager server の画面名	テキストフィールド名	入力可能文字	最大文字数	最小文字数	注記
					<ul style="list-style-type: none"> 大文字と小文字は区別されません。
	[パスワード]	0~9 a~z A~Z ! @ # \$ % ^ & * () _ + - ¥ ' . =	256	4	<ul style="list-style-type: none"> 先頭にはハイフンを指定できません。 空文字の場合、パスワードは更新されません。 Hitachi Command Suite 製品共通のユーザー認証を利用するユーザーを追加する場合、入力は必須です。exauth.properties ファイルで外部認証サーバとの連携が有効に設定されている場合、入力は任意です。 スペースは使用できません。 大文字と小文字が区別されます。 連続する 2 つ以上の \$ (例: \$\$, \$\$\$ など) は使用できません。 セキュリティオプションを設定すれば、入力文字の条件を変更できます。
	[パスワードの確認]	0~9 a~z A~Z ! @ # \$ % ^ & * () _ + - ¥ ' . =	256	4	<ul style="list-style-type: none"> スペースは使用できません。 大文字と小文字が区別されます。 連続する 2 つ以上の \$ (例: \$\$, \$\$\$ など) は使用できません。 セキュリティオプションを設定すれば、入力文字の条件を変更できます。
	[フルネーム]	0~9 a~z A~Z ! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { } ~	80	0	<ul style="list-style-type: none"> スペースを使用できます。 全角文字を使用できます。
	[E-mail]	0~9 a~z A~Z _ . @-	60	1	先頭には英数字を指定してください。
	[説明]	0~9 a~z A~Z ! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { } ~	80	0	<ul style="list-style-type: none"> スペースを使用できます。 全角文字を使用できます。
[プロファイル編集・ユーザーID]	[フルネーム]	0~9 a~z A~Z ! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { } ~	80	0	<ul style="list-style-type: none"> スペースを使用できます。 全角文字を使用できます。
	[E-mail]	0~9 a~z A~Z _ . @-	255	0	先頭には英数字を指定してください。

Tuning Manager server の画面名	テキストフィールド名	入力可能文字	最大文字数	最小文字数	注記
	[説明]	0～9 a～z A～Z ! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { } ~	80	0	<ul style="list-style-type: none"> スペースを使用できます。 全角文字を使用できます。
[パスワード変更・ユーザーID]	[新しいパスワード]	0～9 a～z A～Z ! @ # \$ % ^ & * () _ + - ¥ ' . =	256	4	<ul style="list-style-type: none"> 先頭にはハイフンを指定できません。 空文字の場合、パスワードは更新されません。 入力は必須です。
	[パスワードの確認]	0～9 a～z A～Z ! @ # \$ % ^ & * () _ + - ¥ ' . =	256	4	<ul style="list-style-type: none"> スペースは使用できません。 大文字と小文字が区別されます。 連続する2つ以上の\$ (例: \$\$, \$\$\$など) は使用できません。 セキュリティオプションを設定すれば、入力文字の条件を変更できます。
[ポーリング設定編集]	[過去データ収集期間]	0～96	2	1	—
	[リトライ間隔]	0～5	1	1	—
	[リトライ回数]	0～5	1	1	—
[データ保持期間編集]	[時間単位データ]	1～60	2	1	リストボックスで日を選択した場合
		1～8	1	1	リストボックスで週を選択した場合
		1～2	1	1	リストボックスで月を選択した場合
	[日単位データ]	1～365	3	1	リストボックスで日を選択した場合
		1～50	2	1	リストボックスで週を選択した場合
		1～12	2	1	リストボックスで月を選択した場合
		1	1	1	リストボックスで年を選択した場合
	[週単位データ]	1～50	2	1	リストボックスで週を選択した場合
		1～12	2	1	リストボックスで月を選択した場合
		1	1	1	リストボックスで年を選択した場合
[月単位データ]	1～60	2	1	リストボックスで月を選択した場合	

Tuning Manager server の画面名	テキストフィールド名	入力可能文字	最大文字数	最小文字数	注記
		1~5	1	1	リストボックスで年を選択した場合
	[年単位データ]	1~10	2	1	リストボックスで年を選択した場合
	[ホスト構成履歴]	1~365	3	1	リストボックスで日を選択した場合
		1~50	2	1	リストボックスで週を選択した場合
		1~60	2	1	リストボックスで月を選択した場合
		1~10	2	1	リストボックスで年を選択した場合
	[装置構成履歴]	1~365	3	1	リストボックスで日を選択した場合
		1~50	2	1	リストボックスで週を選択した場合
		1~60	2	1	リストボックスで月を選択した場合
		1~10	2	1	リストボックスで年を選択した場合
	[ファブリック構成履歴]	1~365	3	1	リストボックスで日を選択した場合
		1~50	2	1	リストボックスで週を選択した場合
		1~60	2	1	リストボックスで月を選択した場合
		1~10	2	1	リストボックスで年を選択した場合
	[アプリケーション構成履歴]	1~365	3	1	リストボックスで日を選択した場合
		1~50	2	1	リストボックスで週を選択した場合
		1~60	2	1	リストボックスで月を選択した場合
		1~10	2	1	リストボックスで年を選択した場合
	[システムレポート]	1~365	3	1	リストボックスで日を選択した場合
		1~12	2	1	リストボックスで月を選択した場合
		1~10	2	1	リストボックスで年を選択した場合
[システムアラート編集]	[監視時間]	1~24	2	1	—
	[通知先アドレス]	0~9 a~z A~Z ` ~ ! # \$ % & ' * +	320	3	—

Tuning Manager server の画面名	テキストフィールド名	入力可能文字	最大文字数	最小文字数	注記
		- . / = ? @ ^ _ { }			
	[メールサーバ]	半角スペース 0 ~9 a~z A~Z ` ~ ! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { }	500	1	<ul style="list-style-type: none"> 半角スペースだけの指定はできません。 文字列全体の前後に指定した半角スペースは登録されません。 Tuning Manager server は、¥および~をそれぞれ ASCII 文字コードの 0x5c および 0x7E として認識します。OS、およびブラウザの種類によっては、¥と~が別の文字コードとして認識される場合があります。
	[ユーザ名]	0~9 a~z A~Z ! # \$ % & ' () * + , - . = @ ¥ ^ _	64	1	<p>Tuning Manager server は、¥を ASCII 文字コードの 0x5c として認識します。</p> <p>OS、およびブラウザの種類によっては、¥が別の文字コードとして認識される場合があります。</p>
	[パスワード]	0~9 a~z A~Z ! # \$ % & ' () * + , - . = @ ¥ ^ _	64	0	<p>Tuning Manager server は、¥を ASCII 文字コードの 0x5c として認識します。</p> <p>OS、およびブラウザの種類によっては、¥が別の文字コードとして認識される場合があります。</p>

(凡例)

— : 該当なし

注※1

次のユーザーを登録する場合は、レルムを含めた文字列を入力してください。

- exauth.properties ファイルで接続先として指定した RADIUS サーバを経由して、ほかの RADIUS サーバで認証されるユーザー
- Kerberos サーバに登録されているユーザーのうち、exauth.properties ファイルで、デフォルトに指定したレルム以外のレルムに所属しているユーザー

注※2

Tuning Manager server および Device Manager を同一ホストにインストールしている場合、次の文字を含むユーザー ID では、同一ホストの Replication Manager にログイン画面からログインできません。

! \$ % & ' () * = ¥ ^ |

1.2 管理者としてのログイン

Tuning Manager server に Admin 権限ユーザーとしてログインする方法を説明します。

1. ブラウザーの URL に Tuning Manager server をインストールしたホストのホスト名と、ポート番号を入力して Tuning Manager server を開始します。

ホスト名が host01, ポート番号が 23015 の場合の例 :

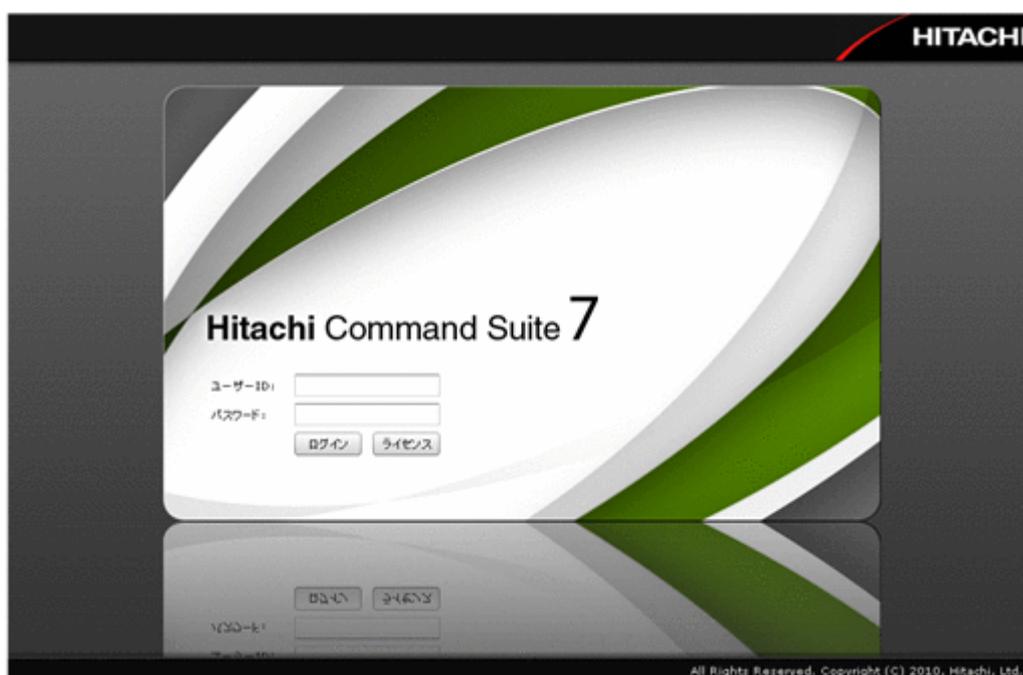
http://host01:23015/TuningManager/

ログイン画面が表示されます。

注意

- ・ブラウザを使用するクライアントには Adobe Flash Player10.1 以降がインストールされている必要があります。ただし、Tuning Manager server と Device Manager が別のホストにインストールされていて、かつ、Tuning Manager server だけに接続する運用の場合は、Adobe Flash Player をインストールする必要はありません。
- ・Tuning Manager server と Device Manager が同一のホストにインストールされているか、別のホストにインストールされているかの違いによって、ログイン画面のデザインが変わります。Tuning Manager server と Device Manager が同一のホストにインストールされている場合のログイン画面を次に示します。

図 1-3 Tuning Manager server ログイン画面



2. Admin 権限を持ったユーザー ID, およびパスワードを入力します。
3. ログイン画面の [ログイン] ボタンをクリックします。
4. 管理画面にアクセスするためには、エクスプローラエリア中の [管理者メニュー] をクリックします。
管理タスクのサブメニューが表示されます。

注意

- ・最初にログインする前にライセンスキーを有効にする必要があります。詳細については、「[2. ライセンス管理](#)」を参照してください。
- ・Tuning Manager server をインストールした直後は、初期のユーザーアカウントを使用してください。詳細については、「[1.2.1 初期のユーザーアカウントについて](#)」を参照してください。
- ・Web ブラウザーで日本語を表示する場合、Tuning Manager server をインストールしたサーバマシンの言語設定を日本語にしてください。また、Tuning Manager server をインストール

したサーバマシンに、日本語フォントが正しくインストールされている必要があります。正しく設定されていない場合、グラフの一部が正常に表示できないことがあります。

1.2.1 初期のユーザーアカウントについて

Hitachi Command Suite 製品ではビルトインアカウントとして、次のアカウントが用意されています。

ユーザー ID

system

パスワード

manager

権限

User Management と Hitachi Command Suite 製品の Admin 権限

Tuning Manager server に初めてアクセスする際には、このアカウントを使用します。

また、不正なアクセスを防止するため、ログインしたあと、できるだけ早く初期パスワードを変更することをお勧めします。パスワードを変更する方法については、「[4.3.4 パスワードを変更する](#)」を参照してください。

1.3 ログアウト

グローバルタスクバーエリア内の [ログアウト] リンク、または [ファイル]・[ログアウト] をクリックします。

注意

Performance Reporter の画面は、メイン画面、またはレポートツリー選択画面で表示できます。Performance Reporter をメイン画面で表示している場合、Tuning Manager server をログアウトしても、Performance Reporter のウィンドウは開いたままになります。

Performance Reporter の起動方法・停止方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。

1.4 サービスの起動

Tuning Manager server の環境設定を変更する場合は、事前にサービスを起動または停止する必要があります。ここでは、サービスの起動方法と注意事項について説明します。クラスタシステムでのサービスの起動方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。

サービスの自動起動について

Tuning Manager server がインストールされている OS を起動する場合、次のサービスが自動起動するように設定されています。

- Tuning Manager server のサービス (HiCommand Suite TuningManager)
- Performance Reporter のサービス (HiCommand Performance Reporter)
- 共通コンポーネントのサービス (HBase Storage Mgmt Common Service および HBase Storage Mgmt Web Service)
- HiRDB のサービス

同じホストにインストールされているほかの Hitachi Command Suite 製品のサービスについては、各製品のマニュアルを参照してください。PFM - Manager のサービスについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。

1.4.1 サービスを起動する

サービスを手動で起動する方法について説明します。

(1) Tuning Manager server のサービス (HiCommand Suite TuningManager)

次のコマンドを実行して、HiCommand Suite TuningManager を起動します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%\hcmdssrv /start /server  
TuningManager
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -start -server TuningManager
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -start -server  
TuningManager
```

(2) Performance Reporter のサービス (HiCommand Performance Reporter)

次のコマンドを実行して、HiCommand Performance Reporter を起動します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%\hcmdssrv /start /server  
PerformanceReporter
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -start -server PerformanceReporter
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -start -server  
PerformanceReporter
```

(3) HiRDB のサービス

次のコマンドを実行して、HiRDB のサービスを起動します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%\hcmdsdbsrv /start
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsdbsrv -start
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsdbsrv -start
```

(4) すべての Hitachi Command Suite 製品および HiRDB のサービス

次のコマンドを実行して、同じホストにインストールされているすべての Hitachi Command Suite 製品 (共通コンポーネントを含む) および HiRDB のサービスを起動します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%\hcmdssrv /start
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -start
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -start
```

1.4.2 サービスの状態を確認する（起動時）

サービスの状態を確認する場合は、次のコマンドを実行します。すべての Hitachi Command Suite 製品（共通コンポーネントを含む）および HiRDB のサービスの状態が表示されます。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdssrv /statusall
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -statusall
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -statusall
```

1.4.3 サービス起動時の注意事項

サービス起動時の注意事項を次に示します。

- hcmdssrv コマンドを実行して Tuning Manager server のサービスを起動すると、同じホストの PFM・Manager のサービスも一緒に起動します。
- 次のどちらかの作業を実施したあと、Tuning Manager server の初回のサービス起動時に、Tuning Manager server のデータベースがバージョンアップされる場合があります。

- Tuning Manager server のアップグレードインストール
- Tuning Manager server のデータベースのインポート

データベースがバージョンアップされると、Tuning Manager server の運用に必要なデータベースの総容量が増加する場合があります。作業を実施する前に「[3.5.1 データベースの総容量の見積もり方法](#)」を参照して、データベースの総容量を見積もり、必要に応じてデータベースの総容量を拡張してください。

また、データベースがバージョンアップされる場合、一時的に作業用ディレクトリにデータのバックアップが取得されます。作業用ディレクトリの容量が不足しないよう、事前に作業用ディレクトリの容量を見積もり、必要に応じて任意の作業用ディレクトリをユーザープロパティファイルに設定してください。作業用ディレクトリの容量の見積もりについては、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」のアップグレードインストールの準備について説明している個所を、任意の作業用ディレクトリの設定については、「[1.6 ユーザープロパティファイルの設定について](#)」を参照してください。

なお、データベースがバージョンアップされる場合、Tuning Manager server の初回のサービス起動に時間が掛かることがあります。

- Tuning Manager server が特定期間のリソースデータをすでに収集している場合、Tuning Manager server を再起動しても、以前収集したデータを損失したり、置き換えたり、またはデータが重複したりすることはありません。
- Tuning Manager server のサービスを起動するためには、前提製品の Device Manager サーバが使用する HiRDB のサービスが起動している必要があります。
- Tuning Manager server の停止コマンドを実行した直後に、このコマンドを実行すると、KAPM05007-I のメッセージが表示される場合があります。これは Tuning Manager server のサービスの停止に時間が掛かっているためです。この場合、しばらく時間を置いてから、再度コマンドを実行し、Tuning Manager server のサービスを起動してください。

- Tuning Manager server のサービスを起動する場合、Device Manager の接続設定が完了している必要があります。Device Manager の接続設定については、「[5.1 Device Manager の接続設定](#)」を参照してください。

1.5 サービスの停止

Tuning Manager server の環境設定を変更する場合は、事前にサービスを起動または停止する必要があります。ここでは、サービスの停止方法と注意事項について説明します。クラスタシステムでのサービスの停止方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。

サービスの自動停止について

各サービスは、OS の終了と同時に自動的に停止します。

1.5.1 サービスを停止する

サービスを手動で停止する方法について説明します。

(1) Tuning Manager server のサービス (HiCommand Suite TuningManager)

次のコマンドを実行して、HiCommand Suite TuningManager を停止します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdssrv /stop /server TuningManager
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -stop -server TuningManager
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -stop -server TuningManager
```

(2) Performance Reporter のサービス (HiCommand Performance Reporter)

次のコマンドを実行して、HiCommand Performance Reporter を停止します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdssrv /stop /server PerformanceReporter
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -stop -server PerformanceReporter
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -stop -server PerformanceReporter
```

(3) HiRDB のサービス

次のコマンドを実行して、HiRDB のサービスを停止します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsdbsrv /stop
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsdbsrv -stop
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsdbsrv -stop
```

(4) すべての Hitachi Command Suite 製品および HiRDB のサービス

次のコマンドを実行して、同じホストにインストールされているすべての Hitachi Command Suite 製品（共通コンポーネントを含む）および HiRDB のサービスを停止します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdssrv /stop
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -stop
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -stop
```

注意

すべての Hitachi Command Suite 製品および HiRDB のサービスを停止するときに、KAPM06445-E のメッセージが出力されることがあります。このメッセージは、HiRDB の終了に時間が掛かる場合に出力されます。このメッセージが出力された場合は、しばらく待ってからコマンドを再実行してください。

1.5.2 サービスの状態を確認する（停止時）

サービスの状態を確認する方法については、「1.4.2 サービスの状態を確認する（起動時）」を参照してください。

1.5.3 サービス停止時の注意事項

サービス停止時の注意事項を次に示します。

- hcmdssrv コマンドを実行して Tuning Manager server のサービスを停止しても、同じホストの PFM - Manager のサービスは停止しません。
- Windows の [サービス] ウィンドウに登録されている HiRDB/EmbeddedEdition_HD0 サービスを停止しないでください。このサービスは、常に起動している必要があります。
- サービスの停止はポーリングが実行される時間帯を避けて実施してください。ポーリングの前後 10 分間の時間帯を避け、かつ、ポーリング状態レポートのステータス表示欄に「実行中」の表示がないことを確認してください。ポーリング状態レポートについては、「6.5.1 ポーリング状態レポートを確認する」を参照してください。
- 共通コンポーネントのサービスの起動が完了していない状態で、次のサービスを停止しないでください。
 - Tuning Manager server のサービス
 - Performance Reporter のサービス

実行した場合、サービスの常駐プロセスが起動していても、stop オプションによるサービスの停止ができなくなる場合があります。このような状態になった場合には、Tuning Manager server ホストを再起動してください。

1.6 ユーザープロパティファイルの設定について

Tuning Manager server のインストールおよびセットアップのあと、ユーザープロパティファイルの設定が必要な場合があります。ユーザープロパティファイルの設定を変更すれば、Tuning Manager server の運用に関する設定を変更できます。

ユーザープロパティファイルの格納先を次に示します。

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>\%conf%\user.properties

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/conf/user.properties

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/conf/user.properties

ユーザープロパティファイルの設定を変更する手順を次に示します。

1. HiCommand Suite TuningManager サービスを停止します。
Tuning Manager server の停止方法については、「1.5 サービスの停止」を参照してください。
2. ユーザープロパティファイルを手動でコピーして、バックアップを取得します。
バックアップしたユーザープロパティファイルをリストアする場合は、HiCommand Suite TuningManager サービスを停止して、ユーザープロパティファイルの格納先にバックアップしたファイルを上書き保存します。
3. ユーザープロパティファイルをテキストエディターで開き、次の記述形式で修正します。
[<プロパティ>]=[<設定値>]

注意

- 行の先頭に#が指定されている場合、その行はコメントになります。
 - 同一のプロパティ名が複数指定された場合には、最後に記述した設定値が有効になります。
 - Windows 環境でインストール先フォルダを指定する場合、フォルダの区切りに、¥ではなく、/を使用してください。
4. HiCommand Suite TuningManager サービスを起動します。
HiCommand Suite TuningManager サービスの起動方法は、「1.4 サービスの起動」を参照してください。
ユーザープロパティファイルの設定方法については、次の表を参照してください。

表 1-2 ユーザープロパティファイルのプロパティ一覧

プロパティ	説明	入力可能文字	デフォルト値
alert.email.from	Tuning Manager server から送信する email の送信者アドレスを特定するときに指定します。	大文字と小文字は区別します。 半角スペース A-Z a-z 0-9 `~! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥*] ^ _ { }	—
alert.email.smtpport	Tuning Manager server から送信する email が使用する SMTP サーバのポート番号です。	1-65535	25
alert.email.subject	Tuning Manager server から送信する email の Subject です。	大文字と小文字は区別します。	—

プロパティ	説明	入力可能文字	デフォルト値
		半角スペース A-Z a-z 0-9 `~!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥*]^_`{ }	
csv.encode.type	エクスポートされた CSV ファイルで使用する文字コードについて指定します。この設定値を省略すると、デフォルト値とは異なる UTF-8 が設定されます。この設定値は、Main Console の GUI からレポートをエクスポートする場合に適用されます。	大文字と小文字は区別しません。 Shift_JIS または UTF-8	Shift_JIS
pr.incontextlaunch.mode	エージェントを指定してインフォメーションエリア（詳細情報）から Performance Reporter を起動する場合、メイン画面を表示するか、レポートツリー選択画面を表示するかを指定します。 Performance Reporter を起動する方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。 指定可能な設定値以外を指定した場合、ログファイルにエラーメッセージが出力され、デフォルトが設定されます。	大文字と小文字は区別しません。 main:メイン画面を表示します。 tree:レポートツリー選択画面を表示します。	tree
table.filter.default.unit.datasize	フィルタリング機能の条件入力画面に表示するデータサイズの単位を指定します。フィルタリング機能については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」の、フィルター条件について説明している箇所を参照してください。	大文字と小文字は区別しません。 KB, MB, GB, TB, または PB を入力します。	GB
table.filter.default.unit.transferRate	フィルタリング機能の条件入力画面で、デフォルトで選択するデータ転送率の単位を指定します。データ転送率の単位は、「KB/sec」、「MB/sec」、「GB/sec」、「TB/sec」、または「PB/sec」です。このプロパティの設定値では「/sec」を省略しています。	大文字と小文字は区別しません。 KB, MB, GB, TB, または PB を入力します。	GB
portNumberCLI	報告系コマンドが HBase Storage Mgmt Web Service にアクセスする際に使用するポート番号です。	0-65535	23015
poller.offset	ポーリングスケジュールの開始時刻に適用するオフセット値を指定します（単位：分）。設定した値だけ、開始時刻があとにずれます。	0-59	5

プロパティ	説明	入力可能文字	デフォルト値
dbvup.workDir	データベースがバージョンアップされる場合、一時的に利用する作業用ディレクトリのパス名を絶対パスで指定します。指定する作業用ディレクトリは、空のディレクトリである必要があります。作業用ディレクトリの容量の見積もりについては、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」のアップグレードインストールの準備について説明している個所を参照してください。	詳細については、「表 1-3」を参照してください。	Windows の場合 <Tuning Manager server のインストール先フォルダ> ¥system¥work Solaris の場合 /opt/ HiCommand/ TuningManager /system/work Linux の場合 <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/system/work
userData.cleanup.enable	ユーザーデータのクリーンアップの有効または無効を指定します。ユーザーデータのクリーンアップでは、所有者がユーザー管理に存在しないレポートウィンドウおよび履歴チャートの情報の検出と削除が定期的に行われます。ただし、共有する設定にした履歴チャートの情報は削除されません。	大文字と小文字は区別しません。 true : Tuning Manager server のサービスの起動時、および Tuning Manager server のサービスの起動後 24 時間ごとに、ユーザーデータのクリーンアップを実施します。 false : ユーザーデータのクリーンアップを実施しません。	true
rpt.flashmode	履歴レポートおよび予測レポートのチャートの表示形式を指定します。	大文字と小文字は区別しません。 true : チャートを Adobe Flash Player で表示します。 false : チャートを画像 (PNG 形式) で表示します。	false
rpt.printView.fullsize	チャートの印刷形式の表示サイズを指定します。	大文字と小文字は区別しません。 true : チャートをフルサイズ表示します。 false : チャートをサムネイル表示します。	true
rpt.antialiasing	画像 (PNG 形式) で表示するチャートのアンチエイリアスの有効または無効を指定します。	大文字と小文字は区別しません。 true : アンチエイリアスを有効にします。	true

プロパティ	説明	入力可能文字	デフォルト値
		false : アンチエイリアスを無効にします。	
cli.workDir	htm-hostgroups コマンドの実行時に出力される一時ファイルの出力先ディレクトリを指定します。	詳細については、「表 1-4」を参照してください。	Windows の場合 <Tuning Manager server のインストール 先フォルダ> ¥system¥work Solaris の場合 /opt/ HiCommand/ TuningManager /system/work Linux の場合 <Tuning Manager server のインストール 先ディレクトリ >/system/work

(凡例)

— : 該当なし

注※

¥を文字として使用する場合は、¥¥と記述してください。

表 1-3 dbvup.workDir プロパティの指定可能値について

項目	指定可能値
使用可能文字	使用できる文字を次に示します。 Windows の場合 半角スペース A-Z a-z 0-9 _ . () このほかにパスの区切り文字として円記号 (¥※1) およびコロン (:) を指定できます。 注意 : 通常使用できるパス名の引用符 (") での囲みは、使用できません。 Solaris および Linux の場合 A-Z a-z 0-9 _ このほかにパスの区切り文字としてスラント (/) を指定できます。
パス名の長さ	128 バイト以内のパス名で指定します。
ルート指定	次のルートは使用できません。 Windows の場合 <ドライブ>:¥¥ Solaris および Linux の場合 /
ディレクトリの存在	存在し、かつ空のディレクトリを指定します。指定するパス名の英字についての注意点を次に示します。 Windows の場合 大文字・小文字を区別しません。 Solaris および Linux の場合 大文字・小文字を区別します。
ネットワークドライブ	ネットワークドライブは指定できません。
シンボリックリンク	シンボリックリンクは指定できません。

項目	指定可能値
アクセス権	指定したパスには、次に示すアクセス権の付与が必要です。 Windows の場合 SYSTEM ユーザー※2 に対して、read 権限、write 権限および実行権限が必要です。 Solaris および Linux の場合 root ユーザーに対して、read 権限、write 権限および実行権限が必要です。

注※1

¥を区切り文字として使用する場合は、¥¥と記述してください。

注※2

SYSTEM ユーザーとは、Tuning Manager server のサービスプロセスを実行するユーザーです。Administrators グループに所属するユーザーと同等の権限を持ちますが、Administrators グループに所属していないため、個別に権限を付与する必要があります。

表 1-4 cli.workDir プロパティの指定可能値について

項目	指定可能値
使用可能文字	使用できる文字を次に示します。 Windows の場合 半角スペース A-Z a-z 0-9 ! # \$ % & ' () + , - . ; = @ [] ^ _ ` { } ~ このほかにパスの区切り文字として円記号 (¥※) およびコロン (:) を指定できます。 注意：通常使用できるパス名の引用符 (") での囲みは、使用できません。 Solaris および Linux の場合 半角スペース A-Z a-z 0-9 ! " # \$ % & ' () * + , - . : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { } ~ このほかにパスの区切り文字としてスラント (/) を指定できます。
パス名の長さ	128 バイト以内のパス名で指定します。
ルート指定	次のルートは使用できません。 Windows の場合 <ドライブ>:¥¥ Solaris および Linux の場合 /
ディレクトリの存在	存在するディレクトリの絶対パスを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 一時ファイルの出力先に<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>直下は指定しないでください。 一時ファイル出力先ディレクトリにはほかのファイルを配置しないでください。 サービスの起動中にプロパティの設定値を変更しないでください。 一時ファイル出力先ディレクトリをデフォルトから変更した場合、Tuning Manager server のアンインストール時に、一時ファイル出力先ディレクトリは自動で削除されません。手動で削除してください。 指定するパス名の英字についての注意点を次に示します。 Windows の場合 大文字・小文字を区別しません。 Solaris および Linux の場合 大文字・小文字を区別します。
ネットワークドライブ	ネットワークドライブは指定できません。
シンボリックリンク	シンボリックリンクは指定できません。
アクセス権	指定したパスには、次に示すアクセス権の付与が必要です。 Windows の場合 Administrator ユーザーに対して、フルコントロールのアクセス権が必要です。 Solaris および Linux の場合

項目	指定可能値
	root ユーザーに対して、read 権限、write 権限および実行権限が必要です。

注※

¥を区切り文字として使用する場合は、¥と記述してください。

1.7 Tuning Manager server の使用ポート

Tuning Manager server が使用するポート番号について説明します。

1.7.1 Device Manager と接続するポート番号の変更

Tuning Manager server が Device Manager と接続するときに使用するポート番号を次に示します。

表 1-5 Tuning Manager server が Device Manager と接続するときに使用するポート番号

ポート番号	通信元	通信先	備考
24220/tcp	Tuning Manager server	Device Manager	Device Manager ホストの通信ポートです。
22900 - 22999/tcp	Device Manager	Tuning Manager server	Tuning Manager server ホストの通信ポートです。
23015/tcp	Tuning Manager server	Device Manager	Device Manager ホストの通信ポートです。
22286/tcp	Device Manager	Tuning Manager server	Tuning Manager server ホストの通信ポートです。

(1) ファイアウォールを設定したネットワークでの運用

Tuning Manager server ホストと Device Manager ホストの間にファイアウォールを設定している場合、「表 1-5 Tuning Manager server が Device Manager と接続するときに使用するポート番号」に記載されているポート番号でホスト間の通信ができるようにファイアウォールの設定を変更してください。

(2) ポート番号の変更手順

次のどちらかの場合、Tuning Manager server ホストが Device Manager ホストと接続するときのデフォルトのポート番号（24220）を変更する必要があります。

- Tuning Manager server ホストと Device Manager ホストの間にファイアウォールを設定していて、特定のポート番号で通信する必要がある場合
- デフォルトのポート番号（24220）をほかのアプリケーションが使用している場合

ポート番号を変更する手順を次に示します。

1. 次のコマンドを実行して、Tuning Manager server のサービスを停止します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%\hcmdssrv /stop /server
TuningManager
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -stop -server TuningManager
```

Linux の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -stop -  
server TuningManager
```

2. 次のコマンドを実行して、Device Manager と接続するポート番号を変更します。

Windows の場合 :

```
<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%htm-dvm-setup {/port  
| /t} <ポート番号>
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/TuningManager/bin/htm-dvm-setup {--port | -t} <ポート  
番号>
```

Linux の場合 :

```
<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/htm-dvm-setup {--  
port | -t} <ポート番号>
```

<ポート番号>には、変更後のポート番号を 1~65535 で指定します。

3. 次のコマンドを実行して、Tuning Manager server を起動します。

Windows の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdssrv /start /server  
TuningManager
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -start -server TuningManager
```

Linux の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -start -  
server TuningManager
```

1.7.2 PFM - Manager と接続するポート番号の変更

Tuning Manager server から PFM - Manager に情報を要求する場合に接続するポート番号は、デフォルトで「22286」が設定されています。ただし、PFM - Manager のポート番号が変更された場合、Performance Reporter の初期設定ファイル (config.xml) の「port」でポート番号を変更する必要があります。Performance Reporter の初期設定ファイルについては、「[5.3 Performance Reporter の初期設定](#)」を参照してください。

1.8 ホスト名または IP アドレスの設定

Tuning Manager server と PFM - Manager は、常に TCP/IP を使用して通信するため、通信可能なホスト名または IP アドレスを設定する必要があります。設定しない場合、Tuning Manager server ホスト名または PFM - Manager ホスト名から最初に解決される IP アドレスが使用されません。

例えば、次のような構成および運用の場合に設定が必要です。

- PFM - Manager ホストが業務用 LAN、監視用 LAN の 2 つのネットワークに接続され、Tuning Manager server が監視用 LAN でホスト間通信する場合
- ホストのメンテナンス作業の際、一時的に NIC から LAN ケーブルを抜く場合
このとき、NIC に割り当てられた IP アドレスが無効になることがあります。

Tuning Manager server でのホスト名または IP アドレスの設定の詳細については、「[5.3 Performance Reporter の初期設定](#)」の、初期設定ファイル (config.xml) の ownHost について説明している個所を参照してください。

PFM - Manager でのホスト名または IP アドレスの設定の詳細については、マニュアル「[JP1/Performance Management リファレンス](#)」の付録の、PFM - Manager と PFM - Web Console の通信で使用するホスト名の設定について説明している個所を参照してください。

1.9 Tuning Manager server に接続できる Web 端末を制限する

httpsd.conf ファイルに、特定のホストを指定して、Tuning Manager server に接続できる Web 端末を制限します。

Tuning Manager server に接続できる端末を制限する方法を説明します。

1. 次のコマンドで、HiCommand Suite Common Web Service, Tuning Manager server, および Performance Reporter のサービスを停止します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdssrv /stop
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -stop
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -stop
```

2. httpsd.conf ファイルを開きます。

httpsd.conf ファイルは次のディレクトリにあります。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%httpsd%conf%
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/httpsd/conf/
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/httpsd/conf/
```

3. Tuning Manager server に接続できるホストを httpsd.conf ファイルの最終行に登録します。

httpsd.conf ファイルへのホストの登録形式を次に示します。

```
<Location /TuningManager>  
order allow,deny  
allow from ホスト [ ホスト...]  
</Location>
```

ホストは次のどれかの形式で記述してください。

- ドメイン名 (例 hitachi.ABCDEFG.com)
- ドメイン名の一部 (例 hitachi)
- 完全な IP アドレス (例 10.1.2.3 127.0.0.1)
- IP アドレスの一部 (例 10.1 この場合、10.1.0.0/16 と同じ意味になります)
- ネットワーク/ネットマスクの形式 (例 10.1.0.0/255.255.0.0)

- ネットワーク/*n* の CIDR 形式 (*n* は、ネットワークアドレスのビット数を表す整数) (例 10.1.0.0/16)

登録形式についての注意

- 1つの allow from でホストを複数指定するときは空白で区切ってください。
- allow from の指定は、複数行記述できます。
- Tuning Manager server をインストールしたマシンから接続する場合は、ローカルループバックアドレス (127.0.0.1 または localhost) も指定する必要があります。
- order は必ず指定の形式で記述してください。余分な空白やタブなどを挿入すると動作しません。

ホストの登録例

```
<Location /TuningManager>  
order allow,deny  
allow from 127.0.0.1 10.0.0.1  
allow from 10.0.0.0/26  
</Location>
```

4. 次のコマンドで、HiCommand Suite Common Web Service, Tuning Manager server, および Performance Reporter のサービスを起動します。

Windows の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdssrv /start
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdssrv -start
```

Linux の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdssrv -start
```

1.10 SSL の設定

遠隔地からインターネットまたはイントラネットを経由して Tuning Manager server に接続する場合、第三者によるデータの傍受や改ざんを防ぐため、SSL を使用して通信データを暗号化することをお勧めします。

暗号化を実現するためには、HBase Storage Mgmt Web Service に SSL を設定する必要があります。詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」の通信に関するセキュリティ設定について説明している個所を参照してください。

注意

SSL を使用して通信データを暗号化できるのは、Tuning Manager server と Device Manager を同一ホストにインストールしているときだけです。

1.11 JP1/IM との連携

Tuning Manager server を JP1/IM と連携させることで、JP1/IM の統合機能メニュー画面から Tuning Manager server の GUI を呼び出して使用できるようになります。

共通コンポーネントのシングルサインオン機能を利用すると、Tuning Manager server のユーザー認証をしないで Tuning Manager server の GUI を表示できます。ここでは、シングルサインオン機能を利用して JP1/IM と連携するためのセットアップ手順について説明します。

注意

シングルサインオン機能を利用しない場合は、Tuning Manager server のユーザー認証が必要になります。シングルサインオン機能を利用しない場合のセットアップ手順については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド」またはマニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」を参照してください。

シングルサインオン機能を利用する場合、次の条件があります。

- Tuning Manager server との連携をサポートしている JP1/IM が必要です。JP1/IM のバージョンについては、「ソフトウェア添付資料」の機能別/条件付前提ソフトウェアについて説明している個所を参照してください。
- JP1/IM - View にログインするユーザーと同じアカウントを事前に Tuning Manager server で作成しておく必要があります。パスワードには、6 文字以上の文字列を指定してください。ユーザー ID に使用できる文字は次のとおりです。

0~9 a~z A~Z ! \$ - . @ _

次に示す手順で JP1/Base と JP1/IM のインストールおよびセットアップを実行してください。なお、JP1/Base については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を、JP1/IM については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド」またはマニュアル「JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド」を参照してください。

1. 管理クライアントに JP1/IM - View をインストールします。
2. 管理サーバに JP1/Base と JP1/IM - Manager をインストールします。
3. JP1/Base の環境設定を実施します。

JP1 統合機能メニューから Tuning Manager server の GUI を起動するには、JP1/IM - View の構成定義ファイルを作成する必要があります。作成する構成定義ファイルのサンプルファイル (Tuning_manager_ja.conf) は、次に示すディレクトリに格納されています。

Windows の場合：

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%sample%\JP1_IM_conf

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/Base/sample/JP1_IM_conf

Linux の場合：

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/sample/JP1_IM_conf

サンプルファイル (Tuning_manager_ja.conf) を次のディレクトリの下にコピーすることで、JP1/IM の統合機能メニュー画面から Tuning Manager server の GUI を呼び出せるようになります。

<JP1/IM - View のインストール先フォルダ>%conf%\function%ja

注意

Solaris および Linux からコピーする場合は、ASCII モードで転送してください。

構成定義ファイルの内容を次に示します。

```
@file type="function-definition", version="0300";
#-----
@define-block type="function-tree-def";
id="jco_Hicommand_tuning_manager";
parent_id="jco_folder_san";
name="ストレージシステム稼働管理";
icon="%JCO_INSTALL_PATH%\image\menu\hicmd.gif";
execute_id="default_browser";
arguments="http://<host>:<port>/HiCommand/IMLogin?jpluserid=%JCO_JP1USER
%&jp1token=%JCO_JP1TOKEN%&launchurl=http://<host>:<port>/TuningManager/
login.do";
```

```
@define-block-end;  
#-----
```

「arguments=」で始まる行を実行環境に合わせて修正してください。<host>および<port>の部分は、次のように指定します。

<host>

Tuning Manager server をインストールしたサーバの IP アドレスを指定します。

<port>

接続先ポート番号として、HBase Storage Mgmt Web Service のポート番号を指定します。デフォルト値は 23015 です。

注意

Tuning Manager server で SSL の設定が有効な場合には、修正内容に含まれる 2 か所の URL を SSL 時に使用する URL に変更してください。

JP1/IM のコンソールを起動し、[オプション] メニューから [統合機能メニュー起動] を実行すると画面が表示されます。Tuning Manager server の GUI は [ストレージ管理] - [ストレージエリア管理] - [ストレージシステム稼働管理] をダブルクリックすると起動します。

1.12 マシンの時刻調整について

Tuning Manager server がインストールされているマシンとエージェントがインストールされているマシンとの間に時刻のずれがあると、Tuning Manager server はエージェントから正しくデータを取得できません。また、Tuning Manager server がインストールされているマシンと Device Manager サーバがインストールされているマシンの間に時刻のずれがある場合にも、取得されるデータの内容に注意が必要です。ここでは、時刻にずれがあった場合の現象や時刻を変更する場合の注意事項について説明します。

Tuning Manager server がインストールされているマシンの時刻を Tuning Manager server の時刻、エージェントがインストールされているマシンの時刻をエージェントの時刻、Device Manager サーバがインストールされているマシンの時刻を Device Manager サーバの時刻と呼んでいます。

1.12.1 Tuning Manager server とエージェントでマシンの時刻のずれによって発生する現象

Tuning Manager server とエージェントが異なるマシンで稼働する場合に、マシン間で時刻にずれがあると発生する現象を説明します。

(1) Tuning Manager server の時刻がエージェントよりも過去の場合

Tuning Manager server の時刻が 12:00 でエージェントの時刻が 14:00 だった場合を例にして説明します。Tuning Manager server の時刻で 12:00 になると、Tuning Manager server はエージェントが持つ 12:00 のデータを取得します。このとき、時刻にずれがあるため、エージェントが持つ最新データ (14:00) よりも古いデータ (12:00) を取得します。時刻を修正したときの現象を次に示します。

- エージェントの時刻を Tuning Manager server に合わせる
エージェントの時刻が戻るため、同じ時刻が繰り返し現れます。このときエージェントは、繰り返し現れた時刻のデータを上書きして保存します。エージェントの時刻を 14:00 から 12:00 に変更した場合、エージェントは 13:00 と 14:00 のデータを上書きします。
- Tuning Manager server の時刻をエージェントに合わせる

Tuning Manager server の時刻が進むため、データ取得を実行しない時刻が発生します。取得していないデータは、次の時刻にあわせてデータを取得します。Tuning Manager server の時刻を 12:00 から 14:00 に進めた場合、14:00 のデータ取得時に 13:00 のデータも取得します。

(2) Tuning Manager server の時刻がエージェントよりも未来の場合

Tuning Manager server の時刻が 12:00 でエージェントの時刻が 10:00 だった場合を例にして説明します。Tuning Manager server の時刻で 12:00 になると、Tuning Manager server はエージェントが持つ 12:00 のデータを取得しようとします。このとき、エージェントは 12:00 のデータを持っていないため、Tuning Manager server はエージェントから未取得の過去のデータを取得します。時刻を修正したときの現象を次に示します。

- エージェントの時刻を Tuning Manager server に合わせる
エージェントの時刻を進めるので、エージェントがデータを保存していない時刻が発生します。エージェントの時刻を 12:00 に進めた場合、11:00 のデータが保存されません。
- Tuning Manager server の時刻をエージェントに合わせる
Tuning Manager server の時刻を戻す場合、前回の Tuning Manager server 停止時刻が次の Tuning Manager server 起動時刻より過去に戻らないようにする必要があります。このため、時刻を戻す分だけ Tuning Manager server を停止する必要があります。Tuning Manager server の時刻で 12:00 に Tuning Manager server を停止して、Tuning Manager server の時刻を 2 時間戻した場合、2 時間経ったあとに Tuning Manager server を起動します。

1.12.2 Tuning Manager server と Device Manager サーバでマシンの時刻のずれによって発生する現象

Tuning Manager server と Device Manager サーバを異なるマシンで運用している場合、Tuning Manager server の時刻と Device Manager サーバの時刻が 5 分以上ずれていると、Tuning Manager server へのログインに失敗し、KATN12204-E メッセージが出力されます。この場合は、Tuning Manager server の時刻と Device Manager サーバの時刻を同期するように調整する必要があります。

Tuning Manager server の時刻と Device Manager サーバの時刻を常に同期させておくために、NTP などを利用して時刻を自動的に修正することを推奨します。時刻を調整する場合の注意事項については、「[1.12.3 Tuning Manager シリーズをインストールするマシンの時刻変更に関する注意事項](#)」を参照してください。

ここでは、マシンの時刻にずれがある場合に、データ取得処理で発生する現象について説明します。

(1) Tuning Manager server と Device Manager サーバの時刻のずれが一定の場合

Tuning Manager server と Device Manager サーバの時刻のずれが常に 30 分だった場合を例にして説明します。この例では、Tuning Manager server の時刻で 9:00 と 10:00 に Device Manager サーバのデータを取得します。

- Tuning Manager server の時刻が Device Manager サーバよりも 30 分進んでいる場合
Tuning Manager server の時刻で 9:00 になると、Tuning Manager server は Device Manager サーバの時刻で 8:30 までに発生した最新データを取得します。Tuning Manager server の時刻で 10:00 になると、Device Manager サーバの時刻で 8:30 よりもあとに発生した最新データを取得します。
- Tuning Manager server の時刻が Device Manager サーバよりも 30 分遅れている場合
Tuning Manager server の時刻で 9:00 になると、Tuning Manager server は Device Manager サーバの時刻で 9:00 までに発生したデータを取得します。このとき、Device Manager サーバには Device Manager サーバの時刻で 9:30 までに発生した最新データがありますが、Device

Manager サーバの時刻で 9:00 よりもあとに発生したデータは Tuning Manager server の時刻で 10:00 になってから取得されます。

(2) 運用中に Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも遅らせた場合

運用中に Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも遅らせた場合を例にして説明します。この例では、Tuning Manager server の時刻で 9:00 と 10:00 に Device Manager サーバのデータを取得します。また、9:00 までは Tuning Manager server と Device Manager サーバの時刻にずれがないものとします。

Tuning Manager server の時刻で 9:00 になると、Tuning Manager server は Device Manager サーバの時刻で 9:00 までに発生した最新データを取得します。

- Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも 30 分遅らせた場合
Tuning Manager server の時刻で 10:00 になると、Tuning Manager server は Device Manager サーバの時刻で 9:00 よりもあとで 9:30 までに発生した最新データを取得します。
- Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも 1 時間遅らせた場合
Tuning Manager server の時刻で 10:00 になると、Tuning Manager server は Device Manager サーバの時刻で 10:00 までに発生した最新データを取得しようとしていますが、Device Manager サーバの時刻がまだ 9:00 のため、対象データなしとなります。

(3) 運用中に Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも進ませた場合

運用中に Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも進ませた場合を例にして説明します。この例では、Tuning Manager server の時刻で 9:00 と 10:00 に Device Manager サーバのデータを取得します。また、9:00 までは Tuning Manager server と Device Manager サーバの時刻にずれがないものとします。

Tuning Manager server の時刻で 9:00 になると、Tuning Manager server は Device Manager サーバの時刻で 9:00 までに発生した最新データを取得します。

- Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも 30 分進ませた場合
Tuning Manager server の時刻で 10:00 になると、Tuning Manager server は Device Manager サーバの時刻で 10:00 までに発生したデータを取得します。このとき、Device Manager サーバには Device Manager サーバの時刻で 10:30 までに発生した最新データがありますが、Device Manager サーバの時刻で 10:00 よりもあとに発生したデータは次回のデータ取得時間になってから取得されます。
- Device Manager サーバの時刻を Tuning Manager server よりも 1 時間進ませた場合
Tuning Manager server の時刻で 10:00 になると、Tuning Manager server は Device Manager サーバの時刻で 10:00 までに発生したデータ (Tuning Manager server の時刻で 9:00 に取得したデータと同じ) を取得します。このとき、Device Manager サーバには Device Manager サーバの時刻で 11:00 までに発生した最新データがありますが、Device Manager サーバの時刻で 10:00 よりもあとに発生したデータは次回のデータ取得時間になってから取得されます。

1.12.3 Tuning Manager シリーズをインストールするマシンの時刻変更に関する注意事項

共通コンポーネントおよび Tuning Manager server のサービスの起動中にマシンの時刻が変更されると、Tuning Manager server が正しく動作しなくなるおそれがあります。マシンの時刻を変更する必要がある場合には、インストールの前に変更してください。

NTP などで時刻を自動的に修正する機能を使用する場合、マシンの時刻が実際の時刻よりも進んだときに、マシンの時刻を遡らせないで少しずつ時間を掛けて修正する機能を使用してください。機

能の中には、時刻のずれ幅が一定時間内であれば少しずつ時刻を修正し、一定時間を超えると時刻を遡らせて修正するものがあります。時刻のずれ幅が、少しずつ修正される範囲を超えないように、使用する機能での時刻調整の頻度を設定してください。

例えば Windows Time サービスを使用した場合、マシンの時刻が実際の時刻よりも進んでいて、マシンの時刻と実際の時刻のずれ幅が一定時間内であれば、マシンの時刻を遡らせることなく少しずつ時刻を修正できます。Windows Time サービスで少しずつ時刻を修正できる範囲を確認し、マシンの時刻と実際の時刻のずれ幅がその範囲を超えないように、Windows Time サービスでの時刻の調整頻度を設定してください。

Tuning Manager シリーズをインストールしたあとの時刻の変更について

時刻を変更すると Tuning Manager server がエージェントから取得したデータの時刻に不整合が発生することがあります。時刻を自動的に調整する機能を使用できない場合や、直ちに時刻を変更する必要がある場合、次の手順でマシンの時刻を変更してください。

- a. 共通コンポーネントおよびすべての Hitachi Command Suite 製品のサービスを停止します。
- b. マシンの時刻を変更します。
- c. サービスを再起動します。

Tuning Manager server は、NTP サービスで実施されるようなシステムタイムレコーダーによる時間調整に対応しています。ただし、時間を過去に戻す場合には、最後に HBase Storage Mgmt Web Service サービスを停止した時間より前に戻さないでください。また、Tuning Manager server ホストの時計を 10 分以上変更する場合は、Tuning Manager server を再起動してください。なお、Tuning Manager server の運用を開始したあとは、タイムゾーンの設定を変更しないでください。

上書きインストールによる時刻の変更について

大きく時刻（1 か月や 1 年など）が進んでいる場合には、時刻を戻すために Tuning Manager server を停止する代わりに、Tuning Manager server を上書きインストールする方法があります。Tuning Manager server を上書きインストールして時刻を変更する手順を次に示します。

- a. 共通コンポーネントおよびすべての Hitachi Command Suite 製品のサービスを停止します。
- b. マシンの時刻を変更します。
- c. Tuning Manager server を上書きインストールします。
- d. 共通コンポーネントおよびすべての Hitachi Command Suite 製品のサービスを起動します。

上書きインストールの詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。

1.13 PFM - Manager に接続するための認証キーファイルの作成

Tuning Manager server は、デフォルトの状態では「ADMINISTRATOR」ユーザーを使用して PFM - Manager に接続します。次のどれかに該当する場合は、jpcprauth コマンドを実行して認証キーファイルを作成する必要があります。

- PFM - Manager を PFM 認証モードで運用していて、PFM - Manager の「ADMINISTRATOR」ユーザーの情報を変更した場合
- PFM - Manager の認証モードを JP1 認証モードに切り替えた場合

- PFM・Manager の認証モードを JP1 認証モードに切り替えたあと、PFM 認証モードに戻した場合

jpcprauth コマンドを実行して認証キーファイルを作成する方法については、「8.4.7 jpcprauth」を参照してください。

PFM・Manager のユーザーアカウントを管理する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。

1.14 Oracle JDK を使用する場合の設定

Oracle JDK を使用したい場合、Tuning Manager server のインストール後に hcmdschgjdk コマンドを実行して、Oracle JDK を設定します。

使用する JDK を Oracle JDK に設定する前に、次の条件を満たしているか確認してください。

- 使用したい JDK のバージョンを Tuning Manager server がサポートしていること。
Tuning Manager server がサポートしている Oracle JDK のバージョンについては、「ソフトウェア添付資料」の機能別／条件付前提ソフトウェアについて説明している個所を参照してください。
- Hitachi Command Suite 製品、NAS Manager、または Storage Navigator Modular 2 を Tuning Manager server と同じホストにインストールしている場合、すべての製品が Oracle JDK に対応しているバージョンであること。
各製品が Oracle JDK に対応しているかどうかは、各製品のマニュアルを参照してください。

使用する JDK を Oracle JDK に設定する手順を次に示します。

1. Hitachi Command Suite 製品、NAS Manager、および Storage Navigator Modular 2 のすべてのサービスを停止する。
2. hcmdschgjdk コマンドを実行する。
JDK を選択する画面が表示されます。
3. Tuning Manager server がサポートしている Oracle JDK を選択する。
OS が Solaris および Linux の場合で Oracle JDK のインストール先をデフォルトから変更しているときは、Oracle JDK のインストール先を取得できないため、JDK を選択する画面の選択肢に Oracle JDK が表示されません。この場合、「Set the installation path of Java Development Kit.」を選択して、使用したい JDK のインストール先ディレクトリのパスを 1,000 バイト以内で指定してください。

注意

- Oracle JDK を上書きまたはアップデートした場合は、hcmdschgjdk コマンドを再実行して、設定し直してください。
- Oracle JDK をアンインストールする場合は、hcmdschgjdk コマンドを実行し、手順 3 で「Bundling Java Development Kit」を選択してください。
- JDK の設定前に利用していた証明書を JDK の設定後も利用する場合は、再度証明書をインポートする必要があります。証明書のインポート手順については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。
- OS が Windows Server 2008 または Windows Server 2012 の場合、使用する JDK によって Main Console のコマンド実行時に出力されるメッセージの言語が異なることがあります。Main Console のコマンド実行時に出力されるメッセージの言語は、次に示すロケールに依存します。

Oracle JDK 7 を使用するとき

- ・ Windows Server 2008

[コントロールパネル] - [地域と言語] - [キーボードと言語] タブの [表示言語] で設定されているロケール

- ・ Windows Server 2012

[コントロールパネル] - [時計、言語、および地域] - [言語] - [詳細設定] タブの [Windows の表示言語の上書き] で設定されているロケール

Oracle JDK 7 以外または Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用するとき

- ・ Windows Server 2008

[コントロールパネル] - [地域と言語] - [形式] タブの [形式] で設定されているロケール

- ・ Windows Server 2012

[コントロールパネル] - [時計、言語、および地域] - [地域] - [形式] タブの [形式] で設定されているロケール

ライセンス管理

この章では、Tuning Manager server のライセンスを管理するために必要な手順について説明します。

- 2.1 Tuning Manager server のライセンスについて
- 2.2 ライセンスキーの登録
- 2.3 ライセンスと Tuning Manager server のバージョン情報の見方について

2.1 Tuning Manager server のライセンスについて

Tuning Manager server にログインして使用する前に、Tuning Manager server で監視するストレージシステムに対応したライセンスキーを登録する必要があります。ライセンスキーは、一時的な状態か永久状態で利用できます。

Tuning Manager server のライセンスキーには、次の3種類があります。

- 一時ライセンスキー

永久ライセンスキーで運用する前に、一時ライセンスキーで試験的に Tuning Manager server を使用できます。

一時ライセンスキーは、インストール後 120 日間有効です。120 日後に、永久ライセンスキーを登録しなかった場合は、Tuning Manager server にログインができなくなります。また、Tuning Manager server で収集された情報を管理、または表示するためのコマンドラインユーティリティを使用できません。

Tuning Manager server は、永久ライセンスキーが登録されるまでの間も、エージェントをポーリングしデータを収集し続けます。

注意

一時ライセンスキーは、期限切れになると二度と使用できません。

- 非常ライセンスキー

一時ライセンスキーが期限切れとなり、永久ライセンスキーの発行を待っている場合、非常ライセンスキーを用いて期限切れの一時ライセンスキーを 30 日間延長できます。

注意

非常ライセンスキーは、30 日間有効です。

- 永久ライセンスキー

永久ライセンスキーは、Tuning Manager server を使用するための無期限有効となるライセンスキーです。

2.2 ライセンスキーの登録

ライセンスキーを登録するには、次の手順に従ってください。

1. Tuning Manager server のライセンス情報のダイアログを起動します。

次のどちらかの操作を実行してください。

- Tuning Manager server にログインする前に、ログイン画面で [ライセンス] ボタンをクリックします。
- Tuning Manager server にログインしたあとに、グローバルタスクバーエリアで [ヘルプ] - [バージョン] を選択します。

ライセンス情報を参照するだけの場合は、手順 4 へ進んでください。

2. 登録したいライセンスキーを指定します。

- ライセンスキーを直接入力する場合、[キー] のラジオボタンを選択し、ライセンスキーを入力します。
- ライセンスキーファイルを使用する場合、[ファイル] のラジオボタンを選択し、[参照] ボタンでライセンスキーファイルを指定します。

注意

ライセンスキーは大文字・小文字を区別します。

- 手順2で指定したライセンスキーを登録する場合は、[保存] ボタンをクリックします。
ライセンスキーが登録された旨のメッセージが表示されます。
- [閉じる] ボタンをクリックします。

注意

- Tuning Manager server と Device Manager を同じホストにインストールしている場合は、画面に Hitachi Command Suite 製品ごとのライセンスの状態が表示されます。
Tuning Manager server と Device Manager を別のホストにインストールしている場合は、画面に Tuning Manager server のライセンスの状態だけ表示されます。
- Tuning Manager server をアンインストールすると、Tuning Manager server のライセンスも削除されます。ただし、何らかの原因でライセンスが削除されなかった場合、ほかの Hitachi Command Suite 製品の画面に Tuning Manager server のライセンス情報が表示され続けることがあります。この場合でも、Tuning Manager server のアンインストールが正常に完了しているときには、ほかの Hitachi Command Suite 製品の動作に問題はありません。

2.3 ライセンスと Tuning Manager server のバージョン情報の見方について

ライセンスと Tuning Manager server のバージョン情報を表示する手順を次に示します。

1. グローバルタスクバーエリアから [ヘルプ] - [バージョン] を選択します。
表示されるダイアログのライセンス情報および Tuning Manager server のバージョン情報を参照してください。また、このダイアログで、登録してあるライセンス情報を変更することもできます。

一時ライセンスキー、または非常ライセンスキーが使用されていた場合、Tuning Manager server のバージョン、ライセンスキーのタイプなどが表示される領域に、ライセンスが満了になるまでの日数と満了日が表示されます。

データベース管理

この章では、Tuning Manager server のデータベースを管理する方法について説明します。

- 3.1 Tuning Manager server のデータベース
- 3.2 データベースの容量表示
- 3.3 データベースのバックアップ
- 3.4 データベースのリストア
- 3.5 データベースの総容量の変更
- 3.6 データベースの移行

3.1 Tuning Manager server のデータベース

ここでは、Tuning Manager server のデータベースについて説明します。

Hitachi Command Suite 製品は、データベースの管理システムとして HiRDB を使用しています。そのため、Tuning Manager server のデータベースも、HiRDB によって管理されます。

同一ホスト内に複数の Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合、それぞれの製品のデータベースは、同一の HiRDB で管理されます。例えば、Tuning Manager server がインストールされているホストに Tuning Manager server 以外の Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合は、次に示すデータベースが同一の HiRDB によって管理されます。

- Tuning Manager server のデータベース
- 同じホスト内にインストールされている Tuning Manager server 以外の Hitachi Command Suite 製品のデータベース
- 共通コンポーネントのデータベース

3.2 データベースの容量表示

データベースの容量を表示するには、次のコマンドを実行します。

Windows の場合：

```
<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%htm-db-status
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/TuningManager/bin/htm-db-status
```

Linux の場合：

```
<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/htm-db-status
```

注意

htm-db-status コマンドについての詳細は、「[8.3.2 htm-db-status](#)」を参照してください。

htm-db-status コマンドを実行すると、データベースの使用量と総容量、およびデータベースファイル格納先のパスが次のように表示されます。

```
Database Capacity (Used/Total): 15640 / 2048000 kBytes  
Area Path:  
D:%Program Files%HiCommand%TuningManager%database%TuningManager%TM00
```

「データベースの総容量」は、Tuning Manager server のデータベースの最大容量です。「データベースの使用量」は、「データベースの総容量」のうち、Tuning Manager server が使用している容量です。

データベースの領域不足を監視したい場合は、アラートを設定してください。アラートを設定することで、データベースの領域不足を email などで通知できます。アラートの設定方法については、「[6.5.3 エージェントポーリング状態アラートを設定する](#)」を参照してください。

3.3 データベースのバックアップ

Tuning Manager server によるデータベースのバックアップでは、同一ホスト内にインストールされている Hitachi Command Suite 製品のデータがバックアップされます。

バックアップされるのは、次のデータベースに格納されているデータです。

- Tuning Manager server のデータベース

- 同じホスト内にインストールされているそのほかの Hitachi Command Suite 製品のデータベース
- 共通コンポーネントのデータベース

バックアップ時には、バックアップ先のディレクトリに次の空き容量が必要です。

バックアップ先のディレクトリに必要な空き容量

(同一ホスト内にインストールされている Hitachi Command Suite 製品のデータベース使用量の合計 + 2.5GB) * 2

Tuning Manager server のデータベースの使用量を確認するには、htm-db-status コマンドを使用します。htm-db-status コマンドを使用してデータベースの使用量を確認する方法については、「3.2 データベースの容量表示」を参照してください。

同一ホスト内にほかの Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合は、各製品のマニュアルを参照して、データベースの使用量を確認してください。

注意

- Tuning Manager server のデータベースをバックアップする場合は、必ず hcmsbackups コマンドを使用してください。auto オプションを指定して hcmsbackups コマンドを実行すると、バックアップ時に、Hitachi Command Suite 製品のサービスの停止および HiRDB の起動を自動で実行できます。ただし、hcmsbackups コマンドで auto オプションが指定できるのは、05-70 以降の Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合だけです。また、05-70 より前の HiCommand Suite 製品のサービスは、auto オプションで停止できないため、手動で停止する必要があります。05-70 より前の HiCommand Suite 製品のサービスの停止方法については、各製品のマニュアルを参照してください。
- Hitachi Command Suite 製品をクラスタ環境で運用している場合は、必ず実行系ノードでコマンドを実行してください。
- Hitachi Command Suite 製品では、どの製品のバックアップ方法でも、同一ホスト内にインストールされているすべての Hitachi Command Suite 製品のデータがバックアップされます。Tuning Manager server でバックアップする内容と、ほかの Hitachi Command Suite 製品でバックアップする内容は同じになるため、同一ホストでは、バックアップを実行するのはどれか 1 つの製品だけにかまいません。

データベースのバックアップ手順を次に示します。

1. 05-70 より前の HiCommand Suite 製品がインストールされている場合は、そのサービスを停止します。

サービスの停止方法については、それぞれの製品のマニュアルを参照してください。

注意

HBase Storage Mgmt Web Service サービスは停止しないでください。HBase Storage Mgmt Web Service サービスを停止すると、HiRDB のサービスも停止してしまいます。

ほかの HiCommand Suite 製品でサービスの停止が必要な場合は、データベースをバックアップする前にサービスを停止させてください。バックアップ中にサービスを停止させる必要があるかどうかは、それぞれの製品のマニュアルを参照してください。

2. 次のコマンドを実行して、データベースをバックアップします。

Windows の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmsbackups /dir <ディレクトリ名称> /auto
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsbackups -dir <ディレクトリ名称> -auto
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsbackups -dir <ディレクトリ名称> -auto
```

hcmdsbackups コマンドのオプションは次のとおりです。各パラメーターを適切な情報に変更してください。

- dir <ディレクトリ名称>

バックアップデータを格納するローカルディスク上のディレクトリを指定します。Hitachi Command Suite 製品をクラスタ環境で運用している場合は、共有フォルダ上のディレクトリを絶対パスで指定します。

指定した名称のディレクトリが存在しない場合、コマンドを実行すると指定した名称のディレクトリが生成されます。既存のディレクトリを指定する場合は、空のディレクトリを指定してください。また、ディレクトリ名称に空白が含まれている場合は、ディレクトリ名称を"で囲んでください。

- auto

auto オプションは、05-70 以降の Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合に指定できます。auto オプションを指定してコマンドを実行すると、データベースを処理するための準備として、自動的に Hitachi Command Suite 製品のサービスを停止し、HiRDB を起動します。データベースの処理が完了すると、Hitachi Command Suite 製品のサービスが起動されます。したがって、コマンド実行後には、Hitachi Command Suite 製品のサービスおよび HiRDB が起動された状態になります。ただし、05-70 より前のバージョンの HiCommand Suite 製品のサービスは、起動、停止されません。

hcmdsbackups コマンドを実行すると、コマンドを実行したサーバにインストールされている Hitachi Command Suite 製品のデータベースのバックアップファイル (backup.hdb) が取得されます。このとき、共通コンポーネントおよびほかの Hitachi Command Suite 製品の設定ファイルもバックアップされます。

3.4 データベースのリストア

Tuning Manager server によるデータベースのリストアには、hcmdsdb コマンドを使用します。

データベースのリストアには、次の 2 つの方法があります。

- Tuning Manager server のデータだけをリストアする
- インストールされている Hitachi Command Suite 製品すべてのデータをリストアする

データベースをリストアする前の確認事項を次に示します。

- バックアップを取得した Tuning Manager server ホストと、データベースのリストア先の Tuning Manager server ホストとで、次の点と同じであることを確認してください。次の点異なる場合、データベースをリストアできません。
 - インストールされている Hitachi Command Suite 製品の種類、バージョン、およびリビジョン
 - Hitachi Command Suite 製品、共通コンポーネント、各 Hitachi Command Suite 製品のデータベース、および共通コンポーネントのデータベースのインストール先
 - マシンの IP アドレスとホスト名
- hcmdsdb コマンドは、実行時に一時ファイルを作成します。バックアップファイルの格納先ディレクトリが次の条件を満たしていることを確認してください。

- hcmdsdb コマンドを実行するユーザーに書き込み権限がある
- 格納しているバックアップファイルと同じ分の空き容量がある

注意

Hitachi Command Suite 製品をクラスタ環境で運用している場合は、必ず実行系ノードでコマンドを実行してください。

データベースのリストア手順を次に示します。

1. 05-70 より前のバージョンの HiCommand Suite 製品がインストールされている場合は、そのサービスを停止します。
サービスの停止方法については、各製品のマニュアルを参照してください。
2. 次のコマンドを実行して、データベースをリストアします。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsd /restore <バックアップファイル名称> /type {TuningManager | ALL} /auto
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsd -restore <バックアップファイル名称> -type {TuningManager | ALL} -auto
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsd -restore <バックアップファイル名称> -type {TuningManager | ALL} -auto
```

hcmdsd コマンドのオプションは次のとおりです。各パラメーターを適切な情報に変更してください。

- restore <バックアップファイル名称>
バックアップファイル名称は、リストアするバックアップファイル (backup.hdb) を絶対パスで指定します。
- type {TuningManager | ALL}
TuningManager を選択すると Tuning Manager server のデータだけをリストアします。ALL を選択するとインストールされている Hitachi Command Suite 製品すべてのデータをリストアします。
- auto
自動的に Hitachi Command Suite 製品のサービスおよび HiRDB を停止します。コマンド実行後には、Hitachi Command Suite 製品のサービスおよび HiRDB が停止された状態になります。
auto オプションは、05-70 以降の Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合に指定できます。05-70 より前の HiCommand Suite 製品のサービスは、auto オプションで停止できないため、手動で停止する必要があります。05-70 より前の HiCommand Suite 製品のサービスの停止方法については、各製品のマニュアルを参照してください。

3.5 データベースの総容量の変更

この節では、データベースの総容量を変更する方法について説明します。

Tuning Manager server が管理する情報が増加すると、データベースの領域が不足することがあります。その場合は、リソースの容量データの保持期間を短くしたり、データベースの総容量を増やしたりする必要があります。また、データベースの使用量が少ない場合は、データベースの総容量を減らして、ディスクの空き容量を増やせます。

データベースの現在の総容量と使用量を確認する方法については、「3.2 データベースの容量表示」を参照してください。

3.5.1 データベースの総容量の見積もり方法

Tuning Manager server のデータベースの総容量は、新規インストール時の初期値は、2GB です。データベースの総容量は 32GB まで増やせます。ここでは、データベースの総容量の見積もり方法について説明します。

Tuning Manager server のデータベースの総容量には、ここで説明するデータベースの総容量の見積もり式の計算結果を 2GB 単位で設定します。データベースの総容量は、最大で 32GB です。見積もり式の計算結果が 32GB を超えないように注意してください。

例えば、データベースの総容量の見積もり式の計算結果が 10.2 (GB) の場合は、Tuning Manager server のデータベースの総容量を 12GB 以上 32GB 以下に設定します。

データベースの総容量の見積もり式

Tuning Manager server のデータベースの総容量を見積もるための式を次に示します。式中で使用している変数については、「表 3-1 見積もり式中の変数の説明」を参照してください。

データベースの総容量の見積もり式 (単位: GB) =

$$\begin{aligned}
 & (18,530 * P * S * C \\
 & + 5,990 * L * S * C \\
 & + 270 * (DPV + L / 2^{※1}) * M \\
 & + 800 * (F + FM) * H * C \\
 & + 320 * F * M \\
 & + 2,600 * D * H * C \\
 & + 29,630 * DM * H * C \\
 & + 3,170 * HOST * H * C \\
 & + 7,340 * VM * H * C \\
 & + 10,100 * DS * H * C \\
 & + 290 * DS * M) / 1,024^3 \\
 & + 1.15 \\
 & + 0.45^{※2}
 \end{aligned}$$

注※1

外部接続されている論理デバイス数が、すべての論理デバイス数の半分を超える場合は、除算しないでください ($L / 2$ を L と読み替えてください)。

注※2

PFM - Agent for Oracle を監視する場合だけ、加算する値です。

表 3-1 見積もり式中の変数の説明

変数	説明	単位
P	ストレージシステムのポート数	個
L	論理デバイス数	個
DPV	Dynamic Provisioning のボリューム数	個
F	ファイルシステム数	個
FM	1 か月にマウントする平均ファイルシステム数	個
D	デバイスファイル数	個

変数	説明	単位
$DM^{※1}$	MPIO のデバイスファイル数	個
$HOST$	仮想化サーバ数	台
VM	仮想マシン数	台
DS	データストア数	個
$M^{※2}$	容量データの保持件数	件
S	ストレージシステムの構成履歴を保持する期間	月
H	ホストの構成履歴を保持する期間	月
$C^{※3}$	1 か月に変更されるリソースの割合	—

(凡例)

— : 該当なし

注※1

MPIO 環境のホストで HTM - Storage Mapping Agent を運用する場合は、使用しているパス管理プログラムによって、デバイスファイル数を変数 D (デバイスファイル数) ではなく、変数 DM (MPIO のデバイスファイル数) に代入して見積もり式を計算する必要があります。デバイスファイル数を変数 DM に代入する必要があるかどうかについて、「表 3-2 デバイスファイル数を変数 DM に代入する必要がある MPIO 環境」に示します。

注※2

変数 M (容量データの保持件数) は、容量データの種類ごとの保持期間を基に算出します。容量データの保持件数を求める計算式を次に示します。

$$\langle \text{容量データの保持件数} \rangle = \langle \text{時間単位データ保持件数} \rangle + \langle \text{日単位データ保持件数} \rangle + \langle \text{週単位データ保持件数} \rangle + \langle \text{月単位データ保持件数} \rangle + \langle \text{年単位データ保持件数} \rangle$$

容量データの種類ごとに、容量データの保持件数を計算する方法を「表 3-3 容量データの保持件数の計算方法」に示します。

注※3

変数 C (1 か月に変更されるリソースの割合) は、次の計算式で算出します。

$$\langle \text{1 か月に変更されるリソースの割合} \rangle = \langle \text{1 か月の間に構成変更されるリソース数} \rangle / \langle \text{監視中の総リソース数} \rangle$$

1 つの Tuning Manager server で監視するリソース数が 128,000 以下の場合は、変数 C に 1 を設定してください。

表 3-2 デバイスファイル数を変数 DM に代入する必要がある MPIO 環境

OS	パス管理プログラム	変数 DM への代入の要否
Windows	Dynamic Link Manager	×
	Dynamic Link Manager 以外	○
Solaris	—	○
AIX		×
HP-UX		○
Linux		○

(凡例)

○ : 必要

× : 不要

— : すべての種類のパス管理プログラム

表 3-3 容量データの保持件数の計算方法

容量データの種 類	期間単位当たりの容量データの保持件 数		データ保持期間とポーリング回数をデフォルト 値に設定した場合の、容量データの保持件数	
	期間単位	容量データの保持 件数	デフォルトの容量デー タの保持期間	容量データの保持件 数の計算式
時間単位データ	1 日	24	7 日	$7 * 1 = 7$ ※
日単位データ	1 か月	31	3 か月	$3 * 31 = 93$
週単位データ	1 か月	4	3 か月	$3 * 4 = 12$
月単位データ	1 年	12	2 年	$2 * 12 = 24$
年単位データ	1 年	1	5 年	$5 * 1 = 5$

注※

時間単位データは 1 回のポーリングで 1 件収集されます。デフォルトのポーリング回数は 1 日当たり 1 回です。ポーリング回数をデフォルト値に設定している場合、時間単位データの保持件数は、1 日当たり 1 件だけ取得されます。

ポーリング回数の設定がエージェントごとに異なる場合は、ポーリング回数をいちばん多く設定しているエージェントのポーリング回数で計算してください。

ここで説明したデータベースの総容量の見積もり式は、リソースを追加する頻度、およびリソースの構成を変更する頻度を、次の表に示す条件で仮定した場合の計算式です。

表 3-4 データベースの総容量の見積もり式が前提とする条件

分類	リソース名	追加する頻度 (平均)	構成を変更する頻度 (平均)
ストレージ システム	ストレージシステム	1 日に 1 回	1 日に 1 回
	ポートコントローラー	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	ポート	3 か月に 1 回	1 日に 1 回
	Host Group	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	CLPR	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	プロセッサ	1 ポート当たり 3 か月に 1 回	1 ポート当たり 3 か月に 1 回
	DKA ペア	1 日に 1 回	1 日に 1 回
	パリティグループ	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	連結パリティグループ	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	物理ディスク	1 ポート当たり 3 か月に 1 回	1 ポート当たり 3 か月に 1 回
	論理デバイス	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	LU パス	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	ラベル	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	Dynamic Provisioning のボ リューム	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	SLPR	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
ストレージシステムのポートと、 ホストの WWN との対応関係	3 か月に 1 回	3 か月に 1 回	
ホスト	ホスト	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	デバイスファイル	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	ディスクグループ	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回
	ファイルシステム	1 か月に 1 回	1 か月に 1 回

分類	リソース名	追加する頻度 (平均)	構成を変更する頻度 (平均)
	ポート	1日に1回	1日に1回
	バス	1日に1回	1日に1回
	MPIO 環境のバス	1か月に1回	1か月に1回
ハイパーバイザー	仮想化サーバ	1か月に1回	1か月に1回
	仮想マシン	1か月に1回	1か月に10回
	データストア	1か月に1回	1か月に1回
	Device Manager が管理している仮想化サーバの WWN	3か月に1回	3か月に1回
	仮想化サーバと、その仮想化サーバが使用しているデータストアとの対応関係	1か月に2回	1か月に2回
	仮想マシンと、その仮想マシンが使用しているデータストアとの対応関係	1か月に2回	1か月に2回
	データストアと、そのデータストアを構成している論理デバイスとの対応関係	1か月に2回	1か月に2回
	データストアと、ストレージシステムのポートとの対応関係	1か月に2回	1か月に2回
スイッチ	スイッチ	1日に1回	1日に1回
	ポート	3か月に1回	3か月に1回
Oracle	Oracle インスタンス	1日に1回	1日に1回
	テーブルスペース	3か月に1回	3か月に1回
	データファイル	1 テーブルスペース当たり 3か月に1回	1 テーブルスペース当たり 3か月に1回

3.5.2 データベースの総容量の拡張手順

ここでは、データベースの総容量を拡張する方法について説明します。

注意

データベースの総容量を拡張する前に、必ずデータベースをバックアップしてください。データベースのバックアップ手順についての詳細は、「3.3 データベースのバックアップ」を参照してください。

データベースの総容量の拡張手順を次に示します。

- 現在のデータベースの総容量を確認します。
データベースの総容量を確認する方法については、「3.2 データベースの容量表示」を参照してください。
- Hitachi Command Suite 製品のサービスをすべて停止します。
サービスの停止方法については、「1.5 サービスの停止」を参照してください。
- htm-db-setup コマンドを実行して、データベースの総容量を増やします。
次のように htm-db-setup コマンドを実行してください。

Windows の場合：

```
<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%htm-db-setup [/size <追加する容量>] [/areapath <データベースの格納先ディレクトリのパス>]
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/TuningManager/bin/htm-db-setup [--size <追加する容量>]
[--areapath <データベースの格納先ディレクトリのパス>]
```

Linux の場合 :

```
<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/htm-db-setup [--
size <追加する容量>] [--areapath <データベースの格納先ディレクトリのパス>]
```

htm-db-setup コマンドのオプションは次のとおりです。各パラメーターを適切な情報に変更してください。

- size <追加する容量>

現在のデータベースの総容量に追加する容量（追加する容量＝拡張後の総容量－現在の総容量）を 2GB 単位で指定します。指定できる値は、2～30 の 2 の倍数です。

- areapath <データベースの格納先ディレクトリのパス>

データベースファイルの格納先ディレクトリの絶対パスを入力してください。

データベースファイルの格納先ディレクトリパスを確認する方法については、「3.2 データベースの容量表示」を参照してください。

指定を省略した場合、データベースファイルの格納先ディレクトリは、インストール時に選択したデータベースファイルの作成先ディレクトリとなります。

htm-db-setup コマンドについての詳細は、「8.3.1 htm-db-setup」を参照してください。

注意

- htm-db-setup コマンドで、現在のデータベースの総容量を少なくする指定はできません。

- Tuning Manager server をクラスタ構成で運用している場合には、実行系ノードだけで htm-db-setup コマンドを実行してください。

4. Hitachi Command Suite 製品のサービスを起動します。

サービスの起動方法については、「1.4 サービスの起動」を参照してください。

なお、HiRDB は、htm-db-setup コマンドの実行後に自動的に起動されます。

3.5.3 データベースの総容量の縮小手順

ここでは、データベースの総容量を縮小する方法について説明します。

総容量を縮小する前に、現在のデータベースの使用量と総容量を確認します。データベースの使用量と総容量を確認する方法については、「3.2 データベースの容量表示」を参照してください。

注意

- データベースの総容量の最小値は 2GB です。使用量が 2GB 以下のときは総容量を縮小できません。

- データベースの総容量を縮小する前に、必ずデータベースをバックアップしてください。データベースのバックアップ手順の詳細については、「3.3 データベースのバックアップ」を参照してください。

データベースの総容量が 10GB、データベースの使用量が 4GB の場合に、データベースの総容量を 6GB に縮小する例を次に示します。

1. hcmsdbtrans コマンドを実行して、データベースをエクスポートします。

データベースをエクスポートする方法については、「3.6.3 移行元サーバでのデータベースのエクスポート」を参照してください。

2. Tuning Manager server を上書きインストールします。
既存のデータベースを引き継がないでください。この場合、データベースの総容量がデフォルト値の 2GB になります。
Tuning Manager server を上書きインストールする方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。
3. htm-db-setup コマンドを実行して、データベースの総容量を 6GB に拡張します。
データベースの総容量を拡張する方法については、「3.5.2 データベースの総容量の拡張手順」を参照してください。
4. hcmsdbtrans コマンドを実行して、データベースをインポートします。
データベースをインポートする方法については、「3.6.4 移行先サーバでのデータベースのインポート」を参照してください。

3.6 データベースの移行

Hitachi Command Suite 製品をバージョンアップする場合や、管理対象のオブジェクトが増加した場合は、別のマシンが必要になることがあります。このような場合、マシンの入れ替え作業の一つとしてデータベースを移行する必要があります。Hitachi Command Suite 製品では、hcmsdbtrans コマンドを使用してデータベースを移行できます。hcmsdbtrans コマンドは、各 Hitachi Command Suite 製品のデータベースに格納されている情報と、共通コンポーネントが管理しているユーザー情報を移行するコマンドです。

hcmsdbtrans コマンドを使用すると、次に示すように、使用中のサーバマシンとは異なる環境のマシンにも、Tuning Manager server のデータベースを移行できます。

- ・ 異なるプラットフォームのマシンへの移行
- ・ Hitachi Command Suite 製品のインストール先が異なるマシンへの移行

データベースを移行する手順の流れは次のとおりです。

1. 移行元サーバのデータベースの使用領域を確認します。
2. 移行先サーバに、データベースを移行する Hitachi Command Suite 製品をインストールします。
3. 移行元サーバでデータベースをエクスポートします (hcmsdbtrans コマンドを使用)。
4. エクスポートしたデータベースのアーカイブファイルを、移行元サーバから移行先サーバへ転送します。
5. 移行先サーバでデータベースをインポートします (hcmsdbtrans コマンドを使用)。

3.6.1 データベースを移行する場合の注意事項

データベースを移行するときの注意事項を次に示します。

接続先の Device Manager を変更する場合の注意事項

データベースの移行時に接続先の Device Manager を変更する場合は、移行完了後に接続先の Device Manager を変更する設定が必要です。設定方法の詳細は、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」の、接続先 Device Manager の設定について記述している個所を参照してください。

移行先と移行元の Hitachi Command Suite 製品の構成とバージョンについての注意事項

- 移行先にインストールされていない Hitachi Command Suite 製品のデータベースは移行できません。移行先には、必要な Hitachi Command Suite 製品を漏れなくインストールしてください。
- 移行先にインストールされている Hitachi Command Suite 製品のバージョンがどれか1つでも移行元より前のバージョンの場合は、移行はできません。移行先のサーバには、移行元と同じか、またはそれ以上のバージョンの Hitachi Command Suite 製品をインストールしてください。
- Tuning Manager server のバージョンが 6.0 未満の場合、事前に移行元および移行先の Tuning Manager server を 6.0 以降のバージョンにアップグレードしてください。
- Tuning Manager server のデータベースは、移行元と移行先で同じ総容量に設定してください。データベースの総容量を変更する方法については、「[3.5 データベースの総容量の変更](#)」を参照してください。
- バージョン 04-20 以前の Replication Monitor のデータベースを移行する場合は、事前に移行元および移行先の Replication Monitor を 5.x のバージョンにアップグレードしてください。
- Replication Monitor のデータベースを Replication Manager のデータベースに移行する場合は、移行元の Replication Monitor を Replication Manager にアップグレードしてからデータベースを移行してください。

ユーザー情報についての注意事項

- 移行先にユーザー情報がある場合、そのユーザー情報は移行元のユーザー情報に置き換えられます。このため、すでに Hitachi Command Suite 製品のユーザー情報があるマシンへの移行は行わないでください。
- ユーザー情報が置き換えられるため、複数の管理サーバで稼働していた Hitachi Command Suite 製品を 1 台の管理サーバに集約するような移行はできません。

自動的に移行されない情報についての注意事項

次の情報は、データベースの移行時に自動的に移行されません。

- ユーザープロパティとロギングプロパティ
ユーザープロパティとロギングプロパティを移行する場合は、手動でファイルをコピーする必要があります。ユーザープロパティファイルの格納先については、「[1.6 ユーザープロパティファイルの設定について](#)」を参照してください。ロギングプロパティファイルの格納先については、「[7.3.3 Main Console のログ](#)」を参照してください。
- Performance Reporter の初期設定ファイル (config.xml)
Performance Reporter の初期設定ファイル (config.xml) を移行する場合は、手動でファイルをコピーする必要があります。Performance Reporter の初期設定ファイルについては、「[5.3 Performance Reporter の初期設定](#)」を参照してください。
- Performance Reporter のレポート、およびアラームの定義情報
Performance Reporter のレポート、およびアラームの定義情報は、手動で再設定する必要があります。レポートとアラームの設定方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。

3.6.2 移行先サーバへの Hitachi Command Suite 製品のインストール

移行先サーバに、データベースを移行する Hitachi Command Suite 製品をインストールしてください。移行先サーバにインストールする Hitachi Command Suite 製品のバージョンは、移行元の Hitachi Command Suite 製品と同じか、それ以上にしてください。

3.6.3 移行元サーバでのデータベースのエクスポート

Tuning Manager server のデータベースをエクスポートするときには、データベースの情報を一時的に格納するためのディレクトリと、アーカイブファイルを格納するディレクトリが必要です。それぞれのディレクトリには、次に示す2つのディレクトリの合計サイズより多くの容量を確保してください。

- Tuning Manager server のデータベースの格納先ディレクトリ
- 共通コンポーネントのデータベースの格納先ディレクトリから SYS ディレクトリ以下を除いたもの

この容量は、Tuning Manager server のデータベースだけがインストールされているときの目安です。ほかの Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合は、それらのデータベースの容量も考慮してください。

エクスポート時の注意事項を次に示します。

- 移行元サーバでデータベースをエクスポートする場合は、必ず hcmsdbtrans コマンドを使用してください。auto オプションを指定して hcmsdbtrans コマンドを実行すると、エクスポート時に、Hitachi Command Suite 製品のサービスの停止および HiRDB の起動を自動で実行できます。ただし、hcmsdbtrans コマンドで auto オプションが指定できるのは、05-70 以降の Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合だけです。また、05-70 より前の HiCommand Suite 製品のサービスは、auto オプションで停止できないため、手動で停止する必要があります。05-70 より前の HiCommand Suite 製品のサービスの停止方法については、各製品のマニュアルを参照してください。
- データベースの全体容量が 2GB を超えている場合、データベースのエクスポート時に、hcmsdbtrans コマンドの file オプションを指定してアーカイブファイルを作成すると、アーカイブファイルの作成先で、アーカイブファイルの作成に失敗し、KAPM05923-E メッセージが出力されます。この場合は、アーカイブファイルの代わりに、エクスポート時に収集されるデータベース情報を移行先に転送します。

データベースをエクスポートする手順を次に示します。

1. 05-70 より前のバージョンの HiCommand Suite 製品がインストールされている場合は、そのサービスを停止します。
サービスの停止方法については、それぞれの製品のマニュアルを参照してください。

注意

HBase Storage Mgmt Web Service サービスは停止しないでください。HBase Storage Mgmt Web Service サービスを停止すると、HiRDB のサービスも停止してしまいます。

2. 次のコマンドを実行して、データベースをエクスポートします。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmsdbtrans /export /  
workpath <作業用フォルダ> /file <アーカイブファイル> /auto
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmsdbtrans -export -workpath <作業用ディレ  
クトリ> -file <アーカイブファイル> -auto
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmsdbtrans -export  
-workpath <作業用ディレクトリ> -file <アーカイブファイル> -auto
```

hcmsdbtrans コマンドに指定できるオプションは次のとおりです。

- `workpath`
データベース情報を一時的に格納するためのディレクトリを、絶対パスで指定します。
Solaris および **Linux** の場合、空白を含むパスは指定しないでください。ローカルディスクのディレクトリを指定してください。

注意

`workpath` オプションには空のディレクトリを指定してください。空のディレクトリ以外を指定した場合は、エクスポート処理が中断します。この場合は、空のディレクトリを指定して、もう一度 `hcmdsdbtrans` コマンドを実行してください。

- `file`
エクスポートするデータベースのアーカイブファイルを絶対パスで指定します。**Solaris** および **Linux** の場合、空白を含むパスは指定しないでください。
- `auto`
`auto` オプションは、05-70 以降の **Hitachi Command Suite** 製品がインストールされている場合に指定できます。`auto` オプションを指定してコマンドを実行すると、データベースを処理するための準備として、自動的に **Hitachi Command Suite** 製品のサービスを停止し、**HiRDB** を起動します。データベースの処理が完了すると、**Hitachi Command Suite** 製品のサービスが起動されます。したがって、コマンド実行後には、**Hitachi Command Suite** 製品のサービスおよび **HiRDB** が起動された状態になります。ただし、05-70 より前のバージョンの **HiCommand Suite** 製品のサービスは、起動、停止されません。

3. アーカイブファイルを移行先サーバに転送します。

アーカイブファイルを作成できなかった場合、`workpath` オプションで指定したディレクトリに格納されているファイルをすべて転送してください。このとき、`workpath` オプションで指定したディレクトリ以下のファイル構成は変更しないでください。

3.6.4 移行先サーバでのデータベースのインポート

移行先サーバでのデータベースのインポートには、次の 2 つの方法があります。

- **Tuning Manager server** のデータだけをインポートする
- インストールされている **Hitachi Command Suite** 製品すべてのデータをインポートする

移行先サーバでデータベースをインポートする場合は、必ず `hcmdsdbtrans` コマンドを使用してください。`auto` オプションを指定して `hcmdsdbtrans` コマンドを実行すると、インポート時に、**Hitachi Command Suite** 製品のサービスの停止および **HiRDB** の起動を自動で実行できます。ただし、`hcmdsdbtrans` コマンドで `auto` オプションが指定できるのは、05-70 以降の **Hitachi Command Suite** 製品がインストールされている場合だけです。また、05-70 より前の **HiCommand Suite** 製品のサービスは、`auto` オプションで停止できないため、手動で停止する必要があります。05-70 より前の **HiCommand Suite** 製品のサービスの停止方法については、各製品のマニュアルを参照してください。

データベースをインポートする手順を次に示します。

1. 05-70 より前のバージョンの **HiCommand Suite** 製品がインストールされている場合は、そのサービスを停止します。

サービスの停止方法については、それぞれの製品のマニュアルを参照してください。

注意

HBase Storage Mgmt Web Service サービスは停止しないでください。**HBase Storage Mgmt Web Service** サービスを停止すると、**HiRDB** のサービスも停止してしまいます。

2. 次のコマンドを実行して、データベースをインポートします。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsdbtrans /import /  
workpath <作業用フォルダ> [/file <アーカイブファイル>] /type {ALL | <デー  
タベースを移行する Hitachi Command Suite 製品の名称>} /auto
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsdbtrans -import -workpath <作業用ディレ  
クトリ> [-file <アーカイブファイル>] -type {ALL | <データベースを移行する  
Hitachi Command Suite 製品の名称>} -auto
```

Linux の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsdbtrans -import  
-workpath <作業用ディレクトリ> [-file <アーカイブファイル>] -type {ALL |  
<データベースを移行する Hitachi Command Suite 製品の名称>} -auto
```

hcmdsdbtrans コマンドに指定できるオプションは次のとおりです。

- workpath

アーカイブファイルを使用してインポートする場合 :

アーカイブファイルを展開するためのディレクトリを、絶対パスで指定します。Solaris および Linux の場合、空白を含むパスは指定しないでください。ローカルディスクのディレクトリを指定してください。

アーカイブファイルを使用する場合は、必ず file オプションを指定してください。

注意

workpath オプションには空のディレクトリを指定してください。空のディレクトリ以外を指定した場合は、インポート処理が中断します。この場合は、空のディレクトリを指定して、もう一度 hcmdsdbtrans コマンドを実行してください。

アーカイブファイルを使用しないでインポートする場合 :

移行元から転送したデータベース情報を格納したディレクトリを指定してください。転送したディレクトリ以下のファイル構成は変更しないでください。また、file オプションは指定しないでください。

- file

移行元サーバから転送したデータベースのアーカイブファイルを、絶対パスで指定します。Solaris および Linux の場合、空白を含むパスは指定しないでください。workpath に指定したディレクトリに、移行元から転送したデータベース情報が格納されている場合、このオプションを指定する必要はありません。

- type

データベースを移行する Hitachi Command Suite 製品の名称を指定します。指定した製品のデータベースだけが移行されます。

Tuning Manager server のデータベースを移行する場合は、TuningManager を指定してください。ほかの製品のデータベースを移行する場合に指定する名称については、それぞれのマニュアルを参照してください。複数の製品を指定する場合、コンマで区切って指定してください。

インストールされているすべての Hitachi Command Suite 製品のデータベースを一括して移行したい場合は、ALL を指定してください。移行先にインストールされている Hitachi Command Suite 製品のデータベースが自動的に選択され、移行されます。

type オプションを使用してデータベースを移行できるのは、指定したすべての製品のデータベースが、アーカイブファイルまたは workpath オプションに指定したディレクトリにあり、かつ、指定したすべての製品が移行先にインストールされている場合です。条件を満たさない製品が 1 つでもある場合、移行は実行されません。

- auto

auto オプションは、05-70 以降の Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合に指定できます。auto オプションを指定してコマンドを実行すると、データベースを処理するための準備として、自動的に Hitachi Command Suite 製品のサービスを停止し、HiRDB を起動します。データベースの処理が完了すると、HiRDB が停止されます。したがって、コマンド実行後には、Hitachi Command Suite 製品のサービスおよび HiRDB が停止された状態になります。ただし、05-70 より前のバージョンの HiCommand Suite 製品のサービスは、起動、停止されません。

3. 作業用ディレクトリの容量を見積もります。

データベースをインポートしたあと、Tuning Manager server の初回のサービス起動時に、Tuning Manager server のデータベースがバージョンアップされる場合があります。データベースがバージョンアップされる場合、一時的に作業用ディレクトリにデータのバックアップが取得されます。作業用ディレクトリの容量が不足しないよう、作業用ディレクトリの容量を見積もり、必要に応じて任意の作業用ディレクトリをユーザープロパティファイルに設定してください。

作業用ディレクトリの容量の見積もりについては、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」のアップグレードインストールの準備について説明している個所を、任意の作業用ディレクトリの設定については、「1.6 ユーザープロパティファイルの設定について」を参照してください。

ユーザー管理

この章では、Tuning Manager server のユーザーアカウントの作成と管理について重要な項目を説明します。

- 4.1 ログインモード
- 4.2 ユーザー管理とは
- 4.3 ユーザーを管理する
- 4.4 ログイン時のセキュリティオプションの設定

4.1 ログインモード

Tuning Manager server は、ログインモードにシングルサインオンモード（SSO モード）を採用しています。

Hitachi Command Suite 製品のユーザーアカウントは、共通コンポーネントで一元管理されます。そのため、Tuning Manager server からほかの Hitachi Command Suite 製品を起動するときに、ユーザー ID とパスワードを入力する必要がありません。これを、シングルサインオン（SSO）と呼びます。

Tuning Manager server と Device Manager が同一ホストにインストールされている場合、ホストには、共通コンポーネントが 1 つだけインストールされます。したがって、ユーザーアカウントは、Tuning Manager server および Device Manager がインストールされているホストの共通コンポーネントで管理されます。

Tuning Manager server と Device Manager が別のホストにインストールされている場合、ユーザーアカウントは、Device Manager がインストールされているホストの共通コンポーネントで管理されます。この場合、ユーザーアカウントを作成、管理する方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software ユーザーズガイド」を参照してください。

4.2 ユーザー管理とは

Tuning Manager server ではユーザーに権限を設定することで、ユーザーが操作できる機能を制限します。権限については、「4.2.1 ユーザー権限」を参照してください。

Tuning Manager server では、ユーザーログイン時のセキュリティを強化する機能をサポートしています。セキュリティを強化する機能については、「4.4 ログイン時のセキュリティオプションの設定」を参照してください。

User Management 権限または Admin 権限を持つユーザーがログインすると、エクスプローラエリアに「管理者メニュー」が表示されます。エクスプローラエリアの「管理者メニュー」を選択すると、ユーザー管理機能を操作できます。

新しいユーザーを作成するには、次の順序で操作してください。

1. ユーザーを追加します（「4.3.1 ユーザーを追加する」を参照）。
2. 追加したユーザーに権限を設定します（「4.3.2 ユーザーに権限を設定する」を参照）。

Hitachi Command Suite 製品のユーザーアカウントは、ほかのアプリケーションとの一元管理のために、外部認証サーバ（Kerberos サーバ、LDAP ディレクトリサーバ、または RADIUS サーバ）でも認証できます。さらに、外部認証サーバと外部認可サーバを併用すると、ユーザーアカウントを認可グループ単位で管理できます。

外部認証サーバでユーザーアカウントを認証する場合は、ユーザーアカウントを管理するサーバで `exauth.properties` ファイルを編集します。詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。ユーザーの認証方式を変更したり、外部認可サーバとの連携を有効にしたりするための GUI の操作方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software ユーザーズガイド」を参照してください。

デフォルトでは、Hitachi Command Suite 製品で管理されていないユーザーが作成したレポートウィンドウおよび共有しない設定にした履歴チャートの情報は、Tuning Manager server が定期的に削除します。このため、外部認証サーバと外部認可サーバを併用する運用の場合は、ユーザープロパティファイル（`user.properties`）の `userData.cleanup.enable` プロパティの値に `false` を設定することを検討してください。`userData.cleanup.enable` プロパティの詳細については、「1.6 ユーザープロパティファイルの設定について」を参照してください。

なお、外部認証と区別するため、このマニュアルでは Hitachi Command Suite 製品が提供するユーザー認証方式を「Hitachi Command Suite 製品共通のユーザー認証」と表記します。

4.2.1 ユーザー権限

Hitachi Command Suite 製品共通のユーザー管理では、ユーザーに対して次の権限を設定できます。

- Hitachi Command Suite 製品共通のユーザー管理権限
 - Tuning Manager server の操作権限
 - Tuning Manager server 以外の Hitachi Command Suite 製品に対する権限
- Tuning Manager server 以外の Hitachi Command Suite 製品に対する権限については、各製品のマニュアルを参照してください。

注意

Tuning Manager server のユーザーに関する Admin 権限には、Tuning Manager server を操作するための Admin 権限と、共通のユーザー管理権限の Admin 権限があります。混乱を避けるために、このマニュアルでは次のように記述しています。

- 「Admin 権限」は Tuning Manager server を操作するための Admin 権限を示します。
- 「User Management 権限」は共通のユーザー管理権限の Admin 権限を示します。

Tuning Manager server のユーザーに関する権限について次の表に示します。

表 4-1 権限一覧

区分	権限	説明
Tuning Manager server の操作権限	Admin	Tuning Manager server が提供する機能の設定を変更できます。 Admin 権限を設定する場合、View 権限が同時に設定されます。 この権限だけでは、Hitachi Command Suite 製品のユーザー管理の機能を使用できません。
	View	アクセスできる範囲のリソースを参照できます。
共通のユーザー管理権限	User Management※	Hitachi Command Suite 製品のユーザーに対して、ユーザー管理の機能を使用できます。 Tuning Manager server の操作権限のすべてと組み合わせ設定できます。

注※ Hitachi Command Suite 製品共通のユーザー管理権限を設定する場合は、ユーザー管理権限を設定するダイアログで [User Management] の [Admin] 権限を選択します。

4.3 ユーザーを管理する

User Management 権限を持つユーザーはすべてのユーザーアカウントを操作できます。User Management 権限を持たないユーザーは、自分のプロフィール（フルネーム、email アドレスおよび説明）とパスワードを変更できます。

Tuning Manager server のユーザーアカウント操作は、次のとおりです。

- ユーザーを追加する（「4.3.1 ユーザーを追加する」を参照）
User Management 権限を持つユーザーだけが実行できます。
- ユーザーの権限を参照し、変更する（「4.3.2 ユーザーに権限を設定する」を参照）

User Management 権限を持つユーザーだけが実行できます。ただし、User Management 権限を持つユーザーでも、自分自身の権限は変更できません。

- ユーザープロフィールを参照し、編集する（「[4.3.3 ユーザーのプロフィールを参照または編集する](#)」を参照）
- パスワードを変更する（「[4.3.4 パスワードを変更する](#)」を参照）
- ユーザーアカウントのロック状態を変更する（「[4.3.5 ユーザーアカウントのロック状態を変更する](#)」を参照）

User Management 権限を持つユーザーだけが実行できます。

- ユーザーを削除する（「[4.3.6 ユーザーを削除する](#)」を参照）

User Management 権限を持つユーザーだけが実行できます。ただし、User Management 権限を持つユーザーでも、自分自身は削除できません。

- 外部認証サーバと連携する（マニュアル「[Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド](#)」を参照）

4.3.1 ユーザーを追加する

User Management 権限を持つユーザーは、必要に応じて Hitachi Command Suite 製品共通のユーザーを追加できます。設定項目の有効な値についての詳細は、「[1.1.7 入力文字の制限事項](#)」を参照してください。

exauth.properties ファイルを編集し、外部認証サーバと連携するための設定を実施している場合は、追加するユーザーの認証方式がデフォルトで外部認証になります。exauth.properties ファイルについては、マニュアル「[Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド](#)」を参照してください。

外部認可サーバと連携してログインするユーザーは、認可グループ単位にユーザーが管理されるため、ユーザーの追加は不要です。

ユーザーアカウントを追加するには、次の手順を実行します。

1. エクスプローラエリアで [管理者メニュー] - [ユーザー管理] を選択したあと、ナビゲーションエリアで [ユーザー] を選択します。
ユーザー画面が表示されます。ユーザー画面には [ユーザー一覧] が表示されます。
2. ユーザー画面で [ユーザー追加] ボタンをクリックします。
ユーザー追加ダイアログが表示されます。
3. 追加するユーザーについて、次の情報を入力します。
 - [ユーザー ID]
ユーザー ID を入力します。

Hitachi Command Suite 製品共通のユーザー認証を利用するユーザーを追加する場合、入力は必須です。exauth.properties ファイルで外部認証サーバとの連携が有効に設定されている場合、入力は任意です。

パスワードとして指定できる最小文字数および文字の組み合わせの条件が設定されている場合があります。この場合、設定されている条件を満たさないパスワードは指定できません。設定されている条件についてはシステム管理者にお問い合わせください。

- [パスワードの確認]
パスワードの確認のため、[パスワード] に入力した文字列を入力します。
- [フルネーム] (オプション)
フルネームを入力します。

フルネームはユーザーがログインした場合に、グローバルタスクバーエリアに表示されます。[フルネーム]を省略した場合、グローバルタスクバーエリアにはユーザー ID が表示されます。

- [E-mail] (オプション)
email アドレスを入力します。
 - [説明] (オプション) (例: 役職名)
ユーザーの説明を入力します。
4. [OK] ボタンをクリックして設定を保存します。
ユーザーが追加され、ユーザー画面に戻ります。また、[ユーザー一覧] に新しいユーザーが追加されます。

注意

- 追加された直後のユーザーは権限を持たないため、Tuning Manager server にアクセスできません。追加したユーザーが Tuning Manager server にアクセスするためには、権限を設定する必要があります。権限の設定方法については、「4.3.2 ユーザーに権限を設定する」を参照してください。
- 追加したユーザーで Device Manager のリソース情報を参照するためには、Device Manager の権限 (Admin, Modify, または View) を設定してください。権限の設定方法については、「4.3.2 ユーザーに権限を設定する」を参照してください。

4.3.2 ユーザーに権限を設定する

User Management 権限を持つユーザーは、自分以外のユーザーに Tuning Manager server およびほかの Hitachi Command Suite 製品にアクセスするための権限を設定できます。

外部認可サーバと連携してログインするユーザーは、Hitachi Command Suite 製品にアカウントが登録されていないため、権限を設定できません。外部認可サーバと連携してログインするユーザーの権限の設定方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software ユーザーズガイド」を参照してください。

注意

- System アカウントの権限は変更できません。
- HaUser アカウントの権限は変更しないでください。HaUser アカウントは Device Manager エージェントが使用するデフォルトのユーザーです。
- User Management 権限を持つユーザーも自分の権限を変更することはできません。User Management 権限を持つユーザーの権限を変更する場合は、User Management 権限を持つほかのユーザー ID または System アカウントで Tuning Manager server にログインし、対象のユーザーの権限を変更します。

ユーザーに権限を設定するには、次の手順を実行します。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] - [ユーザー管理] を選択します。
2. ナビゲーションエリアで [ユーザー] オブジェクトツリーを展開し、権限を設定するユーザー ID を選択します。
アプリケーションエリアにユーザー ID 画面が表示されます。ユーザー ID 画面では、ユーザーに設定されている権限を参照できます。
3. 権限を変更する場合は、[権限変更] ボタンをクリックします。
権限変更 - ユーザー ID ダイアログが表示されます。

4. ユーザーに設定する権限をアプリケーションごとに選択し、[OK] ボタンをクリックして設定を保存します。

設定できる権限については、「[4.2.1 ユーザー権限](#)」を参照してください。

4.3.3 ユーザーのプロファイルを参照または編集する

User Management 権限を持つユーザーは、すべてのユーザーのプロファイルを参照および編集できます。User Management 権限を持たないユーザーは、自分のプロファイルを参照および編集できます。

外部認可サーバと連携してログインするユーザーは、Hitachi Command Suite 製品にアカウントが登録されていないため、プロファイルを変更できません。プロファイルを変更する場合は Active Directory で操作してください。

プロファイルを参照または編集する手順を次に示します。

(1) ほかのユーザーのプロファイルを参照または編集する

ほかのユーザーのプロファイルを参照または編集するには、次の手順を実行します。

1. User Management 権限を持つユーザー ID で Tuning Manager server にログインします。
2. エクスプローラエリアで [管理者メニュー] - [ユーザー管理] を選択します。
3. ナビゲーションエリアで [ユーザー] オブジェクトツリーを展開し、プロファイルを操作するユーザー ID を選択します。
アプリケーションエリアにユーザー ID 画面が表示されます。ユーザー ID 画面では、ユーザーのプロファイルと権限を参照できます。
4. プロファイルを編集する場合は [プロファイル編集] ボタンをクリックします。
プロファイル編集・ユーザー ID ダイアログが表示されます。プロファイル編集・ユーザー ID ダイアログで、プロファイルに任意の変更を加えます。[フルネーム]、[E-mail] および [説明] を編集できます。
5. [OK] を選択して編集した内容を保存します。
ユーザー ID 画面のプロファイル情報が更新されます。

(2) 自分のプロファイルを参照または編集する

自分のプロファイルを参照または編集するには、次の手順を実行します。

1. 任意のユーザー ID で Tuning Manager server にログインします。
2. エクスプローラエリアで [設定] - [プロファイル] を選択します。
アプリケーションエリアにプロファイル画面が表示されます。プロファイル画面では、ログインユーザーのプロファイルと権限を参照できます。
3. プロファイルを編集する場合は、[プロファイル編集] ボタンをクリックします。
プロファイル編集・ユーザー ID ダイアログが表示されます。プロファイル編集・ユーザー ID ダイアログでプロファイルを編集します。[フルネーム]、[E-mail] および [説明] を編集できます。
4. [OK] を選択して編集した内容を保存します。
プロファイル画面の情報が、編集した情報に更新されます。

4.3.4 パスワードを変更する

User Management の Admin 権限ユーザーは、登録されている各ユーザー（外部認証のユーザーを除く）のパスワードを変更できます。外部認証を有効にしているユーザーのパスワードは、外部認証サーバで管理されるため変更できません。User Management 権限を持たないユーザーは、自分のパスワードを変更できます。設定項目の有効な値についての詳細は、「1.1.7 入力文字の制限事項」を参照してください。

注意

- Tuning Manager server をクラスタ構成で運用している場合に System アカウントのパスワードを変更するときは、クラスタを構成するすべてのノードで同一の設定を実施してください。クラスタ構成については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。
- 外部認証を有効にしているユーザーのパスワードやログインの失敗回数は、外部認証サーバで管理されます。そのため、Tuning Manager server でのパスワードの変更はできません。外部認証サーバと連携する方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。
- Hitachi Command Suite 製品と Storage Navigator Modular 2 を同一マシンにインストールした場合、ユーザーアカウントは共通コンポーネントによって共通管理されます。Hitachi Command Suite 製品または Storage Navigator Modular 2 のどちらか一方でユーザー ID のパスワードを変更すると、他方のパスワードも変更されます。

パスワードを変更する手順を次に示します。

(1) ほかのユーザーのパスワードを変更する

ほかのユーザーのパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

1. User Management 権限を持つユーザー ID で Tuning Manager server にログインします。
2. エクスプローラエリアで [管理者メニュー] - [ユーザー管理] を選択します。
3. ナビゲーションエリアで [ユーザー] オブジェクトツリーを展開し、パスワードを変更するユーザー ID を選択します。
アプリケーションエリアにユーザー ID 画面が表示されます。
4. [パスワード変更] ボタンをクリックします。
パスワード変更 - ユーザー ID ダイアログが表示されます。
5. [新しいパスワード] と [パスワードの確認] に新しいパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。

(2) 自分のパスワードを変更する

自分のパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

1. 任意のユーザー ID で Tuning Manager server にログインします。
2. エクスプローラエリアで [設定] - [プロファイル] を選択します。
アプリケーションエリアにプロファイル画面が表示されます。
3. [パスワード変更] ボタンをクリックします。
パスワード変更 - ユーザー ID ダイアログが表示されます。
4. [古いパスワード] に現在のパスワードを入力します。[新しいパスワード] と [パスワードの確認] に新しいパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。

4.3.5 ユーザーアカウントのロック状態を変更する

User Management 権限を持つユーザーは、Hitachi Command Suite 製品にユーザーアカウントを登録している場合、ユーザーアカウントをロックしたり、ロックを解除したりできます。

ロックが解除されるまでは、ロックされたユーザーアカウントで Hitachi Command Suite 製品にログインできません。

ログインに失敗して自動ロックされたユーザーアカウントのロックも解除できます。ユーザーアカウントを自動ロックする設定方法については、「[4.4.2 ユーザーアカウントの自動ロックを設定する](#)」を参照してください。

注意

- User Management 権限を持つユーザーも自分のユーザーアカウントをロックすることはできません。
- ログイン中のユーザーのユーザーアカウントをロックすると、そのユーザーは操作を続行できなくなります。ユーザーアカウントをロックする場合は、対象のユーザーが Tuning Manager server にログイン中でないことを確認してください。
- System アカウントのロック状態を変更するには、あらかじめ共通コンポーネントのプロパティを編集しておく必要があります。編集方法については、「[9.14 System アカウントのロックに関する設定](#)」を参照してください。
- すべてのユーザーアカウントがロックされた場合は、コマンドを使用してロックを解除する必要があります。コマンドを使用してロックを解除する方法については、「[7.2.8 すべてのユーザーアカウントがロックされた](#)」を参照してください。
- 外部認可サーバと連携してログインするユーザーアカウントは、Hitachi Command Suite 製品に登録されていないため、Hitachi Command Suite 製品でロック状態を変更できません。
- 外部認証から Hitachi Command Suite 製品共通のユーザー認証に変更した場合、パスワードが設定されていないユーザーアカウントはロックされます。パスワードを設定すると、ロックが解除されます。パスワードを設定する方法については、「[4.3.4 パスワードを変更する](#)」を参照してください。

ユーザーアカウントのロック状態を変更するには、次の手順を実行します。

1. エクスプローラエリアで [管理者メニュー] - [ユーザー管理] を選択したあと、ナビゲーションエリアで [ユーザー] を選択します。
ユーザー画面が表示されます。ユーザー画面には [ユーザー一覧] が表示されます。
2. [ユーザー一覧] でロック状態を変更したいユーザーのチェックボックスを選択します。
タイトル行のチェックボックスを選択すると、すべてのユーザーが選択されます。
パスワードが設定されていないためにロックされたユーザーを選択しても、ロック解除の対象にはなりません。
3. [ロック] ボタンまたは [ロック解除] ボタンをクリックします。
ユーザーアカウントのロック状態変更を確認するダイアログが表示されます。
4. ロック状態を変更する場合は、[OK] ボタンをクリックします。ロック状態の変更をキャンセルする場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。
ユーザー画面に戻ります。ロック状態を変更した場合は、[ユーザー一覧] の [状態] 欄が更新されます。

4.3.6 ユーザーを削除する

User Management 権限を持つユーザーは、必要に応じて Hitachi Command Suite 製品共通のユーザーを削除できます。

System アカウントは削除できません。

注意

- HaUser アカウントは削除しないでください。HaUser アカウントは Device Manager エージェントが使用するデフォルトのユーザーです。HaUser アカウントを削除すると、Device Manager エージェントが Device Manager サーバに情報を送信できなくなります。
- ログイン中のユーザーを削除すると、そのユーザーは操作を続行できなくなります。ユーザーを削除する場合は、対象のユーザーが Tuning Manager server にログイン中でないことを確認してください。

Tuning Manager server からユーザーを削除するには、次の手順を実行します。

1. エクスプローラエリアで [管理者メニュー] - [ユーザー管理] を選択したあと、ナビゲーションエリアで [ユーザー] を選択します。
ユーザー画面が表示されます。ユーザー画面には [ユーザー一覧] が表示されます。
2. [ユーザー一覧] で削除したいユーザーのチェックボックスを選択します。
なお、タイトル行のチェックボックスを選択すると、削除できるユーザーがすべて選択されます。
3. [ユーザー削除] ボタンをクリックします。
ユーザー削除の確認画面が表示されます。
プロファイルを参照してからユーザーを削除する場合は、[ユーザー一覧] でユーザー ID を選択して、ユーザー ID 画面を表示します。ユーザー ID 画面で、[ユーザー削除] ボタンをクリックすると、表示されているユーザーを削除できます。

4.4 ログイン時のセキュリティオプションの設定

User Management 権限を持つユーザーは、ユーザーログイン時のセキュリティを強化するために、セキュリティオプションを設定できます。

ログイン時のセキュリティオプションを設定する操作は、次のとおりです。

- パスワードの条件を設定する（「4.4.1 パスワードの条件を設定する」を参照）
- ユーザーアカウントの自動ロックを設定する（「4.4.2 ユーザーアカウントの自動ロックを設定する」を参照）
- 警告バナーのメッセージを設定する（「4.4.3 警告バナーのメッセージを設定する」を参照）

注意

- Tuning Manager server をクラスタ環境で運用している場合、セキュリティオプションの設定は、実行系ノードだけに適用されます。待機系ノードにセキュリティオプションの設定を適用するには、共通コンポーネントのプロパティファイルを編集したり、共通コンポーネントのコマンドを実行したりする必要があります。
共通コンポーネントのプロパティファイルを編集して、パスワードの条件、およびユーザーアカウントの自動ロックを設定する方法については、「9.13 ユーザーアカウントに関するセキュリティの設定」を参照してください。
共通コンポーネントのコマンドを実行して警告バナーのメッセージを設定する方法については、「9.15 警告バナーの設定」を参照してください。

- パスワードの条件, またはユーザーアカウントの自動ロックの設定を変更した場合, セキュリティオプションの設定ファイル (security.conf ファイル) が上書きされます。設定ファイルを手動で編集している場合は, あらかじめファイルをバックアップすることをお勧めします。設定ファイルを手動で編集する方法については, 「9.13 ユーザーアカウントに関するセキュリティの設定」を参照してください。

4.4.1 パスワードの条件を設定する

User Management 権限を持つユーザーは, パスワードの条件を設定できます。

Tuning Manager server では, ユーザーのパスワードが第三者に推測されないように, パスワードの条件 (最小文字数, 文字種の組み合わせなど) を設定できます。

パスワードの条件は, ユーザーアカウントを追加するとき, またはパスワードを変更するときに適用されます。既存のユーザーアカウントのパスワードには適用されないため, パスワードが設定した条件を満たしていない場合でも, システムにログインできます。

外部認証サーバでユーザーを認証する場合, パスワードの文字種の組み合わせは外部認証サーバでの設定が適応されます。

パスワードの条件を設定するには, 次の手順を実行します。

1. エクスプローラエリアで [管理者メニュー] - [セキュリティ] を選択したあと, ナビゲーションエリアで [パスワード] を選択します。
アプリケーションエリアにパスワード画面が表示されます。パスワード画面には, 設定されているパスワードの条件が表示されます。
2. パスワードの条件を変更する場合は, [設定変更] ボタンをクリックします。
パスワードダイアログが表示されます。
3. パスワードの条件について, 次の情報を入力します。
 - [最小文字数]
パスワードとして設定できる最小文字数を指定します。指定できる値は 1~256 文字です。デフォルト値は 4 文字です。
 - [パスワードに含めなければいけない文字数]
パスワードに含めなければいけない大文字, 小文字, 数字および記号の文字数を指定します。大文字, 小文字, 数字および記号の文字数の合計がパスワードとして設定できる最小文字数以下になるように指定してください。
それぞれに指定できる値は 0~256 文字です。デフォルト値は 0 文字です。
 - [ユーザー ID と同じパスワードの使用]
[禁止する] を選択すると, ユーザー ID と同じパスワードを設定できなくなります。デフォルトでは [許可する] が選択されています。
4. パスワードの条件を変更する場合は, [OK] ボタンをクリックします。パスワードの条件の変更をキャンセルする場合は, [キャンセル] ボタンをクリックします。
パスワード画面に戻ります。パスワードの条件の設定内容が, 変更した値に更新されます。

4.4.2 ユーザーアカウントの自動ロックを設定する

User Management 権限を持つユーザーは, ユーザーアカウントの自動ロックを設定できます。

ユーザーアカウントの自動ロックを設定すると, 同じユーザーアカウントに対して不正なパスワードが繰り返し入力された場合に, そのユーザーを自動的にロックできます。ユーザーアカウントの自動ロックを有効にする場合, 自動的にロックされるまでのログインの失敗回数を指定できます。

シングルサインオン機能を利用しているほかの Hitachi Command Suite 製品でログインに失敗した回数も、失敗回数としてカウントされます。例えば、失敗回数が 3 回に設定されている場合、ユーザーが Tuning Manager server で 1 回、Device Manager で 1 回、Tiered Storage Manager で 1 回、連続してログインに失敗すると、ユーザーアカウントが自動的にロックされます。

失敗回数を変更しても、すでに失敗回数がカウントされているユーザーや、ユーザーアカウントがロックされているユーザーには影響がありません。

ロックを解除されるまでは、ロックされたユーザーアカウントで Hitachi Command Suite 製品にログインできません。ユーザーアカウントのロックを解除する方法については、「[4.3.5 ユーザーアカウントのロック状態を変更する](#)」を参照してください。

外部認可サーバと連携してログインするユーザーアカウントの自動ロックの制御は、外部認証サーバでの設定が適用されます。

注意

System アカウントを自動ロックの対象にするには、共通コンポーネントのプロパティファイル (user.conf ファイル) を編集する必要があります。編集方法については、「[9.14 System アカウントのロックに関する設定](#)」を参照してください。

ユーザーアカウントの自動ロックを設定するには、次の手順を実行します。

1. エクスプローラエリアで [管理者メニュー] - [セキュリティ] を選択したあと、ナビゲーションエリアで [アカウントロック] を選択します。
アプリケーションエリアにアカウントロック画面が表示されます。アカウントロック画面には、ユーザーアカウントの自動ロックが設定されている場合は、連続失敗回数が表示されます。設定されていない場合は、「無制限」と表示されます。
2. 自動ロックの設定を変更する場合は、[設定変更] ボタンをクリックします。
アカウントロックダイアログが表示されます。
3. アカウントロックダイアログで、ユーザーアカウントの自動ロックの設定を変更します。
ユーザーアカウントの自動ロックを有効にする場合は、[アカウントを自動ロックする] を選択し、[アカウントをロックするログイン連続失敗回数] を入力します。[アカウントをロックするログイン連続失敗回数] には 1 以上 10 以下の値を指定してください。
4. ユーザーアカウントの自動ロックの設定を変更する場合は、[OK] ボタンをクリックします。
自動ロックの設定変更をキャンセルする場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。
アカウントロック画面に戻ります。ユーザーアカウントの自動ロックの設定内容が、変更した値に更新されます。

4.4.3 警告バナーのメッセージを設定する

User Management 権限を持つユーザーは、警告バナーのメッセージを設定できます。

Hitachi Command Suite 製品では、ログイン時のセキュリティリスク対策として、任意のメッセージ (警告バナー) を表示できます。

警告バナーのメッセージは hcmsdbanner コマンドを使用しても設定できます。hcmsdbanner コマンドでメッセージを設定する場合は、使用できる HTML タグに制限がありません。また、ロケールごとに異なるメッセージを設定できます。hcmsdbanner コマンドで警告バナーを設定する方法については、「[9.15 警告バナーの設定](#)」を参照してください。

注意

Web Client では警告バナーのデフォルトとして表示されるメッセージだけを編集できます。ただし、hcmsdbanner コマンドを使用して設定されたメッセージの場合、Web Client で使用できない HTML タグが含まれているときは編集できません。

警告バナーのメッセージを編集するには、次の手順を実行します。

1. エクスプローラエリアで [管理者メニュー] - [セキュリティ] を選択したあと、ナビゲーションエリアで [警告バナー] を選択します。

アプリケーションエリアに警告バナー画面が表示されます。警告バナー画面には、設定されているメッセージが表示されます。メッセージが設定されていない場合は、「メッセージが定義されていません。」が表示されます。

2. [メッセージ編集] ボタンをクリックします。
メッセージ編集ダイアログが表示されます。
3. [メッセージ] テキストボックスでメッセージを編集します。設定されているメッセージを削除する場合は、[削除] ボタンをクリックします。

メッセージは HTML 形式で編集します。使用できる最大文字数は HTML タグも含めて 1,000 文字です。Web Client でメッセージを編集する場合、使用できる HTML タグは次のとおりです。

```
<b> </b> <i> </i> <center> </center> <br>
<div dir="ltr"> <div dir="rtl"> <div style="direction:rtl">
<div style="direction:ltr"> </div>
```

HTML タグの大文字、小文字は区別しません。

HTML タグで使用する文字をメッセージに表示する場合は、HTML のエスケープシーケンスを使用してください。

表示するメッセージを任意の位置で改行したい場合、HTML タグの
を使用してください。メッセージの編集時に入力した改行は、登録時には無視されます。

4. 編集したメッセージを確認するために、[プレビュー] ボタンをクリックします。
メッセージが正しく編集されている場合は、[プレビュー] 欄にメッセージの HTML 表示イメージが表示されます。使用できないタグを使用している場合や、HTML の構文に問題がある場合は、エラーメッセージが表示され、[プレビュー] 欄は空白となります。
5. メッセージが正しく表示されることを確認したら、[OK] ボタンをクリックして編集内容を保存します。メッセージの編集をキャンセルする場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

ツールの設定

Tuning Manager server は、関連アプリケーションを起動することができます。この章では、関連アプリケーションを起動するために必要な設定について説明します。

- 5.1 Device Manager の接続設定
- 5.2 エージェントの接続設定
- 5.3 Performance Reporter の初期設定
- 5.4 Performance Reporter の起動時に開く画面の変更方法

5.1 Device Manager の接続設定

Tuning Manager server を使用するためには、Device Manager の接続設定が完了している必要があります。1 つの Tuning Manager server と接続できる Device Manager は 1 つです。同様に、1 つの Device Manager と接続できる Tuning Manager server は 1 つです。ここでは、Device Manager の接続設定で使用するコマンドについて説明します。

5.1.1 htm-dvm-setup コマンドを手動で実行する

htm-dvm-setup コマンドは、Tuning Manager server から Device Manager への接続設定を実施するコマンドです。

Tuning Manager server から Device Manager への接続設定は、インストール時に自動で実施されます。ただし、インストール時に設定した接続先の Device Manager を変更する場合は、htm-dvm-setup コマンドを実行して、接続先の Device Manager に関する情報を再設定する必要があります。

htm-dvm-setup コマンドを手動で実行する手順を次に示します。

1. すべての Hitachi Command Suite 製品および HiRDB のサービスを停止します。
サービスの停止方法については、「[1.5 サービスの停止](#)」を参照してください。
2. HiRDB のサービスを起動します。
サービスの起動方法については、「[1.4 サービスの起動](#)」を参照してください。
3. htm-dvm-setup コマンドを実行して、Device Manager の接続設定を実施します。

ホスト名が host01 で OS の種別が Windows の Device Manager を接続先として設定する場合のコマンド実行例を次に示します。このとき、Device Manager ホストで HiRDB が使用するポート番号は 23032、Tuning Manager server から Device Manager ホストの HiRDB にリモート接続するために使用するポート番号は 24220 とします。

Windows の場合：

```
<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%htm-dvm-setup /d  
host01 /n 23032 /s 24220 /o pc
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/TuningManager/bin/htm-dvm-setup -d host01 -n 23032 -  
s 24220 -o pc
```

Linux の場合：

```
<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/htm-dvm-setup -d  
host01 -n 23032 -s 24220 -o pc
```

Tuning Manager server と同じホストにインストールされている Device Manager を接続先とする場合のコマンド実行例を次に示します。

Windows の場合：

```
<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%htm-dvm-setup /local
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/TuningManager/bin/htm-dvm-setup --local
```

Linux の場合：

```
<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/htm-dvm-setup --  
local
```

htm-dvm-setup コマンドの詳細については、「8.3.3 htm-dvm-setup」を参照してください。

- すべての Hitachi Command Suite 製品のサービスを起動します。
サービスの起動方法については、「1.4 サービスの起動」を参照してください。

5.1.2 htmsetup コマンドを手動で実行する

htmsetup コマンドは、Device Manager から Tuning Manager server への接続設定を実施するコマンドです。

Device Manager と異なるホストに Tuning Manager server をインストールする場合は、htmsetup コマンドを実行する必要があります。Device Manager と同じホストに Tuning Manager server をインストールした場合には、htmsetup コマンドを実行する必要はありません。

htmsetup コマンドは Device Manager が提供するコマンドです。Tuning Manager server がインストールされているホストで htm-dvm-setup コマンドを実行したあとに、Device Manager がインストールされているホストで実行してください。

htmsetup コマンドの詳細についてはマニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。

5.2 エージェントの接続設定

Tuning Manager server を使用するためには、エージェントの接続設定が完了している必要があります。

通常は、Tuning Manager server のインストール時にエージェントの情報が自動登録されます。ただし、Performance Management が提供するエージェントは、Performance Reporter に自動登録されません。Performance Management が提供するエージェントを手動で登録する方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。

また、運用開始後に設定変更が必要になる場合があります。

PFM - Manager での設定が必要となるパターン

運用開始後、次のような環境変更をした場合、Performance Reporter の [エージェント] 画面に表示されている該当エージェントのサービス情報を削除する必要があります。削除しなかった場合、Performance Reporter, PFM - Manager の管理するデータ上に参照先不明のデータが残り続けます。

- エージェントをアンインストールしたとき
- エージェントインスタンスをアンセットアップしたとき
- 運用開始後に PFM - Manager, またはエージェントのホスト名を変更したとき

Action Handler サービスのサービス情報を削除した場合は、その Action Handler を使用したアラームのアクション実行ができなくなるため、アラームのアクション実行をする Action Handler サービスを再設定する必要があります。

サービス情報を削除するには PFM - Manager の `jpctool service delete (jpcctrl delete)` コマンドを使用します。サービス情報を削除したあと、PFM - Manager および Performance Reporter を再起動してください。詳細については、マニュアル「JP1/ Performance Management 運用ガイド」を参照してください。

なお、Tuning Manager server の GUI に削除結果を反映するには、PFM - Manager および Performance Reporter を再起動したあと、次の操作が必要です。

- Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面を表示します。

- b. [リフレッシュ] ボタンをクリックして、[ポーリング設定] 画面に表示されている情報を更新します。

Main Console での設定が必要となるパターン

Main Console の場合、PFM - Manager が管理するエージェントの情報を参照するため、Main Console での設定は不要です。

Performance Reporter での設定が必要となるパターン

次のような場合には再度設定する必要があります。

- 新しいプロダクト ID のエージェントを追加する場合
プロダクト ID については、該当するエージェントのマニュアルを参照してください。
- すでに登録しているエージェントのデータモデルのバージョンを更新する場合
エージェントの登録の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。

5.3 Performance Reporter の初期設定

初期設定ファイル (config.xml) は、Performance Reporter 起動時に実行する初期化モジュールから読み込まれます。

初期設定ファイル (config.xml) が格納されているディレクトリを OS ごとに示します。

Windows の場合 :

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%conf

Solaris の場合 :

/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/conf

Linux の場合 :

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/conf

注意

config.xml を初期状態に戻したい場合は、次に示すディレクトリから config.xml をコピーして、上記のディレクトリに上書きしてください。

Windows の場合 :

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%sample%conf

Solaris の場合 :

/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/sample/conf

Linux の場合 :

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/sample/conf

初期設定ファイルの項目を次の表に示します。表にある項目はすべて編集できます。

表 5-1 初期設定ファイル (config.xml) に設定する項目

項目	内容
logDir	Performance Reporter ログファイルを出力するディレクトリを指定します。デフォルトのディレクトリを次に示します。

項目	内容
	<p>Windows の場合 : <Tuning Manager server のインストール先フォルダ> ¥PerformanceReporter¥log</p> <p>Solaris の場合 : /opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/log</p> <p>Linux の場合 : <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/ PerformanceReporter/log</p> <p>アクセスできないディレクトリやネットワーク上のディレクトリなど、不正なディレクトリを指定したり、ディレクトリ名やファイル名に指定できない文字を指定したりすると、エラーになります。このエラーの詳細は、Windows イベントログまたは syslog を参照してください。ディレクトリを指定しない場合は、デフォルトが設定されます。</p>
logFileNumber	<p>Performance Reporter が出力するログファイルの数を整数で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値 : 1~16 デフォルト : 10 <p>範囲外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。</p>
logFileSize	<p>1つのログファイルのサイズを MB 単位で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値 : 1~100 デフォルト : 4 <p>範囲外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。</p>
logFileNumberMulti ^{※1}	<p>Performance Reporter が出力するログファイルの数を整数で指定します (マルチプロセス用)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値 : 1~64 デフォルト : 10 <p>範囲外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。なお、対象となるコマンドは jpcrpt コマンドとなります。</p>
logFileSizeMulti ^{※1}	<p>1つのログファイルのサイズを MB 単位で指定します (マルチプロセス用)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値 : 1~16 デフォルト : 4 <p>範囲外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。なお、対象となるコマンドは jpcrpt コマンドとなります。</p>
logLevel	<p>ログを出力するレベルを指定します。指定値を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> FATAL : 重要なイベント発生時、重要な例外発生時、または続行不能なエラー発生時のログ出力。 WARN : 他プログラムの呼び出し前後、または警告情報のログ出力。 DEBUG : Performance Reporter の主要クラス生成時、主要メソッド開始または終了時、または実行時情報のログ出力。 TRACE : Performance Reporter の一般クラス生成時、一般メソッド開始または終了時、または実行時詳細情報のログ出力。解析用。 <p>デフォルトは、WARN です。指定値以外を指定すると、デフォルトが設定されます。</p>
lineSeparator	<p>レポートを CSV 形式で出力するときの、改行コードを指定します。指定値を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> CRLF : Windows で採用されている改行コード。 LF : Solaris および Linux で採用されている改行コード。 <p>デフォルト値は、CRLF です。指定値以外を指定すると、デフォルトが設定されます。</p>
characterCode	<p>レポートを CSV 形式で出力するときの、出力するファイルの文字コードを指定します。指定値を次に示します。</p> <p>US-ASCII, windows-1252, ISO-8859-1, UTF-8, UTF-16, UTF-16BE, UTF-16LE, Shift_JIS, EUC-JP, EUC-JP-LINUX, MS932</p> <p>デフォルトは、Shift_JIS です。指定値以外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。</p>

項目	内容
csvFileName	<p>レポートを CSV 形式で出力するときの、出力するファイル名を指定します。ファイル名に指定できる文字は、100 文字以内とします。次に示す文字が指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数字：0～9 • . (ピリオド) • _ (アンダーバー) • 半角スペース • 英字：A～Z, および a～z <p>デフォルトは、Export.csv です。指定値以外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。</p>
host	<p>接続する PFM・Manager の論理ホスト名、または論理 IP アドレスを指定します。</p> <p>論理ホスト名の場合、1～32 バイトの半角英数字を指定します。空白文字は指定できません。また、FQDN 形式のホスト名には対応していません。ホスト名には、ドメイン名を除いたものを使用してください。</p> <p>範囲外の値を指定する、または指定を省略すると、「localhost」が設定されます。この項目は、クラスタシステムを運用する場合だけ使用できます。</p>
port	<p>接続する PFM・Manager のポート番号を指定します。</p> <p>このポート番号は、Main Console および Performance Reporter で使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定値：1024～65535 • デフォルト：22286
maxFetchCount (<vsa>タグ配下)	<p>PFM・Manager から取得する最大レコード件数を整数で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定値：1～2,147,483,647 • デフォルト：1,440 <p>範囲外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。</p> <p>注意</p> <p>複合レポートの場合は、レポートをブックマークに登録したときに設定していた「最大レコード数」の値が適用されるため、maxFetchCount の値は適用されません。</p>
displayCountPerPage	<p>レポートウィンドウにテーブルが表示されているときに、1 ページ当たり表示するレコード数を整数で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定値：1～2,147,483,647 • デフォルト：20 <p>範囲外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。</p>
maxRealtimeCache	<p>1 つのリアルタイムレポートに対して、データをキャッシュに保存する最大レコード数を整数で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定値：1～360 • デフォルト：30 <p>範囲外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。</p>
realtimeCacheInterval※2	<p>リアルタイムレポートを自動更新するリクエスト間隔の制限時間（ミリ秒）を指定します。リクエスト間隔が制限時間を超えているかどうかは 10 秒ごとにチェックされます。自動更新のリクエスト間隔が制限時間を超えたとき、サーバやエージェントは、通知なくレポートが終了したと判断し、処理を終了します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定値：60,000～3,600,000 • デフォルト：600,000 <p>範囲外の値を指定する、または指定を省略すると、デフォルトが設定されます。</p>
exponentialDisplayMode	<p>グラフの縦軸の目盛を指数で表示するかどうかを指定します。指定値を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true：指数で表示されます。 • false：指数で表示されません。 <p>デフォルト値は、true です。指定値以外の値を指定する、または指定を省略すると、デフォルトが設定されます。</p> <p>true を指定した場合は、値が 10^7 以上または 0.01 未満のときに指数で目盛が表示されます。</p>

項目	内容
selectFormat	<p>日付の表示形式を指定します。指定値を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • pattern-ddMMyyyy • pattern-MMddyyyy • pattern-yyyyMMdd <p>デフォルトは、pattern-yyyyMMdd です。 指定値以外の値を指定すると、デフォルトが設定されます。</p>
bookmarkRepository ^{※2}	<p>ブックマーク機能の定義情報を保存するリポジトリ^{※3}の格納先を絶対パスで指定します。指定したディレクトリがない場合は、Performance Reporter のサービス起動時にディレクトリが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パス長の最大値：150 文字 <p>デフォルトのディレクトリを次に示します。</p> <p>Windows の場合： <Tuning Manager server のインストール先フォルダ> ¥PerformanceReporter¥bookmarks</p> <p>Solaris の場合： /opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/ bookmarks</p> <p>Linux の場合： <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/ PerformanceReporter/bookmarks</p>
updateInterval	<p>Performance Reporter の画面の自動更新の間隔を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定値：10～3,600 • デフォルト：60 <p>範囲外を指定すると、デフォルトが設定されます。Performance Reporter にログインしたユーザーが自身の環境用に自動更新間隔を変更するまでこの値は有効となります。</p>
maxFetchCount (<command>タグ配下)	<p>jpcrpt コマンドで出力するレポートについて View Server から取得する最大レコード件数を整数で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定値：1～2,147,483,647 • デフォルト：<vsa>タグ配下の maxFetchCount の値 <p>最大レコード件数の見積もりについては、「A.3」を参照してください。 範囲外の値を指定する、または指定を省略すると、デフォルトが設定されます。</p> <p>注意 複合レポートの場合は、レポートをブックマークに登録したときに設定していた「最大レコード数」の値が適用されるため、maxFetchCount の値は適用されません。</p>
blockTransferMode	<p>分割送信モードを有効にするかどうかを指定します。 分割送信モードを有効にすると、jpcrpt コマンドの CSV 形式でのデータ量の大きい履歴（1つのエージェント）レポートまたは履歴（複数のエージェント）レポート出力時に、レポートのデータを View Server サービスから分割して受信できるため、メモリー不足が発生しません。また、GUI でのレポート表示時、および jpcrpt コマンドの HTML 形式でのレポート出力時は、メモリー使用量削減機能によって分割送信モードが使用され分割して受信できます。 つまり、分割送信モードは、次の場合に利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • jpcrpt コマンドを使って CSV 形式のレポートを出力する場合 • メモリー使用量削減機能が有効で、GUI を使ってレポートを表示する場合 • メモリー使用量削減機能が有効で、jpcrpt コマンドを使って HTML 形式のレポートを出力する場合 <p>指定値を次に示します。ただし、メモリー使用量削減機能が false の場合だけ、ここで指定した値が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • true：分割送信モードを有効にします。 • false：分割送信モードを無効にします。 <p>デフォルト値は、true です。指定値以外の値を指定する、または指定を省略すると、デフォルトが設定されます。</p>

項目	内容
ownPort ^{※2}	Performance Reporter (WWW サーバ) が View Server サービスとの通信で使用するポート番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 指定値：1024～65535 指定を省略すると、任意の空きポート番号が設定されます。
ownCmdPort ^{※2}	Performance Reporter (コマンド) が View Server サービスとの通信で使用するポート番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 指定値：1024～65535 デフォルト：任意の空きポート 指定を省略すると、任意の空きポート番号が設定されます。
ownHost ^{※2※4}	Performance Reporter が View Server サービスとの通信時に、View Server サービスからのコールバック先として使用するホスト名、または IP アドレスを指定します。Performance Reporter が動作するホストを指定する必要があります。 ホスト名の場合、1～32 バイトの半角英数字で指定します。空白文字は指定できません。FQDN 形式のホスト名には対応していません。ホスト名には、ドメイン名を除いたものを使用してください。 範囲外を指定する、または無効な値を指定すると、Performance Reporter ホストの IP アドレスが設定されます。
lineSymbolSize (<draw>タグ配下)	折れ線グラフの表示に利用するプロットのサイズを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 指定値：LARGE, MEDIUM, SMALL, AUTO (大文字、小文字は区別されません) デフォルト：MEDIUM 指定値以外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。 AUTO を指定すると、レポートの表示範囲の時点数によって、LARGE, MEDIUM, または SMALL のうち表示に適したサイズに自動的に調整されます。
legendSeriesOrderForHB ar (<draw>タグ配下)	集合横棒グラフの凡例の表示順序を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> 指定値：FORWARD, REVERSE (大文字、小文字は区別されません) <ul style="list-style-type: none"> FORWARD: グラフの一番上に表示されている系列から順に凡例を表示 REVERSE: グラフの一番下に表示されている系列から順に凡例を表示 (Tuning Manager server v7.2.1 以前と同じ凡例順序)。 デフォルト：REVERSE 指定値以外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。 なお、この項目では、凡例の系列の順序だけが変更されます。凡例の系列色は変更されません。
enableAutoLabelAtDefaultDisp (<draw>タグ配下)	レポートのグラフオプションの項目 [オートラベルを表示する] チェックボックスの初期値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 指定値：true, false (大文字、小文字は区別されません) <ul style="list-style-type: none"> true: 初期値をチェックありにする false: 初期値をチェックなしにする デフォルト：false この設定は複合レポート以外のレポートに対して有効です。 指定値以外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。
autoLabelMaxIntegerDigits (<draw>タグ配下)	オートラベル機能で、ツールチップに表示されるデータ値のうち、整数部として表示される桁数の最大値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 指定値：1～14 デフォルト：7 実際のデータ値の整数部が、ここで指定した桁数より大きい場合は、桁の小さい方から指定桁数の分だけ表示されます。例えば、指定値が 3 で、ツールチップの指定プロットのデータ値が 123,456 の場合は、ツールチップに「456」と表示されます。

項目	内容
	<p>範囲外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されま す。 オートラベル機能の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」のオートラベルについて説明し ている個所を参照してください。</p>
autoLabelMaxFractionDi gits (<draw>タグ配下)	<p>オートラベル機能で、ツールチップに表示されるデータ値のうち、小数部として 表示される桁数の最大値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：1～6 デフォルト：3 <p>実際のデータ値の小数部が、ここで指定した桁数より大きい場合は、小数点以下 第1位から指定桁数の分だけ表示されます。指定桁数を越えた場合は、指定桁の 次の桁で四捨五入されます。例えば、指定値が2で、ツールチップの指定プロッ トのデータ値が1.23456の場合は、ツールチップに「1.23」と表示されます。 範囲外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されま す。 オートラベル機能の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」のオートラベルについて説明し ている個所を参照してください。</p>
autoLabelTruncateLengt h (<draw>タグ配下)	<p>オートラベル機能で、系列名およびX軸ラベルがツールチップに表示される場 合、表示形式を短縮表示に切り替える文字列長のしきい値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：0～2,147,483,647 デフォルト：0 <p>系列名またはX軸ラベルの長さ>指定値の場合、全長が指定値になるよう、中 間部分の文字列を省略して「<先頭部分>...<末尾部分>」の形式で短縮して系 列名およびX軸ラベルが表示されます。「...」は、省略した中間部分の文字列 を表しています。設定値が奇数の場合は、先頭部分を末尾部分より1文字多く表 示されます。 値に0を指定した場合、先頭から表示されますが、表示しきれない場合があります。 範囲外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されま す。 オートラベル機能の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」のオートラベルについて説明し ている個所を参照してください。</p>
maxAutoLabelPoints (<draw>タグ配下)	<p>グラフ上のプロットが一定の数を超えた場合、オートラベル機能は無効になりま す。ここでは、オートラベル機能を有効にするプロットの最大値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：1～2000 デフォルト：1440 <p>範囲外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されま す。 オートラベル機能の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」のオートラベルについて説明し ている個所を参照してください。</p>
foregroundCombinationG raph (<draw>タグ配下)	<p>複合レポートで、最前面に表示するグラフ種別を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：3DBAR, LINE (大文字、小文字は区別されません) <ul style="list-style-type: none"> 3DBAR：3D 集合縦棒/3D 積み上げ縦棒グラフを最前面にする LINE：折れ線グラフを最前面にする デフォルト：3DBAR <p>複合レポートの3D 集合縦棒/3D 積み上げ縦棒グラフが設定されていない場 合、または折れ線グラフが設定されていない場合、この設定は無視されます。 指定値以外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定され ます。</p>
precision (<draw>タグ配 下)	<p>グラフの目盛に表示するデータラベルが小数値の場合の小数部の最大表示桁数 を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：0～15

項目	内容
	<ul style="list-style-type: none"> デフォルト：0 <p>Tuning Manager server v7.3以降を新規にインストールした後は、初期設定ファイル (config.xml) に 3 が設定されています。</p> <p>実際のデータ値の小数部が、ここで指定した桁数より大きい場合は、小数点以下第 1 位から指定桁数の分だけ表示されます。指定桁数を超えた場合は、指定桁の次の桁で四捨五入されます。</p> <p>値に 0 を指定した場合、小数部は表示されません。</p> <p>範囲外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。</p> <p>なお、データラベル値が整数値の場合や、小数部桁数がここで指定する桁数よりも少ない場合には、実際のデータラベル値だけが表示され、残りの桁に 0 は補われません。例えば、指定値が 3 で、ラベルの目盛り間隔が 0.5 となる場合は、小数 1 桁までが表示されます。</p>
appendCommaDisplayedForNum (<draw>タグ配下)	<p>グラフの目盛に表示するデータラベルを 3 桁ごとにコンマで区切って表示するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：true, false (大文字, 小文字は区別されません) <ul style="list-style-type: none"> true：3 桁ごとにコンマで区切って表示する false：コンマで区切らないで表示する デフォルト：false <p>指定値以外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。</p>
enableAntiAliasForNonAreaGraph (<draw>タグ配下)	<p>グラフの描画にアンチエイリアス処理をするかしないかを設定します。この設定は、面グラフ以外のグラフ種別に対して有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：true, false (大文字, 小文字は区別されません) <ul style="list-style-type: none"> true：アンチエイリアス処理をする false：アンチエイリアス処理をしない デフォルト：true <p>指定値以外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。</p>
color1～color16 (<chart-symbolColors>タグ配下)	<p>グラフに使用する系列色を指定します。color1～color16 の 16 色を指定できます。グラフの 1 系列目に color1 が利用され、順に color2, color3, color4, (中略), color16 と利用されます。17 系列目には再び color1 が利用されます。なお、利用される色の順番は、初期設定ファイル (config.xml) で設定した項目の並び順には依存しません。</p> <p>指定値は RGB 指定で、R, G, B の各値を「,(半角コンマ)」で区切って指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：0～255 デフォルト：次のとおり <p>color1 : 235,143,21 ()</p> <p>color2 : 204,0,0 ()</p> <p>color3 : 102,153,0 ()</p> <p>color4 : 0,102,255 ()</p> <p>color5 : 102,0,255 ()</p> <p>color6 : 255,51,153 ()</p> <p>color7 : 255,185,0 ()</p> <p>color8 : 255,17,17 ()</p> <p>color9 : 136,204,0 ()</p> <p>color10 : 71,145,255 ()</p>

項目	内容
	<p>color11 : 134,51,255 ()</p> <p>color12 : 255,149,246 ()</p> <p>次の場合は、その番号の色がスキップされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定を省略した color13～color16 の項目で、R、G、B の各値のうち 1 つでも範囲外の値を指定した color13～color16 の項目で、コンマを 3 つ以上指定した <p>例えば、color3 だけ指定を省略した場合は、color1、color2、color4、(後略) の順に利用されます。</p> <p>次の場合は、デフォルト色が利用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> color1～color12 の項目で、R、G、B の各値のうち 1 つでも範囲外の値を指定した color1～color12 の項目で、コンマを 3 つ以上指定した <p>color1～color16 のうち 1 つでも有効な項目があれば、有効な項目だけがグラフの系列色に利用されます。例えば、有効な項目が 3 つ (3 色) ある場合は、その 3 色だけが系列色として利用されます。</p>
noUseCircleColor (<chart-symbolColors>タグ配下)	<p>color1～color16 のうち円グラフに使用しない色番号を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値 : 0～16 複数の色番号を指定する場合は、「, (半角コンマ)」で区切って指定します。 デフォルト : 0 (円グラフに使用しない色番号なし) <p>次の場合は、0 が指定されたと思なされ、color1～color16 で指定したすべての色が円グラフに利用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定を省略した 複数指定時に、1 つでも範囲外の値や有効でない値を指定した 複数指定時に、1 つでも 0 が含まれる <p>次の場合は、color1～color12 のそれぞれのデフォルト色が円グラフに利用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての色番号を指定した color1～color16 を 1 つも指定していない
reportCacheFileDir ^{※2}	<p>レポートキャッシュファイルの格納先ディレクトリを絶対パスで指定します。指定されたディレクトリが存在しない場合は、Performance Reporter のサービス起動時または、jpcrpt コマンド実行時にディレクトリが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> パス長の最大値 : 150 文字 <p>デフォルトのディレクトリを次に示します。</p> <p>Windows の場合 :</p> <pre><Tuning Manager server のインストール先フォルダ> ¥PerformanceReporter¥reportcache</pre> <p>Solaris の場合 :</p> <pre>/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/ reportcache</pre> <p>Linux の場合 :</p> <pre><Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/ PerformanceReporter/reportcache</pre> <p>なお、次に示すエラーが発生した場合は、ディレクトリ作成処理が行われません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ディレクトリではない値を指定した パス長の最大値を超えた値を指定した レポートキャッシュファイルの格納先ディレクトリの作成に失敗した <p>注意</p> <p>レポートキャッシュファイルの格納先ディレクトリには、ローカルディスク上のディレクトリを指定してください。ネットワーク上のディレクトリを指定した場合、ローカルディスクと比較して GUI および jpcrpt コマンドの動作に時間が掛かります。</p>

項目	内容
displayLegendCount	<p>レポート系列ページング機能が有効な場合に、グラフの凡例に表示するフィールドの最大数を指定します。レポート系列ページング機能が無効な場合は、この項目に設定した値は無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：1～43 デフォルト：14 <p>範囲外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。</p>
memoryReductionMode	<p>メモリー使用量削減機能を有効にするかどうかを指定します。</p> <p>true を指定すると、分割送信モード、レポートキャッシュファイル化機能および系列ページング機能がすべて有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：true, false（大文字、小文字は区別されません） <ul style="list-style-type: none"> true：メモリー使用量削減機能を利用する false：メモリー使用量削減機能を利用しない デフォルト：false <p>指定値以外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。</p>
printCacheSize	<p>キャッシュに保存する [レポート印刷] 画面のデータの最大数を整数で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：5～20 デフォルト：20 <p>Tuning Manager server v7.5 以降を新規にインストールしたあとは、初期設定ファイル (config.xml) に 10 が設定されています。</p> <p>指定値以外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。</p>
printTableMaxRowSize	<p>[レポート印刷] 画面に表示する表データの最大行数を整数で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定値：0～15,000 デフォルト：0 <p>Tuning Manager server v7.5 以降を新規にインストールしたあとは、初期設定ファイル (config.xml) に 15,000 が設定されています。</p> <p>指定値以外の値を指定したり、指定を省略したりすると、デフォルトが設定されます。</p> <p>なお、指定行数を超えた場合、メッセージが出力され、指定行数までの表データが出力されます。指定行数を超える行は出力されません。ただし、0 を指定した場合は表データの行数を制限しません。この場合、大量の表データが含まれるレポートに対して [レポート印刷] 画面を表示しようとすると、ブラウザがハングアップすることがあります。詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」の、レポート表示時の注意事項について説明している箇所を参照してください。</p>

(凡例)

dd：日

MM：月

yyyy：年

注※1

jpcrpt コマンドを 1 回実行したときに出力されるログファイルのサイズ、1 日当たりの jpcrpt コマンド実行回数、jpcrpt コマンド実行後に実行結果を確認するまでの日数から、必要となるログファイルの数とログファイルのサイズを決めてください。

注※2

デフォルトの初期設定ファイルでは、コメント扱いになっています。デフォルト値を変更する場合は、コメント扱いの状態を解除し、適切な値を指定してください。

注※3

リポジトリの詳細は、「5.3.2 ブックマークの定義情報を保存するリポジトリ」を参照してください。

注※4

Tuning Manager server と PFM - Manager は、常に TCP/IP を使用して通信するため、通信可能なホスト名または IP アドレスを設定する必要があります。設定しない場合、Tuning Manager server ホスト名または PFM - Manager ホスト名から最初に解決される IP アドレスが使用されます。

例えば、次のような構成および運用の場合に設定が必要です。

- PFM - Manager ホストが業務用 LAN、監視用 LAN の 2 つのネットワークに接続され、Tuning Manager server が監視用 LAN でホスト間通信する場合
- ホストのメンテナンス作業の際、一時的に NIC から LAN ケーブルを抜く場合
このとき、NIC に割り当てられた IP アドレスが無効になることがあります。

5.3.1 初期設定ファイル (config.xml) に指定する日付の形式

日付の表示形式は、ブラウザの「ロケール設定」によってデフォルトの日付フォーマットが設定されています。

Performance Reporter の場合、ロケール設定に合わせてデフォルトでは次の表に示す表示形式になります。

表 5-2 ロケール設定に対応した日付の表示形式 (デフォルト状態の Performance Reporter での表示)

ロケール設定	Performance Reporter での日付の表示形式
en_US	MM△dd△yyyy
en	dd△MM△yyyy
ja または ja_JP	yyyy△MM△dd
上記以外のロケール	dd△MM△yyyy

(凡例)

dd : 日

MM : 月

yyyy : 年

△ : 区切り文字。デフォルトでは、スペースを示します。

日付の表示形式 (年月日の表示順序, 区切り文字) は、初期設定ファイル (config.xml) を編集することで変更できます。これによって、ロケール設定に依存しないで表示形式を固定にしたり、特定のロケール設定のときにユーザーが意図する表示形式にしたりできます。

表示形式は、初期設定ファイル (config.xml) の format タグ内に pattern (年月日の表示順序), separator (区切り文字), locale といったパラメーターを記述することで変更できます。

(1) 日付の表示形式のタグ指定

日付の表示形式を初期設定ファイル (config.xml) に設定する場合、次の表に示すタグを使用します。

表 5-3 日付の表示形式のタグ一覧

タグ	属性	内容
format	—	日付の表示形式を指定するルートタグを示します。
locale-format	—	ロケールと、ロケールに対応するパターンおよびセパレーターを定義します。 locale-format タグ内では、次のタグが使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • date-format • locale • locale-format locale タグを省略すると、locale-format タグの指定は無効となります。
modify-format	—	指定したロケールに対応するパターンおよびセパレーターを変更する場合に指定します。 modify-format タグ内では、次のタグが使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • date-format • locale
date-format	—	パターンとセパレーターを指定します。format タグ直下で date-format タグと selectFormat タグを両方指定している場合は、date-format タグの指定が優先されます。
	pattern	指定値を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • pattern-MMddyyyy • pattern-ddMMyyyy • pattern-yyyyMMdd
	separator	指定値を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • space • slash • hyphen • period 指定を省略した場合、次に示すデフォルト値となります。 <ul style="list-style-type: none"> • format タグ直下 space • locale-format タグ直下 その locale-format タグのベースフォーマットパターンのセパレーター • modify-format タグ直下 なし
	export-separator	指定値は、separator と同じです。
locale	—	ロケールを指定します。

(凡例)

- : 該当しない
- dd : 日
- MM : 月
- yyyy : 年

(2) 日付の表示形式の指定例

各タグを使用した config.xml の記述例を次に示します。

デフォルトで定義された日付の表示形式の変更

ロケールが「en_US」、「en」、「ja または ja_JP」以外である場合に適用される日付の表示形式の変更方法を (例 1) に示します。

(例 1)

日付フォーマットのパターンに「pattern-MMddyyyy」を指定します。

ロケールが「en_US」、「en」、「ja または ja_JP」以外の場合、日付は「MM dd yyyy」と表示されます。

```
<format>
  <param name="selectFormat" value="pattern-MMddyyyy"/>
</format>
```

ロケールに合わせた日付の表示形式の変更

ロケールに適用される日付の表示形式の定義方法を (例 1) (例 2) に示します。

(例 1)

ロケールが「en_US」、「en」、「ja または ja_JP」の場合の日付フォーマットのパターンを「pattern-MMddyyyy」、セパレーターを「slash」として日付の表示形式を定義します。また、ロケールが「en_ZA」の場合の日付フォーマットのパターンを「pattern-yyyyMMdd」として日付の表示形式を定義します。

ロケールが「en_US」、「en」、「ja または ja_JP」の場合、日付は「MM/dd/yyyy」と表示されます。

ロケールが「en_ZA」の場合、日付は「yyyy/MM/dd」と表示されます。なお、セパレーターは、ロケール「en_ZA」で定義していないため、ロケールが「en_US」、「en」、「ja または ja_JP」で適用されている「slash」が適用されます。

```
<format>
  <data-format pattern="pattern-MMddyyyy" separator="slash"/>
  <locale-format>
    <date-format pattern="pattern-yyyyMMdd" />
    <locale>en_ZA</locale>
  </locale-format>
</format>
```

(例 2)

ロケールが「en_US」、「en」、「ja または ja_JP」の場合の日付フォーマットのパターンを「pattern-MMddyyyy」として日付の表示形式を定義します。また、ロケールが「en_ZA」の場合の日付フォーマットのパターンを「pattern-yyyyMMdd」、セパレーターを「hyphen」、CSV 出力時のセパレーターを「slash」として日付の表示形式を定義します。さらにこの定義の中にロケール「ja」を定義します。

ロケールが「en_US」、「en」、「ja_JP」の場合、日付は「MM dd yyyy」と表示されます。

ロケールが「en_ZA」の場合、日付は「yyyy-MM-dd」と表示されます。また、CSV 出力時の日付は「yyyy/MM/dd」と表示されます。

ロケールが「ja」の場合、親に当たる「en_ZA」の表示形式と同じになります。

```
<format>
  <date-format pattern="pattern-MMddyyyy"/>
  <locale-format>
    <date-format pattern="pattern-yyyyMMdd"/>
    <locale>en_ZA</locale>
    <locale-format>
      <date-format separator="hyphen"
        export-separator="slash"/>
      <locale>ja</locale>
    </locale-format>
  </locale-format>
</format>
```

ロケールの定義を重複して定義した場合の動作

ロケールの定義を重複して定義した場合、最後に定義された内容が有効となります。(例 1) に示します。

(例 1)

最後に定義された内容が有効となり、ロケールが「en_ZA」の場合、日付は「MM/dd/yyyy」と表示されます。

```
<format>
  <date-format pattern="pattern-MMddyyyy" export-separator="slash"/>
  <locale-format>
    <date-format pattern="pattern-yyyyMMdd"/>
    <locale>en_ZA</locale>
    <locale-format>
      <date-format separator="hyphen" />
      <locale>en_ZA</locale>
    </locale-format>
  </locale-format>
  <locale-format>
    <date-format separator="slash"/>
    <locale>en_ZA</locale>
  </locale-format>
</format>
```

定義済みの日付フォーマットのパターンを利用した差分変更

modify-format タグを指定することで、定義済みの日付フォーマットのパターンからの差分変更ができます。定義方法を(例 1) から(例 3) に示します。

(例 1)

ロケールが「en_US」、「en」、「ja または ja_JP」の場合の CSV 出力時のセパレーターを「slash」として定義します。

ロケールが「en_US」、「en」、「ja または ja_JP」の場合、日付の表示形式はそれぞれで定義された形式(「表 5-2 ロケール設定に対応した日付の表示形式(デフォルト状態の Performance Reporter での表示)」を参照)で表示されますが、CSV 出力時の区切り文字は「/」で統一されます。

```
<format>
  <modify-format>
    <date-format export-separator="slash"/>
  </modify-format>
</format>
```

(例 2)

ロケールが「en」、「ja」、「de」の場合の CSV 出力時のセパレーターを「slash」として定義します。

この場合、ロケールが「en」、「ja」の場合、定義が有効になりますが、「de」の場合、定義されていないロケールのため、定義が無視されます。

```
<format>
  <modify-format>
    <date-format export-separator="slash"/>
    <locale>ja</locale>
    <locale>en</locale>
    <locale>de</locale>
  </modify-format>
</format>
```

(例 3)

ロケールが「en」、「ja」、「de」の場合の CSV 出力時のセパレーターを「slash」として定義します。また、ロケールが「ja」の場合のセパレーターを「hyphen」と定義します。

この場合、順に定義内容が上書きされ、ロケールが「ja」の場合、日付の表示形式は「yyyy-MM-dd」となり、CSV出力時には「yyyy/MM/dd」となります。また、ロケールが「en」の場合、日付の表示形式は「表 5-2 ロケール設定に対応した日付の表示形式（デフォルト状態の Performance Reporter での表示）」のとおりに「dd MM yyyy」で、CSV出力時には定義したとおりに「dd/MM/yyyy」となります。なお、ロケールが「de」の場合、定義されていないロケールのため、定義が無視されます。

```
<format>
  <modify-format>
    <date-format export-separator="hyphen"/>
    <locale>ja</locale>
    <locale>en</locale>
    <locale>de</locale>
  </modify-format>
</format>
```

5.3.2 ブックマークの定義情報を保存するリポジトリ

ブックマークやブックマークフォルダの構成情報は、OS のファイルシステム上にフラットファイルとして保管されます。これをリポジトリと呼びます。インストール時に作成されるデフォルトのリポジトリの格納先を次に示します。

Windows の場合：

```
<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter*%
%bookmarks
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter*/bookmarks
```

Linux の場合：

```
<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/
bookmarks
```

注※

Performance Reporter をクラスタシステムで論理ホスト運用している場合、環境ディレクトリになります。「環境ディレクトリ」とは、Tuning Manager server で論理ホスト環境をセットアップするときに、共有ディスク上に作成するディレクトリです。

(1) リポジトリの格納先の変更

ブックマークのリポジトリを保存するディレクトリは、初期設定ファイル (config.xml) の bookmarkRepository で変更できます。変更した値を有効にするためには、Performance Reporter のサービスを再起動する必要があります。

初期設定ファイルのパラメーターについては、「表 5-1 初期設定ファイル (config.xml) に設定する項目」を参照してください。初期設定ファイルの編集手順については、Windows の場合は「5.3.5 初期設定ファイルの編集 (Windows)」を、Solaris の場合は「5.3.6 初期設定ファイルの編集 (Solaris)」を、Linux の場合は「5.3.7 初期設定ファイルの編集 (Linux)」を参照してください。

Performance Reporter のサービス起動時に初期設定ファイル (config.xml) で指定したディレクトリがない場合、そのディレクトリが自動で作成されます。

注意

論理ホストで運用している場合は、実行系ノードと待機系ノードで、同じ格納先ディレクトリを設定する必要があります。

(2) リポジトリファイルの破損

ブックマークのリポジトリは、複数のファイルで構成されます。このため、リポジトリ情報を作成、更新、または削除している最中に異常が発生し、処理が続けられなくなると、リポジトリファイルの整合性が失われてしまう場合があります。この場合、破損した情報が修復または廃棄され、ログが出力されてシステムが再起動します。

修復または廃棄している過程でブックマークの情報の一部が失われてしまうことがあります。このような場合、ブックマークのリポジトリ情報をバックアップからリストアして、バックアップ時の状態に戻せます。

(3) リポジトリファイルのバックアップとリストア

運用中にブックマーク情報の一部が失われてしまうことがあります。リポジトリファイルの破損によってブックマーク情報が失われることを防ぐため、ブックマーク情報を編集するたびに、必要に応じてブックマークのリポジトリ情報をバックアップすることをお勧めします。バックアップしたブックマークのリポジトリ情報をリストアすることで、バックアップ時の状態に戻せます。

ブックマークのリポジトリ情報をバックアップまたはリストアする場合、必ず **Performance Reporter** のサービスを停止したあと、ファイルやディレクトリを手動でコピーし、任意の場所に保存してください。ただし、ブックマークのリポジトリ情報はディレクトリ構成も情報の一部であるため、ファイルやディレクトリの一部だけでなく、ブックマークのリポジトリ情報を格納しているディレクトリ全体を一括バックアップおよび一括リストアする必要があります。

また、ブックマークの運用中にリポジトリ情報の格納先ディレクトリを変更した場合、新しい格納先ディレクトリに変更前のリポジトリ情報を引き継がせるためには、必ず **Performance Reporter** のサービスを停止したあと、変更前のディレクトリからリポジトリ情報ファイルを手動でコピーしてください。

注意

ブックマークのリポジトリ情報ファイルは、複数のファイルで構成されます。このため、リポジトリ情報ファイルを作成、更新、または削除している最中に異常が発生し、処理が続けられなくなると、リポジトリ情報ファイルの整合性が失われてしまう場合があります。この場合、破損した情報を修復または廃棄し、出力されたログを確認してください。

(4) アンインストール時のリポジトリファイルの管理

アンインストール時のリポジトリの格納先ディレクトリをデフォルトのディレクトリから変更していない場合、格納先ディレクトリもリポジトリファイルも自動で削除されます。格納先ディレクトリを変更している場合は、自動的に削除されないため、必要に応じて手動で削除してください。

5.3.3 リアルタイムレポート表示時のデータキャッシュ

リアルタイムレポート表示時に使われるデータキャッシュに影響する項目の設定について、次に示します。

- リアルタイムレポートを自動更新するリクエスト間隔の制限時間は、`config.xml` の「`realtimeCacheInterval`」で設定します。

このため、リクエスト間隔の制限時間内に次のリクエストが出せなかった場合、サーバやエージェントの処理が停止してしまうことがあります。サーバやエージェントでの処理が停止したあとに、リアルタイムレポートからの更新処理のリクエストが送信されると、エラーとなります。エージェントのインスタンス数が多いことによって、収集するレコード数が多くなった場合、リアルタイムレポート表示画面にエラーメッセージ (KAVJS4012-E) が表示されます。このようなエラーが頻繁に発生するときは、「`realtimeCacheInterval`」の時間を長くすることでエラーを少なくできます。ただし、「`realtimeCacheInterval`」が長過ぎると、サーバやエージェン

トの処理が長く残ることになり、サーバやエージェントの処理が込み合い、レポートを描画する処理全体としての速度の低下につながるおそれがあるため、注意してください。

- リアルタイムレポートごとにデータをキャッシュに保存する最大レコード数は、config.xml の「maxRealtimeCache」で設定します。

「maxRealtimeCache」は、1つのリアルタイムレポート表示に対して取得するデータのレコード数を1以上、360以下の整数で設定します。エージェントから自動送信されるデータの送信数が設定した範囲を超えた場合、次のデータを受信すると、最も古いデータが廃棄され、最新のデータをキャッシュに挿入します。

5.3.4 初期設定ファイルのファイル例

初期設定ファイル (config.xml) のファイル例を次に示します。

初期設定ファイル (config.xml) のファイル例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<!DOCTYPE application SYSTEM "config.dtd">
<!--
 * Title: Performance Reporter Configuration File
 * Copyright: Copyright (c) 2003, 2013, Hitachi, Ltd.
 * Licensed Material of Hitachi, Ltd. Reproduction, use, modification or
disclosure
 otherwise than permitted in the License Agreement is strictly
prohibited.
 * Note: Original
 * Version: 7.5.0
 * $Revision: 1 $
 * $Modtime: 13/03/12 10:25 $
-->

<application name="PerformanceReporter">

  <logging>

    <!-- Path of log files directory -->
    <param name="logDir" value=""/>

    <!-- Maximum number of log files
         Specifiable values: 1 to 16
         Default                : 10
    -->
    <param name="logFileNumber" value="10"/>

    <!-- Size of a log file (unit: MB=1024x1024byte)
         Specifiable values: 1 to 100
         Default                : 4
    -->
    <param name="logFileSize" value="4"/>

    <!-- Maximum number of log files
         This parameter affects only jpcrpt command log.
         Specifiable values: 1 to 64
         Default                : 10
    -->
    <param name="logFileNumberMulti" value="10"/>

    <!-- Size of a log file (unit: MB=1024x1024byte)
         This parameter affects only jpcrpt command log.
         Specifiable values: 1 to 16
         Default                : 4
    -->
    <param name="logFileSizeMulti" value="4"/>

    <!-- Logging level of a log file
         Specifiable values: FATAL/WARN/DEBUG/TRACE
         Default                : WARN
    -->
```

```

        <param name="logLevel" value="WARN"/>
</logging>

<export>
  <!-- lineSeparator
        Specifiable values: CRLF,LF
        Default              : CRLF
  -->
  <param name="lineSeparator" value="CRLF"/>

  <!-- characterCode
        Specifiable values: US-
ASCII, windows-1252, ISO-8859-1, UTF-8, UTF-16, UTF-16BE, UTF-16LE, Shift_JIS, EU
C-JP, EUC-JP-LINUX, MS932
  -->
  <param name="characterCode" value=""/>

  <!-- Export filename -->
  <param name="csvFileName" value="Export.csv"/>
</export>

<vsa>
  <vserver-connection>
    <!-- The host computer name to which PFM View Server
operates. -->
    <!--
    <param name="host" value="localhost"/>
    -->

    <!-- The port number which PFM View Server uses.
        Specifiable values: 1024 to 65535
        Default              : 22286
    -->
    <param name="port" value="22286"/>

    <!-- The callback port number which Performance Reporter
service uses.
        Specifiable values: 1024 to 65535
        Default              : N/A
    -->
    <!--
    <param name="ownPort" value=""/>
    -->

    <!-- The callback port number which Performance Reporter
command uses.
        Specifiable values: 1024 to 65535
        Default              : N/A
    -->
    <!--
    <param name="ownCmdPort" value=""/>
    -->

    <!-- The callback hostname which PFM View Server uses. -->
    <!--
    <param name="ownHost" value=""/>
    -->

  </vserver-connection>

  <!-- The maximum limits of the records.
        Specifiable values: 1 to 2,147,483,647
        Default              : 1,440
  -->
  <param name="maxFetchCount" value="1440"/>

  <!-- The maximum caches of the print windows.
        Specifiable values: 5 to 20
        Default              : 20
  -->
  <param name="printCacheSize" value="10"/>

```

```

<!-- The maximum print window output table rows.
      Specifiable values: 0 to 15,000
      Default              : 0
-->
<param name="printTableMaxRowSize" value="15000"/>

<!-- Reduce amount of virtual memory used when displaying
reports.
      Specifiable values: true,false
      Default              : false
-->
<param name="memoryReductionMode" value="false"/>

<!-- The display count per a page.
      Specifiable values: 1 to 2,147,483,647
      Default              : 20
-->
<param name="displayCountPerPage" value="20"/>

<!-- Maximum data receiving count per report.
      Specifiable values: 1 to 360
      Default              : 30
-->
<param name="maxRealtimeCache" value="30"/>

<!-- Maximum data receiving interval per report. (unit: ms)
      Specifiable values: 60000 to 3600000
      Default              : 600000
-->
<!--
<param name="realtimeCacheInterval" value="600000"/>
-->

<!-- The auto refresh interval. (unit: s)
      Specifiable values: 10 to 3600
      Default              : 60
-->
<param name="updateInterval" value="60"/>

<!-- The login session timeout which Performance Reporter
service uses. (unit: s)
      Specifiable values: 0 to 86400
      Default              : 4000
-->
<param name="sessionTimeout" value="4000"/>

<!-- The range extension for condition expression definitions
using ulong fields.
      Specifiable values: true,false
      Default              : false
-->
<param name="condExpValueUlongExtension" value="false"/>

<!-- Maximum series label length.
      Specifiable values: 1 to 1024
      Default              : 30
-->
<param name="maxSeriesLabelLength" value="30"/>

<!-- The Switch of the divided data receivable.
      Specifiable values: true or false
      Default              : true
-->
<param name="blockTransferMode" value="true"/>

<!-- Exponential display for scales of graph.
      Specifiable values: true,false
      Default              : true
-->
< param name="exponentialDisplayMode" value="true"/>

```

```

<report-cachefile-mode>
    <!-- The directory where reportCache files is stored.
           Default           : <install directory>%reportcache
    -->
    <!--
    <param name="reportCacheFileDir" value=""/>
    -->

    <!-- graph Report Max ReportDataSize.
           Specifiable values: 1 to 2,000,000
    -->
    <param name="graphMaxReportData" value="2000000"/>
</report-cachefile-mode>

<format>
<!-- Format set is specified.
           Specifiable values : pattern-ddMMyyyy,pattern-
MMddyyyy,pattern-yyyyMMdd
    -->
    <param name="selectFormat" value=""/>
</format>

<bookmark>
    <!-- The directory where bookmark repository is stored.
           Default           : <install directory>%bookmarks
    -->
    <!--
    <param name="bookmarkRepository" value=""/>
    -->
</bookmark>

<health-check>
    <!-- Priority of Health check.
           Specifiable values: HOST or AGENT
           Default           : HOST
    -->
    <param name="priority" value="HOST">
</health-check>

<graph-collection-points>

    <!-- Display legend count
           Specifiable values: 1 to 43
           Default           :14
    -->
    <param name="displayLegendCount" value="14"/>
</graph-collection-points>

</vsa>

<draw>
<chart-symbolColors>
    <!-- series color for graph.
           Possible to set, color1 to color16.
           Set RGB color, R, G and B can be set delimits by comma.
           Specifiable values: 0 to 255
    -->

    <!-- dark orange -->
    <param name="color1" value="235,143,21"/>

    <!-- dark red -->
    <param name="color2" value="204,0,0"/>

    <!-- dark green -->
    <param name="color3" value="102,153,0"/>

    <!-- dark blue -->
    <param name="color4" value="0,102,255"/>

```

```

<!-- dark violet -->
<param name="color5" value="102,0,255"/>

<!-- dark pink -->
<param name="color6" value="255,51,153"/>

<!-- light orange -->
<param name="color7" value="255,185,0"/>

<!-- light red -->
<param name="color8" value="255,17,17"/>

<!-- light green -->
<param name="color9" value="136,204,0"/>

<!-- light blue -->
<param name="color10" value="71,145,255"/>

<!-- light violet-->
<param name="color11" value="134,51,255"/>

<!-- light pink -->
<param name="color12" value="255,149,246"/>

<!-- Not use Color Number at Graph type Circle.
      Possible multiple number, set delimits by comma.
      Specifiable values: 0 to 16
      Default             : 0
-->
<!--
<param name="noUseCircleColor" value=""/>
-->
<!--
      sample setting pattern,
      colors are used before Performance Reporter 07-21.
      color1             : red
      color2             : orange
      color3             : blue
      color4             : light gray
      color5             : magenta
      color6             : yellow
      color7             : gray
      color8             : lime
      color9             : dark gray
      color10            : cyan
      color11            : black
      color12            : pink
      not use Color Number at Graph type Circle.
      : color1
-->
<!--
<param name="color1" value="255,0,0"/>

<param name="color2" value="255,200,0"/>

<param name="color3" value="0,0,255"/>

<param name="color4" value="192,192,192"/>

<param name="color5" value="255,0,255"/>

<param name="color6" value="255,255,0"/>

<param name="color7" value="128,128,128"/>

<param name="color8" value="0,255,0"/>

<param name="color9" value="64,64,64"/>

<param name="color10" value="0,255,255"/>

<param name="color11" value="0,0,0"/>

```

```

<param name="color12" value="255,175,175"/>
<param name="noUseCircleColor" value="1"/>
-->
</chart-symbolColors>
<!-- Symbol Size of line graph.
     Specifiable values: LARGE, MEDIUM, SMALL, AUTO
     Default              :MEDIUM
-->
<param name="lineSymbolSize" value="MEDIUM"/>
<!-- legend Series Order or Horizontal Bar.
     Specifiable values: FORWARD, REVERSE
     Default              :REVERSE
-->
<param name="legendSeriesOrderForHBar" value="REVERSE"/>
<!-- Using enable auto label in default graph option settings.
     Specifiable values: true or false
     Default              :false
-->
<param name="enableAutoLabelAtDefaultDisp" value="false"/>
<!-- Maximum Integer Digits for auto label.
     Specifiable values: 1 to 14
     Default              :7
-->
<param name="autoLabelMaxIntegerDigits" value="7"/>
<!-- Maximum Fraction Digits for auto label.
     Specifiable values: 1 to 6
     Default              :3
-->
<param name="autoLabelMaxFractionDigits" value="3"/>
<!-- Maximum Truncate Length for auto label.
     Specifiable values: 0 to 2,147,483,647
     Default              :0
-->
<param name="autoLabelTruncateLength" value="0"/>
<!-- Maximum plot data for auto label.
     Specifiable values: 1 to 2000
     Default              :1440
-->
<param name="maxAutoLabelPoints" value="1440"/>
<!-- Displayed on the foreground for combination Graph.
     Specifiable values: 3DBAR, LINE
     Default              :3DBAR
-->
<param name="foregroundCombinationGraph" value="3DBAR"/>
<!-- Displayed maximum fraction digits for data label.
     Specifiable values: 0 to 15
     Default              :0
-->
<param name="precision" value="3"/>
<!--displayed append comma in Number for data label.
     Specifiable values: true or false
     Default              :false
-->
<param name="appendCommaDisplayedForNum" value="false"/>
<!-- Use anti-aliasing to generate a graph of an area does not
contain.
     Specifiable values : true or false
     Default              : true

```

```

-->
  <param name="enableAntiAliasForNonAreaGraph" value="true"/>
</draw>

<command>
  <export>
    <!-- The maximum limits of the records.
          Specifiable values: 1 to 2,147,483,647
          Default           : The value of maxFetchCount of the
<vsa> tag is applied.
    -->
    <param name="maxFetchCount" value="1440"/>
  </export>
</command>
</application>

```

DTD ファイル (config.dtd) のファイル例を次に示します。

DTD ファイル (config.dtd) のファイル例

```

<!--
* Title: Performance Reporter Configuration File DTD
* Copyright: Copyright (c) 2003, 2013, Hitachi, Ltd.
* Licensed Material of Hitachi, Ltd. Reproduction, use, modification or
disclosure
  otherwise than permitted in the License Agreement is strictly
prohibited.
* Note:
* Version: 7.5.0
* $Revision: 1 $
* $Modtime: 13/03/12 10:05 $
-->

<!ELEMENT application (logging,export,vsa,draw?,command?,common?)>
  <!ATTLIST application name ID #REQUIRED>
<!ELEMENT param (#PCDATA)>
  <!ATTLIST param name CDATA #REQUIRED>
  <!ATTLIST param value CDATA #REQUIRED>

<!-- common parameters -->
<!ELEMENT common (param*)>

<!-- logging parameters -->
<!ELEMENT logging (param+|separately?)* >
<!ELEMENT separately (param*)>

<!-- export parameters -->
<!ELEMENT export (param*)>

<!-- vsa parameters -->
<!ELEMENT vsa (vserver-connection,param*,vsa-factory?,report-cachefile-
mode?,format,bookmark?,
  service-agent-collector-node?,service-agent-store-node?,
  health-check?,function-switch?,graph-collection-points?)>
<!ELEMENT vserver-connection (param*)>
<!ELEMENT vsa-factory (param*)>
<!-- report-Cachefile-mode -->
<!ELEMENT report-cachefile-mode (param*)>
<!ELEMENT format (param?,date-format?,locale-format*,modify-format*)>
<!ELEMENT date-format (#PCDATA)>
  <!ATTLIST date-format
    pattern (pattern-yyyyMMdd |
            pattern-ddMMyyyy |
            pattern-MMdyyyyy ) #IMPLIED
    separator (space |
              slash |
              hyphen |
              period ) #IMPLIED
    export-separator (space |
                     slash |
                     hyphen |
                     period ) #IMPLIED>

```

```

<!ELEMENT locale-format (date-format?,locale*,locale-format*)>
<!ELEMENT locale (#PCDATA)>
<!ELEMENT modify-format (date-format?,locale*)>

<!--bookmark parameters -->
<!ELEMENT bookmark (param*)>

<!--service agent node -->
<!ELEMENT service-agent-collector-node (param*)>
<!ELEMENT service-agent-store-node (param*)>

<!--health check-->
<!ELEMENT health-check (param*)>

<!--function-switch-->
<!ELEMENT function-switch (agent-icon?)>
<!ELEMENT agent-icon (param*)>

<!-- collection-points -->
<!ELEMENT graph-collection-points (param*)>

<!-- command parameters -->
<!ELEMENT command (export?)>

<!-- draw parameters -->
<!ELEMENT draw (chart-symbolColors|chart-style|error-image|param)*>
<!ELEMENT chart-symbolColors (param*)>
<!ELEMENT chart-style (param*)>
  <!ATTLIST chart-style id CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT error-image (param*)>
  <!ATTLIST error-image id CDATA #REQUIRED>

```

5.3.5 初期設定ファイルの編集 (Windows)

1. 初期設定ファイルを編集します。
初期設定ファイル (config.xml) が格納されているフォルダは、<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%conf です。
2. Tuning Manager server の画面を表示している場合は、終了します。
3. hcmdssrv コマンドを使って Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービスを停止します。
4. hcmdssrv コマンドを使って Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービスを起動します。
5. Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。
6. グローバルタスクバーで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
初期設定ファイル (config.xml) を編集した設定が反映されます。

初期設定ファイル (config.xml) の設定する項目とファイル例については、「[5.3.4 初期設定ファイルのファイル例](#)」を参照してください。

hcmdssrv コマンドの詳細については、「[1.4.1 サービスを起動する](#)」および「[1.5.1 サービスを停止する](#)」を参照してください。

注意

- ・初期設定ファイル (config.xml) は、「[表 5-1 初期設定ファイル \(config.xml\) に設定する項目](#)」で説明した以外の個所を変更すると、Performance Reporter が正常に動作しない場合がありますので、注意してください。
- ・クラスタシステムで運用している場合、Performance Reporter サービスは、クラスタソフトから再起動してください。

・バージョンアップによって、初期設定ファイルの構造が変わる可能性があります。バージョンアップ後に、次に示す手順で、初期設定ファイル (config.xml) の編集内容を新しい初期設定ファイルに反映してください。

- a. <Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%conf¥config.xml と「5.3 Performance Reporter の初期設定」の内容を比較して<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%conf¥config.xml への編集内容を確認します。
- b. <Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%conf¥config.xml のバックアップを取ります。
- c. <Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter¥sample¥conf¥config.xml を、<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%conf¥config.xml に上書きコピーします。
- d. 手順 a で確認した編集内容を新しい<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%conf¥config.xml に反映します。

5.3.6 初期設定ファイルの編集 (Solaris)

1. 初期設定ファイルを編集します。
初期設定ファイル (config.xml) が格納されているディレクトリは、/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/conf です。
2. Tuning Manager server の画面を表示している場合は、終了します。
3. hcmdssrv コマンドを使って Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービスを停止します。
hcmdssrv コマンドを実行すると、Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービス停止処理が完了する前に、hcmdssrv コマンドが終了します。コマンドを実行したあと、十分に時間を空けてから、次の操作を実行してください。
4. hcmdssrv コマンドを使って Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービスを開始します。
hcmdssrv コマンドを実行すると、Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービス起動処理が完了する前に、hcmdssrv コマンドが終了します。コマンドを実行したあと、十分に時間を空けてから、次の操作を実行してください。
5. Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。
6. グローバルタスクバーで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
初期設定ファイル (config.xml) を編集した設定が反映されます。

初期設定ファイル (config.xml) の設定する項目とファイル例については、「5.3.4 初期設定ファイルのファイル例」を参照してください。

hcmdssrv コマンドの詳細については、「1.4.1 サービスを起動する」および「1.5.1 サービスを停止する」を参照してください。

注意

- ・初期設定ファイル (config.xml) は、「表 5-1 初期設定ファイル (config.xml) に設定する項目」で説明した以外の個所を変更すると、Performance Reporter が正常に動作しない場合がありますので、注意してください。
- ・クラスタシステムで運用している場合、Performance Reporter サービスは、クラスタソフトから再起動してください。

・バージョンアップによって、初期設定ファイルの構造が変わる可能性があります。バージョンアップ後に、次に示す手順で、初期設定ファイル (config.xml) の編集内容を新しい初期設定ファイルに反映してください。

- a. /opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/conf/config.xml と「5.3 Performance Reporter の初期設定」の内容を比較して/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/conf/config.xml への編集内容を確認します。
- b. /opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/conf/config.xml のバックアップを取ります。
- c. /opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/sample/conf/config.xml を、/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/conf/config.xml に上書きコピーします。
- d. 手順 a で確認した編集内容を新しい/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/conf/config.xml に反映します。

5.3.7 初期設定ファイルの編集 (Linux)

1. 初期設定ファイルを編集します。
初期設定ファイル (config.xml) が格納されているディレクトリは、<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/conf です。
2. Tuning Manager server の画面を表示している場合は、終了します。
3. hcmdssrv コマンドを使って Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービスを停止します。
hcmdssrv コマンドを実行すると、Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービス停止処理が完了する前に、hcmdssrv コマンドが終了します。コマンドを実行したあと、十分に時間を空けてから、次の操作を実行してください。
4. hcmdssrv コマンドを使って Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービスを開始します。
hcmdssrv コマンドを実行すると、Tuning Manager server のサービスおよび、Performance Reporter のサービス起動処理が完了する前に、hcmdssrv コマンドが終了します。コマンドを実行したあと、十分に時間を空けてから、次の操作を実行してください。
5. Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。
6. グローバルタスクバーで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
初期設定ファイル (config.xml) を編集した設定が反映されます。

初期設定ファイル (config.xml) の設定する項目とファイル例については、「5.3.4 初期設定ファイルのファイル例」を参照してください。

hcmdssrv コマンドの詳細については、「1.4.1 サービスを起動する」および「1.5.1 サービスを停止する」を参照してください。

注意

- ・初期設定ファイル (config.xml) は、「表 5-1 初期設定ファイル (config.xml) に設定する項目」で説明した以外の個所を変更すると、Performance Reporter が正常に動作しない場合がありますので、注意してください。
- ・バージョンアップによって、初期設定ファイルの構造が変わる可能性があります。バージョンアップ後に、次に示す手順で、初期設定ファイル (config.xml) の編集内容を新しい初期設定ファイルに反映してください。

- a. <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/conf/config.xml と「5.3 Performance Reporter の初期設定」の内容を比較して <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/conf/config.xml への編集内容を確認します。
- b. <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/conf/config.xml のバックアップを取ります。
- c. <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/sample/conf/config.xml を、 <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/conf/config.xml に上書きコピーします。
- d. 手順 a で確認した編集内容を新しい<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/conf/config.xml に反映します。

5.4 Performance Reporter の起動時に開く画面の変更方法

Performance Reporter には、次の 2 つの起動方法があります。

- エージェントが指定されない状態で、グローバルメニューの [起動] から Performance Reporter を起動します。
- エージェントが指定された状態で、インフォメーションエリアから Performance Reporter を起動します。

エージェントを指定してインフォメーションエリアから起動する場合、Performance Reporter の [メイン] 画面を表示するか、または [レポートツリー選択] 画面を表示するかを指定できます。デフォルトでは、[レポートツリー選択] 画面を表示する設定になっています。

図 5-1 Performance Reporter の [メイン] 画面を表示した場合



図 5-2 Performance Reporter の [レポートツリー選択] 画面を表示した場合



Performance Reporter の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。

起動画面の変更方法を次に示します。

1. Tuning Manager server を停止します。
Tuning Manager server の停止方法については、「[1.5 サービスの停止](#)」を参照してください。
2. user.properties ファイルをテキストエディターで開きます。
user.properties ファイルは次に格納されています。

Windows の場合：

`<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>\inst\user.properties`

Solaris の場合：

`/opt/HiCommand/TuningManager/inst/user.properties`

Linux の場合：

`<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/inst/user.properties`

3. user.properties ファイルに pr.incontextlaunch.mode の項目を追加します。
表示する Performance Reporter の画面を [メイン] 画面にする場合、次のように追加します。
`pr.incontextlaunch.mode=main`
user.properties ファイルの詳細については、「[1.6 ユーザープロパティファイルの設定について](#)」を参照してください。
4. Tuning Manager server を再起動します。
Tuning Manager server の起動方法については、「[1.4 サービスの起動](#)」を参照してください。

エージェント, Device Manager からのデータ取得

この章では, エージェントおよび Device Manager からのデータ取得 (ポーリング) 機能とデータ取得の設定方法について説明します。データ取得の設定には, Admin 権限が必要です。データ取得の設定をする際には, Admin 権限を持ったユーザーでログインしてください。

- 6.1 Tuning Manager server のデータ取得 (ポーリング)
- 6.2 エージェントの管理と設定
- 6.3 ポーリング設定
- 6.4 データ保持期間
- 6.5 システムレポート
- 6.6 モデルをアップグレードした HUS100 シリーズまたは Hitachi AMS2000 シリーズを監視する場合の注意事項

6.1 Tuning Manager server のデータ取得（ポーリング）

Tuning Manager server は、エージェント、Device Manager から情報を取得し、Tuning Manager server のデータベースに格納します。この機能を**ポーリング**といいます。

ポーリングは、スケジュールを設定して自動実行することも、任意のタイミングで手動実行することもできます。ポーリングを実行すると、取得したデータの集約、データ保持期間を過ぎたデータのデータベースからの削除、システムアラートの発行など一連の処理が実行されます。

この節では、ポーリングを実行したときにエージェントおよび Device Manager から取得される情報について説明します。また、仮想環境の監視および Agent-less モードでホスト監視をするために必要な、データ取得を含めた運用手順についても説明します。なお、このマニュアルでは、ポーリングの対象となるエージェントおよび Device Manager を総称して、**情報取得元**と記載しています。

6.1.1 情報取得元から取得する情報

ポーリングを実行すると、情報取得元に蓄積されている情報が取得され、Tuning Manager server のデータベースに格納されます。ポーリング実行時に収集の対象となるデータは、システムの構成に関する情報とデータ容量に関する情報です。

構成情報および容量情報を取得する情報取得元と、それぞれの情報取得元が監視するリソースについて、次の表に示します。

表 6-1 情報取得元と監視対象リソースの関係

監視するリソース		構成情報の情報取得元	容量情報の情報取得元
ストレージシステム	CLPR または SLPR	HTM - Agent for RAID	HTM - Agent for RAID
	プロセッサ	HTM - Agent for RAID	なし
	Dynamic Provisioning のプールおよび Dynamic Provisioning のボリューム	Device Manager	HTM - Agent for RAID
	上記以外	Device Manager	Device Manager
ハイパーバイザー	仮想環境	Device Manager	Device Manager
ホスト（Agent モードの場合）※	OS	PFM - Agent for Platform	PFM - Agent for Platform
	ファイルシステム デバイスファイル	HTM - Storage Mapping Agent	PFM - Agent for Platform
ホスト（Agent-less モードの場合）※	OS	Device Manager	なし
	ファイルシステム デバイスファイル	Device Manager	なし
ファブリック	スイッチ	HTM - Agent for SAN Switch	なし
アプリケーション	Oracle	PFM - Agent for Oracle	PFM - Agent for Oracle
NAS その他		その他の Agent	その他の Agent

注※

ホストを監視する場合、情報取得元を PFM - Agent for Platform および HTM - Storage Mapping Agent とするか、Device Manager とするかを選択できます。詳細については、「6.1.2 ホストの情報取得元（ホストの監視モード）の選択」を参照してください。

注意

- データ取得の対象とするストレージシステムは、エージェントの監視対象となっており、かつ、Device Manager で管理されているストレージシステムに限定されます。

- ・ ポーリング実行時に性能情報は取得されません。性能情報のレポートを表示する際にエージェントから取得されます。
- ・ Tuning Manager server では、Device Manager で設定された仮想化サーバを Tuning Manager server の監視対象として設定します。ただし、Device Manager の GUI または CLI を使って、Device Manager に手動で登録された仮想化サーバは、Tuning Manager server の監視対象に含まれません。仮想化サーバの情報は、Device Manager の GUI のホスト管理画面でホストの一覧を表示して確認してください。
 なお、Device Manager では、対象となる仮想環境を仮想化サーバ単位で設定します。Tuning Manager server 単体で特定の仮想化サーバを監視対象から外したり、追加したりできません。
- ・ 仮想環境にあるデータストアが IP ネットワークで接続される NFS に作成されていた場合、Device Manager で情報を取得できないため、Tuning Manager server でも NFS に作成されたデータストアの情報を表示できません。
- ・ 仮想環境の容量情報は、データストア種別が「Datastore (VMFS)」以外の場合、取得されません。
- ・ 無償版の VMware ESXi でデータストアの容量情報を監視する場合、別途 VMware の有償ライセンスを導入する必要があります。
- ・ Tuning Manager server で仮想環境のゲスト OS が稼働しているホストを監視する場合に、ファイルシステムと論理デバイスのマッピング情報を収集するには、VMware の RAW Device Mapping および Hyper-V のパススルー接続によってゲスト OS から論理デバイスにアクセスするための設定が必要です。設定方法の詳細については、各仮想環境管理ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- ・ ホストを監視する場合の情報取得元が Device Manager のとき、Tuning Manager server 単体で特定のホストを監視対象から外したり、追加したりできません。

6.1.2 ホストの情報取得元（ホストの監視モード）の選択

Tuning Manager server でホストを監視する場合、ホスト単位で情報取得元を HTM - Storage Mapping Agent および PFM - Agent for Platform とするか、Device Manager とするかを選択できます。

HTM - Storage Mapping Agent および PFM - Agent for Platform から情報取得する方法を Agent モードと呼びます。Device Manager から情報取得する方法を Agent-less モードと呼びます。また、Agent モードおよび Agent-less モードを総称してホストの監視モードと呼びます。

(1) ホストの監視モードの特徴

Agent モードおよび Agent-less モードそれぞれの特徴を次の表に示します。

表 6-2 Agent モードおよび Agent-less モードの特徴

特徴	ホストの監視モード		
	Agent モード	Agent-less モード	
情報取得元ホストに必要なプログラム	HTM - Storage Mapping Agent	必要	不要※
	PFM - Agent for Platform	必要	不要※
監視できる観点	ホストとストレージシステムの対応関係	できる	できる
	ホストの構成情報	できる	できる
	ホストの性能情報	できる	できない
	ホストの容量情報	できる	できない

特徴		ホストの監視モード	
		Agent モード	Agent-less モード
	アラームによる性能、容量のしきい値監視	できる	できない

注※

Tuning Manager server の前提製品である Device Manager の Host Data Collector または Device Manager エージェントで情報を収集します。

(2) ホストの監視モードが有効になる条件

Agent モードおよび Agent-less モードが有効になる条件を次の表に示します。

表 6-3 Agent モードおよび Agent-less モードが有効になる条件

ホストの監視モード	有効になる条件
Agent モード	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホストごとに HTM・Storage Mapping Agent および PFM・Agent for Platform のセットアップが完了していること 2. ホストごとに HTM・Storage Mapping Agent および PFM・Agent for Platform が稼働し、PFM・Manager に認識されていること
Agent-less モード	Device Manager の GUI を使って、ホストを Agent-less ホストとして監視対象に追加していること（詳細については、「6.1.8」の「(1)」を参照してください）

同一ホストに対し、Agent モード、Agent-less モード両方が有効になる条件を満たしている場合、ホスト名に実ホストを使用しているときは Agent モードが適用されます。このときは、Agent-less モードを無効にする必要はありません。

ホスト名にエイリアスを使用しているときは Agent モード、Agent-less モード両方が適用され、Tuning Manager server の GUI にエイリアス、実ホストそれぞれが監視対象のホストとして表示されます。この事象を回避するため、Agent-less モードでの監視を抑止する必要があります。詳細については、「6.1.8 Agent-less モードでホストを監視するための運用手順」の「(6) ホスト名にエイリアスを設定している場合の運用手順」を参照してください。

(3) ホストの監視モードの切り替え

Agent モードおよび Agent-less モードは、運用開始後でも切り替えできます。詳細については、「6.1.8 Agent-less モードでホストを監視するための運用手順」を参照してください。

(4) ホストの監視モードの違いによる表示情報の差異

Agent モードおよび Agent-less モードそれぞれで取得する情報が異なるため、表示情報に差異が発生します。詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」の Agent-less モードで監視しているホストの情報表示について説明している箇所を参照してください。

6.1.3 Device Manager が保持する情報のリフレッシュ

Device Manager が保持する情報は最新にしておく必要があります。Device Manager が管理するストレージシステム、ホスト (Agent-less モード使用時)、および仮想環境の構成に変更が発生した場合や、仮想環境にあるデータストアの容量情報を更新したい場合には、Device Manager からストレージシステム、ホスト、および仮想環境のリフレッシュを手動で実行してください。ストレージシステム、ホスト、および仮想環境のリフレッシュについては、マニュアル「Hitachi Command

Suite Software ユーザーズガイド」およびマニュアル「Hitachi Command Suite Software CLI リファレンスガイド」を参照してください。

なお、仮想環境を監視するための運用手順については、「6.1.7 仮想環境を監視するための運用手順」を、Agent-less モードでホストを監視するための運用手順については、「6.1.8 Agent-less モードでホストを監視するための運用手順」を参照してください。

次のような場合、Device Manager からストレージシステム、ホスト、および仮想環境のリフレッシュが必要です。

- Storage Navigator でストレージシステムの構成を変更した場合
ストレージシステムのリフレッシュを実行してください。
- Dynamic Provisioning のボリューム容量仮想化機能でサーバに容量が割り当てられた場合
ストレージシステムのリフレッシュを実行してください。
- Device Manager が管理する仮想環境のシステム構成に変更があった場合
変更のあった仮想化サーバに対してリフレッシュを実行してください。
- Device Manager が管理するホストのシステム構成に変更があった場合
変更のあったホストに対してリフレッシュを実行してください。
- ストレージシステム、ホスト、または仮想化サーバの性能ボトルネックを検知した場合
性能ボトルネックを検知したリソースのリフレッシュをオンデマンドで実行してください。
- 仮想環境にあるデータストアの容量情報を更新したい場合
データストアの容量情報だけのリフレッシュを実行してください。なお、Device Manager での容量情報の更新は、1日に1回としてください。

6.1.4 サポートエージェント

Tuning Manager server でポーリングを実行してエージェントから情報を取得する場合、情報取得の対象となるエージェントのバージョンおよびデータモデルバージョンが決まっています。

Tuning Manager server が情報を取得する対象となるエージェントのバージョンと各エージェントのデータモデルのバージョンについて次の表に示します。

表 6-4 Tuning Manager server が情報取得の対象とするエージェントとデータモデルのバージョン

製品分類	Agent 名	Agent のバージョン	データモデルバージョン
Tuning Manager シリーズ	HTM - Agent for RAID	7.5~7.6.1	8.4
		7.2~7.4.1	8.2
		7.1~7.1.1	8.0
		7.0	7.8
		6.4	7.6
		6.3	7.5
		6.2	7.4
		6.0~6.1	7.3
	HTM - Agent for SANRISE	05-90	7.2
		05-70~05-80	7.1
		05-00~05-50	7.0
	HTM - Storage Mapping Agent	6.0~7.6	4.1
		05-90	4.1
		05-00~05-80	4.0

製品分類	Agent 名	Agent のバージョン	データモデルバージョン
	HTM - Agent for SAN Switch	6.0~7.6	5.0
		05-00~05-90	5.0
Performance Management	PFM - Agent for Platform (Windows)	10-00	8.0
		09-10	7.8
		09-00	7.6
		08-50	7.4
		08-10	7.0
		08-00	6.0
		07-50	5.0
		07-00	4.0
	PFM - Agent for Platform (UNIX)	09-10~10-00	7.8
		09-00	7.6
		08-50	7.4
		08-11	7.2
		08-10	7.0
		08-00	6.0
		07-50	5.1
		07-10	5.0
	PFM - Agent for Oracle	10-00	8.0
		08-50~09-10	7.0
		08-10	6.0
		08-00	5.0
		07-00~07-50	4.0

Tuning Manager server は、PFM - Agent for Platform (UNIX)、PFM - Agent for Platform (Windows)、HTM - Storage Mapping Agent、HTM - Agent for RAID、HTM - Agent for SAN Switch、および PFM - Agent for Oracle を認識し、監視します。それ以外のエージェントは [NASs/Others Apps] のサブリソースセクションに表示されます。

Tuning Manager server は、[NASs/Others Apps] 配下に表示されるエージェントからはデータを収集しません。[NASs/Others Apps] 配下に表示されるエージェントを監視する場合は、Tuning Manager server から Performance Reporter を起動させてください。

6.1.5 ポーリングを実行するための準備

ポーリングを実行するには、事前に次の設定が完了している必要があります。

(1) Device Manager の設定

Device Manager からデータを収集するために、Device Manager の接続設定が完了しているかどうか確認してください。設定の詳細については、「[5.1 Device Manager の接続設定](#)」を参照してください。

(2) エージェントの設定

ポーリング対象となるエージェントからデータを収集するために、次の表に示すレコードについて、Log プロパティの値を Yes に設定してください。

表 6-5 ポーリング対象のエージェントで設定が必要なレコード

ポーリング対象エージェント	レコード
HTM - Agent for RAID	PI, PI_LDS, PI_LDS1, PI_LDS2, PI_LDS3, PI_LDA, PI_PTS, PI_RGS, PI_CLPS, PI_PRCs, PI_CLCS, PI_PDOS, PD, PD_LDC, PD_PTC, PD_LSEC, PD_RGC, PD_ELC, PD_CLPC, PD_VVC, PD_PLC, PI_LDE, PI_LDE1, PI_LDE2, PI_LDE3
HTM - Storage Mapping Agent	PD, PD_FSC, PD_IAC
PFM - Agent for Platform (Windows)	PI, PI_LOGD, PI_PHYD
PFM - Agent for Platform (UNIX)	PI, PI_DEVD, PD_FSL, PD_FSR
HTM - Agent for SAN Switch	PI, PD, PD_PTD, PI_SWS, PI_PTS, PD_CPTD, PD_DEVD, PI_PTES, PI_SWES
PFM - Agent for Oracle	PI, PI_PITS, PI_PIDF, PI_PIDB, PD_PDTS, PD_PDI

注意

- レコードタイプが PI または PD のレコードには、Collection Interval プロパティの値を 3600 以下に設定してください。ただし、HTM - Agent for RAID の PD_VVC レコードおよび PD_PLC レコードには、21600 以下の値を設定してください。
- レコードタイプが PI または PD のレコードには、Collection Offset プロパティの値を 3600 以下に設定してください。
- LOGIF プロパティは設定しないでください。

エージェントで監視するリソースに関する注意

エージェントで監視するストレージシステム、サーバ、SAN スイッチ、および Oracle リソースについては、1 つのリソースが複数のエージェントで監視されないように設定してください。1 つのリソースを複数のエージェントで監視設定した場合、その設定がされているエージェントはポーリングされません。

(3) ポーリングオフセットの設定

エージェントの Collection Offset 値をデフォルトから変更する場合は、ポーリングオフセットをエージェントの Collection Offset+5 分で設定します。エージェントの監視対象が大規模で、5 分以内でエージェント側のデータ収集が終了しない場合は、エージェントの収集が終了する時間に 5 分を足した値を、Tuning Manager server のポーリングオフセットに設定してください。設定方法については、「1.6 ユーザープロパティファイルの設定について」を参照してください。

6.1.6 初期データの取得

Tuning Manager server は、ポーリングでエージェントから取得したレコードを表示します。そのため、Tuning Manager server のポーリングは、「表 6-5 ポーリング対象のエージェントで設定が必要なレコード」に示すレコードがエージェントで作成されてから実施してください。

ポーリング対象のレコードが生成されるまでの時間の目安は次のとおりです。

表 6-6 ポーリング対象のレコードが生成されるまでの時間の目安

ポーリング対象エージェント	レコードが生成されるまでの時間の目安
HTM - Agent for RAID	エージェントのサービス起動後、最大 1 時間※1
HTM - Storage Mapping Agent	
PFM - Agent for Platform (Windows)	
PFM - Agent for Platform (UNIX)	
HTM - Agent for SAN Switch	
PFM - Agent for Oracle	エージェントのサービス起動後、最大 2 時間※2

注※1

レコードの Collection Interval が 3,600 秒の場合、毎時 00 分のタイミングでレコードが生成されるため、エージェントのサービスを起動した時間に依存して最大 1 時間掛かります。

注※2

レコードの Collection Interval が 3,600 秒、かつ、デルタが Yes である場合、毎時 00 分のタイミングで収集された 2 回分のデータで 1 レコードが生成されるため、エージェントのサービスを起動した時間に依存して最大 2 時間掛かります。

また、エージェントが稼働するホストのシステム時計が Tuning Manager server が稼働するホストのシステム時計よりも Tuning Manager server のポーリングオフセットの値以上に遅れている場合は、Tuning Manager server の指定のポーリング時刻にはエージェントはレコードを生成していないため、さらに時間が掛かります。

そのため、エージェントが稼働するホストのシステム時計と Tuning Manager server が稼働するホストのシステム時計は合わせてください。マシンの時刻調整の詳細については、「1.12 マシンの時刻調整について」を参照してください。

6.1.7 仮想環境を監視するための運用手順

Device Manager が管理する仮想環境を Tuning Manager server で監視する場合の運用手順について説明します。なお、Device Manager の操作方法および Device Manager CLI の詳細については、Device Manager のマニュアルを参照してください。

(1) 仮想環境への Tuning Manager server 導入手順

仮想環境に接続されたホストに、Device Manager および Tuning Manager server を導入する場合の環境構築手順を次に示します。

1. Device Manager をインストールおよびセットアップします。
2. Tuning Manager server をインストールおよびセットアップします。
3. Device Manager の GUI または AddVirtualizationServer コマンドを使って、Device Manager に監視対象の仮想化サーバを登録します。
4. Device Manager の GUI または AddStorageArrays コマンドを使って、手順 3 で登録した仮想化サーバと接続関係を持っているが Device Manager に未登録のストレージシステムを登録します。
5. Tuning Manager server を使って、手動でポーリングを実行します。
Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面で Device Manager がポーリング対象であることを確認して、手動でポーリングを実行します。
6. Tuning Manager server の画面に監視対象の仮想化サーバが表示されていることを確認します。

Tuning Manager server のリソースツリーから Hypervisors 以下を参照して、監視対象として追加した仮想化サーバが表示されることを確認します。

(2) 本番稼働後の性能問題発生時および構成変更時の運用手順

システムの本番稼働後に性能問題が発生した場合、特定したデータストアを構成するストレージシステムが要因であるかを切り分けたいときや、監視対象の仮想化サーバに構成変更があったときは、次の手順に従って、Device Manager および Tuning Manager server が保持する構成情報を更新します。

1. 性能問題が発生したストレージシステムの場合は Device Manager の GUI または RefreshStorageArrays コマンドを、構成変更のあった仮想化サーバの場合は Device Manager の GUI または RefreshVirtualizationServer コマンドを使って、リフレッシュを実行します。

仮想化サーバのリフレッシュを実行した場合は、その仮想化サーバに接続されているストレージシステムのリフレッシュも実行してください。

2. Tuning Manager server を使って、手動でポーリングを実行します。

Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面で Device Manager がポーリング対象であることを確認して、手動でポーリングを実行します。ただし、前回のポーリング実行から 1 時間以上経過してから実行してください。

3. Tuning Manager server の画面に監視対象の仮想化サーバが表示されていることを確認します。

Tuning Manager server のリソースツリーから Hypervisors 以下を参照して、性能問題が発生したストレージシステムまたは構成変更のあった仮想化サーバが表示されていることを確認します。

注意

VMware ESX および VMware ESXi で構築された仮想環境では、構成情報の報告について一部表示上の注意事項があります。詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」の Tuning Manager シリーズを使用する上での制限事項について説明している章を参照してください。

(3) 本番稼働後の容量情報監視時の運用手順

システムの本番稼働後に仮想環境での容量情報を監視する場合は、次の手順に従って、Device Manager および Tuning Manager server が保持する容量情報を更新します。

1. 容量情報を監視する対象の仮想化サーバのリフレッシュを実行します。

Device Manager の RefreshVirtualizationServer コマンドにオプション mode=Datastore を指定して、Device Manager の管理する仮想化サーバのデータストアの容量情報だけを更新します。



重要 Device Manager のコマンドを実行する際、仮想環境から最新の容量情報を取得するために、あらかじめ仮想環境管理ソフトウェアで容量情報を最新にする操作が必要になることがあります。なお、無償版の VMware ESXi でデータストアの容量情報を監視する場合、別途 VMware の有償ライセンスを導入する必要があります。仮想環境管理ソフトウェアでの容量情報の更新操作については、仮想環境管理ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

定期的に容量情報を監視する場合には、Device Manager の RefreshVirtualizationServer コマンドを実行するスクリプトを作成し、定期的に行ってください。ただし、Device Manager でのデータストアの容量情報の更新は 1 日に 1 回としてください。

2. Tuning Manager server を使って、手動でポーリングを実行します。

Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面で Device Manager がポーリング対象であることを確認して、手動でポーリングを実行します。ただし、前回のポーリング実行から 1 時間以上経過してから実行してください。

3. Tuning Manager server で容量情報を監視します。

容量情報を監視するには、Tuning Manager server の GUI またはコマンドを使います。

Tuning Manager server の GUI を使う場合

Tuning Manager server のリソースツリーから仮想化サーバ、仮想マシンまたはデータストアを参照し、データストアの容量情報を確認します。

Tuning Manager server のコマンドを使う場合

Tuning Manager server の htm-datastores コマンドを使って、定期的に Tuning Manager server が監視するデータストアの容量情報を確認します。

定期的に監視情報を取得するためには、Tuning Manager server の htm-datastores コマンドを実行するスクリプトを作成し、定期的に実行してください。

(4) 仮想化サーバを監視対象外にする手順

監視対象の仮想化サーバをシステムの監視対象から外す場合、次の手順に従って、Device Manager および Tuning Manager server が保持する構成情報を更新します。

1. Device Manager の GUI または DeleteHost コマンドを使って、仮想化サーバを Device Manager の管理対象から外します。
2. Tuning Manager server を使って、手動でポーリングを実行します。

Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面で Device Manager がポーリング対象であることを確認して、手動でポーリングを実行します。ただし、前回のポーリング実行から 1 時間以上経過してから実行してください。

3. Tuning Manager server の画面に監視対象外とした仮想化サーバが表示されないことを確認します。

Tuning Manager server のリソースツリーから Hypervisors 以下を参照して、監視対象から外した仮想化サーバが表示されないことを確認します。

6.1.8 Agent-less モードでホストを監視するための運用手順

Tuning Manager server が Agent-less モードでホストを監視する場合の運用手順について説明します。なお、Device Manager の操作方法および Device Manager CLI の詳細については、Device Manager のマニュアルを参照してください。

参考

この項では、次の呼称を使って監視対象のホストを区別しています。

Tuning Manager server が Agent-less モードで監視するホストの呼称 : Agent-less ホスト

Tuning Manager server が Agent モードで監視するホストの呼称 : Agent ホスト

(1) ホストを Agent-less ホストとして監視対象に追加する手順

Agent-less ホストとストレージシステムとの関連を確認したい場合は、次の手順に従って、監視対象の Agent-less ホストおよび関連するストレージシステムを Device Manager に登録してください。

1. Device Manager の GUI または AddStorageArray コマンドを使ってディスクバリエーションを実施し、Device Manager に監視対象の Agent-less ホストと関連するストレージシステムを登録します。Device Manager にすでに登録されているストレージシステムの場合は、登録された情報が更新されます。

2. Device Manager の GUI を使ってディスクバリを実行し、Device Manager に監視対象の Agent-less ホストを登録します。
3. Tuning Manager server を使って、手動でポーリングを実行します。
Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面で Device Manager がポーリング対象であることを確認して、手動でポーリングを実行します。
4. Tuning Manager server の画面に監視対象の Agent-less ホストが表示されていることを確認します。
Tuning Manager server のリソースツリーから Hosts 以下を参照して、監視対象として追加した Agent-less ホストが表示されることを確認します。

注意

Device Manager の GUI または CLI を使って、Device Manager に手動で登録したホストは、Tuning Manager server の監視対象には含みません。

ホストの情報は、Device Manager の GUI のホスト管理画面でホストの一覧を表示して確認してください。

(2) Agent-less ホストの情報をリフレッシュする手順

Agent-less ホストおよび Agent-less ホストに関連するストレージシステムの情報をリフレッシュする手順を次に示します。

1. Device Manager の GUI または RefreshStorageArrays コマンドを使って、監視対象の Agent-less ホストに関連するストレージシステムのリフレッシュを実行します。
2. Device Manager の GUI または AddHostRefresh コマンドを使って、監視対象の Agent-less ホストのリフレッシュを実行します。
3. Tuning Manager server を使って、手動でポーリングを実行します。
Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面で Device Manager がポーリング対象であることを確認して、手動でポーリングを実行します。
4. Tuning Manager server の画面に監視対象の Agent-less ホストが表示されていることを確認します。
Tuning Manager server のリソースツリーから Hosts 以下を参照して、監視対象の Agent-less ホストが表示されていることを確認します。

(3) 本番稼働後の性能問題発生時および構成変更時の運用手順

システムの本番稼働後に性能問題が発生した場合、問題が発生したと想定されるホスト、または関連するストレージシステムのどちらかに要因があるかを切り分けたいときや、監視対象の Agent-less ホストに構成変更があったときは、次の手順に従って、Device Manager および Tuning Manager server が保持する構成情報を更新します。

1. 性能問題が発生したストレージシステム、または構成変更をした Agent-less ホストのリフレッシュを実行します。
リフレッシュの詳細については、「(2) Agent-less ホストの情報をリフレッシュする手順」の手順 1 および手順 2 を参照してください。
2. Tuning Manager server を使って、手動でポーリングを実行します。
Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面で Device Manager がポーリング対象であることを確認して、手動でポーリングを実行します。
3. Tuning Manager server の画面に監視対象の Agent-less ホストが表示されていることを確認します。

Tuning Manager server のリソースツリーから Hosts 以下を参照して、性能問題が発生したストレージシステムまたは構成変更のあった Agent-less ホストが表示されていることを確認します。

(4) ホストの監視モードを切り替える手順

ホストの監視モードの切り替えは、Agent モードと Agent-less モードの相互でできます。その場合、ホストの情報は引き継がれます。ただし、ポーリングスケジュールの設定および過去データ収集期間の設定については、引き継がれません。

Tuning Manager server が監視するホストの監視モードを切り替える手順を次に示します。

ホストの監視モードの判別

Tuning Manager server で監視対象となっているホストがどちらの監視モードで監視されているか判別する方法を次に示します。

1. PFM・Manager の `jpctool service list (jpcctrl list)` コマンドを使って、サービスの構成および状態を表示します。
2. 表示されたサービスのうち、次の要件を満たすサービスがそれぞれ存在するかどうか確認します。
表示されるサービスの種別および状態は問いません。
 - a. サービス ID が E で始まる。
 - b. サービス ID が T または U で始まる。
3. 確認した結果、次の判断によって Tuning Manager server が監視するホストの監視モードを判別できます。
 - 要件 a を満たすサービスと要件 b を満たすサービスがそれぞれ存在する場合 : Agent モード ※
 - 上記以外の場合 : Agent-less モード

注※ 同一ホストに対し、Agent モード、Agent-less モード両方が有効になる条件を満たしている場合、ホスト名に実ホストを使用しているときは Agent モードが適用されます。このときは、Agent-less モードを無効にする必要はありません。

ホスト名にエイリアスを使用しているときは Agent モード、Agent-less モード両方が適用され、Tuning Manager server の GUI にエイリアス、実ホストそれぞれが監視対象のホストとして表示されます。この事象を回避するため、Agent-less モードでの監視を抑止する必要があります。詳細については、「(6) ホスト名にエイリアスを設定している場合の運用手順」を参照してください。

Agent-less モードから Agent モードへの切り替え

Tuning Manager server で監視対象となっているホストの監視モードを、Agent-less モードから Agent モードに切り替える方法を次に示します。

1. ホストの監視モードを切り替えるホストに HTM・Storage Mapping Agent および PFM・Agent for Platform をインストールし、Tuning Manager server の監視対象に Agent ホストとして追加します。

Tuning Manager server と Agent ホストが別ホストの場合は、Agent ホストの接続先を Tuning Manager server ホストに設定してください。エージェントの接続先を設定する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」を参照してください。

2. Tuning Manager server を使って、手動でポーリングを実行します。

Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面の [エージェント一覧] に、HTM - Storage Mapping Agent および PFM - Agent for Platform をインストールした Agent ホストが表示されていることを確認してください。

[ポーリング設定] 画面では、[リフレッシュ] ボタンをクリックし、画面の表示内容を最新の情報に更新してから確認してください。

確認したあと、Agent ホストをポーリング対象に設定して、手動でポーリングを実行します。ただし、HTM - Storage Mapping Agent および PFM - Agent for Platform の起動後 1 時間以上経過してから実行してください。

3. Tuning Manager server の画面に監視対象の Agent ホストが表示されていることを確認します。

Tuning Manager server のリソースツリーから Hosts 以下を参照して、監視対象として追加した Agent ホストが表示されることを確認します。

注意

同一ホストに対し、Agent モード、Agent-less モード両方が有効になる条件を満たしている場合、ホスト名に実ホストを使用しているときは Agent モードが適用されます。このときは、Agent-less モードを無効にする必要はありません。

ホスト名にエイリアスを使用しているときは Agent モード、Agent-less モード両方が適用され、Tuning Manager server の GUI にエイリアス、実ホストそれぞれが監視対象のホストとして表示されます。この事象を回避するため、Agent-less モードでの監視を抑止する必要があります。詳細については、「(6) ホスト名にエイリアスを設定している場合の運用手順」を参照してください。

Agent モードから Agent-less モードへの切り替え

Tuning Manager server で監視対象となっているホストの監視モードを、Agent モードから Agent-less モードに切り替える方法を次に示します。

なお、ホストの監視モードを Agent モードから Agent-less モードに切り替えた場合、Tuning Manager server のデータベースに蓄積された過去の構成情報は参照できますが、エージェントのリアルタイム監視による性能情報、エージェントのデータベースに蓄積された過去の性能情報、および容量情報は参照できなくなります。

Agent モードと Agent-less モードの切り替えによる表示情報の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」の Agent-less モードで監視しているホストの情報表示について説明している個所を参照してください。

1. ホストの監視モードを切り替えるホストにインストールされている HTM - Storage Mapping Agent および PFM - Agent for Platform のデータをバックアップしてから、アンインストールします。

バックアップ手順の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のバックアップとリストアについて説明している章を参照してください。

2. ホストの監視モードを切り替えるホストの HTM - Storage Mapping Agent および PFM - Agent for Platform に関する構成情報を、PFM - Manager から削除します。

手順 1 でアンインストールした HTM - Storage Mapping Agent および PFM - Agent for Platform に関するサービス情報を PFM - Manager から削除します。削除する手順の詳細については、「5.2 エージェントの接続設定」を参照してください。

3. ホストの監視モードを切り替えるホストを、Tuning Manager server の監視対象に Agent-less ホストとして追加します。

Tuning Manager server の監視対象に Agent-less ホストを追加する手順の詳細については、「(1) ホストを Agent-less ホストとして監視対象に追加する手順」の手順 1 および手順 2 を参照してください。

4. Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面の [エージェント一覧] に、アンインストールした HTM - Storage Mapping Agent および PFM - Agent for Platform のサービス ID が表示されていないことを確認してください。

Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面では、[リフレッシュ] ボタンをクリックし、画面の表示内容を最新の情報に更新してから確認してください。

(5) Agent-less ホストを監視対象外にする手順

監視対象の Agent-less ホストを Tuning Manager server の監視対象から外す場合、次の手順に従って、Device Manager および Tuning Manager server が保持する構成情報を更新します。

1. Device Manager の GUI または DeleteHost コマンドを使って、Agent-less ホストを Device Manager の管理対象から外します。
2. Tuning Manager server を使って、手動でポーリングを実行します。
Tuning Manager server の [ポーリング設定] 画面で Device Manager がポーリング対象であることを確認して、手動でポーリングを実行します。
3. Tuning Manager server の画面に監視対象外としたホストが表示されないことを確認します。
Tuning Manager server のリソースツリーから Hosts 以下を参照して、監視対象から外したホストが表示されないことを確認します。

(6) ホスト名にエイリアスを設定している場合の運用手順

Tuning Manager server は、ホスト名と OS 種別をキーに監視対象のホストを認識します。このため、次の条件で監視している場合、監視対象のホストが Tuning Manager server の Main Console 画面にエイリアスと実ホストの両方で表示されます。

- PFM - Agent for Platform および HTM - Storage Mapping Agent をインストールしているホストでホスト名にエイリアスを設定している（監視ホスト名設定機能を使用している）
- 上記ホストを Device Manager でもディスカバリしている（実ホスト名で登録されている）

上記状態で運用した場合、Main Console 画面でホスト数が二重カウントされるなど、運用に影響が出るため、次の手順でこの事象を回避してください。

1. Tuning Manager server のサービスを停止します。
サービスの停止方法については、「1.5 サービスの停止」を参照してください。
2. 除外ホスト定義ファイル (exhosts.txt) に PFM - Agent for Platform および HTM - Storage Mapping Agent で監視するホストの実ホスト名を設定します。
除外ホスト定義ファイル (exhosts.txt) に PFM - Agent for Platform および HTM - Storage Mapping Agent で監視するホストの実ホスト名を設定することで Agent-less ホストとしての情報収集を抑止します。
3. Tuning Manager server のサービスを起動します。
サービスの起動方法については、「1.4 サービスの起動」を参照してください。

除外ホスト定義ファイル (exhosts.txt) について次に説明します。

除外ホスト定義ファイル (exhosts.txt)

Agent-less ホストとしての情報収集から除外したいホストを定義します。なお、除外ホスト定義ファイル (exhosts.txt) は、ユーザーが作成し、所定のフォルダに格納する必要があります。

格納先

Windows の場合 : <Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%conf%

Solaris の場合 : /opt/HiCommand/TuningManager/conf/

Linux の場合 : <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/conf/

形式

<ホスト名 1>

<ホスト名 2>

...

ファイルの末尾は、改行で終わっていかなくてもかまいません。また、改行コードは、Tuning Manager server が稼働するホストの OS でのデフォルトの改行コードとしてください。

定義例

AgentlessHost001

AgentlessHost002

AgentlessHost003

注意

- ・ PFM - Agent for Platform および HTM - Storage Mapping Agent をインストールしたホストにエイリアス名を設定している場合は、除外ホスト定義ファイルにはエイリアス名でなく、実ホスト名を指定します。実ホスト名は、Windows の場合 hostname コマンド、Solaris および Linux の場合 uname -n コマンドで取得されるホスト名です。
- ・ 除外ホスト定義ファイルは、Tuning Manager server が起動するときに読み込まれます。
- ・ ホスト名の大文字、小文字は区別しません。
- ・ ホスト名に使用できない文字のチェックは実施しません。
- ・ 空行を含め最大 1,000 行まで読み込み、以降の行は無視されます。
- ・ Device Manager に登録されていないホスト名は無視されます。
- ・ ホスト名と同じ行にタブや空白文字がある場合、タブや空白を含んだ文字列がホスト名として識別されます。

6.2 エージェントの管理と設定

Tuning Manager server は、PFM - Agent のサービスの稼働状況を GUI から確認できます。また、Tuning Manager server は、PFM - Agent に対し、GUI を使って次の操作ができます。

- ・ パフォーマンスデータの記録方法、保存期間の変更
- ・ Agent 固有のプロパティの変更
- ・ パフォーマンスデータの容量確認

なお、PFM - Manager が管理するイベントデータについても、同様に GUI を使ってサービスの稼働状況の確認や、イベントデータの記録方法、保持期間の変更、および容量確認ができます。

GUI は、Performance Reporter で提供しています。ここでは Performance Reporter を使ったこれらの操作について説明します。

注意

ここで説明する設定項目の詳細については各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。

6.2.1 サービスの稼働状況を確認する

Performance Reporter でサービスの稼働状況を確認する手順を次に示します。

1. Performance Reporter の [メイン] 画面のナビゲーションフレームで [サービス階層] タブを選択します。

[サービス階層] 画面が表示されます。

2. [サービス階層] 画面のナビゲーションフレームで、稼働状況を確認したいサービスを選択します。

ナビゲーションフレームには、「System」というルートの下に次の2つのフォルダが表示されます。

「Machines」フォルダ

Performance Management のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダを持ち、ホストごとに、PFM - Agent のサービスを管理しています。

「PFM-Manager」フォルダ

PFM - Manager のサービスを管理しています。

選択したサービスにチェックマークが表示されます。

3. [サービス階層] 画面のメソッドフレームで [サービスのステータス] メソッドを選択します。
[サービス階層] 画面のインフォメーションフレームに、手順2で選択したサービスの名前と状態が表示されます。



重要 サービスの稼働状況は、Performance Management のコマンドを使って確認する方法もあります。詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。

6.2.2 パフォーマンスデータの記録方法の設定

Store データベースへのデータの記録方法は、Performance Reporter で設定します。Performance Reporter では、主に次のような項目をレコードごとに設定します。

- 収集したパフォーマンスデータを Store データベースに記録するかどうか
- パフォーマンスデータの収集間隔
- パフォーマンスデータの収集を開始するオフセット値
- パフォーマンスデータをデータベースに記録するかどうかの判断条件

レコードによっては、これらの記録方法以外にも設定できる項目があります。また、レコードによっては、これらのうち、値を変更できないものもあります。各レコードで設定できる記録方法およびデフォルト値の詳細については、各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。

パフォーマンスデータの記録方法を変更する場合、次の2種類の方法があります。

- Agent ごとに個別に変更する
- 複数の Agent に対し一括で変更する (同じ種類の Agent 限定)

個別変更は、GUI またはコマンドで実施できます。一括変更は、GUI からだけ実施できます。

GUI による一括変更については「6.2.4 複数エージェントへの一括設定」を参照してください。ここでは、GUI またはコマンドによる個別変更についてだけ説明します。

(1) GUI でパフォーマンスデータの記録方法を変更する

GUI でパフォーマンスデータの記録方法を変更する場合は、Performance Reporter の [サービス階層] 画面で行います。

手順を次に示します。

1. Admin 権限ユーザーで Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。

2. グローバルタスクバーエリアで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
Performance Reporter の [メイン] 画面が表示されます。
3. Performance Reporter の [メイン] 画面のナビゲーションフレームで, [サービス階層] タブを選択します。
[サービス階層] 画面が表示されます。
4. [サービス階層] 画面のナビゲーションフレームで, 「Machines」 フォルダの下位の階層を展開します。
PFM - Manager, PFM - Agent のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また, ホスト名が付いたフォルダを展開すると, そのホストにインストールされているサービスが表示されます。各サービスの名前は, サービス ID で表示されます。
5. パフォーマンスデータの記録方法を変更するホストの名前が付いたフォルダの下位の階層を展開し, Agent Collector サービスを選択します。
Agent Collector サービスは, 2 文字目が「A」であるサービスです。サービス ID の詳細については, マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」および各 PFM - Agent のマニュアルに記載されている識別子一覧を参照してください。
選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
6. メソッドフレームの [プロパティ] メソッドを選択します。
Agent Collector サービスのプロパティ画面に遷移し, プロパティが階層表示されます。

図 6-1 Agent Collector サービスのプロパティ階層の表示例

名称	値	説明
First Registration Date	Fri Jan 11 15:00:26 JST 2008	First Registration
Last Registration Date	Mon Jan 28 12:08:22 JST 2008	Last Registration
DataModelVersion	7.0	DataModelVersion

ノードとレコードタイプの対応を次の表に示します。

表 6-7 ノードとレコードタイプの対応

ノード	レコードタイプ
Detail Records	PD レコードタイプ
Interval Records	PI レコードタイプ
Log Records	PL レコードタイプ

- 記録方法を変更したいレコードがあるノードを展開し、該当するレコードを選択します。
レコードタイプを示すノードを展開すると、レコードを示すノードが表示されます。レコード名は、データベース ID を除いたレコード ID で表示されます。
選択したレコードにチェックマークが表示され、インフォメーションフレームの下部に選択したレコードの記録方法の設定値が表示されます。
- レコードに設定されている記録方法の定義内容を変更します。
インフォメーションフレームの下部に選択したレコードのプロパティが表示されます。

図 6-2 記録方法の設定例

名称	値	説明
Description	Devices Detail	Description of the record type
Log	No	Log record? If YES, data collection will be enabled.
Collection Interval	60	Data collection interval in seconds
Collection Offset	0	Data collection offset from top of minute in seconds
LOGIF		Expression to selectively log only certain records.

- プロパティの設定内容を変更します。
各プロパティの説明および設定値を次の表に示します。

表 6-8 各プロパティの説明および設定値（パフォーマンスデータの記録方法を変更する場合）

プロパティ名	説明および設定値
Description	選択したレコードの説明が表示されます。変更はできません。
Log	収集したレコードを Store データベースに記録するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> Yes : 記録する No : 記録しない

プロパティ名	説明および設定値
Collection Interval	レコードの収集間隔を 0～2147483647 の整数で指定します。単位は秒です。「0」を指定した場合、レコードは収集されません。
Collection Offset	レコードの収集を開始するオフセット値を 0～32767 の整数で指定します。単位は秒です。 例えば、「0」を指定した場合は、収集対象のレコードを同じタイミングに収集します。「20」を指定した場合は、「0」を指定しているレコードの収集開始から 20 秒遅れてレコードの収集が開始されます。収集するパフォーマンスデータが複数あり、また、これらのデータを収集するタイミングが同じだった場合、収集処理および記録処理がある時点で集中するため、性能が低下することがあります。これを防ぎたい場合には、収集開始時刻のオフセット (Collection Offset) の値をパフォーマンスデータごとにずらしてください。収集開始時刻のオフセット (Collection Offset) をずらすことで、システムの負荷を分散できます。
LOGIF	記録対象のレコードに対し、データベースに記録するための条件式を指定できます。ここで設定した条件に従って、レコードが記録されます。 テキストボックスをクリックすると、[ログ収集条件設定] 画面が別ウィンドウで表示されます。[ログ収集条件設定] 画面では、対象となるフィールド、演算子、判断基準となる値などを指定し、条件式を作成します。設定内容を [OK] ボタンで確定すると、LOGIF のテキストボックスに作成した条件式が設定されます。 詳細については、「表 6-9」を参照してください。

注意

- パフォーマンスデータを収集するレコード数を増やすと、ディスク容量やシステム性能に影響を及ぼすことがあります。収集するレコードを設定する場合は、必要なディスク容量やレコードの収集間隔など、パフォーマンスデータの収集条件を考慮し、監視に必要な項目だけを設定してください。必要なディスク容量については、各 PFM・Agent のマニュアルの付録に記載されているシステム見積もりについての説明を参照してください。
- Collection Interval (レコードの収集間隔) は、デフォルト値または 60 秒以上の値でかつ、3,600 の約数を指定してください。3,600 秒 (1 時間) を超えるレコード収集間隔を指定する場合は、3,600 の倍数でかつ 86,400 秒 (24 時間) の約数を指定してください。レコードの収集間隔をデフォルト値より小さい値に設定した場合、または 60 秒より小さい値に設定した場合、Agent Collector サービスや Agent Store サービスが過負荷となり、収集したパフォーマンスデータを保存できなくなることがあります。
- Collection Offset (レコードの収集を開始するオフセット値) の値を変更する場合は、収集処理の負荷を考慮した上で値を設定してください。

表 6-9 [ログ収集条件設定] 画面での表示内容

項目	説明
フィールド	条件式を指定する上で対象となるフィールドをドロップダウンリストから選択します。
条件	条件式を指定する上で使用したい演算子をドロップダウンリストから選択します。 [フィールド] を指定すると、選択できるようになります。
値	条件式の判断基準となる値を指定します。指定できる値は、整数値、小数値、または 2,048 バイト以内の全角または半角文字です。 指定できる値は、フィールドによって異なります。 文字列を指定する場合は、ワイルドカード文字を使用できます。 使用できるワイルドカード文字を次に示します。 ・ *: 任意の 0 文字以上の文字列 ・ ?: 任意の 1 文字

項目	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ¥:「*」、「?」および「¥」をワイルドカードではなく文字として扱う場合 例えば、「¥*」と指定した場合は、文字「*」として扱います。*
AND	設定済みの条件式に対し、[フィールド]、[条件]、および [値] で設定した条件式を AND 演算する場合に選択します。この項目は、[条件式] に条件式が 1 つ以上設定されている場合だけ活性化されます。
OR	設定済みの条件式に対し、[フィールド]、[条件]、および [値] で設定した条件式を OR 演算する場合に選択します。この項目は、[条件式] に条件式が 1 つ以上設定されている場合だけ活性化されます。
追加 (ボタン)	[フィールド]、[条件]、および [値] で設定した条件式を [条件式] に追加します。[値] を設定すると活性化されます。
更新 (ボタン)	[条件式] で選択した条件式を、[フィールド]、[条件]、および [値] で新たに設定した条件式と置き換えます。[条件式] に条件式が 1 つ以上設定されている場合だけ活性化されます。
説明 (ボタン)	レコードおよびフィールドについての説明画面が別ウィンドウで表示されます。
条件式	[フィールド]、[条件]、および [値] で指定した条件式が一覧表示されます。定義した条件式が 512 バイト以上の場合、エラーメッセージが表示されます。
AND <> OR (ボタン)	条件式に設定した「AND」と「OR」を切り替えます。[条件式] で先頭行以外の条件式を選択している場合だけ活性化されます。
削除 (ボタン)	[条件式] で選択した条件式を削除します。[条件式] に条件式が 1 つ以上設定されている場合だけ活性化されます。
すべて削除 (ボタン)	[条件式] に表示されるすべての条件式を削除します。[条件式] に条件式が 1 つ以上設定されている場合だけ活性化されます。
編集 (ボタン)	[条件式] で選択した条件式が [フィールド]、[条件]、および [値] に表示され、編集できます。[条件式] に条件式が 1 つ以上設定されている場合だけ活性化されます。

注※

「¥」の次にワイルドカードを含む文字列が値として指定された場合に、指定したフィールドの文字列と完全一致すると、値の判定は真となります。

例えば、値に「¥*abc」と指定した場合、対象のフィールドに「¥*abc」と格納されているときも、「*abc」と格納されているときも真と判定されます。

10. [OK] ボタンをクリックします。

変更した設定内容が有効になります。

各レコードに設定できる値およびデフォルト値は、レコードによって異なります。設定できる値、設定範囲およびデフォルト値については、各 PFM - Agent マニュアルの、レコードについて説明している章を参照してください。

(2) コマンドでパフォーマンスデータの記録方法を変更する

コマンドでパフォーマンスデータの記録方法を変更するには、Performance Reporter の `jpcasrec output` コマンドおよび `jpcasrec update` コマンドを実行します。

`jpcasrec output` コマンドについては、「[8.4.3 jpcasrec output](#)」を参照してください。また、`jpcasrec update` コマンドについては、「[8.4.2 jpcasrec update](#)」を参照してください。

6.2.3 パフォーマンスデータの保存条件の設定

Tuning Manager シリーズでは、Store データベースに格納されるデータ量の増大を防ぐため、レコードの保存期間やレコード数の上限値を設定できます。設定するデータの保存条件は、Store データベースのバージョン、レコードの種類によって異なります。

各レコードタイプと設定できる保存条件の対応を「表 6-10 レコードタイプと設定できる保存条件 (Store データベースバージョン 2.0 の場合)」と「表 6-11 レコードタイプと設定できる保存条件 (Store データベースバージョン 1.0 の場合)」に示します。

表 6-10 レコードタイプと設定できる保存条件 (Store データベースバージョン 2.0 の場合)

レコードタイプ	設定できる保存条件
PI レコードタイプ	レコードの保存期間
PD レコードタイプ	
PL レコードタイプ	

表 6-11 レコードタイプと設定できる保存条件 (Store データベースバージョン 1.0 の場合)

レコードタイプ	設定できる保存条件
PI レコードタイプ	レコードの保存期間
PD レコードタイプ	レコード数の上限
PL レコードタイプ	

パフォーマンスデータの保存条件を変更する場合、次の 2 種類の方法があります。

- ・ Agent ごとに個別に変更する
- ・ 複数の Agent に対し一括で変更する (同じ種類の Agent 限定)

個別変更は、GUI またはコマンドで実施できます。一括変更は、GUI からだけ実施できます。

GUI による一括変更については、「6.2.4 複数エージェントへの一括設定」を参照してください。ここでは、GUI またはコマンドによる個別変更についてだけ説明します。

(1) パフォーマンスデータの保存条件を変更する (Store データベースバージョン 2.0 の場合)

Store データベースバージョン 2.0 の場合に、パフォーマンスデータの保存条件を変更するには、Performance Reporter の [サービス階層] 画面で行います。

手順を次に示します。

1. Admin 権限ユーザーで Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。
2. グローバルタスクバーエリアで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
Performance Reporter の [メイン] 画面が表示されます。
3. Performance Reporter の [Main] 画面のナビゲーションフレームで、[サービス階層] タブを選択します。
[サービス階層] 画面が表示されます。
4. [サービス階層] 画面のナビゲーションフレームで、「Machines」フォルダの下位の階層を展開します。
PFM・Manager, PFM・Agent のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。各サービスの名前は、サービス ID で表示されず。

- パフォーマンスデータの保存条件を変更するホストの名前が付いたフォルダの下位の階層を展開し、Agent Store サービスを選択します。

Agent Store サービスは、先頭文字が「P」以外で2文字目が「S」であるサービスです。例えば、「TS」や「ZS」などで始まるサービス ID のものが Agent Store サービスとなります。なお、「PS」で始まるサービス ID のものは Master Store サービスとなります。

サービス ID の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」および各 PFM - Agent のマニュアルに記載されている識別子一覧を参照してください。

選択した Agent Store サービスにチェックマークが表示されます。

- メソッドフレームの [プロパティ] メソッドを選択します。

Agent Store サービスのプロパティ画面に遷移し、プロパティが階層表示されます。

- 「RetentionEx」ノードを選択します。

インフォメーションフレームの下部に「RetentionEx」ノードのプロパティが表示されます。

図 6-3 保存条件の設定例 (Store データベースバージョン 2.0 の場合)

PIレコード選択時に設定できる項目

名称	値	説明
Period - Minute Drawer (Day)	1	
Period - Hour Drawer (Day)	7	
Period - Day Drawer (Week)	54	
Period - Week Drawer (Week)	54	
Period - Month Drawer (Month)	12	
Period - Year Drawer (Year)	10	

PDまたはPLレコード選択時に設定できる項目

名称	値	説明
Period (Day)	10	

- プロパティの設定内容を変更します。

各プロパティの説明および設定値を次の表に示します。

表 6-12 各プロパティの説明および設定値 (パフォーマンスデータの保存条件を変更する場合 (Store データベースバージョン 2.0))

レコードタイプ	ノード名	プロパティ名	設定値
PIレコードタイプ	Product Interval - <PIレコードタイプのレコードID>	Period - Minute Drawer (Day)	PIレコードタイプのレコードIDごとに、分単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 保存期間 (日数) を 0~366 の整数で指定します。
		Period - Hour Drawer (Day)	PIレコードタイプのレコードIDごとに、時間単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 保存期間 (日数) を 0~366 の整数で指定します。

レコードタイプ	ノード名	プロパティ名	設定値
		Period - Day Drawer (Week)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、日単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 保存期間（週の数）を 0～522 の整数で指定します。
		Period - Week Drawer (Week)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、週単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 保存期間（週の数）を 0～522 の整数で指定します。
		Period - Month Drawer (Month)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、月単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 保存期間（月の数）を 0～120 の整数で指定します。
		Period - Year Drawer (Year)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに、年単位のパフォーマンスデータの保存期間を表示します。 保存期間の制限はありません。
PD レコードタイプ	Product Detail - <PD レコードタイプのレコード ID>	Period (Day)	PD レコードタイプのレコード ID ごとに、パフォーマンスデータの保存期間を設定します。 保存期間（日数）を 0～366 の整数で指定します。
PL レコードタイプ	Product Log - <PL レコードタイプのレコード ID>	Period (Day)	PL レコードタイプのレコード ID ごとに、パフォーマンスデータの保存期間を設定します。 保存期間（日数）を 0～366 の整数で指定します。

- [OK] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

(2) GUI でパフォーマンスデータの保存条件を変更する (Store データベースバージョン 1.0 の場合)

Store データベースバージョン 1.0 の場合に、GUI でパフォーマンスデータの保存条件を変更するには、Performance Reporter の [サービス階層] 画面で行います。

手順を次に示します。

- Admin 権限ユーザーで Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。
- グローバルタスクバーエリアで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
Performance Reporter の [メイン] 画面が表示されます。
- Performance Reporter の [メイン] 画面のナビゲーションフレームで、[サービス階層] タブを選択します。
[サービス階層] 画面が表示されます。
- [サービス階層] 画面のナビゲーションフレームで、「Machines」フォルダの下位の階層を展開します。

PFM - Manager, PFM - Agent のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。

- パフォーマンスデータの保存条件を変更するホストの名前が付いたフォルダの下位の階層を展開し、Agent Store サービスを選択します。

Agent Store サービスは、先頭文字が「P」以外で2文字目が「S」であるサービスです。例えば、「TS」や「ZS」などで始まるサービス ID のものが Agent Store サービスとなります。なお、「PS」で始まるサービス ID のものは Master Store サービスとなります。

サービス ID の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」および各 PFM - Agent のマニュアルに記載されている識別子一覧を参照してください。

選択した Agent Store サービスにチェックマークが表示されます。

- メソッドフレームの [プロパティ] メソッドを選択します。

Agent Store サービスのプロパティ画面に遷移し、プロパティが階層表示されます。

- 「Retention」ノードを選択します。

インフォメーションフレームの下部に「Retention」ノードのプロパティが表示されます。

図 6-4 保存条件の設定例 (Store データベースバージョン 1.0 の場合)

名称	値	説明
Product Interval - Minute Drawer	Day	
Product Interval - Hour Drawer	Week	
Product Interval - Day Drawer	Year	
Product Interval - Week Drawer	Year	
Product Interval - Month Drawer	Year	
Product Interval - Year Drawer	Year	
Product Detail - PD	10000	
Product Detail - PDI	100000	
Product Detail - PEND	10000	
Product Detail - PAGF	10000	
Product Detail - GEND	10000	
Product Detail - SVC	10000	
Product Detail - DEV	10000	
Product Detail - ELOG	10000	
Product Detail - UPD	10000	
Product Detail - UPDB	10000	
Product Detail - APP	10000	

- プロパティの設定内容を変更します。

各プロパティの説明および設定値を次の表に示します。

表 6-13 各プロパティの説明および設定値（パフォーマンスデータの保存条件を変更する場合
 (Store データベースバージョン 1.0))

レコードタイプ	プロパティ名	設定値
PI レコードタイプ	Product Interval - Minute Drawer	分ごとのパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 ドロップダウンリストから次の項目を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Minute • Hour • Day • 2 Days • 3 Days • 4 Days • 5 Days • 6 Days • Week • Month • Year
	Product Interval - Hour Drawer	時間ごとのパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 ドロップダウンリストから次の項目を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Hour • Day • 2 Days • 3 Days • 4 Days • 5 Days • 6 Days • Week • Month • Year
	Product Interval - Day Drawer	日ごとのパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 ドロップダウンリストから次の項目を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Day • 2 Days • 3 Days • 4 Days • 5 Days • 6 Days • Week • Month • Year
	Product Interval - Week Drawer	週ごとのパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 ドロップダウンリストから次の項目を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • Week • Month • Year
	Product Interval - Month Drawer	月ごとのパフォーマンスデータの保存期間を設定します。 ドロップダウンリストから次の項目を選択できます。

レコードタイプ	プロパティ名	設定値
		<ul style="list-style-type: none"> • Month • Year
	Product Interval - Year Drawer	年ごとのパフォーマンスデータの保存期間です。「Year」が固定で設定されています。
PD レコードタイプ	Product Detail - <PD レコードタイプのレコード ID>	PD レコードタイプのレコード ID ごとに、保存レコード数の上限値を指定します。レコード ID については各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。 単数インスタンスの場合 保存レコード数の上限値を 0～2147483647 の整数で指定します。 複数インスタンスの場合 保存レコード行数の総計としての上限値を 0～2147483647 の整数で指定します。
PL レコードタイプ	Product Log - <PL レコードタイプのレコード ID>	PL レコードタイプのレコード ID ごとに、保存レコード数の上限値を指定します。レコード ID については各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。 単数インスタンスの場合 保存レコード数の上限値を 0～2147483647 の整数で指定します。 複数インスタンスの場合 保存レコード行数の総計としての上限値を 0～2147483647 の整数で指定します。

9. [OK] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

(3) コマンドでパフォーマンスデータの保存条件を変更する

コマンドでパフォーマンスデータの保存条件を変更するには、Performance Reporter の `jpcaspsv output` コマンドおよび `jpcaspsv update` コマンドを実行します。

`jpcaspsv output` コマンドについては、「[8.4.5 jpcaspsv output](#)」を参照してください。また、`jpcaspsv update` コマンドについては、「[8.4.4 jpcaspsv update](#)」を参照してください。

6.2.4 複数エージェントへの一括設定

パフォーマンスデータの記録方法や保存方法の設定は、同一プロダクト名で、かつ同一データモデルバージョンのサービスであれば、GUI を使って複数の Agent に対し一括で設定できます（データモデルバージョンとは、エージェントが付与する番号です）。例えば、次のような運用が考えられます。

- 同じ種類のエージェントを管理するとき、同じ設定を一括で定義できます。
- 新しいエージェントを追加するとき、ほかのエージェントと同じ設定ができます。

各エージェントの設定情報は、GUI ではプロパティ情報の一つとして表示されます。次の表に示すノードのプロパティを一括配布できます。

表 6-14 プロパティの一括配布で参照・選択可能なノード一覧

サービス	ノード名	説明
Agent Collector	Detail Records	パフォーマンスデータの記録方法を設定するプロパティのノードです。詳細については、「6.2.2」を参照してください。
	Interval Records	
	Log Records	
	エージェント固有	エージェントに固有のプロパティのノードです。エージェントによって一括配布できるプロパティは異なります。詳細については、各 PFM - Agent のマニュアルの付録を参照してください。
Agent Store※	Retention	パフォーマンスデータの保存方法を設定するプロパティのノードです。詳細については、「6.2.3」を参照してください。
	RetentionEx	
	Disk Usage	
	Configuration	

注※

Agent Store のプロパティは、プロパティの配布元と配布先の Agent Store のバージョンと Store データベースの Store バージョンによって配布可否が異なります。詳細については、「(2) Agent Store のバージョンによるプロパティの配布可否」を参照してください。

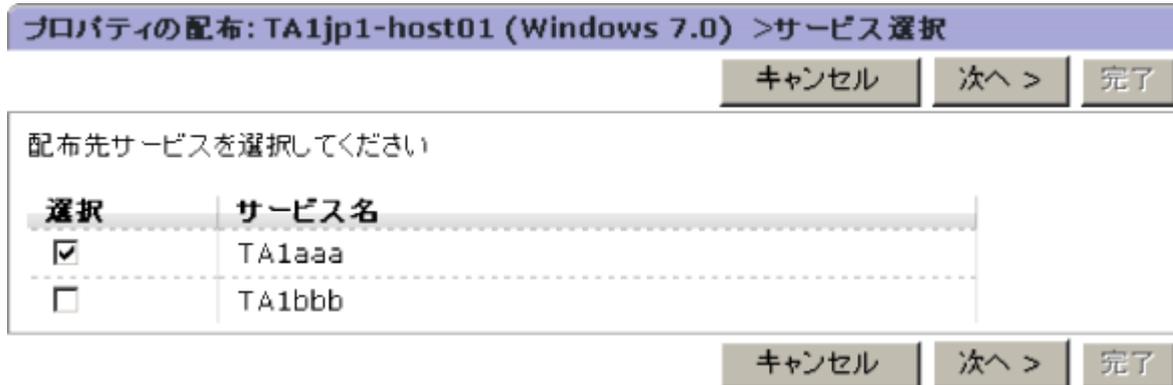
(1) エージェントのプロパティの配布手順

エージェントのプロパティを一括配布する手順を次に示します。

- Admin 権限ユーザーで Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。
- グローバルタスクバーエリアで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
Performance Reporter の [メイン] 画面が表示されます。
- Performance Reporter の Main Window のナビゲーションフレームで、[サービス階層] タブを選択します。
[サービス階層] 画面が表示されます。
- [サービス階層] 画面のナビゲーションフレームで、「Machines」フォルダの下位の階層を展開します。
Tuning Manager シリーズのサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。
- 配布元とする Agent Store サービスまたは Agent Collector サービスが動作するホストのフォルダの下位にある階層を展開し、配布元とする Agent Store サービスまたは Agent Collector サービスを選択します。
Agent Store サービスは、先頭文字が「P」以外で 2 文字目が「S」であるサービスです。例えば、「TS」や「ZS」などで始まるサービス ID のものが Agent Store サービスとなります。なお、「PS」で始まるサービス ID のものは Master Store サービスとなります。Agent Collector サービスは、先頭文字が「P」以外で 2 文字目が「A」であるサービスを選択します。
サービス ID の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」および各 PFM - Agent のマニュアルに記載されている識別子一覧を参照してください。
選択した Agent Store サービスまたは Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
- メソッドフレームの [プロパティの配布] メソッドを選択します。

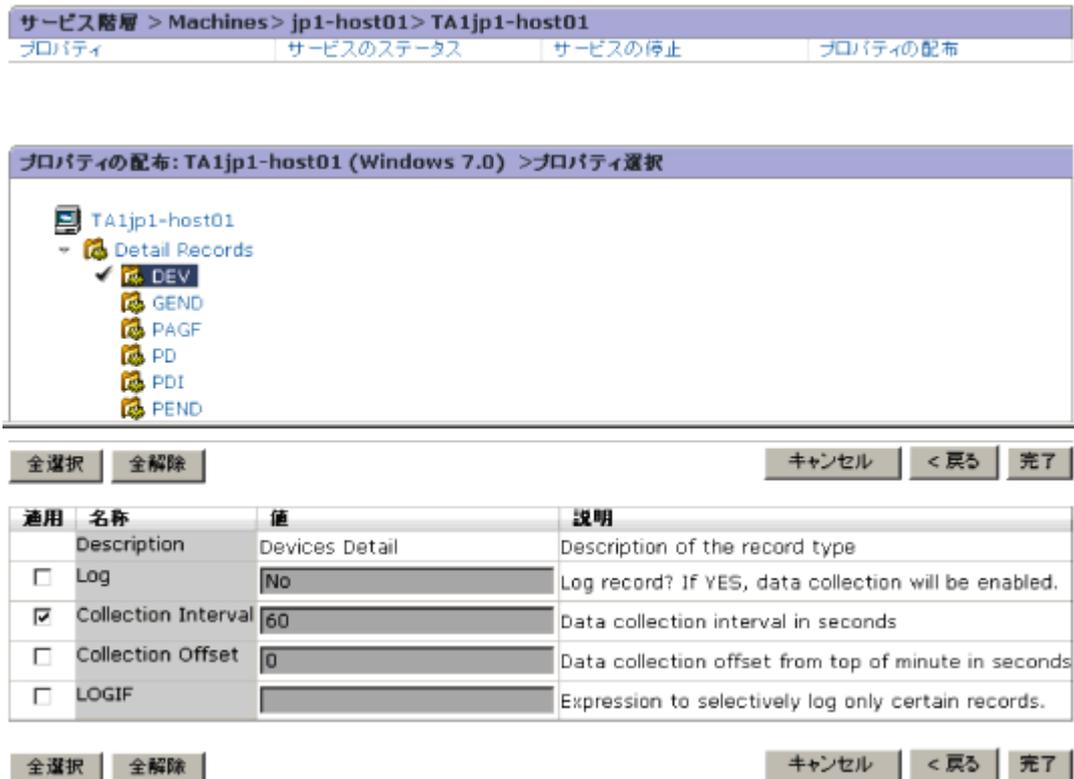
[サービス選択] 画面に遷移し、配布先として選択できるサービスが表示されます。配布先サービスには配布元サービスと同じプロダクト、かつ同じデータモデルバージョンのサービスが一覧表示されます。

図 6-5 配布先サービスの選択例



7. 配布先サービスを選択します。
8. [次へ] ボタンをクリックします。
[プロパティ選択]画面が表示され、配布先へ配布できるプロパティ一覧と選択するためのチェックボックスが表示されます。
9. 配布対象のプロパティを選択します。
ツリーでノードを選択すると、インフォメーションフレームの下部に選択できるプロパティが表示されます。

図 6-6 プロパティの配布の設定例



[全選択] ボタンをクリックすると、すべてのプロパティを選択できます。また、[全解除] ボタンをクリックすると、選択されているプロパティをすべて解除できます。

配布先サービスを選択し直したいときは、[プロパティ選択] 画面の [< 戻る] ボタンをクリックしてください。手順 6 の [サービス選択] 画面に戻ります。

10. [完了] ボタンをクリックします。
一括配布の処理が開始し、[プロパティの配布 > 進捗表示] 画面に遷移します。
一括配布が完了したサービスの「プロパティ配布」欄には「OK」が表示されます。
すべてのサービスの一括配布が完了すると、[OK] ボタンが活性化します。
11. [OK] ボタンをクリックします。
インフォメーションフレームがクリアされます。



重要 手順 9 で配布対象のプロパティを選択するたびに [完了] ボタンをクリックしなくても、配布対象のプロパティは複数回選択できます。必要に応じて、ツリーでノードを選択し、配布したいプロパティを選択する操作を繰り返し実施したあと、[完了] ボタンをクリックしてください。

(2) Agent Store のバージョンによるプロパティの配布可否

プロパティの配布元と配布先の Agent Store のバージョンと Store データベースの Store バージョンによって配布可否が異なります。Agent Store のバージョンによるプロパティの配布可否を次の表に示します。

表 6-15 Agent Store のバージョンによるプロパティの配布可否

配布元 Agent Store	配布先 Agent Store		
	08-00 以前	08-10 以降かつ Store バージョン 2.0	08-10 以降かつ Store バージョン 1.0
08-00 以前	○	×	○
08-10 以降かつ Store バージョン 2.0	×	○	×
08-10 以降かつ Store バージョン 1.0	○	×	○

(凡例)

- : 配布できる
- × : 配布できない

注

Tuning Manager シリーズのエージェントの場合、「08-00 以前」を「05-50 以前」に、「08-10 以降」を「05-70 以降」に読み替えてください。

(3) エージェント固有のプロパティの一括配布

エージェント固有のプロパティには、上位のノードを追加、削除してツリーの構造を変更できるものがあります。例えば、PFM - Agent for Platform の Application monitoring setting 配下のノードは、追加、削除してツリーの構造を変更できます。

プロパティの一括配布では、このようなエージェントの固有プロパティについて、配布元エージェントと配布先エージェントでツリーの構造が異なる場合でも、プロパティを配布できます。また、配布先エージェントのツリーの構造を配布元エージェントに合わせることもできます。

エージェント固有のプロパティの一括配布による運用

エージェント固有のプロパティの一括配布を利用することで、次のような運用ができます。

- ・ 新規システム構築時、全エージェントを同じ設定にする
- ・ システム運用中、全エージェントを同じ設定にする

- ・ システム運用中、複数のエージェントで特定のプロパティを更新する
- ・ システム運用中、複数のエージェントでノードを追加する (PFM - Agent for Platform 限定)
- ・ システム運用中、複数のエージェントでノードを削除する (PFM - Agent for Platform 限定)

1つのエージェントで、ノードを追加、削除したり、プロパティを設定したりしたあと、そのエージェントを配布元としてプロパティを一括配布することで、ツリー構造を含めたプロパティの設定を配布元と配布先で一致させます。

ここでは、プロパティを一括配布するときの設定例について説明します。

なお、1つのエージェントについて、ノードを追加したり削除したりする操作については、マニュアル「JP1/Performance Management - Agent Option for Platform (Windows(R)用)」またはマニュアル「JP1/Performance Management - Agent Option for Platform (UNIX(R)用)」を参照してください。また、一括配布の手順については、「エージェント固有のプロパティの一括配布手順」を参照してください。

新規システム構築時、全エージェントを同じ設定にする

プロパティの一括配布で、すべてのノードに対して「追加」の操作を選択します。

図 6-7 新規システム構築時に全エージェントを同じ設定にする

プロパティ設定 (Application monitoring setting)	
名称	操作
aaa	<input type="radio"/> 更新 <input checked="" type="radio"/> 追加 <input type="radio"/> 削除
bbb	<input type="radio"/> 更新 <input checked="" type="radio"/> 追加 <input type="radio"/> 削除

配布先にのみ存在するノードは削除する

配布先エージェントにノードが追加され、ツリー構造が配布元エージェントと同じになります。また、プロパティの値はすべて配布元エージェントの設定値と同じになります。

システム運用中、全エージェントを同じ設定にする

プロパティの一括配布で、すべてのノードに対して「追加」の操作を選択します。また、「配布先にのみ存在するノードは削除する」チェックボックスを選択します。

図 6-8 システム運用中に全エージェントを同じ設定にする

プロパティ設定 (Application monitoring setting)	
名称	操作
aaa	<input type="radio"/> 更新 <input checked="" type="radio"/> 追加 <input type="radio"/> 削除
bbb	<input type="radio"/> 更新 <input checked="" type="radio"/> 追加 <input type="radio"/> 削除

配布先にのみ存在するノードは削除する

配布先エージェントに存在しなかったノードは追加されます。追加されたノードのプロパティはすべて配布元エージェントの設定値と同じになります。配布先エージェントに存在していたノードは、プロパティがすべて配布元エージェントの設定値と同じになります。配布先エージェントだけに存在するノードは削除されます。

このため、配布先エージェントのツリー構造が配布元エージェントと同じになります。

システム運用中、複数のエージェントで特定のプロパティの値を更新する

プロパティの一括配布で、更新するプロパティがあるノードに対して「更新」の操作を選択します。

図 6-9 システム運用中に複数のエージェントで特定のプロパティの値を更新する

プロパティ設定 (Application monitoring setting)

名称	操作
aaa	<input checked="" type="radio"/> 更新 <input type="radio"/> 追加 <input type="radio"/> 削除
bbb	<input checked="" type="radio"/> 更新 <input type="radio"/> 追加 <input type="radio"/> 削除

配布先にのみ存在するノードは削除する

また、更新するプロパティで「適用」を選択します。

図 6-10 更新するプロパティで「適用」を選択する

プロパティの配布: TA1jp1-host01 (Windows 7.0) > プロパティ選択

- TA1jp1-host01
 - ▶ Detail Records
 - ▶ Interval Records
 - ▶ Log Records
 - ▼ Application monitoring setting
 - aaa
 - bbb

全選択 全解除

適用	名称	値	説明
<input checked="" type="checkbox"/>	Process01 Kind	Command Line	The specified type of the co
<input checked="" type="checkbox"/>	Process01 Name	a	Process name.
<input checked="" type="checkbox"/>	Process01 Range	1-1	The range conditions for eac
<input type="checkbox"/>	Process02 Kind	None	The specified type of the co
<input type="checkbox"/>	Process02 Name		Process name

イントラネット

「更新」の操作では、「適用」チェックボックスを選択したプロパティの値だけが更新されます。

システム運用中、複数のエージェントでノードを追加する

プロパティの一括配布で、追加するノードに対して「追加」の操作を選択します。

図 6-11 システム運用中に複数のエージェントでノードを追加する

プロパティ設定 (Application monitoring setting)

名称	操作
aaa	<input type="radio"/> 更新 <input checked="" type="radio"/> 追加 <input type="radio"/> 削除
bbb	<input checked="" type="radio"/> 更新 <input type="radio"/> 追加 <input type="radio"/> 削除

配布先にのみ存在するノードは削除する

配布先エージェントにノードが追加され、ツリー構造が配布元エージェントと同じになります。また、追加されたノードのプロパティはすべて配布元エージェントの設定値と同じになります。

なお、配布先エージェントに存在するノードに対して「追加」の操作を選択して一括配布した場合、そのノードのプロパティの値は、「適用」チェックボックスの状態に関係なくすべて上書きされます。

システム運用中、複数のエージェントでノードを削除する

プロパティの一括配布で、削除するノードに対して「削除」の操作を選択します。

図 6-12 システム運用中に複数のエージェントでノードを削除する

プロパティ設定 (Application monitoring setting)

名称	操作
aaa	<input type="radio"/> 更新 <input type="radio"/> 追加 <input checked="" type="radio"/> 削除
bbb	<input checked="" type="radio"/> 更新 <input type="radio"/> 追加 <input type="radio"/> 削除

配布先にのみ存在するノードは削除する

「削除」を選択したノードが配布先エージェントに存在する場合、そのノードは削除されます。



参考 「削除」の操作では配布元エージェントのノードは削除されません。このため、一括配布後は配布元エージェントと配布先エージェントでツリーの構造が異なります。

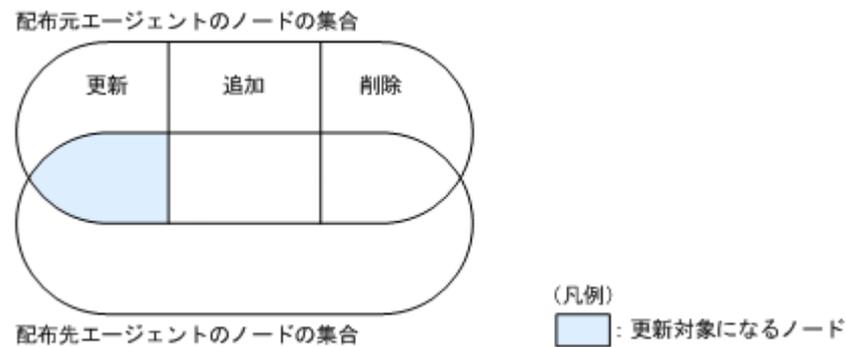
エージェント固有のプロパティの一括配布手順

エージェント固有のプロパティを一括配布する手順を次に示します。ここでは、PFM - Agent for Platform のバージョン 08-10 以降で使用できる Application monitoring setting 配下のツリーの構造を配布する例を取り上げます。なお、この例では、配布元エージェントのプロパティの設定が完了しているものとして説明します。

- Admin 権限ユーザーで Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。
- グローバルタスクバーエリアで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
Performance Reporter の [メイン] 画面が表示されます。
- Performance Reporter の Main Window のナビゲーションフレームで、[サービス階層] タブを選択します。
[サービス階層] 画面が表示されます。

4. [サービス階層] 画面のナビゲーションフレームで、「Machines」フォルダの下位の階層を展開します。
 Tuning Manager シリーズのサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。
5. 配布元とする Agent Store サービスまたは Agent Collector サービスが動作するホストのフォルダの下位にある階層を展開し、配布元とする Agent Store サービスまたは Agent Collector サービスを選択します。
 ここでは、PFM - Agent for Platform の Application monitoring setting を配布するため、「TA」から始まる Agent Collector サービスを選択します。
 サービス ID の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」および各 PFM - Agent のマニュアルに記載されている識別子一覧を参照してください。
 選択した Agent Collector サービスにチェックマークが表示されます。
6. メソッドフレームの [プロパティの配布] メソッドを選択します。
 [サービス選択] 画面に遷移し、配布先として選択できるサービスが表示されます。配布先サービスには配布元サービスと同じプロダクト、かつ同じデータモデルバージョンのサービスが一覧表示されます。
7. 配布先サービスを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
 [プロパティ選択] 画面が表示されます。
8. インフォメーションフレームのツリーで「Application monitoring setting」を選択します。
 インフォメーションフレームの下部に Application monitoring setting 配下のノード一覧が表示されます。
9. 各ノードに対して「更新」、「追加」または「削除」を選択します。
 「更新」を選択した場合に対象になるノードを次に示します。

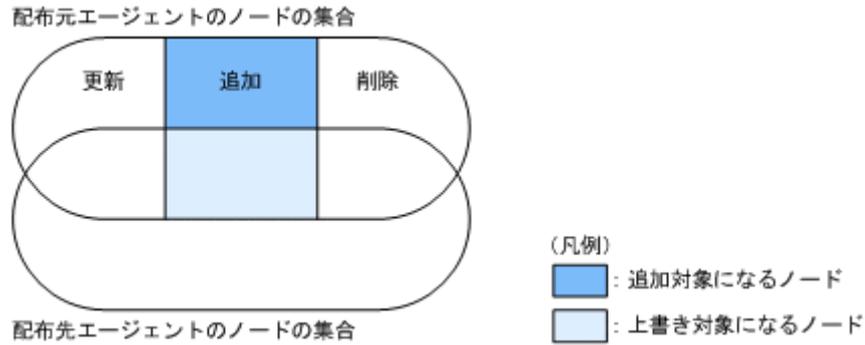
図 6-13 「更新」を選択した場合に対象になるノード



「更新」の操作では、手順 11 で「適用」チェックボックスを選択したプロパティの値だけが更新されます。

「追加」を選択した場合に対象になるノードを次に示します。

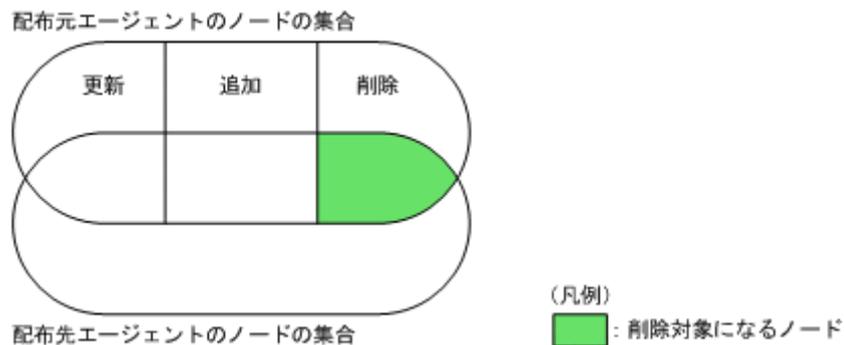
図 6-14 「追加」を選択した場合に対象になるノード



配布先エージェントに存在するノードに対して「追加」の操作を選択して一括配布した場合、そのノードのプロパティの値は、「適用」チェックボックスの状態に関係なくすべて上書きされます。

「削除」を選択した場合に削除対象となるノードを次に示します。

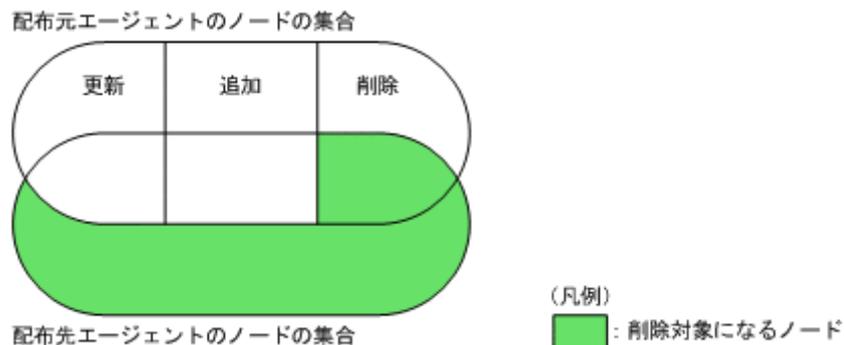
図 6-15 「削除」を選択した場合に削除対象になるノード



参考 「削除」の操作では配布元エージェントのノードは削除されません。このため、一括配布後は配布元エージェントと配布先エージェントでツリーの構造が異なります。

10. 配布先エージェントにだけ存在し、配布元エージェントに存在しないノードを削除する場合、「配布先にのみ存在するノードを削除する」チェックボックスを選択します。
 「配布先にのみ存在するノードを削除する」チェックボックスを選択した場合に削除対象となるノードを次に示します。

図 6-16 「配布先にのみ存在するノードを削除する」チェックボックスを選択した場合に削除対象になるノード



11. 手順 9 で「更新」を選択したノードについて、値を更新するプロパティを選択します。
 ノードをツリーで選択すると、プロパティの一覧が表示されます。

「更新」を選択したノードのプロパティは、一覧にある「適用」チェックボックスでの設定状態に応じて一括配布されます。

[全選択] ボタンをクリックすると、すべてのプロパティを選択できます。また、[全解除] ボタンをクリックすると、選択されているプロパティをすべて解除できます。

12. [完了] ボタンをクリックします。

配布するノード、プロパティを選択したあと、[完了] ボタンをクリックすることで、一括配布の処理が開始し、[プロパティの配布 > 進捗表示] 画面に遷移します。

一括配布が完了したサービスの「プロパティ配布」欄には「OK」が表示されます。

すべてのサービスの一括配布が完了すると、[OK] ボタンが活性化します。

13. [OK] ボタンをクリックします。

インフォメーションフレームがクリアされます。

6.2.5 パフォーマンスデータが使用しているディスク容量の確認

Store データベースが使用しているディスク容量は、Performance Reporter の [サービス階層] 画面で確認できます。

手順を次に示します。

1. Admin 権限ユーザーで Tuning Manager server にログインします。

Main Console の [メイン] 画面が表示されます。

2. グローバルタスクバーエリアで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。

Performance Reporter の [メイン] 画面が表示されます。

3. Performance Reporter の [メイン] 画面のナビゲーションフレームで、[サービス階層] タブを選択します。

[サービス階層] 画面が表示されます。

4. [サービス階層] 画面のナビゲーションフレームで、「Machines」フォルダの下位の階層を展開します。

PFM - Manager, PFM - Agent のサービスがインストールされているホストの名前が付いたフォルダが表示されます。また、ホスト名が付いたフォルダを展開すると、そのホストにインストールされているサービスが表示されます。各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。

5. ディスク容量を確認したいホスト名が付いたフォルダの下位にある Agent Store サービスを選択します。

Agent Store サービスは、先頭文字が「P」以外で 2 文字目が「S」であるサービスです。例えば、「TS」や「ZS」などで始まるサービス ID のものが Agent Store サービスとなります。なお、「PS」で始まるサービス ID のものは Master Store サービスとなります。

サービス ID の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」および各 PFM - Agent のマニュアルに記載されている識別子一覧を参照してください。

選択した Agent Store サービスにチェックマークが表示されます。

6. メソッドフレームの [プロパティ] メソッドを選択します。

Agent Store サービスのプロパティ画面に遷移し、プロパティが階層表示されます。

7. 「Disk Usage」ノードを選択します。

プロパティ画面の下部に、Agent Store サービスが管理するデータベースが使用しているディスク容量が表示されます。

6.2.6 イベントデータの管理

PFM - Agent で発生したイベントデータは、Tuning Manager server の Master Store サービスが管理する Store データベースに保存されます。この Store データベースに対し、次の操作ができます。

- イベントデータのレコード数の上限値を変更する
- イベントデータの格納先を変更する
- イベントデータをエクスポートする
- イベントデータが使用しているディスク容量を確認する
- イベントデータを消去する

注意

イベントデータが格納される Store データベースの設定は、初期化できません。

イベントデータのレコード数の上限値の変更、およびイベントデータが使用しているディスク容量の確認には、Performance Reporter を使用します。それぞれの操作の手順について説明します。なお、イベントデータの格納先を変更する手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を、それ以外の操作の手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

(1) イベントデータのレコード数の上限値を変更する

Store データベースに記録する、エージェント 1 つあたりのイベントデータのレコード数の上限は、Performance Reporter の [サービス階層] 画面で変更できます。

手順を次に示します。

1. Admin 権限ユーザーで Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。
2. グローバルタスクバーエリアで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
Performance Reporter の [メイン] 画面が表示されます。
3. Performance Reporter の [メイン] 画面のナビゲーションフレームで、[サービス階層] タブを選択します。
[サービス階層] 画面が表示されます。
4. [サービス階層] 画面のナビゲーションフレームで、「PFM - Manager」フォルダの下位の階層を展開します。
PFM - Manager のサービスが表示されます。各サービスの名前は、サービス ID で表示されません。
5. Master Store サービスを選択します。
Master Store サービスは、「PS」で始まるサービスです。
選択した Master Store サービスにチェックマークが表示されます。
6. メソッドフレームの [プロパティ] メソッドを選択します。
Master Store サービスのプロパティ画面に遷移し、プロパティが階層表示されます。
7. 「Retention」ノードを選択します。
インフォメーションフレームの下部に「Retention」ノードのプロパティが表示されます。

図 6-17 レコード数の上限の設定例（イベントデータ）

		OK	キャンセル
名称	値	説明	
Product Alarm - PA	1000		
		OK	キャンセル

- プロパティの設定内容を変更します。
プロパティの説明および設定値を次の表に示します。

表 6-16 プロパティの説明および設定値（イベントデータのレコード数の上限を変更する場合）

レコードタイプ	プロパティ名	設定値
PA レコードタイプ	Product Alarm - PA	エージェント 1 つあたりのイベントデータの保存レコード数の上限※を設定します。0～2147483647 の整数が指定できます。

注※

保存レコード数の上限値の見積もりについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のディスク占有量の見積もり方法について記載している個所を参照してください。

- [OK] ボタンをクリックします。
設定が有効になります。

(2) イベントデータが使用しているディスク容量を確認する

Store データベースが使用しているディスク容量は、Performance Reporter の [サービス階層] 画面で確認できます。

手順を次に示します。

- Admin 権限ユーザーで Tuning Manager server にログインします。
Main Console の [メイン] 画面が表示されます。
- グローバルタスクバーエリアで [起動] - [Performance Reporter] を選択します。
Performance Reporter の [メイン] 画面が表示されます。
- Performance Reporter の [Main] 画面のナビゲーションフレームで、[サービス階層] タブを選択します。
[サービス階層] 画面が表示されます。
- [サービス階層] 画面のナビゲーションフレームで、「PFM - Manager」フォルダの下位の階層を展開します。
PFM - Manager のサービスが表示されます。各サービスの名前は、サービス ID で表示されます。
- Master Store サービスを選択します。
Master Store サービスは、「PS」で始まるサービスです。
選択した Master Store サービスにチェックマークが表示されます。
- メソッドフレームの [プロパティ] メソッドを選択します。
Master Store サービスのプロパティ画面に遷移し、ツリーが表示されます。
- 「Disk Usage」ノードを選択します。

プロパティ画面の下部に、Master Store サービスが管理するデータベースが使用しているディスク容量が表示されます。

6.3 ポーリング設定

Tuning Manager server では、ポーリングの実行に関して次の内容を設定できます。

ポーリングスケジュール※

Tuning Manager server は、設定されたスケジュールに従ってポーリングを実施して、情報取得元が保持しているデータから毎時のデータを取得します。ポーリング処理では、前回のポーリング処理以降に情報取得元が集めたリソースのデータを取得します。Tuning Manager server は、情報取得元からデータを取得して、取得した容量情報について時間メトリックの集約を実行します。ポーリングスケジュールは、1日に1回(0時)を推奨します。

また、サマータイムが適用されている場合、すべてのチェックボックスの値は、サマータイム適用時間として扱われます。

注意

Device Manager のデータ収集が完了している状態でポーリングを実施するよう、スケジュールを設定してください。ポーリング中に Device Manager がデータ収集を実施している場合、ポーリングに失敗することがあります。

過去データ収集期間※

ポーリングスケジュールを設定していても、次の理由でポーリングに失敗することがあります。

- ポーリング対象のエージェントが停止している
- ポーリング対象のエージェントとの通信に失敗している

この場合、過去データ収集期間を設定することで、次回ポーリング時にエージェントからポーリングに失敗したデータを取得できます。

例えば、毎時ポーリングを設定していて、12:00 から 16:00 までのポーリングに失敗した環境があると仮定します。この場合、過去データを収集するために、過去データ収集期間を 4 時間に設定します。過去データ収集期間を 4 時間に設定することで、17:00 にポーリングが実行されたとき、13:00、14:00、15:00、および 16:00 のデータも取得されます。

ポーリング対象となるデータの開始時間は、次に示すどちらかの時間のうち、現在のシステム時間に近い方の時間となります。

- 最新レコード日時 + 1 時間
- 現在のシステム時間から、過去データ収集期間の値を引いた時間

例えば、現在のシステム時間が 13 時、過去データ収集期間の値が 2 時間、最新レコード日時が 12 時とした場合、開始時間には最新レコード日時 + 1 時間 (13 時) の値が使用されます。

注意

- ポーリング処理の間隔が過去データ収集期間よりも、等しいかまたは短くなるように、ポーリングスケジュールで適切なポーリング処理の時刻を設定してください。
- 過去データ収集期間はデータ保持期間よりも、等しいかまたは短くなるように設定してください。過去データ収集期間にデータ保持期間より長い期間を設定した場合、データ保持期間と等しい期間が設定されます。データ保持期間については、「6.4 データ保持期間」を参照してください。

注※

ホストの監視モードが Agent-less モードの場合、該当ホストに関して設定が無効になります。

ポーリングの再試行オプションの設定

Tuning Manager server は、ポーリングが失敗したとき、再試行することが可能です。また、再試行間隔、再試行回数を設定できます。デフォルトでは、再試行しない設定になっています。ポーリング再試行オプションについては、デフォルトで運用してください。

なお、再試行間隔と再試行回数は、ポーリングスケジュールとポーリングに掛かる時間を考慮して設定する必要があります。例えば、ポーリングスケジュールが 1 日に 4 回(6 時間ごと)で、1 回のポーリングに 15 分掛かる場合、次の式を満たす再試行間隔と再試行回数を設定する必要があります。

$$15 \text{ 分} + (\text{再試行間隔} + 15 \text{ 分}) \times \text{再試行回数} \leq 6 \text{ 時間}$$

ポーリングスケジュールを変更する場合、変更したあとの 1 回のポーリングに必要な時間を算出し、適切な再試行間隔と再試行回数を設定する必要があります。

再試行中にポーリング開始時間となった場合、その回のポーリングは実施されません。

6.3.1 ポーリング設定を確認する

ポーリング設定を確認する手順を次に示します。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [ポーリング設定] をクリックします。

[ポーリング設定] 画面が表示されます。表示項目の意味を次に示します。

表 6-17 [ポーリング設定] 画面の表示項目

表示項目		意味
ポーリング共通設定	デフォルトスケジュール	情報取得元のデフォルトのポーリングスケジュールです。新規エージェントを認識した場合は、デフォルトの設定を適用します。Tuning Manager server を新規インストールした場合、デフォルトの設定は 00:00 です。ポーリングしない設定の場合は空白になります。
	過去データ収集期間	ポーリング時に過去のデータを取得するために遡る期間です。単位は時間です。遡る期間に 0 時間を設定した場合、遡り処理を実行しません。デフォルトは 24 時間です。
	リトライ設定	ポーリングが失敗した場合のリトライに関する設定です。リトライ間隔とリトライ回数が表示されます。リトライ間隔が 0 分の場合、即時リトライします。リトライ回数が 0 回の場合、リトライしません。リトライ設定をしていない場合は、[無効] が表示されます。
エージェント一覧	名前	エージェント (HTM - Agent for SAN Switch, PFM - Agent for Oracle もしくは HTM - Storage Mapping Agent) のサービス ID または[HDvM]です。※
	タイプ	エージェントまたは Device Manager の種別です。※
	ポーリングスケジュール	各エージェントのポーリングスケジュールです。設定したポーリング時間がコンマ区切りで表示されます。デフォルトの設定を使用している場合は、デフォルトが表示されます。ポーリングしない設定の場合は空白になります。

表示項目		意味
	最終ポーリング時刻	最後にポーリングを実行した時刻です。一度もポーリングしていないか、監視状態がポーリングの対象になっていない場合は、[n/a]が表示されます。
	関連エージェント	関連エージェントが表示されます。*

注※

エージェントの組み合わせによって、表示される項目が異なります。表示される項目を次の表に示します。

[名前]	[タイプ]	[関連エージェント]	監視対象
[HDvM]	[HDvM]	HTM - Agent for RAID のサービス ID	ストレージシステム
		空白	ホスト (Agent-less モード)
			ハイパーバイザー
HTM - Storage Mapping Agent のサービス ID	PFM - Agent for Platform が Windows の場合, [Windows] Windows 以外の場合, [Unix]	PFM - Agent for Platform のサービス ID	ホスト (Agent モード)
HTM - Agent for SAN Switch のサービス ID	[Switch]	空白	スイッチ
PFM - Agent for Oracle のサービス ID	[Oracle]	空白	Oracle

- [ポーリング設定] 画面の最新の情報を確認したい場合は、[リフレッシュ] ボタンをクリックします。

[ポーリング設定] 画面が最新の情報に更新されます。

Tuning Manager server がポーリング中のときは、最新のエージェント情報を取得できません。このとき Tuning Manager server は、ポーリング中であることを示すメッセージをメッセージエリアに表示します。

注意

システムログを調べると、ポーリングに一般的に掛かる時間を推測できます (詳細は、「7.4 保守情報の採取方法」を参照してください)。

6.3.2 ポーリング設定を編集する

デフォルト以外の設定でポーリングを実行したい場合は、ポーリング設定を編集します。ポーリング設定はポーリング共通設定編集画面でまとめて編集できます。ポーリング設定を編集する手順を次に示します。設定項目の有効な値についての詳細は、「1.1.7 入力文字の制限事項」を参照してください。

- エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
- サブメニューの [ポーリング設定] をクリックします。
[ポーリング設定] 画面が表示されます。
- [ポーリング共通設定編集] ボタンをクリックします。
[ポーリング共通設定編集] ダイアログが表示されます。

4. [デフォルトポーリングスケジュール]でテーブル中の個々のチェックボックスをオンにします。
 - チェックボックスをすべてオンにする場合
[すべて選択] ボタンをクリックします。
 - チェックボックスをすべてオフにする場合
[すべて非選択] ボタンをクリックします。
すべてオフにした場合、ポーリングは実行されません。
 - 奇数時刻のチェックボックスをオンにする場合
[奇数時選択] ボタンをクリックします。
 - 偶数時刻のチェックボックスをオンにする場合
[偶数時選択] ボタンをクリックします。
5. [ポーリング共通設定編集] の [過去データ収集期間] に値を入力します。

注意

ポーリング処理の間隔が [過去データ収集期間] で指定した値よりも、等しいかまたは短くなるように、[デフォルトポーリングスケジュール] で適切なポーリング処理の時刻を設定してください。

例

次の設定をした場合、5時から10時のデータが取得できないため、11時から14時にも1回ポーリング処理を実行するように設定を変更してください。

[デフォルトポーリングスケジュール] で設定したポーリング処理の実行時刻: 5時, 20時
[過去データ収集期間] に設定した時刻: 9時間

6. [ポーリングリトライ設定] に再試行間隔, 再試行回数を入力します。

注意

ポーリング再試行オプションについては、デフォルトで運用してください。

7. 設定内容を保存する場合は、[OK] ボタンをクリックします (変更した内容を無効にする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください)。

ポーリングは、デフォルトポーリングスケジュールに従って実行しますが、ポーリングスケジュールを情報取得元ごとに設定することもできます。情報取得元ごとに任意の時間にポーリングする手順を次に示します。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [ポーリング設定] をクリックします。
[ポーリング設定] 画面が表示されます。
3. スケジュールを設定したい情報取得元のチェックボックスをオンにして、[ポーリングスケジュール編集] ボタンをクリックします。
[ポーリングスケジュール編集] 画面が表示されます。
4. [スケジュールを指定する] ラジオボタンをオンにして、テーブル中の個々のチェックボックスをオンにします。
 - チェックボックスをすべてオンにする場合
[すべて選択] ボタンをクリックします。
 - チェックボックスをすべてオフにする場合
[すべて非選択] ボタンをクリックします。
すべてオフにした場合、ポーリングは実行されません。
 - 奇数時刻のチェックボックスをオンにする場合

- [奇数時選択] ボタンをクリックします。
 - 偶数時刻のチェックボックスをオンにする場合
 - [偶数時選択] ボタンをクリックします。
5. 設定内容を保存する場合は、[OK] ボタンをクリックします（変更した内容を無効にする場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください）。

6.3.3 手動でポーリングを操作する

手動でポーリングを操作する手順について説明します。

(1) ポーリングの開始

Tuning Manager server は、手動でポーリングを開始できます。ポーリングを開始すると、最終ポーリング時刻から現在までで有効なデータを接続しているすべてのエージェントから取得します。

利点：

- 最も新しいデータを必要に応じて報告できます。
- Tuning Manager server ホストの使用負荷が少ないときなどに、システム管理者が手動でポーリングを開始できます。

情報取得元から一度取得したデータは再取得しません。例えば、10:00 にポーリングスケジュールを設定した場合、10:30 に手動でポーリングを実行して取得できるデータは10:00 のポーリングで取得できなかった情報取得元のデータだけになります。

ポーリングを開始するには、以下の手順を実行します。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [ポーリング設定] をクリックします。
[ポーリング設定] 画面が表示されます。
3. [ポーリング開始] をクリックします。
処理の進捗を表す画面が表示され、処理が実行されます。

注意

ポーリングは、Device Manager のデータ収集が完了している状態で開始してください。ポーリング中に Device Manager がデータ収集を実施している場合、ポーリングに失敗することがあります。

(2) ポーリングの停止

Tuning Manager server のポーリングは情報取得元の構成によってポーリングが完了するまでに時間が掛かることがあります。したがって、ポーリングを途中で停止する機能を提供しています。

この機能はポーリングが実行中に限り有効です。もしポーリングを停止した場合、メッセージエリアに、ポーリングが完了する前に停止されたことを示すメッセージを表示します。このメッセージはポーリングが停止されたあとから Tuning Manager server を再起動するまで表示されます。

ポーリングを停止する手順を次に示します。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [ポーリング設定] をクリックします。
[ポーリング設定] 画面が表示されます。
3. [ポーリング停止] をクリックします。

処理の進捗を表す画面が表示され、処理が実行されます。

6.3.4 サマータイム移行時のポーリングについて

ここでは、サマータイム移行時のポーリングについての注意事項について説明します。

(1) サマータイム移行時のポーリングデータ

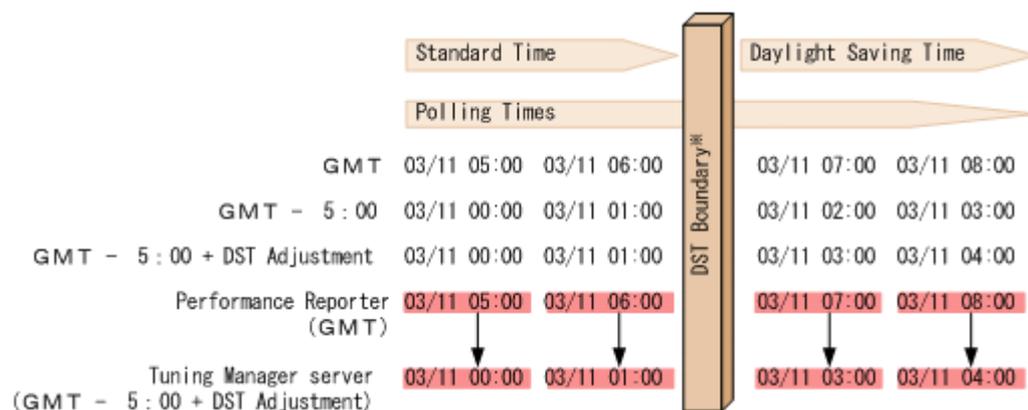
Tuning Manager server は、GMT (グリニッジ標準時) ではなくローカルタイムでデータを保管します。Tuning Manager server が動作するコンピュータが、ポーリングスケジュール中に自動的にローカルタイムをサマータイムに時間を調整するように設定されているとき、その時点で収集されていたデータは次のような影響を受けることがあります。

標準時間からサマータイムへの変更

- コンピュータのローカルタイムは自動的に 1 時間進むので時間変更時の[監視日時]は使用できません。
- Tuning Manager server は使用可能な次の[監視日時]を表示するよう自動調整します。
- 時間変更を示すデータは、どの履歴および予測レポートにも表示されません。

この動作の例を次の図に示します。

図 6-18 太平洋標準時間から太平洋夏時間への調整



注※

サマータイムに切り替わったあとから 02:00 までのデータはありません。

[監視日時]を"03/11 02:00"に指定した場合、自動的に[監視日時]を"03/11 03:00"にします。

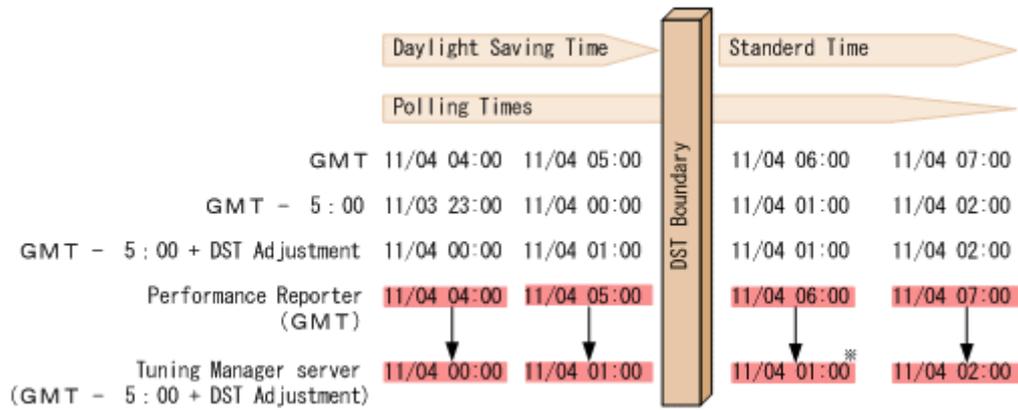
"03/11 02:00"のデータは履歴と予測レポートに表示しません。

サマータイムから標準時間への変更

- ローカルタイムは自動的に 1 時間戻るので、Tuning Manager server が収集済みの[監視日時]が重複します。
- 時間変更のためにできた重複した[監視日時]は削除されます。
- 時間変更後の次の時期を示すデータはレポートに 2 度表示されますが、収集済み情報は 1 度だけ表示されます。

この動作の例を次の図に示します。

図 6-19 太平洋夏時間から太平洋標準時間への調整



注※

サマータイムから切り替わったときにできる重複データは削除されます。

履歴および予測レポートには2つの同じデータポイントが表示されます。しかし、重複するデータポイントの片方だけ情報が表示されます。

(2) サマータイム移行時のポーリングスケジュール

ポーリングスケジュールを設定する画面に表示される時刻は、サマータイム適用期間でも標準時間で表示されます。サマータイム適用期間は、標準時間（例：12:00）がサマータイム（例：13:00）に置き換わってポーリングが実行されます。

サマータイムの開始/終了時点のポーリングスケジュールの時間設定が、次の条件で設定されている場合、設定どおりにポーリングスケジュールやデータ集計が実行されないことがあります。この現象は、サマータイムの開始/終了時点でだけ発生し、それ以外のポーリングスケジュールは正常に動作します。

それぞれに対応する回避策を実施する場合、次の表に示すとおり少なくともサマータイムの開始/終了時点の24時間以上前に実施してください。回避策を解除する場合、サマータイムの開始/終了時点の1時間以上あとに回避策を解除してください。

表 6-18 サマータイム移行時のポーリングスケジュールの回避策

サマータイム	条件	回避策
開始時	ポーリングスケジュールで、次の時刻のどちらか一方だけを選択している場合 <ul style="list-style-type: none"> サマータイムの開始時刻 例：2007年の場合、東部標準時（米国およびカナダ）での 03:00 サマータイムの開始時刻の1時間前 例：2007年の場合、東部標準時（米国およびカナダ）での 02:00 	ポーリングスケジュールでサマータイムの開始時刻とサマータイムの開始時刻の1時間前を選択してください。
終了時	ポーリングスケジュールで、次の時刻のどちらか一方だけを選択している場合 <ul style="list-style-type: none"> サマータイムの終了時刻 例：2007年の場合、東部標準時（米国およびカナダ）での 02:00 サマータイムの終了時刻の1時間前 例：2007年の場合、東部標準時（米国およびカナダ）での 01:00 	ポーリングスケジュールでサマータイムの終了時刻とサマータイムの終了時刻の1時間前を選択してください。

(3) Tuning Manager server で管理する時刻の入力

Tuning Manager server は、レポートウィンドウなどで表示するデータの日時の範囲を入力できます。入力するときの注意事項について説明します。標準時間からサマータイムへ切り替わるタイミングの前後で、時刻の入力画面から欠落する日時を指定した場合、Tuning Manager server はサマータイムでの時刻を指定したとみなします。また、サマータイムから標準時間へ切り替わるタイミングの前後で、時刻の入力画面から重複する日時を指定できません。

東部標準時 (GMT+05:00) の場合の例を次に示します。

- ユーザーが 2007/03/11 2:00 を時刻の入力画面で指定する場合
Tuning Manager server は、2007/03/11 3:00 (EDT:Eastern Daylight Time) を指定したとみなします。
- ユーザーが 2007/11/04 1:00 を時刻の入力画面で指定する場合
Tuning Manager server は 2007/11/04 1:00 (EST:Eastern Standard Time) を指定したとみなすため、2007/11/04 1:00 (EDT) を指定できません。

6.4 データ保持期間

Tuning Manager server ではデータベースに格納された構成情報・容量情報の保持期間を設定できます。保持期間を過ぎたデータは、自動的にデータベースから削除されます。

リソースを節約し、Tuning Manager server の性能を最大限にするために、システム環境に応じてデータ保持期間を設定することを推奨します。例えば、データベースの空き容量不足のためポーリングが中断した場合は、データ保持期間を短くしてデータベースの使用率を下げてください。

また、データベースの総容量を拡張することでデータベースの使用率を下げする方法もあります。データベースの総容量を拡張する方法については、「3.5 データベースの総容量の変更」を参照してください。

6.4.1 データ保持期間の設定を確認する

Tuning Manager server のデータベースに構成情報・容量情報を保持する期間を確認する手順を次に示します。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [データ保持期間設定] をクリックします。
データ保持期間の設定を確認する画面が表示されます。表示項目の意味を次に示します。

表 6-19 データ保持期間の設定を確認する画面の表示項目

表示項目		意味
容量データ	時間単位データ	時間単位のデータを保持する期間です。
	日単位データ	日単位のデータを保持する期間です。
	週単位データ	週単位のデータを保持する期間です。
	月単位データ	月単位のデータを保持する期間です。
	年単位データ	年単位のデータを保持する期間です。
構成履歴	ホスト構成履歴	ホストおよびハイパーバイザーの構成履歴を保持する期間です。
	装置構成履歴	ストレージシステムの構成履歴を保持する期間です。
	ファブリック構成履歴	ファブリックの構成履歴を保持する期間です。

表示項目		意味
	アプリケーション構成履歴	アプリケーションの構成履歴を保持する期間です。
システムレポート		ポーリングの実行結果を保持する期間です。

6.4.2 データ保持期間の設定を編集する

Tuning Manager server のデータベースに構成情報・容量情報を保持する期間を設定する手順を次に示します。設定項目の有効な値についての詳細は、「1.1.7 入力文字の制限事項」を参照してください。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [データ保持期間設定] をクリックします。
データ保持期間の設定を確認する画面が表示されます。
3. [データ保持期間編集] ボタンをクリックします。
データ保持期間を編集するダイアログが表示されます。
4. [容量データ] でリソースの容量データを保持する期間を設定します。
 - [時間単位データ]
フィールドに値を設定して、期間単位を選択します。デフォルトは、7 日です。
 - [日単位データ]
フィールドに値を設定して、期間単位を選択します。デフォルトは、3 か月です。
 - [週単位データ]
フィールドに値を設定して、期間単位を選択します。デフォルトは、3 か月です。
 - [月単位データ]
フィールドに値を設定して、期間単位を選択します。デフォルトは、2 年です。
 - [年単位データ]
フィールドに値を設定します。期間単位は年です。デフォルトは、5 年です。
5. [構成履歴] で構成履歴を保持する期間を設定します。
 - [ホスト構成履歴]
フィールドに値を設定して、期間単位を選択します。デフォルトは、1 年です。
 - [装置構成履歴]
フィールドに値を設定して、期間単位を選択します。デフォルトは、1 年です。
 - [ファブリック構成履歴]
フィールドに値を設定して、期間単位を選択します。デフォルトは、1 年です。
 - [アプリケーション構成履歴]
フィールドに値を設定して、期間単位を選択します。デフォルトは、1 年です。
6. [システムレポート] でポーリング結果を保持する期間を設定します。
フィールドに値を設定して、期間単位を選択します。デフォルトは、3 か月です。
7. 設定を保存する場合は、[OK] ボタンをクリックします（設定を破棄するには、[キャンセル] ボタンをクリックしてください）。
8. 設定したデータ保持期間でデータを削除したい場合は、[ポーリング設定] 画面で [リフレッシュ] ボタンをクリックします。

[ポーリング設定] 画面が最新の情報に更新され、Tuning Manager server がデータ保持期間を過ぎたデータを削除します。

6.5 システムレポート

Tuning Manager server は、ポーリング処理についてのレポート機能、およびシステムアラート通知機能を提供します。ポーリングに対するシステムアラート通知機能は、各ポーリング処理の実行状態を監視し、設定した通知先に email を送信します。

システムレポート画面では、次の機能について確認または設定できます。

- ポーリング状態レポート
ポーリングの情報およびエージェントの情報を確認できます。
- システムアラート
ポーリングの実行結果に異常が発生した場合、設定した通知先に email を送信できます。システムアラートに設定する条件をアラート定義と呼びます。Tuning Manager server で設定できるアラート定義は1つです。システムアラートは、SSLに対応していません。

6.5.1 ポーリング状態レポートを確認する

ポーリング状態レポートでは、ポーリングの実行時刻、完了時刻などの処理全体の情報とエージェントごとの詳細な情報を確認できます。ポーリングを開始してから、ポーリング状態を確認できるようになるまでに数分掛かることがあります。ポーリング状態レポートを確認する手順を次に示します。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [システムレポート] をクリックします。
[システムレポート] 画面が表示されます。
3. [ポーリングステータス] タブを選択します。
ポーリングステータスを確認する画面が表示されます。表示項目の意味を次に示します。

表 6-20 ポーリングステータスを確認する画面の表示項目

表示項目	意味
ポーリング時刻	ポーリングが行われた時刻を表します。詳細を確認したい場合は、この時刻をクリックします。状態が「実行中」の場合は、クリックしても何も表示されません。
モード	ポーリングタイプを表します。スケジュールまたは手動を意味します。
状態	ポーリングの状態を表します。実行中、完了、中断、スキップ、エラー、警告、または致命を意味します。
合計時間	ポーリング処理全体に掛かる合計時間を表します。状態が「スキップ」の場合は、「n/a」を表示します。「実行中」の場合は、現時点の進捗値を表示します。
データ収集済みエージェント	ポーリング期間に更新された接続中のエージェントの数を表します。状態が「スキップ」の場合は、「n/a」を表示します。「実行中」の場合は、現時点の進捗値を表示します。
データ未収集エージェント	ポーリング期間に更新されなかった接続中のエージェントの数を表します。状態が「スキップ」の場合は、「n/a」を表示します。「実行中」の場合は、現時点の進捗値を表示します。

表示項目	意味
監視対象リソース数	ポーリングが終了した時点で、Tuning Manager server が監視しているリソース数を表します。状態が「スキップ」の場合は、「n/a」を表示します。「実行中」の場合は、現時点の進捗値を表示します。

4. ポーリングの詳細情報を確認したい場合は、[ポーリング時刻]の任意の時刻をクリックします。ポーリング処理結果の詳細情報を確認する画面が表示されます。表示項目の意味を次に示します。

表 6-21 ポーリング処理結果の詳細情報を確認する画面の表示項目

表示項目	意味	
ポーリング情報	モード	ポーリングタイプを表します。スケジュールまたは手動を意味します。
	状態	ポーリングの状態を表します。実行中、完了、中断、スキップ、エラー、警告、または致命を意味します。
	データ収集済みエージェント	ポーリング期間に更新された接続中のエージェントの数を表します。状態が「スキップ」の場合は、「n/a」を表示します。「実行中」の場合は、現時点の進捗値を表示します。
	データ未収集エージェント	ポーリング期間に更新されなかった接続中のエージェントの数を表します。状態が「スキップ」の場合は、「n/a」を表示します。「実行中」の場合は、現時点の進捗値を表示します。
	監視対象リソース数	ポーリングが終了した時点で、Tuning Manager server が監視しているリソース数を表します。状態が「スキップ」の場合は、「n/a」を表示します。「実行中」の場合は、現時点の進捗値を表示します。
	合計時間	ポーリング処理全体に掛かる合計時間を表します。状態が「スキップ」の場合は、「n/a」を表示します。「実行中」の場合は、現時点の進捗値を表示します。
	エージェントリフレッシュ時間	エージェントのリフレッシュ時間を表示します。
	データ削除時間	データ削除の処理時間を表します。状態が「スキップ」の場合、「n/a」を表示します。
	データ収集時間	データ収集の処理時間を表します。状態が「スキップ」の場合、「n/a」を表示します。
	データ集約時間	集約の処理時間を表します。状態が「スキップ」の場合、「n/a」を表示します。
エージェント一覧	名前	エージェント (HTM - Storage Mapping Agent, HTM - Agent for SAN Switch もしくは PFM - Agent for Oracle) のサービス ID または[HDvM]です。
	タイプ	エージェントまたは Device Manager の種別です。
	ポーリング時刻	各エージェントで最後にポーリングを実行した日時を表示します。
	データ収集期間	データの取得期間を表します。エージェントからデータを取得した期間の先頭時刻と終端時刻を表示します。
	最終レコード	エージェントからデータを取得したレコードのうち最新レコードの時間を表します。
	データ収集時間	エージェントからデータを取得するために掛かった処理時間を表します。
	監視リソース数	ポーリングが終了した時点で、Tuning Manager server が監視しているリソース数を表します。

6.5.2 システムアラートを確認する

システムアラートの設定内容およびレポート内容を確認する手順を次に示します。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [システムレポート] をクリックします。
[システムレポート] 画面が表示されます。
3. [システムアラート定義] タブを選択します。
システムアラート設定を確認する画面が表示されます。表示項目の意味を次に示します。

表 6-22 システムアラート設定を確認する画面の表示項目

表示項目		意味
アラート定義	ポーリング状態の監視設定	設定した時間を経過しても Device Manager およびエージェントからデータを取得できなかった場合に、システムアラートを発行します。有効または無効が表示されます。有効の場合は、監視時間が表示されます。
	ポーリングスキップの監視設定	すでにポーリングが実行中のため、設定したポーリングがスキップされた場合に、システムアラートを発行します。ポーリングを開始する時刻に前回のポーリングが終了していなかった場合、その時刻のポーリング処理はスキップされます。有効または無効が表示されます。
	ポーリング時間の監視設定	ポーリングの実行時間が設定した時間を経過した場合に、システムアラートを発行します。有効または無効が表示されます。有効の場合は、監視時間が表示されます。
	ポーリング失敗の監視設定	ポーリング処理が致命的なエラーで中断した場合、システムアラートを発行します。有効または無効が表示されます。
	DB 領域不足の監視設定	ポーリング処理で DB 領域が不足した場合に、システムアラートを発行します。有効または無効が表示されます。
アラート通知	通知先アドレス	通知先の email アドレスです。
	メールサーバ	email を送信するときのメールサーバです。ホスト名または IP アドレスが表示されます。
	SMTP 認証の設定	email を送信する際に SMTP 認証をします。有効または無効が表示されます。
	SMTP 認証で使用するユーザー名	SMTP 認証で使用するユーザー名です。SMTP 認証の設定が無効の場合、空白になります。

6.5.3 エージェントポーリング状態アラートを設定する

エージェントのシステムアラートを設定する手順を次に示します。設定項目の有効な値の詳細については、「1.1.7 入力文字の制限事項」を参照してください。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [システムレポート] をクリックします。
[システムレポート] 画面が表示されます。
3. [システムアラート定義] タブを選択します。
システムアラートを確認する画面が表示されます。
4. [システムアラート編集] ボタンをクリックします。
システムアラートを編集するダイアログが表示されます。
5. [アラート定義] でアラート定義を設定します。

- ポーリング状態を監視する場合
[ポーリング状態の監視設定] チェックボックスをオンにして、1~24 の時間を設定します。デフォルトは 24 です。
 - ポーリングスキップを監視する場合
[ポーリングスキップの監視設定] チェックボックスをオンにします。
 - ポーリング時間を監視する場合
[ポーリング時間の監視設定] チェックボックスをオンにして、1~24 の時間を設定します。推奨値は 1 です。デフォルトは 3 です。
 - ポーリング失敗を監視する場合
[ポーリング失敗の監視設定] チェックボックスをオンにします。
 - データベース領域不足を監視する場合
[DB 領域不足の監視設定] チェックボックスをオンにします。
6. [アラート通知] でメールサーバ、通知先を設定します。
- [通知先アドレス]
通知先の email アドレスを入力します。email アドレスは 1 つだけ登録できます。
 - [メールサーバ]
メールサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
7. SMTP 認証する場合、[アラート通知] で [SMTP 認証] チェックボックスをオンにして、次の項目を設定します。
- [ユーザー名]
ユーザー名を設定します。
 - [パスワード]
パスワードを設定したい場合、[変更] チェックボックスをオンにして、パスワードを入力します。
8. テストメールを送信したい場合、[テストメール送信] ボタンをクリックします。
テストメールが送信され、実行結果を確認する画面が表示されます。確認したあと、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じます。
9. [OK] ボタンをクリックします。
設定した内容が保存されます。

6.6 モデルをアップグレードした HUS100 シリーズまたは Hitachi AMS2000 シリーズを監視する場合の注意事項

監視対象のストレージシステムが HUS100 シリーズまたは Hitachi AMS2000 シリーズで、ストレージシステムのモデルをアップグレードする場合の注意事項を次に示します。

- ストレージシステムのモデルのアップグレード後には、ストレージシステムのシリアル番号に対するライセンスの投入、および Device Manager のディスカバリを実施してください。その後、ポーリングを実行することで、情報取得元はモデルのアップグレード後のストレージシステムを新しいストレージシステムとして監視します。
- ストレージシステムのモデルをアップグレードする前に作成した HTM - Agent for RAID のインスタンスは、ストレージシステムのモデルをアップグレードしたあとも継続して使用できます。モデルのアップグレード前後でストレージシステムの IP アドレスを変更した場合は、インスタンスの更新が必要です。また、ストレージシステムのモデルのアップグレード作業の実施中は、HTM - Agent for RAID のサービスを停止してください。

- ストレージシステムのモデルのアップグレード前後で、HTM - Agent for RAID のインスタンスを継続して使用する場合、モデルのアップグレード前に取得した性能情報は Performance Reporter を使用して参照してください。Main Console では参照できません。

トラブルへの対処方法

この章では Tuning Manager server でトラブルが発生した場合、トラブルシューティングを実施するために有用な情報について説明します。なお、Tuning Manager server およびエージェントが起動・停止処理中の場合、および障害などによって停止している場合に、Tuning Manager server およびエージェントのサービスの状態が、正常かどうかを確認できる機能があります。この機能を、ステータス管理機能といいます。このステータス管理機能については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。

- 7.1 対処の手順
- 7.2 トラブルシューティング
- 7.3 トラブル発生時に採取が必要な資料
- 7.4 保守情報の採取方法
- 7.5 メッセージ

7.1 対処の手順

Tuning Manager server でトラブルが起きた場合の対処の手順を次に示します。

メッセージの確認

トラブルが発生した場合には、GUI やログファイルに出力されたメッセージを確認し、メッセージの内容に従って対処してください。また、ログファイルを参照して、トラブルの要因を特定、対処してください。

各メッセージの詳細については、「7.5 メッセージ」を参照してください。

ログファイルの格納先およびログファイルの確認方法については、「7.3 トラブル発生時に採取が必要な資料」を参照してください。

トラブルシューティングの確認

トラブルの発生時にメッセージが出力されていない場合、およびメッセージの指示に従って対処してもトラブルが解決できない場合は、「7.2 トラブルシューティング」に記載されている対処方法を参照して、発生したトラブルに対処してください。

保守情報の採取およびサポートデスクへの連絡

メッセージおよび「7.2 トラブルシューティング」に記載されている方法でトラブルに対処できない場合は、サポートを受けることができます。

サポートを受けるには、必要な保守情報を採取して、サポートデスクに連絡します。

保守情報採取時に実行するコマンドは、対象のプログラムによって異なります。障害が発生しているホストにインストールされているプログラムを確認の上、次の表に示すコマンドを実行してください。

表 7-1 保守情報採取対象プログラムと保守情報採取コマンドの対応

障害が発生しているホストにインストールされているプログラム	保守情報採取時に実行するコマンド
Tuning Manager server	hcmdsgetlogs
PFM - Agent	jpcras
Tuning Manager server および PFM - Agent	<ul style="list-style-type: none">hcmdsgetlogsjpcras

保守情報の採取方法については、「7.4 保守情報の採取方法」を参照してください。

7.2 トラブルシューティング

この節では、メッセージやログの指示で対処できないトラブルについて、その原因と対処方法を説明します。

7.2.1 データ更新の遅れが発生する

エージェントは、インストールされたホストマシンのシステム時計に基づいて動作します。エージェントホストのシステム時計が、Tuning Manager server ホストのシステム時計より遅れている場合、指定のポーリング時間の該当エージェントからのデータ収集が遅れる場合があります。これは、システム時間が遅れているマシンのエージェントが指定時間に達していないため、Tuning Manager server がデータを収集していないためです。

例:

Tuning Manager server ホストのシステム時計—午後 2 時

エージェントホストのシステム時計—午後 1 時 50 分

この場合にシステム管理者が Tuning Manager server でポーリング時刻を午後 2 時に設定している場合、Tuning Manager server はエージェントにデータを取得しにいきますが、エージェント側のシステム時計が遅れているため、何も報告するデータがありません。

システム時計の遅れの問題を識別するためには、[システムレポート] 画面（ポーリングステータスを確認する画面、およびポーリング処理結果の詳細情報を確認する画面）を確認してください。遅れているシステム時計を持ったホストのエージェントは、正常なシステム時計を持つホストのエージェントと明らかな違いを示します。[ポーリング時刻] と [最終レコード] を比較してください。

図 7-1 [システムレポート] 画面



ほかのエージェントと [ポーリング時刻] のタイムスタンプは近いが、[最終レコード] が遅れているエージェントが存在する場合は、そのエージェントが稼働しているホストのシステム時計が遅れていることが考えられます。

[ポーリング時刻] と [最終レコード] を表示させるためには、次の手順に従ってください。

1. エクスプローラエリアの [管理者メニュー] をクリックします。
2. サブメニューの [システムレポート] をクリックします。
[システムレポート] 画面が表示されます。
3. [ポーリングステータス] タブを選択します。
ポーリングステータスを確認する画面が表示されます。[ポーリング時刻] を確認してください。
4. [ポーリング時刻] に表示されている時刻をクリックします。
ポーリング処理結果の詳細情報を確認する画面が表示されます。[最終レコード] を確認してください。

確認の結果、エージェントホストのシステム時計が、Tuning Manager server ホストのシステム時計より遅れている場合、マシンの時刻を調整する必要があります。マシンの時刻調整の詳細については、「1.12 マシンの時刻調整について」を参照してください。

7.2.2 データベースの容量が不足する

データベースの容量が不足している場合、データベースの総容量を増やすことができます。データベースの拡張方法については、「3.5.2 データベースの総容量の拡張手順」を参照してください。

データベースの容量不足は、アラートを設定しておくとしきい値に達した場合に email などで通知されます。また、htm-db-status コマンドでデータベースの容量を確認することもできます。アラートの設定方法については、「6.5.3 エージェントポーリング状態アラートを設定する」を、htm-db-status コマンドでのデータベースの容量の確認方法については、「3.2 データベースの容量表示」を参照してください。

なお、データベースの総容量がすでに上限値（32GB）に達していて、これ以上の拡張ができない場合や、データベースの数を増やして1つのデータベースに格納されるデータの量を少なくしたい場合には、Tuning Manager server ホストを複数に分割して、データベースも複数にします。Tuning Manager server ホストを分割すると、1つのデータベースに格納されるデータの量を減らすことができます。

Tuning Manager server ホストを分割する方法については、「7.2.3 Agent インスタンスの数が1つの Tuning Manager server で監視できる上限を超える」を参照してください。

7.2.3 Agent インスタンスの数が1つの Tuning Manager server で監視できる上限を超える

監視対象の Agent インスタンスの数が増えていくと、Agent インスタンスの数が、1つの Tuning Manager server で監視できる上限を超えてしまう場合があります。この場合、Tuning Manager server ホストを複数用意し、それまでに収集したデータを分割して、1つの Tuning Manager server が監視する Agent インスタンスの数を少なくする必要があります。

Tuning Manager server ホストを分割する方法について、「表 7-2 Tuning Manager server ホスト分割の例」の例を使って説明します。なお、説明の便宜上、この例で扱う Agent インスタンスの数は8つとします。

表 7-2 Tuning Manager server ホスト分割の例

Tuning Manager server ホスト分割前			Tuning Manager server ホスト分割後		
Tuning Manager server ホスト	監視対象の Agent		Tuning Manager server ホスト	監視対象の Agent	
host_A ・ Device Manager ・ Tuning Manager server	host_A	Agent_1	host_A ・ Device Manager ・ Tuning Manager server	host_A	Agent_1
		Agent_2		host_B	Agent_3 Agent_4
	host_B	Agent_3 Agent_4	host_Z ・ Device Manager ・ Tuning Manager server	host_C	Agent_5 Agent_6 Agent_7 Agent_8
host_C	Agent_5 Agent_6 Agent_7 Agent_8				

「表 7-2 Tuning Manager server ホスト分割の例」に示すように、分割前は1つの Tuning Manager server ホスト「host_A」の Tuning Manager server で Agent_1～Agent_8 のすべての Agent を監視しています。

次の手順では、「表 7-2 Tuning Manager server ホスト分割の例」の「分割前」の状態から「分割後」の状態になるよう、Tuning Manager server ホスト「host_Z」を新規に構築し、host_A の監視対象のうち Agent_5～Agent_8 を host_Z の監視対象に移行する場合を説明します。

1. host_Z に Device Manager と Tuning Manager server をインストールします。
host_A の Tuning Manager server と同じ、またはそれよりも新しいバージョンの Tuning Manager server をインストールしてください。Device Manager と Tuning Manager server は、それぞれ異なるホストにインストールしてもかまいません。
Device Manager のインストールについては、マニュアル「Hitachi Command Suite Software インストールガイド」およびマニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」（クラスタ環境で運用する場合）を参照してください。Tuning Manager server のインストールについては、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。
2. host_Z の Device Manager と Tuning Manager server の接続を設定します。
接続先の Device Manager の設定方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」の、接続先 Device Manager の設定に関する内容を参照してください。
3. host_C の Agent_5～Agent_8（接続先を host_A から host_Z に変更する Agent）を停止します。
Agent の停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。
4. host_A で jpctool service delete (jpcctrl delete) コマンドを実行し、PFM - Manager に登録されている Agent_5～Agent_8 の情報を削除します。
host_A で jpctool service delete (jpcctrl delete) コマンドで Agent の情報を削除する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」を参照してください。
5. host_A で Performance Reporter のサービスと PFM - Manager のサービスを停止します。
Performance Reporter のサービスを停止する方法については、「1.5 サービスの停止」を参照してください。
PFM - Manager のサービスを停止する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。
6. host_A で Performance Reporter のサービスと PFM - Manager のサービスを起動します。
Performance Reporter のサービスを起動する方法については、「1.4 サービスの起動」を参照してください。
PFM - Manager のサービスを起動する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。
7. 情報を削除した Agent_5～Agent_8 が、Main Console および Performance Reporter に表示されないことを確認します。

Main Console で Agent が表示されないことを確認する方法

[ポーリング設定] 画面の [エージェント一覧] に表示されないことを確認します。

[ポーリング設定] 画面では、[リフレッシュ] ボタンをクリックし、画面の表示内容を最新の情報に更新してから確認してください。

[ポーリング設定] 画面に表示される情報の詳細については、「6.3.1 ポーリング設定を確認する」を参照してください。

Performance Reporter で Agent が表示されないことを確認する方法

Performance Reporter のナビゲーションフレームの [エージェント階層] タブをクリックすると、エージェント階層が表示されます。エージェント階層に、情報を削除した Agent が表示されないことを確認してください。

Performance Reporter でエージェント階層を表示する方法の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。

8. `hcmdsdbtrans` コマンドを実行して、`host_A` のデータベースの情報を `host_Z` のデータベースに移行します。

`hcmdsdbtrans` コマンドでデータベースを移行する方法については、「[3.6 データベースの移行](#)」を参照してください。

9. `host_C` で `jpccconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドを実行し、`Agent_5`~`Agent_8` の接続先として `host_Z` を設定します。

`jpccconf mgrhost define (jpcnshostname)` コマンドで `Agent` の接続先を設定する方法については、マニュアル「[JP1/Performance Management 設計・構築ガイド](#)」を参照してください。

注意

`host_A` 内の `Agent` (`Agent_1` および `Agent_2`) の接続先は、`host_Z` に変更できません。
また、同じホスト内に複数のインスタンスを作成している場合、インスタンスごとに異なる接続先を設定することはできません。
なお、接続先を変更した `Agent` がストレージシステムを監視する `Agent` だった場合、`host_Z` の `Tuning Manager server` と接続する `Device Manager` でストレージシステムを監視する必要があります。

10. `host_A` および `host_Z` の `Device Manager` と `Tuning Manager server` を起動します。

11. `host_Z` に接続先を設定した `Agent_5`~`Agent_8` を起動します。

12. `host_Z` でポーリングを設定します。

ポーリングの設定方法については、「[6.3 ポーリング設定](#)」を参照してください。

7.2.4 デスクトップのヒープ不足が発生する

`Tuning Manager server` を導入している Windows の環境で、デスクトップのヒープ不足が発生して、`KFPS01820-E` メッセージ (`end state=8000`) がイベントログに出力される場合があります。このメッセージが出力された場合、デスクトップのヒープ不足が発生して、`Tuning Manager server` のデータベースのプロセスが停止しています。

この現象が発生した場合、次の手順でデスクトップのヒープサイズを拡張してください。

1. Hitachi Command Suite 製品のサービスをすべて停止します。
サービスの停止方法については、「[1.5 サービスの停止](#)」を参照してください。
2. Hitachi Command Suite 製品のサービスがすべて停止されたことを確認します。
サービスの状態の確認方法については、「[1.4.2 サービスの状態を確認する \(起動時\)](#)」を参照してください。
3. レジストリエディタを利用して、デスクトップのヒープサイズを変更します。

レジストリキー

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager  
¥SubSystems
```

レジストリ値

Windows

値

```
%SystemRoot%¥system32¥csrss.exe ObjectDirectory=¥Windows  
SharedSection=1024,3072,512 Windows=On SubSystemType=Windows  
ServerDll=basesrv,1 ServerDll=winsrv:UserServerDllInitialization,3  
ServerDll=winsrv:ConServerDllInitialization,2 ProfileControl=Off  
MaxRequestThreads=16
```

変更するのは、「SharedSection=1024,3072,512」の第3パラメーター（512）の部分です。第4パラメーターがある場合にも、第3パラメーターの部分を変更します。まず、第3パラメーターの「512」を「1024」に変更してください。

4. Windows を再起動します。

この手順でヒープサイズを「512」から「1024」に変更したあとも、デスクトップのヒープ不足が発生する場合、ヒープサイズの設定値を 256KB または 512KB ずつ増加させて、ヒープ不足が発生しなくなるか確認してください。

デスクトップのヒープの消費量はそのマシンで動作するサービスやアプリケーションによって異なります。また、デスクトップのヒープの総量は決まっているため、ヒープのサイズを大きくすると、そのシステム内で作成できるデスクトップの数が減少します。デスクトップヒープのサイズの最適値は、システム環境によって異なるため、利用している環境に合わせて調整してください。

7.2.5 jpcrpt コマンドでのレポート出力時に PFM - Manager へのアクセスでエラーが発生する

jpcrpt コマンドでのレポート出力時に、PFM - Manager へのアクセスエラーが発生して、KAVJK0405-E メッセージが出力されることがあります。この場合、KAVJK0405-E メッセージに出力される保守情報の内容によって、対処が異なります。

KAVJK0405-E メッセージに出力される保守情報の内容別の対処を次に示します。

(1) ViewServer error code: -2001

View Server サービスでメモリー不足が発生しています。View Server サービスは、使用するメモリーの上限値をデフォルトで 256MB に固定して動作します。そのため、メモリーの空き容量とは関係なく、処理するデータ量が多い場合にメモリー不足が発生します。この場合、次の対処をしてください。

- 初期設定ファイル (config.xml) の blockTransferMode に true が指定されていることを確認してください。blockTransferMode に true を指定した場合、レポートのデータを View Server から分割して受信できます。
- レポートの取得間隔を短くしてください。
- 同時に取得するレポート数を減らしてください。
- View Server サービスで使用するメモリーの上限値を拡張してください。詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

(2) ViewServer error code: -2004 または ViewServer error code: -2005

PFM - Manager との通信障害によって、レポート出力に失敗しています。jpcrpt コマンドを再実行してください。このエラーが頻発する場合は、jpcprras および jpcras コマンドで資料を採取して、システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、顧客問い合わせ窓口へ連絡してください。

7.2.6 [ポーリング設定] 画面にエージェントが表示されない

[ポーリング設定] 画面にエージェントが表示されない場合は、インストール、およびセットアップが正常に終了していることを確認してください。

インストール、およびセットアップが正常に終了していてもエージェントが表示されない場合は、複数のエージェントが同じリソースを監視するよう設定されているおそれがあります。リソースの重複監視になっていないかエージェントの設定を見直してください。

7.2.7 データベースの作業領域が不足する

きわめて大規模な環境で Tuning Manager server を運用している場合、データベースが一時的に利用する作業領域が不足することがあります。データベースの作業領域が不足すると、次のどれかのメッセージが出力されます。

- KATN15010-E
- KATN12661-E
- KATN12036-E
- KATN17206-E

これらのメッセージが出力された場合は、データベースを再作成して作業領域を拡張する必要があります。ここでは、データベースを再作成する手順について説明します。

Tuning Manager server をクラスタ環境で運用している場合は、「(2) データベースを再作成する手順 (クラスタ環境)」を参照してください。

(1) データベースを再作成する手順

注意

データベースを再作成する前に、必ずデータベースをバックアップしてください。データベースをバックアップする方法については、「3.3 データベースのバックアップ」を参照してください。

データベースを再作成する手順を次に示します。

1. Hitachi Command Suite 製品のサービスをすべて停止します。
サービスの停止方法については、「1.5 サービスの停止」を参照してください。
2. hcmsdbsrv コマンドを実行して、HiRDB のサービスを起動します。

Windows の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmsdbsrv /start
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmsdbsrv -start
```

Linux の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmsdbsrv -start
```

3. hcmsdbmove コマンドを実行して、データベースをエクスポートします。

Windows の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmsdbmove /export /  
datapath <作業用フォルダ>
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmsdbmove -export -datapath <作業用ディレク  
トリ>
```

Linux の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmsdbmove -export -  
datapath <作業用ディレクトリ>
```

注意

- datapath オプションには、データベースのエクスポート先ディレクトリを指定します。

・type オプションは指定しないでください。データベースを再作成する場合は、同一ホストにインストールされているすべての Hitachi Command Suite 製品のデータベースをエクスポートする必要があります。

4. 次のコマンドを実行して、データベースを再作成します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%\hcmdsdbremake /  
databasepath <データベース再作成先フォルダ>
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsdbremake -databasepath <データベース再作  
成先ディレクトリ>
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsdbremake -  
databasepath <データベース再作成先ディレクトリ>
```

注意

・<データベース再作成先フォルダ>および<データベース再作成先ディレクトリ>には、63 バイト以内のパスを指定してください。

・Windows の場合に、<データベース再作成先フォルダ>に使用できる文字を次に示します。そのほかに、¥, :, /をパスの区切り文字として使用できます。

A-Z, a-z, 0-9, . (ピリオド), _ (下線)

・Solaris および Linux の場合に、<データベース再作成先ディレクトリ>に使用できる文字を次に示します。そのほかに、/をパスの区切り文字として使用できます。パス中に空白は指定できません。

A-Z, a-z, 0-9, . (ピリオド), _ (下線)

また、<データベース再作成先ディレクトリ>の末尾の文字として、パスの区切り文字 (/) は指定できません。

・hcmdsdbremake コマンドを実行すると、組み込みデータベースの HiRDB が使用するポート番号の設定がデフォルト値 (23032) に戻ります。デフォルト値以外のポート番号に変更して運用している場合は、コマンド実行後にポート番号を設定し直してください。

・hcmdsdbremake コマンドの<データベース再作成先フォルダ>および<データベース再作成先ディレクトリ>には、十分な空き容量が必要です。同一ホストにインストールされているすべての Hitachi Command Suite 製品のデータベース容量と、共通コンポーネントが使用するデータベースファイルの容量の合計よりも大きなディレクトリを指定してください。Tuning Manager server のデータベース容量は htm-db-status コマンドを実行したときに表示される「データベースの総容量」です。共通コンポーネントが使用するデータベースファイルの容量については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。ほかの Hitachi Command Suite 製品のデータベース容量については、それぞれの製品のマニュアルを参照してください。

5. 次のコマンドを実行して、データベースをインポートします。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%\hcmdsdbmove /import /  
datapath <作業用フォルダ>
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsdbmove -import -datapath <作業用ディレク  
トリ>
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsdbmove -import -  
datapath <作業用ディレクトリ>
```

注意

- ・ datapath オプションには、手順 3 のエクスポート時に datapath オプションに指定したディレクトリを指定してください。
- ・ type オプションは指定しないでください。データベースを再作成する場合は、同一ホストにインストールされているすべての Hitachi Command Suite 製品のデータベースをインポートする必要があります。

6. Hitachi Command Suite 製品のサービスを起動します。

サービスの起動方法については、「1.4 サービスの起動」を参照してください。

(2) データベースを再作成する手順（クラスタ環境）

クラスタを構築している場合にデータベースを再作成する手順を次に示します。実行系、待機系それぞれのノードで実施してください。

注意

データベースを再作成する前に、必ずデータベースをバックアップしてください。データベースをバックアップする方法については、「3.3 データベースのバックアップ」を参照してください。

1. 実行系ノードで、サービス以外のリソースをオンラインにします。

待機系ノードでは、この手順を実行する必要はありません。

オンラインにするリソースは次のとおりです。

◦ MSCS および WSFC の場合

- ・ 論理 IP アドレス
- ・ 論理ホスト名
- ・ 共有ディスク

◦ VERITAS Cluster Server の場合

- ・ 論理 IP アドレス
- ・ 共有ディスク

◦ Sun Cluster の場合

- ・ 論理ホスト名
- ・ 共有ディスク

2. クラスタソフトウェアからの操作で Hitachi Command Suite 製品のサービスをオフラインにします。

オフラインにする Tuning Manager server のサービスは次のとおりです。

- HiRDB/ClusterService_HD0
- HBase Storage Mgmt Common Service
- HBase Storage Mgmt Web Service
- HiCommand Performance Reporter
- HiCommand Suite TuningManager
- HiCommand Suite TuningService※

注※

Tuning Manager server が内部的に使用するサービスです。

ほかの Hitachi Command Suite 製品のサービスについては、各製品のマニュアルを参照してください。

3. Hitachi Command Suite 製品のサービスをクラスタソフトウェアの管理対象から外します。管理対象から外すサービスは、手順 2 でオフラインにしたサービスです。
 - **MSCS の場合**

クラスタアドミニストレータで対象のサービスを右クリックして、[プロパティ] – [詳細設定] タブ – [再開しない] を選択して、[OK] をクリックします。
 - **WSFC の場合**

フェールオーバークラスタ管理またはフェールオーバークラスタマネージャーで対象のサービスを右クリックして、[プロパティ] – [ポリシー] タブ – [リソースが失敗状態になった場合は、再起動しない] を選択して、[OK] をクリックします。
 - **VERITAS Cluster Server の場合**
 1. VERITAS Cluster Manager を起動します。
 2. Hitachi Command Suite 製品の各サービスで右クリックして表示されるコンテキストメニューにある [Enabled] のチェックを外します。
 3. Cluster Explorer ウィンドウで [Service Groups] タブを選択します。
 4. Hitachi Command Suite 製品のサービスを登録したグループを選択して、右クリックして表示されるコンテキストメニューから [Freeze] – [Temporary] を選択します。
 - **Sun Cluster の場合**
 1. Hitachi Command Suite 製品の各サービスのリソース監視を無効にします。次のコマンドを実行してください。

```
# /usr/cluster/bin/scswitch -n -M -j <リソース名>
```
 2. Hitachi Command Suite 製品の各サービスのリソースを無効にします。次のコマンドを実行してください。

```
# /usr/cluster/bin/scswitch -n -j <リソース名>
```
4. 次に示すコマンドを実行します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsdbclustersetup /  
createcluster /databasepath <データベース再作成先フォルダ> /exportpath  
<データ格納先フォルダ> /auto
```

注意

- <データベース再作成先フォルダ>には、次に示す空き容量が必要です。

必要な空き容量 = 共通コンポーネントのデータベース容量 + Tuning Manager server と同一ホストにインストールされている、Tuning Manager server を含むすべての Hitachi Command Suite 製品のデータベース容量

<データベース再作成先フォルダ>の空き容量不足が原因で hcmdsdbclustersetup コマンドの実行に失敗した場合は、<データベース再作成先フォルダ>の空き容量を増やしたあとで、hcmdsdbclustersetup コマンドを再実行してください。

hcmdsdbclustersetup コマンドが正常終了するまでは、共有ディスクを実行系ノードから切り離さないでください。また、hcmdsdbclustersetup コマンドが異常終了した状態でサーバを再起動しないでください。
- コマンド実行前に<データ格納先フォルダ>を削除または空にしてください。
- <データベース再作成先フォルダ>は共有ディスク上に配置してください。<データ格納先フォルダ>はローカルディスク上に配置してください。

- <データベース再作成先フォルダ>および<データ格納先フォルダ>には、63 バイト以内のパスを指定してください。
- <データベース再作成先フォルダ>および<データ格納先フォルダ>に使用できる文字を次に示します。そのほかに、¥, :, /をパスの区切り文字として使用できます。
A-Z, a-z, 0-9, . (ピリオド), _ (下線)
- hcmsdbclustersetup コマンドを実行すると、組み込みデータベースの HiRDB が使用するポート番号の設定がデフォルト値 (23032) に戻ります。デフォルト値以外のポート番号に変更して運用している場合は、コマンド実行後にポート番号を設定し直してください。
- auto オプションを付けてコマンドを実行すると、データベースを処理するための準備として、自動的に Hitachi Command Suite 製品のサービスを停止し、HiRDB を起動します。データベースの処理が完了すると、HiRDB は停止します。したがって、コマンド実行後には、Hitachi Command Suite 製品のサービスおよび HiRDB が停止している状態になります。ただし、v5.7 より前の HiCommand 製品のサービスは、起動、停止しません。

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmsdbclustersetup -createcluster -
databasepath <データベース再作成先ディレクトリ> -exportpath <データ格納先
ディレクトリ> -auto
```

注意

- <データベース再作成先ディレクトリ>には、次に示す空き容量が必要です。
必要な空き容量 = 共通コンポーネントのデータベース容量 + Tuning Manager server と同一ホストにインストールされている、Tuning Manager server を含むすべての Hitachi Command Suite 製品のデータベース容量
<データベース再作成先ディレクトリ>の空き容量不足が原因で hcmsdbclustersetup コマンドの実行に失敗した場合は、<データベース再作成先ディレクトリ>の空き容量を増やしたあとで、hcmsdbclustersetup コマンドを再実行してください。
hcmsdbclustersetup コマンドが正常終了するまでは、共有ディスクを実行系ノードから切り離さないでください。また、hcmsdbclustersetup コマンドが異常終了した状態でサーバを再起動しないでください。
- コマンド実行前に<データ格納先ディレクトリ>を削除または空にしてください。
- <データベース再作成先ディレクトリ>は共有ディスク上に配置してください。<データ格納先ディレクトリ>はローカルディスク上に配置してください。
- <データベース再作成先ディレクトリ>および<データ格納先ディレクトリ>には、63 バイト以内のパスを指定してください。
- <データベース再作成先ディレクトリ>および<データ格納先ディレクトリ>に使用できる文字を次に示します。そのほかに、/をパスの区切り文字として使用できます。パス中に空白は指定できません。
A-Z, a-z, 0-9, . (ピリオド), _ (下線)
- <データベース再作成先ディレクトリ>および<データ格納先ディレクトリ>の末尾の文字として、パスの区切り文字 (/) は指定できません。
- hcmsdbclustersetup コマンドを実行すると、組み込みデータベースの HiRDB が使用するポート番号の設定がデフォルト値 (23032) に戻ります。デフォルト値以外のポート番号に変更して運用している場合は、コマンド実行後にポート番号を設定し直してください。
- auto オプションを付けてコマンドを実行すると、データベースを処理するための準備として、自動的に Hitachi Command Suite 製品のサービスを停止し、HiRDB を起動します。データベースの処理が完了すると、HiRDB は停止します。したがって、コマンド実行後には、Hitachi Command Suite 製品のサービスおよび HiRDB が停止している状態になります。ただし、v5.7 より前の HiCommand 製品のサービスは、起動、停止しません。

5. Hitachi Command Suite 製品のサービスをクラスタソフトウェアの管理対象にします。
管理対象にするサービスは、手順 2 でオフラインにしたサービスです。
 - **MSCS の場合**
クラスタアドミニストレータで対象のサービスを右クリックして、[プロパティ] – [詳細設定] タブ – [再開する] を選択して、[OK] をクリックします。
 - **WSFC の場合**
フェールオーバークラスタ管理またはフェールオーバークラスタマネージャーで対象のサービスを右クリックして、[プロパティ] – [ポリシー] タブ – [リソースが失敗状態になった場合は、現在のノードで再起動を試みる] を選択して、[OK] をクリックします。
 - **VERITAS Cluster Server の場合**
 1. VERITAS Cluster Manager を起動します。
 2. Cluster Explorer ウィンドウで [Service Groups] タブを選択します。
 3. Hitachi Command Suite 製品のサービスを登録したグループを選択して、右クリックして表示されるコンテキストメニューから [UnFreeze] を選択します。
 4. Hitachi Command Suite 製品のサービスを登録したグループを選択して、右クリックして表示されるコンテキストメニューにある [Enabled Resources] を選択します。
 5. VERITAS Cluster Server の設定ファイルに変更内容を保存します。[File] メニューから [Save Configuration] を選択します。
 6. VERITAS Cluster Server の設定ファイルを閉じます。[File] メニューから [Close Configuration] を選択します。
 - **Sun Cluster の場合**
 1. Hitachi Command Suite 製品の各サービスのリソースを有効にします。次のコマンドを実行してください。

```
# /usr/cluster/bin/scswitch -e -j <リソース名>
```
 2. Hitachi Command Suite 製品の各サービスのリソース監視を有効にします。次のコマンドを実行してください。

```
# /usr/cluster/bin/scswitch -e -M -j <リソース名>
```
6. Hitachi Command Suite 製品のサービスを登録しているグループをオンラインにします。
オンラインにするサービスは、手順 2 でオフラインにしたサービスです。

7.2.8 すべてのユーザーアカウントがロックされた

すべてのユーザーアカウントがロックされた場合は、コマンドを使用してロックを解除します。

hcmdsunlockaccount コマンドを使用すれば、UserManagement 権限が付与されているユーザーアカウントのロックを解除できます。

注意

- hcmdsunlockaccount コマンドは、Device Manager がインストールされているホストで実行してください。
- hcmdsunlockaccount コマンドを実行するには、OS の Administrator 権限または root 権限が必要です。
- UserManagement 権限が付与されていないユーザーアカウントのロックを解除する方法については、「4.3.5 ユーザーアカウントのロック状態を変更する」を参照してください。
- 対象のユーザーアカウントにパスワードが設定されていない場合、hcmdsunlockaccount コマンドではロックを解除できません。パスワードを設定すると、ロックが解除されます。

パスワードを設定する方法については、「4.3.4 パスワードを変更する」を参照してください。

コマンドを使用してユーザーアカウントのロックを解除する手順を次に示します。

1. 共通コンポーネント、および HiRDB のサービスが起動していることを確認します。
サービスの状態を確認する方法については、「1.4.2 サービスの状態を確認する (起動時)」を参照してください。
共通コンポーネント、および HiRDB のサービスが起動していない場合は、「1.4.1 サービスを起動する」を参照してサービスを起動してください。
2. 次のコマンドを実行して、ユーザーアカウントのロックを解除します。

Windows の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsunlockaccount /user <ユーザー ID> /pass <パスワード>
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsunlockaccount -user <ユーザー ID> -pass <パスワード>
```

Linux の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsunlockaccount -user <ユーザー ID> -pass <パスワード>
```

<ユーザー ID>には、ロックを解除するユーザーアカウントのユーザー ID を指定します。user オプションの指定を省略してコマンドを実行した場合、対話形式でユーザー ID を指定してください。<パスワード>には、ロックを解除するユーザーアカウントのパスワードを指定します。pass オプションの指定を省略してコマンドを実行した場合、対話形式でパスワードを指定してください。

7.2.9 データベースの起動に失敗する

システム領域の破損などが原因でデータベースの起動に失敗し、hcmdsdb コマンドでのリストアや hcmdsdbtrans コマンドでのインポートができない場合、hcmdsdbtrans コマンドでエクスポートしたデータと hcmdsdbrepair コマンドを使用し、データベースを回復します。

hcmdsdbrepair コマンドは、セットアップ済みのすべての HiRDB のデータベースを強制削除して再作成し、hcmdsdbtrans コマンドでエクスポートしたバックアップデータからデータベースを回復するコマンドです。

注意

- Tuning Manager server をクラスタ構成で運用している場合には、実行系ノードだけで hcmdsdbrepair コマンドを実行してください。
- データベースをエクスポートした時点の管理サーバと、データベースを復元する時点の管理サーバとで、インストールされている Hitachi Command Suite 製品の種類、バージョンおよびリビジョンが一致していることが前提です。
- バックアップデータを展開するために必要な領域として、次のディレクトリを使用します。バックアップデータの容量に応じて、展開するために必要な領域を確保してください。

Windows の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%tmp
```

Solaris の場合 :

```
/var/opt/HiCommand/Base/tmp
```

Linux の場合 :

`/var/<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/tmp`

- `hcmsdsbrepair` コマンドの実行後、ビルトインアカウントの **SYSTEM** ユーザーのパスワードが初期値に戻ります。必要に応じて、パスワードを変更してください。

コマンドを使用してデータベースを回復する手順を次に示します。

1. すべての Hitachi Command Suite 製品および HiRDB のサービスが停止していることを確認します。

サービスの状態を確認する方法については、「[1.5.2 サービスの状態を確認する \(停止時\)](#)」を参照してください。

Hitachi Command Suite 製品および HiRDB のサービスが停止していない場合は、「[1.5.1 サービスを停止する](#)」を参照してサービスを停止してください。

2. 次のコマンドを実行して、データベースを回復します。

Windows の場合 :

`<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmsdsbrepair /trans <バックアップデータ>`

Solaris の場合 :

`/opt/HiCommand/Base/bin/hcmsdsbrepair -trans <バックアップデータ>`

Linux の場合 :

`<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmsdsbrepair -trans <バックアップデータ>`

<バックアップデータ>には、`hcmsdsbtrans` コマンドの `workpath` オプションで指定する作業用ディレクトリ、または `file` オプションで指定するアーカイブファイル名を絶対パスで指定します。

7.2.10 大量データのレポートが表示できない

GUI でレポートを表示する場合、または、`jpgcrpt` コマンドでレポートを HTML 出力する場合、次に示す理由で大量のメモリーを消費するため、メモリー不足が発生してレポートが表示できないことがあります。

- レポート定義にグラフ表示の設定がある場合、グラフ画像生成時にメモリーを一時的に大きく消費する
- エージェントからの情報を View Server サービスを経由してレポート出力するため、View Server サービスから受信した内部形式のデータを HTML 形式に変換するときに、メモリーを一時的に大きく消費する
- メモリー使用量削減機能を利用していない場合、View Server サービスを経由して取得したエージェントからの情報をメモリー上に格納するため、メモリーを一時的に大きく消費する

GUI で大量データのレポートを表示する場合には、メモリー使用量削減機能を利用して、再度レポートを表示してください。

メモリー使用量削減機能の詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」のレポートについて説明している章を参照してください。

また、`jpgcrpt` コマンドでレポートを HTML 出力する場合には、必要なメモリー量を算出し、必要に応じて Java のヒープサイズを拡張して、メモリー使用量削減機能を利用した上で再度レポートを表示してください。`jpgcrpt` コマンドでレポートを HTML 出力する場合に必要なメモリー量の

見積もり方法については、「付録 A. jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の見積もり方法」を参照してください。

7.3 トラブル発生時に採取が必要な資料

この節では、Tuning Manager server でトラブルが発生したときに採取が必要な資料について説明します。

Tuning Manager server でトラブルが発生した場合、ログファイルやデータベースファイルなどの保守情報を採取します。保守情報の採取方法については、「7.4 保守情報の採取方法」を参照してください。

また、トラブル発生時の状況を確認するため、トラブルの発生時刻や、再現性の有無などを確認、記録しておく必要があります。確認、記録が必要な情報については、「7.4.3 トラブル発生時の状況を確認するための情報」を参照してください。

Tuning Manager server でトラブルが発生した場合に採取するログ情報を次に示します。

- Windows イベントログ (Windows の場合)
Windows の状態やトラブルを通知するログ情報です。Windows イベントログの詳細については、「7.3.1 Windows イベントログ (Windows の場合)」を参照してください。
- syslog (Solaris および Linux の場合)
Solaris および Linux の状態やトラブルを通知するログ情報です。syslog の詳細については、「7.3.2 syslog (Solaris および Linux の場合)」を参照してください。
- Main Console のログ
Main Console が出力するログ情報です。Main Console のログの詳細については、「7.3.3 Main Console のログ」を参照してください。
- Performance Reporter のログ
Performance Reporter が出力するログ情報です。Performance Reporter のログの詳細については、「7.3.4 Performance Reporter のログ」を参照してください。

なお、Tuning Manager server でトラブルが発生した場合、これらのログに加えて Hitachi Command Suite 製品の共通ログも採取します。Hitachi Command Suite 製品の共通ログについては、「9.3 統合ロギング」を参照してください。

また、Device Manager を Tuning Manager server と別のホストにインストールしているときは、Device Manager の保守情報も採取します。Device Manager の保守情報については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。

7.3.1 Windows イベントログ (Windows の場合)

Tuning Manager server が出力する Windows イベントログは、Windows の [イベントビューア] ウィンドウの [ソース] に「HiCommand Log」と表示されます。

Main Console と Performance Reporter では、出力される Windows イベントログの形式が異なります。それぞれの形式について説明します。

(1) イベントログに出力される Main Console の情報

Windows イベントログに出力される Main Console の情報の形式について説明します。

出力形式

```
<プログラム ID> [<プロセス ID>] :△<メッセージ>
```

注意

△は半角スペースを表します。

次の表で出力情報の内容について説明します。

表 7-3 ログファイル出力の項目 (Main Console の場合)

項目	内容	長さ(単位:バイト)
プログラム ID	プログラムの識別名が出力されます。ここでは、「HTNM」が出力されます。	1~16
プロセス ID	プロセス ID が 10 進数の数値で出力されます。	1~10
メッセージ	メッセージ ID とメッセージが出力されます。Main console で発生したエラーの場合は、メッセージテキストの先頭にメッセージログ ID が付きます。	1~1,023

出力例

```
HTNM [0000038C] : KATN01309-I データベースの状態を表示しました。
```

(2) イベントログに出力される Performance Reporter の情報

Windows イベントログに出力される Performance Reporter の情報の形式について説明します。

出力形式

```
<プログラム ID> [<プロセス ID>] :△<メッセージ>
```

注意

△は半角スペースを表します。

次の表で出力情報の内容について説明します。

表 7-4 ログファイル出力の項目 (Performance Reporter の場合)

項目	内容	長さ(単位:バイト)
プログラム ID	プログラムの識別名が出力されます。ここでは、「HTM-PR」が出力されます。	1~16
プロセス ID	プロセス ID が 10 進数の数値で出力されます。	1~10
メッセージ	メッセージ ID とメッセージが出力されます。Performance Reporter で発生したエラーの場合は、メッセージテキストの先頭にメッセージログ ID が付きます。	1~1,023

出力例

```
HTM-PR [0000038C] : KAVJA5001-I The activation process will now start.
```

7.3.2 syslog (Solaris および Linux の場合)

syslog に Tuning Manager server の情報を出力するには、OS の設定ファイルを編集する必要があります。また、Main Console と Performance Reporter では、出力される syslog の形式が異なります。

設定ファイルの編集方法と、syslog の形式について説明します。

(1) 設定ファイルの編集方法

Tuning Manager server では、ユーザーは、syslog にアラートメッセージを出力できます。この機能を使用するためには、ユーザーログ機能を使用できるように、OS レベルで設定する必要があります。

ユーザー指定のアラートを有効にするために、`/etc/syslog.conf` を編集して、以下の行を追加してください。

Solaris の場合：

```
user.info /var/adm/messages
```

Linux の場合：

```
user.info /var/log/messages
```

`/etc/syslog.conf` を保存したあと、`syslogd` を再起動してください。

(2) syslog に出力される Main Console の情報

syslog に出力される Main Console の情報の形式について説明します。

出力形式

```
<日時>△<ホスト名>△<プログラム ID> [<プロセス ID>] :△<メッセージ>
```

注意

△は半角スペースを表します。

次の表で出力情報の内容について説明します。

表 7-5 syslog ファイル出力の項目 (Main Console の場合)

項目	内容	長さ (単位: バイト)
日時	メッセージを出力した日付および時刻が「 <i>month dd hh:mm:ss</i> 」の形式で出力されます。各値の意味を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• <i>month</i> : 月を示します。• <i>dd</i> : 日を示します。• <i>hh</i> : 時を示します。• <i>mm</i> : 分を示します。• <i>ss</i> : 秒を示します。	15
ホスト名	ホスト名が出力されます。	1~255
プログラム ID	プログラムの識別名が出力されます。ここでは、「HTNM」が表示されます。	1~16
プロセス ID	プロセス ID が 10 進数の数値で出力されます。	1~10
メッセージ	メッセージ ID とメッセージが出力されます。	1~1,023

出力例

```
Jan 21 15:10:51 1A8GSolaris HTNM [9339] : KATN01309-I データベースの状態を表示しました。
```

(3) syslog に出力される Performance Reporter の情報

syslog に出力される Performance Reporter の情報の形式について説明します。

出力形式

```
<日時>△<ホスト名>△<プログラム ID> [<プロセス ID>] :△<メッセージ>
```

注意

△は半角スペースを表します。

次の表で出力情報の内容について説明します。

表 7-6 syslog ファイル出力の項目 (Performance Reporter の場合)

項目	内容	長さ(単位:バイト)
日時	メッセージを出力した日付および時刻が「 <i>month dd hh:mm:ss</i> 」の形式で出力されます。各値の意味を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• <i>month</i> : 月を示します。• <i>dd</i> : 日を示します。• <i>hh</i> : 時を示します。• <i>mm</i> : 分を示します。• <i>ss</i> : 秒を示します。	15
ホスト名	ホスト名が出力されます。	1~255
プログラム ID	プログラムの識別名が出力されます。ここでは、「HTM-PR」が表示されます。	1~16
プロセス ID	プロセス ID が 10 進数の数値で出力されます。	1~10
メッセージ	メッセージ ID とメッセージが出力されます。	1~1,023

出力例

```
Jan 21 15:10:51 1A8GSolaris HTM-PR [9339] : KAVJA0001-I installation-  
directory is not correctly specified in the configuration file.
```

7.3.3 Main Console のログ

ここでは、Main Console が出力するメッセージログとトレースログの設定方法と出力形式について説明します。

(1) Main Console のログの出力先

トレースログ

Main Console のトレースログは、次の 5 種類のログファイルに出力されます。

- `htmTrace#.log`
Tuning Manager server の本体が出力するトレースログ
- `<コマンド名>Trace#.log`
運用コマンドが出力するトレースログ
- `htmCliTrace#.log`
レポートコマンドが出力するトレースログ
- `htmCli_htmHostGroupsTrace#.log`
`htm-hostgroups` コマンドが出力するトレースログ
- `htmCli_htmCsvConvertTrace#.log`
`htm-csv-convert` コマンドが出力するトレースログ

注意

#はログファイルの番号を表します。Main Console のトレースログのファイル名は、1つのログファイルのサイズが 5MB を超える場合、ログファイル番号をインクリメントしたファイル

を新規に作成します。ログ出力するファイルが 10 面に達すると、最初のファイルから上書きされるラウンドロビン方式でログ出力します。

トレースログの格納先を次に示します。

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%logs

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/logs

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/logs

メッセージログ

Main Console のメッセージログは、次の 5 種類のログファイルに出力されます。

- htmMessage#.log
Tuning Manager server の本体が出力するメッセージ
- <コマンド名>Message#.log
運用コマンドが出力するメッセージ
- htmCliMessage#.log
レポートコマンドが出力するメッセージ
- htmCli_htmHostGroupsMessage#.log
htm-hostgroups コマンドが出力するメッセージ
- htmCli_htmCsvConvertMessage#.log
htm-csv-convert コマンドが出力するメッセージ

注意

#はログファイルの番号を表します。Main Console のメッセージログのファイル名は、1つのログファイルのサイズが指定サイズを超える場合、ログファイル番号をインクリメントしたファイルを新規に作成します。ログ出力するファイル面数に達すると、最初のファイルから上書きされるラウンドロビン方式でログ出力します。

メッセージログの格納先を次に示します。

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%logs

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/logs

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/logs

(2) Main Console のメッセージログの出力形式

Main Console のメッセージログの出力形式を次に示します。

<番号>△<日付>△<時刻>△<AP 名>△<pid>△<tid>△<メッセージ ID>△<種別>△<メッセージ>

注意

△は半角スペースを表します。

表 7-7 ログ情報の出力形式 (Main Console の場合)

項目	設定内容
番号	ログ通番 (4 バイト)
日付	ログ取得日付 : yyyy/mm/dd (10 バイト)
時刻	ログ取得時刻 : hh:mm:ss.sss ローカル時刻 (JST) でミリ秒単位 (12 バイト)
AP 名	プロセス名 : HTnM
pid	プロセス ID (8 バイト) : OS が付与するプロセス ID
tid	スレッド識別子 (8 バイト) : java/lang/Thread オブジェクトのハッシュ値
メッセージ ID	メッセージ ID (11 バイト)
種別	ログ出力の契機となるイベント種別コード (4 バイト) 詳細は、「表 7-8」を参照してください。
メッセージ	メッセージテキスト 次に示す形式で出力されます。 <パッケージ付きクラス名>#<メソッド名>△※メッセージ本文

注※

△は半角スペースを表します。

表 7-8 イベント種別コード (Main Console の場合)

種別コード	意味
"FB "	関数の開始
"FE "	関数の終了
"EC "	例外発生
"ER "	エラーメッセージ
" "	上記以外

(3) Main Console のログの設定変更方法

Main Console が出力するログの設定を変更したい場合は、ロギングプロパティファイルの設定を変更します。

ロギングプロパティファイルの格納先を次に示します。

Windows の場合 :

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%conf%logging.properties

Solaris の場合 :

/opt/HiCommand/TuningManager/conf/logging.properties

Linux の場合 :

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/conf/logging.properties

ロギングプロパティファイルの設定を変更する手順を次に示します。

1. HiCommand Suite TuningManager サービスを停止します。
Tuning Manager server の停止方法については、「1.5 サービスの停止」を参照してください。
2. ロギングプロパティファイルをテキストエディターで開き、次の記述形式で修正します。
[キー] = [値]

注意

行の先頭に#が指定されている場合、その行はコメントになります。

- HiCommand Suite TuningManager サービスを起動します。

HiCommand Suite TuningManager サービスの起動方法は、「1.4 サービスの起動」を参照してください。

表 7-9 ロギングプロパティファイルのプロパティ一覧

キー	対象となるログファイル	説明
logLevel	htmTrace#.log	Tuning Manager server の本体が出力するトレースログのトレースレベルを指定します。詳細は、「(4)」を参照してください。
logFileNumber	htmMessage#.log	Tuning Manager server の本体が出力するメッセージログのファイル面数※を指定します。1~16 の値を指定します。デフォルト値は 10 です。
logFileSize	htmMessage#.log	Tuning Manager server の本体が出力するメッセージログのファイルサイズ※を MB 単位で指定します。1~2048 の値を指定します。デフォルト値は 1 です。
cli.logLevel	<ul style="list-style-type: none"> <コマンド名>Trace#.log htmCliTrace#.log htmCli_htmHostGroupsTrace#.log 	運用コマンドおよびレポートコマンドが出力するトレースログのトレースレベルを指定します。詳細は、「(4)」を参照してください。
cli.logFileNumber	<ul style="list-style-type: none"> <コマンド名>Message#.log htmCliMessage#.log htmCli_htmHostGroupsMessage#.log 	運用コマンドおよびレポートコマンドが出力するメッセージログのファイル面数※を指定します。1~16 の値を指定します。デフォルト値は 2 です。
cli.logFileSize	<ul style="list-style-type: none"> <コマンド名>Message#.log htmCliMessage#.log htmCli_htmHostGroupsMessage#.log 	運用コマンドおよびレポートコマンドが出力するメッセージログのファイルサイズ※を MB 単位で指定します。1~2048 の値を指定します。デフォルト値は 1 です。

注※

Main Console のメッセージログのファイル名は、1つのログファイルのサイズが指定サイズを超える場合、ログファイル番号をインクリメントしたファイルを新規に作成します。ログ出力するファイル面数に達すると、最初のファイルから上書きされるラウンドロビン方式でログ出力します。

(4) Main Console のログのトレースレベル詳細

トレースレベルの詳細について、次の表に示します。

表 7-10 トレースレベル詳細 (Main Console の場合)

トレースレベル	説明
10	標準の設定です。 通常運用時に利用します。
20	障害が発生した場合に、原因の範囲が特定できるレベルの情報が出力されます。障害発生時の再現テストなどで利用します。
30	トレースレベル 10 または 20 で障害の要因が特定できない場合に設定します。障害の要因を特定するために必要な情報を出力します。

7.3.4 Performance Reporter のログ

ここでは、Performance Reporter のログの設定方法と出力形式について説明します。

(1) Performance Reporter のログの出力先

Performance Reporter のログは、prtrace#.log に出力されます。(#:ログファイル番号 [1~ファイル面数まで])

prtrace#.log の格納先を次に示します。

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%log

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/log

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/log

(2) Performance Reporter のログの出力形式

Performance Reporter のログの出力形式を、次に示します。

```
<番号>△<日付>△<時刻>△<AP 名>△<pid>△<tid>△<メッセージ ID>△<種別>△<メッセージ>
```

注意

△は半角スペースを表します。

表 7-11 ログ情報の出力形式 (Performance Reporter の場合)

項目	設定内容
番号	ログ通番 (4 バイト)
日付	ログ取得日付 : <i>yyylmmdd</i> (10 バイト)
時刻	ログ取得時刻 : <i>hh:mm:ss.sss</i> ローカル時刻 (JST) でミリ秒単位 (12 バイト)
AP 名	プロセス名 : HTM-PR
pid	プロセス ID (8 バイト) : OS が付与するプロセス ID
tid	スレッド識別子 (8 バイト) : java/lang/Thread オブジェクトのハッシュ値
メッセージ ID	メッセージ ID (11 バイト) : <i>KAVJxmnnn-z</i> (x = package ID, m = message type number, nnn = message number, z = message type)
種別	ログ出力の契機となるイベント種別コード (4 バイト) 詳細は、「表 7-12」を参照してください。
メッセージ	メッセージテキスト 詳細は、「表 7-13」を参照してください。

表 7-12 イベント種別コード (Performance Reporter の場合)

種別コード	意味
"OC "	オブジェクトの生成
"OD "	オブジェクトの消滅
"FB "	関数の開始
"FE "	関数の終了
"EC "	例外発生

種別コード	意味
"ER "	エラーメッセージ
"PB "	他プログラムからの呼び出し
"PE "	他プログラムへのリターン
" "	上記以外

メッセージテキストの先頭に出力されるメッセージログ ID は、次の形式で出力されます。

[PRNNNN:%%%:\$\$] &&&&

各フォーマットと種別コードの意味を表 7-13 に示します。

表 7-13 メッセージログ ID フォーマット

項目	意味	設定内容
[メッセージログ ID の開始	"[" (左角括弧)
PR	プレフィックス	"PR"固定
NNNN	ログ出力番号	ログ出力回数を 0000 からカウントした数 4 桁。 0000~9999。9999 の次は 0000 です。
:	セパレーター	":" (コロン)
%%%	Performance Reporter イベント種別コード	「表 7-14」の種別コード。3 桁。
:	セパレーター	":" (コロン)
\$\$	ログレベル	出力するメッセージのトレースレベルを 2 桁の数値で示します (ログファイルからトレースレベルで検索可能とするため)。 数値とレベルの対応を次に示します。 00 : FATAL 10 : WARN 20 : DEBUG 30 : TRACE
]	メッセージログ ID の終了	"]" (右角括弧)
&&&&	メッセージテキスト	メッセージログ ID に対するメッセージテキスト

表 7-14 Performance Reporter イベント種別コード

種別コード	意味
"FBI"	主要メソッドの開始
"FEI"	主要メソッドの終了
"FBS"	メソッドの開始
"FES"	メソッドの終了
"EC "	例外発生
"ER "	エラー (-E) メッセージ
"DP "	デバッグ情報
"INF"	情報 (-I, -Q, -K) メッセージ
"CAL"	他プログラムの呼び出し
"RET"	他プログラムからのリターン

(3) Performance Reporter のログの初期設定情報

初期設定ファイル (config.xml) は、Performance Reporter インストール後に、設定する必要があります。config.xml への設定方法については、「5.3 Performance Reporter の初期設定」を参照してください。初期設定ファイルで、Performance Reporter ログに関連して設定する情報を次の表に示します。

表 7-15 初期設定ファイルの Performance Reporter ログ関連設定情報

設定情報	説明	指定範囲	デフォルト
出力先	ログ出力先を指定します。	—	Windows の場合： <Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%log Solaris の場合： /opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/log Linux の場合： <Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/log
ファイル数	ログ出力するファイル面数※を指定します。	1~16	10
サイズ	ログ出力するファイルサイズ※を MB 単位で指定します。	1~100	10
トレースレベル	出力するトレースレベルを指定します。詳細は、「表 7-16」を参照してください。	Fatal/ Warn/ Debug/ Trace	Warn

(凡例)

—：該当しない

注※

Performance Reporter ログファイル名は、prtrace#.log (#:ログファイル番号 [1~ファイル面数まで]) で付けます。1つのログファイルのサイズが指定サイズを超える場合、ログファイル番号をインクリメントしたファイルを新規に作成します。ログ出力するファイル面数に達すると、最初のファイルから上書きされるラウンドロビン方式でログ出力します。

(4) Performance Reporter のログのトレースレベル詳細

トレースレベルの詳細について、次の表に示します。

表 7-16 トレースレベル詳細 (Performance Reporter の場合)

トレースレベル	説明
Fatal	システムの稼働時に必ず出力します。性能への影響は無視できる程度です。
Warn	処理の流れの概要が把握できる情報を出力します。
Debug	処理の流れが把握できる情報を、性能への影響は無視できる程度で出力します。通常、運用時に指定します。
Trace	障害個所を特定するためのすべての情報を出力します。

7.4 保守情報の採取方法

Tuning Manager server の運用中にトラブルが発生した場合は、ログファイルやデータベースファイルなどの保守情報を採取してサポートを受けてください。Tuning Manager server は、サポートを受けるために必要な保守情報を採取するコマンドを提供しています。

また、サポートを受ける前には、トラブル発生時の状況を確認するための情報を収集する必要もあります。詳細については、「7.4.3 トラブル発生時の状況を確認するための情報」を参照してください。

7.4.1 コマンドで保守情報を採取する方法

Tuning Manager server および Performance Management が提供するコマンドを使用すると、Tuning Manager server のトラブルの解決に必要な情報を収集できます。

(1) Tuning Manager server の保守情報を採取する手順

Tuning Manager server の運用中にトラブルが発生した場合、サポートを受ける前に次の手順を実行してください。

1. hcmdsgetlogs コマンドを実行して、Tuning Manager server の保守情報を採取します。
コマンドの実行例を次に示します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsgetlogs /dir <任意のフォルダ>
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsgetlogs -dir <任意のディレクトリ>
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsgetlogs -dir <任意のディレクトリ>
```

hcmdsgetlogs コマンドの詳細については、「9.9.1 hcmdsgetlogs コマンド」を参照してください。

2. Tuning Manager server とエージェントを同一ホストにインストールしている場合は、jpcras コマンドを実行して、エージェントの Store データベースを収集します。
コマンドの実行例を次に示します。

Windows の場合：

```
cd <PFM - Manager のインストール先フォルダ>%tools%  
jpcras <任意のフォルダ> all all
```

Solaris および Linux の場合：

```
cd /opt/jplpc/tools  
jpcras <任意のディレクトリ> all all
```

サービスキーを示す all と、採取する資料を示す all を必ず指定してください。jpcras コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

エージェントの Store データベースの収集に時間が掛かる場合があるため、hcmdsgetlogs コマンドの実行が完了した時点で、hcmdsgetlogs コマンドで採取した保守情報をサポートデスクに送付してください。

Tuning Manager server をクラスタ構成で運用している場合には、実行系ノードと待機系ノードそれぞれで hcmdsgetlogs コマンドおよび jpcras コマンドを実行してください。

(2) 特定の保守情報を採取するためのコマンド

hcmdsgetlogs コマンドおよび jpcras コマンドを実行すれば、サポートを受けるために必要な保守情報をすべて採取できます。通常はこれらのコマンドを実行することを推奨します。

ただし、hcmdsgetlogs コマンドおよび jpcras コマンドはトラブルの解決に必要な情報をすべて収集するため、収集される情報の量は多くなります。収集する情報の量を少なくしたい場合で、トラブルの発生個所が特定できるときには、次に示すコマンドを個別に実行できます。

- htm-getlogs コマンド
- htm-dump コマンド
- jpcprras コマンド

Tuning Manager server の保守情報を採取するために使用するコマンドと、保守情報の採取対象となる各製品との対応を次の表に示します。

表 7-17 保守情報を採取するためのコマンド一覧

コマンド名	ほかの Hitachi Command Suite 製品	Tuning Manager server			PFM - Manager	エージェント	
		共通コンポーネント	Main Console	Performance Reporter		Store データベース	Store データベース以外
hcmdsgetlogs	○	○	○	○	○	×	○
htm-getlogs	×	×	○	○	○	×	○
htm-dump	×	×	○	×	×	×	×
jpcprras	×	×	×	○	×	×	×
jpcras	×	×	×	×	○	○	○

(凡例)

- ：保守情報を採取できます。
- ×：保守情報を採取できません。

hcmdsgetlogs コマンドについては、「9.9.1 hcmdsgetlogs コマンド」を参照してください。また、jpcras コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。そのほかのコマンドについては、「8. ユーティリティ」を参照してください。

(3) 保守情報の採取に掛かる時間の目安

個別にコマンドを実行した場合の、Tuning Manager server のログ収集に掛かる時間の目安について説明します。「表 7-18 Tuning Manager server がインストールされているホスト」から「表 7-20 ストレージシステム」に示す環境で Tuning Manager シリーズを運用する場合、Tuning Manager server ホストでのログの収集には、「表 7-21 ログの収集に掛かる時間 (Tuning Manager server ホストでコマンドを実行した場合)」に示す程度の時間が掛かります。なお、コマンドを実行したあとにエラーメッセージが出力されていなければ、ログファイルの収集が継続されているので、コマンドの実行を中断しないでください。

表 7-18 Tuning Manager server がインストールされているホスト

分類	スペック
CPU	Intel Core 2 Duo E6850 (3.0GHz)
メモリー	4GB

分類	スペック
OS	Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition
プログラム	Tuning Manager server v7.6.1 Device Manager v7.6.1

表 7-19 エージェントがインストールされているホスト

分類	スペック
CPU	Intel Core 2 Duo E6850 (3.0GHz)
メモリー	4GB
OS	Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition
プログラム	HTM - Agent for RAID v7.6.1

表 7-20 ストレージシステム

ストレージシステム	リソース種別	リソース数
Hitachi Universal Storage Platform V	論理デバイス	61,739
	LUSE	1,270
	VDEV	57,355
	パリティグループ	96
	ポート	96
	CLPR	2
	プール	12

表 7-21 ログの収集に掛かる時間 (Tuning Manager server ホストでコマンドを実行した場合)

コマンド	ログの収集に掛かる時間 (秒)
hcmdsgetlogs	952
htm-getlogs	243
htm-dump	14
jpcprras	66
jpcras	30

7.4.2 手動でログファイルを収集する方法

通常、ログファイルはコマンドを使って収集します。しかし、状況によっては、手動でログファイルを収集する必要があります。

Main Console のログおよび Performance Reporter のログは、各ログファイルの格納先から手動で収集します。ログファイルの格納先については、「[7.3.3 Main Console のログ](#)」および「[7.3.4 Performance Reporter のログ](#)」を参照してください。

システム情報は、次に示す操作で収集します。

(1) Windows 環境の場合

Windows イベントログおよび Windows のサービス情報を採取します。

Windows イベントログの採取手順

イベントログを採取する手順を説明します。

1. 次のどちらかの方法で [イベントビューア] ウィンドウを開きます。

GUI :

- Windows Server 2003 および Windows Server 2008 の場合
[スタート] – [管理ツール] – [イベントビューア]
- Windows Server 2012 の場合
[管理ツール] または [すべてのアプリ] – [イベントビューア]

コマンド : <Windows フォルダ>%system32%eventvwr.msc

2. Windows Server 2003 の場合, [アプリケーション] を選択します。Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合, 左ペイン [Windows ログ] の [アプリケーション] を選択します。
3. メニューの [操作 (A)] をクリックします。
4. [ログファイルの名前を付けて保存 (A) ...] または, [すべてのイベントを名前を付けて保存 (E) ...] を選択します。
5. ログタイプ, 会社名, 日付を含むようにファイル名を指定します。
例 : log-system-mycompany-20040630.evt
6. [保存 (S)] ボタンをクリックします。
7. セキュリティログとシステムログに対して, 同様の手順を繰り返します。

Windows のサービス情報の採取手順

サービス情報を採取する手順を説明します。

1. 次のどちらかの方法で [サービス] ウィンドウを開きます。

GUI :

- Windows Server 2003 および Windows Server 2008 の場合
[スタート] – [管理ツール] – [サービス]
- Windows Server 2012 の場合
[管理ツール] または [すべてのアプリ] – [サービス]

コマンド : <Windows フォルダ>%system32%services.msc

2. メニューの [操作 (A)] をクリックして, [一覧のエクスポート (L)] を選択します。
[名前を付けて保存] または [一覧のエクスポート] のダイアログが表示されます。
3. [ファイルの種類 (T)] に [テキスト (タブ区切り) (*.txt)] を指定します。
4. 会社名と日付を含む形でファイル名を指定します。
例 : services-yourcompany-20030416.txt
5. [保存 (S)] ボタンをクリックします。

(2) Solaris および Linux 環境の場合

ps コマンドでプロセスの状態をファイルへ出力してください。

```
ps -ef > <ユーザー任意のディレクトリ>/psoutput.txt
```

7.4.3 トラブル発生時の状況を確認するための情報

サポートを受けるには, ログファイル以外に, トラブル発生時の状況を確認するための情報を記録し, 収集する必要があります。収集が必要な情報について次に示します。

(1) トラブル発生時の操作内容および環境に関する情報

トラブルが発生したときに実施した操作の内容、および操作した環境に関する情報を収集してください。収集する情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- トラブルの発生時刻
- マシン構成（マシンの OS の種類およびバージョン、ホスト名）
- トラブルの再現性の有無
- Main Console 起動時のログインユーザー名

(2) 画面上のエラー情報

トラブルが発生したときの画面上の情報を収集してください。収集する情報を次に示します。

- WWW ブラウザーのハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー
詳細情報がある場合はその内容をコピーしてください。
- コマンドを実行した画面の情報
コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コマンドを実行した次の画面の情報を収集してください。

Windows の場合：

コマンドプロンプトのハードコピーを採取してください。コマンドプロンプトのハードコピーを採取する際は、["コマンドプロンプト"のプロパティ] ウィンドウで、次のように設定しておいてください。

[オプション] タブ：[簡易編集モード] がチェックされた状態にします。

[レイアウト] タブ：[画面バッファのサイズ] の [高さ] に「500」を設定します。

Solaris および Linux の場合：

コンソールに出力されたメッセージの情報を収集してください。

(3) その他の情報

トラブルが発生したとき、すでに説明したもの以外に、次の情報を収集してください。収集する情報を次に示します。

Windows 環境の場合

- Windows イベントログ：
 - Windows Server 2003 の場合
[イベントビューア] - [システム] および [アプリケーション] の内容
 - Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合
[イベントビューア] - 左ペイン [Windows ログ] - [システム] および [アプリケーション] の内容
- [システム情報] の内容：
 - Windows Server 2003 および Windows Server 2008 の場合
[アクセサリ] - [システムツール] - [システム情報]
 - Windows Server 2012 の場合
[管理ツール] または [すべてのアプリ] - [システム情報]

- コマンドに指定した引数（コマンド実行時にトラブルが発生した場合）
- JavaVM のスレッドダンプ
JavaVM のスレッドダンプの採取方法については、「[9.9.2 共通コンポーネントの JavaVM スレッドダンプの採取](#)」を参照してください。

Solaris 環境の場合

- コマンドに指定した引数（コマンド実行時にトラブルが発生した場合）
- JavaVM のスレッドダンプ
JavaVM のスレッドダンプの採取方法については、「[9.9.2 共通コンポーネントの JavaVM スレッドダンプの採取](#)」を参照してください。

Linux 環境の場合

- コマンドに指定した引数（コマンド実行時にトラブルが発生した場合）
- JavaVM のスレッドダンプ
JavaVM のスレッドダンプの採取方法については、「[9.9.2 共通コンポーネントの JavaVM スレッドダンプの採取](#)」を参照してください。

7.5 メッセージ

Main Console および Performance Reporter が出力するメッセージの形式と、このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。

7.5.1 メッセージの出力形式

Main Console および Performance Reporter が出力するメッセージの形式を説明します。メッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。記載形式の例を次に示します。

(1) Main Console のメッセージの出力形式

Main Console が出力するメッセージの形式を次に示します。

`KATNnnnnn-Y <メッセージテキスト>`

`KATN`

Main Console のメッセージであることを示します。

`nnnnn`

メッセージの通し番号を示します。「01000」～「19999」です。

`Y`

メッセージの種類を示します。

- **E** : エラー
処理は中断されます。
- **W** : 警告
メッセージ出力後、処理は続けられます。
- **I** : 情報
ユーザーに情報を知らせます。

(2) Performance Reporter のメッセージの出力形式

Performance Reporter が出力するメッセージの形式を次に示します。

KAVJxmnnn-Y <メッセージテキスト>

KAVJ

Performance Reporter のメッセージであることを示します。

x

パッケージ ID を示します。

パッケージ ID を次の表に示します。

表 7-22 パッケージ ID 一覧 (Performance Reporter のメッセージ)

パッケージ ID	パッケージ名	内容
A	app	アプリケーション
C	cache	情報保持
D	draw	Draw モジュール
E	export	CSV エクスポート
F	form	アクション・フォーム Bean
H	desc	Description モジュール
I	init	初期化
J	jsp	JSP
K	cmd	コマンド
L	logging	ロギング
S	servlets	サーブレット
T	tools	ツール
V	vsa	ViewServerAccess
Z	共通	パッケージに依存しない Performance Reporter 共通

m

メッセージ種別を数字で示します。

- 0~4 : エラー (E)
- 5~7 : 情報 (I)
- 8 : 応答 (Q)
- 9 : 処理中 (K)

nnn

メッセージの通し番号を示します。「000」～「999」です。

Y

メッセージ種別をアルファベットで示します。

- E : エラー (トレースレベル Fatal)
処理は中断されます。
- I : 情報 (トレースレベル Warn)
ユーザーに情報を知らせます。
- Q : 応答 (トレースレベル Warn)
ユーザーに応答を促します。

- K：処理中（トレースレベル Warn）
メッセージ出力後，処理は続けられます。

7.5.2 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。メッセージテキストで<斜体>になっている部分は，メッセージが表示される状況によって表示内容が変わることを示しています。また，メッセージをメッセージ ID 順に記載しています。記載形式の例を次に示します。

メッセージ ID	メッセージテキスト	メッセージの説明文
----------	-----------	-----------

なお，Performance Reporter のメッセージの説明文に含まれる(S)，(O)の意味を次に示します。

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが表示されたときに，オペレーターがとる処置を示します。

7.5.3 メッセージの出力先一覧

Main Console，および Performance Reporter が出力する各メッセージの出力先を，それぞれ「表 7-23 Main Console のメッセージの出力先一覧」，および「表 7-24 Performance Reporter のメッセージの出力先一覧」に示します。

表 7-23 Main Console のメッセージの出力先一覧

出力先	メッセージ ID
<ul style="list-style-type: none"> • メッセージログ • syslog • Windows イベントログ 	KATN10002, KATN10004, KATN10008, KATN10010, KATN10011, KATN10015~KATN10017, KATN10099, KATN17001, KATN17002, KATN17400, KATN17401
<ul style="list-style-type: none"> • メッセージログ • syslog • Windows イベントログ • 標準エラー出力 	KATN01399, KATN01801
<ul style="list-style-type: none"> • syslog • Windows イベントログ 	KATN10005~KATN10007, KATN17000, KATN17010
<ul style="list-style-type: none"> • メッセージログ 	KATN01571, KATN01572, KATN01573, KATN10003, KATN10012, KATN10013, KATN10031~KATN10034, KATN10200~KATN10202, KATN12030, KATN12031, KATN12046, KATN12051, KATN12056, KATN12474~KATN12478, KATN12770~KATN12773, KATN12799, KATN12917, KATN14201~KATN14212, KATN14401~KATN14402, KATN14407~KATN14411, KATN14801, KATN14811~KATN14823, KATN14825~KATN14826, KATN14850~KATN14870, KATN14872, KATN14876, KATN14877, KATN15000~KATN15006, KATN15008~KATN15010, KATN16000~KATN16013, KATN16150~KATN16154, KATN16157~KATN16159, KATN16161~KATN16164, KATN16167~KATN16169, KATN16171~KATN16173, KATN16175~KATN16178, KATN16181, KATN16183~KATN16191, KATN16195, KATN16201, KATN16202, KATN16302~KATN16304, KATN16399~KATN16403, KATN16410, KATN16421, KATN16422, KATN16424, KATN16430, KATN16500, KATN16501, KATN16601~KATN16604, KATN16700~KATN16712, KATN16900, KATN17003 ^{*1} ~KATN17009, KATN17012~KATN17016, KATN17051~KATN17055, KATN17058~KATN17060,

出力先	メッセージ ID
	KATN17074, KATN17200, KATN17201, KATN17210~KATN17212, KATN17218~KATN17220, KATN18002~KATN18005
<ul style="list-style-type: none"> GUI 	KATN12402~KATN12404, KATN12411, KATN12459~KATN12463, KATN12600~KATN12605, KATN12610~KATN12626, KATN12632, KATN12633, KATN12635, KATN12636, KATN12638~KATN12641, KATN12644, KATN12645, KATN12650~KATN12657, KATN12661, KATN12666~KATN12672, KATN12720~KATN12727, KATN12729~KATN12744, KATN12788, KATN12791, KATN12792, KATN12794, KATN12795, KATN12807, KATN12825, KATN12826, KATN12902, KATN12904~KATN12912, KATN12915, KATN12916
<ul style="list-style-type: none"> GUI メッセージログ 	KATN10009, KATN12200~KATN12210, KATN12400, KATN12410, KATN12412~KATN12417, KATN12421, KATN12422, KATN12465, KATN12466, KATN12482, KATN12483, KATN12486, KATN12629, KATN12642, KATN12643, KATN12646~KATN12649, KATN12658~KATN12660, KATN12662~KATN12665, KATN12700, KATN12750~KATN12759, KATN12789, KATN12793, KATN12798, KATN12803, KATN12814, KATN12816~KATN12818, KATN12821~KATN12824, KATN12827, KATN12829~KATN12834, KATN12901, KATN12903, KATN12918~KATN12921, KATN13011~KATN13024, KATN15007, KATN15012~KATN15015, KATN17203, KATN17205, KATN17206, KATN17209, KATN17213~KATN17217
<ul style="list-style-type: none"> 標準エラー出力 メッセージログ 	KATN01206, KATN01301~KATN01306, KATN01308, KATN01311~KATN01313, KATN01321, KATN01323~KATN01330, KATN01332~KATN01339, KATN01398, KATN01802~KATN01811, KATN01813~KATN01817, KATN12001~KATN12006, KATN12008~KATN12019, KATN12021~KATN12029, KATN12032~KATN12035, KATN12039~KATN12045, KATN12047, KATN12050, KATN12053, KATN12054, KATN12057, KATN12058~KATN12061, KATN12063~KATN12078, KATN12080~KATN12082 ^{※2} , KATN12083, KATN12085, KATN17070~KATN17073
<ul style="list-style-type: none"> 標準出力 メッセージログ 	KATN01300, KATN01307, KATN01309, KATN01314, KATN01331, KATN01800, KATN01812, KATN12052, KATN12084
<ul style="list-style-type: none"> 標準エラー出力 	KATN01201~KATN01205, KATN01208~KATN01215, KATN01221~KATN01224, KATN01226, KATN01228~KATN01231, KATN01299, KATN12036~KATN12038, KATN12048, KATN12055, KATN12062

注※1

htm-csv-convert コマンドを実行して KATN17003-E が出力される場合、標準エラー出力にも出力されます。

注※2

htm-csv-convert コマンドを実行して KATN12082-E が出力される場合、ログに関連するプロパティが原因のときは標準エラー出力にだけ出力されます。

表 7-24 Performance Reporter のメッセージの出力先一覧

出力先	メッセージ ID
<ul style="list-style-type: none"> トレースログ 標準出力 syslog Windows イベントログ 	KAVJH0001, KAVJH0002, KAVJS0010, KAVJS4007
<ul style="list-style-type: none"> トレースログ 標準エラー出力 syslog 	KAVJV2552~KAVJV2554

出力先	メッセージ ID
• Windows イベントログ	
• トレースログ • 標準出力	KAVJF2501, KAVJF2502, KAVJH0003~KAVJH0005, KAVJS0001, KAVJS0002, KAVJS0004~KAVJS0009, KAVJS0011~KAVJS0023, KAVJS0025~KAVJS0069, KAVJS2501~KAVJS2508, KAVJS2529, KAVJS2531, KAVJS2551~KAVJS2588, KAVJS2601~KAVJS2607, KAVJS2612, KAVJS2613, KAVJS2651~KAVJS2662, KAVJS2671, KAVJS2681, KAVJS2682, KAVJS2701, KAVJS2702, KAVJS2751~KAVJS2760, KAVJS2826, KAVJS2827, KAVJS2829~KAVJS2834, KAVJS3001, KAVJS4001~KAVJS4004, KAVJS4008~KAVJS4012, KAVJS5001~KAVJS5003, KAVJS6552, KAVJS6562, KAVJS6701
• トレースログ • 標準エラー出力	KAVJK0001~KAVJK0010, KAVJK0051~KAVJK0054, KAVJK0101~KAVJK0106, KAVJK0109~KAVJK0180, KAVJK0201~KAVJK0214, KAVJK0301~KAVJK0306, KAVJK0401~KAVJK0406, KAVJK0502~KAVJK0505, KAVJK0601~KAVJK0607, KAVJK0609~KAVJK0646, KAVJK0648~KAVJK0654, KAVJK2512~KAVJK2514, KAVJK2557, KAVJK2701, KAVJK2709~KAVJK2733, KAVJK2736, KAVJK4001
• トレースログ	KAVJL5001, KAVJS6564, KAVJV2501~KAVJV2507, KAVJV2551, KAVJV2701, KAVJV4003~KAVJV4011, KAVJV5001~KAVJV5005, KAVJV9001, KAVJV9002, KAVJV9004, KAVJV9005, KAVJZ5001, KAVJZ5002, KAVJZ5010~KAVJZ5015, KAVJZ5999
• トレースログ • syslog • Windows イベントログ	KAVJV2558, KAVJV2561~KAVJV2564, KAVJV4001, KAVJV4002, KAVJV5006, KAVJZ5003
• 標準出力	KAVJK5001, KAVJK6701, KAVJK8001~KAVJK8004, KAVJK8602, KAVJT5001~KAVJT5010, KAVJZ0998, KAVJZ0999, KAVJZ1999
• 標準エラー出力	KAVJK0510, KAVJK0511, KAVJK2506, KAVJK2700, KAVJK2703, KAVJK2704, KAVJK2743, KAVJT0003~KAVJT0011, KAVJT0014~KAVJT0019, KAVJT0023, KAVJT0024
• syslog • Windows イベントログ	KAVJA0001~KAVJA0017, KAVJA4001~KAVJA4003, KAVJA5002, KAVJA5004
• GUI	KAVJJ0001~KAVJJ0003, KAVJJ2551, KAVJJ5001, KAVJJ6601~KAVJJ6610, KAVJJ8001~KAVJJ8015, KAVJJ8501, KAVJJ8502, KAVJJ8526~KAVJJ8531, KAVJJ8551, KAVJJ8601, KAVJJ8602, KAVJJ8626, KAVJJ8627, KAVJJ8651~KAVJJ8653, KAVJS2783

7.5.4 メッセージ一覧

Main Console および Performance Reporter が出力するメッセージと対処方法について一覧表で説明します。

(1) Main Console が出力するメッセージの一覧

表 7-25 Main Console が出力するメッセージ

メッセージ ID	メッセージ	説明
KATN01201-E	An unexpected error occurred. (maintenance information = <存在しないコマンド名 ("jpcpras" / "jpcprras" / "htm-dump")>)	実行するコマンドが存在しません。 Tuning Manager server のインストール状況をインストールログで確認し、正常にインストールされていない場合は、再インストールしてください。
KATN01202-E	The command syntax is invalid.	オプションの指定に誤りがあります。 コマンドの構文を確認し、適切な構文でコマンドを再実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN01203-E	destination-directory is not specified.	保守情報の格納先ディレクトリ(destination-directory)の指定がありません。 保守情報の格納先ディレクトリを指定し、コマンドを再実行してください。
KATN01204-E	The specified destination-directory is invalid.	保守情報の格納先ディレクトリ(destination-directory)が不正です。 destination-directory に、保守情報を格納できるディレクトリを指定して、コマンドを再実行してください。次の場合は、保守情報を格納できません。 <ul style="list-style-type: none"> ルートディレクトリが指定されている場合 '/'で開始する名称のディレクトリが指定されている場合 使用できない文字を含むディレクトリが指定されている場合 ディレクトリではなく、ファイルが指定されている場合 指定されたディレクトリが存在しない場合に、そのディレクトリを作成することができないとき
KATN01205-E	The specified destination-directory is not empty.	保守情報の格納先ディレクトリ(destination-directory)が空ではありません。 destination-directory に空のディレクトリを指定して、コマンドを再実行してください。
KATN01206-E	Subdirectories cannot be created in the specified destination-directory.	サブディレクトリの作成に失敗しました。 destination-directory に指定したディレクトリのアクセス権限を確認し、サブディレクトリを作成できる状態にしたあと、コマンドを再実行してください。
KATN01208-E	An unexpected error occurred. (maintenance information =<コマンド名("jpcras all" / "jpcras all dump" / "jpcras mgr data" / "jpcprras" / "htm-dump")>)	htm-getlogs コマンドが呼び出したコマンドの実行でエラーが発生しました。 メッセージの maintenance information に表示されたコマンドの実行条件を確認してください。jpcras コマンドの実行条件の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を、jpcprras コマンドおよび htm-dump コマンドの実行条件の詳細については、「8.」の各コマンドについて説明している箇所を参照してください。 実行条件を確認してから、htm-getlogs コマンドを再実行してください。 再度エラーが発生する場合は、システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。手動で保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01209-E	Compression of RAS information has failed.	zip ファイルへの圧縮に失敗しました。原因として、次のことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ディスク容量が不足しています。 zip ファイルが 2GB を超えました。

メッセージID	メッセージ	説明
		ディスク容量が不足している場合は、ディスク容量を追加して、コマンドを再実行してください。ZIP ファイルが 2GB を超えた場合、またはそれ以外の要因で失敗した場合は、圧縮されていない保守情報をそのまま採取してください。
KATN01210-I	The command htm-getlogs will now be executed.	htm-getlogs コマンドを開始します。
KATN01211-I	Execution of the command htm-getlogs has been completed.	htm-getlogs コマンドが完了しました。
KATN01212-I	RAS information will now be compressed.	保守情報の zip ファイルへの圧縮を開始します。
KATN01213-I	Compression of RAS information has been completed.	保守情報の zip ファイルへの圧縮が完了しました。
KATN01214-I	The command will now be executed. <コマンド名({"jpcras all" / "jpcras all dump" / "jpcras mgr data" / "jpcrras" / "htm-dump"})>	指定されたコマンドの実行を開始します。
KATN01215-I	Command execution has been completed. <コマンド名({"jpcras all" / "jpcras all dump" / "jpcras mgr data" / "jpcrras" / "htm-dump"})>	実行したコマンドが正常終了しました。
KATN01221-E	The command syntax is invalid.	オプションの指定に誤りがあります。コマンドの構文を確認し、適切な構文でコマンドを再実行してください。
KATN01222-E	destination-directory is not specified.	保守情報の格納先ディレクトリ(destination-directory)の指定がありません。保守情報の格納先ディレクトリを指定し、コマンドを再実行してください。
KATN01223-E	The specified destination-directory is invalid.	保守情報の格納先ディレクトリ(destination-directory)が不正です。destination-directory に、保守情報を格納できるディレクトリを指定して、コマンドを再実行してください。次の場合は、保守情報を格納することができません。 <ul style="list-style-type: none"> ルートディレクトリが指定されている場合 ・で開始する名称のディレクトリが指定されている場合 使用できない文字を含むディレクトリが指定されている場合 ディレクトリではなく、ファイルが指定されている場合 指定されたディレクトリが存在しない場合に、そのディレクトリを作成することができないとき
KATN01224-E	The specified destination-directory is not empty.	保守情報の格納先ディレクトリ(destination-directory)が空ではありません。destination-directory に空のディレクトリを指定して、コマンドを再実行してください。
KATN01226-E	Compression of RAS information has failed.	zip ファイルへの圧縮に失敗しました。原因として、次のことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ディスク容量が不足しています。

メッセージ ID	メッセージ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> zip ファイルが 2GB を超えました。ディスク容量が不足している場合は、ディスク容量を追加して、コマンドを再実行してください。ZIP ファイルが 2GB を超えた場合、またはそれ以外の要因で失敗した場合は、圧縮されていない保守情報をそのまま採取してください。
KATN01228-I	The command htm-dump will now be executed.	htm-dump コマンドを開始します。
KATN01229-I	Execution of the command htm-dump has been completed.	htm-dump コマンドが完了しました。
KATN01230-I	RAS information will now be compressed.	保守情報の zip ファイルへの圧縮を開始します。
KATN01231-I	Compression of RAS information has been completed.	保守情報の zip ファイルへの圧縮が完了しました。
KATN01299-E	An unexpected error occurred.	予期しないエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01300-I	Execution of the command htm-db-setup has started. htm-db-setup コマンドを開始しました。	—
KATN01301-E	The specified drive does not exist. 存在しないドライブが指定されています。	指定されたディレクトリのドライブが存在しません。存在するドライブ内のディレクトリを指定して、コマンドを再実行してください。
KATN01302-E	The root directory is specified. ルートディレクトリが指定されています。	オプションに指定できないルートディレクトリを指定しています。ルートディレクトリ以外のディレクトリを指定して、コマンドを再実行してください。
KATN01303-E	The command syntax is invalid. コマンドの構文が不正です。	コマンドの構文が不正です。コマンドの構文を確認し、適切な構文でコマンドを再実行してください。
KATN01304-E	If an RD area of the size specified for the size option is added, it will take up <指定されたサイズ分追加した場合の RD エリアのサイズ>GB, which exceeds 32 GB, the maximum allowed size for RD areas. size オプションで指定されたサイズ分 RD エリアを追加すると<指定されたサイズ分追加した場合の RD エリアのサイズ>GB となり、RD エリアの最大サイズ (32GB) を超過します。	size オプションのサイズの指定に誤りがあります。size オプションで指定したサイズ分 RD エリアを追加すると、追加後の RD エリアのサイズが 32GB を超過します。追加後の RD エリアが最大サイズ(32GB)を超えないように、追加するサイズ(2 の倍数)を size オプションに指定して、コマンドを再実行してください。
KATN01305-E	The value specified for the size option is not an even number from 2 to 30. size オプションに 2 から 30 の偶数が指定されていません。	size オプションに 2 から 30 の偶数が指定されていません。size オプションに 2 から 30 の偶数を指定して、コマンドを再実行してください。
KATN01306-E	Processing to set up the database failed.	次のどれかに該当する可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> データベースの作成に必要な容量が不足している

メッセージID	メッセージ	説明
	データベースのセットアップ処理に失敗しました。	<p>指定したディレクトリの空き容量を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定したディレクトリの読み込み権限, および書き込み権限がない読み込み, および書き込み権限があるディレクトリを指定してください。 不正なディレクトリパスを指定している正しいディレクトリパスを指定してください。 <p>原因を取り除いたあとで, htm-db-setup コマンドを再実行してください。</p> <p>上記のどれにも該当しない場合は, システム管理者に連絡してください。</p> <p>問題が解決しない場合は, 原因究明と問題の解決をするために, 詳細な調査が必要です。保守情報を採取し, 顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN01307-I	The command htm-db-setup terminated normally. htm-db-setup コマンドが正常終了しました。	—
KATN01308-E	An unexpected error occurred. (maintenance information = <hcmdsdbsetup コマンドの戻り値>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報=<hcmdsdbsetup コマンドの戻り値>	<p>hcmdsdbsetup コマンドの実行中にエラーが発生しました。</p> <p>次のどれかに該当する可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> データベースの作成に必要な容量が不足している 指定したディレクトリの空き容量を確認してください。 指定したディレクトリの読み込み権限, および書き込み権限がない読み込み, および書き込み権限があるディレクトリを指定してください。 不正なディレクトリパスを指定している正しいディレクトリパスを指定してください。 <p>原因を取り除いたあとで, htm-db-setup コマンドを再実行してください。</p> <p>上記のどれにも該当しない場合は, システム管理者に連絡してください。</p> <p>問題が解決しない場合は, 原因究明と問題の解決をするために, 詳細な調査が必要です。保守情報を採取し, 顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN01309-I	The database status has been displayed. データベースの状態を表示しました。	—
KATN01311-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	<p>内部処理エラーが発生しました。</p> <p>システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は, 原因究明と問題の解決をするために, 詳細な調査が必要です。保守情報を採取し, 顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN01312-E	No RD area has been created. RD エリアが作成されていません。	Tuning Manager server 用の RD エリアが存在しません。

メッセージ ID	メッセージ	説明
		Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01313-E	An unexpected error occurred. (maintenance information =<コマンド名>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報=<コマンド名>	内部コマンドの実行に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01314-I	The command htm-db-status will now be executed. htm-db-status コマンドを開始します。	—
KATN01321-E	An invalid option is specified. (option = <間違っているオプション名>) 不正なオプションが指定されています。 (<間違っているオプション名>)	不正なオプションが指定されています。 コマンドの構文を確認し、適切な構文でコマンドを再実行してください。
KATN01323-E	The path specified for the areapath option exceeds 93 bytes. areapath オプションに指定されたパスが 93 バイトを超えています。	areapath オプションに指定されたパスが 93 バイトを超えています。 areapath オプションに RD エリアを作成する 93 バイト以内の絶対パスを指定して、コマンドを再実行してください。
KATN01324-E	The directory is not specified by an absolute path. ディレクトリが絶対パスで指定されていません。	ディレクトリが相対パスで指定されています。 絶対パスで指定して、再実行してください。
KATN01325-E	An option contains unusable characters. (unusable characters = <オプションに指定された使用できない文字>) オプションに使用できない文字が含まれています。(<オプションに指定された使用できない文字>)	オプションに使用できない文字が含まれています。 <オプションに指定された使用できない文字>に出力された文字を含まないパスを指定してください。
KATN01326-E	The command htm-db-setup cannot be executed because a Hitachi Command Suite product is running. Hitachi Command Suite 製品が起動しています。起動中は htm-db-setup コマンドを実行できません。	Hitachi Command Suite 製品が起動しています。 Hitachi Command Suite 製品を停止後、再実行してください。
KATN01327-W	Unsetup will now stop because Tuning Manager server has not been set up. Tuning Manager server はセットアップされていません。アンセットアップを中止します。	未セットアップの状態、アンセットアップが実行されました。
KATN01328-E	The service HiRDBEmbeddedEdition_HD0 is not running. HiRDBEmbeddedEdition_HD0 サービスが起動していません。	HiRDBEmbeddedEdition_HD0 サービスが起動していません。 HiRDBEmbeddedEdition_HD0 サービスを起動後、再実行してください。
KATN01329-E	An unexpected error occurred.	データベースが起動していません。

メッセージID	メッセージ	説明
	予期しないエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01330-E	An unexpected error occurred. (maintenance information = <hcmdssrv コマンドのエラーコード>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報=<hcmdssrv コマンドのエラーコード>	hcmdssrv コマンドの実行に失敗しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01331-I	The database file system has been created. (<作成したデータベースのファイルシステム数><作成予定のデータベースのファイルシステムの総数>) DBのファイルシステムを作成しました。(<作成したデータベースのファイルシステム数><作成予定のデータベースのファイルシステムの総数>)	データベースの容量を追加する際に、途中経過の報告として表示します。
KATN01332-E	The database is not running. DBが起動していません。	データベースが起動していません。データベースを起動し、コマンドを再実行してください。
KATN01333-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	RD エリアの容量取得に失敗しました。Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01334-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	バッチファイル、またはシェルスクリプトでエラーが発生しました。Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01335-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	予期しないエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01336-E	The user does not have write permission for the specified directory. 指定されたディレクトリに書き込み権限がありません。	areapath オプションに指定されたディレクトリに、書き込み権限がありません。areapath オプションに、書き込み権限があるディレクトリを指定し、コマンドを再実行してください。
KATN01337-E	The specified path is not a directory.	areapath オプションに指定されたパスは、ディレクトリではありません。

メッセージID	メッセージ	説明
	指定されたパスはディレクトリではありません。	areapath オプションにディレクトリを指定し、コマンドを再実行してください。
KATN01338-E	An attempt to create the specified directory has failed. 指定されたディレクトリの作成に失敗しました。	areapath オプションに指定されたディレクトリの作成に失敗しました。 areapath オプションに、すでに存在するディレクトリ、または作成可能なディレクトリのパスを指定し、コマンドを再実行してください。
KATN01339-E	An invalid drive was specified. 不正なドライブが指定されました。	オプションに指定されたドライブは、ローカルディスクのドライブではありません。 ローカルディスクのドライブを指定し、コマンドを再実行してください。
KATN01398-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN01399-E	Initialization of the command has failed. コマンドの初期化に失敗しました。	コマンドの初期化に失敗しました。 logging.properties および user.properties の設定内容を見直し、問題があれば修正後にコマンドを再実行してください。問題がなければ、Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN01571-E	An unexpected error occurred. (maintenance information =<エラー要因>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報:<エラー要因>	hcmdsdbtrans コマンド内の処理で内部エラーが発生したため、データベースのデータの移動処理に失敗しました。 エラー要因 1 : CLI に指定したパラメーターが不正です。 2 : バージョン番号ファイル取得に失敗しました。 3 : バージョン番号ファイルに記載されたフォーマットエラーです。 4 : Tuning Manager server のバージョン情報取得に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN01572-E	Data from Tuning Manager server 5.9 or earlier cannot be migrated to this environment. Tuning Manager server 5.9 以前のデータをこの環境に移動することはできません。	Tuning Manager server の v5.9 以前のデータを Tuning Manager server の v6.0 以降の環境に移動しようとして失敗しました。 移動元の環境を v6.0 以降にバージョンアップしたあとに、再度データベース内のデータを移動してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN01573-E	This database cannot be imported. インポートできないデータベースです。	プログラムとデータベースのバージョンが一致しません。Tuning Manager server の v6.0 以降のデータベースであるおそれがあります。 現在インストールしている Tuning Manager server のバージョンをバージョンアップしてください。
KATN01800-I	Execution of the command htm-dvm-setup has started. htm-dvm-setup コマンドを開始しました。	—
KATN01801-E	Initialization of the command has failed. コマンドの初期化に失敗しました。	コマンドの初期化に失敗しました。 logging.properties および user.properties の設定内容を見直し、問題あれば修正後、コマンドを再実行してください。問題なければ、Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN01802-E	The command syntax is invalid. コマンドの構文が不正です。	コマンドの構文が不正です。 コマンドの構文を確認し、適切な構文でコマンドを再実行してください。
KATN01803-E	An invalid character string was specified as the Device Manager address.* An "invalid character string" is any character string except for the following: An IP address that consists of upper-case alphabetic characters (A-Z), lower-case alphabetic characters (a-z), a period (.), and a hyphen (-), or a 1 to 32-byte character string that can be converted to an IP address through name resolution. Device Manager address に、1 から 32byte の文字列以外が指定されました。	Device Manager address に、1 から 32byte の文字列以外が指定されました。 1 から 32byte の IP アドレスまたは、名前解決できるサーバ名を指定してください。IP アドレスで指定する場合は、IPv4 形式で指定する必要があります。
KATN01804-E	A value other than an integer from 5001 to 65535 is specified for nameport. nameport に、5001 から 65535 の整数ではない値が指定されました。	nameport に、5001 から 65535 の整数ではない値が指定されました。 nameport に 5001 から 65535 の整数を指定し、コマンドを再実行してください。
KATN01805-E	A value other than an integer from 5001 to 65535 is specified for serviceport. serviceport に、5001 から 65535 の整数ではない値が指定されました。	serviceport に、5001 から 65535 の整数ではない値が指定されました。 serviceport に、5001 から 65535 の整数を指定し、コマンドを再実行してください。
KATN01806-E	A value other than "pc" or "ws" is specified for os. os に、"pc"または"ws"以外の値が指定されました。	os に、"pc"または"ws"以外の値が指定されました。 "pc"または"ws"を指定してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN01807-E	The command htm-dvm-setup cannot be executed because Main Console is running. Main Console が起動しています。起動中は htm-dvm-setup コマンドを実行できません。	Main Console が起動しています。 Main Console を停止後、コマンドを再実行してください。
KATN01808-E	The service HiRDBEmbeddedEdition_HD0 is not running. HiRDB/EmbeddedEdition_HD0 サービスが起動していません。	HiRDB/EmbeddedEdition_HD0 サービスが起動していません。(Windows だけ) HiRDB/EmbeddedEdition_HD0 サービスを起動後、再実行してください。
KATN01809-E	The database is not running. DB が起動していません。	データベースが起動していません。 データベースを起動後、再実行してください。
KATN01810-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	データベースアクセス中にエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN01811-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN01812-I	The command htm-dvm-setup terminated normally. htm-dvm-setup コマンドが正常終了しました。	—
KATN01813-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	バッチファイル、またはシェルスクリプトでエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN01814-E	An unexpected error occurred. (maintenance information = <hcmdssrv コマンドのエラーコード>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報 : <hcmdssrv コマンドのエラーコード>	hcmdssrv コマンドの実行に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN01815-E	The same value was specified for serviceport and nameport. serviceport と nameport に同じ値が指定されました。	serviceport と nameport に同じ値が指定されました。serviceport と nameport には、異なる値を指定してください。
KATN01816-E	An unexpected error occurred during license migration command execution. ライセンス情報移行コマンド実行中に予期しないエラーが発生しました。	ライセンス情報移行コマンド実行中に予期しないエラーが発生しました。 しばらく待って再実行してください。再度エラーが発生する場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN01817-E	An error occurred during license migration command execution. (details =<内部コマンドのリターンコード>) ライセンス情報移行コマンド実行中にエラーが発生しました。保守情報:<内部コマンドのリターンコード>	ライセンス情報移行コマンド実行中にエラーが発生しました。しばらく待って再実行してください。再度エラーが発生する場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN10002-I	Main Console has stopped. Main Console を停止しました。	—
KATN10003-I	Main Console will now start. Main Console の起動処理を開始します。	—
KATN10004-E	An attempt to start Main Console has failed. Main Console の起動に失敗しました。	Main Console の起動に失敗しました。このメッセージの直前のメッセージを参照してエラー原因を取り除いたあとに、Main Console を再起動してください。Main Console は起動状態となっている場合は、いったん停止後、起動してください。
KATN10005-E	Message initialization has failed. メッセージの初期化に失敗しました。	メッセージの初期化に失敗しました。システム管理者にご連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN10006-E	Initialization for log output processing has failed. ログ出力処理の初期化に失敗しました。	ログ出力処理の初期化に失敗しました。ログ用プロパティファイル (logging.properties) の設定内容に問題があるおそれがあります。Main Console を停止し、logging.properties の設定内容を見直し、再起動してください。問題なければ、Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN10007-E	Initialization for log output processing has failed. (maintenance information =<要因コード>) ログ出力処理の初期化に失敗しました。保守情報=<要因コード>	ログ出力処理の初期化に失敗しました。要因コード 1:内部エラー 2:内部エラー 3:環境不正 4:不明 システム管理者にご連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN10008-E	Initialization has failed. 初期化処理に失敗しました。	プロパティの設定処理に失敗しました。プロパティファイルの設定内容を見直し、再実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN10009-E	Startup confirmation of a component related to Main Console has failed. Check the component logs and, if an error occurred, remove the cause of the error. (Component name =<関連コンポーネント名("Performance Reporter", "PFM - Manager")>) Main Console の関連コンポーネントとの起動確認に失敗しました。関連コンポーネントのログを確認し、エラーが発生している場合はエラー要因を取り除いてください。コンポーネント名:<関連コンポーネント名("Performance Reporter", "PFM - Manager")>	関連コンポーネントでエラーが発生している可能性があります。 システム管理者に連絡して、関連コンポーネントのログを確認してください。エラーが発生している場合は、エラーの要因を取り除いてください。 問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN10010-E	An attempt to start components related to Main Console has failed. Main Console の関連コンポーネントの起動に失敗しました。	Performance Reporter または PFM - Manager の起動に失敗しました。 Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN10011-E	Connection to components related to Main Console has failed. (maintenance information =<関連コンポーネント名("Performance Reporter", "PFM - Manager", "Device Manager", "DataBase")>) Main Console の関連コンポーネントとの接続に失敗しました。保守情報:<関連コンポーネント名("Performance Reporter", "PFM - Manager", "Device Manager", "DataBase")>	関連コンポーネントとの接続に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN10012-I	Initialization of Main Console finished. Main Console の初期化処理が完了しました。	—
KATN10013-I	Processing to stop Main Console finished. Main Console の終了処理が完了しました。	—
KATN10015-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	内部処理エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN10016-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	ダウングレードインストールなどによって、データベースのスキーマが未知のバージョンとなっています。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情

メッセージID	メッセージ	説明
		報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN10017-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN10031-I	Polling will now stop. ポーリングの停止処理を開始します。	—
KATN10032-I	Polling has stopped. ポーリングを停止しました。	—
KATN10033-W	An attempt to stop <関連コンポーネント名("Performance Reporter", "Tuning Service")>, a component related to Main Console, has failed. Main Console の関連コンポーネント<関連コンポーネント名("Performance Reporter", "Tuning Service")>の停止に失敗しました。	Main Console の関連コンポーネントの停止に失敗しました。 停止できなかったコンポーネントの起動状況を確認し、起動していれば、手動で停止してください。
KATN10034-I	Main Console will now stop. Main Console の停止処理を開始します。	—
KATN10099-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN10200-E	Initialization of Main Console failed because of an unexpected error. Main Console の初期化処理で予期しないエラーが発生し、失敗しました。	Servlet の初期化処理に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN10201-E	Initialization of Common Component failed because of an unexpected error. 共通コンポーネントの初期化処理で予期しないエラーが発生し、失敗しました。	UI 層 共通コンポーネント関連の初期化処理で予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN10202-E	Initialization of Main Console failed because of an unexpected error. Main Console の初期化処理で予期しないエラーが発生し、失敗しました。	UI 層 Main Console 関連の初期化処理で予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12001-E	Main Console is stopped. Main Console が停止しています。	サービスが停止中です。 サービスを起動してください。
KATN12002-E	Main Console is starting. Main Console の起動処理中です。	サービスの初期化が完了していません。 しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。
KATN12003-E	No license has been registered.	ライセンスが登録されていません。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	ライセンスが登録されていません。	有効なライセンスを登録してください。
KATN12004-E	The license is invalid. ライセンスが失効しています。	ライセンスが失効しています。 有効なライセンスを登録してください。
KATN12005-E	The user ID or password is invalid. ユーザー ID またはパスワードが不正です。	登録されていないユーザー名、パスワードの組が入力されました。 ユーザー ID、パスワードを確認し、再入力してください。
KATN12006-E	The specified resource ID is invalid. 指定したリソース ID が不正です。	指定されたリソース ID に対応するリソースが存在しません。または、この CLI が対応しない種類のリソースです。 正しいリソース ID を入力してください。
KATN12008-E	The specified command option is invalid. コマンドオプションの指定が不正です。	コマンドオプションの指定が不正です。 コマンドの構文を確認し、適切な構文でコマンドを再実行してください。
KATN12009-W	No related data exists. データ件数が 0 件です。	該当期間にリソースが存在していませんでした。 リソースが存在していた期間を指定してください。
KATN12010-E	An unexpected error occurred during command execution. コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。	コマンドの実行環境が不正です。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN12011-E	The command cannot be executed because Main Console failed to start. Main Console が起動に失敗したため、コマンドを実行できません。	サービスの起動処理が失敗しています。 Main Console のログを参照し、メッセージを確認して、エラー要因を取り除いてください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12012-E	An attempt to connect to Main Console has failed. Main Console との接続に失敗しました。	原因は、次のどれかです。 1. Tuning Manager server のサービスは起動処理中です。 2. Tuning Manager server のサービスは停止処理中です。 3. CLI のアクセス先ポート番号が、HBase Storage Mgmt Web Service のポート番号と一致していません。 原因の種類に応じて、次に示す対策を実施してください。 1. しばらく待ってから、コマンドを再実行してください。 2. Tuning Manager server のサービスを起動してから、コマンドを再実行してください。 3. CLI のアクセス先ポート番号を、HBase Storage Mgmt Web Service のポート番号と一致させて、コマンドを再実行してください。
KATN12013-E	The format of the specified time does not match the specified time interval. 指定された日時の形式が、指定された時間間隔に適合していません。	指定された日時の形式が、指定された時間間隔に適合していません。

メッセージID	メッセージ	説明
		日時の形式が時間間隔と適合するように入力値を見直して、コマンドを再実行してください。
KATN12014-E	The time value is invalid. Specify a year from 2001 to 9999. 日時の値が不正です。年には2001から9999の範囲を指定してください。	入力された文字が、半角数字4桁で2001以上の整数ではありません。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12015-E	The time value is invalid. Specify a month from 1 to 12. 日時の値が不正です。月には1から12の範囲を指定してください。	入力された文字が半角数字2桁で1から12の整数ではありません。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12016-E	The time value is invalid. Specify a day from 1 to 31. 日時の値が不正です。日には1から31の範囲を指定してください。	入力された文字が半角数字2桁で1から31の整数ではありません。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12017-E	The time value is invalid. Specify an hour from 0 to 23. 日時の値が不正です。時間には0から23の範囲を指定してください。	入力された文字が半角数字2桁の0から23の整数ではありません。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12018-E	The time value is invalid. Specify a minute from 0 to 59. 日時の値が不正です。分には0から59の範囲を指定してください。	入力された文字が半角数字2桁の0から59の整数ではありません。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12019-E	The time is invalid. Specify a time earlier than the current time. 日時が不正です。現在時刻よりも前の時間を指定してください。	時間間隔に月の指定が存在する場合に、入力された時刻が未来の時刻になっています。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12021-E	The specified time does not exist. 指定した日時が実在しません。	時間間隔に日の指定が存在する場合に、入力された日付が実在しません。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12022-E	The specified end time is earlier than the start time. 指定した終了日時が開始日時よりも前になっています。	指定した終了日時が開始日時よりも前になっています。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12023-E	"MINUTELY" is specified for the time interval, and the specified time exceeds 181 minutes. 時間間隔にMINUTELYを指定して、181分を超えた時刻を指定しています。	時間間隔に「MINUTELY」を指定している場合に、設定された期間が181分を超えています。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12024-E	"HOURLY" is specified for the time interval, and the specified time exceeds 169 hours. 時間間隔にHOURLYを指定して、169時間を超えた時刻を指定しています。	時間間隔に「HOURLY」を指定している場合に、設定された期間が169時間を超えています。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12025-E	"DAILY" is specified for the time interval, and the specified time exceeds 126 days. 時間間隔にDAILYを指定して、126日を超えた日付を指定しています。	時間間隔に「DAILY」を指定している場合に、設定された期間が126日を超えています。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12026-E	"WEEKLY" is specified for the time interval, and the specified time exceeds 53 weeks. 時間間隔にWEEKLYを指定している場合に、設定された期間が53週を超えています。	時間間隔に「WEEKLY」を指定している場合に、設定された期間が53週を超えています。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	時間間隔に WEEKLY を指定して、53 週を超えた日付を指定しています。	入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12027-E	"MONTHLY" is specified for the time interval, and the specified time exceeds 61 months. 時間間隔に MONTHLY を指定して、61 ヶ月を超えた日付を指定しています。	時間間隔に「MONTHLY」を指定している場合に、設定された期間が 61 か月を超えています。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12028-E	"YEARLY" is specified for the time interval, and the specified time exceeds 21 years. 時間間隔に YEARLY を指定して、21 年を超えた日付を指定しています。	時間間隔に「YEARLY」を指定している場合に、設定された期間が 21 年を超えています。 入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。
KATN12029-E	An unexpected error occurred during command execution. コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。	データベースからデータを取得する処理に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12030-I	The command <コマンド名> has started. コマンド<コマンド名>を開始しました。	—
KATN12031-I	The command <コマンド名> has terminated. コマンド<コマンド名>を終了しました。	レポート CLI の処理が何らかの理由で終了しました。 正常終了か、異常終了かは、コマンドの戻り値で判定してください。また、エラーが発生した場合は、標準出力にエラーの詳細を示すメッセージが、発生したエラーの数だけ表示されるため、それを見て対策を決めてください。
KATN12032-E	An unexpected error occurred during command execution. コマンドの実行中に予期しないエラーが発生しました。	コマンド実行中に内部エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12033-E	The specified port number is invalid. Specify an integer from 0 to 65535 for the port number. 指定されたポート番号が不正です。ポート番号には 0 から 65535 の範囲の整数を指定してください。	ポート番号には、0 以上 65535 以下の整数を指定してください。
KATN12034-E	Main Console temporarily cannot execute the CLI report command because Main Console is busy. Main Console がビジー状態のため、一時的にレポート CLI を実行できません。	レポートデータ取得処理の処理待ちリクエスト数が最大値を超えています。 実行中のほかのレポートデータ取得処理が完了したあと、コマンドを再実行してください。
KATN12035-E	Data was updated during command execution. コマンドの実行中にデータの更新が行われました。	データベースに格納された情報が、コマンドの実行中に更新されました。 コマンドを再実行してください。
KATN12036-E	The database work area is insufficient.	データベースの作業領域が不足しています。

メッセージID	メッセージ	説明
	データベースの作業領域が不足しています。	「7.2.7」を参照して、データベースを再作成してください。
KATN12037-E	An attempt to execute the command failed. (maintenance information = <保守情報>, return code = <リターンコード>)	システム環境が不正です。 Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12038-E	An unexpected error occurred during execution of the command. (maintenance information = <保守情報>, return code = <リターンコード>)	コマンド実行中に内部エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12039-E	The string specified for an option exceeds the maximum length. (option name = <オプション名>, specified value = <パラメーターの値>) オプションに指定した文字列が指定可能な長さを超えています。(オプション名:<オプション名>, 設定値:<パラメーターの値>)	オプションに指定した文字列が指定可能な最大バイト数を超えています。 エラーが発生したオプションに応じて、次に示すバイト長以下の値を指定して、再実行してください。 -hg オプションの場合 • 255 バイト以下 -dd オプションの場合 • 128 バイト以下 -fp オプションの場合 • 64 バイト以下
KATN12040-E	The value specified for a property is invalid. (option name = <オプション名>, specified value = <パラメーターの値>) オプションに指定した値が不正です。(オプション名:<オプション名>, 設定値:<パラメーターの値>)	次の原因が考えられます。 -hg オプションの場合 • ホストグループ名に使用できない文字列が指定されています。 -dd オプションの場合 • ディレクトリパスに使用できない文字列が指定されています。 • ディレクトリパスが相対パスで指定されています。 • ディレクトリパスに存在しないディレクトリが指定されています。 -fp オプションの場合 • 出力ファイルのプレフィックスに使用できない文字列が指定されています。 エラーが発生したオプションに応じて、指定する文字列を見直してからコマンドを再実行してください。各オプションで指定できる文字列については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」の、htm-hostgroups コマンドについて説明している個所を参照してください。
KATN12041-E	The version upgrade processing for the Tuning Manager server database is not finished.	Tuning Manager server のアップグレードインストールまたはデータベースのインポートを実施したあとのデータ移行が完了していません。

メッセージID	メッセージ	説明
	Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップ処理が完了していません。	Tuning Manager server のサービスがアップグレードインストールまたはデータベースのインポート実施後に起動していることを確認してください。サービスが起動していることを確認したあと、Main Console にログインできることを確認してからコマンドを再実行してください。
KATN12042-E	An attempt to connect to the Tuning Manager server database failed. Make sure the database is running. Tuning Manager server のデータベースに接続できませんでした。データベースが起動しているか確認してください。	Tuning Manager server のデータベースが停止している可能性があります。 Tuning Manager server のデータベースが起動しているかどうかを確認してください。停止している場合は Tuning Manager server を起動してから、コマンドを再実行してください。
KATN12043-E	Output of the CLI report data failed. A file with the same file name already exists. (file path name =<ファイルパス名>) CLI レポートの出力に失敗しました。同じ名前のファイルが既に存在します。(パス名:<ファイルパス名>)	<dd オプション指定値>%<fp オプション指定値>_HG.csv または<dd オプション指定値>%<fp オプション指定値>_LDEV.csv がすでに存在しています。 次のどちらかの対策を実施して、コマンドを再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> • -dd オプションまたは-fp オプションに別の値を設定してください。 • 存在している同名のファイルを削除するか、またはほかのディレクトリに移動させてください。
KATN12044-E	Output of the CLI report data failed. A file I/O error occurred. (file path name =<ファイルパス名>) CLI レポートの出力に失敗しました。ファイルの入出力エラーが発生しました。(パス名:<ファイルパス名>)	次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • ファイルがほかのアプリケーションによってロックされています。 • ファイルの出力先のディスクの空き容量が不足しています。 次に示す対策を実施して、コマンドを再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> • ファイルをロックする可能性のあるアプリケーションを停止してください。 • ファイルの出力先のディスク容量を拡張してください。必要なディスク容量については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」の、htm-hostgroups コマンドについて説明している個所を参照してください。
KATN12045-E	Execution of the CLI command failed. An I/O error occurred in a work directory or work file. (path name =<ファイルパス名またはディレクトリパス名>) コマンドの実行に失敗しました。作業用ディレクトリあるいは作業用ファイルの入出力エラーが発生しました。(パス名:<ファイルパス名またはディレクトリパス名>)	次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • 作業用ディレクトリが存在しません。 • 作業用ディレクトリにアクセス権がありません。 • 作業用ファイルがほかのアプリケーションによってロックされています。 • 作業用ディレクトリの存在しているディスクの空き容量が不足しています。 次に示す対策を実施して、コマンドを再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 作業用ディレクトリが存在することを確認してください。 • 作業用ディレクトリにアクセス権があることを確認してください。アクセス権

メッセージID	メッセージ	説明
		<p>限については、「1.6」の「表 1-4」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業用ファイルをロックする可能性のあるアプリケーションを停止してください。 作業用ディレクトリの存在しているディスクの容量を拡張してください。必要なディスク容量については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」の、htm-hostgroups コマンドについて説明している個所を参照してください。
KATN12046-W	<p>An error occurred during deletion of a file or directory inside the work directory. (path name = <作業用ディレクトリのパス名>) 作業用ディレクトリ配下のディレクトリ、またはファイル削除でエラーが発生しました。(パス名:<作業用ディレクトリのパス名>)</p>	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 削除対象のディレクトリまたはファイルにアクセス権限がありません。 削除対象のディレクトリまたはファイルをほかのアプリケーションによってロックされています。 <p>次に示す対策を実施してください。削除に失敗したディレクトリやファイルをすぐに削除したい場合は、手動で削除してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 削除対象のディレクトリ、またはファイルにアクセス権限があることを確認してください。アクセス権限については、「1.6」の「表 1-4」を参照してください。 削除対象のディレクトリ、またはファイルをロックする可能性のあるアプリケーションを停止してください。
KATN12047-E	<p>A value outside the valid range is specified for an option. (option name = <オプション名>, specified value = <パラメーターの値>, minimum specifiable value = <値域の最小値>, maximum specifiable value = <値域の最大値>) オプションに指定した値に、設定可能な範囲外の数値が設定されています。(オプション名:<オプション名>, 設定値:<パラメーターの値>, 設定可能最小値:<値域の最小値>, 設定可能最大値:<値域の最大値>)</p>	<p>指定可能範囲外の値がオプションに設定されています。</p> <p>指定可能範囲内の値をオプションに設定して、コマンドを再実行してください。</p>
KATN12048-E	<p>Execution of the CLI command failed. コマンドの実行に失敗しました。</p>	<p>次の要因でコマンドの実行に失敗しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> JavaVM の起動に必要なメモリの確保に失敗しました 上記の要因以外の JavaVM の環境不正が発生しました Administrator 権限のないユーザーでコマンドを実行しました <p>次のどちらかを実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Tuning Manager server のシステム要件で必要となるメモリー容量が確保されているか確認してから、コマンドを再実行してください。Tuning Manager server のシステム要件については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> Administrator 権限を持つユーザーで、再実行してください。 <p>問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN12050-E	<p>An error occurred during acquisition of information from an Agent. (error information = <詳細エラーのメッセージ ID>, Agent service ID = <エージェントのサービス ID >)</p> <p>エージェントからの情報取得に失敗しました。(エラー情報:<詳細エラーのメッセージ ID>, エージェントのサービス ID:<エージェントのサービス ID >)</p>	<p>次のどれかの要因でエージェントからの情報取得に失敗しました。詳細はエラー情報に示されるメッセージ ID の内容を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> PFM - Manager が起動していません。 PFM - Manager との間で通信エラーが発生しました。 エージェントが起動していません。 エージェントがすでに存在していません。 エージェントとの間で通信エラーやタイムアウトが発生しました。 <p>このメッセージの直前に出力されるエラー情報で示されるメッセージを参照して、エラー原因を取り除いたあとに、コマンドを再実行してください。</p>
KATN12051-I	The command <コマンド名> started. コマンド<コマンド名>を開始しました。	コマンドが実行されました。
KATN12052-I	The command <コマンド名> ended. コマンド<コマンド名>が終了しました。	コマンドの処理が正常に終了しました。
KATN12053-E	Initialization of the command failed. コマンドの初期化に失敗しました。	<p>コマンドの初期化時に、user.properties のプロパティファイルからのプロパティの取得に失敗しました。</p> <p>このメッセージの直前に出力されるメッセージの内容を確認して、エラー原因を取り除いたあとに、コマンドを再実行してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、Tuning Manager server が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN12054-E	<p>An unexpected error occurred during the initialization of Agent connection processing.</p> <p>エージェント接続処理の初期化で予期しないエラーが発生しました。</p>	<p>設定ファイルが読み込めません。</p> <p>システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN12055-E	Initialization of the command failed. コマンドの初期化に失敗しました。	<p>コマンドの初期化に失敗しました。</p> <p>ロギングプロパティファイルの設定内容を見直し、問題があれば修正後にコマンドを再実行してください。ロギングプロパティファイルの設定については、「7.3.3」の「(3)」の「表 7-9」を参照してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、Tuning Manager server が正しくインストールされていること</p>

メッセージID	メッセージ	説明
		を確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12056-W	An error occurred during acquisition of a list of directories or files to be deleted. (directory path name = <削除対象のディレクトリ, またはファイルが格納されているディレクトリパス名>) 削除対象のディレクトリ, またはファイルの一覧の取得に失敗しました。(ディレクトリパス名<削除対象のディレクトリ, またはファイルが格納されているディレクトリパス名>)	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 削除対象のディレクトリ, またはファイルを格納するディレクトリへのアクセス権限がありません。 削除対象のディレクトリ, またはファイルを格納するディレクトリが存在しません。 <p>次の対策を実施してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 削除対象のディレクトリまたは、ファイルを格納するディレクトリに以下のアクセス権限が付与されているか確認してください。 <p>Windows の場合 Administrator 権限を持つユーザーに対して、フルコントロール</p> <p>Solaris および Linux の場合 root ユーザーに対して、read, write, 実行権限 ディレクトリパス名に示されるディレクトリが存在しているか確認してください。存在しない場合には、user.properties の cli.workDir プロパティの設定を見直し、必要なディレクトリを作成するか、ディレクトリパスを再設定してから Tuning Manager server を再起動してください。 </p>
KATN12057-E	An error occurred on issuing a request to the common component. 共通コンポーネントの呼出しでエラーが発生しました。	<p>共通コンポーネントを呼び出した結果、エラーが発生しました。</p> <p>このメッセージの直前に出力されるメッセージの内容を確認して、エラー原因を取り除いたあとに、コマンドを再実行してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、Tuning Manager server が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN12058-E	<htm-hostgroups コマンドの-o オプションで指定した時間間隔> is specified for the time interval, and the specified time exceeds <指定可能な最大期間>. 時間間隔に<htm-hostgroups コマンドの-o オプションで指定した時間間隔>を	<p>指定した時間間隔で設定可能な期間の上限を超えています。</p> <p>入力値を見直したあとに、コマンドを再実行してください。</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
	指定して<指定可能な最大期間>を超えた時刻を指定しています。	
KATN12059-E	The file path specified in the -i option does not exist or is invalid. (option name = <オプション名>, specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値>) -i オプションに指定したファイルパスが存在しないか、誤りがあります。(オプション名:<オプション名>, 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値>)	次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> -i オプションに指定したファイルパスが存在していません。 -i オプションに指定したファイルパスがショートカットファイルです。 ショートカットファイルではない存在するファイルパスを指定して再実行してください。
KATN12060-E	The number of column numbers specified in the option exceeds the maximum limit. (option name = <オプション名>, specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値>) オプションに指定した列番号の個数が、上限を超えています。(オプション名:<オプション名>, 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値>)	指定可能な個数以上の列番号の値がオプションの値として指定されています。 指定可能な個数の列番号をオプションの値に指定して、再実行してください。
KATN12061-E	Output of the File data failed. A file with the same file name already exists. (file path name = <ファイルパス名>) ファイルの出力に失敗しました。同名前のファイルパスが既に存在します。(パス名:<ファイルパス名>)	指定したファイルが既に存在しています。 次のどちらかを実施して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> -o オプションに別の値を指定してください。 存在している同名のファイルを削除、または他のディレクトリに移動してください。
KATN12062-E	Initialization of the command failed. (maintenance information =<保守情報>) コマンドの初期化に失敗しました。(保守情報:<保守情報>)	コマンドの初期化が異常終了しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12063-E	The value specified for the option is invalid. (option name = (<オプション名 (省略したオプションを含む) >, <指定値が重複したオプション名 (省略したオプションを含む) >), specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値>) オプションの指定値が不正です。(オプション名:<オプション名 (省略したオプションを含む) >, <指定値が重複したオプション名 (省略したオプションを含む) >), 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値>)	指定値が-dc オプション、-kc オプション、または-vc オプション間のどれかの組み合わせで重複しています。 -dc オプション、-kc オプション、および-vc オプションの指定値を見直して再実行してください。
KATN12064-E	Failed to read the file specified in the option. (option name = <オプション名>, specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値>) オプションに指定したファイルの読み込みに失敗しました。(オプション名:<オプション名>, 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値>)	ファイルの読み込みに失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12065-E	The format of the specified column is invalid. (column number for date and	日時列の値が日付フォーマットと一致していません。

メッセージID	メッセージ	説明
	<p>time = <日時列の列番号>, date format = <--date_format オプションで指定した日付フォーマットまたは省略時のデフォルト値> hh:mm[:ss])</p> <p>指定された列のフォーマットが不正です。(日時列の列番号:<日時列の列番号>, 日付フォーマット:<--date_format オプションで指定した日付フォーマットまたは省略時のデフォルト値> hh:mm[:ss])</p>	<p>-dc オプションの指定値, --date_format オプションの指定値または、プロパティの設定値を見直して再実行してください。</p>
KATN12066-W	<p>A duplicated key was detected in the specified key column. (option name = <オプション名 (省略したオプションを含む)>, specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値または省略時のデフォルト値>)</p> <p>指定したキー列でキーの重複を検出しました。(オプション名:<オプション名 (省略したオプションを含む)>, 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値または省略時のデフォルト値>)</p>	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • -kc オプションで指定された列にユニークではない値が存在します。 • サマータイムの終了日時のため入力ファイルに同じ時間が2つ出力されています。必要に応じて、次のどちらかを実施して、再実行してください。 • -kc オプションの指定値を見直してください。 • -kc オプションに指定された列で問題ないか確認してください。
KATN12067-W	<p>The values in the date and time column in the input file are not in ascending order. (option name = <オプション名 (省略したオプションを含む)>, specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値または省略時のデフォルト値>)</p> <p>入力ファイルの日時列の値が昇順ではありません。(オプション名:<オプション名 (省略したオプションを含む)>, 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値または省略時のデフォルト値>)</p>	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • -i オプションで指定されたファイルが不正です。 • jpcrpt コマンドで日時列以外でソートしたファイルを入力しています。 • -dc オプションの指定値が不正です。 • サマータイムの終了日時のため入力ファイルに同じ時間が2つ出力されています。必要に応じて、-dc オプションの指定値と-i オプションで指定したファイルを見直して、再実行してください。
KATN12068-E	<p>The specified column does not exist. (option name = <オプション名 (省略したオプションを含む)>, specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値または省略時のデフォルト値>)</p> <p>指定された列が存在しません。(オプション名:<オプション名 (省略したオプションを含む)>, 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値または省略時のデフォルト値>)</p>	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の少なくとも1つのオプション指定値が不正です。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ -dc オプション ◦ -kc オプション ◦ -vc オプション • 入力ファイルのヘッダーより前の行が編集されています。 • 入力ファイルが変換をサポートしている CSV ファイルではありません。 <p>次のどちらかを実施して、再実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オプション指定値を見直して再実行してください。 • -i オプションに、編集していない CSV ファイルまたは、変換をサポートしている CSV ファイルを指定して、再実行してください。
KATN12069-E	<p>The output destination directory does not exist. (directory path name = <ディレクトリパス名>)</p>	<ul style="list-style-type: none"> -o オプションで指定したファイルの親ディレクトリが存在しません。 -o オプションで指定したファイルの親ディレクトリを作成して再実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
	出力先のディレクトリが存在しません。 (ディレクトリパス名:<ディレクトリパス名>)	
KATN12070-E	Failed to output the file. (path name = <ファイルパス名>) ファイルの出力に失敗しました。(パス名:<ファイルパス名>)	ディスクの容量不足です。 次のどちらかを実施して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> ファイルの出力先を見直してください。 必要なディスク使用量の見積もりをして、ファイルの出力先のディスク空き容量が不足していないかどうかを確認してください。 必要なディスク使用量の見積もりについては、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。 問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。 それでも問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12071-E	An invalid key column number is specified, or the contents of specified input file are invalid. 指定したキー列の番号または指定した入力ファイルの内容が不正です。	次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> -kc オプションの指定値が間違っています。 -i オプションで指定したファイルの内容が不正です。 次のどちらかを実施して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> -kc オプションの指定値を見直してください。 -i オプションで指定したファイルの内容が正しいか確認してください。
KATN12072-E	A data line does not exist. (option name = <オプション名>, specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値>) データ行が存在しません。(オプション名:<オプション名>, 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値>)	-i オプションで指定したファイルの内容が不正です。 -i オプションで指定したファイルの内容が正しいか確認してください。
KATN12073-E	Failed to read the file specified in the option. (option name = <オプション名>, specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値>) オプションに指定したファイルの読み込みに失敗しました。(オプション名:<オプション名>, 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値>)	次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> -i オプションに指定したファイルに read 権限が設定されていません。 ファイルが他のアプリケーションによってロックされています。 -i オプションにファイルのパスが指定されていません。 次のどれかを実施して、再実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> -i オプションに指定したファイルの権限を見直してください。 ファイルをロックする可能性のあるアプリケーションを停止してください。 -i オプションの指定値を見直してください。 問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
		それでも問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12074-E	Failed to write to the file. (path name = <ファイルパス名>) ファイルの書き込みに失敗しました。(パス名:<ファイルパス名>)	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出力先に write 権限が設定されていません。 ファイルが他のアプリケーションによってロックされています。 出力先にディレクトリが指定されていません。 出力ファイルのファイルパス長が OS の許容範囲を超えています。 <p>次のどれかを実施して、再実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出力先の権限を見直してください。 ファイルをロックする可能性のあるアプリケーションを停止してください。 -o オプションの指定を見直してください。 <p>問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN12075-W	An element with an empty value exists. 値が空の要素が存在します。	-kc オプションまたは-vc オプションで指定した列に、値が空の要素が存在します。 -i オプションで指定したファイルの内容が正しいか確認してください。
KATN12076-W	A line with an insufficient number of columns exists. 列数が不足している行が存在します。	-dc オプション、-kc オプションまたは-vc オプションで指定した列がない行が存在します。 -i オプションで指定したファイルの内容が正しいか確認してください。
KATN12077-E	An incorrectly formatted line exists. (path name = <ファイルパス名>, line number = <ファイル中のエラーとなった行番号>) フォーマットが不正な行が存在します。(パス名:<ファイルパス名>, 行番号:<ファイル中のエラーとなった行番号>)	ダブルクォーテーションの数が奇数となっているため、行の終端が判定できません。 -i オプションで指定したファイルの内容が正しいか確認してください。
KATN12078-E	The header line could not be detected. (path name = <ファイルパス名>) ヘッダ行の検出が出来ませんでした。(パス名:<ファイルパス名>)	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入力ファイルのヘッダより前の行が編集されています。 入力ファイルが形式の変換機能がサポートしている CSV ファイルではありません。 <p>-i オプションに、編集していない CSV ファイルまたは、形式の変換機能がサポートしている CSV ファイルを指定して、再実行してください。</p>
KATN12080-E	A line exceeding the maximum length allowed exists. (path name = <ファイルパス名>, line number = <ファイル中のエラーとなった行番号>)	<p>ファイルに、1 行の長さが 8,192 文字を超過している行が存在します。</p> <p>-i オプションで指定したファイルの内容が正しいか確認してください。</p>

メッセージID	メッセージ	説明
	1 行の長さが上限を超過している行が存在します。(パス名:<ファイルパス名>, 行番号:<ファイル中のエラーとなった行番号>)	
KATN12081-E	An attempt to read a property file has failed. (property file name = <プロパティファイル名>, error code = <エラーコード>) プロパティファイルの読み込みに失敗しました。(プロパティファイル名:<プロパティファイル名>, エラーコード:<エラーコード>)	プロパティファイルの読み込みに失敗しました。原因は次のとおりです。 エラーコード 0: ファイルが存在しません。 1: ファイルへのアクセス権がありません。 2: ファイルの形式が不正です。 エラーコードの値に応じて次の対応をしてください。 エラーコード 0: マニュアルを参照して、該当のプロパティファイルを適切な場所に配置してください。 1: ファイルのアクセス権の設定を見直してください。 2: マニュアルを参照して、正しい形式にしてください。 ユーザープロパティファイルの詳細については、「1.6」を参照してください。 CSV レポート形式変換用プロパティファイルの詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。
KATN12082-E	The value specified for a property is invalid. (property file name = <プロパティファイル名>, property name = <プロパティ名>, specified value = <設定値>) プロパティの設定値が不正です。(プロパティファイル名:<プロパティファイル名>, プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<設定値>)	プロパティの設定値が不正です。 プロパティの設定を見直してください。
KATN12083-E	The value specified for the number of columns to be output to a file is invalid. (number of columns to be output to a file = <1 ファイル当りに出力する列数>, specified value in -vc option = <-vc オプションに指定した列番号の個数>) 1 ファイル当りに出力する列数の指定値が不正です。(1 ファイル当りに出力する列数:<1 ファイル当りに出力する列数>, -vc オプション指定値:<-vc オプションに指定した列番号の個数>)	1 ファイル当りに出力する列数より -vc オプションで指定した列番号の個数の方が大きい場合ファイル分割ができません。 次のどれかを実施して、再実行してください。 ・ プロパティまたは --column_limit オプションに指定した 1 ファイル当りに出力する列数を見直してください。 ・ -vc オプションに指定した列番号の個数を見直してください。
KATN12084-I	The command <コマンド名> ended. (output file path name = <ファイルパス名>) コマンド <コマンド名> が終了しました。(出力ファイルパス名:<ファイルパス名>)	コマンドの処理が正常に終了しました。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN12085-E	An invalid option is specified. (option name = <オプション名>, specified value = <ユーザーが入力したパラメーター値>) オプションの指定値が不正です。(オプション名:<オプション名>, 指定値:<ユーザーが入力したパラメーター値>)	指定可能な値域外の値がオプションの値として設定されています。 値域範囲内の値をオプションの値に設定して、再実行してください。
KATN12200-E	An unexpected error occurred during user authentication. ユーザー認証処理中に予期しないエラーが発生しました。	共通コンポーネントのユーザー情報取得に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12201-E	An unexpected error occurred during user authentication. ユーザー認証処理中に予期しないエラーが発生しました。	Tuning Manager server のユーザー情報取得に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12202-E	An unexpected error occurred during user data processing. ユーザーデータ処理中に予期しないエラーが発生しました。	Tuning Manager server のユーザー情報削除に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12203-E	The user ID or password is incorrect. ユーザー ID, またはパスワードが違います。	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー ID またはパスワードの入力が不正だった場合 ユーザー ID, パスワードを確認し、再入力してください。 ユーザーが操作権限を持っていない場合 管理者の権限を見直し、適切な権限を付けてください。 ユーザーがアカウントロックされている場合 アカウントが有効か確認してください。
KATN12204-E	An attempt to log in has failed. ログインに失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> Tuning Manager server と Device Manager でマシンのシステム時刻にずれがある場合 Tuning Manager server がインストールされているマシンと Device Manager がインストールされているマシンのシステム時刻が 5 分以上ずれている場合は、システム時刻が同期するように調整してください。システム時刻を調整する際の注意事項については、「1.12.3」を参照してください。 SSO サービスが起動していない場合 その他、予期しない問題が発生した場合 しばらく待って再実行してください。再度エラーが発生する場合は、Main Console を再起動してください。それで

メッセージ ID	メッセージ	説明
		も直らない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12205-E	The session is invalid. セッションが無効です。	セッションが無効な状態で画面を表示しようとしました。 ログインからやり直してください。
KATN12206-E	You do not have permission to display this window. 本画面を表示する権限がありません。	表示権限を有していないユーザーが、画面を開こうとしました。 ログインユーザーの権限についてシステム管理者に確認してください。権限を与えたあとに再実行してください。
KATN12207-E	Communication with an external authentication server has failed. 外部認証サーバへの接続に失敗しました。	外部認証サーバでユーザー認証したときに発生した通信エラーです。 次の対処をしてください。 外部認証サーバが LDAP の場合： <ol style="list-style-type: none"> 1. <code>exauth.properties</code> に設定されているホスト、ポートおよびプロトコルを使用して外部認証サーバにアクセスできるかどうか、外部認証サーバの設定またはネットワークの状態を確認してください。 2. <code>hcmsldapuser</code> コマンドで <code>exauth.properties</code> の <code>auth.server.name</code> 属性に指定したサーバ名の情報が登録されていることを確認してください。 3. <code>StartTLS</code> で通信するときには、<code>SSL</code> の設定を確認してください。 4. 問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。 外部認証サーバが RADIUS の場合： <ol style="list-style-type: none"> 1. <code>exauth.properties</code> に設定されているホスト、ポートおよびプロトコルを使用して外部認証サーバにアクセスできるかどうか、外部認証サーバの設定またはネットワークの状態を確認してください。 2. <code>hcmsradiussecret</code> コマンドで <code>exauth.properties</code> の <code>auth.server.name</code> 属性に指定したサーバ名の情報が登録されていることを確認してください。 3. 問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。 外部認証サーバが Kerberos の場合： <ol style="list-style-type: none"> 1. <code>exauth.properties</code> の <code>default_realm</code> 属性および <code>kdc</code> 属性に指定した情報が正しいことを確認してください。 2. ネットワークが正しく接続されていることを確認してください。 3. 外部認証サーバが <code>Kerberos V5</code> プロトコルに対応（準拠）していることを確認してください。

メッセージID	メッセージ	説明
		4. 問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。 exauth.propertiesの詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。
KATN12208-E	Communication with an authentication server has failed. 認証サーバとの通信に失敗しました。	共通コンポーネントが起動していないか、または接続障害が発生しています。共通コンポーネントが起動しているかどうか、または通信障害が発生していないか確認してください。
KATN12209-E	Tuning Manager access to DB is blocked. Problem is detected in Common Component. Call server administrator. Tuning Manager のサーバが使用するDBが閉塞しました。閉塞した部位は、共通コンポーネントです。サーバ管理者にご連絡してください。	データベースのRDエリアが閉塞しています。システム管理者にご連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12210-E	One or more application files are corrupt. システム環境が不正です。	システム環境が不正です。システム管理者にご連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12400-E	An unexpected error occurred during license authentication. ライセンス認証処理中に予期しないエラーが発生しました。	ライセンス情報の取得に失敗したため、ライセンス画面を表示できません。システム管理者にご連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12402-E	No license key has been entered. ライセンスキーが入力されていません。	ライセンスキーを入力しないでライセンス登録を行おうとしました。ライセンスキーを入力してください。
KATN12403-E	No license key file has been entered. ライセンスキーファイルが入力されていません。	ライセンスキーファイルを入力しないでライセンス登録を行おうとしました。ライセンスキーファイル名を入力してください。
KATN12404-E	The contents of the license key file could not be read. ライセンスキーファイルの内容を読み込めませんでした。	ライセンスキーファイルの内容を読み込むことができませんでした。ライセンスキーファイルの状態を確認し、再実行してください。
KATN12410-E	One or more application files are corrupt. システム環境が不正です。	システム環境が不正です。システム管理者にご連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12411-I	Enter a license key or license key file. ライセンスキーまたはライセンスキーファイルを入力してください。	ライセンスキーまたはライセンスキーファイルが入力されていません。ライセンス登録してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN12412-E	This license key is either invalid or may be for another product. ライセンスキーが不正か、ほかの製品のライセンスキーを登録しようとした可能性があります。	ライセンスキーが不正か、ほかの製品のライセンスキーを登録しようとしたおそれがあります。 入力するライセンスキーを見直し、再実行してください。
KATN12413-E	This license key is invalid or has already been registered. ライセンスキーが不正か、すでに登録されているライセンスキーを登録しようとした可能性があります。	ライセンスキーが不正か、すでに登録されているライセンスキーを登録しようとしたおそれがあります。 入力するライセンスキーを見直し、再実行してください。
KATN12414-E	This license key file is invalid or has already been registered. ライセンスキーファイルが不正か、すでに登録されているライセンスキーファイルを登録しようとした可能性があります。	ライセンスキーファイルが不正か、すでに登録されているライセンスキーファイルを登録しようとしたおそれがあります。 入力するライセンスキーファイルを見直し、再実行してください。
KATN12415-E	The system environment is invalid. システム環境が不正です。	システム環境が不正なため、ライセンス管理機能の実行中にエラーが発生しました。 正規のライセンスキーまたはライセンスキーファイルを入力してください。
KATN12416-E	The input license key file is invalid. 入力されたライセンスキーファイルが不正です。	入力されたライセンスキーファイルが不正です。 入力するライセンスキーファイルを見直し、再実行してください。
KATN12417-E	The required license key is missing from the license key file. This license key file may be for a different product. 有効なライセンスキーがライセンスキーファイル内にありません。ほかの製品のライセンスキーファイルを登録しようとした可能性があります。	有効なライセンスキーがライセンスキーファイル内にありません。 入力するライセンスキーファイルを見直し、再実行してください。
KATN12421-E	An unexpected error occurred during license authentication. ライセンス認証処理中に予期しないエラーが発生しました。	指定されたライセンスキーファイルを保存できませんでした。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12422-W	An unexpected error occurred during license authentication. ライセンス認証処理中に予期しないエラーが発生しました。	指定されたライセンスキーファイルのコピーを削除できませんでした。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12459-I	Enter a license key or a license key file. ライセンスキーまたはライセンスキーファイルを入力してください。	ライセンスキーが登録されていません。 ライセンス登録してから、再実行してください。
KATN12460-I	The emergency license will expire in <残り日数> days on <終了日>. 非常ライセンスの有効期間は、<残り日数>日間です。<終了日>に満了します。	非常ライセンスを登録しました。 期限が切れる前にライセンスを登録してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN12461-I	The temporary license will expire in <残り日数> days on <終了日>. 一時ライセンスの有効期間は、<残り日数>日間です。<終了日>に満了します。	一時ライセンスキーを登録しました。期限が切れる前にライセンスを登録してください。
KATN12462-W	The emergency license will expire in <残り日数> days on <終了日>. Enter a product license key or a product license key file. 非常ライセンスの有効期間は、<残り日数>日間です。<終了日>に満了します。正規のライセンスキーまたはライセンスキーファイルを入力してください。	非常ライセンスキーは、あと 15 日で、またはあと 10 日以内で無効になります。期限が切れる前にライセンスを登録してください。
KATN12463-W	The temporary license will expire in <残り日数> days on <終了日>. Enter a product license key or a product license key file. 一時ライセンスの有効期間は、<残り日数>日間です。<終了日>に満了します。正規のライセンスキーまたはライセンスキーファイルを入力してください。	一時ライセンスキーは、あと 90, 60, 45, 30, 15 日で、またはあと 10 日以内で無効になります。期限が切れる前にライセンスを登録してください。
KATN12465-E	The temporary license has expired. Enter a product license key or a product license key file. 一時ライセンスの有効期間が満了しています。正規のライセンスキーまたはライセンスキーファイルを入力してください。	一時ライセンスキーが有効期限切れです。ライセンスを購入し、ライセンス登録してから、再実行してください。
KATN12466-E	The emergency license has expired. Enter a product license key or a product license key file. 非常ライセンスの有効期間が満了しています。正規のライセンスキーまたはライセンスキーファイルを入力してください。	非常ライセンスキーが有効期限切れです。ライセンスを購入し、ライセンス登録してから、再実行してください。
KATN12474-E	An unexpected error occurred during license authentication. (details = <詳細情報>) ライセンス認証処理中に予期しないエラーが発生しました。詳細情報：<詳細情報>	ライセンス情報のアクセスで内部エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12475-E	An unexpected error occurred during license authentication. (details = <ライセンスコマンドの戻り値>) ライセンス認証処理中に予期しないエラーが発生しました。詳細情報：<ライセンスコマンドの戻り値>	ライセンスの登録/取得に失敗しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12476-E	An unexpected error occurred during license authentication. (details = <ライセンスコマンドの戻り値>) ライセンス認証処理中に予期しないエラーが発生しました。詳細情報：<ライセンスコマンドの戻り値>	ライセンス情報の取得に失敗しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN12477-E	An unexpected error occurred during license authentication. (details =<ライセンスコマンドの戻り値>) ライセンス認証処理中に予期しないエラーが発生しました。詳細情報 : <ライセンスコマンドの戻り値>	ライセンスの登録に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12478-E	Main Console is now being initialized. Main Console の初期化処理中です。	ライセンス基盤の初期化処理が実行されていません。 しばらく待ってから、再度アクセスしてください。
KATN12482-E	The temporary license has expired. 一時ライセンスの有効期間が満了しています。	一時ライセンスキーが有効期限切れです。 ライセンスを購入し、ライセンス登録してから、再実行してください。
KATN12483-E	The emergency license has expired. 非常ライセンスの有効期間が満了しています。	非常ライセンスキーが有効期限切れです。 ライセンスを購入し、ライセンス登録してから、再実行してください。
KATN12486-W	The current capacity of the storage system exceeds the licensed capacity. (model name =<ライセンス違反しているストレージシステムのモデル名>, serial number =<ライセンス違反しているストレージシステムのシリアル番号>, licensed capacity =<ライセンス違反しているストレージシステムのライセンス容量>, current capacity =<ライセンス違反しているストレージシステムの現在の容量>) ストレージシステムの現在の容量がライセンスで許可された容量を超えています。モデル名:<ライセンス違反しているストレージシステムのモデル名>,シリアル番号 : <ライセンス違反しているストレージシステムのシリアル番号>, ライセンス容量 : <ライセンス違反しているストレージシステムのライセンス容量>, 現在の容量 : <ライセンス違反しているストレージシステムの現在の容量>	ストレージシステムの現在の容量がライセンスで許可された容量を超えています。 容量に適したライセンスキーを登録してください。
KATN12600-E	The value for the predictive accuracy is invalid. Specify an integer from 1 to 99 for the predictive accuracy. 予測精度の値が不正です。予測精度には 1 から 99 の整数を入力してください。	入力されたデータが不正です。 正しい値を入力して再実行してください。
KATN12601-E	No resource has been selected. Select at least one resource. リソースが選択されていません。少なくとも 1 つ以上のリソースを選択してください。	選択されたリソースが存在しません。 正しい値を入力して再実行してください。
KATN12602-E	No attributes have been selected. Select at least one attribute. 属性が選択されていません。属性を 1 つ以上選択してください。	選択したリソース種別に対して、属性が選択されていません。 選択したリソース種別に対して、属性を選択して、再実行してください。
KATN12603-E	The number of displayable charts exceeds the system maximum. Select	選択が多いために実行できません。 選択するリソースまたは属性を減らすか、第二レポートウィンドウを指定し、表示する

メッセージID	メッセージ	説明
	no more than <プロパティファイルに設定された設定値>. 表示可能なチャート数がシステムの上限を超えています。選択数は<プロパティファイルに設定された設定値>以内にしてください。	チャート数を 20 以下に収まるようにしてください。
KATN12604-E	The number of characters in the name is invalid. Enter from 1 to 60 characters for the name. 名前の文字数が不正です。名前には 1 から 60 の文字数で入力してください。	名前に指定された値が不正です。正しい値を入力して再実行してください。
KATN12605-E	The specified name already exists. Specify a different name. 指定された名前はすでに存在します。別の名前を指定してください。	ユーザーが使用できる Report Window 定義の中に、すでにユーザーが指定した名前が存在します。異なる名前を入力してから再実行してください。
KATN12610-E	The number of characters in the name is invalid. Enter from 1 to 100 characters for the name. 名前の文字数が不正です。名前には 1 から 100 の文字数で入力してください。	名前として入力された値の文字長が規定値より長いです。設定を見直して再実行してください。
KATN12611-E	The number of characters in the details is invalid. Enter no more than 100 characters for the description. 詳細の文字数が不正です。詳細には 100 文字以内で入力してください。	詳細として入力された値の文字長が規定値より長いです。設定を見直して再実行してください。
KATN12612-E	The entered year is invalid. Enter an integer from 2001 to 9999 for the year. 年の入力が不正です。年には 2001 から 9999 の整数を入力してください。	年として入力された値が不正です。設定を見直して再実行してください。
KATN12613-E	The entered month is invalid. Enter an integer from 1 to 12 for the month. 月の入力が不正です。月には 1 から 12 の整数を入力してください。	月として入力された値が不正です。設定を見直して再実行してください。
KATN12614-E	The entered day is invalid. Enter an integer from 1 to 31 for the day. 日の入力が不正です。日には 1 から 31 の整数を入力してください。	日として入力された値が不正です。設定を見直して再実行してください。
KATN12615-E	The entered hour is invalid. Enter an integer from 0 to 23 for the hour. 時間の入力が不正です。時間には 0 から 23 の整数を入力してください。	時間として入力された値が不正です。設定を見直して再実行してください。
KATN12616-E	The entered minute is invalid. Enter an integer from 0 to 59 for the minute. 分の入力が不正です。分には 0 から 59 の整数を入力してください。	分として入力された値が不正です。設定を見直して再実行してください。
KATN12617-E	The time is invalid. Specify a time earlier than the current time. 日時が不正です。現在時刻よりも前の時間を指定してください。	未来の時刻が設定されました。設定を見直して再実行してください。
KATN12618-E	The time is invalid. Specify a value later than 1/1/2001 for the time. 設定された日時が古いです。設定を見直して再実行してください。	設定された日時が古いです。設定を見直して再実行してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	日時が不正です。日時には 2001 年 1 月 1 日より後の値を指定してください。	
KATN12619-E	The specified date does not exist. 指定された日付は存在しません。	指定された日付が存在しません。 設定を見直して再実行してください。
KATN12620-E	The value of the start time or end time is invalid. Specify an end time later than the start time. 開始時間または終了時間の値が不正です。終了時間には開始時間よりも後の日時を設定してください。	指定された終了日時が開始日時と同じか、古いのです。 設定を見直して再実行してください。
KATN12621-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 24hours (1440minutes for "Minute(s)" or 1days for "Day(s)"). レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 24 時間（分指定の場合は 1440 分、日指定の場合は 1 日）以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12622-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 1 week (7 days for "Day(s)", or 168 hours for "Hour(s)"). レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 1 週間（日指定の場合は 7 日、時間指定の場合は 168 時間）以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12623-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 4 months (17 weeks for "Week(s)", or 124 days for "Day(s)"). レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 4 ヶ月（週指定の場合は 17 週、日指定の場合は 124 日）以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12624-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 1 year (12 months for "Month(s)", or 52 weeks for "Week(s)"). レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 1 年（月指定の場合は 12 ヶ月、週指定の場合は 52 週）以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12625-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 5 years (60 months for "Month(s)"). レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 5 年（月指定の場合は 60 ヶ月）以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN12626-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 20 years. レポートウィンドウの期間が不正です。期間が20年以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12629-E	An unexpected error occurred during processing to display a chart. チャート表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	チャート表示中に内部エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12632-E	The number of resources with the specified resource type (<リソース種別名>) exceeds <最大リソース表示数>. 指定された種類（リソース種別:<リソース種別名>）の関連リソース数が<最大リソース表示数>を超えています。	関連リソース数が<最大リソース表示数>を超えています。
KATN12633-E	No resources with the specified resource type (<リソース種別名>) were found. 指定された種類（リソース種別:<リソース種別名>）の関連リソースが一つもありません。	関連リソース数が0です。
KATN12635-E	The value entered for the field used to specify the relative time is invalid. Enter a value from 1 to 9999. 相対時間設定フィールドの入力値が不正です。1から9999の値で入力してください。	相対時間設定フィールドの入力値が、半角数字、4桁までの整数(1から9999)ではありません。 1から9999までの整数を入力して再実行してください。
KATN12636-E	The number of displayed charts exceeds the system maximum (20). 表示対象のチャート数がシステムの上限20を超えています。	表示対象のチャート数がシステムの上限よりも多いです。 表示対象のチャート数がシステムの上限以下になるようにして、再実行してください。
KATN12638-E	The number of registered charts exceeds the system maximum (10000). システムに登録可能なチャート上限数10000を超えています。	システムに登録可能なチャート上限数(10000)を超えています。チャートをSaveする数をChartの上限数以下にして再実行してください。
KATN12639-W	Charts have been registered as hidden because 20, the maximum number of displayable charts for the system, has been exceeded. To display these charts, specify this setting again in the Custom Charts List Config dialog box. システムで表示可能なチャートの上限値20を超えたため、チャートを非表示設定で登録しました。チャートを表示するには、Custom Charts List Configダイアログで再設定してください。	システムで表示可能なチャートの上限値を超えたため、チャートを非表示設定（可視性「いいえ」）で登録しました。 チャートを表示するには、[Custom Charts List Config]ダイアログで表示設定（可視性「はい」）に変更してください。
KATN12640-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面の表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	画面表示に必要な情報の取得に失敗しました。

メッセージ ID	メッセージ	説明
		システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12641-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面の表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	画面表示に必要な情報の取得に失敗しました。 リソースの存在を確認できませんでした。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12642-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面の表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	内部でエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12643-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面の表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	ブラウザと Tuning Manager server 間の通信が途絶えたため、処理がタイムアウトしました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12644-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面の表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	データベースまたはエージェントに対する検索処理でエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12645-E	Data for the specified Report Window has been deleted. 指定された Report Window に対応するデータが削除されています。	Report Window の設定を変更して、再実行してください。
KATN12646-E	Not enough data exists to chart predicted values. 予測値をチャート表示するのに十分なデータがありません。	historical データが 2 点以下しかありません。 予測値を算出するのに十分なデータが取得できてから再表示してください。
KATN12647-E	The selected resource has been deleted. 選択されたリソースが削除されています。	画面の表示に必要な情報の取得に失敗しました。 リソースの存在を確認できませんでした。 Navigation Tree の表示を更新して、リソースが存在するか確認してください。
KATN12648-E	An unexpected error occurred during export processing. エクスポート処理中に予期しないエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN12649-E	The specified favorite chart has been deleted.	指定されたチャートが削除されています。

メッセージID	メッセージ	説明
	指定されたチャートが削除されていません。	
KATN12650-W	No displayable resources were found. 表示可能なリソースがありません。	チャート表示対象のリソースデータが存在していません。
KATN12651-W	At least one resource could not be displayed. 一部のリソースを表示できません。	チャート表示対象のリソースの一部でデータが存在しません。
KATN12652-E	The number of registered report windows exceeds the system maximum (20). Report Window の登録上限数 20 を超えています。	Report Window の登録上限数を超えて Report Window を登録しようとしています。ほかの Report Window を削除してください。
KATN12653-W	The specified favorite chart has been deleted. 指定されたチャートが削除されています。	指定されたチャートが削除されています。
KATN12654-W	The specified favorite chart (<チャート名>) has already been published. 指定されたチャート (<チャート名>) は既に公開されています。	指定されたチャートがすでに公開されています。
KATN12655-E	This favorite chart cannot be overwritten because it has been published. Specify public permission or save without overwriting. このチャートは公開されており上書きできません。公開して保存するか、上書きせずに保存してください。	指定されたチャートがすでに公開されています。 [このチャートを共有します] にチェックを入れるか、または [既存のレポート定義を上書きします] のチェックを外して、保存してください。
KATN12656-E	The specified favorite chart (<チャート名>) cannot be deleted because it has been published. 指定されたチャート (<チャート名>) は公開されており、削除できません。	指定されたチャートがすでに公開されています。
KATN12657-E	The specified favorite chart (<チャート名>) cannot be edited because it has been published. 指定されたチャート (<チャート名>) は公開されており、編集できません。	指定されたチャートがすでに公開されています。
KATN12658-E	Main Console temporarily cannot display a window because Main Console is busy. Main Console がビジー状態のため、一時的に画面を表示できません。	レポートデータ取得処理の処理待ちリクエスト数が最大値を超えています。 実行中のほかのレポートデータ取得処理が完了したあと、再度実行してください。
KATN12659-E	Main Console is temporarily busy. Main Console が一時的にビジーです。	レポートデータ取得処理の処理待ちリクエスト数が最大値を超えています。 実行中のほかのレポートデータ取得処理が完了したあと、再度実行してください。
KATN12660-E	Data was updated during generation of the chart. チャート生成中にデータの更新が行われました。	データベースに格納された情報がチャート生成中に更新されました。 画面を再描画してください。
KATN12661-E	The database work area is insufficient. データベースの作業領域が不足しています。	データベースの作業領域が不足しています。 「7.2.7」を参照して、データベースを再作成してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KATN12662-E	The report could not be displayed because the number of found data items exceeded <検索したデータ件数の最大値>. データ件数が<検索したデータ件数の最大値>件を越えたため、レポートを表示できませんでした。	ソート処理用の領域が不足しました。 フィルター条件設定画面で、シャープ(#)の付かないカラムに対するフィルター条件を追加し、シャープ(#)の付かないカラムで絞り込まれる件数が、1,000 件以下となるように調整してください。
KATN12663-E	The report could not be displayed because the number of found data items exceeded <検索したデータ件数の最大値> even though the data was filtered by using filter conditions on the columns that did not have "#" in the column names. カラム名に(#)の付かないカラムに対するフィルタ条件を使ってデータを絞り込みましたが、結果件数が<検索したデータ件数の最大値>件を超えました。そのため、レポートを表示できませんでした。	ソート処理用の領域が不足しました。 フィルター条件設定画面で、シャープ(#)の付かないカラムに対するフィルター条件を追加し、シャープ(#)の付かないカラムで絞り込まれる件数が、1,000 件以下となるように調整してください。
KATN12664-E	The report could not be displayed because the number of found data items exceeded <検索したデータ件数の最大値>. データ件数が<検索したデータ件数の最大値>件を越えたため、レポートを表示できませんでした。	フィルター処理用の領域が不足しました。 フィルター条件設定画面で、シャープ(#)の付くカラムをフィルター条件から取り除き、シャープ(#)の付かないカラムだけで絞り込まれる件数が 1,000 件以下となるよう、シャープ(#)の付かないカラムのフィルター条件を調整してください。その後、取り除いたシャープ(#)の付くカラムをフィルター条件に追加して、フィルタリングを再実行してください。
KATN12665-E	The report could not be displayed because the number of found data items exceeded <検索したデータ件数の最大値>, even though the data was filtered by using filter conditions on the columns that did not have "#" in the column names. カラム名に(#)の付かないカラムに対するフィルタ条件を使ってデータを絞り込みましたが、結果件数が<検索したデータ件数の最大値>件を超えました。そのため、レポートを表示できませんでした。	フィルター処理用の領域が不足しました。 フィルター条件設定画面で、シャープ(#)の付くカラムをフィルター条件から取り除き、シャープ(#)の付かないカラムだけで絞り込まれる件数が 1,000 件以下となるよう、シャープ(#)の付かないカラムのフィルター条件を調整してください。その後、取り除いたシャープ(#)の付くカラムをフィルター条件に追加して、フィルタリングを再実行してください。
KATN12666-W	Only the first <検索したデータ件数の最大値> items are displayed because the number of data items for the table format exceeded <検索したデータ件数の最大値>. テーブル形式レポートのデータ件数が<検索したデータ件数の最大値>件を越えたため、<検索したデータ件数の最大値>件分のデータを表示しました。	画面のプリントを表示または Export する場合には全ページのデータを取得します。データ件数が上限値を超えました。 フィルター条件設定画面で、シャープ(#)の付かないカラムに対するフィルター条件を追加し、シャープ(#)の付かないカラムで絞り込まれる件数が、1,000 件以下となるように調整してください。
KATN12667-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 1441 minutes. レポートウィンドウの期間が不正です。期間が分指定の場合は 1441 分以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN12668-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 169 hours. レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 169 時間以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12669-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 4 months and 1 day. レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 4 ヶ月と 1 日以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12670-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 1 year and 1 week. レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 1 年と 1 週以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12671-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 5 years and 1 month. レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 5 年と 1 ヶ月以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12672-E	The period of the specified report window is invalid. Specify a period that is no more than 21 years. レポートウィンドウの期間が不正です。期間が 21 年以内に収まるように指定してください。	レポートウィンドウで設定した期間が長過ぎます。 レポートウィンドウの設定を変更して、再実行してください。
KATN12700-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面の表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	画面表示に必要な情報の取得に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12720-E	The value entered for the backdate offset is invalid. Specify an integer from 0 to 96 for this period. 過去データ収集期間の入力が不正です。過去データ収集期間には 0 から 96 の整数を指定してください。	過去データ収集期間に入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12721-E	The entered retry interval is invalid. Specify an integer from 0 to 5 for this interval. リトライ間隔の入力が不正です。リトライ間隔には 0 から 5 の整数を指定してください。	リトライ間隔に入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN12722-E	The entered retry count is invalid. Specify an integer from 0 to 5 for this count. リトライ回数の入力不正です。リトライ回数には 0 から 5 の整数を指定してください。	リトライ回数に入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12723-E	The entered retention period for hourly data is invalid. When the period unit is <{day(s) / week(s) / month(s)}>, specify <{1 to 60 day(s) / 1 to 8 week(s) / 1 to 2 month(s)}> for this period. 時間単位データの保持期間の入力不正です。期間単位が<{日 / 週 / 月}>の場合、保持期間には<{1 から 60 日 / 1 から 8 週 / 1 から 2 か月}>の範囲を整数で指定してください。	時間単位データの保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12724-E	The entered retention period for daily data is invalid. When the period unit is <{day(s) / week(s) / month(s) / year(s)}>, specify <{1 to 365 day(s) / 1 to 50 week(s) / 1 to 12 month(s) / 1 years}> for this period. 日単位データの保持期間の入力不正です。期間単位が<{日 / 週 / 月 / 年}>の場合、保持期間には<{1 から 365 日 / 1 から 50 週 / 1 から 12 か月 / 1 年}>を整数で指定してください。	日単位データの保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12725-E	The entered retention period for monthly data is invalid. When the period unit is <{month(s) / year(s)}>, specify <{1 to 60 month(s) / 1 to 5 year(s)}> for this period. 月単位データの保持期間の入力不正です。期間単位が<{月 / 年}>の場合、保持期間には<{1 から 60 か月 / 1 から 5 年}>の範囲を整数で指定してください。	月単位データの保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12726-E	The entered retention period for yearly data is invalid. When the period unit is year(s), specify 1 to 10 year(s) for this period. 年単位データの保持期間の入力不正です。期間単位が年の場合、保持期間には 1 から 10 年の範囲を整数で指定してください。	年単位データの保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12727-E	The entered retention period for host configuration history is invalid. When the period unit is <{day(s) / week(s) / month(s) / year(s)}>, specify <{1 to 365 day(s) / 1 to 50 week(s) / 1 to 60 month(s) / 1 to 10 year(s)}> for this period. ホスト構成履歴の保持期間の入力不正です。期間単位が<{日 / 週 / 月 / 年}>	ホスト構成履歴の保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
	の場合、保持期間には<{1 から 365 日 / 1 から 50 週 / 1 から 60 か月 / 1 から 10 年}>の範囲を整数で指定してください。	
KATN12729-E	The entered retention period for storage system configuration history is invalid. When the period unit is <{day(s) / week(s) / month(s) / year(s)}>, specify <{1 to 365 day(s) / 1 to 50 week(s) / 1 to 60 month(s) / 1 to 10 year(s)}> for this period. 装置構成履歴の保持期間の入力が不正です。期間単位が<{日 / 週 / 月 / 年}>の場合、保持期間には<{1 から 365 日 / 1 から 50 週 / 1 から 60 か月 / 1 から 10 年}>の範囲を整数で指定してください。	装置構成履歴の保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12730-E	The entered retention period for fabric configuration history is invalid. When the period unit is <{day(s) / week(s) / month(s) / year(s)}>, specify <{1 to 365 day(s) / 1 to 50 week(s) / 1 to 60 month(s) / 1 to 10 year(s)}> for this period. ファブリック構成履歴の保持期間の入力が不正です。期間単位が<{日 / 週 / 月 / 年}>の場合、保持期間には<{1 から 365 日 / 1 から 50 週 / 1 から 60 か月 / 1 から 10 年}>の範囲を整数で指定してください。	ファブリック構成履歴の保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12731-E	The entered retention period for application configuration history is invalid. When the period unit is <{day(s) / week(s) / month(s) / year(s)}>, specify <{1 to 365 day(s) / 1 to 50 week(s) / 1 to 60 month(s) / 1 to 10 year(s)}> for this period. アプリケーション構成履歴の保持期間の入力が不正です。期間単位が<{日 / 週 / 月 / 年}>の場合、保持期間には<{1 から 365 日 / 1 から 50 週 / 1 から 60 か月 / 1 から 10 年}>の範囲を整数で指定してください。	アプリケーション構成履歴の保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12732-E	The entered retention period for system reports is invalid. When the period unit is <{day(s) / week(s) / month(s) / year(s)}>, specify <{1 to 365 day(s) / 1 to 50 week(s) / 1 to 12 month(s) / 1 to 10 year(s)}> for this period. システムレポートの保持期間の入力が不正です。期間単位が<{日 / 週 / 月 / 年}>の場合、保持期間には<{1 から 365 日 / 1 から 50 週 / 1 から 12 か月 / 1 から 10 年}>の範囲を整数で指定してください。	システムレポートの保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。正しい範囲の値を入力して、再実行してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KATN12733-E	The entered polling status monitoring time is invalid. Specify an integer from 1 to 24 for this time. ポーリング状態の監視時間の入力不正です。監視時間には 1 から 24 の整数を指定してください。	監視時間に入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12734-E	The entered polling monitoring time is invalid. Specify an integer from 1 to 24 for this time. ポーリングの監視時間の入力不正です。監視時間には 1 から 24 の整数を指定してください。	監視時間に入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。 正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12735-E	For the mail server, enter a host name or IP address that consists of only single-byte characters. メールサーバには、ホスト名か IP アドレスを半角文字で入力してください。	メールサーバに不正な文字列が入力されました。 正しい形式の文字列を入力してください。
KATN12736-E	The number of characters in the destination address for notifications is invalid. Enter from 3 to 320 characters for this address. 通知先アドレスの文字数が不正です。通知先アドレスには 3 から 320 文字を入力してください。	通知先アドレスに入力した文字が、最小文字数に満たないか、最大文字数を超過しています。 正しい長さの文字列を入力して、再実行してください。
KATN12737-E	The entered destination address for notifications is invalid. Enter a correctly formatted address. 通知先アドレスの入力不正です。通知先アドレスには正しい書式で入力してください。	通知先アドレスに全角文字が入力されました。 正しい文字列を入力して、再実行してください。
KATN12738-E	The number of characters in the user name is invalid. Enter from 1 to 64 characters for this name. ユーザー名の文字数が不正です。ユーザー名には 1 から 64 文字を入力してください。	ユーザー名に入力した文字が、最小文字数に満たないか、最大文字数を超過しています。 正しい文字列を入力して、再実行してください。
KATN12739-E	The entered user name is invalid. Enter a correctly formatted name. ユーザー名の入力不正です。ユーザー名には正しい書式で入力してください。	ユーザー名に全角文字が入力されました。 正しい文字列を入力して、再実行してください。
KATN12740-E	The number of characters in the password is invalid. Enter no more than 64 characters for the password. パスワードの文字数が不正です。パスワードは 64 文字以内で入力してください。	パスワードに入力した文字が、最大文字数を超過しています。 正しい文字列を入力して、再実行してください。
KATN12741-E	The entered password is invalid. Enter a correctly formatted password. パスワードの入力不正です。パスワードには正しい書式で入力してください。	パスワードに全角文字が入力されました。 正しい文字列を入力して、再実行してください。
KATN12742-E	No destination for alert notifications is specified. If alert monitoring is specified, specify a destination for alert notifications.	アラート通知先を指定しないで、アラート監視する設定にしました。 アラート通知先を入力して、再実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
	アラート通知先が指定されていません。 アラート監視を指定した場合は、アラート通知先を設定してください。	
KATN12743-E	The entered retention period for weekly data is invalid. When the period unit is <{week(s) / month(s) / year(s)}>, specify <{1 to 50 week(s) / 1 to 12 month(s) / 1 year(s)}> for this period. 週単位データの保持期間の入力が不正です。期間単位が<{週 / 月 / 年}>の場合、保持期間には<{1 から 50 週 / 1 から 12 か月 / 1 年}>を整数で指定してください。	週単位データの保持期間として入力した数値が不正か、指定できる範囲を超えました。正しい範囲の値を入力して、再実行してください。
KATN12744-E	The number of characters in the name of the mail server is invalid. Enter from 1 to 500 characters for this name. メールサーバの文字数が不正です。メールサーバには、1 から 500 文字で入力してください。	メールサーバに入力した文字が、最小文字数に満たないか、最大文字数を超えています。正しい文字列を入力して、再実行してください。
KATN12750-E	An attempt to refresh Agent information has failed. エージェント情報のリフレッシュに失敗しました。	エージェント情報のリフレッシュ処理中にエラーが発生しました。 PFM・Manager のユーザーアカウントを変更した場合は、Tuning Manager server のサービスを停止した状態で jpcprauth コマンドを実行してください。 そのほかの場合は、次に示す順序で対策してください。 1. リフレッシュ対象として指定したエージェントの状態を確認し、KATN14811-W の対策を実施してください。 2. PFM・Manager が起動していないおそれがあります。PFM・Manager の起動を再確認してください。Tuning Manager server を再起動してください。 3. システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12751-E	An unexpected error occurred during polling. ポーリング処理を実行中に予期しないエラーが発生しました。	ポーリング処理の開始処理中にエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12752-W	Polling is already being performed. すでにポーリング処理を実行中です。	次のどちらかの理由で、ポーリング処理を開始できませんでした。 ・ ポーリング処理を実行中 ・ エージェント一覧の更新処理を実行中 しばらく待ってから、ポーリングを再実行してください。
KATN12753-E	An unexpected error occurred during processing to connect to an Agent.	エージェントの接続処理中にエラーが発生しました。

メッセージID	メッセージ	説明
	エージェントを接続処理中に予期しないエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12754-E	An unexpected error occurred during processing to disconnect an Agent. エージェントを切断処理中に予期しないエラーが発生しました。	エージェントの切断処理中にエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12755-E	An unexpected error occurred during modification of the polling schedule. ポーリングスケジュールの変更処理中に予期しないエラーが発生しました。	ポーリングスケジュールの更新中にエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12756-E	An unexpected error occurred during modification of polling settings. ポーリング設定の変更処理中に予期しないエラーが発生しました。	ポーリング設定の更新中にエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12757-E	An unexpected error occurred during modification of a retention period. データ保持期間の変更処理中に予期しないエラーが発生しました。	データ保持期間の更新中にエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12758-E	An unexpected error occurred during modification of system alert settings. システムアラート設定の変更処理中に予期しないエラーが発生しました。	システムアラート設定の更新中にエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12759-E	An unexpected error occurred while stopping polling. ポーリング処理を停止中に予期しないエラーが発生しました。	ポーリング処理の停止中にエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12770-I	Agent information will now be updated. エージェント情報の更新処理を開始します。	—
KATN12771-I	Updating of Agent information has been completed.	—

メッセージID	メッセージ	説明
	エージェント情報の更新処理が終了しました。	
KATN12772-I	Polling will now start for the specified Agent. 指定したエージェントのポーリング処理を開始します。	—
KATN12773-I	The current polling will now stop. 実行中のポーリング処理の停止処理を開始します。	—
KATN12788-I	A test email was sent successfully. テストメールの送信に成功しました。	—
KATN12789-E	An attempt to send a test email has failed. テストメールの送信に失敗しました。	テストメールの送信に失敗しました。メール送信先アドレスおよびネットワーク設定を確認して、再実行してください。
KATN12791-E	No schedule has been specified. Specify a schedule. スケジュールが指定されていません。スケジュールを指定してください。	スケジュールが指定されていません。スケジュールを指定してください。
KATN12792-E	When you specify a schedule, select at least one polling time. スケジュールを指定する場合、ポーリング時刻を1つ以上選択してください。	ポーリング時刻が指定されていません。スケジュールを指定する場合、ポーリング時刻を1つ以上選択してください。
KATN12793-E	The specified Agent no longer exists. 指定したエージェントはすでに存在しません。	更新対象のエージェントが削除されました。
KATN12794-E	When you specify a schedule, select at least one polling time. スケジュールを指定する場合、ポーリング時刻を1つ以上選択してください。	ポーリング時刻が指定されていません。スケジュールを指定する場合、ポーリング時刻を1つ以上選択してください。
KATN12795-E	No Agent is selected. Select at least one Agent. エージェントが選択されていません。エージェントを1つ以上選択してください。	処理対象のエージェントが選択されていません。エージェントが選択されていません。エージェントを1つ以上選択してください。
KATN12798-E	An unexpected error occurred during acquisition of progress information. 進捗情報取得処理中に予期しないエラーが発生しました。	一定時間が経過したため進捗情報が削除されました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12799-I	Polling has finished for the specified Agent. 指定したエージェントのポーリング処理を終了しました。	—
KATN12803-E	Main Console is now being initialized. Main Console は初期化処理中です。	システムの初期化が完了していない状態で、Main Console にログインしようとしてしました。しばらく待ってから再実行してください。
KATN12807-I	Main Console is now being initialized. Main Console は初期化処理中です。	システムの初期化が完了していない状態で、ログイン画面を表示しようとしてしました。しばらく待ってからログインしてください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KATN12814-E	An unexpected error occurred during initialization of Main Console. Main Console の初期化処理中に予期しないエラーが発生しました。	初期化処理が異常終了しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12816-E	An unexpected error occurred during initialization of Main Console. Main Console は初期化処理中に予期しないエラーが発生しました。	ログインボタンを押下後の起動（初期化）処理が異常終了しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12817-E	Main Console is now being initialized. Main Console は初期化処理中です。	起動（初期化）処理の実行中にライセンス情報ボタンを押下しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12818-E	An unexpected error occurred during initialization of Main Console. Main Console は初期化処理中に予期しないエラーが発生しました。	起動（初期化）処理が異常終了の状態で、ライセンス情報ボタンを押下しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12821-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	画面表示処理中に予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12822-E	An unexpected error occurred during processing to display the Help window. ヘルプ画面の表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	ヘルプ画面の表示に失敗しました。または、不正にヘルプ画面を表示しようとしてしました。 [ヘルプ] メニュー、[ヘルプ] ボタンで再度ヘルプ画面を表示してください。
KATN12823-E	An unexpected error occurred during processing to display the Help window. ヘルプ画面の表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	ヘルプ画面の表示に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12824-E	An unexpected error occurred during login. (maintenance information = <詳細情報>) ログイン処理中に予期しないエラーが発生しました。保守情報：<詳細情報>	ログイン処理で内部エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12825-E	No user ID has been entered. Enter a user ID. ユーザー ID が未入力です。ユーザー ID を入力してください。	ユーザー ID が入力されていません。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN12826-E	No password has been entered. Enter a password. パスワードが未入力です。パスワードを入力してください。	パスワードが入力されていません。
KATN12827-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	画面表示処理中に予期しないエラーが発生しました。 v6.0 より前の Tuning Manager server の起動 URL が登録されているかどうかを確認して、登録されている場合は、その起動 URL を削除してください。起動 URL の登録状況を確認する手順および起動 URL を削除する手順については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」の、インストール後の確認事項について説明している個所を参照してください。
KATN12829-E	An unexpected error occurred during routine processing. 定時処理実行中に予期しないエラーが発生しました。	定時処理実行中に予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12830-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	オブジェクトに指定されたメソッドがありません。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12831-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	アプリケーションが、配列以外のインスタンス作成、フィールドの設定または取得、メソッドの呼び出しを試みました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12832-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	呼び出したメソッドから例外が発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12833-E	An unexpected error occurred during window refresh processing. 画面描画処理中に予期しないエラーが発生しました。	画面描画処理中に予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN12834-E	An unexpected error occurred during window refresh processing.	画面描画処理中に予期しないエラーが発生しました。

メッセージID	メッセージ	説明
	画面描画処理中に予期しないエラーが発生しました。	システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口で連絡してください。
KATN12901-E	An unexpected error occurred during polling. ポーリング処理中に予期しないエラーが発生しました。	ポーリング処理の実行中にエラーが発生しました。 PFM - Manager のユーザーアカウントを変更した場合は、Tuning Manager server のサービスを停止した状態で jpcprauth コマンドを実行してください。 そのほかの場合は、システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口で連絡してください。
KATN12902-W	Polling is already being stopped. ポーリング処理はすでに停止中です。	ポーリング処理の停止処理中に [ポーリング停止] ボタンが押されました。 すでにポーリング処理が停止処理中なので、対策は必要ありません。
KATN12903-W	Current polling will stop because an operation was performed to stop it. ポーリング処理の停止操作によって、実行中のポーリング処理を中断します。	ポーリング処理の実行中に停止操作が行われました。
KATN12904-E	Select the period unit for hourly data. 時間単位データの期間単位を選択してください。	時間単位データのリストボックスが選択されていません。
KATN12905-E	Select the period unit for daily data. 日単位データの期間単位を選択してください。	日単位データのリストボックスが選択されていません。
KATN12906-E	Select the period unit for monthly data. 月単位データの期間単位を選択してください。	月単位データのリストボックスが選択されていません。
KATN12907-E	Select the period unit for yearly data. 年単位データの期間単位を選択してください。	年単位データのリストボックスが選択されていません。
KATN12908-E	Select the period unit for host configuration history. ホスト構成履歴の期間単位を選択してください。	ホスト構成履歴のリストボックスが選択されていません。
KATN12909-E	Select the period unit for device configuration history. 装置構成履歴の期間単位を選択してください。	装置構成履歴のリストボックスが選択されていません。
KATN12910-E	Select the period unit for fabric configuration history. ファブリック構成履歴の期間単位を選択してください。	ファブリック構成履歴のリストボックスが選択されていません。
KATN12911-E	Select the period unit for application configuration history. アプリケーション構成履歴の期間単位を選択してください。	アプリケーション構成履歴のリストボックスが選択されていません。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN12912-E	Select the period unit for system reports. システムレポートの期間単位を選択してください。	システムレポートのリストボックスが選択されていません。
KATN12915-W	The value entered for the attribute <フィルター条件の属性名称> in number <フィルター条件の行数> is invalid. <フィルター条件の行数>番目の属性<フィルター条件の属性名称>の入力が不正です。	フィルター条件の値が入力されていないか、入力された値が不正です。
KATN12916-E	Select the period unit for weekly data. 週単位データの期間単位を選択してください。	週単位データのコンボボックスが選択されていません。
KATN12917-I	Processing to stop current polling has terminated. 実行中のポーリング処理の停止処理を終了しました。	—
KATN12918-E	Data was updated during window refresh processing. Please refresh the window again. 画面描画中にデータの更新が行われました。画面を再描画してください。	データベースに格納された情報が画面描画中に更新されました。 画面を再描画してください。
KATN12919-E	The polling schedule of unmonitored Agents cannot be edited. Do not select an unmonitored Agent. 切断状態のエージェントに対してスケジュール設定はできません。	切断状態のエージェントだけを選択し、スケジュール設定画面を開こうとした場合に発生します。切断状態のエージェントには、スケジュールを設定できません。 画面を再描画してください。
KATN12920-W	The polling schedule of unmonitored Agents cannot be edited. Processing will continue while excluding unmonitored Agents from those subject to editing. 切断状態のエージェントに対してスケジュールの設定はできません。切断状態のエージェントを変更対象から除き、処理を継続します。	切断状態と接続状態のエージェントを両方選択し、スケジュール設定画面を開こうとした場合に発生します。切断状態のエージェントには、スケジュールを設定できません。そのため、切断状態のエージェントを除いて処理を継続します。
KATN12921-W	Polling processing has finished but part of the processing failed. Confirm the details in the System Report window and the log files. ポーリング処理が完了しました。一部のポーリング処理に失敗しています。システムレポート画面およびログファイルを参照し、詳細を確認してください。	次に示す問題が発生したおそれがあります。 ・ エージェントの一覧収集に失敗しました。 ・ エージェントからのデータ収集に失敗しました。 システムレポート画面を参照してください。また、ログファイルでこのメッセージが出力されている直前の警告またはエラーのメッセージを確認して、そのメッセージの示す対策を実施してください。そのあとで再度ポーリングを実行してください。
KATN13011-E	An unexpected error occurred during processing to display a window. 画面表示処理中に予期しないエラーが発生しました。	画面の表示に必要な情報の取得に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN13012-E	The selected resource has been deleted. 選択されたリソースが削除されています。	画面の表示に必要な情報の取得に失敗しました。リソースの存在を確認できませんでした。 画面を再表示し、リソースが存在するか確認してください。
KATN13013-E	The selected Agent has been deleted. 選択されたエージェントが削除されています。	画面の表示に必要な情報の取得に失敗しました。エージェントが削除されています。 画面を再表示し、エージェントが存在するか確認してください。誤ってエージェントを削除してしまった場合は、エージェントとの接続を再設定してください。
KATN13014-E	An unexpected error occurred during processing to display a chart. チャート表示中に予期しないエラーが発生しました。	チャート表示中に内部エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN13015-W	The number of resources with the specified resource type (<リソース種別名>) exceeds<最大リソース表示数>. 指定された種類（リソース種別:<リソース種別名>）のリソース数が<最大リソース表示数>を超えています。	リソース数が<最大リソース表示数>を超えています。
KATN13016-E	No displayable resources were found. 表示可能なリソースがありません。	チャートの表示対象のリソースデータが存在していません。 Tuning Manager server のポーリングを実施してから、再度実行してください。
KATN13017-W	At least one resource could not be displayed. 一部のリソースを表示できません。	チャート表示対象のリソースの一部でデータが存在しません。
KATN13018-E	The specified resource is not a monitoring target of Tuning Manager server. 指定されたリソースが Tuning Manager server の監視対象ではありません。	指定されたリソースが Tuning Manager server の監視対象ではありません。 指定したリソースが存在するストレージシステムを Tuning Manager server の監視対象に追加してください。
KATN13019-E	The requested report is not supported by the Tuning Manager server version. Tuning Manager server に対して未サポートのレポートを要求しました。	指定されたレポートは Tuning Manager server ではサポートしていません。 ラウンチ元がサポートしているバージョンの Tuning Manager server をインストールしてください。
KATN13020-E	No license has been registered, or the license has expired. Enter a valid Tuning Manager server license key, and then try again. Tuning Manager server のライセンスが未登録、または満了しています。 Tuning Manager server に有効なライセンスキーを入力後、再度実行してください。	Tuning Manager server のライセンスが未登録、または、満了しています。 Tuning Manager server に有効なライセンスキーを入力後、再度実行してください。
KATN13021-I	Performance or capacity information cannot be displayed for hosts monitored in agentless mode. (host	Agent-less モードで監視された単一のホストの性能情報または容量情報を表示しようとした。

メッセージID	メッセージ	説明
	name = <Agent-less モードで監視しているホスト名> Agent-less モードで監視されたホストの性能情報または容量情報は表示できません。ホスト名:<Agent-less モードで監視しているホスト名>	指定したリソースの属するホストを Agent モードで監視してください。
KATN13022-I	Performance or capacity information cannot be displayed for hosts monitored in agentless mode. Agent-less モードで監視されたホストの性能情報または容量情報は表示できません。	Agent-less モードで監視された複数のホストの性能情報または容量情報を表示しようとしてしました。 指定したリソースの属するホストを Agent モードで監視してください。
KATN13023-E	The specified storage system is not supported by Tuning Manager. (serial number = <要求したストレージシステムのシリアル番号>, maintenance information = <保守情報>) Tuning Manager でサポートしていないストレージシステムです。シリアル番号:<要求したストレージシステムのシリアル番号>,保守情報:<保守情報>	指定されたストレージシステムは Tuning Manager シリーズでは未サポートです。指定したストレージシステムがサポート対象のモデルであるかどうかを確認してください。
KATN13024-E	The specified report is not supported by Tuning Manager. (maintenance information = <保守情報>) Tuning Manager でサポートしていないレポートです。保守情報:<保守情報>	次の要因でレポートが表示できません。 ・ 指定されたレポートは Tuning Manager server ではサポートしていません。 ・ レポート表示中に内部エラーが発生しました。 ラウンチ元が指定するレポートをサポートしているバージョンの Tuning Manager server をインストールしてください。 問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14201-E	An unexpected error occurred during Favorite Report Window registration. (maintenance information = <保守情報>) Favorite Report Window の登録で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	Favorite Report Window 登録処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14202-E	An unexpected error occurred during Favorite Chart registration. (maintenance information = <保守情報>) Favorite Chart 登録で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	Favorite Chart 登録処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14203-E	An unexpected error occurred during user registration. (maintenance information = <保守情報>) ユーザー登録で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	ユーザー登録処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN14204-E	An unexpected error occurred during Favorite Report Window acquisition. Favorite Report Window の取得で予期しないエラーが発生しました。	Favorite Report Window 取得処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14205-E	An unexpected error occurred during Favorite Chart acquisition. Favorite Chart の取得で予期しないエラーが発生しました。	Favorite Chart 取得処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14206-E	An unexpected error occurred during user acquisition. ユーザーの取得で予期しないエラーが発生しました。	ユーザー取得処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14207-E	An unexpected error occurred during a Favorite Report Window update. (maintenance information = <保守情報>) Favorite Report Window の更新で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	Favorite Report Window 更新処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14208-E	An unexpected error occurred during a Favorite Chart update. (maintenance information = <保守情報>) Favorite Chart の更新で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	Favorite Chart 更新処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14209-E	An unexpected error occurred during a user update. (maintenance information = <保守情報>) ユーザーの更新で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	ユーザー更新処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14210-E	An unexpected error occurred during a Favorite Report Window deletion. (maintenance information = <保守情報>) Favorite Report Window の削除で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	Favorite Report Window 削除処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14211-E	An unexpected error occurred during a Favorite Chart deletion. (maintenance information = <保守情報>)	Favorite Chart 削除処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報

メッセージID	メッセージ	説明
	Favorite Chart の削除で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14212-E	An unexpected error occurred during a user deletion. (maintenance information = <保守情報>) ユーザーの削除で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	ユーザー削除処理の実行中にデータベースエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14401-E	An unexpected error occurred during processing to display a report. (maintenance information = <保守情報>) レポート表示処理中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	レポート表示処理中に内部エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14402-E	An unexpected error occurred during acquisition of configuration information. 構成情報の取得で予期しないエラーが発生しました。	データベースに対するデータアクセスでエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14407-E	Data from an agent could not be processed. (service ID of the agent = <取得したデータを処理できなかった Agent のサービス ID>) エージェントから取得したデータを処理できませんでした。エージェントのサービス ID : <取得したデータを処理できなかったエージェントのサービス ID>	エージェントのインストールやアップグレードのあとに、システムが持つエージェント一覧がリフレッシュされていないおそれがあります。 エージェント一覧をリフレッシュしてください。インストールされたエージェントのバージョンが、システムが対応できるバージョンの範囲よりも新しい場合、エージェントをダウングレードするか、システムをアップグレードしてください。
KATN14408-W	An agent to monitor the resource performance information is not connected or has been deleted from Device Manager. リソースの性能情報を監視するエージェントが接続されていません。または Device Manager から削除されています。	一部のリソースについて、PFM・Manager からエージェントが削除されました。または Device Manager から削除されました。 リソースの性能情報を閲覧したい場合、エージェントを接続してください。また、リソースがストレージシステムの場合で、Device Manager から削除されているときには、監視対象に加えてください。
KATN14409-E	At least one agent could not be accessed temporarily because the agent information was being refreshed. エージェント情報をリフレッシュ中のため、一時的に一部のエージェントにアクセスできませんでした。	エージェント情報をリフレッシュ中のため、一時的に一部のエージェントにアクセスできませんでした。 画面を再表示してください。
KATN14410-E	The system stopped accessing the agent because the Agent did not respond within the timeout period. (Agent = <Agent のサービス ID>) エージェントから応答がないため、情報の取得処理をタイムアウトしました。	エージェントがビジーであるおそれがあります。または、取得するデータ量が多過ぎるおそれがあります。 画面を再表示してください。再表示してもタイムアウトが発生し続ける場合、レポート

メッセージ ID	メッセージ	説明
	エージェント<エージェントのサービス ID>	ウィンドウの期間を短くしたあとに再表示してください。
KATN14411-E	The system cannot start display processing because the system is busy. サーバがビジーなため、表示処理を開始できません。	多数の要求を処理しています。時間を置いて表示してください。
KATN14801-I	Agent information has been updated. エージェント情報を更新しました。	—
KATN14811-W	An attempt to update some Agent information failed during processing to update the Agent list. (Agent = <エージェントのサービス ID>, maintenance information = <保守情報>) エージェント一覧の更新処理で、一部のエージェント情報の更新に失敗しました。エージェント=<エージェントのサービス ID>,保守情報<保守情報>	<p>原因は、次のどれかです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エージェントが起動していない。 2. エージェントがインストールされているホストで、HTM - Storage Mapping Agent または、PFM - Agent for Platform のどちらかが不足している。 3. 複数のエージェントが同一の対象を監視している。 4. エージェントの監視対象が起動していない。 5. エージェントがビジーなため、データを取得できない。 6. このメッセージが出力される前に、KATN16001-E, または KATN16003-E が出力されている。 7. PFM - Manager が起動していない。 8. このメッセージが出力される前に、KATN14870-W が出力されている。 <p>原因の種類に応じて、次に示す対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エージェントのサービスを起動してください。 2. エージェントを正しくセットアップしてから、エージェントのサービスを起動してください。 3. KATN14826-W を参照して、監視対象が重複しないようにエージェントをセットアップしてください。 4. エージェントの監視対象のサービスを起動してください。 5. jpctool service list (jpcctrl list) コマンドを実行して、エージェントがビジーでない時に、更新処理を実施してください。 6. KATN16001-E, または KATN16003-E の対策を実施してください。 7. PFM - Manager のサービスを起動してください。 8. KATN14870-W の対策を実施してください。
KATN14812-E	An unexpected error occurred during acquisition of the Agent list. エージェント一覧の取得処理中に予期しないエラーが発生しました。	データベース処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口で連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN14813-E	An unexpected error occurred during processing to update the Agent list. エージェント一覧の更新処理中に予期しないエラーが発生しました。	データベース処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14814-E	An unexpected error occurred during processing to update the Agent list. エージェント一覧の更新処理中に予期しないエラーが発生しました。	ライセンス情報を取得できませんでした。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14815-E	An unexpected error occurred during acquisition of information from Device Manager. (Device Manager identification information = <情報の取得に失敗した Device Manager の識別情報>) Device Manager からの情報取得時に、予期しないエラーが発生しました。 Device Manager の識別情報:<情報の取得に失敗した Device Manager の識別情報>	データベース処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14816-E	An attempt to update the Agent list failed. エージェント一覧の更新処理に失敗しました。	PFM - Manager が起動していないおそれがあります。 PFM - Manager が起動しているかどうかを確認し、停止している場合は起動してください。
KATN14817-E	An unexpected error occurred during processing to update the Agent list. エージェント一覧の更新処理中に予期しないエラーが発生しました。	データベース処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14818-E	An unexpected error occurred during processing to update the Agent list. エージェント一覧の更新処理中に予期しないエラーが発生しました。	データベース処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14819-E	The Agent list is now being updated. エージェント一覧の更新処理中です。	エージェント一覧の更新処理が実行中です。実行中のエージェント一覧の更新処理が完了するのを待ってください。
KATN14820-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	データベース処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14821-E	An unexpected error occurred during acquisition of Agent information. エージェント情報の取得で予期しないエラーが発生しました。	データベース処理でエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情

メッセージ ID	メッセージ	説明
		報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14822-E	An unexpected error occurred during processing to update the Agent list. エージェント一覧の更新処理中に予期しないエラーが発生しました。	予期しない例外が発生しました。 v6.0 より前の Tuning Manager server の起動 URL が登録されているかどうかを確認して、登録されている場合は、その起動 URL を削除してください。起動 URL の登録状況を確認する手順および起動 URL を削除する手順については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」の、インストール後の確認事項について説明している個所を参照してください。
KATN14823-W	An unexpected error occurred during processing to update the Agent list. (maintenance information =<保守情報>) エージェント一覧の更新処理中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	内部不正によってエージェント情報の取得に失敗しています。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14825-W	The Agent list was not updated because a license has not been registered. ライセンスが未登録であるため、エージェント一覧を更新しませんでした。	ライセンスが登録されていません。 ログイン画面からライセンス画面を起動し、ライセンスの状態を確認してください。
KATN14826-W	Duplicated Agents are monitoring the same target(s). (Agent =<エージェントのサービス ID>) 複数のエージェントが同一の対象を監視しています。エージェント=<エージェントのサービス ID>	複数のエージェントが同一の対象を監視しています。監視対象が重複しないようにエージェントをセットアップしてください。
KATN14850-E	PFM - Manager could not be connected to. PFM - Manager に接続できませんでした。	PFM - Manager が起動していないおそれがあります。 PFM - Manager が起動しているかどうかを確認し、停止している場合は起動してください。
KATN14851-E	An Agent could not be connected to. (Agent =<エージェントサービス ID>, maintenance information =<保守情報>) エージェントに接続できませんでした。 エージェント:<Agent のサービス ID>, 保守情報:<保守情報>	エージェントが起動していないおそれがあります。 エージェントの起動を確認し、停止している場合は起動してください。
KATN14852-E	A memory shortage occurred in PFM - Manager during connection to an Agent. (Agent =<エージェントサービス ID>) エージェントとの接続時に PFM - Manager でメモリ不足が発生しました。 エージェント:<Agent のサービス ID>	PFM - Manager でメモリ不足が発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> 初期設定ファイル (config.xml) の blockTransferMode に true が指定されていることを確認してください。 blockTransferMode に true を指定した場合、レポートのデータを View Server から分割して受信できます。 レポートの取得間隔を短くしてください。 同時に取得するレポート数を減らしてください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN14853-E	An unexpected error occurred during connection to PFM - Manager. (maintenance information = <保守情報>) PFM - Manager との接続中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	PFM - Manager との接続中に予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14854-E	An unexpected error occurred during communication with an Agent. (maintenance information = <保守情報>) エージェントとの通信中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	Main Console の状態が不正です。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14855-E	An unexpected error occurred during connection to PFM - Manager. (maintenance information = <保守情報>) PFM - Manager との接続中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	PFM - Manager との接続に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14856-E	An Agent was deleted from PFM - Manager. (Agent = <エージェントサービス ID>) PFM - Manager からエージェントが削除されました。エージェント:<エージェントサービス ID>	PFM - Manager からエージェントが削除されました。 エージェントと PFM - Manager の接続先を変えた場合は、エージェント一覧を更新してください。 誤ってエージェントを削除してしまった場合は、エージェントとの接続を再設定してください。
KATN14857-E	An unexpected error occurred during the initialization for Agent connection processing. エージェント接続処理の初期化で予期しないエラーが発生しました。	設定ファイルが読み込めません。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14858-E	An error occurred during communication with PFM - Manager. PFM - Manager との通信中にエラーが発生しました。	PFM - Manager が起動していないおそれがあります。 PFM - Manager が起動しているかどうかを確認し、停止している場合は起動してください。
KATN14859-E	An error occurred during communication with PFM - Manager. (maintenance information = <保守情報>) PFM - Manager との通信中にエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	PFM - Manager が起動していないおそれがあります。 PFM - Manager が起動しているかどうかを確認し、停止している場合は起動してください。
KATN14860-E	An unexpected error occurred during connection to PFM - Manager. PFM - Manager との接続中に予期しないエラーが発生しました。	セッションがすべて使用されているため PFM - Manager と接続できません。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN14861-E	An unexpected error occurred during the initialization for Agent connection processing. (maintenance information =<保守情報>) エージェント接続処理の初期化で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	ログの初期化に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14862-E	Authentication processing for PFM - Manager has failed. PFM - Manager への認証処理に失敗しました。	認証ファイルへアクセスできません。 認証ファイルを適切に設定してください。
KATN14863-E	An unexpected error occurred during communication with PFM - Manager. PFM - Manager との通信中に予期しないエラーが発生しました。	PFM - Manager との通信中に予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14864-E	An unexpected error occurred during communication with an Agent. (Agent =<エージェントサービス ID>, maintenance information =<保守情報>) エージェントとの通信中に予期しないエラーが発生しました。エージェント:<エージェントサービス ID>, 保守情報:<保守情報>	エージェントから情報が取得できません。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN14865-E	Authentication processing for PFM - Manager has failed. PFM - Manager への認証処理に失敗しました。	認証ファイルの情報が正しくありません。 認証ファイルを適切に設定してください。
KATN14866-E	Authentication processing for PFM - Manager has failed. PFM - Manager への認証処理に失敗しました。	認証ファイルの情報が正しくありません。 認証ファイルを適切に設定してください。
KATN14867-E	The processing to collect agent data timed out because there was no response from the agent. (agent =<エージェントのサービス ID>) エージェントより応答がないため情報の取得処理をタイムアウトしました。エージェント:<エージェントのサービス ID>	エージェントがビジー状態のおそれがあります。 再実行してください。
KATN14868-E	Information could not be acquired from the Agent. (Agent =<Agent のサービス ID>) エージェントからデータを取得できませんでした。エージェント:<エージェントのサービス ID>	エージェントの監視対象が起動していないおそれがあります。 監視対象の状態を確認してください。
KATN14869-I	The Agent is busy. (Agent =<エージェントのサービス ID>) エージェントがビジーになっています。エージェント:<エージェントのサービス ID>	エージェントで性能情報の収集に時間が掛かっています。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN14870-W	The Agent information failed to be acquired. (Agent = <エージェントのサービス ID>, maintenance information = <保守情報>) 一部のエージェント情報の取得に失敗しました。エージェント=<エージェントのサービス ID>,保守情報:<保守情報>	<p>原因は、次のどれかです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PFM・Manager からエージェントへの通信ができません。 2. エージェントのホストが不正な IP アドレスを使用しています。 3. エージェントのホストの IP アドレスを取得できません。 4. エージェントがビジー状態で接続できません。 5. PFM・Manager から接続した直後にエージェントが異常終了しました。 6. エージェントが要求されたデータを送信した直後、異常終了しました。 <p>原因の種類に応じて、次に示す対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エージェントを正しくセットアップし、起動してください。また、通信障害が発生していないか確認して、再実行してください。 2. IP アドレスおよびネットワーク設定を確認して、再実行してください。 3. IP アドレスおよびネットワーク設定を確認して、再実行してください。 4. <code>jpctool service list (jpcctrl list)</code> コマンドを実行し、エージェントがビジーでないタイミングで再実行してください。 5. システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。 6. システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口にご連絡してください。
KATN14872-E	The target Device Manager is a version that cannot connect to Tuning Manager server. 接続先の Device Manager は、Tuning Manager server に接続できないバージョンです。	<p>接続先の Device Manager は、Tuning Manager server に接続できないバージョンです。</p> <p>Device Manager を v7.0 以降にアップグレードしてください。</p>
KATN14876-W	The number of targets has exceeded the maximum number that Tuning Manager server can monitor. (item = <上限数を超えた項目>, maximum = <上限数(しきい値)>) 監視対象の数が上限数を超えました(項目:<上限数を超えた項目>, 上限数:<上限数(しきい値)>)。	<p>Device Manager で管理している装置の数が Tuning Manager server で監視できる上限数を超えました。</p> <p>Tuning Manager server で監視している装置の数を確認して、Device Manager で管理している装置を Tuning Manager server で監視できる上限数以下にしてください。</p>
KATN14877-W	Main Console does not support monitoring a host whose name exceeds 255 characters. (host name = <ホスト名が 255 文字を超えたホストのホスト名>) 監視対象のホスト名が 255 文字を超えています。	<p>ホスト名が 255 文字を超えているホストを検出しました。</p> <p>該当するホストのホスト名を 255 文字以内に設定し、再度リフレッシュまたはポーリングを実行してください。</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
	Main Console はホスト名が 255 文字を超えるホストの監視はサポートしていません。ホスト名:<ホスト名が 255 文字を超えたホストのホスト名>	
KATN15000-E	An unexpected error occurred during database initialization. データベースの初期化で予期しないエラーが発生しました。	データベースの初期化処理中に予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15001-E	An unexpected error occurred during connection to the database. データベースへの接続中に予期しないエラーが発生しました。	Main Console データベースの接続に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15002-E	Connection to Device Manager has failed. (host name = <HDvM ホスト名>) Device Manager への接続に失敗しました。ホスト名:<HDvM ホスト名>	Device Manager データベースの接続に失敗しました。 連携する Device Manager のホスト名の設定、サービスの起動状態を確認し、再起動してください。 また、それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15003-E	An error occurred in the database. データベースでエラーが発生しました。	Main Console のデータベースでエラーが発生しました。 データベースの容量が不足している場合は、運用コマンド(htm-db-setup)を利用して、データベースの容量を追加してください。 それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15004-E	An error occurred in the database. (host name = <Device Manager ホスト名>) データベースでエラーが発生しました。(ホスト名 : <Device Manager ホスト名>)	Device Manager のデータベースでエラーが発生しました。 データベースの容量が不足している場合は、運用コマンド(htm-db-setup)を利用して、データベースの容量を追加してください。 それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15005-E	A communication error occurred during connection to the database. (maintenance information = <保守情報>) データベース接続中に通信エラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	データベース接続中に通信エラーが発生しました。 Main Console のサービスの起動状態を確認し、再起動してください。起動できない、または起動しているが問題が解決しない場合、原因究明と問題の解決をするために、詳細な

メッセージID	メッセージ	説明
		調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15006-E	Database capacity is insufficient. (maintenance information = <保守情報>) データベースの容量が不足しています。 保守情報:<保守情報>	データベースの容量が不足しています。 運用コマンド(htm-db-setup)を利用して、データベースの容量を追加してください。
KATN15007-E	An unexpected error occurred during connection to the database. (maintenance information = <保守情報>) データベースへの接続中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	データベースの RD エリアの状態が不正です。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15008-E	A temporary error occurred in the database. (maintenance information = <保守情報>) データベースで一時的なエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	データベースで一時的なエラーが発生しました。 時間をおいて、再度実行してください。
KATN15009-E	An unexpected error occurred during connection to the database. (maintenance information = <保守情報>) データベースへの接続中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	原因は、次のどちらかです。 1. Tuning Manager server の v5.9 以前のデータベースがリストア、インポートされた、または正しくインストールされていないおそれがあります。 2. データベースアクセス中に内部エラーが発生しました。 原因の種類に応じて、次に示す対策を実施してください。 1-1.Tuning Manager server の v5.9 以前のデータベースが正しくインストールされていることを確認してください。 1-2.サポート対象のデータベースのバックアップデータをリストアしてください。 2.メッセージ中に 「ConnectionWrapper#getAutoCommit」が表示されている場合は、システムとしてはサービスを継続するため、対策は不要です。それ以外の場合は、システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15010-E	The database work area is insufficient. データベースの作業領域が不足しています。	データベースの作業領域が不足しています。 「7.2.7」を参照して、データベースを再作成してください。
KATN15012-E	Tuning Manager access to DB is blocked. Problem is detected in Tuning Manager. Call server administrator. Tuning Manager のサーバが使用する DB が閉塞しました。閉塞した部位は、Tuning Manager です。サーバ管理者に連絡してください。	データベースの RD エリアが閉塞しています。システム管理者に連絡してください。 問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15013-E	Tuning Manager access to DB is blocked. Problem is detected in Device Manager. Call server administrator.	データベースの RD エリアが閉塞しています。システム管理者に連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
	Tuning Manager のサーバが使用する DB が閉塞しました。閉塞した部位は、Device Manager です。サーバ管理者に連絡してください。	問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN15014-E	Main Console failed to connect to Device Manager. Make sure that the htm-dvm-setup and Device Manager htmsetup commands were executed, and that Device Manager is running. Device Manager との接続に失敗しました。htm-dvm-setup コマンド及び接続先の Device Manager 側で htmsetup コマンドを正しく実行しているか確認してください。接続先の Device Manager が起動しているか確認してください。	<p>原因は、次のどれかです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Tuning Manager server ホスト側で考えられる原因 <ul style="list-style-type: none"> ・ htm-dvm-setup コマンドが実行されていない可能性があります。 ・ htm-dvm-setup コマンドに指定した接続先の Device Manager ホストの情報が誤っている可能性があります。 ・ Tuning Manager server のインストール時に設定した接続先の Device Manager ホストの情報が誤っている可能性があります。 2. Device Manager ホスト側で考えられる原因 <ol style="list-style-type: none"> 2-1. <ul style="list-style-type: none"> ・ 接続先の Device Manager ホストで htmsetup コマンドが実行されていない可能性があります。 ・ 接続先の Device Manager ホストで実行した htmsetup コマンドに指定した項目が誤っている可能性があります。 2-2. <ul style="list-style-type: none"> 接続先の Device Manager が停止している可能性があります。 2-3. <ul style="list-style-type: none"> 接続先の Device Manager のバージョンがこの Tuning Manager server と互換性がない可能性があります。 3. 両方のホストで考えられる原因 <ul style="list-style-type: none"> ファイアウォールによって、通信が遮断されている可能性があります。 <p>原因の種類に応じて、次に示す対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Tuning Manager server ホスト側で考えられる原因に対する対策 <p>Tuning Manager server ホストで次のコマンドを実行し、設定されている接続先の Device Manager ホストの情報が正しいかどうかを確認してください。</p> <p>Windows の場合 : htm-dvm-setup / list</p> <p>Solaris または Linux の場合 : htm-dvm-setup --list</p> <p>接続先の Device Manager ホストの情報が誤って設定されている場合は、Tuning Manager server ホストで htm-dvm-setup コマンドを実行して、正しい接続先の Device Manager ホストの情報に変更してください。</p> 2. Device Manager ホスト側で考えられる原因に対する対策 <ol style="list-style-type: none"> 2-1.

メッセージID	メッセージ	説明
		<p>接続先の Device Manager ホストで htmsetup コマンドを実行して、Device Manager と連携する Tuning Manager server の情報が正しく設定されているかどうかを確認してください。誤っている場合には、設定を変更してください。</p> <p>htmsetup コマンドの詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。</p> <p>2-2. 接続先の Device Manager が起動しているかどうかを確認してください。停止している場合は、接続先の Device Manager を起動してください。</p> <p>2-3. 接続先の Device Manager のバージョンがこの Tuning Manager server と互換性があるバージョンか確認してください。互換性がないバージョンの場合、接続先の Device Manager を、この Tuning Manager server と接続互換性のあるバージョンにインストールし直してください。</p> <p>3. 両方のホストで考えられる原因に対する対策</p> <p>Tuning Manager server ホスト、および Device Manager ホストでファイアウォールが有効になっているかどうかを確認してください。ファイアウォールが有効になっている場合は、通信が遮断されていないかどうかを確認してください。通信が遮断されている場合は、両方のホストの間で通信できるようにファイアウォールの設定を変更してください。</p> <p>また、ローカルホスト内のソケット通信が遮断されていないかどうかを確認し、遮断されている場合は、ローカルホスト内でソケット通信ができるようにファイアウォールの設定を変更してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN15015-E	<p>Main Console could not connect to the Tuning Manager server database. Make sure the database is running. Tuning Manager server のデータベースに接続できませんでした。データベースが起動しているか確認してください。</p>	<p>Tuning Manager server のデータベースが停止している可能性があります。</p> <p>Tuning Manager server のデータベースが起動しているかどうかを確認してください。停止している場合は Tuning Manager server を再起動してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN16000-W	<p>An unexpected error occurred during the collection of data from an Agent.</p>	<p>内部ファイルに無効な設定値が指定されています。</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
	(maintenance information = <プロパティ名>, <指定された値>, <デフォルト値>) エージェントからのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。保守情報: <プロパティ名>, <指定された値>, <デフォルト値>	システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16001-E	Unsupported agent was detected during the collection of data from Agents. (agent = <Agent のサービス ID>, maintenance information = <値のタイプ>, <未サポートの値>) エージェントからのデータ収集中に、未サポートのエージェントを検知しました。エージェント: <エージェントのサービス ID>。保守情報: <値のタイプ>, <未サポートの値>	未サポートのエージェントに対してデータ収集処理が実行されました。 未サポートのエージェントを PFM - Manager から削除してください。
KATN16002-E	An unexpected error occurred during the collection of data from an Agent. (maintenance information = <値のタイプ>, <不明な値>) エージェントからのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。保守情報: <値のタイプ>, <不明な値>	未知のエージェントに対してデータ収集処理が実行されました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16003-E	An unsupported monitoring target was detected. (maintenance information = <エラーの詳細情報>) 未サポートの監視対象を検知しました。保守情報: <エラーの詳細情報>	エージェントが監視する監視対象は Main Console では未サポートです。 エージェントを切断してください。
KATN16004-E	An unexpected error occurred during the collection of data from an Agent. (maintenance information = <エラーの詳細情報>) エージェントからのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。保守情報: <エラーの詳細情報>	エージェントからのデータ収集で処理するリソースデータ間の参照関連を解決できませんでした。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16005-W	An unexpected error occurred during the collection of data from an Agent. (maintenance information = <Resource クラスの名前>) エージェントからのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。保守情報: <Resource クラスの名前>	前回のデータ収集処理が途中で失敗した場合には発生するおそれがあります。 前回のポーリングが正常終了しているが、同様の警告が繰り返し出力される場合には、システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16006-W	An unexpected error occurred during the collection of data from an Agent. (maintenance information = <Resource クラスの名前>) エージェントからのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。保守情報: <Resource クラスの名前>	リポジトリデータベースに最新として保存されている CONFIG Resource が複数見つかりました。これは、前回のポーリング処理が途中で失敗した場合には発生するおそれがあります。 前回のポーリングが正常終了しているが、同様の警告が繰り返し出力される場合には、システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をす

メッセージID	メッセージ	説明
		るために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16007-E	An unexpected error occurred during the collection of data from an Agent. (maintenance information = <エラーの詳細情報>) エージェントからのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<エラーの詳細情報>	リポジトリデータベースに障害が発生しているおそれがあります。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16008-E	An unexpected error occurred during the collection of data from an Agent. (maintenance information = <エラーの詳細情報>) エージェントからのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<エラーの詳細情報>	接続先のエージェントで問題が発生しているおそれがあります。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16009-W	An unexpected error occurred during the collection of data from an Agent. (maintenance information = <エラーの詳細情報>) エージェントからのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<エラーの詳細情報>	データ収集処理がエラーによって終了する際に、同期オブジェクトの解放、エージェントアクセスオブジェクトの解放、リポジトリデータベースへのROLLBACKの発行、実行履歴管理処理への報告、または進捗モニターオブジェクトへの報告のどれかで例外が発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16010-E	An unexpected error occurred during the collection of data from an Agent. (maintenance information = <エラーの詳細情報>) エージェントからのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<エラーの詳細情報>	内部エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16011-W	Data could not be acquired from an Agent. (Agent name = <Agent のサービス ID>, record name = <Record Name>) エージェントからのデータが取得できませんでした。エージェント名:<エージェントのサービス ID>, レコード名:<レコード名>	エージェント側でデータが収集されていないおそれがあります。 エージェントの状態を確認してください。
KATN16012-W	Processing to convert data collected from an agent has failed. (agent = <エージェントのサービス ID>, maintenance information = <エージェントのデータモデルバージョン>) 一部のエージェントから取得したデータの変換処理に失敗しました。エージェント名:<エージェントのサービス ID>, 保守情報:<エージェントのデータモデルバージョン>	エージェント情報が古いおそれがあります。または Main Console が対応していないバージョンのエージェントであるおそれがあります。 エージェント一覧を更新してください。 更新後も発生する場合はバージョンを確認し、Main Console が対応しているバージョンのエージェントを接続してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN16013-W	Subnet mask information could not be acquired. (host name =<ホスト名>, IP address =<IP アドレス>) サブネットマスクの情報を取得できませんでした。(ホスト名:<ホスト名>, IP アドレス:<IP アドレス>)	対象のホストの HTM - Storage Mapping Agent の IP アドレス指定ファイル (jpcagteparm.ini) に、次のどちらかの IP アドレスが設定されている可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> 対象のホストに割り当てられていない IP アドレス ipconfig コマンド (Windows の場合) または ifconfig コマンド (UNIX の場合) で表示される IP アドレスのうち、33 番目以降に表示される IP アドレス 対象のホストの HTM - Storage Mapping Agent の IP アドレス指定ファイル (jpcagteparm.ini) を削除して、HTM - Storage Mapping Agent のサービスを再起動してください。
KATN16150-E	The connection to Device Manager has failed. The Device Manager version to be connected with Tuning Manager is not compatible with this Tuning Manager, or Device Manager might be starting a service. (maintenance information =<Device Manager のデータベーススキーマバージョン>, <サポートする Tuning Manager server の最小バージョン情報>) Device Manager への接続に失敗しました。接続先の Device Manager のバージョンは、この Tuning Manager と接続互換性がないか、または、Device Manager のサービス起動が完了していない可能性があります。保守情報:<Device Manager のデータベーススキーマバージョン>, <サポートする Tuning Manager server の最小バージョン情報>	原因は、次のどれかです。 1. 接続先の Device Manager のバージョンは、この Tuning Manager server と接続互換性がありません。 2. 接続先の Device Manager を v7.0 より前から v7.0 以降へとバージョンアップした直後のサービスの起動が完了していません。 3. 接続先の Device Manager のデータベースの移行で、v7.0 より前のデータベースをインポートした直後のサービスの起動が完了していません。 原因の種類に応じて、次に示す対策を実施してください。 1. この Tuning Manager server を、接続先の Device Manager と接続互換性のあるバージョンにインストールし直してください。または、接続先の Device Manager を、この Tuning Manager server と接続互換性のあるバージョンにインストールし直してください。 2., 3. 接続先の Device Manager のサービスの起動を完了して、Device Manager へログインできることを確認したあと、Tuning Manager server のサービスを再起動してください。
KATN16151-W	Collection of data about a storage system was interrupted. (model name =<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, serial number =<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>) ストレージシステムのデータ取得を中断しました。モデル名:<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, シリアル番号:<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>	Device Manager でデータ取得対象のストレージシステムの削除を実行している可能性があります。 Device Manager で該当するストレージシステムの状態を確認してから、再度ポーリングを実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN16152-I	<p>Collection of data about a storage system finished successfully. (model name = <データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, serial number = <データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>)</p> <p>ストレージシステムのデータ取得を正常に終了しました。モデル名:<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, シリアル番号 : <データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号></p>	<p>ストレージシステムごとのデータ更新が正常に完了しました。</p>
KATN16153-W	<p>Collection of data about a storage system was interrupted. (model name = <データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, serial number = <データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>)</p> <p>ストレージシステムのデータ取得を中断しました。モデル名:<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, シリアル番号 : <データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号></p>	<p>Device Manager でデータ取得対象のストレージシステムのリフレッシュ, または構成変更を実行している可能性があります。Device Manager で該当するストレージシステムの状態を確認してから, 再度ポーリングを実行してください。</p>
KATN16154-E	<p>Collection of data about a storage system has failed. (model name = <データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, serial number = <データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>)</p> <p>ストレージシステムのデータ取得に失敗しました。モデル名:<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, シリアル番号 : <データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号></p>	<p>ストレージシステムのデータ取得中に, データベース接続エラーが発生しました。直前のエラーメッセージを参照してください。</p>
KATN16157-I	<p>Collection of data from Device Manager about a storage system has finished. (finished successfully = <データ取得に成功したストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>, interrupted = <データ取得を中断したストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>, canceled = <データ取得をキャンセルされたストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>, an error occurred = <データ取得中にエラーが発生したストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>, not executed = <データ取得未実行のストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>)</p> <p>Device Manager からのデータ取得を完了しました。データ取得に成功したストレージシステム : <データ取得に成功したストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>, データ取得を中断したストレージシステム : <</p>	<p>—</p>

メッセージID	メッセージ	説明
	データ取得を中断したストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>, データ取得がキャンセルされたストレージシステム:<データ取得をキャンセルされたストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>, データ取得中にエラーが発生したストレージシステム:<データ取得中にエラーが発生したストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>, データ取得未実行のストレージシステム:<データ取得未実行のストレージシステムのシリアル番号を「,」で区切って列挙した文字列>	
KATN16158-E	An unexpected error occurred during collection of data from Device Manager. (model name =<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, serial number =<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>) Device Manager からのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。モデル名:<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>,シリアル番号:<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>	ストレージシステムのデータ取得中に、予期しないエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16159-E	An unexpected error occurred during collection of data from Device Manager. Device Manager からのデータ収集中に予期しないエラーが発生しました。	Device Manager からのデータ収集処理中に予期しないエラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16161-I	Collection of data about a storage system has been canceled. (model name =<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, serial number =<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>) ストレージシステムのデータ取得をキャンセルしました。モデル名:<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>,シリアル番号:<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>	実行中のポーリングがユーザーによってキャンセルされました。再度ポーリングを実行してください。
KATN16162-W	Collection of data about a storage system was interrupted. (model name =<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, serial number =<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>) ストレージシステムのデータ取得を中断しました。モデル名:<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>,シリアル番号:<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>	Device Manager のストレージシステムのデータが不整合な状態です。Device Manager で該当するストレージシステムの状態を確認してから、再度ポーリングを実行してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN16163-W	Collection of data about one or more storage systems was interrupted during collection of the data from Device Manager. 一部のストレージシステムについて、Device Manager からのデータ取得を中断しました。	データ取得対象のストレージシステムの一部で、Device Manager のデータ更新操作を検出しました。 Device Manager で管理するストレージシステムの状態を確認してから、再度ポーリングを実行してください
KATN16164-I	A storage system not supported by Tuning Manager has been detected in Device Manager. The storage system will be ignored. (model name =<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>, serial number =<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>) Tuning Manager 未サポートのストレージシステムが Device Manager で検出されました。このストレージシステムをデータ取得の対象から除外します。モデル名:<データ取得対象のストレージシステムのモデル名>,シリアル番号:<データ取得対象のストレージシステムのシリアル番号>	Device Manager で Tuning Manager server がサポートしていないストレージシステムを管理しています。
KATN16167-I	A connection to Device Manager was successfully established. (host name = <接続先 Device Manager のホスト名または IP アドレス>) Device Manager への接続に成功しました。(ホスト名:<接続先 Device Manager のホスト名または IP アドレス>)	Device Manager への接続に成功しました。
KATN16169-I	An unknown CHA has been detected. (storage system =<ストレージシステム名>, CHA =<CHA 名>, maintenance information 1 =<保守情報 1>, maintenance information 2 =<保守情報 2>) 未知の CHA を検出しました。(ストレージシステム:<ストレージシステム名>, CHA:<CHA 名>, 保守情報 1:<保守情報 1>, 保守情報 2:<保守情報 2>)	未知の CHA を検出しました。
KATN16171-I	Collection of data from Device Manager about virtualization servers has finished. (finished successfully =<データ取得に成功した仮想化サーバの件数>, interrupted =<データ取得を中断した仮想化サーバの件数>, an error occurred =<データ取得中にエラーが発生した仮想化サーバの件数>, not executed =<データ取得未実行の仮想化サーバの件数>) Device Manager からのデータ取得を完了しました。データ取得に成功した仮想化サーバ:<データ取得に成功した仮想化サーバの件数>, データ取得を中断した仮想化サーバ:<データ取得を中断した仮想化サーバの件数>, データ取得中	—

メッセージ ID	メッセージ	説明
	にエラーが発生した仮想化サーバ:<データ取得中にエラーが発生した仮想化サーバの件数>, データ取得未実行の仮想化サーバ:<データ取得未実行の仮想化サーバの件数>	
KATN16172-W	Collection of data about a virtualization server was interrupted. (virtualization server name =<データ取得対象の仮想化サーバ名>) 仮想化サーバのデータ取得を中断しました。仮想化サーバ名:<データ取得対象の仮想化サーバ名>	Device Manager でデータ取得対象の仮想化サーバの情報を収集中の可能性があります。Device Manager で該当する仮想化サーバに関する操作を実行していないことを確認してから、再度ポーリングを実行してください。
KATN16173-W	Collection of data about one or more virtualization servers was interrupted during collection of the data from Device Manager. 一部の仮想化サーバについて、Device Manager からのデータ取得を中断しました。	データ取得対象の仮想化サーバの一部で、Device Manager のデータ更新操作またはエラー状態を検出しました。直前のエラーメッセージを参照してください。
KATN16175-I	Collection of data about a virtualization server has been canceled. 仮想化サーバのデータ取得をキャンセルしました。	実行中のポーリングがユーザーによってキャンセルされました。
KATN16176-W	Collection of data about a virtualization server was interrupted. (virtualization server name =<データ取得対象の仮想化サーバ名>) 仮想化サーバのデータ取得を中断しました。仮想化サーバ名:<データ取得対象の仮想化サーバ名>	Device Manager の仮想化サーバのデータが不整合な状態です。Device Manager でのエラー発生状況を確認してから、再度ポーリングを実行してください。Device Manager でエラーが発生していなければ、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16177-E	Collection of data about the virtualization environment has failed. 仮想環境のデータ取得に失敗しました。	Device Manager から仮想環境のデータ取得中に、データベース接続エラーが発生しました。直前のエラーメッセージを参照してください。
KATN16178-W	The number of resources has exceeded the maximum number that Tuning Manager can monitor. (item =<上限数を越えた項目>, maximum =<上限数(しきい値)>) リソースの数が監視できる上限数を越えました(項目:<上限数を越えた項目>, 上限数:<上限数(しきい値)>)。	Device Manager で管理している仮想環境のリソース数が Tuning Manager server で監視できる上限数を越えました。Tuning Manager server で監視している仮想環境のリソース数を確認して、Device Manager で管理しているリソースを Tuning Manager server で監視できる上限数以下にしてください。
KATN16181-E	An attempt to count the number of monitoring resources has failed. 監視リソース数のカウントに失敗しました。	Tuning Manager server の監視リソース数のカウント中に、データベース接続エラーが発生しました。直前のエラーメッセージを参照してください。
KATN16183-I	The version of the connected Device Manager is one that is unable to acquire some data.	Tuning Manager server が取得しようとしている情報を接続先の Device Manager から取得できません。

メッセージID	メッセージ	説明
	接続先の Device Manager は、一部の情報が取得できないバージョンです。	接続先の Device Manager をアップグレードしてください。
KATN16184-I	Collection of data from Device Manager about hosts has finished. (finished successfully =<データ取得に成功した Agent-less モードのホストの件数>, interrupted =<データ取得を中断した Agent-less モードのホストの件数>, an error occurred =<データ取得中にエラーが発生した Agent-less モードのホストの件数>, not executed =<データ取得未実行の Agent-less モードのホストの件数>) Device Manager からのデータ取得を完了しました。データ取得に成功したホスト:<データ取得に成功した Agent-less モードのホストの件数>, データ取得を中断したホスト:<データ取得を中断した Agent-less モードのホストの件数>, データ取得中にエラーが発生したホスト:<データ取得中にエラーが発生した Agent-less モードのホストの件数>, データ取得未実行のホスト:<データ取得未実行の Agent-less モードのホストの件数>	—
KATN16185-W	Collection of data about a host was interrupted. (host name =<データ取得対象のホスト名>) ホストのデータ取得を中断しました。ホスト名:<データ取得対象のホスト名>	Device Manager でデータ取得対象のホストの情報を収集中のおそれがあります。Device Manager で該当するホストに関する操作を実行していないことを確認してから、再度ポーリングを実行してください。
KATN16186-W	Collection of data about one or more hosts was interrupted during collection of the data from Device Manager. 一部のホストについて、Device Manager からのデータ取得を中断しました。	データ取得対象のホストの一部で、Device Manager のデータ更新操作またはエラー状態を検出しました。直前のエラーメッセージを参照してください。
KATN16187-I	Collection of data about a host has been canceled. ホストのデータ取得をキャンセルしました。	実行中のポーリングがユーザーによってキャンセルされました。
KATN16188-W	Collection of data about a host was interrupted. (host name =<データ取得対象のホスト名>) ホストのデータ取得を中断しました。ホスト名:<データ取得対象のホスト名>	Device Manager のホストデータ収集が正常に終了していません。Device Manager でのエラー発生状況を確認してから、再度ポーリングを実行してください。Device Manager でエラーが発生していなければ、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16189-E	Collection of data about the host has failed. ホストのデータ取得に失敗しました。	Device Manager からホストのデータ取得中に、データベース接続エラーが発生しました。直前のエラーメッセージを参照してください。
KATN16190-W	The number of resources has exceeded the maximum number that Tuning Manager server can monitor. (host	Device Manager で管理しているホストのリソース数が Tuning Manager server で監視できる上限数を超えました。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	name = <ホスト名>, item = <上限数を 超えた項目>, maximum = <上限数(し きい値)> リソースの数が監視できる上限数を 超えました。ホスト名:<ホスト名>, 項目:<上 限数を超えた項目>, 上限数:<上限数(し きい値)>	Tuning Manager server で監視しているホ ストのリソース数を確認して、Device Manager で管理しているリソースを Tuning Manager server で監視できる上限数以下にしてくだ さい。
KATN16191-W	Invalid data was detected during the collection of host data. (item = <不正な データを検出した項目>) ホストのデータ取得中に不正なデータ を検出しました。項目:<不正なデータを検 出した項目>	Device Manager からホストのデータ取得中 に、不正なデータを検出しました。 Device Manager でのエラー発生状況を確認 してから、再度ポーリングを実行してくだ さい。Device Manager でエラーが発生してい なければ、原因究明と問題の解決をするため に、詳細な調査が必要です。保守情報を採取 し、顧客問い合わせ窓口に連絡してくだ さい。
KATN16195-I	Collection of data about a host finished successfully. (host name = <データ取得 対象のホスト名>) ホストのデータ取得を正常に終了しま した。ホスト名:<データ取得対象のホスト 名>	ホストごとのデータ更新が正常に終了しま した。
KATN16201-E	An unexpected error occurred during aggregation processing. 集約処理中に予期しないエラーが発生し ました。	集約処理中に予期しないエラーが発生しま した。 システム管理者に連絡してください。問題が 解決しない場合は、原因究明と問題の解決を するために、詳細な調査が必要です。保守情 報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡し てください。
KATN16202-E	An unexpected error occurred during aggregation processing. (maintenance information = <読み込んだシステム ファイル名>, <エラーコード>) 集約処理中に予期しないエラーが発生し ました。保守情報:<読み込んだシステム ファイル名>, <エラーコード>	集約機能用システムファイルの読み込みに失 敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が 解決しない場合は、原因究明と問題の解決を するために、詳細な調査が必要です。保守情 報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡し てください。
KATN16302-E	An unexpected error occurred during deletion. 削除処理中に予期しないエラーが発生し ました。	データ保持期間情報のデータベースからの読 み出しに失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が 解決しない場合は、原因究明と問題の解決を するために、詳細な調査が必要です。保守情 報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡し てください。
KATN16303-E	An unexpected error occurred during deletion. 削除処理中に予期しないエラーが発生し ました。	データ削除時にデータベースでエラーが発生 しました。 システム管理者に連絡してください。問題が 解決しない場合は、原因究明と問題の解決を するために、詳細な調査が必要です。保守情 報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡し てください。
KATN16304-E	An unexpected error occurred during deletion. 削除処理中に予期しないエラーが発生し ました。	データベース内の保持期間情報が存在しな い、または複数存在することを検知しまし た。 システム管理者に連絡してください。問題が 解決しない場合は、原因究明と問題の解決を するために、詳細な調査が必要です。保守情

メッセージID	メッセージ	説明
		報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16399-E	An unexpected error occurred during data deletion. データの削除処理において、予期しないエラーが発生しました。	データの削除処理で、予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16400-E	During polling, the interval of time for which Agent data could not be acquired exceeded the monitoring time specified for the alert definition. (Agent = <データ取得不可期間超過が発生したのがエージェントの場合は、エージェントのサービス ID。HDvM の場合は、固定文字列「HDvM」 >)	指定された監視時間を超えて、エージェントからデータを収集できませんでした。 エージェントの起動状態を確認してください。
KATN16401-W	The scheduled polling will be skipped because polling is now being performed.	現在、ポーリング処理が実行中です。
KATN16402-W	The specified processing time for polling was exceeded.	ポーリング処理が長時間掛かっています。初回実行時、長時間停止後の初回ポーリング、およびストレージシステムを新規追加した場合などは長時間掛かるケースがあります。 繰り返し発生する場合は、管理対象の数を減らすか、またはポーリング処理の間隔を長くしてください。
KATN16403-E	An attempt to perform polling has failed. (maintenance information = <保守情報>)	ポーリング処理が失敗しました。 PFM・Manager に接続できなかったおそれがあります。PFM・Manager が起動しているかどうかを確認し、停止している場合は起動してください。 データベースの容量が不足しているおそれがあります。データベースの容量が不足している場合は、運用コマンド(htm-db-setup)を利用して、データベースの容量を追加してください。
KATN16410-E	The database usage threshold has been exceeded. (threshold = <しきい値 >%) データベースの使用率がしきい値を超過しました。しきい値:<しきい値>%	データベースの容量が不足しています。 データ保持期間を短くするか、データベースの容量を追加してください。
KATN16421-E	The SMTP Server could not be connected to for email notifications. (SMTP server = <SMTP Server の指定値 >) email 通知において、SMTP Server に接続できませんでした。SMTP Server:<SMTP Server の指定値 >	指定された SMTP Server に接続できませんでした。 SMTP Server の指定値を見直してください。
KATN16422-E	SMTP authentication for email notifications has failed. email 通知において、SMTP 認証に失敗しました。	SMTP 認証に失敗しました。 SMTP 認証のユーザー名、パスワードを見直してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN16424-I	A test mail for alert notification has been sent.	—
KATN16430-E	Acquisition of alert information has failed. Alert 情報の取得に失敗しました。	Alert 情報取得処理中にデータベースでエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN16500-E	An unexpected error occurred during confirmation of database free space. (maintenance information = <hcmsdbfstatfs コマンドのリターンコード>) データベースの空き容量確認で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<hcmsdbfstatfs コマンドのリターンコード>	データベースの容量確認コマンドでエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN16501-E	An unexpected error occurred during database deletion. (maintenance information = <hcmsdbreclaim コマンドのリターンコード>) データベースの削除処理で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<hcmsdbreclaim コマンドのリターンコード>	データベースの削除処理でエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN16601-E	An unexpected error occurred during processing to update system reports. システムレポートの更新処理で予期しないエラーが発生しました。	データベースに対するデータアクセスでエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN16602-E	An unexpected error occurred during processing to update system reports. システムレポートの更新処理で予期しないエラーが発生しました。	データベースに対するデータアクセスでエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN16603-E	An unexpected error occurred during processing to update system reports. システムレポートの更新処理で予期しないエラーが発生しました。	データベースに対するデータアクセスでエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。
KATN16604-E	An unexpected error occurred during processing to update system reports. (maintenance information = <タスク ID>) システムレポートの更新処理で予期しないエラーが発生しました。保守情報:<タスク ID>	Main Console で内部エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN16700-E	An unexpected error occurred during processing to update system reports. システムレポートの更新処理で予期しないエラーが発生しました。	ポーリング実行制御の初期化に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16701-E	An attempt to start manual polling has failed. 手動ポーリングの実行開始に失敗しました。	現在ポーリングが実行中です。 実行完了をシステムレポートで確認してください。
KATN16702-E	An unexpected error occurred when polling started. ポーリングの実行開始時に予期しないエラーが発生しました。	ポーリングの設定情報取得に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16703-I	Polling was stopped. ポーリング処理は停止されました。	—
KATN16704-E	An error occurred during polling. ポーリング処理でエラーが発生しました。	エージェント一覧の更新処理でエラーが発生しました。 次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> PFM・Manager が起動していないおそれがあります。PFM・Manager が起動しているかどうかを確認し、停止している場合は起動してください。 Device Manager のデータベースでエラーが発生したおそれがあります。連携する Device Manager のホスト名の設定、サービスの起動状態を確認し、再起動してください。 v6.0 より前の Tuning Manager server の起動 URL が登録されているおそれがあります。起動 URL の登録状況を確認して、v6.0 より前の Tuning Manager server の起動 URL が登録されている場合は、その起動 URL を削除してください。起動 URL の登録状況を確認する手順および起動 URL を削除する手順については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」の、インストール後の確認事項について説明している個所を参照してください。
KATN16705-E	An error occurred during polling. ポーリング処理でエラーが発生しました。	ポーリング処理を続行できないエラーが発生しました。 直前のエラーメッセージを参照してください。
KATN16706-W	A temporary error occurred in an Agent during polling. ポーリング処理でエージェントに一時的なエラーが発生しました。	ポーリング処理中、エージェントに一時的なエラーを検知しました。 直前のエラーメッセージを参照してください。
KATN16707-E	The database usage threshold has been exceeded. (threshold = <しきい値 >%)	データベースの容量が不足しています。 データ保持期間を短くするか、データベースの容量を追加してください。

メッセージID	メッセージ	説明
	データベースの使用率がしきい値を超過しました。しきい値:<しきい値>%	
KATN16708-E	An unexpected error occurred during polling. ポーリング処理中に予期しないエラーが発生しました。	ポーリング処理中に予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN16709-W	Polling was not executed because a license has not been registered. ライセンスが未登録であるため、ポーリング処理を実施しませんでした。	ライセンスが登録されていません。 ログイン画面からライセンス画面を起動し、ライセンスの状態を確認してください。
KATN16710-I	Polling processing has finished. ポーリング処理が完了しました。	ポーリング処理が正常終了しました。
KATN16711-W	Polling processing has finished but part of the processing failed. ポーリング処理が完了しました。一部のポーリング処理に失敗しています。	一部のポーリング処理が失敗しました。 システムレポート画面を参照してください。
KATN16712-I	Polling processing will now start. ポーリング処理を開始します。	ポーリング処理を開始しました。
KATN16900-E	An unexpected error occurred during data conversion. (maintenance information = <保守情報>) データ変換処理中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	ポーリング処理中に予期しないエラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17000-E	Initialization for log output processing has failed. (maintenance information = <共通コンポーネントロギングサービスAPIの戻り値>) ログ出力処理の初期化に失敗しました。保守情報:<共通コンポーネントロギングサービスAPIの戻り値>	ログ出力処理の初期化に失敗しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17001-E	An attempt to read an internal file has failed. (maintenance information = <プロパティファイル名>, <エラーコード>) 内部ファイルの読み込みに失敗しました。保守情報:<プロパティファイル名>, <エラーコード>	内部ファイルの読み込みに失敗しました。原因は次のとおりです。 エラーコード 0: ファイルが存在しません。 1: ファイルへのアクセス権限がありません。 2: ファイルの形式が不正です。 事前にバックアップを実施の上、上書きインストールしてください。
KATN17002-E	An attempt to read a property file has failed. (property file name = <プロパティファイル名>, error code = <エラーコード>) プロパティファイルの読み込みに失敗しました。(プロパティファイル名:<プロパティファイル名>, エラーコード:<エラーコード>)	プロパティファイルの読み込みに失敗しました。原因は次のとおりです。 エラーコード 0: ファイルが存在しません。 1: ファイルへのアクセス権限がありません。 2: ファイルの形式が不正です。 エラーコードの値に応じて次の対応を実施してください。 エラーコード

メッセージID	メッセージ	説明
		<p>0: 該当のプロパティファイル適切な場所に配置してください。</p> <p>1: ファイルのアクセス権限の設定を見直してください。</p> <p>2: 正しい形式にしてください。</p> <p>プロパティファイルの詳細については、「1.6」を参照してください。</p>
KATN17003-E	<p>An unknown property has been specified. (property name = <プロパティ名>)</p> <p>未知のプロパティが設定されています。(プロパティ名:<プロパティ名>)</p>	<p>未知のプロパティが設定されています。プロパティの設定を見直してください。</p>
KATN17004-E	<p>A property is not defined. (property name = <未定義のプロパティ名>)</p> <p>プロパティが定義されていません。(プロパティ名:<未定義のプロパティ名>)</p>	<p>プロパティファイルに必要なプロパティが定義されていません。</p> <p>プロパティファイルにプロパティを定義してください。</p>
KATN17005-E	<p>The value specified for a property is invalid. (property file name = <プロパティファイル名>, property name = <プロパティ名>, specified value = <設定値>)</p> <p>プロパティの設定値が不正です。(プロパティファイル名:<プロパティファイル名>, プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<設定値>)</p>	<p>プロパティの設定値が不正です。プロパティの設定を見直してください。</p>
KATN17006-E	<p>An unexpected error occurred. (maintenance information = <メッセージファイルのファミリー名>)</p> <p>予期しないエラーが発生しました。保守情報:<メッセージファイルのファミリー名></p>	<p>メッセージファイルの読み込みに失敗しました。</p> <p>システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN17007-E	<p>An unexpected error occurred. (maintenance information = <ログ出力定義ファイルのファイル名>)</p> <p>予期しないエラーが発生しました。保守情報:<ログ出力定義ファイルのファイル名></p>	<p>ログ出力定義ファイルの読み込みに失敗しました。</p> <p>システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN17008-E	<p>An unexpected error occurred. (maintenance information = <メッセージファイルのファミリー名>, <ロケール名>)</p> <p>予期しないエラーが発生しました。保守情報:<メッセージファイルのファミリー名>, <ロケール名></p>	<p>メッセージファイルの読み込みに失敗しました。</p> <p>システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN17009-E	<p>An unexpected error occurred.</p> <p>予期しないエラーが発生しました。</p>	<p>Main Console で内部エラーが発生しました。</p> <p>システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN17010-W	<p>Log output has failed. (maintenance information = <ログ種別>)</p>	<p>ログの出力に失敗しました。</p> <p>ログ種別</p>

メッセージID	メッセージ	説明
	ログの出力に失敗しました。保守情報:<ログ種別>	<p>htmMessage:メッセージログの出力に失敗しました。</p> <p>htmTrace:トレースログの出力に失敗しました。</p> <p>htmErrorDetail:エラー詳細ログの出力に失敗しました。</p> <p>htmLoggingAdapter:Commons-Logging・共通コンポーネントの出力に失敗しました。ロギング設定ファイルの内容を見直し、サービスを再起動してください。再起動後もメッセージが出力される場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN17012-E	Invalid characters are specified for the value of a property. (property name = <プロパティ名>, specified value = <プロパティファイルに設定された設定値>) プロパティの設定値に使用不可能な文字が使用されています。(プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<プロパティファイルに設定された設定値>)	プロパティの設定値が不正です。プロパティの設定を見直してください。
KATN17013-E	An internal file is invalid. (maintenance information = <プロパティ名>) 内部ファイルが不正です。保守情報:<プロパティ名>	システムプロパティに未知のプロパティが設定されています。事前にバックアップを実施の上、上書きインストールしてください。
KATN17014-E	An internal file is invalid. (maintenance information = <プロパティファイル名>, <プロパティ名>) 内部ファイルが不正です。保守情報:<プロパティファイル名>, <プロパティ名>	システムプロパティが未設定です。事前にバックアップを実施の上、上書きインストールしてください。
KATN17015-E	An internal file is invalid. (maintenance information = <プロパティファイル名>, <プロパティ名>, <設定値>) 内部ファイルが不正です。保守情報:<プロパティファイル名>, <プロパティ名>, <設定値>	システムプロパティの設定値が不正です。事前にバックアップを実施の上、上書きインストールしてください。
KATN17016-E	An error occurred in work directory operation processing. (property file name = <プロパティファイル名>, property name = <プロパティ名>, directory path name = <ディレクトリ名>, error information = <エラー情報>) 作業用ディレクトリの操作処理でエラーが発生しました。(プロパティファイル名:<プロパティファイル名>, プロパティ名:<プロパティ名>, ディレクトリ名:<ディレクトリ名>, エラー情報:<エラー情報>)	<p>作業用ディレクトリの操作処理で、次に示すエラー情報に応じた原因が考えられます。</p> <p>NOT_EXIST: 作業用ディレクトリが存在しません。または、作業用ディレクトリにネットワークドライブが指定されています。</p> <p>INVALID_PERMISSION: 作業用ディレクトリの権限が不正のため、アクセスできません。</p> <p>ROOT_DIRECTORY: 作業用ディレクトリにルートディレクトリが指定されています。</p> <p>TOO_LONG_PATH: 作業用ディレクトリのパスの長さが、128バイトを超えています。</p> <p>NOT_DIRECTORY: 作業用ディレクトリにディレクトリではないパスが指定されています。</p> <p>ACCESS_FAILURE: 作業用ディレクトリのアクセスで予期しないエラーが発生しました。</p>

メッセージID	メッセージ	説明
		<p>エラー情報に応じて次に示す対策を実施してください。</p> <p>NOT_EXIST: ディレクトリ名に表示されるディレクトリの存在を確認し、問題を取り除いてください。または、作業用ディレクトリにローカルディスクを指定してください。</p> <p>INVALID_PERMISSION: ディレクトリ名に表示されるディレクトリの権限を見直し、問題を取り除いてください。</p> <p>ROOT_DIRECTORY: 作業ディレクトリは、ルートディレクトリ以外を指定してください。</p> <p>TOO_LONG_PATH: 作業用ディレクトリは、パスの長さが 128 バイト以内のディレクトリを指定してください。</p> <p>NOT_DIRECTORY: ディレクトリ名に表示されるパスがディレクトリであるかを確認し、問題を取り除いてください。</p> <p>ACCESS_FAILURE: システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p> <p>上記の手順を実施した後、Tuning Manager server を再起動してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。</p>
KATN17051-E	<p>A value outside of the valid range is specified for a property. (property name = <プロパティ名>, specified value = <プロパティファイルに設定された設定値>, minimum specifiable value = <設定可能最小値>, maximum specifiable value = <設定可能最大値>)</p> <p>プロパティの設定値に、設定可能な範囲外の数値が設定されています。(プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<プロパティファイルに設定された設定値>, 設定可能最小値:<設定可能最小値>, 設定可能最大値:<設定可能最大値>)</p>	<p>指定可能範囲を超えた値が設定されています。</p> <p>設定可能最小値以上、設定可能最大値以下の範囲でプロパティを設定し直してください。</p>
KATN17052-E	<p>The specified value for a property is either not a number, or it is outside the range from Integer.MIN_VALUE to Integer.MAX_VALUE. (property name = <プロパティ名>, specified value = <プロパティファイルに設定された設定値>)</p> <p>プロパティの設定値が数字以外か、Integer.MIN_VALUE から Integer.MAX_VALUE の範囲外の値です。(プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<プロパティファイルに設定された設定値>)</p>	<p>数値として認識できない文字が使用されている、または数値として異常な値を指定しています。</p> <p>Integer.MIN_VALUE から Integer.MAX_VALUE の範囲の数値を設定してください。</p>

メッセージID	メッセージ	説明
KATN17053-E	The specified value for a property is either not a number, or it is outside the range from Long.MIN_VALUE to Long.MAX_VALUE. (property name = <プロパティ名>, specified value = <プロパティファイルに設定された設定値>) プロパティの設定値が数字以外か、Long.MIN_VALUE から Long.MAX_VALUE の範囲外の値です。(プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<プロパティファイルに設定された設定値>)	数値として認識できない文字が使用されている、または数値として異常な値を指定しています。 Long.MIN_VALUE から Long.MAX_VALUE の範囲の数値を設定してください。
KATN17054-E	The specified value for a property is not an IP address. (key name = <プロパティ名>, specified value = <プロパティファイルに設定された設定値>) プロパティの設定値が IP アドレスではありません。(キー名:<プロパティ名>, 設定値:<プロパティファイルに設定された設定値>)	設定値が IP アドレス形式ではないか、適切な値ではありません。 IPv4 または IPv6 形式で設定してください。
KATN17055-E	The IP address of the host specified for a property could not be found. (property name = <プロパティ名>, specified value = <プロパティファイルに設定された設定値>) プロパティに設定されたホストの IP アドレスが見つかりません。(プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<プロパティファイルに設定された設定値>)	ホスト名から IP アドレスへの変換に失敗しました。 システムの設定の確認など、ホスト名に IP アドレスが割り当てられていることを確認してください。
KATN17058-E	The length of the value specified for a property is invalid. (property name = <プロパティ名>, specified value = <プロパティファイルに設定された値>, minimum string length = <最小文字列長>, maximum string length = <最大文字列長>) プロパティの設定値の長さが、設定可能な文字列長ではありません。(プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<プロパティファイルに設定された値>, 最小文字列長:<最小文字列長>, 最大文字列長:<最大文字列長>)	プロパティの設定値の文字列長が最小文字列長以上、最大文字列長以下に収まっていません。 最小文字列長から最大文字列長の範囲に収まるように設定してください。
KATN17059-E	The number of values specified for a property is invalid. (property name = <プロパティ名>, number of specified values = <プロパティファイルに設定された値>, minimum number = <最小個数>, maximum number = <最大個数>) プロパティの設定値の個数が不正です。(プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値の個数:<プロパティファイルに設定された値>, 最小個数:<最小個数>, 最大個数:<最大個数>)	設定されたプロパティの個数が最小個数以上、最大個数以下に収まっていません。 指定できるプロパティを確認後、最小個数から最大個数の範囲に収まるように設定値を','(コンマ)区切りで指定してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN17060-E	The value specified for a property is invalid. (property name = <プロパティ名>, specified value = <プロパティファイルに設定された設定値>, specifiable values = <設定可能値>) プロパティの設定値が不正です。(プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<プロパティファイルに設定された設定値>, 設定可能値 : <設定可能値>)	プロパティの設定値が正しくありません。設定可能値に示されている値から、適切な値を選択し設定してください。
KATN17070-E	An unexpected error occurred. 予期しないエラーが発生しました。	外部コマンド呼び出しを行う、子プロセスの処理で内部エラーが発生しました。 Tuning Manager server および PFM-Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17071-E	An unexpected error occurred. (maintenance information = <コマンドライン>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報:<コマンドライン>	子プロセスの終了待ち中にタイムアウトが発生しました。 Tuning Manager server および PFM-Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17072-E	An unexpected error occurred. (maintenance information = <コマンドライン>, <エラー詳細>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報:<コマンドライン>, <エラー詳細>	<エラー詳細>を参照してください。 Tuning Manager server および PFM-Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17073-E	An unexpected error occurred. (maintenance information = <コマンドライン>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報:<コマンドライン>	子プロセスの起動に失敗しました。 Tuning Manager server および PFM-Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17074-E	The value specified for a property is invalid. (property name = <プロパティ名>, specified value = <プロパティファイルに設定された設定値>) プロパティの設定値が不正です。(プロパティ名:<プロパティ名>, 設定値:<プロパティファイルに設定された設定値>)	プロパティの設定値が不正です。
KATN17200-E	An unexpected error occurred.	内部処理エラーが発生しました。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	予期しないエラーが発生しました。	Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17201-E	Initialization failed because the version of the database schema is invalid. (maintenance information =<データベースのスキーマバージョンを表す数字>) データベースのスキーマバージョンが不正なため、初期化処理に失敗しました。保守情報:<データベースのスキーマバージョンを表す数字>	データベースのスキーマバージョンがインストールされている Tuning Manager server のバージョンよりも新しいです。インストールされている Tuning Manager server のバージョンをバージョンアップするか、インストールされている Tuning Manager server 環境で取得したバックアップデータをリストアしてください。
KATN17203-E	A database that is newer than the version of Tuning Manager server being installed was detected during updating the Tuning Manager server database. Update the version of the Tuning Manager server, or restore the database by using a backup that is this version or earlier. (maintenance information =<検知したデータベースのスキーマバージョンを表す数字>) Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップ中に現在インストールされている Tuning Manager server のバージョンより新しいデータベースを検知しました。Tuning Manager server のバージョンを上げるか、本バージョンか本バージョン以前のデータベースのバックアップからデータベースをリストアしてください。保守情報:<検知したデータベースのスキーマバージョンを表す数字>	インストールされている Tuning Manager server に対応するスキーマよりも新しいバージョンのデータベースがインストールされました。 1. インストールされている Tuning Manager server をアップグレードしてください。 2. インストールされている Tuning Manager server の環境で取得したバックアップデータをリストアしてください。 上記の対策を実施したあとで、サービスを再起動してください。
KATN17205-E	Database capacity is insufficient during updating the Tuning Manager server database. Please expand the RD area. (maintenance information =<保守情報>) Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップ中にデータベースの容量が不足しました。データベースを拡張してください。保守情報:<保守情報>	Tuning Manager server のデータベースの総容量が不足しています。 htm-db-setup コマンドを使用して、データベースの総容量を追加したあとに、サービスを再起動してください。
KATN17206-E	The database work area is insufficient during updating the Tuning Manager server database. Please expand the database work area. Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップ中にデータベースの作業領域が不足しました。データベースの作業領域を拡張してください。	Tuning Manager server のデータベースの作業領域が不足しています。 「7.2.7」を参照して、データベースの作業領域を拡張したあとに、サービスを再起動してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KATN17209-E	An unexpected error occurred during updating the Tuning Manager server database. (maintenance information = <保守情報>) Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップ中に予期しないエラーが発生しました。保守情報:<保守情報>	Tuning Manager server のデータベースへのアクセス中に内部エラーが発生しました。原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17210-I	The version update of the Tuning Manager server database started. (maintenance information = <保守情報>) Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップを開始しました。保守情報:<保守情報>	Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップを開始しました。
KATN17211-I	The version update of the Tuning Manager server database ended. Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップが終了しました。	Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップが終了しました。
KATN17212-I	The version update of the Tuning Manager server database is now in progress. (<何個目のバージョンアップかを示す値><バージョンアップの総数>, maintenance information = <保守情報>) Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップの実行中です。(<何個目のバージョンアップかを示す値><バージョンアップの総数>) 保守情報:<保守情報>	Tuning Manager server のデータベースのバージョンアップを実行しています。
KATN17213-E	The version update of the Tuning Manager server database failed. An error occurred with work directory operation processing. (cause-code = <要因コード>, directory-pathname = <ディレクトリパス名>) データベースのバージョンアップに失敗しました。作業用ディレクトリの操作処理でエラーが発生しました。(要因コード:<要因コード>, ディレクトリパス名:<ディレクトリパス名>)	作業用ディレクトリの操作処理でエラーが発生しました。次に示す要因コードに応じた原因が考えられます。 要因コード NOT_EXIST: 作業用ディレクトリが存在しません。または、作業用ディレクトリにネットワークドライブを指定していません (Windows の場合に出力されることがあります)。 INVALID_PERMISSION: 作業用ディレクトリの権限が不正のため、アクセスできません。 ROOT_DIRECTORY: 作業用ディレクトリにルートディレクトリを指定していません。 TOO_LONG_PATH: 作業用ディレクトリのパスの長さが、128 バイトを超えています。 NOT_DIRECTORY: 作業用ディレクトリにディレクトリではないパスを指定していません。 ACCESS_FAILURE: 作業用ディレクトリのアクセスで予期しないエラーが発生しました。 要因コードに応じて次に示す対策を実施してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
		<p>要因コード</p> <p>NOT_EXIST:ディレクトリパス名に表示されるディレクトリの存在を確認し、問題を取り除いてください。または、作業用ディレクトリは、ローカルディスクを指定してください。</p> <p>INVALID_PERMISSION:ディレクトリパス名に表示されるディレクトリのアクセス権限を見直し、問題を取り除いてください。</p> <p>ROOT_DIRECTORY:作業用ディレクトリは、ルートディレクトリ以外を指定してください。</p> <p>TOO_LONG_PATH:作業用ディレクトリは、パスの長さが 128 バイト以内のディレクトリを指定してください。</p> <p>NOT_DIRECTORY:ディレクトリパス名に表示されるパスがディレクトリであるかを確認し、問題を取り除いてください。</p> <p>ACCESS_FAILURE:システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。</p> <p>上記の対策を実施したあと、Tuning Manager server を再起動してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口ご連絡してください。</p>
KATN17214-E	<p>The version update of the Tuning Manager server database failed. There might not be enough disk space in the work directory. (directory-pathname = <ディレクトリパス名>)</p> <p>データベースのバージョンアップに失敗しました。作業用ディレクトリのディスク容量が不足している可能性があります。(ディレクトリパス名:<ディレクトリパス名>)</p>	<p>データベースのバージョンアップが、次の原因で失敗しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> root ユーザーのシステム資源制限(ファイルサイズ上限値)を超過しました (Solaris および Linux の場合に該当する原因です)。 作業用ディレクトリのディスク容量が不足しました。 <p>原因に応じて次の手順を実施したあと、Tuning Manager server を再起動してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> root ユーザーのシステム資源制限超過の場合 root ユーザーのシステム制限値(ファイルサイズ上限値)を、htm-db-status コマンドで表示されたデータベース使用量の 30%以上に設定してください。 システム制限値の設定は、OS の limit コマンド、または ulimit コマンドで確認してください。 作業用ディレクトリのディスク容量不足の場合 ディスクの空き容量として、htm-db-status コマンドで表示されたデータベース使用量の 30%以上を確保してください。

メッセージID	メッセージ	説明
		問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17215-E	The version update of the Tuning Manager server database failed. An error occurred while deleting a file or directory under the work directory. (directory-pathname = <ディレクトリパス名>) データベースのバージョンアップに失敗しました。作業用ディレクトリ配下のディレクトリ、またはファイル削除でエラーが発生しました。(ディレクトリパス名:<ディレクトリパス名>)	作業用ディレクトリ配下のディレクトリまたはファイルの削除に失敗しました。削除対象のディレクトリまたはファイルに、ユーザーまたはほかのプログラムがアクセスしている可能性があります。 作業用ディレクトリ配下のディレクトリまたはファイルに、アクセスしたりロックしたりする可能性のあるアプリケーションまたはサービスを停止したあと、 Tuning Manager server を再起動してください。
KATN17216-E	The version update of the Tuning Manager server database failed. A file I/O error occurred. (file-pathname = <ファイルパス名>) データベースのバージョンアップに失敗しました。ファイルの入出力エラーが発生しました。(ファイルパス名:<ファイルパス名>)	ファイルの入出力エラーが発生しました。次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ファイルに書き込み権限がありません。 ファイルがロックされています。 次の対処をしてください。 <ul style="list-style-type: none"> ファイルの書き込み権限があるか確認してください。 ファイルをロックする可能性のあるアプリケーションまたはサービスを停止してください。 問題を解決したあと、 Tuning Manager server を再起動してください。
KATN17217-E	The version update of the Tuning Manager server database failed. There might not be enough disk space in the work directory, or the work directory might have failed to be deleted. (directory-pathname = <ディレクトリパス名>) データベースのバージョンアップに失敗しました。作業用ディレクトリのディスク容量不足、および作業用ディレクトリ削除に失敗した可能性があります。(ディレクトリパス名:<ディレクトリパス名>)	データベースのバージョンアップが、次の原因で失敗しました。 <ul style="list-style-type: none"> root ユーザーのシステム資源制限(ファイルサイズ上限値)を超過しました(Solaris および Linux の場合に該当する原因です)。 作業用ディレクトリのディスク容量が不足しました。また、作業用ディレクトリの削除にも失敗しました。 原因に応じて次の手順を実施したあと、 Tuning Manager server を再起動してください。 <ul style="list-style-type: none"> root ユーザーのシステム資源制限超過の場合 root ユーザーのシステム制限値(ファイルサイズ上限値)を htm-db-status コマンドで表示されたデータベース使用量の30%以上に設定してください。 システム制限値の設定は、OS の limit コマンド、または ulimit コマンドで確認してください。 作業用ディレクトリのディスク容量不足の場合 ディスクの空き容量として、htm-db-status コマンドで表示されたデータベース使用量の30%以上を確保してください。 上記を対処したあと、作業用ディレクトリ配下のディレクトリまたはファイルに、アクセ

メッセージ ID	メッセージ	説明
		スしたりロックしたりする可能性のあるアプリケーションまたはサービスを停止した状態で、 Tuning Manager server を再起動してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17218-I	The restoration of the monitoring host data started. (host name = <ホスト名>) 監視ホストのデータの修復を開始しました。(ホスト名:<ホスト名>)	監視ホストのデータの修復を開始しました。
KATN17219-I	The restoration of the monitoring host data finished. (host name = <ホスト名>) 監視ホストのデータの修復を終了しました。(ホスト名:<ホスト名>)	監視ホストのデータの修復を終了しました。
KATN17220-E	An unexpected inconsistency was detected during the database restoration. (maintenance information = <保守情報>) DB 修復中に予期しない不整合状態を検出しました。(保守情報:<保守情報>)	データベースの修復中に予期しない不整合状態を検出しました。 原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17400-E	An unexpected error occurred. (maintenance information = <画面定義データファイル名>, <エラーコード>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報:<画面定義データファイル名>, <エラーコード>	画面定義データファイルの読み込みに失敗しました。 原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN17401-E	An unexpected error occurred. (maintenance information = <画面定義データファイル名>, <エラーコード>) 予期しないエラーが発生しました。保守情報:<画面定義データファイル名>, <エラーコード>	画面定義データファイルの読み込みに失敗しました。 原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN18002-E	The response to the request to acquire performance information from Device Manager failed because the request from Device Manager is invalid. (Device Manager host name:<Device Manager ホスト名>) Device Manager からの性能情報取得要求が無効なため、Device Manager への応答を中断しました。(Device Manager ホスト名:<Device Manager ホスト名>)	Tuning Manager server ホストと Device Manager ホストの時刻差が 5 分より大きい状態で、Device Manager が Tuning Manager server から性能情報を取得しようとした。または、無効な性能情報取得要求が送信されました。 Tuning Manager server ホストと Device Manager ホストの時刻を合わせてください。 Tuning Manager server ホストの時刻を変更する手順については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」の、インストール時の注意事項について説明している箇所を参照してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KATN18003-E	The response to the request to acquire performance information from Device Manager failed because the version of Device Manager is not compatible.	互換性のない Device Manager から性能情報取得を要求されました。 Tuning Manager server および Device Manager のバージョンを、性能情報取得機能

メッセージID	メッセージ	説明
	(Device Manager host name: <Device Manager ホスト名>) Maintenance information: <保守情報 1>, <保守情報 2> Device Manager が互換性のないバージョンのため、Device Manager からの性能情報取得要求への応答を中断しました。(Device Manager ホスト名: <Device Manager ホスト名>) 保守情報: <保守情報 1>, <保守情報 2>	をサポートしているバージョンにしてください。
KATN18004-E	Communication with Device Manager failed during the response to the request to acquire performance information from Device Manager. (Device Manager host name: <Device Manager ホスト名>) Device Manager からの性能情報取得要求への応答中に Device Manager との通信に失敗しました。(Device Manager ホスト名: <Device Manager ホスト名>)	Device Manager からの性能情報取得要求への応答中に Device Manager との通信に失敗しました。 Device Manager とのネットワーク状態を確認してください。
KATN18005-E	An unexpected error occurred during the response to the request to acquire performance information from Device Manager. (Device Manager host name: <Device Manager ホスト名>) Device Manager からの性能情報取得要求への応答中に予期せぬエラーが発生しました。(Device Manager ホスト名: <Device Manager ホスト名>)	Device Manager からの性能情報取得要求への応答中に内部エラーが発生しました。 システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。

(2) Performance Reporter が出力するメッセージの一覧

表 7-26 Performance Reporter が出力するメッセージ

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJA0001-E	<installDir> is not correctly specified in the configuration file. 初期設定ファイル (config.xml) に <installDir> の指定がありません。	<installDir> の指定はインストーラーが行うため、ユーザーは編集できません。 (S) 処理を中断します。 (O) アプリケーションを再インストールしてください。
KAVJA0002-E	The directory specified for the value of <installDir> in the configuration file does not exist. Path name: <指定インストールディレクトリ> 初期設定ファイル (config.xml) の <installDir> に指定されたディレクトリが存在しません。 パス名: <指定インストールディレクトリ>	<installDir> の指定はインストーラーが行うため、ユーザーは編集できません。 (S) 処理を中断します。 (O) アプリケーションを再インストールしてください。
KAVJA0003-E	The value of <installDir> in the configuration file is not a directory. Path name: <指定インストールディレクトリ>	<installDir> の指定はインストーラーが行うため、ユーザーは編集できません。 (S) 処理を中断します。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	初期設定ファイル (config.xml) の <installDir> に指定されたパスはディレクトリではありません。 パス名 : <指定インストールディレクトリ>	(O) アプリケーションを再インストールしてください。
KAVJA0004-E	An attempt to access the directory specified by <installDir> in the configuration file failed. Path name: <指定インストールディレクトリ> 初期設定ファイル (config.xml) の <installDir> に指定されたディレクトリにアクセスできません。 パス名 : <指定インストールディレクトリ>	ディレクトリに読み取り権限がなく、アクセスできません。 (S) 処理を中断します。 (O) ディレクトリに対するアクセス権限を確認してください。
KAVJA0005-E	During the initialization, a memory shortage occurred. Maintenance information: <保守情報, モジュール名> 初期化中にメモリー不足が発生しました。 保守情報 : <保守情報, モジュール名>	サーバ側でメモリー不足が発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) 不要なアプリケーションやウィンドウを終了し、メモリーを確保してください。
KAVJA0006-E	The initialization of the logging function failed. Maintenance information: <保守情報> ログ機能の初期化に失敗しました。 保守情報 : <保守情報>	ログ機能の初期化に失敗しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJA0007-E	The path to the initialization information file is not set in the java execution environment. Java のシステム環境に初期設定ファイル (config.xml) のパスの指定がありません。	Java のシステム環境に初期設定ファイルのパスの指定がありません。 (S) 処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJA0008-E	The specified initialization information file of the java execution environment was not found. Path name: <初期設定ファイルパス> Java のシステム環境に指定された初期設定ファイル (config.xml) が見つかりません。 パス名 : <初期設定ファイルパス>	Java のシステム環境に指定された初期設定ファイルが見つかりません。 (S) 処理を中断します。 (O) アプリケーションを再インストールしてください。
KAVJA0009-E	The specified initialization information file of the java execution environment is not a file. Path name: <初期設定ファイルパス> Java のシステム環境に指定された初期設定ファイル名はファイルではありません。 パス名 : <初期設定ファイルパス>	Java のシステム環境に指定された初期設定ファイル名はファイルではありません。 (S) 処理を中断します。 (O) アプリケーションを再インストールしてください。
KAVJA0010-E	An attempt to read the specified initialization information file of the java execution environment failed because of a lack of permission. Path name: <初期設定ファイルパス> Java のシステム環境に指定された初期設定ファイル (config.xml) に読み取り権がなく、アクセスできません。	Java のシステム環境に指定された初期設定ファイルに読み取り権がなく、アクセスできません。 (S) 処理を中断します。 (O) 初期設定ファイルに対するアクセス権限を確認してください。

メッセージID	メッセージ	説明
	パス名 : <初期設定ファイルパス>	
KAVJA0011-E	A severe error due to an invalid configuration was detected while the configuration file was being read. Path name: <初期設定ファイルパス> 初期設定ファイル (config.xml) の読み込み時に重大な構成エラーが検出されました。 パス名 : <初期設定ファイルパス>	<エラー原因> (詳細はメッセージ本文のあとに表示されます) (S) 処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJA0012-E	A syntax error was found while the configuration file was being read. Path name: <初期設定ファイルパス> Line: <行番号> 初期設定ファイル (config.xml) の読み込み時に構文エラーが検出されました。 パス名 : <初期設定ファイルパス> 行番号 : <行番号>	<エラー原因> (詳細はメッセージ本文のあとに表示されます) (S) 処理を中断します。 (O) エラー内容に従い、原因を取り除いて再実行してください。
KAVJA0013-E	An error was detected during the reading of the configuration file. Path name: <初期設定ファイルパス> 初期設定ファイル (config.xml) の読み込み時にエラーが検出されました。 パス名 : <初期設定ファイルパス>	<エラー原因> (詳細はメッセージ本文のあとに表示されます) (S) 処理を中断します。 (O) エラー内容に従い、原因を取り除いて再実行してください。
KAVJA0014-E	An error was detected while a process was terminating. Maintenance information: <保守情報, 原因> プロセスの終了時にエラーを検出しました。 保守情報 : <保守情報, 原因>	プロセスの終了時にエラーを検出しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJA0015-E	An I/O error occurred during the reading of the configuration file. Path name: <初期設定ファイルパス> Error information: <エラー情報> 初期設定ファイル (config.xml) の読み込み中に入出力エラーを検出しました。 パス名 : <初期設定ファイルパス> エラー情報 : <エラー情報>	初期設定ファイルの読み込み中に入出力エラーを検出しました。 (S) 処理を中断します。 (O) エラー内容に従い、原因を取り除いて再実行してください。
KAVJA0016-E	A directory referenced during system initialization does not exist. Maintenance information = <(ディレクトリ名)> システムの初期化時に参照するディレクトリが存在しません。 保守情報 : <(ディレクトリ名)>	ディレクトリが存在しません。 (S) 処理を中断します。 (O) ディレクトリを確認して、再実行してください。
KAVJA0017-E	Access permissions for a directory referenced during system initialization are unavailable. Maintenance information = <(ディレクトリ名)> システムの初期化時に参照するディレクトリへのアクセス権がありません。 保守情報 : <(ディレクトリ名)>	ディレクトリに読み取り権限がなく、アクセスできません。 (S) 処理を中断します。 (O) ディレクトリに対するアクセス権限を確認してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJA4001-E	An internal inconsistency was detected during the initialization. Maintenance information: <保守情報> 初期化中に内部矛盾を検出しました。 保守情報 : <保守情報>	初期化中に内部矛盾を検出しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJA4002-E	An unexpected error occurred during initialization. Module name: <モジュール名> Maintenance information: <保守情報> 初期化中に予期しないエラーが発生しました。 モジュール名 : <モジュール名> 保守情報 : <保守情報>	初期化中に予期しないエラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJA4003-E	An attempt to read the message resource file failed. File name: <リソースファイル名> Maintenance information: <保守情報, 原因> メッセージリソースファイルの読み込みに失敗しました。 ファイル名 : <リソースファイル名> 保守情報 : <保守情報, 原因>	メッセージリソースファイルの読み込みに失敗しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJA5002-I	The activation process has completed. プロセスの起動処理が完了しました。	プロセスの起動処理が完了しました。 (S) プロセスの起動処理が完了します。
KAVJA5004-I	The termination process has completed. プロセスの終了処理が完了しました。	プロセスの終了処理が完了しました。 (S) プロセスの処理を完了します。
KAVJF2501-E	An unexpected error occurred during an attempt to access the report cache file. Report output will be canceled. レポートキャッシュファイルアクセス中に予期せぬエラーが発生しました。 レポートの出力を中断します。	処理中に予期せぬエラーが発生しました。 (S) レポートの出力を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJF2502-E	An I/O error occurred during an attempt to access the report cache file. Report output will be canceled. レポートキャッシュファイルアクセス中に入出力エラーが発生しました。 レポートの出力を中断します。	処理中にファイル入出力エラーが発生しました。 (S) レポートの出力を中断します。 (O) 再度レポート画面から印刷画面を表示してください。 解決しない場合は、jpcprras コマンドで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。
KAVJH0001-E	An unexpected error was detected while initiating the system. Module Name: DESCRIPTION Class Name: <原因となるクラス名> Maintenance Information: <原因 (保守メッセージ) > システムの初期化時に予期しないエラーを検出しました。 モジュール名 : DESCRIPTION クラス名 : <原因となるクラス名>	システムの初期化時に予期しないエラーを検出しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
	保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	
KAVJH0002-E	An attempt to read a data-model file has failed. Module Name: DESCRIPTION Class Name: <原因となるクラス名> Maintenance Information: <原因 (保守メッセージ) > データモデルファイルの読み込みに失敗しました。 モジュール名 : DESCRIPTION クラス名 : <原因となるクラス名> 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	データモデルファイルの保存ディレクトリにアクセスできません。 (S) 処理を中断します。 (O) インストール先ディレクトリ/resources 以下のファイルが存在するか、またはアクセスできるかを確認してください。
KAVJH0003-E	An attempt to read a data-model file has failed. Maintenance Information: <原因 (保守メッセージ) > データモデルファイルの読み込みに失敗しました。 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	データモデルファイルにアクセス権限がありません。 (S) Description 画面の表示処理を中断します。 (O) インストール先ディレクトリ/resources 以下のファイルが存在するか、またはアクセスできるかを確認してください。
KAVJH0004-E	An attempt to read a data-model file has failed. Maintenance Information: <原因 (保守メッセージ) > データモデルファイルの読み込みに失敗しました。 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	データモデルファイルが壊れています。 (S) Description 画面の表示処理を中断します。 (O) セットアップコマンドを再実行してください。
KAVJH0005-E	An unexpected error has occurred. Maintenance Information: <原因 (保守メッセージ) > 予期しないエラーが発生しました。 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	予期しないエラーが発生しました。 (S) Description 画面の表示処理を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJJ0001-E	Select a display format (Graph, List or Table). 表示形式 (グラフ, 一覧, 表) が選択されていません。	表示形式は一つ以上選択する必要があります。 (S) 処理を中断します。 (O) 表示形式を一つ以上選択してください。
KAVJJ0002-E	Specify the required items. Item Name:<{項目名(開始日時,終了日時,最大レコード数,フィルタ式(フィルタ式番号),更新間隔,表示数) 項目名(ユーザ名,パスワード) 項目名(初期値,最小値,表示数)}> 入力されていない項目があります。 項目名 : <{項目名 (開始日時,終了日時,最大レコード数, フィルタ式 (フィルタ式番号), 更新間隔, 表示数) 項目名 (ユーザ名, パスワード) 項目名 (初期値, 最小値, 表示数)}>	入力が必要な項目に値が入っていません。 (S) 処理を中断します。 (O) 値を入力してください。
KAVJJ0003-E	The drilldown target report definition was not found. ドリルダウン先のレポート定義が削除されて見つかりません。	ドリルダウン先のレポート定義が削除されました。 (S) 処理を中断します。 (O)

メッセージ ID	メッセージ	説明
		ドリルダウン先のレポート定義が存在するか見直してください。
KAVJJ2551-E	The selected report doesn't correspond to the Multiple Agents specification. レポートが複数エージェントに対応していません。 ブックマークに登録できません。	レポート種別が履歴 (複数のエージェント) 以外の場合、複数のエージェントは指定できません。 (S) 処理を中断します。 (O) レポート種別が履歴 (複数のエージェント) を指定するか、またはエージェントを一つだけ指定してください。
KAVJJ5001-I	Close this window once the file has been downloaded. ファイルのダウンロード後、このウィンドウを閉じてください。	レポートの出力 (CSV 出力) が実行され、ダウンロード用のウィンドウが開きました。 (O) CSV 出力のダウンロードが完了したら、ウィンドウを閉じてください。
KAVJJ6601-E	The service is now starting. サービスは起動中です。	サービスは起動中です。 (S) ステータス情報としてインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ6602-E	The service is active. サービスはアクティブです。	サービスはアクティブです。 (S) ステータス情報としてインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ6603-E	The service is now stopping. サービスは停止処理中です。	サービスは停止処理中です。 (S) ステータス情報としてインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ6604-E	The service is currently stopped. サービスは停止しています。	サービスは停止しています。 (S) ステータス情報としてインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ6605-I	Service: <サービス名> the state of the service : The service stopped. サービス : <サービス名> 状態 : サービスは停止しました。	サービス : <サービス名> 状態 : サービスは停止しました。 (S) サービスの停止コマンド実行結果としての戻り値を基にインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ6606-I	Service: <サービス名> the state of the service : Service was forced terminated. サービス : <サービス名> 状態 : サービスを強制終了しました。	サービス : <サービス名> 状態 : サービスを強制終了しました。 (S) サービスの強制終了コマンド実行結果としての戻り値を基にインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ6607-I	Service: <サービス名> the state of the service : An attempt to force the service to terminate has failed. サービス (<サービス名>) の強制終了に失敗しました。	サービス (<サービス名>) の強制終了に失敗しました。 (S) サービスの強制終了コマンド実行結果としての戻り値を基にインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ6608-I	The service is active. [Stand-alone mode] サービスはアクティブです [スタンドアロンモード]	サービスはアクティブです [スタンドアロンモード]。 (S)

メッセージID	メッセージ	説明
		ステータス情報としてインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ6609-I	The service is processing a request. サービスはリクエスト処理中です	サービスはリクエスト処理中です。 (S) ステータス情報としてインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ6610-I	The service is processing a request. [Stand-alone mode] サービスはリクエスト処理中です [スタンドアロンモード]	サービスはリクエスト処理中です [スタンドアロンモード]。 (S) ステータス情報としてインフォメーションフレーム上にメッセージを表示します。
KAVJJ8001-Q	<レポート数> reports will be displayed. Each report will be displayed in a separate report window. Do you want to continue? <レポート数> レポート表示しようとしています。 それぞれのレポートに対してレポートウィンドウが表示されます。続行しますか？	複数のレポートを表示しようとしてしました。 (S) 応答を待ちます。 (O) 続行する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。表示しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8002-Q	Do you want to delete the "<フォルダ名称>" folder? フォルダ"<フォルダ名称>"を削除してもよろしいですか？	フォルダを削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) フォルダを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8003-Q	Do you really want to delete the report definition "<フォルダパス/レポート名称>"? レポート定義"<フォルダパス/レポート名称>"を削除してもよろしいですか？	レポート定義を削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) レポート定義を削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8004-Q	The folder <フォルダ名> and everything in it will be deleted. Is this OK? フォルダ"<フォルダ名>"とその配下のすべてのデータを削除します。よろしいですか？	フォルダとその配下のすべてのデータを削除してもよいか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) フォルダおよび配下のデータを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8005-Q	When using one of the [Line], [Area], and [Stacked Area] graph formats, only one field can be selected for the Multi-Instance's or the Multi-Agent's graph window. If you select more than one, the graph format will change to [Column] . Is this OK? グラフ形式が [折れ線] [面] [積み上げ面] のときは、マルチインスタンスまたはマルチエージェントのグラフウィンドウには一つのフィールドしか選択できません。複数選択するとグラフ形式が [集合縦棒] に変わります。よろしいですか？	フィールドを選択するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) フィールドを選択する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。選択しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJJ8006-Q	A report of the same name (<レポート名>) already exists in the specified folder. Do you want to overwrite it? 指定されたフォルダには同一名称のレポートがすでに存在します。(<レポート名>) 上書きしてもよろしいですか？	レポートを上書きするか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) 上書きしてもよい場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8007-Q	Changing the report type will clear the record and field settings. Do you want to continue? レポート種別を変更すると、レコードとフィールドの設定がクリアされます。よろしいですか？	レポート種別を変更するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) 設定が無効となっても、レポート種別を変更する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8008-Q	All compound conditions for the selected conditional expression will be deleted. Is this OK? 選択された条件式の複合条件がすべて削除されます。よろしいですか？	条件式の複合条件をすべて削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) 複合条件を削除してもよい場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8009-Q	The report wizard settings will be cancelled, and the wizard will end. Is this OK? レポートウィザードの設定を無効にして終了します。よろしいですか？	レポートウィザードを終了するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) 設定が無効となっても、終了してもよい場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8010-Q	The contents of the information frame will be disabled. Do you want to continue? インフォメーションフレームの内容は無効となります。よろしいですか？	インフォメーションフレームの内容を無効にして、別フレームを操作するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) 設定が無効となっても、別フレームで操作する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8011-Q	Changing the product will clear the record and field settings. Do you want to continue? プロダクトを変更すると、レコードとフィールドの設定がクリアされます。よろしいですか？	プロダクトを変更するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) プロダクトを変更する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8012-Q	Changing the record will clear the field settings. Do you want to continue? レコードを変更すると、フィールドの設定がクリアされます。よろしいですか？	レコードを変更するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) 設定が無効となっても、レコードを変更する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJJ8013-Q	Do you want to delete the "<ブックマーク名>" bookmark ? ブックマーク"<ブックマーク名>"を削除してもよろしいですか？	ブックマークを削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) ブックマークを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8014-Q	When the registered report "<登録レポート名>" is deleted and a bookmark becomes empty, the "<ブックマーク名>" bookmark will also be deleted. Do you want to continue? 登録レポート"<登録レポート名>"を削除して、ブックマークが空になる場合は、ブックマーク"<ブックマーク名>"も削除します。よろしいですか。	登録レポートを削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) 登録レポートを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8015-Q	A [Display key] field cannot be selected when the graph format is [Line] , [Area] , or [Stacked Area] . If you select the [Display key] field, the graph format will change to [Column] . Is this OK? グラフ形式が [折れ線] [面] [積み上げ面] のときは、表示キーのフィールドは選択できません。表示キーのフィールドを選択するとグラフ形式が [集合縦棒] に変わります。よろしいですか？	フィールドを選択するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) フィールドを選択する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。選択しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8501-Q	Do you want to delete the following agent? (<エージェント名>) 次のエージェントを削除してもよろしいですか？ (<エージェント名>)	エージェントを削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) エージェントを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8502-Q	Do you want to delete the following folder and all data in it? (<フォルダ名>) 次のフォルダとその配下のすべてのデータを削除してもよろしいですか？ (<フォルダ名>)	フォルダを削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) フォルダを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8526-Q	Do you want to delete the following alarm table and all data in it? (<アラームテーブル名>) 次のアラームテーブルとその配下のすべてのデータを削除してもよろしいですか？ (<アラームテーブル名>)	アラームテーブルを削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) アラームテーブルを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8527-Q	Do you want to delete the following alarm? (<アラーム名>) 次のアラームを削除してもよろしいですか？ (<アラーム名>)	アラームを削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) アラームを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJJ8528-Q	Do you want to unbind the alarm table? アラームテーブルのアンバインドを実行してもよろしいですか？	アラームテーブルのアンバインドを実行するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) アラームテーブルのアンバインドを実行する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。アンバインドを実行しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8529-Q	Do you want to the delete all conditional expressions? すべての条件式を削除してもよろしいですか？	すべての条件式を削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) すべての条件式を削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。条件式を削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8530-Q	Do you want to delete the selected condition(s)? 選択されている条件式を削除してもよろしいですか？	選択されている条件式を削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) 選択されている条件式を削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。条件式を削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8531-Q	The alarm wizard settings will not be set and the wizard will end. Is this OK? アラームウィザードの設定を無効にして終了します。よろしいですか？	アラームウィザードを終了するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) 設定が無効となっても終了する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8551-Q	Do you want to delete the following baseline? (<ベースライン>) 次のベースラインを削除してもよろしいですか？ (<ベースライン>)	ベースラインを削除するか確認します。 (S) 応答を待ちます。 (O) ベースラインを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
KAVJJ8601-Q	Do you want to stop the service "<サービス名>"? サービス (<サービス名>) を停止してもよろしいですか？	サービスの停止コマンドを実行してもよいか確認します。 (S) 応答を待ちます。[OK] ボタンがクリックされた場合はサービスを停止し、[キャンセル] ボタンがクリックされた場合は何もしません。 (O) ダイアログに表示される [OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンを選択してください。
KAVJJ8602-Q	An attempt to stop the service (<サービス名>) has failed. Do you want to force it to terminate? サービス (<サービス名>) の停止に失敗しました。強制終了しますか？	サービスの停止コマンドが失敗した場合に、強制終了してもよいか確認します。 (S)

メッセージID	メッセージ	説明
		<p>応答を待ちます。[OK] ボタンがクリックされた場合はサービスを強制終了し、[キャンセル] ボタンがクリックされた場合は何もしません。</p> <p>(O)</p> <p>ダイアログに表示される [OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンを選択してください。</p>
KAVJJ8626-Q	<p>Importing the alarm table will overwrite the existing alarm table. Do you want to continue?</p> <p>インポートすると既存のアラームテーブルが上書きされます。インポートを継続しますか？</p>	<p>アラームテーブルをインポートするかを確認します。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p> <p>(O)</p> <p>上書きしてもよい場合は [OK] ボタンを、取り消す場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。</p>
KAVJJ8627-Q	<p>Importing the report definition will overwrite the existing report definition. Do you want to continue?</p> <p>インポートすると既存のレポート定義が上書きされます。インポートを継続しますか？</p>	<p>レポート定義をインポートするかを確認します。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p> <p>(O)</p> <p>上書きしてもよい場合は [OK] ボタンを、取り消す場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。</p>
KAVJJ8651-Q	<p>Do you want to delete the user (<ユーザー名>)?</p> <p>次のユーザーを削除してもよろしいですか？ (<ユーザー名>)</p>	<p>ユーザーを削除するか確認します。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p> <p>(O)</p> <p>ユーザーを削除する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。削除しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。</p>
KAVJJ8652-Q	<p>This password is not recommended. Do you want to continue?</p> <p>Avoid passwords that are:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 5 or fewer characters - Only letters or only numbers - The same as the user name <p>推奨されないパスワードです。処理を続行してもよろしいですか？</p> <p>次のパスワードは推奨されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5文字以下 ・ 英文字または数字のみ ・ ユーザー名と同じ 	<p>推奨されないパスワードを使用するか確認します。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p> <p>(O)</p> <p>処理を続行する場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。処理を続行しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。</p>
KAVJJ8653-Q	<p>A user with the same name already exists. This user can only be overwritten if the user is not logged in. Do you want to overwrite the user?</p> <p>同一名称のユーザーがすでに存在します。このユーザーがログイン中でない場合のみ上書きが可能です。上書きしてもよろしいですか？</p>	<p>上書きするか確認します。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p> <p>(O)</p> <p>上書きする場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。上書きしない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。</p>
KAVJK0001-E	<p><保守情報>: No sub-command is specified on the command line.</p> <p><保守情報>: サブコマンドが指定されていません。</p>	<p>コマンドラインの引数にサブコマンドが指定されていません。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの処理を中断します。</p> <p>(O)</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
		コマンドラインの書式を見直して再実行してください。
KAVJK0002-E	<保守情報> : No parameter file is specified on the command line. <保守情報> : パラメーターファイルが指定されていません。	コマンドラインの引数でパラメーターファイルが指定されていません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) パラメーターファイルへのパスを指定してください。
KAVJK0003-E	<保守情報> : The specified file path of the parameter file is invalid. <保守情報> : 指定されたパラメーターファイルのファイルパスが不正です。	コマンドラインの引数でパラメーターファイルのパスが誤っています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) パラメーターファイルへのパスを確認してください。
KAVJK0004-E	<保守情報> : The output file pathname is not specified on the command line. <保守情報> : 出力先のファイルパスが指定されていません。	コマンドラインの引数に出力先のファイルパスが指定されていません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 出力先のファイルパスを指定してください。
KAVJK0005-E	<保守情報> : The specified file path of the output file is invalid. <保守情報> : 指定された出力先のファイルパスが不正です。	出力先のファイルパスが誤っています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 出力先のファイルパスが正しいか確認してください。
KAVJK0006-E	<保守情報> : Specified arguments are invalid. <保守情報> : 不正な引数が指定されています。	コマンドラインの引数が多過ぎます。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) コマンドラインの書式を見直して再実行してください。
KAVJK0007-E	<保守情報> : An argument is duplicated. Argument: <重複している引数> <保守情報> : 引数が重複指定されています。 引数 : <重複している引数>	コマンドラインに同じ引数が指定されています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) コマンドラインの書式を見直して再実行してください。
KAVJK0008-E	<保守情報> : An invalid service ID was specified. Service ID: [<指定したサービス ID>] <保守情報> : 指定されたサービス ID が不正です。 サービス ID : [<指定したサービス ID>]	コマンドラインの引数で指定したサービス ID のけた数が少ない、サービス ID が誤っている、Agent Store 以外のサービス ID を指定している、またはサービスが停止しています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) サービス ID を見直すか、サービスが起動していることを確認して、再実行してください。
KAVJK0009-E	<保守情報> : The specified update count is outside the valid range. <保守情報> : 指定された更新回数が範囲外です。	コマンドラインの引数 rc で指定した更新回数が範囲外の値です。 (S) コマンドの処理を中断します。

メッセージ ID	メッセージ	説明
		(O) 1 から 2,147,483,647 の値を指定してください。
KAVJK0010-E	<保守情報>: The specified update interval is outside the valid range. <保守情報>: 指定された更新間隔が範囲外です。	コマンドラインの引数 ri で指定した更新間隔が範囲外の値です。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <最小値>から<最大値>の値を指定してください。
KAVJK0051-E	<保守情報>: The XML parser returned a DTD validation error. Line: <エラーを検出した行番号> Cause: <xml パーサーが出力したメッセージ> <保守情報>: パラメーターファイルの xml パーサー検証でエラーが検出されました。 行番号: <エラーを検出した行番号> エラー内容: <xml パーサーが出力したメッセージ>	コマンドラインに指定したパラメーターファイルの xml パーサーによる妥当性検証でエラーを検出しました。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) エラー内容に従い、原因を取り除いて再実行してください。
KAVJK0052-E	<保守情報>: The DTD specified in the DOCTYPE statement is invalid. Line: <エラーを検出した行番号> DTD: [<xml パーサーから返却されたメッセージ, または入力ファイルで指定された DTD ファイル名>] <保守情報>: DOCTYPE 宣言で指定した DTD が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> DTD ファイル名: [<xml パーサーから返却されたメッセージ, または入力ファイルで指定された DTD ファイル名>]	コマンドラインに指定したパラメーターファイルの DOCTYPE 宣言に指定されている DTD 識別子が、システムで公開する識別子以外のものです。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) DTD 識別子をシステムで公開する識別子に変更して再実行してください。
KAVJK0053-E	<保守情報>: An XML element value is invalid. Line: <エラーを検出した行番号> Element name: <エラーを検出したタグ名> Element value: [<エラーを検出したタグ値>] <保守情報>: パラメーターファイルのタグが不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <エラーを検出したタグ名> タグ値: [<エラーを検出したタグ値>]	コマンドラインに指定したパラメーターファイルのタグ値が範囲外の値です。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) 値域不正のパラメーターを正しく指定して再実行してください。
KAVJK0054-E	<保守情報>: An XML attribute value is invalid. Line: <エラーを検出した行番号> Element name: <エラーを検出したタグ名> Attribute name: <エラーを検出した属性名> Attribute value: [<エラーを検出した属性値>] <保守情報>: パラメーターファイルの属性が不正です。	コマンドラインに指定したパラメーターファイルの属性値が不正、または二重に指定しています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) 不正な属性値を正しく指定して再実行してください。または二重に指定した属性値を修正して再実行してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	行番号 : <エラーを検出した行番号> タグ名 : <エラーを検出したタグ名> 属性名 : <エラーを検出した属性名> 属性値 : [<エラーを検出した属性値>]	
KAVJK0101-E	An attempt to create the output file failed. Output file name:<ファイル名> 出力ファイルの作成に失敗しました。 出力ファイル名 : <ファイル名>	出力先のファイルはすでに存在しています。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) 別のファイル名を指定してください。
KAVJK0102-E	The specified file is read-only. 指定されたファイルは書き込み禁止です。	出力先のファイルは書き込み禁止です。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) 別のファイル名を指定してください。
KAVJK0103-E	The specified report definition or folder does not exist. 指定されたレポートまたはフォルダは存在しません。	存在しないレポート定義またはフォルダ名を指定しています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) パラメーターファイルの指定を見直し、正しい名称を指定してください。
KAVJK0104-E	The specified report definition or folder is read-only. 指定されたレポートまたはフォルダは読み込み専用です。	読み込み専用のレポート定義またはフォルダを削除しようとしてしました。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) パラメーターファイルの指定を見直し、正しい名称を指定してください。
KAVJK0105-E	A communication error occurred while the specified report definition or folder was being processed. Maintenance information: <詳細情報 (RemoteException のメッセージ)> 指定されたレポートまたはフォルダの処理中に通信エラーが発生しました。 保守情報 : <詳細情報 (RemoteException のメッセージ) >	処理中に通信障害が発生しました。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) Manager ホストとの通信が正しく行えるか、または Manager が起動しているか確認してください。
KAVJK0106-E	An attempt to output to the file failed while the specified report definition or folder was being processed. Cause: <詳細情報 (IOException のメッセージ)> 指定されたレポートまたはフォルダの処理中にファイル出力エラーが発生しました。 エラー情報 : <詳細情報 (IOException のメッセージ) >	処理中にファイル出力エラーが発生しました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) エラー原因を確認して再実行してください。
KAVJK0109-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-definition> Attribute name: name	レポート名称に 0 文字または 65 文字以上の文字列が指定されています。 (S)

メッセージID	メッセージ	説明
	Attribute value: [<不正なレポート名称>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <report-definition> 属性名: name 属性値: [<不正なレポート名称>]	指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) レポート名称は 1 から 64 文字以内の文字列を指定してください。
KAVJK0110-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-definition> Attribute name: parent-folder Attribute value: [<不正なフォルダ名称>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <report-definition> 属性名: parent-folder 属性値: [<不正なフォルダ名称>]	フォルダ名称に 1 レベルの階層名が 0 文字または 65 文字以上の文字列が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 1 レベルの階層名は 1 から 64 文字以内の文字列を指定してください。
KAVJK0111-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-definition> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <report-definition>	指定されたレポート定義 (<レポート定義のフルパス>) はすでに存在します。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) サーバに存在しないレポート定義を指定してください。
KAVJK0112-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <product-id> Value: [<不正なプロダクト ID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <product-id> 値: [<不正なプロダクト ID>]	サーバに存在しないプロダクト ID が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) サーバに存在するプロダクト ID を指定してください。
KAVJK0113-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-type> Attribute name: type Attribute value: [<不正なレポート種別の文字列>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <report-type> 属性名: type 属性値: [<不正なレポート種別の文字列>]	認識できないレポート種別が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) レポート種別に指定できる文字列を指定してください。 指定できる文字列は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • historical-single-agent • HISTORICAL-SINGLE-AGENT • historical-multiple-agents • HISTORICAL-MULTIPLE-AGENTS • realtime-single-agent • REALTIME-SINGLE-AGENT
KAVJK0114-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <record>	サーバに存在しないレコード ID が指定されています。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	Attribute name: id Attribute value: [<不正なレコード ID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <record> 属性名: id 属性値: [<不正なレコード ID>]	指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) サーバに存在するレコード ID を指定してください。
KAVJK0115-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <field> Attribute name: display-name Attribute value: [<不正なユーザー表示名>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <field> 属性名: display-name 属性値: [<不正なユーザー表示名>]	25 文字以上のユーザー表示名が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) ユーザー表示名には 24 文字以内の文字列を指定してください。
KAVJK0116-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <タグ名> Value: [<不正なフィールド ID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <タグ名> 値: [<不正なフィールド ID>]	サーバに存在しないフィールド ID が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) サーバに存在するフィールド ID を指定してください。
KAVJK0117-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <field> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <field>	フィールド ID が指定されていません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) フィールド ID を指定してください。
KAVJK0118-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正なフィルタ式>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <expression> 値: [<不正なフィルタ式>]	演算子が指定されていません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 演算子の指定を見直してください。指定できる演算子は=, >, >=, <, <=, <>です。
KAVJK0119-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正なフィルタ式>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <expression> 値: [<不正なフィルタ式>]	演算子 (<不正な演算子文字列>) が不正です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 演算子の指定を見直してください。指定できる演算子は=, >, >=, <, <=, <>です。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJK0120-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <expression>	<expression>タグの式値が省略されていますが、specify-when-displayed 属性が省略または false に指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 式値を省略する場合は specify-when-displayed 属性に true を指定してください。
KAVJK0121-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <date-range> Value: [<不正なレポート表示期間文字列>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <date-range> 値: [<不正なレポート表示期間文字列>]	認識できないレポート表示期間が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) レポート表示期間に指定できる文字列を指定してください。 指定できる文字列は次のとおりです (大文字小文字は区別しません)。 <ul style="list-style-type: none"> • WITHIN_THE_PAST_HOUR • WITHIN_THE_PAST_24_HOURS • WITHIN_THE_PAST_7_DAYS • WITHIN_THE_PAST_MONTH • WITHIN_THE_PAST_YEAR • SPECIFY_WHEN_DISPLAYED
KAVJK0122-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-interval> Value: [<不正なレポート取得間隔文字列>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <report-interval> 値: [<不正なレポート取得間隔文字列>]	認識できないレポート取得間隔が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) レポート取得間隔に指定できる文字列を指定してください。 指定できる文字列は次のとおりです (大文字小文字は区別しません)。 <ul style="list-style-type: none"> • MINUTE • HOUR • DAY • WEEK • MONTH • YEAR
KAVJK0123-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <graph-type> Value: [<不正なグラフ種別文字列>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <graph-type> 値: [<不正なグラフ種別文字列>]	認識できないグラフ種別が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) グラフ種別に指定できる文字列を指定してください。 指定できる文字列は次のとおりです (大文字小文字は区別しません)。 <ul style="list-style-type: none"> • COLUMN • STACKED_COLUMN

メッセージ ID	メッセージ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • BAR • STACKED_BAR • PIE • LINE • AREA • STACKED_AREA
KAVJK0124-E	<p>The parameter file contains an invalid statement.</p> <p>Line: <パラメーターファイルの行数></p> <p>Element: <タグ名></p> <p>Value: [<不正なラベル文字列>]</p> <p>パラメーターファイルの内容が不正です。</p> <p>行番号: <パラメーターファイルの行数></p> <p>タグ名: <タグ名></p> <p>値: [<不正なラベル文字列>]</p>	<p>41 文字以上のラベルが指定されています。</p> <p>(S)</p> <p>指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。</p> <p>(O)</p> <p>ラベルには 40 文字以内の文字列を指定してください。</p>
KAVJK0125-E	<p>The parameter file contains an invalid statement.</p> <p>Line: <パラメーターファイルの行数></p> <p>Element: <ref-report></p> <p>Attribute name: pathname</p> <p>Attribute value: [<存在しないレポートのフルパス>]</p> <p>パラメーターファイルの内容が不正です。</p> <p>行番号: <パラメーターファイルの行数></p> <p>タグ名: <ref-report></p> <p>属性名: pathname</p> <p>属性値: [<存在しないレポートのフルパス>]</p>	<p>サーバに存在しないレポート定義が指定されています。</p> <p>(S)</p> <p>指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。</p> <p>(O)</p> <p>サーバを確認して、存在するレポート定義を指定してください。また、レポート定義のフルパスを確認してください。</p>
KAVJK0126-E	<p>The parameter file contains an invalid statement.</p> <p>Line: <パラメーターファイルの行数></p> <p>Element: <ref-report></p> <p>Attribute name: pathname</p> <p>Attribute value: [<フォルダのパス>]</p> <p>パラメーターファイルの内容が不正です。</p> <p>行番号: <パラメーターファイルの行数></p> <p>タグ名: <ref-report></p> <p>属性名: pathname</p> <p>属性値: [<フォルダのパス>]</p>	<p>ドリルダウンレポートにレポート定義が指定されていません。</p> <p>(S)</p> <p>指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。</p> <p>(O)</p> <p>フォルダパス/レポート定義を指定してください。</p>
KAVJK0127-E	<p>The specified folder does not contain a report definition.</p> <p>指定されたフォルダはレポート定義がありません。</p>	<p>空のフォルダに対してレポート定義情報を出力しようとしています。</p> <p>(S)</p> <p>指定されたフォルダの処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のフォルダ/レポート定義を処理します。</p> <p>(O)</p> <p>フォルダパス/レポート定義を見直してください。</p>
KAVJK0128-E	<p>The parameter file contains an invalid statement.</p> <p>Line: <パラメーターファイルの行数></p> <p>Element: <タグ名></p> <p>Attribute name: <属性名></p> <p>Attribute value: [<指定されたフォルダパス>]</p>	<p>フォルダパスの先頭が / で始まっていません。</p> <p>(S)</p> <p>指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。</p> <p>(O)</p> <p>フォルダパス定義を見直してください。</p>

メッセージID	メッセージ	説明
	<p>パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <タグ名> 属性名: <属性名> 属性値: [<指定されたフォルダパス>]</p>	
KAVJK0129-E	<p>The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-definition> Attribute name: parent-folder Attribute value: [<指定されたフォルダパス>]</p> <p>パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <report-definition> 属性名: parent-folder 属性値: [<指定されたフォルダパス>]</p>	<p>フォルダパスにレポート定義が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) フォルダパス定義を見直してください。</p>
KAVJK0130-E	<p>The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-definition> Attribute name: parent-folder Attribute value: [<指定されたフォルダパス>]</p> <p>パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <report-definition> 属性名: parent-folder 属性値: [<指定されたフォルダパス>]</p>	<p>サブコマンドが create の場合にはシステム のフォルダは指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、 パラメーターファイル中の次のレポート定義 を処理します。 (O) フォルダパス定義を見直してください。</p>
KAVJK0131-E	<p>The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <record> Attribute name: id Attribute value: [<不正なレコードID>]</p> <p>パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <record> 属性名: id 属性値: [<不正なレコードID>]</p>	<p>レポート種別が historical-multiple-agents の 場合には複数行レコードのレコードIDは指 定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、 パラメーターファイル中の次のレポート定義 を処理します。 (O) 単数行レコードのレコードIDを指定して ください。</p>
KAVJK0132-E	<p>The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <field> Attribute name: graph</p> <p>パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <field> 属性名: graph</p>	<p>フィールドの型が char, string, time-t の フィールドはグラフ表示できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、 パラメーターファイル中の次のレポート定義 を処理します。 (O) フィールドの型が char, string, time-t の フィールドには graph 属性に false を指定 してください。</p>
KAVJK0133-E	<p>The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <fields></p> <p>パラメーターファイルの内容が不正です。</p>	<p>すべてのフィールドで table 属性, list 属性, graph 属性が false になっています。 (S)</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
	行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <fields>	指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 最低一つの属性に true を指定してください。
KAVJK0134-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正な左辺値のフィールド ID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <expression> 値 : [<不正な左辺値のフィールド ID>]	フィールドドリルダウンの場合に指定できる左辺値のフィールド ID は、ドリルダウンレポートに定義されているレコードのフィールド ID です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 左辺値のフィールド ID を見直してください。
KAVJK0135-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正な右辺の式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <expression> 値 : [<不正な右辺の式値>]	右辺に指定されている式値が不正です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 右辺の式値を見直してください。
KAVJK0136-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正な右辺の式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <expression> 値 : [<不正な右辺の式値>]	右辺の式値にダブルクォーテーションがありません。ダブルクォーテーションがない場合はフィールド指定になりますが、フィールドドリルダウンのフィルター式以外では右辺にフィールドを指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 右辺の式値を見直してください。
KAVJK0137-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正な右辺の式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <expression> 値 : [<不正な右辺の式値>]	右辺の式値に指定できる文字数を超過しています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 右辺の式値には 2,048 文字までの文字列を指定してください。
KAVJK0138-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正な右辺の式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <expression> 値 : [<不正な右辺の式値>]	右辺値が不正です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) フィールドドリルダウンのフィルター式の場合に、左辺値が time-t の場合は右辺値にはフィールド ID か省略 (specify-when-displayed=true) を指定してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJK0139-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正な右辺の式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <expression> 値: [<不正な右辺の式値>]	右辺値が不正です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) レポートのフィルター式の場合に左辺値が time-t の場合は右辺値を省略 (specify-when-displayed=true) してください。
KAVJK0140-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <タグ名> Value: [<不正なフィールド ID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <タグ名> 値: [<不正なフィールド ID>]	<fields>タグで指定されていないフィールド ID が指定されました。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) フィールド ID の指定を見直してください。
KAVJK0141-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <タグ名> Value: [<不正なフィールド ID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <タグ名> 値: [<不正なフィールド ID>]	単数行レコードの場合は DATETIME, <fields>タグで指定したフィールド ID 以外、複数行レコードの場合は DATETIME, DEVICEID, PROD_INST, <fields>タグで指定したフィールド ID 以外のフィールド ID が指定されました。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) フィールド ID の指定を見直してください。
KAVJK0142-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正な右辺の式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <expression> 値: [<不正な右辺の式値>]	右辺の式値が範囲外の値です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 右辺の式値を見直してください。
KAVJK0143-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression> Value: [<不正な右辺の式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <expression> 値: [<不正な右辺の式値>]	右辺の式値のけた数が範囲外の値です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 右辺の式値を見直してください。
KAVJK0144-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <indication-settings> Attribute name: maximum-number-of-records Attribute value: [<不正な属性値>]	maximum-number-of-records が範囲外の値です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <indication-settings> 属性名 : maximum-number-of-records 属性値 : [<不正な属性値>]	1 から 2,147,483,647 の値を指定してください。
KAVJK0145-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-interval> Value: [<不正な値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <report-interval> 値 : [<不正な値>]	指定されたレコード ID (<エラーになったレコード ID>) は PI レコード以外であるため、<report-interval>タグには MINUTE しか指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) MINUTE を指定してください。
KAVJK0146-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <peak-time> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <peak-time>	指定されたレコード ID (<エラーになったレコード ID>) は、PI レコード以外または複数行レコードであるため、<peak-time>タグは指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <peak-time>タグを削除してください。
KAVJK0147-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <peak-time> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <peak-time>	指定されたフィールド ID (<エラーになったフィールド ID>) は数値フィールド以外であるため、<peak-time>タグは指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <peak-time>タグを削除してください。
KAVJK0148-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <peak-time> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <peak-time>	<report-interval>タグが HOUR 以外であるため、<peak-time>タグは指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <peak-time>タグを削除してください。
KAVJK0149-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <display-key> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <display-key>	レポート種別が履歴 (複数のエージェント) であるため、<display-key>タグは指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <display-key>タグを削除してください。
KAVJK0150-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <graph-properties>	<field>タグの設定で、グラフ表示するフィールド ID が存在しない場合は<graph-properties>タグを指定できません。 (S)

メッセージID	メッセージ	説明
	パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <graph-properties>	指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <graph-properties>タグを削除してください。
KAVJK0151-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <graph-type> Value: [<不正なグラフ種別>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <graph-type> 値: [<不正なグラフ種別>]	複数行レコードまたは複数エージェントであり、かつ複数フィールドでグラフを表示する場合は<graph-type>タグに LINE, AREA, STACKED_AREA を指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <graph-type>タグの値を見直してください。
KAVJK0152-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <graph-type> Value: [<不正なグラフ種別>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <graph-type> 値: [<不正なグラフ種別>]	<display-key>タグを指定しているため、<graph-type>タグに LINE, AREA, STACKED_AREA は指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <graph-type>タグの値を見直してください。
KAVJK0153-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <graph-type> Value: <不正なグラフ種別> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <graph-type> 値: <不正なグラフ種別>	複数行レコードまたは複数エージェントであり、かつ series-direction 属性に BY_COLUMN が指定されている場合は<graph-type>タグに LINE, AREA, STACKED_AREA を指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <graph-type>タグの値を見直してください。
KAVJK0154-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <graph-type> Value: <不正なグラフ種別> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <graph-type> 値: <不正なグラフ種別>	単数行レコードまたは単数エージェントであり、かつ series-direction 属性に BY_ROW が指定されている場合は<graph-type>タグに LINE, AREA, STACKED_AREA を指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <graph-type>タグの値を見直してください。
KAVJK0155-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数>	<graph-type>タグに PIE が指定されている場合は<不正なタグ名 (<x-axis>, <y-axis>) >タグを指定できません。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	Element: <不正なタグ名 (<x-axis>, <y-axis>) > パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <不正なタグ名 (<x-axis>, <y-axis>) >	指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <不正なタグ名 (<x-axis>, <y-axis>) >タグを削除してください。
KAVJK0156-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <data-label> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <data-label>	単数行レコードかつ単数エージェントであり、<graph-type>タグに LINE, AREA, STACKED_AREA が指定されている場合は <data-label>タグを指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <data-label>タグを削除してください。
KAVJK0157-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <ref-report> Value: [<不正なレポート定義のパス>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <ref-report> 値: [<不正なレポート定義のパス>]	ドリルダウンに指定されているレポート定義の、プロダクト ID が一致しないか、データモデルのバージョンが新しいです。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) レポート定義のパスを見直してください。
KAVJK0158-E	The XML parser returned a DTD validation error. Line: <エラーを検出した行番号> Cause: <xml パーサーが出力したメッセージ> パラメーターファイルの xml パーサー検証でエラーが検出されました。 行番号: <エラーを検出した行番号> エラー内容: <xml パーサーが出力したメッセージ>	コマンドラインに指定したパラメーターファイルの xml パーサーによる妥当性検証でエラーを検出しました。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) エラー内容に従い、原因を取り除いてください。
KAVJK0159-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行番号> Element: <expression> Value: [<不正な式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行番号> タグ名: <expression> 値: [<不正な式値>]	右辺の式値に制御文字または () [] <=> の記号が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 右辺の式値から制御文字および () [] <=> の記号を削除してから実行してください。
KAVJK0160-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行番号> Element: <ref-field> Attribute name: id Attribute value: [<重複しているフィールド名>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行番号> タグ名: <ref-field> 属性名: id	同じフィールドが指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) フィールドドリルダウンに指定しているフィールドを見直してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	属性値 : [<重複しているフィールド名>]	
KAVJK0161-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-definition> Attribute name: parent-folder Attribute value: [<不正なフォルダ名称>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <report-definition> 属性名 : parent-folder 属性値 : [<不正なフォルダ名称>]	フォルダ名称の前後に半角空白が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) フォルダ名称の前後から半角空白を削除してから実行してください。
KAVJK0162-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <タグ名> Attribute name: <属性名> Attribute value: [<不正な属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <タグ名> 属性名 : <属性名> 属性値 : [<不正な属性値>]	属性値に制御文字が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 属性値から制御文字を削除してから実行してください。
KAVJK0163-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <タグ名> Element value: [<不正な値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <タグ名> 値 : [<不正な値>]	値に制御文字が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 値から制御文字を削除してから実行してください。
KAVJK0164-E	An I/O error occurred during the reading of the confirmation from the user. Cause: <エラー情報 (IOException のメッセージ)> ユーザー入力が入出力エラーが発生しました。 エラー情報 : <エラー情報 (IOException のメッセージ) >	ユーザー入力が入出力エラーが発生しました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) エラー原因を確認して再実行してください。
KAVJK0165-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <report-definition> Attribute name: name Attribute value: [<空白だけのレポート名称>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <report-definition> 属性名 : name 属性値 : [<空白だけのレポート名称>]	レポート名称に空白だけの文字列が指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) レポート名称には空白以外の文字を 1 文字以上含めて指定してください。
KAVJK0166-E	<保守情報>: The value specified for the conditional expression in the parameter file exceeds the maximum length.	パラメーターファイルで指定した logif 内の条件式の長さが、511 バイトを超えました。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	Line: <エラーを検出した行番号> Element: <エラーを検出したタグ名> <保守情報>: パラメーターファイルの条件式の長さが制限値を超えています。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <エラーを検出したタグ名>	エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID を処理します。 (O) パラメーターファイルで指定する logif 内の条件式の長さを、511 バイト以下で指定してください。
KAVJK0167-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行番号> Element: <field> Value: [<重複しているフィールド名>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行番号> タグ名: <field> 値: [<重複しているフィールド名>]	同じフィールドが指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 指定しているフィールドを見直してください。
KAVJK0168-E	A report definition with the specified report name has been created by another user. Report name: [<レポート定義のフルパス>] 指定されたレポート名称のレポート定義がほかのユーザーによって生成されました。 レポート名称: [<レポート定義のフルパス>]	指定されたレポート名称のレポート定義がほかのユーザーによって生成されました。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) サーバーの状態を見直して、再実行してください。
KAVJK0169-E	The specified folder path has been deleted by another user. Folder path: [<フォルダパス>] 指定されたフォルダパスはほかのユーザーによって削除されました。 フォルダパス: [<フォルダパス>]	指定されたフォルダパスはほかのユーザーによって削除されました。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) サーバーの状態を見直して、再実行してください。
KAVJK0170-E	<保守情報>: An XML attribute value is invalid. Line: <エラーを検出した行番号> Element name: <エラーを検出したタグ名> Attribute name: <エラーを検出した属性名> Attribute value: [<エラーを検出した属性値>] <保守情報>: パラメーターファイルの属性が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <エラーを検出したタグ名> 属性名: <エラーを検出した属性名> 属性値: [<エラーを検出した属性値>]	コマンドラインに指定したパラメーターファイルのサービス ID のけた数が少ない、サービス ID が誤っている、Agent Store 以外のサービス ID を指定している、二重に指定している、またはサービスが停止しています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) サービス ID を見直すか、サービスが起動していることを確認して、再実行してください。
KAVJK0171-E	The parameter file contains an invalid entry. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <indication-settings> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <indication-settings>	<report-type>タグで realtime-single-agent を指定した場合、<indication-settings>タグは指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。

メッセージID	メッセージ	説明
		(O) <realtime-indication-settings>タグを指定してください。
KAVJK0172-E	The parameter file contains an invalid entry. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <realtime-indication-settings> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <realtime-indication-settings>	<report-type>タグで historical-single-agent または historical-multiple-agents を指定した場合、<realtime-indication-settings>タグは指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <indication-settings>タグを指定してください。
KAVJK0173-E	The parameter file contains an invalid entry. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <refresh-interval> Attribute name: [<不正な属性名>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <refresh-interval> 属性名: [<不正な属性名>]	do-not-refresh-automatically に「true」を指定した場合、initial-value および minimum-value 属性は指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) initial-value および minimum-value 属性を削除してください。
KAVJK0174-E	The parameter file contains an invalid entry. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <refresh-interval> Attribute name: initial-value Attribute value: [<不正な属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <refresh-interval> 属性名: initial-value 属性値: [<不正な属性値>]	initial-value が範囲外の値です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) minimum-value から 3,600 秒の値を指定してください。
KAVJK0175-E	The parameter file contains an invalid entry. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <refresh-interval> Attribute name: minimum-value Attribute value: [<不正な属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <refresh-interval> 属性名: minimum-value 属性値: [<不正な属性値>]	minimum-value が範囲外の値です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 10 から 3,600 秒の値を指定してください。
KAVJK0176-E	The parameter file contains an invalid entry. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <display-by-ranking> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <display-by-ranking>	<record>タグの id 属性で指定したレコードが単一行レコードの場合は指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O)

メッセージ ID	メッセージ	説明
		<display-by-ranking>タグを削除してください。
KAVJK0177-E	The parameter file contains an invalid entry. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <display-by-ranking> Attribute name: field Attribute value: [<属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <display-by-ranking> 属性名: field 属性値: [<属性値>]	ランキング表示に指定できない属性 (文字, 時刻) のフィールドを指定しています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし, パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 文字, 時刻以外のフィールドを指定してください。
KAVJK0178-E	The parameter file contains an invalid entry. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <display-by-ranking> Attribute name: display-number Attribute value: [<属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <display-by-ranking> 属性名: display-number 属性値: [<属性値>]	display-number が範囲外の値です。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし, パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 1 から 100 の値を指定してください。
KAVJK0179-E	The parameter file contains an invalid entry. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <field> Value: [<属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <field> 値: [<属性値>]	<report-type>タグで realtime-single-agent を指定した場合, <field>タグに値 [<属性値>] は指定できません。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし, パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) フィールド ID の指定を見直してください。
KAVJK0180-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <peak-time> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <peak-time>	指定されたレポート定義のレコード (<エラーになったレコード ID>) は, PI レコード以外または複数行レコードであるため, <peak-time>タグは指定できません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <peak-time>タグを削除してください。
KAVJK0201-E	<保守情報>: The parameter file directory is invalid. Parameter file name: <入力エラーとなったファイル名> <保守情報>: 入力ファイルの指定ディレクトリが正しくありません。 入力ファイル名: <入力エラーとなったファイル名>	指定ディレクトリが存在しないか, アクセス権限の問題でファイル読み込みに失敗しました。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) 指定ディレクトリが存在するか, またはディレクトリのアクセス権限が正しいか確認し, 再実行してください。
KAVJK0202-E	<保守情報>: An attempt to read the parameter file failed. Parameter file name: <入力エラーとなったファイル名>	ファイルが存在しない, アクセス権限の問題, またはファイル読み込み時の異常によってファイル読み込みに失敗しました。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O)

メッセージID	メッセージ	説明
	<p>Cause: [<例外通知されたメッセージ(ファイル読み込み異常時の例外通知時だけ出力する) >]</p> <p><保守情報>: 入力ファイルの読み込みに失敗しました。</p> <p>入力ファイル名: <入力エラーとなったファイル名></p> <p>エラー情報: [<例外通知されたメッセージ(ファイル読み込み異常時の例外通知時だけ出力する) >]</p>	<p>入力ファイルが存在するか、ファイルのアクセス権限が正しいか確認して、再実行してください。</p>
KAVJK0203-E	<p><保守情報>: The directory to output the file is invalid.</p> <p>Output file name: <出力エラーとなったファイル名></p> <p><保守情報>: 出力ファイルの指定ディレクトリが正しくありません。</p> <p>出力ファイル名: <出力エラーとなったファイル名></p>	<p>ディレクトリが存在しないか、アクセス権限の問題で出力ファイルが作成できません。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの実行を打ち切ります。</p> <p>(O)</p> <p>ディレクトリが存在するか、およびアクセス権限が正しいか確認して再実行してください。</p>
KAVJK0204-E	<p><保守情報>: An attempt to create the output file failed.</p> <p>Output file name: <出力エラーとなったファイル名></p> <p>Cause: [<例外通知されたメッセージ(ファイル出力異常時の例外通知時だけ出力する) >]</p> <p><保守情報>: 出力ファイルの作成に失敗しました。</p> <p>出力ファイル名: <出力エラーとなったファイル名></p> <p>エラー情報: [<例外通知されたメッセージ(ファイル出力異常時の例外通知時だけ出力する) >]</p>	<p>既存ファイル（上書き）のアクセス権限の問題か、ファイル出力時の異常によって出力ファイルが作成できません。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの実行を打ち切ります。</p> <p>(O)</p> <p>ファイルのアクセス権限が正しいか、またはエラー原因を確認して再実行してください。</p>
KAVJK0205-E	<p><保守情報>: A subcommand is invalid.</p> <p><保守情報>: サブコマンドが不正です。</p>	<p>コマンドラインの引数の第一引数にサブコマンドとして認識できない文字列が指定されています。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの処理を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>コマンドラインの書式を見直して再実行してください。</p>
KAVJK0206-E	<p><保守情報>: Output of the file was stopped because, in the confirmation dialog box, the user canceled the overwrite of the existing file.</p> <p><保守情報>: ファイルの上書き確認で上書きが拒否されたため、ファイルの出力を中断しました。</p>	<p>ファイルの上書き確認で上書きが拒否されたため、ファイルの出力を中断しました。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの処理を中断します。</p>
KAVJK0207-E	<p><保守情報>: The user does not have access permissions for the specified output destination file path.</p> <p>Path name: <出力ファイルパス></p> <p><保守情報>: 指定された出力先のファイルパスへのアクセス権がありません。</p> <p>パス名: <出力ファイルパス></p>	<p>指定された出力先パスへのアクセス権がありません。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの処理を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>指定された出力先パスに対するアクセス権限を確認してください。</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJK0208-E	<p><保守情報>: The file path of the specified output destination is invalid. Path name: <出力ファイルパス> <保守情報>: 指定された出力先のファイルパスが不正です。 パス名: <出力ファイルパス></p>	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出力先のファイルパスに存在しないディレクトリが指定されました。 出力ファイル名にディレクトリ名が指定されました。 <p>(S) コマンドの処理を中断します。 (O) 出力先のファイルパスを正しく指定してください。</p>
KAVJK0209-E	<p><保守情報>: An I/O error occurred during the opening of the output file. Error information: <詳細情報 (IOException のメッセージ)> <保守情報>: 出力ファイルのオープンで入出力エラーが発生しました。 エラー情報: <詳細情報 (IOException のメッセージ)></p>	<p>処理中にファイル入出力エラーが発生しました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) エラー原因を確認して再実行してください。</p>
KAVJK0210-E	<p><保守情報>: An I/O error occurred during the writing of the output file. Error information: <詳細情報 (IOException のメッセージ)> <保守情報>: 出力ファイルの書き込み中に入出力エラーが発生しました。 エラー情報: <詳細情報 (IOException のメッセージ)></p>	<p>処理中にファイル入出力エラーが発生しました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) エラー原因を確認して再実行してください。</p>
KAVJK0211-E	<p><保守情報>: An I/O error occurred during the opening of the input file. Error information: <詳細情報 (IOException のメッセージ)> <保守情報>: 入力ファイルのオープンで入出力エラーが発生しました。 エラー情報: <詳細情報 (IOException のメッセージ)></p>	<p>入力ファイルのオープンでファイル入出力エラーが発生しました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) エラー原因を確認して再実行してください。</p>
KAVJK0212-E	<p><保守情報>: An I/O error occurred during the reading of the input file. Error information: <詳細情報 (IOException のメッセージ)> <保守情報>: 入力ファイルの読み込み中に入出力エラーが発生しました。 エラー情報: <詳細情報 (IOException のメッセージ)></p>	<p>処理中にファイル入出力エラーが発生しました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) エラー原因を確認して再実行してください。</p>
KAVJK0213-E	<p><保守情報>: The user does not have access permissions for the specified input file. Path name: <入力ファイルパス> <保守情報>: 指定された入力ファイルへのアクセス権がありません。 パス名: <入力ファイルパス></p>	<p>ファイルに読み取り権限がなく、アクセスできません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) ファイルに対するアクセス権限を確認してください。</p>
KAVJK0214-E	<p><保守情報>: The specified input file path is invalid. Path name: <入力ファイルパス> <保守情報>: 指定された入力ファイルパスが不正です。 パス名: <入力ファイルパス></p>	<p>次の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入力ファイルパスに存在しないディレクトリが指定されました。 入力ファイル名にディレクトリ名が指定されました。 <p>(S)</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
		<p>コマンドの処理を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>入力ファイルパスを正しく指定してください。</p>
KAVJK0301-E	<p><保守情報>: An attempt to connect to Manager failed.</p> <p>Manager host name: <接続先 Tuning Manager server のホスト名></p> <p>Port number: <接続先 Tuning Manager server のポート番号></p> <p><保守情報> : Manager への接続に失敗しました。</p> <p>Manager ホスト名 : <接続先 Tuning Manager server のホスト名></p> <p>ポート番号 : <接続先 Tuning Manager server のポート番号></p>	<p>Manager とのセッションが確立できませんでした。</p> <p>Manager が起動していないか、接続先が誤っています。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの実行を打ち切ります。</p> <p>(O)</p> <p>Manager が起動しているか確認してください。または、接続先を確認してください。</p>
KAVJK0302-E	<p><保守情報>: Communication with Manager failed.</p> <p>Cause: <通知されたエラーメッセージ>.</p> <p><保守情報> : Manager との通信でエラーが発生しました。</p> <p>エラー情報 : <通知されたエラーメッセージ></p>	<p>Manager との通信でエラーが発生しました。</p> <p>(S)</p> <p>jpcasrec, jpcaspsv コマンド : エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。</p> <p>jpcrdef コマンド : 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。</p> <p>(O)</p> <p>Manager ホストとの通信が正しく行えるか、または Manager が起動しているか確認してください。</p>
KAVJK0303-E	<p><保守情報>: The definition read or update request to Manager failed.</p> <p>Cause: <エラーが返却された場合のアクセス情報></p> <p>Exception Message: <例外で通知されたメッセージ></p> <p><保守情報> : 定義情報のアクセスに失敗しました。</p> <p>エラー情報 : <エラーが返却された場合のアクセス情報></p> <p>例外メッセージ : <例外で通知されたメッセージ></p>	<p>定義情報の処理要求 (参照/更新) がエラーになりました。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの実行を打ち切ります。</p> <p>(O)</p> <p>エラー原因を取り除いてください。必要に応じてサーバのエラーメッセージを確認してください。</p>
KAVJK0304-E	<p><保守情報>: An attempt to connect to the Manager has failed.</p> <p>Manager host name: <接続先 Tuning Manager server のホスト名></p> <p>Port number: <接続先 Tuning Manager server のポート番号></p> <p>Maintenance information: <保守情報></p> <p><保守情報> : Manager への接続に失敗しました。</p> <p>Manager ホスト名 : <接続先 Tuning Manager server のホスト名></p> <p>ポート番号 : <接続先 Tuning Manager server のポート番号></p> <p>保守情報 : <保守情報></p>	<p>Manager とのセッションが確立できませんでした。</p> <p>Manager が起動していないか、接続先が誤っています。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの処理を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>Manager が起動しているか確認してください。または、接続先を確認してください。</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJK0305-E	The agent cannot be connected. エージェントに接続できません。	エージェントまたは Store データベースが稼働していないか、またはエージェントへのネットワーク経路が遮断されているため、レポートを取得できません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) エージェントまたは Store データベースが稼働していない場合、エージェントおよび Store データベースを起動して、もう一度操作してください。
KAVJK0306-E	<保守情報>: A session with the Manager could not be established. Manager host name: <ホスト名> Port number: <ポート番号> <保守情報>: Manager とのセッションが確立できませんでした。 Manager ホスト名: <ホスト名> ポート番号: <ポート番号>	初期設定ファイル (config.xml) に指定された接続先 Manager ホスト名の形式が不正のため、Manager とのセッションが確立できませんでした。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 正しい形式でホスト名を指定してください。
KAVJK0401-E	<保守情報>: Memory has become insufficient. <保守情報>: メモリー不足が発生しました。	サーバ側でメモリー不足が発生しました。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) コマンドの引数に -mx オプションで指定可能な最大値を指定してください。 または、レポート表示期間、最大レコード数、フィルター条件、選択フィールドの数を調整して、レポートで表示されるデータ量を減らしてください。
KAVJK0402-E	<保守情報>: A system error occurred. Cause: <通知されたエラーメッセージ>. <保守情報>: システムエラーが発生しました。 エラー情報: <通知されたエラーメッセージ>	システムエラーが発生しました。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) ログファイルを確認し、エラー原因を取り除いてください。
KAVJK0403-E	<保守情報>: Initialization failed. Cause: <エラーを検出した要因>. <保守情報>: 初期化に失敗しました。 エラー情報: <エラーを検出した要因>	初期設定ファイル (config.xml) の情報を取得できないか、ログ機能を開始できませんでした。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) 初期設定ファイルの内容を確認し、インストールディレクトリ構成を確認してください。
KAVJK0404-E	<保守情報>: A critical configuration error was detected during reading of the parameter file. Maintenance information: <エラー原因> <保守情報>: パラメーターファイルの読み込み時に重大な構成エラーが検出されました。 保守情報: <エラー原因>	パラメーターファイルの読み込み時に重大な構成エラーが検出されました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJK0405-E	<保守情報>: A Manager access error occurred. Maintenance information: <詳細情報>	Manager とのアクセスでエラーを検出しました。 (S) コマンドの処理を中断します。

メッセージID	メッセージ	説明
	<保守情報> : Manager とのアクセスでエラーを検出しました。 保守情報 : <詳細情報>	(O) Manager ホストとの通信が正しく行えるか、または Manager が起動しているか確認してください。 jpcrpt コマンドでのレポート出力時に KAVJK0405-E メッセージが出力された場合の対処方法については、「7.2.5」を参照してください。
KAVJK0406-E	<保守情報>: A critical error was detected during file output. Maintenance information: <エラー原因> <保守情報> : ファイル出力時に回復不能なエラーが検出されました。 保守情報:<エラー原因>	ファイル出力時に回復不能なエラーが検出されました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJK0502-E	The configuration file was not found. 初期設定ファイル (config.xml) が見つかりません。	インストール先ディレクトリに初期設定ファイルが見つかりません。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) インストール先ディレクトリを確認し、初期設定ファイルがあるかを確認してください。
KAVJK0503-E	The parameter file was not found. パラメーターファイルが見つかりません。	コマンドラインで指定したパラメーターファイル名が誤っています。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) 正しいパラメーターファイル名を指定し、コマンドを再実行してください。
KAVJK0504-E	An internal error occurred. 内部矛盾を検出しました。	コマンド処理で、内部矛盾を検出しました。 (S) コマンドの実行を打ち切ります。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJK0505-E	A syntax error occurred. コマンドラインの書式が不正です。	コマンドラインの書式が不正です。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) コマンドラインの書式を見直して再実行してください。
KAVJK0510-E	An attempt to acquire Tuning Manager server product information has failed. Tuning Manager server の製品情報の取得に失敗しました。	Tuning Manager server の製品情報の取得に失敗しました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJK0511-E	An attempt to acquire Common Component information has failed. 共通コンポーネントの情報の取得に失敗しました。	共通コンポーネントの情報の取得に失敗しました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJK0601-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <<タグ名>> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <<タグ名>>	タグの内容が指定されていません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) タグの内容を指定してください。
KAVJK0602-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <<タグ名>> Attribute name: <属性名> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <<タグ名>> 属性名: <属性名>	必須の属性が指定されていません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 属性を指定してください。
KAVJK0603-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <<タグ名>> Value: [<指定されたエージェント名>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <<タグ名>> 値: [<指定されたエージェント名>]	存在しないエージェントが指定されました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 存在するエージェントを指定してください。
KAVJK0604-E	<保守情報>: The parameter file contains an invalid statement. Element: <agent> Value: [<指定されたエージェント名>] <保守情報>: パラメーターファイルの内容が不正です。 タグ名: <agent> 値: [<指定されたエージェント名>]	指定されたレポート定義のプロダクトに適合しないエージェントが指定されています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) レポート定義のプロダクトに適合するエージェントを指定してください。
KAVJK0605-E	<保守情報>: The parameter file contains an invalid statement. <保守情報>: パラメーターファイルの内容が不正です。	<expression-values>タグに設定されたフィルター式が不十分です。 [表示時に指定] のフィルター式の式値が指定されていません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) フィルター式の式値を指定してください。
KAVJK0606-E	<保守情報>: The parameter file contains an invalid statement. <保守情報>: パラメーターファイルの内容が不正です。	<"start-time">タグの日時が<"end-time">タグの日時より後の日時になっています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <"start-time">タグの日時は<"end-time">タグの日時より前の日時を設定してください。
KAVJK0607-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <<タグ名>> Attribute name: <属性名> Attribute value: [<属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。	整数値の属性のフォーマットが不正です。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 整数を指定してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <<タグ名>> 属性名: <属性名> 属性値: [<属性値>]	
KAVJK0609-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <<タグ名>> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <<タグ名>>	指定されたレポートのレコード ID (<レコード ID>) は PI レコード以外であるため、<<タグ名>>タグの指定はできません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <<タグ名>>タグの指定を削除してください。
KAVJK0610-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <start-time> Value: [<start-time の値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <start-time> 値: [<start-time の値>]	日付が範囲外の値です。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 年に 1971 から 2035 の値を指定してください。
KAVJK0611-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <end-time> Value: [<end-time の値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <end-time> 値: [<end-time の値>]	日付が範囲外の値です。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 年に 1971 から 2035 の値を指定してください。
KAVJK0612-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <"start-time"もしくは"end-time"> Value: [<入力値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <"start-time"もしくは"end-time"> 値: [<入力値>]	日付のフォーマットが不正です。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 正しいフォーマットで日付を指定してください。
KAVJK0613-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <"expression-values"> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <"expression-values">	[表示時に指定] のフィルター式が定義されていないレポートに、<"expression-values">タグが指定されています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <"expression-values">タグの指定を削除してください。
KAVJK0614-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression-value> Attribute name: pos Attribute value: [<pos の値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数>	<expression-value>タグの pos が範囲外です。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 0 から<上限値>の値を指定してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	タグ名 : <expression-value> 属性名 : pos 属性値 : [<pos の値>]	
KAVJK0615-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression-value> Maintenance information: <pos の値>, <上限値> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <expression-value> 保守情報 : <pos の値>, <上限値>	<expression-value>タグに対応するフィルター式がありません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <expression-value>タグを削除してください。
KAVJK0616-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression-value> Value: [<不正な右辺の式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <expression-value> 値 : [<不正な右辺の式値>]	フィルター式の式値が不正です。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) フィルター式に正しい式値を指定してください。
KAVJK0617-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <<タグ名>> Attribute name: <属性名> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <<タグ名>> 属性名 : <属性名>	<<タグ名>>タグの field 属性が NONE の場合に、<属性名>属性が指定されています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <属性名>属性の設定を削除してください。
KAVJK0618-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <<タグ名>> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <<タグ名>>	レポート種別が履歴 (複数のエージェント) 以外の場合、複数のエージェントは指定できません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) エージェントを一つだけ指定してください。
KAVJK0619-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <indication-settings> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <indication-settings>	レポート種別がリアルタイム (一つのエージェント) の場合、<indication-settings>タグは指定できません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <realtime-indication-settings>タグを指定してください。
KAVJK0620-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <realtime-indication-settings> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメーターファイルの行数> タグ名 : <realtime-indication-settings>	レポート種別が履歴レポートの場合、<realtime-indication-settings>タグは指定できません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <indication-settings>タグを指定してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJK0621-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <peak-time> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <peak-time>	レポート間隔が「時」以外であるため、<peak-time>タグは指定できません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <peak-time>タグを削除してください。
KAVJK0622-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <<タグ名>> Value: [<不正なフィールドID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <<タグ名>> 値: [<不正なフィールドID>]	レポート定義で選択されていないフィールドIDが指定されました。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) フィールドIDの指定を見直してください。
KAVJK0623-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression-value> Value: [<不正な右辺の式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <expression-value> 値: [<不正な右辺の式値>]	フィルター式の式値に指定できる文字数を超えています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) フィルター式の式値には2,048文字までの文字列を指定してください。
KAVJK0624-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <expression-value> Value: [<不正な式値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <expression-value> 値: [<不正な式値>]	フィルター式の式値に制御文字または() [] <>="の記号が指定されています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) フィルター式の式値から制御文字および() [] <>="の記号を削除してから実行してください。
KAVJK0625-E	<保守情報>: The parameter file contains an invalid statement. <保守情報>: パラメーターファイルの内容が不正です。	<date-range>タグ、<start-time>タグ、<end-time>タグをすべて指定することはできません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <date-range>タグ、<start-time>タグ、<end-time>タグの指定を見直してください。
KAVJK0626-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <display-by-ranking> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <display-by-ranking>	レコードが単一行レコードの場合、<display-by-ranking>タグは指定できません。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) <display-by-ranking>タグを削除してください。
KAVJK0627-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element name: <<エラーを検出したタグ名>>	コマンドラインに指定したパラメーターファイルのサービスIDのけた数が少ない、Action Handler以外のサービスIDを指定している。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	Attribute name: <エラーを検出した属性名> Attribute value: [<エラーを検出した属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <<エラーを検出したタグ名>> 属性名: <エラーを検出した属性名> 属性値: [<エラーを検出した属性値>]	エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) サービス ID を見直して、再実行してください。
KAVJK0628-E	An attempt to connect to the Action Handler failed. Line: <エラーを検出した行番号> Element name: <service> Attribute name: id Attribute value: <エラーを検出した属性値> Action Handler サービスに接続できません。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <service> 属性名: id 属性値: <エラーを検出した属性値>	コマンドラインに指定したパラメーターファイルのサービス ID が誤っている、またはサービスが停止しています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) サービス ID を見直すか、サービスが起動していることを確認して、再実行してください。
KAVJK0629-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <email> Element value: <エラーを検出した値> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <email> 値: <エラーを検出した値>	認識できない email 送信可否設定が指定されています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) email 送信可否設定に指定できる文字列を指定してください。 指定できる文字列は次のとおりです(大文字小文字は区別しません)。 Yes No
KAVJK0630-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <script> Element value: <エラーを検出した値> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <script> 値: <エラーを検出した値>	認識できない Script 実行可否設定が指定されています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) Script 実行可否設定に指定できる文字列を指定してください。 指定できる文字列は次のとおりです(大文字小文字は区別しません)。 Yes No
KAVJK0631-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <smtp-host> Element value: <エラーを検出した値> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <smtp-host>	SMTP ホスト名に全角文字、または半角カナ文字が使われています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	値 : <エラーを検出した値>	半角文字 (半角カナ文字は除く) だけで指定して、もう一度操作してください。
KAVJK0632-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <smtp-host> Element value: <エラーを検出した値> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <エラーを検出した行番号> タグ名 : <smtp-host> 値 : <エラーを検出した値>	SMTP ホストに指定できる文字数を超えています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) SMTP ホストには 100 文字までの文字列を指定してください。
KAVJK0633-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <smtp-sender> Element value:<エラーを検出した値> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <エラーを検出した行番号> タグ名 : <smtp-sender> 値 : <エラーを検出した値>	email 送信者に全角文字、または半角カナ文字が使われています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) 半角文字(半角カナ文字は除く)だけで指定して、もう一度操作してください。
KAVJK0634-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <smtp-sender> Element value: <エラーを検出した値> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <エラーを検出した行番号> タグ名 : <smtp-sender> 値 : <エラーを検出した値>	email 送信者に指定できる文字数を超えています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) email 送信者には 100 文字までの文字列を指定してください。
KAVJK0635-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <mail-subject> Element value: <エラーを検出した値> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号 : <エラーを検出した行番号> タグ名 : <mail-subject> 値 : <エラーを検出した値>	email タイトルに指定できる文字数を超えています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) email タイトルには 100 文字までの文字列を指定してください。
KAVJK0636-E	<保守情報>: An attempt to connect to the Trap Generator failed. Service ID: <指定したサービス ID> <保守情報> : Trap Generator サービスに接続できません。 サービス ID : <指定したサービス ID>	コマンドラインの引数で指定したサービス ID が誤っている、またはサービスが停止しています。 (S) 処理を中断します。 (O) Trap Generator サービスが起動していることを確認して、再実行してください。
KAVJK0637-E	The parameter file contains an invalid statement. Element: <trap-destination> Attribute name: snmp-host Attribute value: [<エラーを検出した属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 タグ名 : <trap-destination> 属性名 : snmp-host	SNMP ホスト名に全角文字、または半角カナ文字が使われています。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) 半角文字 (半角カナ文字は除く) だけで指定して、もう一度操作してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	属性値: [<エラーを検出した属性値>]	
KAVJK0638-E	The parameter file contains an invalid statement. Element: <trap-destination> Attribute name: snmp-host Attribute value: [<エラーを検出した属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 タグ名: <trap-destination> 属性名: snmp-host 属性値: [<エラーを検出した属性値>]	SNMP ホストに指定できる文字数を超過しています。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) SNMP ホストには 75 文字までの文字列を指定してください。
KAVJK0639-E	The parameter file contains an invalid statement. Element: <trap-destination> Attribute name: snmp-host Attribute value: [<エラーを検出した値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 タグ名: <trap-destination> 属性名: snmp-host 属性値: [<エラーを検出した値>]	SNMP ホストに定義された名称で名前解決ができません。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) SNMP ホスト名を見直して、再実行してください。
KAVJK0640-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <snmp-retrycount> Element value: [<エラーを検出した値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <snmp-retrycount> 値: [<エラーを検出した値>]	SNMP トラップの送信回数が範囲外の値です。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) 1 から 32,767 の値を指定してください。
KAVJK0641-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <snmp-retryinterval> Element value: [<エラーを検出した値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <snmp-retryinterval> 値: [<エラーを検出した値>]	SNMP トラップの再送信間隔が範囲外の値です。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) 1 から 32,767 の値を指定してください。
KAVJK0642-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <snmp-trapport> Element value: [<エラーを検出した値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <snmp-trapport> 値: [<エラーを検出した値>]	SNMP トラップの送信先ポート番号が範囲外の値です。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) 1 から 32,767 の値を指定してください。
KAVJK0643-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <snmp-enabled> Element value: [<エラーを検出した値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <snmp-enabled>	認識できない SNMP トラップの送信可否設定が指定されています。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	値: [<エラーを検出した値>]	SNMP トラップの送信可否設定に指定できる文字列を指定してください。 指定できる文字列は次のとおりです(大文字小文字は区別しません)。 Yes No
KAVJK0644-E	The specified SNMP host name was not found. SNMP host name: <削除する SNMP ホスト名> 指定された SNMP ホスト名がありません。 SNMP ホスト名: <削除する SNMP ホスト名>	指定された SNMP ホスト名は削除されているか、不正な状態のため、取得できません。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) SNMP ホストが存在するか確認してください。
KAVJK0645-E	<保守情報>: An invalid service ID was specified. Service ID: [<指定したサービス ID>] <保守情報>: 指定されたサービス ID が不正です。 サービス ID: [<指定したサービス ID>]	コマンドラインの引数で指定したサービス ID のけた数が少ない、サービス ID が誤っている、または Action Handler 以外のサービス ID を指定しています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) サービス ID を見直して、再実行してください。
KAVJK0646-E	<保守情報>: An attempt to connect to the Action Handler failed. Service ID: [<指定したサービス ID>] <保守情報>: Action Handler サービスに接続できません。 サービス ID: [<指定したサービス ID>]	コマンドラインの引数で指定したサービス ID が誤っている、またはサービスが停止しています。 (S) 処理を中断します。 (O) Action Handler サービスが起動していることを確認して、再実行してください。
KAVJK0648-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <snmp-retrycount> Element value: [<エラーを検出した値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <snmp-retrycount> 値: [<エラーを検出した値>]	SNMP トラップの送信回数のフォーマットが不正です。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) 整数値を指定してください。
KAVJK0649-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <snmp-retryinterval> Element value: [<エラーを検出した値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <snmp-retryinterval> 値: [<エラーを検出した値>]	SNMP トラップの再送信間隔のフォーマットが不正です。 (S) エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) 整数値を指定してください。
KAVJK0650-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <snmp-trapport> Element value: [<エラーを検出した値>]	SNMP トラップの送信先ポート番号のフォーマットが不正です。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <snmp-trapreport> 値: [<エラーを検出した値>]	エラーを検出した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。 (O) 整数値を指定してください。
KAVJK0651-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element name: <<エラーを検出したタグ名>> Attribute name: <エラーを検出した属性名> Attribute value: [<エラーを検出した属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <<エラーを検出したタグ名>> 属性名: <エラーを検出した属性名> 属性値: [<エラーを検出した属性値>]	コマンドラインに指定したパラメーターファイルのサービス ID のけた数が少ない、Trap Generator 以外のサービス ID を指定している。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) サービス ID を見直して、再実行してください。
KAVJK0652-E	An attempt to connect to the Trap Generator failed. Line: <エラーを検出した行番号> Element name: <<エラーを検出したタグ名>> Attribute name: <エラーを検出した属性名> Attribute value: [<エラーを検出した属性値>] Trap Generator サービスに接続できません。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <<エラーを検出したタグ名>> 属性名: <エラーを検出した属性名> 属性値: [<エラーを検出した属性値>]	コマンドラインに指定したパラメーターファイルのサービス ID が誤っている、Trap Generator 以外のサービス ID を指定している、またはサービスが停止しています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) サービス ID を見直すか、サービスが起動していることを確認して、再実行してください。
KAVJK0653-E	<保守情報>: An invalid service ID was specified. Service ID: [<指定したサービス ID>] <保守情報>: 指定されたサービス ID が不正です。 サービス ID: [<指定したサービス ID>]	コマンドラインの引数で指定したサービス ID のけた数が少ないか、または Trap Generator 以外のサービス ID を指定しています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) サービス ID を見直して、再実行してください。
KAVJK0654-E	Processing to delete the SNMP host was stopped because the user canceled it. SNMP host name: <SNMP ホスト名> SNMP ホストの削除確認で削除拒否されたため、削除処理を中断しました。 SNMP ホスト名: <SNMP ホスト名>	SNMP ホストの削除確認で削除拒否されたため、削除処理を中断しました。 (S) 削除を中断した SNMP ホストの処理をスキップし、次の SNMP ホストの処理を行います。
KAVJK2506-E	An unexpected exception occurred. 予期しないエラーが発生しました。	予期しないエラーが発生しました。 (S) コマンドの処理を停止します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJK2512-E	The number of data items for the report to be output to the graph exceeds the	グラフに出力するレポートがグラフ表示可能レポートデータ数を超過しています。

メッセージID	メッセージ	説明
	maximum number of data items that can be displayed in a graph. グラフに出力するレポートがグラフ表示可能レポートデータ数を超えています。	(S) コマンドの処理を停止します。 (O) レポート定義のレポート表示期間を狭めるか、選択フィールドを減らして再度実行してください。
KAVJK2513-E	An I/O error occurred during an attempt to access the report cache file. Report output will be canceled. Maintenance information: <エラー詳細情報> レポートキャッシュファイルアクセス中に 入出力エラーが発生しました。 レポートの出力を中断します。 保守情報:<エラー詳細情報>	処理中にファイル入出力エラーが発生しました。 (S) レポートの出力を中断します。 (O) ディスクの空き容量を確認してください。 Performance Reporter のサービスが起動している場合は停止した後、レポートキャッシュファイル保存ディレクトリ配下のディレクトリを削除して、レポート出力を再実行してください。 解決しない場合は、jpcprras コマンドで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。
KAVJK2514-E	An unexpected error occurred during an attempt to access the report cache file. Report output will be canceled. Maintenance information: <エラー詳細情報> レポートキャッシュファイルアクセス中に 予期せぬエラーが発生しました。 レポートの出力を中断します。 保守情報:<エラー詳細情報>	処理中に予期せぬエラーが発生しました。 (S) レポートの出力を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJK2557-E	Graph library has failed to create the image. グラフィブラリが画像の生成に失敗しました。	グラフ画像の作成中に入出力エラーが発生しました。 (S) レポートの出力を中断します。 (O) レポート出力を再実行してください。解決しない場合は、jpcprras コマンドで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。
KAVJK2700-E	An attempt to connect to Manager has failed. If you change the authentication information, you must execute the jpcprauth command. Manager への接続が失敗しました。認証情報を変更した場合は jpcprauth コマンドを実行してください。	jpcprauth コマンドを実行していません。 (S) コマンドの実行を中断します。 (O) jpcprauth コマンドを実行して、認証キーファイルを再作成してください。
KAVJK2701-E	You do not have execution permission. 実行権限がありません。	実行権限がありません。 (S) コマンドの実行を中断します。 終了コード 2 を返します。 (O) Administrators 権限を持つユーザーまたは root 権限を持つユーザーで実行してください。
KAVJK2703-E	The user name or password is invalid. ユーザー名またはパスワードが誤っています。	引数に指定したユーザー名、またはパスワードが誤っています。 (S) コマンドの実行を中断します。

メッセージ ID	メッセージ	説明
		(O) 登録されているユーザー名、または正しいパスワードを指定して、コマンドを再実行してください。
KAVJK2704-E	Creation of the authentication key file was cancelled. 認証用のキーファイルの作成を中断します。	ユーザーが、認証キーファイルの作成を中断しました。 (S) コマンドの実行を中断します。 (O) コマンドを再実行してください。
KAVJK2709-E	<保守情報>: The specified service ID is invalid. Service ID: [<指定したサービス ID>] <保守情報>: 指定されたサービス ID が不正です。 サービス ID: [<指定したサービス ID>]	コマンドラインの引数で指定したサービス ID のけた数が少ない、サービス ID が誤っている、Agent Collector 以外のサービス ID を指定している、またはサービスが停止しています。 (S) コマンドの実行を中断します。 (O) サービス ID を見直すか、サービスが起動していることを確認して、再実行してください。
KAVJK2710-E	<保守情報>: An XML attribute value in the parameter file is invalid. Line: <エラーを検出した行番号> Element name: <エラーを検出したタグ名> Attribute name: <エラーを検出した属性名> Attribute value: [<エラーを検出した属性値>] <保守情報>: パラメーターファイルの属性が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <エラーを検出したタグ名> 属性名: <エラーを検出した属性名> 属性値: [<エラーを検出した属性値>]	コマンドラインに指定したパラメーターファイルのサービス ID のけた数が少ない、サービス ID が誤っている、Agent Collector 以外のサービス ID を指定している、二重に指定している、またはサービスが停止しています。 (S) エラーを検出したサービス ID の処理をスキップし、次のサービス ID の処理を行います。 (O) サービス ID を見直すか、サービスが起動していることを確認して、再実行してください。
KAVJK2711-E	An attempt to acquire data from the Agent has failed. The report cannot be output. Agent からのデータ取得に失敗しました。レポートを出力できません。	これには幾つかの原因が考えられます。 ・ Manager が停止した。 ・ Agent からの対応に時間が掛かっている。 ・ 要求されたデータ量が限界値に達した。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) Manager が起動していることを確認し、再度コマンドを実行してください。 Agent が正常に動作していることを確認し、再度コマンドを実行してください。 レポート定義のレポート表示期間を狭めるか、選択フィールドを減らして再度コマンドを実行してください。 Agent 側に出力されているメッセージを確認し、その対処に従ってください。
KAVJK2712-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <タグ名 (data-label1, data-label2)>	DATETIME, PROD_INST, DEVICEID, <fields>タグで指定したフィールド ID 以外のフィールド ID が指定されました。フィールド ID の指定を見直してください。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	Value: [<不正なフィールド ID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <タグ名 (data-label1, data-label2) > 値: [<不正なフィールド ID>]	指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <タグ名 (data-label1, data-label2) >タグに指定したフィールド ID を見直してください。
KAVJK2713-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <タグ名 (data-label1, data-label2)> Value: [<不正なフィールド ID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <タグ名 (data-label1, data-label2) > 値: [<不正なフィールド ID>]	単数行レコードの場合は DATETIME, <fields>タグで指定したフィールド ID 以外、複数行レコードの場合は DATETIME, <fields>タグで指定したフィールド ID 以外、レコード固有の ODBC キーフィールドのフィールド ID が指定されました。フィールド ID の指定を見直してください。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <タグ名 (data-label1, data-label2) >タグに指定したフィールド ID を見直してください。
KAVJK2714-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <タグ名 (data-label1, data-label2)> Value: [<不正なフィールド ID>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <タグ名 (data-label1, data-label2) > 値: [<不正なフィールド ID>]	単数行レコードの場合は RECORD_TIME, <fields>タグで指定したフィールド ID 以外、複数行レコードの場合は RECORD_TIME, <fields>タグで指定したフィールド ID 以外、レコード固有の ODBC キーフィールドのフィールド ID が指定されました。フィールド ID の指定を見直してください。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) <タグ名 (data-label1, data-label2) >タグに指定したフィールド ID を見直してください。
KAVJK2715-E	<保守情報>: The parameter file contains an invalid statement. Line: <エラーを検出した行番号> Element: <エラーを検出したタグ名> <保守情報>: パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <エラーを検出した行番号> タグ名: <エラーを検出したタグ名>	<エラーを検出したタグ名>タグは指定された DTD のバージョンでは使用できません。 (S) jpcrdef create の場合: 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 jpcaspsv update の場合: 指定されたエージェントの処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のエージェントを処理します。 (O) パラメーターファイルに指定したバージョンの属性値を見直してください。
KAVJK2716-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行番号 (Number of line)> Element: <<タグ名 (Element)>> Attribute name: <属性名 (Attribute Name)> パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行番号 (Number of line) >	タグ名 (Element) タグは指定された DTD のバージョンでは使用できません。 (S) 処理を中断します。 (O) パラメーターファイルに指定した属性名 (Attribute Name) の属性値を見直してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
	タグ名 : <<タグ名 (Element) >> 属性名 : <属性名 (Attribute Name) >	
KAVJK2717-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメータファイルの行番号 (Number of line)> Element: <<不正な値を持つ要素名>> パラメータファイルの内容が不正です。 行番号 : <パラメータファイルの行番号 (Number of line)> タグ名 : <<不正な値を持つ要素名>>	最小値が最大値よりも大きな値です。 (S) 処理を中断します。 (O) パラメータファイルに指定した<不正な値を持つ要素名>の値を見直してください。
KAVJK2718-E	An X-coordinate is invalid because it is a null value. X座標の値が null のため不正です。	X座標の値が null です。 (S) コマンドの実行を中断します。 (O) X座標の値を見直してください。
KAVJK2719-E	An Y-coordinate is invalid because it is a null value. Y座標の値が null のため不正です。	Y座標の値が null です。 (S) コマンドの実行を中断します。 (O) Y座標の値を見直してください。
KAVJK2720-E	A label is invalid because it is a null value. ラベルの値が null のため不正です。	ラベルの値が null です。 (S) コマンドの実行を中断します。 (O) ラベルの値を見直してください。
KAVJK2721-E	A series label is invalid because it is a null value. 凡例ラベルの値が null のため不正です。	凡例ラベルの値が null です。 (S) コマンドの実行を中断します。 (O) 凡例ラベルの値を見直してください。
KAVJK2722-E	The option specified for the graph type is incorrect. Graph type: <グラフの種類。LINE, PIE など。> グラフの種類に指定できないオプションが指定されています。 グラフ種別 : <グラフの種類。LINE, PIE など。>	グラフの種類に指定できない表示オプションを指定しています。 (S) コマンドの実行を中断します。 (O) グラフオプションの指定を見直してください。
KAVJK2723-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <行番号> Element: <<不正な値を持つ要素名>> Attribute name: <不正な値を持つ属性名> Attribute value: [<エラーとなった属性値>] <パラメータファイル>に不正なステートメントが含まれています。 行番号 : <行番号> 要素 : <<不正な値を持つ要素名>> 属性名 : <不正な値を持つ属性名> 属性値 : [<エラーとなった属性値>]	指定された数値の形式が不正です。 (S) コマンドの実行を中断します。 (O) 指定した数値を見直してください。
KAVJK2724-E	An internal problem was detected	Graph を作成中に内部エラーを検知しました。

メッセージID	メッセージ	説明
	Maintenance information: <例外メッセージ> 内部エラーが発生しました。 保守情報: <例外メッセージ>	(S) コマンドの実行を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJK2725-E	The parameter file contains an invalid statement. Line: <パラメーターファイルの行数> Element: <ref-bookmark> Attribute name: pathname Attribute value: [<存在しないブックマークのフルパス>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <パラメーターファイルの行数> タグ名: <ref-bookmark> 属性名: pathname 属性値: [<存在しないブックマークのフルパス>]	存在しないブックマークが指定されています。 (S) 指定されたレポート定義の処理をスキップし、パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。 (O) 存在するブックマークを指定してください。また、ブックマークのフルパスを確認してください。
KAVJK2726-E	The combination report cannot be generated. 複合レポートが生成できません。	ブックマーク名の値が複合ブックマークの型ではありません。 (S) 処理を中断します。 (O) 複合ブックマークの型かどうかブックマーク名の入力値を見直してください。
KAVJK2727-E	The specified item (<ブックマーク名または登録レポート名>) or folder does not exist. 指定された<ブックマーク名または登録レポート名>またはフォルダが存在しません。	存在しない<ブックマーク名または登録レポート名>またはフォルダが指定されています。 (S) 処理をスキップします。 (O) パラメーターファイルの指定を見直し、正しい名称を指定してください。
KAVJK2728-E	The parameter file is invalid. Line: <行番号> Element: <不正な値を持つ要素名> Attribute name: <不正な値を持つ属性名> Attribute value: [<エラーとなった属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <行番号> タグ名: <不正な値を持つ要素名> 属性名: <不正な値を持つ属性名> 属性値: [<エラーとなった属性値>]	フォルダパスの先頭が/で始まっていません。 (S) 指定されたブックマークの処理をスキップします。 (O) フォルダパスを変更し、再度実行してください。
KAVJK2729-E	The combination report cannot be generated. 複合レポートが生成できません。	複合ブックマークにレポートが設定されていないため、複合レポートを取得できません。 (S) 処理を中断します。 (O) 複合ブックマークに一つ以上のレポートを設定して、再度実行してください。
KAVJK2730-E	The specified report is not registered for the specified bookmark. 指定されたレポートが指定されたブックマークに登録されていません。	登録レポートが存在しないブックマークが指定されています。 (S) 指定されたブックマークの処理をスキップします。 (O)

メッセージ ID	メッセージ	説明
		パラメーターファイルの指定を見直し、正しい名称を指定してください。
KAVJK2731-E	The parameter file is invalid. Line: <行番号> Element: <不正な値を持つ要素名> Value: [<エラーとなった値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <行番号> タグ名: <不正な値を持つ要素名> 値: [<エラーとなった値>]	日付が範囲外の値です。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) 年に 1971 から 2035 の値を指定してください。
KAVJK2732-E	The parameter file is invalid. Line: <行番号> Element: <不正な値を持つ要素名> Attribute name: <不正な値を持つ属性名> Attribute value: [<エラーとなった属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <行番号> タグ名: <不正な値を持つ要素名> 属性名: <不正な値を持つ属性名> 属性値: [<エラーとなった属性値>]	フォルダ名称の前後に半角空白が指定されています。 (S) コマンドの処理を中断します。 (O) フォルダ名称の前後から半角空白を削除してから実行してください。
KAVJK2733-E	The report cannot be generated. レポートが生成できません。	エージェントまたは Store データベースが稼働していないか、またはエージェントへのネットワーク経路が遮断されているため、レポートを取得できません。 (S) 処理を中断します。 (O) エージェントおよび Store データベースを起動して、もう一度操作してください。
KAVJK2736-E	The parameter file is invalid Line: <行番号> Element: <不正な値を持つ要素名> Attribute name: <不正な値を持つ属性名> Attribute value: [<エラーとなった属性値>] パラメーターファイルの内容が不正です。 行番号: <行番号> タグ名: <不正な値を持つ要素名> 属性名: <不正な値を持つ属性名> 属性値: [<エラーとなった属性値>]	<不正な値を持つ属性名>の [<エラーとなった属性値>] の長さに 0 文字または 65 文字以上の文字列が指定されています。 (S) 処理をスキップします。 (O) <不正な値を持つ属性名>の値は 1 から 64 文字以内の文字列を指定してください。
KAVJK2743-E	An attempt to create the authentication key file has failed. Cause: <エラー情報> 認証用のキーファイルの作成に失敗しました。 エラー情報:<エラー情報>	認証キーファイル、または格納先ディレクトリにアクセスできなかったため、認証キーファイルを作成できませんでした。 エラーの要因は、次のどれかの可能性があります。 ・ 認証キーファイル、または認証キーファイルの格納先ディレクトリが存在しない ・ 認証キーファイル、または認証キーファイルの格納先ディレクトリにアクセスできない ・ 出力先のディスクの容量が不足している (S) コマンドの実行を中断します。 (O)

メッセージID	メッセージ	説明
		<p>認証キーファイル,または認証キーファイルの格納先ディレクトリが存在し,アクセスできるかどうかを確認してください。</p> <p>また,出力先のディスク容量が不足していないかどうかを確認してください。</p> <p>エラーの要因を取り除いたあとで,すべてのHitachi Command Suite 製品のサービスを停止し, jpcprauth コマンドを再実行してください。</p>
KAVJK4001-E	<p><保守情報>: An internal inconsistency was detected.</p> <p>Maintenance information: <内部矛盾を検出した情報></p> <p><保守情報>: 内部矛盾を検出しました。</p> <p>保守情報: <内部矛盾を検出した情報></p>	<p>コマンド処理で, 内部矛盾を検出しました。</p> <p>(S)</p> <p>コマンドの実行を打ち切ります。</p> <p>(O)</p> <p>システム環境不正のため, システム管理者に連絡してください。</p>
KAVJK5001-I	<p>The specified report definition is read-only. This item is skipped.</p> <p>Line: <パラメーターファイルの行数></p> <p>読み込み専用のレポート定義が指定されています。処理をスキップします。</p> <p>行番号: <パラメーターファイルの行数></p>	<p>読み込み専用のレポート定義が指定されています。</p> <p>(S)</p> <p>指定されたレポート定義の処理をスキップし, パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。</p>
KAVJK6701-I	<p>The authentication key file has been created. User Name:<ユーザー名></p> <p>認証用のキーファイルを作成しました。</p> <p>ユーザー名: <ユーザー名></p>	<p>認証用のキーファイルを作成しました。</p> <p>(S)</p> <p>終了コード 0 を返します。</p>
KAVJK8001-Q	<p>Do you really want to delete the report definition "<フォルダパス/レポート名称>"? [y/n]</p> <p>レポート定義 "<フォルダパス/レポート名称>" を削除してもよろしいですか? [y/n]</p>	<p>レポート定義を削除するか確認します。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p> <p>確認に対して [y] または [Y] が入力されれば, 削除処理を実行します。それ以外の入力に対しては指定されたレポート定義の処理をスキップし, パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。</p> <p>(O)</p> <p>レポート定義を削除する場合は, [y] または [Y] を入力してください。削除しない場合は, それ以外のキーを入力してください。</p>
KAVJK8002-Q	<p>Do you want to delete the folder "<フォルダパス>" including all subfolders and report definitions? [y/n]</p> <p>フォルダ "<フォルダパス>" とフォルダ内すべてのフォルダ, レポート定義を削除してもよろしいですか? [y/n]</p>	<p>フォルダおよびレポート定義を削除するか確認します。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p> <p>確認に対して [y] または [Y] が入力されれば, 削除処理を実行します。それ以外の入力に対しては指定されたフォルダおよびレポート定義の処理をスキップし, パラメーターファイル中の次のレポート定義を処理します。</p> <p>(O)</p> <p>フォルダおよびレポート定義を削除する場合は, [y] または [Y] を入力してください。削除しない場合は, それ以外のキーを入力してください。</p>
KAVJK8003-Q	<p>Are you sure you want to overwrite the "<ファイルパス>" file? [y/n]</p> <p>ファイル"<ファイルパス>"を上書きしてもよろしいですか? [y/n]</p>	<p>出力先に同一名称のファイルがすでに存在しています。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
		<p>確認に対して [y] または [Y] が入力されれば、ファイルを上書きします。それ以外の入力に対してはファイル出力処理を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>ファイルを上書きする場合は、[y] または [Y] を入力してください。上書きしない場合は、それ以外のキーを入力してください。</p>
KAVJK8004-Q	<p>Do you really want to delete the SNMP host name "<削除する SNMP ホスト名>"? [y/n]</p> <p>SNMP ホスト名"<削除する SNMP ホスト名>"を削除してもよろしいですか? [y/n]</p>	<p>SNMP ホスト名を削除するか確認します。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p> <p>確認に対して [y] または [Y] が入力されれば、削除処理を実行します。それ以外の入力に対しては指定された SNMP ホスト名の削除処理をスキップし、パラメーターファイル中の次の削除処理を実行します。</p> <p>(O)</p> <p>SNMP ホスト名を削除する場合は [y] または [Y] を入力してください。削除しない場合はそれ以外のキーを入力してください。</p>
KAVJK8602-Q	<p>The authentication key file already exists. Do you want to update it? [y/n]</p> <p>認証用のキーファイルがすでに存在します。更新してもよろしいですか?[y/n]</p>	<p>認証キーファイルを更新するかどうかを確認します。</p> <p>(S)</p> <p>応答を待ちます。</p> <p>(O)</p> <p>認証キーファイルを更新する場合は、[y] または [Y] を入力してください。更新しない場合は、それ以外のキーを入力してください。</p>
KAVJL5001-I	<p>The login service will now be started.</p> <p>ログ機能を開始します。</p>	<p>ログ機能を開始します。</p> <p>(S)</p> <p>ロギング機能の処理を開始します。</p>
KAVJS0001-E	<p>The cache expired.</p> <p>Condition ID: <条件 ID></p> <p>条件キャッシュの期限が切れました。</p> <p>条件 ID : <条件 ID></p>	<p>条件キャッシュの期限が切れました。</p> <p>(S)</p> <p>処理を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>再度メイン画面からレポートを選択してください。または、不要なレポートを閉じて、再度レポートを表示してください。</p>
KAVJS0002-E	<p>The specified report definition was not found.</p> <p>Report ID: <表示するレポート ID></p> <p>指定されたレポート定義がありません。</p> <p>レポート ID : <表示するレポート ID></p>	<p>指定されたレポート定義は削除されているか、不正な状態のため取得できません。</p> <p>(S)</p> <p>処理を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>レポート定義が存在するか確認してください。</p>
KAVJS0004-E	<p>The drilldown target report definition was not found.</p> <p>Report ID: <ドリルダウン先のレポート ID></p> <p>Field Name: <フィールド名></p> <p>ドリルダウン先のレポート定義が削除されて見つかりません。</p> <p>レポート ID : <ドリルダウン先のレポート ID></p> <p>フィールド名 : <フィールド名></p>	<p>ドリルダウン先のレポート定義が削除されました。</p> <p>(S)</p> <p>処理を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>ドリルダウン先のレポート定義が存在するか見直してください。</p>

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJS0005-E	The specified drilldown definition was not found in the report definition of the drilldown source. Report ID: <ドリルダウン元のレポートID> Field Name: <フィールド名> ドリルダウン元のレポート定義に、指定されたドリルダウン定義がありません。 レポートID : <ドリルダウン元のレポートID> フィールド名 : <フィールド名>	指定されたドリルダウン定義がありません。ドリルダウン定義が削除された可能性があります。 (S) 処理を中断します。 (O) レポート定義を確認してください。
KAVJS0006-E	The entered value <フィールド名("開始日時","終了日時")> is outside the valid range. <フィールド名 ("開始日時","終了日時") > の入力値が範囲外の値です。	<フィールド名>の入力値が範囲外です。 (S) 処理を中断します。 (O) <フィールド名 ("開始日時","終了日時") > の値を見直してください。
KAVJS0007-E	The format of the value entered for <フィールド名("開始日時","終了日時")> is invalid. <フィールド名 ("開始日時","終了日時") > の入力書式が不正です。	<フィールド名>の入力書式が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) <フィールド名 ("開始日時","終了日時") > の値を見直してください。
KAVJS0008-E	The end time is earlier than the start time. <"開始日時">が<"終了日時">より後の日時になっています。	開始日時が終了日時よりあとの日時になっています。 (S) 処理を中断します。 (O) <"開始日時">は<"終了日時">より前の日時にしてください。
KAVJS0009-E	The specified character set <キャラクターセット> is not supported. 指定されたキャラクターセットは未サポートです。 キャラクターセット : <キャラクターセット>	初期化ファイルに指定されたキャラクターセットは未サポートです。 (S) 処理を中断します。 (O) キャラクターセットの指定を見直してください。指定できるキャラクターセットは US-ASCII, windows-1252, ISO-8859-1, UTF-8, UTF-16, UTF-16BE, UTF-16LE, Shift_JIS, EUC-JP, EUC-JP-LINUX, MS932 です。
KAVJS0010-E	Memory has become insufficient. メモリー不足が発生しました。	サーバ側でメモリー不足が発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) 不要なアプリケーションやウィンドウを終了し、メモリーを確保してください。
KAVJS0011-E	The session timed out. セッションが切れました。	セッション存続時間内に操作が行われませんでした。 (S) 処理を中断します。 (O) ブラウザを終了して、再度実行してください。
KAVJS0012-E	An attempt to communicate with Manager failed.	Manager との通信でエラーが発生しました。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
	Maintenance information: <エラー詳細情報> Manager との通信でエラーが発生しました。 保守情報 : <エラー詳細情報>	処理を中断します。 (O) Manager ホストとの通信が正しく行えるか、または Manager が起動しているか確認してください。
KAVJS0013-E	The value of Maximum number of records is outside the valid range. 指定された最大レコード数の値が範囲外です。	指定された最大レコード数の値が範囲外です。 (S) 処理を中断します。 (O) 1 から<最大値>の値を指定してください。
KAVJS0014-E	The format of the value for the Maximum number of records is invalid. 指定された最大レコード数の値の書式が不正です。	指定された最大レコード数の値の書式が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) 正の整数値を指定してください。
KAVJS0015-E	The report definition specified has been changed. Report ID: <表示するレポート ID> 指定されたレポート定義が変更されています。 レポート ID : <表示するレポート ID>	指定されたレポート定義が変更されています。 (S) 処理を中断します。 (O) 再度メイン画面からレポートを表示してください。
KAVJS0016-E	The <フィルターの番号>th filter expression is outside the valid range. フィルターの<フィルターの番号>番目の入力値が範囲外の値です。	フィルターの<フィルター番号>番目の入力値が範囲外の値です。 (S) 処理を中断します。 (O) フィルターの値を見直してください。
KAVJS0017-E	The <フィルターの番号>th value entered as the filter is invalid. フィルターの<フィルターの番号>番目の入力書式が不正です。	フィルターの<フィルター番号>番目の入力書式が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) フィルターの値を見直してください。 値に指定できない文字を含むデータに対してフィルターを適用する場合、指定できない文字の代わりにワイルドカード文字を指定することでエラーを回避できます。詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。
KAVJS0018-E	The conditional expression of the field drilldown does not match the record of the referenced report. Report name: <親レポート名> Field name: <フィールドドリルダウンしたフィールド名> ドリルダウン元レポートのフィールドドリルダウン条件式がドリルダウン先レポートのレコードと一致しません。 レポート名 : <親レポート名> フィールド名 : <フィールドドリルダウンしたフィールド名>	ドリルダウン元レポートのフィールドドリルダウン条件式がドリルダウン先レポートのレコードと一致しません。 (S) 処理を中断します。 (O) ドリルダウン元のレポート定義のフィールドドリルダウン条件式を確認してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJS0019-E	The field specified in the conditional expression of the field drilldown is not selected with the report definition. Report name: <親レポート名> Field name: <フィールドドリルダウンしたフィールド名> ドリルダウン元レポートのフィールドドリルダウン条件式として設定されているフィールドが、レポート定義で選択されていません。 レポート名 : <親レポート名> フィールド名 : <フィールドドリルダウンしたフィールド名>	ドリルダウン元レポートのフィールドドリルダウン条件式として設定されているフィールドが、レポート定義で選択されていません。 (S) 処理を中断します。 (O) ドリルダウン元のレポート定義を確認してください。
KAVJS0020-E	An invalid token was detected during Link&Launch. Link&Launch 時にトークン不正を検出しました。	Link&Launch 時にトークン不正を検出しました。 (S) 処理を中断します。 (O) Link&Launch をし直してください。
KAVJS0021-E	The received token has expired. 期限切れのトークンを受け取りました。	ブックマークなどからの不正なアクセスによるものです。 (S) 処理を中断します。 (O) Link&Launch をし直してください。
KAVJS0022-E	During execution of Link&Launch, an attempt to connect to the Manager failed due to an RMI error. Module name: Link&Launch Maintenance information: <原因(保守メッセージ)> Link&Launch 時に Manager との接続時に RMI エラーを検出しました。 モジュール名 : Link&Launch 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	Manager が起動していないか、接続先が誤っています。 (S) 処理を中断します。 (O) Manager が起動しているか確認してください。または、接続先を確認してください。
KAVJS0023-E	During execution of Link&Launch, an attempt to connect to the Manager failed. Module name: Link&Launch Maintenance information: <原因(保守メッセージ)> Link&Launch 時に Manager との接続時に接続エラーを検出しました。 モジュール名 : Link&Launch 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	Manager が起動していないか、接続先が誤っています。 (S) 処理を中断します。 (O) Manager が起動しているか確認してください。または、接続先を確認してください。
KAVJS0025-E	The operation was conducted from a window displayed during a session that was already logged out. すでにログアウト済みのセッションで表示されたウィンドウが操作されました。	ログアウト済みのセッションで表示されたウィンドウが操作されました。 (S) 処理を中断します。 (O) ウィンドウを閉じて、再度ウィンドウを開き直してください。
KAVJS0026-E	The graph data contains an unsupported value.	グラフ表示設定されたフィールドには、NaN や Infinity など非数の値が含まれており、指定

メッセージ ID	メッセージ	説明
	グラフに表示する値に、未サポートの値が含まれています。	されたエージェントホスト環境ではサポートされていない可能性があります。 (S) 処理を中断します。 (O) 該当のフィールドのグラフ表示設定を解除して再表示してください。
KAVJS0027-E	The user name or password is invalid. ユーザー名またはパスワードに誤りがあります。	ログイン画面で指定されたユーザー名またはパスワードに誤りがあります。 (S) 処理を中断します。 (O) 登録されているユーザー名または正しいパスワードを指定して、もう一度操作してください。
KAVJS0028-E	A multi-byte character is included. 全角文字または半角カナ文字が含まれています。	半角文字（半角カナ文字は除く）しか許可していないフィールドに全角文字、または半角カナ文字が入力されました。 (S) 処理を中断します。 (O) 半角文字（半角カナ文字は除く）だけで指定して、もう一度操作してください。
KAVJS0029-E	During execution of user authentication, an attempt to connect to Manager failed due to an RMI error. Maintenance information: <原因(保守メッセージ)> ユーザー認証時に Manager との接続で RMI エラーを検出しました。 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	Manager が起動していないか、接続先が誤っています。 (S) 処理を中断します。 (O) Manager が起動しているか確認してください。または、接続先を確認してください。
KAVJS0030-E	During execution of user authentication, an attempt to connect to Manager failed. Maintenance information: <原因(保守メッセージ)> ユーザー認証時に Manager との接続エラーを検出しました。 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	Manager が起動していないか、接続先が誤っています。 (S) 処理を中断します。 (O) Manager が起動しているか確認してください。または、接続先を確認してください。
KAVJS0031-E	The maximum character length for a report name is 64 characters. レポート名は 64 文字以下にしてください。	65 文字以上のレポート名が指定されています。 (S) レポート名の再入力を求めます。レポートのリネーム画面に戻ります。 (O) レポート名には 64 文字以内の文字列を指定してください。
KAVJS0032-E	The maximum character length for a folder name is 64 characters. フォルダ名は 64 文字以下にしてください。	65 文字以上のフォルダ名が指定されています。 (S) フォルダ名の再入力を求めます。フォルダのリネーム画面に戻ります。 (O) フォルダ名には 64 文字以内の文字列を指定してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJS0033-E	The specified report name already exists. Specify another name. 指定されたレポート名はすでに存在します。別の名称を指定してください。	同一ディレクトリ上に、既存のレポート名が指定されています。 (S) レポート名の再入力を求めます。レポートのリネーム画面に戻ります。 (O) 同一ディレクトリに存在しているレポート名以外のレポート名を指定してください。
KAVJS0034-E	The specified folder name already exists. Specify another name. 指定されたフォルダ名はすでに存在します。別の名称を指定してください。	同一ディレクトリ上に、既存のフォルダ名が指定されています。 (S) フォルダ名の再入力を求めます。フォルダのリネーム画面に戻ります。 (O) 同一ディレクトリに存在しているフォルダ名以外のフォルダ名を指定してください。
KAVJS0035-E	The specified folder was not found. Folder ID: <フォルダ ID> 指定されたフォルダがありません。 フォルダ ID : <フォルダ ID>	指定されたフォルダは削除されているか、不正な状態のため取得できません。 (S) 処理を中断します。 (O) フォルダが存在するか確認してください。
KAVJS0036-E	Wizard transition is invalid. (Maintenance Information: <保守情報>) ウィザード遷移が不正です (保守情報 : <保守情報>)。	ウィザードコンテキスト ID の不整合によるエラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) ウィザードを最初からし直してください。
KAVJS0037-E	Wizard transition is invalid. (Maintenance Information: <保守情報>) ウィザード遷移が不正です (保守情報 : <保守情報>)。	ウィザードコンテキストページ ID の不整合によるエラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) ウィザードを最初からし直してください。
KAVJS0038-E	Transaction transition is invalid. (Maintenance Information: <保守情報>) トランザクション遷移が不正です (保守情報 : <保守情報>)。	トランザクション ID の不整合によるエラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) トランザクションを最初からし直してください。
KAVJS0039-E	The specified initial value is out of range. 指定された初期値が範囲外です。	指定された初期値が範囲外です。 (S) 処理を中断します。 (O) 最小値から 3,600 の値を指定してください。
KAVJS0040-E	The specified format of the initial value is invalid. 指定された初期値の書式が不正です。	指定された初期値の書式が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) 正の整数値を指定してください。
KAVJS0041-E	The specified minimum value is out of range. 指定された最小値が範囲外です。	指定された最小値が範囲外です。 (S) 処理を中断します。

メッセージ ID	メッセージ	説明
		(O) 10 から 3,600 の値を指定してください。
KAVJS0042-E	The specified format of the minimum value is invalid. 指定された最小値の書式が不正です。	指定された最小値の書式が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) 正の整数値を指定してください。
KAVJS0043-E	The specified display number value is out of range. 指定された表示数の値が範囲外です。	指定された表示数の値が範囲外です。 (S) 処理を中断します。 (O) 1 から 100 の値を指定してください。
KAVJS0044-E	The specified display number format is invalid. 指定された表示数の書式が不正です。	指定された表示数の書式が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) 正の整数値を指定してください。
KAVJS0045-E	Specify a maximum of 40 characters for the x-axis label. X 軸ラベルは 40 文字以下にしてください。	X 軸ラベルが全角または半角 41 文字以上で指定されました。 (S) 処理を中断します。 (O) X 軸ラベルを全角または半角 40 文字以下で指定して、もう一度操作してください。
KAVJS0046-E	Specify a maximum of 40 characters for the y-axis label. Y 軸ラベルは 40 文字以下にしてください。	Y 軸ラベルが全角または半角 41 文字以上で指定されました。 (S) 処理を中断します。 (O) Y 軸ラベルを全角または半角 40 文字以下で指定して、もう一度操作してください。
KAVJS0047-E	Specify a maximum of 24 characters for the display name. 表示名は 24 文字以下にしてください。	表示名が全角または半角 25 文字以上で指定されました。 (S) 処理を中断します。 (O) 表示名を全角または半角 24 文字以下で指定して、もう一度操作してください。
KAVJS0048-E	The value entered for the filter is invalid. フィルターの値の入力書式が不正です。	フィルターの値の入力書式が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) フィルターの値を見直してください。
KAVJS0049-E	Data label 1 is not specified. データラベル 1 が未設定です。	データラベル 1 を設定しないで、データラベル 2 が設定されました。 (S) 処理を中断します。 (O) データラベル 2 を設定する場合は、データラベル 1 も設定してください。
KAVJS0050-E	The report cannot be copied. レポートをコピーできません。	指定されたフォルダは削除されているか、不正な状態のため取得できません。 (S) 処理を中断します。

メッセージID	メッセージ	説明
		(O) フォルダ選択画面をリフレッシュし、フォルダを再選択してください。
KAVJS0051-E	The report cannot be copied. レポートをコピーできません。	コピー先フォルダに、同一名称のフォルダが存在します。 (S) 処理を中断します。 (O) フォルダ名を変更するか、別フォルダを選択してください。
KAVJS0052-E	The report cannot be copied. レポートをコピーできません。	コピー先フォルダに、同一名称のレポートが存在します。 (S) 処理を中断します。 (O) レポート名を変更するか、別フォルダを選択してください。
KAVJS0053-E	Specify a maximum of 64 characters for a bookmark name. ブックマーク名は 64 文字以下にしてください。	65 文字以上のブックマーク名が指定されています。 (S) ブックマーク名の再入力を求めます。 (O) ブックマーク名には 64 文字以内の文字列を指定してください。
KAVJS0054-E	The specified bookmark was not found Bookmark ID: <ブックマーク ID> 指定されたブックマークがありません。 ブックマーク ID : <ブックマーク ID>	指定されたブックマークは削除されているか、不正な状態のため取得できません。 (S) 処理を中断します。 (O) ブックマークが存在するか確認してください。
KAVJS0055-E	The specified registered report does not exist. Registered report ID: <レポート ID> 指定された登録レポートがありません。 登録レポート ID : <レポート ID>	指定された登録レポートは削除されているか、不正な状態のため取得できません。 (S) 処理を中断します。 (O) 登録レポートが存在するか確認してください。
KAVJS0056-E	The specified bookmark name already exists. Specify another name. 指定されたブックマーク名はすでに存在します。別の名称を指定してください。	同一ディレクトリ上に、既存しているブックマーク名が指定されています。 (S) ブックマーク名の再入力を求めます。 (O) 同一ディレクトリに既存しているブックマーク名以外のブックマーク名を指定してください。
KAVJS0057-E	The report cannot be displayed. レポートを表示できません。	ブックマーク登録時にバインドしていたエージェントが見つかりません。すでに存在しない可能性があります。 (S) 処理を中断します。 (O) ブックマーク登録時にバインドしたエージェントが、すでに削除されていないか確認してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJS0058-E	The specified update interval value is outside the valid range. 指定された更新間隔の値が範囲外です。	指定された更新間隔の値が範囲外です。 (S) 処理を中断します。 (O) <更新間隔の最小値>から<更新間隔の最大値> の値を指定してください。
KAVJS0059-E	The format of the specified update interval value is invalid. 指定された更新間隔の値の書式が不正です。	指定された更新間隔の値の書式が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) 正の整数値を指定してください。
KAVJS0060-E	The selected report definition has been deleted. Report ID: <レポート ID> 選択したレポート定義は、削除されています。レポート ID : <レポート ID>	レポート定義が削除されました。 (S) 処理を中断します。 (O) レポートツリーをリフレッシュして、レポート を選択してください。
KAVJS0061-E	The filter expression cannot be edited. フィルター式を編集できません。	フィールドドリルダウン先のレポート定義が 削除されました。レポート ID:<レポート ID> (S) 処理を中断します。 (O) 存在するレポート定義をバインドしてくださ い。
KAVJS0062-E	The filter expression cannot be edited. フィルター式を編集できません。	フィルター式の編集中に、フィールドドリルダ ウン先のレポート定義が変更されました。レ ポート ID : <レポート ID> (S) 処理を中断します。 (O) レポートを再度バインドするか、ドリルダウン 先のレポート定義を変更してください。
KAVJS0063-E	The filter expression editing has been canceled. フィルター式の編集を、キャンセルしまし た。	フィルター式の編集中に、フィールドドリルダ ウン先のレコードが変更されました。レポ ート ID : <レポート ID> (S) 処理を中断します。 (O) レポートを再度バインドするか、ドリルダウン 先のレポート定義を変更してください。
KAVJS0064-E	The filter expression editing has been canceled. フィルター式の編集を、キャンセルしまし た。	フィルター式の編集中に、フィールドドリルダ ウン先のレポート定義が削除されました。レ ポート ID : <レポート ID> (S) 処理を中断します。 (O) 存在するレポート定義をバインドしてくださ い。
KAVJS0065-E	An invalid URL has been specified. 不正な URL 指定が行われました。	ブックマークなどからの不正なアクセスによ るものです。 (S) 処理を中断します。 (O) 正しい URL 指定でアクセスしてください。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJS0066-E	A nonexistent agent ID has been specified. Agent ID: <エージェント ID> 存在しないエージェント ID が指定されています。 エージェント ID : <エージェント ID>	Link&Launch で、存在しないエージェント ID が指定されました。 (S) 処理を中断します。 (O) サービスを再起動してください。
KAVJS0067-E	A drilldown report cannot be displayed. Maintenance information: <行特定キー> ドリルダウンレポートを表示できません。 保守情報 : <行特定キー>	フィールドドリルダウンで選択された行データは、最大保持件数を超えて削除されたため、ドリルダウンレポートの表示に失敗しました。 (S) 処理を中断します。
KAVJS0068-E	The specified folder name already exists. Specify another name. 指定されたフォルダ名はすでに存在します。別の名称を指定してください。	同一ディレクトリ上に、既存のフォルダ名が指定されています。 (S) フォルダ名の再入力を求めます。フォルダのリネーム画面に戻ります。 (O) 同一ディレクトリに存在しているフォルダ名およびブックマーク名以外のフォルダ名を指定してください。
KAVJS0069-E	The specified folder name already exists. Specify another name. 指定されたフォルダ名はすでに存在します。別の名称を指定してください。	同一ディレクトリ上に、既存のフォルダ名が指定されています。 (S) フォルダ名の再入力を求めます。フォルダのリネーム画面に戻ります。 (O) 同一ディレクトリに存在しているフォルダ名およびレポート定義名以外のフォルダ名を指定してください。
KAVJS2501-E	A new folder cannot be created because the number of folder levels exceeds the allowed maximum. フォルダの階層数の上限を超えるため新しくフォルダを作成できません。	フォルダの階層数の上限を超えるため新しくフォルダを作成できません。 (O) フォルダの階層数が上限に達していないノードを選択し直してください。
KAVJS2502-E	A new folder cannot be created because the number of folders in 1 node exceeds the allowed maximum. 1 ノード内のフォルダ数の上限を超えるため新しくフォルダを作成できません。	1 ノード内のフォルダ数の上限を超えるため新しくフォルダを作成できません。 (O) 1 ノード内のフォルダ数が上限に達していないノードを再選択するか、不要なフォルダを削除してください。
KAVJS2503-E	A new agent cannot be created because the maximum number of agents in 1 node exceeds the allowed maximum. 1 ノード内のエージェント数の上限を超えるため新しくエージェントを作成できません。	1 ノード内のエージェント数の上限を超えるため新しくエージェントを作成できません。 (O) 1 ノード内のエージェント数が上限に達していないノードを再選択するか、不要なエージェントを削除してください。
KAVJS2504-E	An attempt to copy a folder has failed because a folder with the same name already exists in the copy destination. コピー先フォルダ内にコピー対象のフォルダと同名のフォルダがあるためコピーできません。	コピー先フォルダ内にコピー対象のフォルダと同名のフォルダがすでに存在しています。 (O) 同名のフォルダが存在しないノードを再選択してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJS2505-E	An attempt to copy a folder has failed because the copy destination and the copy source are on the same node. コピー先とコピー対象が同じノードのためコピーできません。	コピー先とコピー対象に同じノードを選択しています。 (O) コピー先にコピー対象と異なるノードを再選択してください。
KAVJS2506-E	An attempt to copy a folder failed because the number of folder levels exceeds the allowed maximum. フォルダの階層数の上限を超えるためフォルダをコピーできません。	コピーによってフォルダの階層数が上限を超えます。 (O) コピーによってフォルダの階層数が上限を超えないノードを再選択してください。
KAVJS2507-E	An attempt to copy a folder failed because the number of folders on a node exceeded the allowed maximum. 1 ノード内のフォルダ数の上限を超えるためフォルダをコピーできません。	コピーによって1 ノード内のフォルダ数が上限を超えます。 (O) コピーによって1 ノード内のフォルダ数が上限を超えないノードを再選択するか、または不要なフォルダを削除してください。
KAVJS2508-E	An attempt to copy an agent failed because the number of agents on a node exceeded the allowed maximum. 1 ノード内のエージェント数の上限を超えるためエージェントをコピーできません。	コピーによって1 ノード内のエージェント数が上限を超えます。 (O) コピーによって1 ノード内のエージェント数が上限を超えないノードを再選択するか、または不要なエージェントを削除してください。
KAVJS2529-E	The agent cannot be connected to. エージェントに接続できません。	エージェントまたは Store データベースが稼働していないか、またはエージェントへのネットワーク経路が遮断されているため、レポートを取得できません。 (S) レポートの出力を中断します。 (O) エージェントまたは Store データベースが稼働していない場合、エージェントおよび Store データベースを起動して、再度レポートを表示してください。
KAVJS2531-E	The number of data items for the report to be output to the graph exceeds the maximum number of data items that can be displayed in a graph. グラフに出力するレポートがグラフ表示可能レポートデータ数を超えています。	グラフに出力するレポートがグラフ表示可能レポートデータ数を超えています。 (S) 処理を中断します。 (O) レポート定義のレポート表示期間を狭めるか、選択フィールドを減らして再度レポートを表示してください。
KAVJS2551-E	Use 64 bytes or fewer for the alarm table name. アラームテーブル名は 64 バイト以下にしてください。	65 バイト以上のアラームテーブル名が指定されています。 (S) アラームテーブル名の再入力を求めます。アラームテーブル名の入力画面に戻ります。 (O) アラームテーブル名には 64 バイト以下の文字列を指定してください。
KAVJS2552-E	Use 20 bytes or fewer for the alarm name. アラーム名は 20 バイト以下にしてください。	21 バイト以上のアラーム名が指定されています。 (S) アラーム名の再入力を求めます。アラーム名の入力画面に戻ります。 (O)

メッセージID	メッセージ	説明
		アラーム名には 20 バイト以下の文字列を指定してください。
KAVJS2553-E	Use 255 bytes or fewer for the message text. メッセージテキストは 255 バイト以下にしてください。	256 バイト以上のメッセージテキストが指定されています。 (S) メッセージテキストの再入力を求めます。 メッセージテキストの入力画面に戻ります。 (O) メッセージテキストには 255 バイト以下の文字列を指定してください。
KAVJS2554-E	The format of the start and/or end time for the specified monitoring period is invalid. 指定された監視時刻範囲の開始、終了の書式が不正です。	指定された監視時刻範囲の開始、終了の書式が不正です。 (S) 時刻の再入力を求めます。監視時刻範囲の時刻の入力画面に戻ります。 (O) 監視時刻範囲の開始、終了は 24 時間制で HH:MM の形式で入力してください。
KAVJS2555-E	The specified alarm table name already exists. Specify another name. 指定されたアラームテーブル名はすでに存在します。別の名称を指定してください。	存在するアラームテーブル名が指定されています。 (S) アラームテーブル名の再入力を求めます。アラームテーブル名の入力画面に戻ります。 (O) 存在するアラームテーブル名以外のアラームテーブル名を指定してください。
KAVJS2556-E	The specified alarm name already exists. Specify another name. 指定されたアラーム名はすでに存在します。別の名称を指定してください。	同一アラームテーブル上に、既存のアラーム名が指定されています。 (S) アラーム名の再入力を求めます。アラームの入力画面に戻ります。 (O) 同一アラームテーブルに存在しているアラーム名以外のアラーム名を指定してください。
KAVJS2557-E	The specified damping value is outside the permitted range. 指定された発生頻度の値が範囲外です。	指定された発生頻度の値が範囲外です。 (S) 発生頻度の値の再入力を求めます。入力画面に戻ります。 (O) 1 から 32,767 の値で指定してください。
KAVJS2558-E	All alarm table names beginning with "PFM" are reserved. You cannot make an alarm table name that starts with "PFM". PFM で始まるアラームテーブル名は予約語です。PFM で始まるアラームテーブル名は作成できません。	PFM で始まるアラームテーブル名は作成できません。 (S) アラームテーブル名の再入力を求めます。アラームテーブル名の入力画面に戻ります。 (O) アラームテーブル名は PFM 以外の文字列で始まる名称を指定してください。
KAVJS2559-E	The specified alarm table does not exist. 指定されたアラームテーブルはありません。	指定されたアラームテーブルは削除されているか、不正な状態のため取得できません。 (S) 処理を中断します。 (O) アラームテーブルが存在するか確認してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJS2560-E	The specified alarm does not exist. 指定されたアラームはありません。	指定されたアラームは削除されているか、不正な状態のため取得できません。 (S) 処理を中断します。 (O) アラームが存在するか確認してください。
KAVJS2561-E	The number of alarm tables exceeds the allowed maximum. アラームテーブル数が最大値を超えています。	システムで作成できるアラームテーブル数の最大値を超えています。 (S) 処理を中断します。 (O) 不要なアラームテーブルを削除してください。
KAVJS2562-E	The number of alarms exceeded the allowed maximum. アラーム数が最大値を超えています。	システムで作成できるアラーム数の最大値を超えています。 (S) 処理を中断します。 (O) アラーム数が 50 個を超える場合は jpctool alarm (jpcalarm) コマンドを使用してください。
KAVJS2563-E	The number of conditional expressions exceeds the allowed maximum. 条件式数が最大値を超えています。	システムで作成できる条件式数の最大値を超えています。 (S) 処理を中断します。 (O) 不要な条件式を削除してください。
KAVJS2564-E	Use 749 bytes or fewer for the conditional expression. 条件式は 749 バイト以下にしてください。	750 バイト以上の条件式が指定されています。 (S) 条件式の再入力を求めます。条件式の入力画面に戻ります。 (O) 条件式には 749 バイト以下の文字列を指定してください。
KAVJS2565-E	Use 127 bytes or fewer for the conditional expression. 条件式は 127 バイト以下にしてください。	128 バイト以上の条件式が指定されています。 (S) 条件式の再入力を求めます。条件式の入力画面に戻ります。 (O) 条件式には 127 バイト以下の文字列を指定してください。
KAVJS2566-E	The conditional expression is invalid. 条件式の値に誤りがあります。	選択された条件式に利用できない値が入力されています。 (S) 条件式の再入力を求めます。条件式の入力画面に戻ります。 (O) 選択された条件式に利用可能な値を指定してください。
KAVJS2567-E	Use 127 bytes or fewer for the email address. E メールアドレスは 127 バイト以下にしてください。	128 バイト以上の email アドレスが指定されています。 (S) email アドレスの再入力を求めます。email アドレスの入力画面に戻ります。 (O)

メッセージ ID	メッセージ	説明
		email アドレスには 127 バイト以下の文字列を指定してください。
KAVJS2568-E	Use 1,000 bytes or fewer for the email text. メール本文は 1,000 バイト以下にしてください。	1,001 バイト以上のメール本文が指定されています。 (S) メール本文の再入力を求めます。メール本文の入力画面に戻ります。 (O) メール本文には 1,000 バイト以内の文字列を指定してください。
KAVJS2569-E	Use 511 bytes or fewer for the command name. コマンド名は 511 バイト以下にしてください。	512 バイト以上のコマンド名が指定されています。 (S) コマンド名の再入力を求めます。コマンド名の入力画面に戻ります。 (O) コマンド名には 511 バイト以下の文字列を指定してください。
KAVJS2570-E	Use 2,047 bytes or fewer for the command argument. コマンド引数は 2,047 バイト以下にしてください。	2,048 バイト以上のコマンド引数が指定されています。 (S) コマンド引数の再入力を求めます。コマンド引数の入力画面に戻ります。 (O) コマンド引数には 2,047 バイト以下の文字列を指定してください。
KAVJS2571-E	Specify an event ID by using a hexadecimal number in the range 0 to 1fff, or 7fff8000 to 7fffffff. イベント ID は 0 から 1fff, 7fff8000 から 7fffffff の 16 進数で指定してください。	0 から 1fff, 7fff8000 から 7fffffff 以外のイベント ID が指定されています。 (S) イベント ID の再入力を求めます。イベント ID の入力画面に戻ります。 (O) イベント ID には 0 から 1fff, 7fff8000 から 7fffffff 以内の文字列を指定してください。
KAVJS2572-E	Use 128 bytes or fewer for the event message. メッセージが長すぎます。128 バイト以下のメッセージを指定してください。	129 バイト以上のメッセージが指定されています。 (S) メッセージの再入力を求めます。メッセージの入力画面に戻ります。 (O) メッセージには 128 バイト以下の文字列を指定してください。
KAVJS2573-E	An attempt to activate an alarm has failed. アラームのアクティブ設定に失敗しました。	アラームが削除されているか、不正な状態によって取得できなかったため、アクティブ設定に失敗したアラームが存在します。 (S) アクティブ設定をできるアラームだけアクティブ設定を実行し、処理を終了します。 (O) アラームが存在するか確認してください。
KAVJS2574-E	An attempt to bind an alarm has failed. アラームのバインド処理に失敗しました。	アラームまたはエージェントが削除されているか、不正な状態によって取得できなかったため、バインドに失敗したエージェントが存在します。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
		<p>バインド処理できるエージェントだけにバインドを実行し、処理を終了します。</p> <p>(O) アラームまたは選択したエージェントが存在するか確認してください。</p>
KAVJS2575-E	<p>An attempt to unbind an alarm has failed.</p> <p>アラームのアンバインド処理に失敗しました。</p>	<p>アラームまたはエージェントが削除されているか、不正な状態によって取得できなかったため、アンバインドに失敗したエージェントが存在します。</p> <p>(S) アンバインド処理できるエージェントだけにアンバインドを実行し、処理を終了します。</p> <p>(O) アラームまたは選択したエージェントが存在するか確認してください。</p>
KAVJS2576-E	<p>An attempt to copy an alarm or alarm table has failed.</p> <p>アラームテーブル、またはアラームのコピー処理に失敗しました。</p>	<p>アラームが削除されているか、不正な状態によって取得できなかったため、コピーに失敗しました。</p> <p>(S) 処理を中断します。</p> <p>(O) アラームテーブルまたはアラームが存在するか確認してください。</p>
KAVJS2577-E	<p>An attempt to delete an alarm or alarm table has failed.</p> <p>アラームテーブル、またはアラームの削除処理に失敗しました。</p>	<p>アラームが削除されているか、不正な状態のため取得できなかったため、削除に失敗しました。</p> <p>(S) 処理を中断します。</p> <p>(O) アラームテーブル、またはアラームが存在するか確認してください。</p>
KAVJS2578-E	<p>The alarm table name is invalid.</p> <p>アラームテーブル名が不当です。</p>	<p>アラームテーブル名として利用できない文字が入力されています。</p> <p>(S) アラームテーブル名の再入力を求めます。アラームテーブル名の入力画面に戻ります。</p> <p>(O) アラームテーブル名には全角文字、半角英数字、または半角記号%-()_./@ [] を利用してください。</p>
KAVJS2579-E	<p>The alarm name is invalid.</p> <p>アラーム名が不当です。</p>	<p>アラーム名として利用できない文字が入力されています。</p> <p>(S) アラーム名の再入力を求めます。アラーム名の入力画面に戻ります。</p> <p>(O) アラーム名には全角文字、半角英数字、または半角記号%-()_./@ [] を利用してください。</p>
KAVJS2580-E	<p>The message text is invalid.</p> <p>メッセージテキストが不当です。</p>	<p>メッセージテキストとして利用できない文字が入力されています。</p> <p>(S) メッセージテキストの再入力を求めます。メッセージテキストの入力画面に戻ります。</p> <p>(O)</p>

メッセージID	メッセージ	説明
		メッセージテキストには全角文字, および半角英数字を利用してください。
KAVJS2581-E	The specified email address is invalid. E メールアドレスが不当です。	email アドレスとして利用できない文字が入力されています。 (S) email アドレスの再入力を求めます。email アドレスの入力画面に戻ります。 (O) email アドレスには半角英数字を利用してください。
KAVJS2582-E	The specified command name is invalid. コマンド名が不当です。	コマンド名として利用できない文字が入力されています。 (S) コマンド名の再入力を求めます。コマンド名の入力画面に戻ります。 (O) コマンド名には全角文字, および半角英数字を利用してください。
KAVJS2583-E	Specify no more than 64 characters for a baseline name. ベースライン名は 64 文字以下にしてください。	65 文字以上のベースライン名が指定されています。 (S) ベースライン名の再入力を求めます。 (O) ベースライン名には 64 文字以内の文字列を指定してください。
KAVJS2584-E	The specified baseline was not found. Baseline ID: <ベースライン ID> 指定されたベースラインがありません。 ベースライン ID : <ベースライン ID>	指定されたベースラインは削除されているか, 不正な状態のため取得できません。 (S) 処理を中断します。 (O) ベースラインが存在するか確認してください。
KAVJS2585-E	The specified baseline name already exists. Specify another name. 指定されたベースライン名はすでに存在します。別の名称を指定してください。	同一ブックマーク上に, 既存しているベースライン名が指定されています。 (S) ベースライン名の再入力を求めます。 (O) 同一ブックマークに既存しているベースライン名以外のベースライン名を指定してください。
KAVJS2586-E	A combination bookmark cannot be created because the maximum number of registered combination bookmarks has been reached. 複合ブックマークの登録数の上限を超えるため作成できません。	複合ブックマークの登録数の上限を超えるため, 登録レポート, またはベースラインの作成ができません。 (S) 処理を中断します。 (O) 不要な登録レポート, またはベースラインを削除してください。
KAVJS2587-E	Specify no more than 40 characters for a series group name. 系列グループ名は 40 文字以下にしてください。	41 文字以上の系列グループ名が指定されています。 (S) 系列グループ名の再入力を求めます。 (O) 系列グループ名には 40 文字以内の文字列を指定してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJS2588-E	Specify no more than 64 characters for a graph title. グラフタイトルは 64 文字以下にしてください。	65 文字以上のグラフタイトルが指定されています。 (S) グラフタイトルの再入力を求めます。 (O) グラフタイトルには 64 文字以内の文字列を指定してください。
KAVJS2601-E	The specified value is outside the valid range. Specify a value from <最小値> to <最大値>. 入力値が有効な範囲を超えています。次の範囲の整数値を入力してください。(<最小値> から <最大値>)	入力値が有効な範囲を超えています。 (S) 条件式の再入力を求めます。条件式の入力画面に戻ります。 (O) 有効な範囲の値を入力して、もう一度操作してください。
KAVJS2602-E	The specified value contains invalid characters. 全角文字または半角カナ文字が含まれています。それ以外の半角文字で指定してください。	半角文字（半角カナ文字は除く）しか許可していないフィールドに全角文字、または半角カナ文字が入力されました。 (S) 条件式の再入力を求めます。条件式の入力画面に戻ります。 (O) 半角文字（半角カナ文字は除く）だけで指定して、もう一度操作してください。
KAVJS2603-E	The specified value exceeds the maximum length. Specify a value that is <最大文字数> characters or fewer. 入力文字が最大文字数を超えています。 <最大文字数> 文字以下にしてください。	入力文字が最大文字数を超えています。 (S) 条件式の再入力を求めます。条件式の入力画面に戻ります。 (O) 入力文字を最大文字数以下にして、もう一度操作してください。
KAVJS2604-E	The service properties could not be updated. サービスのプロパティを更新できません。	サービスプロパティの更新処理で内部エラーが発生しました。 (S) 条件式の再入力を求めます。条件式の入力画面に戻ります。 (O) jpctool service list (jpcctrl list) コマンドでサービスの起動を確認し、サービスが停止しているようなら jpcspm start (jpcstart) コマンドを実行してください。
KAVJS2605-E	The conditional expression is invalid. 条件式の値に誤りがあります。	選択された条件式に利用できない値が入力されています。 (S) 条件式の再入力を求めます。条件式の入力画面に戻ります。 (O) 選択された条件式に利用可能な値を指定してください。
KAVJS2606-E	The specified host name could not be resolved. 指定されたホスト名の名前解決ができません。	指定されたホスト名に誤りがあります。 (S) 条件式の再入力を求めます。条件式の入力画面に戻ります。 (O) 正しいホスト名を入力してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJS2607-E	<p>Distribution of a service property has failed.</p> <p>Service name: <プロパティの配布に失敗したサービスのサービス名></p> <p>サービスのプロパティ配布に失敗しました。</p> <p>サービス名: <プロパティの配布に失敗したサービスのサービス名></p>	<p>次の原因により、プロパティ配布に失敗したサービスが存在します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 配布先サービスが停止しているか、通信が行えません。 • 配布先サービスの Store バージョンが異なります。 • 配布先サービスへのノード追加が、最大ノード数を超えました。 <p>(S)</p> <p>プロパティ配布が可能なサービスだけ、プロパティ配布を実行し、処理を終了します。</p> <p>(O)</p> <p>失敗した配布先サービスについて次の確認をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サービスや Manager の稼働状態、およびサービスや Manager との通信状態を確認してください。 • 配布元の Store バージョンが同一かを確認してください。 • プロパティのノード数を確認してください。
KAVJS2612-E	<p>An I/O error occurred during an attempt to access the report cache file.</p> <p>Report output will be canceled.</p> <p>Maintenance information: <エラー詳細情報></p> <p>レポートキャッシュファイルアクセス中に出力エラーが発生しました。</p> <p>レポートの出力を中断します。</p> <p>保守情報:<エラー詳細情報></p>	<p>処理中にファイル入出力エラーが発生しました。</p> <p>(S)</p> <p>レポートの出力を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>ディスクの空き容量を確認してください。</p> <p>レポートキャッシュファイル保存ディレクトリ配下のディレクトリを削除して、サービスを再起動して、メイン画面からレポートを選択してください。</p> <p>解決しない場合は、jpcprras コマンドで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。</p>
KAVJS2613-E	<p>An unexpected error occurred during an attempt to access the report cache file.</p> <p>Report output will be canceled.</p> <p>Maintenance information: <エラー詳細情報></p> <p>レポートキャッシュファイルアクセス中に予期せぬエラーが発生しました。</p> <p>レポートの出力を中断します。</p> <p>保守情報:<エラー詳細情報></p>	<p>処理中に予期せぬエラーが発生しました。</p> <p>(S)</p> <p>レポートの出力を中断します。</p> <p>(O)</p> <p>システム管理者に連絡してください。</p>
KAVJS2651-E	<p>Use 16 characters or fewer for the user name.</p> <p>ユーザー名は 1 から 16 文字で指定してください。</p>	<p>ユーザー名が指定されていないか、または 17 文字以上で指定されました。</p> <p>(O)</p> <p>ユーザー名を 1 から 16 文字で再度指定してください。</p>
KAVJS2652-E	<p>Use 16 characters or fewer for the password.</p> <p>パスワードは 1 から 16 文字で指定してください。</p>	<p>パスワードが指定されていないか、または 17 文字以上で指定されました。</p> <p>(O)</p> <p>パスワードを 1 から 16 文字で再度指定してください。</p>
KAVJS2653-E	<p>The specified user name contains invalid characters.</p>	<p>JIS 文字コードの 0x20 から 0x7e 以外の文字が使用されています。</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
	ユーザー名に不正な文字が使用されています。	(O) ユーザー名を JIS 文字コードの 0x20 から 0x7e の文字で再度入力してください。
KAVJS2654-E	The specified password contains invalid characters. パスワードに不正な文字が使用されています。	JIS 文字コードの 0x20 から 0x7e 以外の文字が使用されています。 (O) パスワードを JIS 文字コードの 0x20 から 0x7e の文字で再度入力してください。
KAVJS2655-E	The passwords entered for "Password" and "Confirm password" are different. パスワードとパスワードの確認の内容が一致しません。	パスワードまたはパスワードの確認の指定が間違っています。 (O) パスワードまたはパスワードの確認を再度入力してください。
KAVJS2656-E	An attempt to create a user has failed because the specified user is currently logged in. ユーザーの作成に失敗しました。指定されたユーザーは現在ログイン中です。	指定されたユーザーは現在ログイン中のため上書きできません。 (O) ユーザーがログアウトするのを待つか、または別の名称でユーザーを作成してください。
KAVJS2657-E	An attempt to update a user has failed because the specified user is either currently logged in or has been deleted. ユーザーの更新に失敗しました。指定されたユーザーは現在ログイン中であるか、既に削除されているユーザーです。	指定されたユーザーは現在ログイン中であるか、すでに削除されているため更新できません。 (O) ナビゲーションフレームを最新情報に更新してユーザーを選択し直すか、指定されたユーザーが現在ログイン中の場合はユーザーがログアウトするのを待ってください。
KAVJS2658-E	An attempt to delete a user has failed because the specified user is currently logged in. ユーザーの削除に失敗しました。指定されたユーザーは現在ログイン中です。	指定されたユーザーは現在ログイン中のため削除できません。 (O) ユーザーがログアウトするのを待ってください。
KAVJS2659-E	An attempt to copy a user has failed because the specified user is either currently logged in or has been deleted. ユーザーのコピーに失敗しました。指定されたユーザーは現在ログイン中です。	指定されたユーザーは現在ログイン中のため上書きできません。 (O) ユーザーがログアウトするのを待つか、または別の名称でユーザーをコピーしてください。
KAVJS2660-E	The user "<ユーザ名>" has already been deleted. ユーザーは既に削除されています。<ユーザ名>	指定されたユーザーはすでに削除されているため操作できません。 (O) ナビゲーションフレームを最新情報に更新してユーザーを選択し直してください。
KAVJS2661-E	An attempt to copy a user has failed because the specified user has been deleted. ユーザーのコピーに失敗しました。コピー元のユーザーが既に削除されています。	指定されたコピー元のユーザーがすでに削除されているためコピーできません。 (O) ナビゲーションフレームを最新情報に更新してコピー元のユーザーを選択し直してください。
KAVJS2662-E	Graph library has failed to create the image. グラフライブラリが画像の生成に失敗しました。	グラフ画像の作成中に入出力エラーが発生しました。 (S) グラフの出力を中断します。 (O) サービスを再起動して、メイン画面から再度操作してください。解決しない場合は、

メッセージID	メッセージ	説明
		jpcprras コマンドで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。
KAVJS2671-E	The current password is incorrect. 現在のパスワードの指定が間違っています。	現在のパスワードが正しく指定されていません。 (O) 現在のパスワードを再度入力してください。
KAVJS2681-E	The format of the specified refresh interval value is invalid. 指定された更新間隔の書式が不正です。	正の整数値以外が指定されました。 (S) 処理を中断します。 (O) 正の整数値を指定してください。
KAVJS2682-E	The specified refresh interval value is outside the valid range. 指定された更新間隔が範囲外です。	10 から 3,600 の値以外が指定されました。 (S) 処理を中断します。 (O) 10 から 3,600 の値を指定してください。
KAVJS2701-E	The specified maximum number of displayed events was invalid. Specify an integer from <最小値(1)> to <最大値(maxMonitorEventCache)>. 指定されたイベントの最大数が不正です。表示するイベントの最大数には<最小値(1)> から<最大値(maxMonitorEventCache)> の整数を指定してください。	指定した表示するイベントの最大数が誤っています。 (O) 正しい値を設定してください。
KAVJS2702-E	The specified agent does not exist in the system. Maintenance information: <システムに存在しないエージェントノード名称を含むエラーメッセージ> 指定されたエージェントはシステムに存在しません。 保守情報: <システムに存在しないエージェントノード名称を含むエラーメッセージ>	指定されたエージェントがシステムから削除された可能性があります。 (S) 処理を中断します。 (O) エージェントが稼働しているか確認してください。システムからエージェントが削除されている場合、User Agents から削除してください。
KAVJS2751-E	The alarm table or folder to be exported does not exist. エクスポートするアラームテーブルまたはフォルダが存在しません。	エクスポートするアラームテーブルまたはフォルダが存在しません。 (S) 処理を中断します。 (O) 最新情報に更新し、アラームテーブルまたはフォルダがあるか確認してください。
KAVJS2752-E	An error occurred while exporting the alarm table. Maintenance information: <エラー詳細情報> アラームテーブルのエクスポート中にエラーが発生しました。 保守情報: <エラー詳細情報>	アラームテーブルのエクスポート中にエラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) エラー原因を取り除き、再実行してください。
KAVJS2753-E	The format of the specified file is invalid. 指定されたファイルは不正なフォーマットです。	アラームテーブルのインポート時に、不正なフォーマットのファイルを指定しました。 (S) 処理を中断します。 (O)

メッセージ ID	メッセージ	説明
		正しいフォーマットのファイルを指定して、再度操作してください。
KAVJS2754-E	An alarm table was specified for an agent that has not been set up. product ID: <プロダクト ID> data model version: <データモデルバージョン> セットアップされていないエージェントのアラームテーブルが含まれています。 プロダクト ID : [<プロダクト ID>] データモデルバージョン : [<データモデルバージョン>]	セットアップされていないエージェントのアラームテーブルが含まれています。 (S) 処理を中断します。 (O) エージェントをセットアップしてから、もう一度操作してください。
KAVJS2755-E	An error occurred while importing the alarm table. Maintenance information: <エラー詳細情報> アラームテーブルのインポート中にエラーが発生しました。 保守情報 : <エラー詳細情報>	アラームテーブルのインポート中にエラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) エラー原因を取り除き、再実行してください。
KAVJS2756-E	The report definition or folder to be exported does not exist. エクスポートするレポート定義またはフォルダが存在しません。	エクスポートするレポート定義またはフォルダが存在しません。 (S) 処理を中断します。 (O) 最新情報に更新し、レポート定義またはフォルダがあるか確認してください。
KAVJS2757-E	An error occurred while exporting report definition. Maintenance information: <エラー詳細情報> レポート定義のエクスポート中にエラーが発生しました。 保守情報 : <エラー詳細情報>	レポート定義のエクスポート中にエラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) エラー原因を取り除き、再実行してください。
KAVJS2758-E	The format of the specified file is invalid. 指定されたファイルは不正なフォーマットです。	レポート定義のインポート時に、不正なフォーマットのファイルを指定しました。 (S) 処理を中断します。 (O) 正しいフォーマットのファイルを指定して、もう一度操作してください。
KAVJS2759-E	A report definition was specified for an agent that has not been set up. Product ID: [<プロダクト ID>] DataModelVersion: [<データモデルバージョン>] セットアップされていないエージェントのレポート定義が含まれています。 プロダクト ID : [<プロダクト ID>] データモデルバージョン : [<データモデルバージョン>]	セットアップされていないエージェントのレポート定義が含まれています。 (S) 処理を中断します。 (O) エージェントをセットアップしてから、もう一度操作してください。
KAVJS2760-E	An error occurred while importing report definition. Maintenance information: <エラー詳細情報>	レポート定義のインポート中にエラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O)

メッセージID	メッセージ	説明
	レポート定義のインポート中にエラーが発生しました。 保守情報：<エラー詳細情報>	エラー原因を取り除き、再実行してください。
KAVJS2783-E	An attempt to connect to Manager failed. If you change the authentication information, you must execute the jpcprauth command. Manager への接続が失敗しました。認証情報を変更した場合は jpcprauth コマンドを実行してください。	jpcprauth コマンドを実行していません。 (S) 処理を中断します。 (O) jpcprauth コマンドを実行して、認証キーファイルを再作成してください。
KAVJS2826-E	The specified maximum value is less than or equal to the minimum value. 最小値より小さい値または同じ値が最大値に指定されました。	最小値より小さい値または同じ値が最大値に指定されました。 (S) 処理を中断します。 (O) 最大値は最小値より大きい値にしてください。
KAVJS2827-E	The range is too small. 最大値と最小値の差が小さすぎます。	最大値と最小値の差が小さすぎます。 (S) 処理を中断します。 (O) 最大値と最小値の間に十分な差を開けて値を指定してください。
KAVJS2829-E	The format of the specified value <最大値または最小値> is invalid. 指定された<最大値または最小値>の書式が不正です。	指定された<最大値または最小値>の書式が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) 浮動小数値を指定してください。
KAVJS2830-E	An attempt to acquire data from the Agent has failed. The report cannot be displayed. Agent からのデータ取得に失敗しました。レポートを表示できません。	これには幾つかの原因が考えられます。 ・ Manager が停止した。 ・ Agent からの対応に時間が掛かっている。 ・ 要求されたデータ量が限界値に達した。 (S) 処理を中断します。 (O) Manager が起動していることを確認し、再度レポートを表示してください。 Agent が正常に動作していることを確認し、再度レポートを表示してください。 レポート定義のレポート表示期間を狭めるか、選択フィールドを減らして再度コマンドを実行してください。 Agent 側に出力されているメッセージを確認し、その対処に従ってください。
KAVJS2831-E	An attempt to acquire data from the Agent has failed. The report cannot be output. Agent からのデータ取得に失敗しました。レポートを出力できません。	これには幾つかの原因が考えられます。 ・ Manager が停止した。 ・ Agent からの対応に時間が掛かっている。 (S) 処理を中断します。 (O) Manager が起動していることを確認し、再度レポートを出力してください。 Agent が正常に動作していることを確認し、再度レポートを出力してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJS2832-E	The value of the specified value <最大値 または最小値> is invalid. 指定された<最大値または最小値>の値が不正です。	指定された<最大値または最小値>の値が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) <最大値または最小値>の絶対値を小さくしてください。
KAVJS2833-E	The range is too large. 最大値と最小値の差が大きすぎます。	最大値と最小値の差が大きすぎます。 (S) 処理を中断します。 (O) 最大値と最小値の間を狭めて値を指定してください。
KAVJS2834-E	The bound agent(s) cannot be displayed. Alarm table name: <アラームテーブル名 > バインドされたエージェントを表示できません。 アラームテーブル名 : <アラームテーブル名 >	選択中のアラームテーブルが見つかりません。 すでに存在していない可能性があります。 (S) 処理を中断します。 (O) 選択中のアラームテーブルが、すでに削除されていないか確認してください。
KAVJS3001-E	The report cannot be displayed because there is too much report data for the Manager to process. Manager で処理するデータ量が多すぎるため、レポートを表示できません。	履歴レポートで処理されるパフォーマンスデータのレコード数が大量です。 または、View Server サービスで使用できるメモリーの制限が原因の可能性あります。 (S) 処理を中断します。 (O) レポート表示期間、最大レコード数、フィルター条件、選択フィールドの数を調整して、レポートで表示されるデータ量を減らしてください。 View Server サービスのメモリー不足が原因の場合は、レポートキャッシュファイル化機能を有効にするか、View Server サービスで使用するメモリーの上限値を拡張してください。 詳細については、マニュアル「JP1/ Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。 データ量を減らせない場合、または、メモリーの上限値を拡張しても改善されない場合は、jpcrpt コマンドでレポートを出力してください。 なお、jpcrpt コマンドでレポートを出力する場合には、初期設定ファイル (config.xml) の blockTransferMode に true を設定してください。
KAVJS4001-E	A request parameter is invalid. Parameter name: <リクエストパラメーター名 > リクエストパラメーターが不正です。 パラメーター名 : <リクエストパラメーター名 >	画面からのリクエストが不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJS4002-E	The product ID is not specified for the report definition.	プロダクトが未設定のレポート定義を参照しようとしています。

メッセージID	メッセージ	説明
	Report name: <レポート名> プロダクトが設定されていないレポート定義です。 レポート名: <レポート名>	(S) 処理を中断します。 (O) レポート定義を確認してください。
KAVJS4003-E	The record ID is not specified for the report definition. Report name: <レポート名>. レコードが設定されていないレポート定義です。 レポート名: <レポート名>	レコードが存在しないレポート定義を参照しました。 (S) 処理を中断します。 (O) レポート定義を確認してください。
KAVJS4004-E	The record does not have a field. Record: <レコード名> Report definition: <レポート名> レコードにフィールドが存在しません。 レコード名: <レコード名> レポート名: <レポート名>	フィールドの存在しないレコードを持つレポート定義を参照しました。 (S) 処理を中断します。 (O) レポート定義を確認してください。
KAVJS4007-E	An unexpected error occurred. Maintenance information: <エラー詳細情報> 予期しないエラーが発生しました。 保守情報: <エラー詳細情報>	予期しないエラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。 なお、Performance Reporter でレポートの編集操作、または表示操作をした場合に、このメッセージが表示されたときは、フィルターの条件式の数が多く、Performance Reporter で処理できる最大数を越えたおそれがあります。この場合は、次の手順に従い対処してください。 1. Tuning Manager server から該当するレポート定義を jpcrdef output コマンドで出力する。 2. 出力したレポート定義の条件式を見直す。条件式が最大でも 100 となるよう調整してください。詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」のフィルターの条件式の推奨数および推奨設定を説明している個所を参照してください。 3. Tuning Manager server から該当するレポート定義を jpcrdef delete コマンドで削除する。 4. 手順 2 で見直した Tuning Manager server のレポート定義を jpcrdef create コマンドで登録する。 5. Tuning Manager server を再起動する。 6. レポートが編集、および表示できることを Performance Reporter の画面で確認する。
KAVJS4008-E	An internal inconsistency was detected. Maintenance information: <保守情報> システム内で内部矛盾を検出しました。 保守情報: <保守情報>	システム内で内部矛盾を検出しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJS4009-E	A Manager access error occurred. Maintenance information: <保守情報> Manager とのアクセスでエラーを検出しました。 保守情報 : <保守情報>	Manager とのアクセスでエラーを検出しました。 (S) 処理を中断します。 (O) Manager ホストとの通信が正しく行えるか、または Manager が起動しているか確認してください。
KAVJS4010-E	The field drilldown failed. Row ID: <行特定キー> フィールドドリルダウンでエラーを検出しました。 行特定キー : <行特定キー>	フィールドドリルダウン対象の行特定キーが長過ぎたため、URL が切れました。 (S) 処理を中断します。 (O) レポート定義を見直し、フィールドドリルダウンの設定数を減らしてください。
KAVJS4011-E	Initialization of the bookmark function has failed. Maintenance information: <保守情報> ブックマーク機能の初期化に失敗しました。 保守情報 : <保守情報>	ブックマーク機能の初期化に失敗しました。 (S) 処理を中断します。 (O) config.xml に指定したブックマークの情報の保存先がディレクトリであるか、またはアクセス権限があるかを確認してください。
KAVJS4012-E	The cache expired. キャッシュの期限が切れました。	レポートのキャッシュの期限が切れました。 (S) 処理を中断します。 (O) 再度メイン画面からレポートを選択してください。または、不要なレポートや印刷画面を閉じて、再度実行してください。 またリアルタイムレポートの場合は、ヘルプの初期設定ファイル(config.xml)、およびデータキャッシュの項目を参照して、realtimeCacheInterval の値を大きくしてください。
KAVJS5001-I	No record was fetched. The report cannot be displayed. レコード件数が 0 件です。レポートを表示することができません。	これには幾つかの原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> エージェントがレポート表示条件で指定した時間内に稼働していません。 要求したレコードのデータが、指定した時間内に収集されていません。 要求したレコードのデータが、サポート範囲外のため取得できません。 レポート定義のフィルター条件を満たすデータが存在しません。 View Server サービスでメモリーが不足しています。 (S) 処理を中断します。 (O) エージェントが稼働しているか確認してください。 エージェントで、要求したレコードのデータが収集されるように設定されているか確認してください。 エージェントで、要求したレコードのデータ取得がサポートされていることを確認してください。

メッセージID	メッセージ	説明
		<p>レポート定義のフィルター条件を見直してください。</p> <p>View Server サービスのメモリー不足が原因の場合は、レポートキャッシュファイル化機能を有効にするか、View Server サービスで使用するメモリーの上限値を拡張してください。</p> <p>詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。</p>
KAVJS5002-I	<p>There is no record. A report cannot be displayed.</p> <p>レコード件数が 0 件です。レポートを表示することができません。</p>	<p>これには幾つかの原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • エージェントが現在稼働していません。 • 要求したレコードのデータが、現在収集されていません。 • 要求したレコードのデータが、サポート範囲外のため取得できません。 • レポート定義のフィルター条件を満たすデータが存在しません。 <p>(S) 処理を中断します。</p> <p>(O) エージェントが稼働しているか確認してください。</p> <p>エージェントが停止していた場合、エージェントを正しく起動してレポート画面の「最新情報に更新」を選択するか、またはレポートを再表示してください。</p> <p>自動更新中の場合は、次の更新でデータ取得されればレポートを表示します。</p> <p>エージェントで、要求したレコードのデータが収集されるように設定されているか確認してください。</p> <p>エージェントで、要求したレコードのデータ取得がサポートされていることを確認してください。</p> <p>レポート定義のフィルター条件を見直してください。</p>
KAVJS5003-I	<p>No record was fetched. The report cannot be displayed.</p> <p>レコード件数が 0 件です。レポートを表示することができません。</p>	<p>これには幾つかの原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複合ブックマークの定義として、表示対象のレポートが一つも設定されていません。 • エージェントがレポート表示条件で指定した時間内に稼働していません。 • 要求したレコードのデータが、指定した時間内に収集されていません。 • レポート定義のフィルター条件を満たすデータが存在しません。 <p>(S) 処理を中断します。</p> <p>(O) 複合ブックマークの編集で、表示対象のレポートを設定してください。</p> <p>エージェントが稼働しているか確認してください。</p> <p>エージェントで、要求したレコードのデータが収集されるように設定されているか確認してください。</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
		レポート定義のフィルター条件を見直してください。
KAVJS6552-I	The email settings in the action definition will be cleared because the value of [Email] in [Capabilities] in the Action Handler properties is set to "No". Action Handler のプロパティで Capabilities の Email が No のため、アクション定義から Eメールの設定を解除します。	Action Handler のプロパティで Capabilities の Email が No に設定されています。 (O) Action Handler のプロパティで Capabilities の設定を見直してください。
KAVJS6562-I	The number of lines of data to be output exceeds the maximum number of lines (<config.xml 指定の印刷画面表データ出力最大行数>) for a table. The data will be output to the table up to the maximum number of lines. 表データの行数が最大出力行数 (<config.xml 指定の印刷画面表データ出力最大行数>) を超えています。 最大出力行数まで出力します。	表データの行数が最大出力行数 (<config.xml 指定の印刷画面表データ出力最大行数>) を超えています。 最大出力行数まで出力します。 (S) 表データを最大出力行数まで出力します。 (O) 表データの出力行数を <config.xml 指定の印刷画面表データ出力最大行数> 行以下にして再度表示してください。
KAVJS6564-I	The number of graph data items used exceeds the maximum number of data items (<オートラベル表示が可能な最大プロット数>) that can be output to an autolabel for a graph. The display function of an autolabel is invalidated. グラフで利用するデータ数がオートラベル表示可能な最大数 (<オートラベル表示が可能な最大プロット数>) を超えています。 グラフでのオートラベル表示機能を無効にします。	グラフで利用するデータ数がオートラベル表示可能な最大数 (<オートラベル表示が可能な最大プロット数>) を超えています。 グラフでのオートラベル表示機能を無効にします。 (S) グラフでのオートラベル表示機能を無効にします。 (O) レポート定義のレポート表示期間を見直して、再度レポートを表示してください。
KAVJS6701-I	There are no events. イベント件数が 0 件です。	これには幾つかの原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> Master Store サービスが現在稼働していません。 レポートの表示設定で、条件式の設定を満たすデータが存在しません。 指定の期間にイベントは発生していません。 (S) 処理を中断します。 (O) Master Store サービスが稼働しているか確認してください。 選択されているエージェントが正しいか確認してください。 レポートの表示設定で、条件式の設定を見直してください。
KAVJT0003-E	An attempt to start the service has failed.	<ul style="list-style-type: none"> サービスが存在しません。 サービスが無効です。 正しくインストールされていません。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード 4 を返します。

メッセージID	メッセージ	説明
		(O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJT0004-E	An attempt to stop the service has failed.	サービスを停止できません。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード4を返します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJT0005-E	An argument is invalid. usage: jpcprras <directory> <directory>: Specify the existing output directory.	引数不正です。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード1を返します。 (O) 引数を確認してください。
KAVJT0006-E	Output directory does not exist.	出力ディレクトリが存在しません。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード4を返します。 (O) jpcprras コマンドの引数に指定したディレクトリが存在するか確認してください。
KAVJT0007-E	An error occurred during writing.	書き込みエラーが発生しました。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード3を返します。 (O) jpcprras コマンドの引数に指定したディレクトリの存在するドライブの空き容量を確認してください。 jpcprras コマンドの引数に指定したディレクトリのアクセス権限を確認してください。
KAVJT0008-E	The setup directory does not exist.	セットアップディレクトリが存在しません。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード1を返します。 (O) システムのインストール先ディレクトリに setup ディレクトリが存在するか確認してください。
KAVJT0009-E	An error occurred during processing <アーカイブファイル名>.	アーカイブファイルの処理中にエラーが発生しました。 (S) 次の Agent アーカイブファイルの処理を始めます。終了コード3を返します。 (O) エラーの原因を取り除き、再度実行してください。
KAVJT0010-E	The destination directory does not exist.	展開先ディレクトリが存在しません。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード4を返します。 (O)

メッセージ ID	メッセージ	説明
		システムのインストール先ディレクトリ以下に Base/CC/web/containers/[Web コンテナのサーバ名] /webapps/ PerformanceReporter/images/ products ディレクトリが存在するか確認してください。
KAVJT0011-E	The output-destination directory is not empty.	出力先ディレクトリが空ではありません。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード 5 を返します。 (O) 空の出力先ディレクトリを指定してください。
KAVJT0014-E	The file for processing does not exist.	アーカイブファイルが存在しません。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード 5 を返します。 (O) アーカイブファイルが存在するか確認してください。
KAVJT0015-E	An argument is invalid. usage: jpcpragtsetup	引数不正です。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード 6 を返します。 (O) 引数を確認してください。
KAVJT0016-E	The descriptions directory does not exist.	descriptions ディレクトリが存在しません。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード 1 を返します。 (O) システムのインストール先ディレクトリに descriptions ディレクトリが存在するか確認してください。
KAVJT0017-E	Memory has become insufficient. (<空きメモリーサイズ> bytes)	コマンド実行時にメモリー不足が発生しました。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード 7 を返します。 (O) 不要なアプリケーションやウィンドウを終了し、メモリーを確保してください。
KAVJT0018-E	An unexpected error occurred. Maintenance information: <保守情報>	予期しないエラーが発生しました。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード 8 を返します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。
KAVJT0019-E	The pregetinfo.exe file was not found.	pregetinfo.exe ファイルが見つかりません。 (S) コマンドの実行を中断します。終了コード 9 を返します。 (O)

メッセージID	メッセージ	説明
		pregetinfo.exe ファイルが、インストール先ディレクトリの lib ディレクトリに存在するか確認してください。
KAVJT0023-E	An attempt to execute the command failed. (maintenance information = <保守情報>, return code = <リターンコード>)	システム環境が不正です。 (S) 処理を中断します。 (O) Tuning Manager server および PFM - Manager が正しくインストールされていることを確認してください。正しくインストールされていない場合は、再インストール後に再実行してください。原因が特定できない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KAVJT0024-E	An unexpected error occurred during execution of the command. (maintenance information = <保守情報>, return code = <リターンコード>)	コマンド実行中に内部エラーが発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。問題が解決しない場合は、原因究明と問題の解決をするために、詳細な調査が必要です。保守情報を採取し、顧客問い合わせ窓口に連絡してください。
KAVJT5001-I	The service started successfully.	サービスの起動に成功しました。 (S) 終了コード 0 を返します。
KAVJT5002-I	The service has already started.	サービスはすでに起動しています。 (S) 終了コード 1 を返します。
KAVJT5003-I	The service stopped successfully.	サービスの停止に成功しました。 (S) 終了コード 0 を返します。
KAVJT5004-I	The service has already stopped.	サービスはすでに停止しています。 (S) 終了コード 3 を返します。
KAVJT5005-I	jpcprras started.	jpcprras コマンドを開始します。 (S) jpcprras の処理を開始します。
KAVJT5006-I	jpcprras succeeded.	jpcprras コマンドは正常に終了しました。 (S) 終了コード 0 を返します。
KAVJT5007-I	jpcpragsetup finished successfully. Restart the service that applies the agent configuration information.	jpcpragsetup コマンドは正常に終了しました。エージェントの構成情報を反映するために、サービスを再起動してください。 (S) 終了コード 0 または 3 を返します。
KAVJT5008-I	<アーカイブファイル名> was processed.	アーカイブファイルの処理が終了しました。 (S) 次の Agent アーカイブファイルの処理を始めます。
KAVJT5009-I	<画像ファイル名> was processed.	画像ファイルの処理が終了しました。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
		次の画像ファイルの処理を始めます。
KAVJT5010-I	imgsetup finished successfully. Restart the service that applies the images.	imgsetup コマンドは正常に終了しました。画像ファイルを反映するために、サービスを再起動してください。 (S) 終了コード 0 を返します。
KAVJV2501-E	The systemDef.properties file could not be found. systemDef.properties ファイルが見つかりません。	systemDef.properties ファイルが存在しません。 (S) 定義ファイルを無視して処理を続行します。 (O) 製品を再インストールしてください。
KAVJV2502-E	There is no file in the path <指定したパス文字列>. <指定したパス文字列>はファイルを示すパスではありません。	<指定したパス文字列>に正しくファイルが配置されていません。 (S) 定義ファイルを無視して処理を続行します。 (O) <指定したパス文字列>にファイルを配置してください。
KAVJV2503-E	An attempt to read the <指定したパス文字列> file has failed. <指定したパス文字列>ファイルの読み込みに失敗しました。	ファイルにアクセス権限がありません。 (S) 定義ファイルを無視して処理を続行します。 (O) ファイルにアクセスできるかを確認してください。
KAVJV2504-E	An I/O error occurred with the <指定したパス文字列> file. Error information: <エラー情報> <指定したパス文字列> : ファイルで入出力エラーが発生しました。エラー情報 : <エラー情報>	処理中にファイル入出力エラーが発生しました。 (S) 定義ファイルを無視して処理を続行します。 (O) ファイルが不正な状態になっていないか確認してください。
KAVJV2505-E	There is a syntax error in the specification of a property value in the <指定したパス文字列> file. The specification (<プロパティ名>=<値>) will be ignored. <指定したパス文字列>ファイルでプロパティ値の指定に構文エラーがあります。<プロパティ名>=<値>は無視します。	プロパティ値の指定に構文エラーがあります。 (O) プロパティ値の記述を修正してください。
KAVJV2506-E	The specification for the target node <ノード名> in the <指定したパス文字列> file is duplicated. The specification (<プロパティ名>=<値>) will be ignored. <指定したパス文字列>ファイルで対象ノード<ノード名>に対する指定が重複しています。<プロパティ名>=<値>は無視します。	対象ノードに対する指定が重複しています。 (O) 重複する指定を削除してください。
KAVJV2507-E	The selected property will be ignored because it does not exist in the distribution-destination service. (distribution service = <サービス名>, ignored property = <プロパティ名>)	選択したプロパティが配布先サービスに存在しません。

メッセージID	メッセージ	説明
	選択したプロパティは配布先サービスに存在しないため無視します。(配布先サービス:<サービス名>,無視したプロパティ:<プロパティ名>)	
KAVJV2551-E	The data file of the baseline was not read correctly. Node name: <エラーとなったノード名> File path: <エラーとなったデータの実パス名> ベースラインのデータファイルが正しく読み込めませんでした。 ノード名: <エラーとなったノード名> ファイルパス: <エラーとなったデータの实パス名>	データファイルが破損しています。またはデータファイルが存在しません。 (S) 処理を中断します。 (O) ベースラインのノードを削除するか、ベースラインの登録を実行し上書きしてください。
KAVJV2552-E	An attempt to initialize the report cache file manager has failed. レポートキャッシュファイルマネージャーの初期化に失敗しました。	レポートキャッシュファイル保存ディレクトリが生成できません。 パス名:<保存ディレクトリパス名 (絶対パス)> > (S) 起動を停止します。 (O) レポートキャッシュファイルの作成先がディレクトリであるか、またはアクセス権限があるかを確認してください。
KAVJV2553-E	An attempt to initialize the report cache file manager has failed. レポートキャッシュファイルマネージャーの初期化に失敗しました。	レポートキャッシュファイル保存ディレクトリがディレクトリではありません。 パス名:<保存ディレクトリパス名 (絶対パス)> > (S) 起動を停止します。 (O) <保存ディレクトリパス名 (絶対パス)>ディレクトリがあるか確認してください
KAVJV2554-E	The directory for storing the report cache file cannot be created. Directory for storing the report cache file: <保存ディレクトリパス名 (絶対パス)> > レポートキャッシュファイル保存ディレクトリを作成できません。 レポートキャッシュファイル保存ディレクトリ: <保存ディレクトリパス名 (絶対パス)>	次の原因が考えられます。 レポートキャッシュファイル保存ディレクトリのパス長が 150 文字を超えています。 (S) 起動を停止します。 (O) レポートキャッシュファイル保存ディレクトリのパス長を 150 文字以内に設定して、サービスを再起動してください。
KAVJV2558-E	The directory for storing the report cache file could not be deleted after <監視による削除処理の最大試行回数> attempts. Deletion will be skipped. Directory: <削除に失敗したディレクトリ (絶対パス)> > レポートキャッシュファイルのディレクトリの削除を<監視による削除処理の最大試行回数>回試みましたが失敗しました。 ディレクトリの削除をスキップします。 ディレクトリ: <削除に失敗したディレクトリ (絶対パス)>	<監視による削除処理の最大試行回数>回の削除処理が全て失敗しました。 (S) 次のサービス起動時に削除します。 (O) サービスを再起動してください。それでも削除されない場合は、手動で削除してください。

メッセージ ID	メッセージ	説明
KAVJV2561-E	<p>Initialization of the report cache file function has failed.</p> <p>Maintenance information: <保守情報> レポートキャッシュファイル化機能の初期化に失敗しました。 保守情報 : <保守情報></p>	<p>レポートキャッシュファイル化機能の初期化に失敗しました。</p> <p>(S) 処理を中断します。</p> <p>(O) config.xml に指定したレポートキャッシュファイルの保存先がディレクトリであるか、またはアクセス権限があるかを確認してください。</p>
KAVJV2562-E	<p>An unexpected error occurred during initialization of the report cache file function.</p> <p>Module name: REPORTCACHEFILE Class name: <原因となるクラス名> Maintenance information: <原因(保守メッセージ)> レポートキャッシュファイル化機能の初期化時に予期しないエラーを検出しました。 モジュール名 : REPORTCACHEFILE クラス名 : <原因となるクラス名> 保守情報 : <原因(保守メッセージ)></p>	<p>システムの初期化時に予期しないエラーを検出しました。</p> <p>(S) 起動を停止します。</p> <p>(O) システム管理者に連絡してください。</p>
KAVJV2563-E	<p>An attempt to initialize the report cache file function has failed.</p> <p>レポートキャッシュファイル化機能の初期化に失敗しました。</p>	<p>レポートキャッシュファイル保存ディレクトリが生成できません。</p> <p>パス名:<ワークディレクトリパス名></p> <p>(O) レポートキャッシュファイル保存ディレクトリの作成先がディレクトリであるか、またはアクセス権限があるかを確認してください。</p>
KAVJV2564-E	<p>An attempt to initialize the report cache file function has failed.</p> <p>レポートキャッシュファイル化機能の初期化に失敗しました。</p>	<p>レポートキャッシュファイル保存ディレクトリがディレクトリではありません。</p> <p>パス名:<ワークディレクトリパス名></p> <p>(S) 処理を中断します。</p> <p>(O) <ワークディレクトリパス名>ディレクトリがあるか確認してください</p>
KAVJV2701-E	<p>A Manager shutdown was detected. Events can no longer be monitored. Manager の停止を検出しました。イベントの受信ができません。</p>	<p>View Server が停止、または再起動された可能性があります。</p> <p>(S) イベントモニターの自動更新間隔で再接続を試みます。</p> <p>(O) Manager が再起動されていることを確認して、再ログインしてください。</p>
KAVJV4001-E	<p>During the initialization, an unexpected error occurred.</p> <p>Module name: VSA Class name: <原因となるクラス名> Maintenance information: <原因(保守メッセージ)> システムの初期化時に予期しないエラーを検出しました。 モジュール名 : VSA クラス名 : <原因となるクラス名> 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) ></p>	<p>システムの初期化時に予期しないエラーを検出しました。</p> <p>(O) システム管理者に連絡してください。</p>

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJV4002-E	<p>During the initialization, an unexpected error occurred. Module name: VSABASE Class name: <原因となるクラス名> Maintenance information: <原因(保守メッセージ)></p> <p>システムの初期化時に予期しないエラーを検出しました。 モジュール名：VSABASE クラス名：<原因となるクラス名> 保守情報：<原因 (保守メッセージ) ></p>	<p>システムの初期化時に予期しないエラーを検出しました。 (O) システム管理者に連絡してください。</p>
KAVJV4003-E	<p>During initialization of the bookmark manager, an unexpected error occurred. Module name: BOOKMARK Class name: <原因となるクラス名> Maintenance information: <原因(保守メッセージ)></p> <p>ブックマークマネージャーの初期化時に予期しないエラーを検出しました。 モジュール名：BOOKMARK クラス名：<原因となるクラス名> 保守情報：<原因 (保守メッセージ) ></p>	<p>システムの初期化時に予期しないエラーを検出しました。 (O) システム管理者に連絡してください。</p>
KAVJV4004-E	<p>During initialization of the bookmark manager, an error occurred. ブックマークマネージャーの初期化時に失敗しました。</p>	<p>ブックマークワークディレクトリが生成できません。 パス名:<パス名> (O) ブックマークワークディレクトリの作成先がディレクトリであるか、またはアクセス権限があるかを確認してください。</p>
KAVJV4005-E	<p>Initialization of the bookmark manager has failed. ブックマークマネージャーの初期化時に失敗しました。</p>	<p>ブックマークワークディレクトリがディレクトリではありません。 パス名:<ワークディレクトリパス名> (S) 処理を中断します。 (O) <ワークディレクトリパス名>ディレクトリがあるか確認してください。</p>
KAVJV4006-E	<p>The value specified for <base-pattern> in the initial settings file is invalid. Format-set ID: <フォーマットセットID> 初期設定ファイル (config.xml) の< base-pattern >に指定された値が不正です。 フォーマットセット ID : <フォーマットセットID></p>	<p>未定義の<format-set>が指定されました。 (S) 処理を中断します。 (O) 初期設定ファイルの<base-pattern>の値を確認してください。</p>
KAVJV4007-E	<p>Resource generation has failed. ツリーの生成に失敗しました。</p>	<p>ツリー情報の取得に失敗したため、ツリーの表示ができませんでした。 (S) 処理を中断します。 (O) システム環境不正のため、システム管理者に連絡してください。</p>
KAVJV4008-E	<p>The specification of the date format is invalid. Attribute name: <不正な値を持つ属性名> Attribute value: <エラーとなった属性値></p>	<p>初期設定ファイル (config.xml) に指定した日付フォーマットパターンが不正です。 (S) 処理を中断します。</p>

メッセージ ID	メッセージ	説明
	日付フォーマットパターン指定が不正です。 属性名 : <不正な値を持つ属性名> 属性値 : <エラーとなった属性値>	(O) 初期設定ファイルに指定した日付フォーマットパターンを確認してください。
KAVJV4009-E	An attempt to initialize the system has failed. システムの初期化に失敗しました。	ブックマークの情報を保存するデフォルトのディレクトリにアクセスできません。 (S) 起動を停止します。 (O) ブックマークの情報を保存するデフォルトのディレクトリにアクセスできない原因を取り除いてサービスを再起動してください。 ブックマークの情報を保存するディレクトリ位置を、アクセスできる位置に変更し、サービスを再起動してください。
KAVJV4010-E	An unexpected error occurred while a corrupted data file was being restored. File path: <エラーとなったファイルパス> Maintenance information: <原因 (保守メッセージ) > 破損したデータファイルの修復時に予期しないエラーが発生しました。 ファイルパス : <エラーとなったファイルパス> 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	破損したデータファイルの修復時に、予期しないエラーが発生しました。 (S) ブックマークの修復処理を中断します。 (O) ファイルパスのアクセス権限を確認してください。 ディスクの空き容量を確認してください。 ブックマークの情報を保存するデフォルトのディレクトリを削除して、サービスを再起動してください。
KAVJV4011-E	The directory for storing bookmark information could not be created. Directory for storing bookmark information: <エラーとなったブックマークの情報を保存するディレクトリ名> ブックマークの情報を保存するディレクトリを作成できません。 ブックマークの情報を保存するディレクトリ : <エラーとなったブックマークの情報を保存するディレクトリ名>	次の原因が考えられます。 ・ ブックマークの情報を保存するディレクトリのパス長が 150 文字を超えています。 ・ ブックマークの情報を保存するディレクトリに、アクセスできません。 (S) 起動を停止します。 (O) ブックマークの情報を保存するデフォルトのディレクトリにアクセスできない原因を取り除いてサービスを再起動してください。 ブックマークの情報を保存するディレクトリのパス長を 150 文字以内に設定して、サービスを再起動してください。
KAVJV5001-I	During the initialization an RMI error occurred. Module name: VSA Maintenance information: <原因(保守メッセージ)> システムの初期化時に Manager との接続時に RMI エラーを検出しました。 モジュール名 : VSA 保守情報 : <原因 (保守メッセージ) >	Manager が起動していないか、接続先が誤っています。 (O) Manager が起動しているか確認してください。または、接続先を確認してください。
KAVJV5002-I	During the initialization, an attempt to establish a connection with Manager failed. Module name: VSA Maintenance information: <原因(保守メッセージ)>	Manager が起動していないか、接続先が誤っています。 (O) Manager が起動しているか確認してください。または、接続先を確認してください。

メッセージID	メッセージ	説明
	システムの初期化時に Manager との接続で接続エラーを検出しました。 モジュール名：VSA 保守情報：<原因 (保守メッセージ) >	
KAVJV5003-I	During the initialization, an attempt to establish a connection with the Manager failed. Module name: VSA Maintenance information: <原因(保守メッセージ)> システムの初期化時に Manager との接続でそのほかのエラーを検出しました。 モジュール名：VSA 保守情報：<原因 (保守メッセージ) >	Manager が起動していないか、接続先が誤っています。 (O) Manager ホストとの通信が正しく行えるか、または Manager が起動しているか確認してください。
KAVJV5004-I	The corrupted data file was deleted. Node name: <削除したノード名> File path: <削除したデータの実パス名> 破損したデータファイルを削除しました。 ノード名：<削除したノード名> ファイルパス：<削除したデータの実パス名>	破損したデータファイルの削除に成功しました。
KAVJV5005-I	The corrupted data file was restored. Node name: <修復したノード名> File path: <修復したデータの実パス名> 破損したデータファイルを修復しました。 ノード名：<修復したノード名> ファイルパス：<修復したデータの実パス名>	破損したデータファイルの修復に成功しました。
KAVJV5006-I	An invalid host name was specified for the Manager host in the initial settings file. 初期設定ファイル (config.xml) に不正な Manager ホスト名が指定されました。	初期設定ファイルに指定された接続先 Manager ホスト名の形式が不正のため、Manager とのセッションが確立できませんでした。 (S) 起動を停止します。 (O) 正しい形式でホスト名を指定してください。
KAVJV9001-K	The data file was not read correctly. Node name: <エラーとなったノード名> File path: <エラーとなったデータの実パス名> データファイルが正しく読み込めませんでした。 ノード名：<エラーとなったノード名> ファイルパス：<エラーとなったデータの実パス名>	データファイルが破損しています。またはデータファイルが存在しません。 (S) 必要に応じ該当ファイルの削除、修復、ブックマークツリーからの不正情報をクリーンアップし、引き続きノード情報の読み込みを続行します。
KAVJV9002-K	The directory for storing bookmark information could not be accessed. Directory for storing bookmark information: <エラーとなったブックマークの情報を保存するディレクトリ名> ブックマークの情報を保存するディレクトリにアクセスできません。 ブックマークの情報を保存するディレクトリ：<エラーとなったブックマークの情報を保存するディレクトリ名>	次の原因が考えられます。 ・ ブックマークの情報を保存するディレクトリを変更後、初めての起動です。 ・ ブックマークの情報を保存するディレクトリが削除されています。 ・ ブックマークの情報を保存するディレクトリに、アクセスできません。 (S)

メッセージ ID	メッセージ	説明
		config.xml に指定された位置にブックマークの情報を保存するディレクトリを作成します。
KAVJV9004-K	The directory for storing the report cache file could not be accessed. Directory for storing the report cache file: <保存ディレクトリ (絶対パス)> レポートキャッシュファイル保存ディレクトリにアクセスできません。 レポートキャッシュファイル保存ディレクトリ: <保存ディレクトリ (絶対パス)>	次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> レポートキャッシュファイル保存ディレクトリを変更後、初めての起動です。 レポートキャッシュファイル保存ディレクトリが削除されています。 レポートキャッシュファイル保存ディレクトリにアクセスできません。 (S) config.xml に指定された位置にレポートキャッシュファイル保存ディレクトリを作成します。
KAVJV9005-K	Deletion of the directory for storing the report cache file failed. Directory for storing the report cache file: <保存ディレクトリ (絶対パス)> レポートキャッシュファイル保存ディレクトリの削除に失敗しました。 レポートキャッシュファイル保存ディレクトリ: <保存ディレクトリ (絶対パス)>	レポートキャッシュファイル保存ディレクトリの削除に失敗しました。 (O) jpcrpt コマンドが実行中でないことを確認し、レポートキャッシュファイル保存ディレクトリ内のファイルおよびディレクトリを削除して下さい。
KAVJZ0998-E	An exception occurred in JSP. JSP で例外が発生しました。	JSP で例外が発生しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJZ0999-E	A specified host cannot be accessed. 接続先ホストにアクセスできません。	アプリケーションの初期化に失敗しました。 (S) 処理を中断します。 (O) システム管理者に連絡してください。
KAVJZ1999-E	<文字列>	指定した文字列を示す syslog メッセージです。
KAVJZ5001-I	Login is finished. User ID: <ユーザ ID> session ID: <セッション ID> ログインしました。 ユーザー ID : <ユーザ ID> セッション ID : <セッション ID>	正常にログインしました。 (S) ログインの処理を開始します。
KAVJZ5002-I	Logout is finished. User ID: <ユーザ ID> ログアウトしました。 ユーザー ID : <ユーザ ID>	正常にログアウトしました。 (S) ログアウトの処理を開始します。
KAVJZ5003-I	The application has started successfully. システムが起動しました。	システムが正常に起動しました。 (S) システムの処理を開始します。
KAVJZ5010-I	START: <クラス名>#<メソッド名>	メソッドの開始を示します。
KAVJZ5011-I	END: <クラス名>#<メソッド名>	メソッドの終了を示します。
KAVJZ5012-I	START: <クラス名>#<メソッド名>	アプリケーション呼び出しの開始を示します。
KAVJZ5013-I	END: <クラス名>#<メソッド名>	アプリケーション呼び出しの終了を示します。
KAVJZ5014-I	<変数名>= [<変数の値>]	指定した変数の変数値を示すログメッセージです。

メッセージID	メッセージ	説明
KAVJZ5015-I	<文字列>	指定した文字列を示すログメッセージです。
KAVJZ5999-E	Exception <スタックトレースの文字列>	例外が発生したときのスタックトレースを示すログメッセージです。

ユーティリティ

この章では、Tuning Manager server が提供するコマンドについて説明します。

コマンドには、Tuning Manager server を操作する Main Console のコマンドと、Store データベースを操作したり、Performance Management のプログラムと連携するための設定をしたりする Performance Reporter のコマンドがあります。

- 8.1 コマンドの記載形式
- 8.2 コマンド一覧
- 8.3 Main Console のコマンド
- 8.4 Performance Reporter のコマンド

8.1 コマンドの記載形式

ここでは、コマンドの記載形式として、コマンドの指定方法と、コマンドの文法の説明に使用する記号について説明します。

コマンドの指定方法

コマンドの指定形式を次に示します。

図 8-1 コマンドの指定形式

```

コマンド名 [-オプションA [値a [, 値b [, 値c...]]]]    ... (1)
           [-オプションB [値a [, 値b [, 値c...]]]]    ... (1)
           [任意名X[任意名Y[任意名Z...]]]           } ... (2)
    
```

(1)を「オプション」と呼びます。(2)を「引数」と呼びます。

コマンドの文法の説明に使用する記号

コマンドの文法の説明に使用する記号を次の表に示します。

表 8-1 コマンドの文法の説明に使用する記号

記号	意味と例
 (ストローク)	複数の項目に対して項目間の区切りを示し、「または」の意味を示します。 (例) 「A B C」は、「A, B, またはC」を示します。
{ } (波括弧)	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず一組の項目を選択します。項目と項目の区切りは「 」で示します。 (例) 「{A B C}」は、「A, B, またはCのどれかを必ず指定する」ことを示します。
[] (角括弧)	この記号で囲まれている項目は、任意に指定できます (省略できます)。 (例) 「[A]」は、「必要に応じてAを指定する」ことを示します (必要でない場合は、Aを省略できます)。 「[B C]」は、「必要に応じてB, またはCを指定する」ことを示します (必要でない場合は、BおよびCを省略できます)。
... (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できます。なお、項目を複数個指定する場合は、項目の区切りに1バイトの空白文字 (半角スペース) を使用します。 (例) 「A B...」は、「Aのあとに、Bを複数個指定できる」ことを示します。

8.2 コマンド一覧

ここでは、コマンドの機能の概要と、必要な実行権限について説明します。

Main Console のコマンドの一覧を次の表に示します。

表 8-2 Main Console のコマンド

コマンド名	機能	必要な実行権限	参照先
htm-db-setup	データベースの総容量を増やします。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.3.1

コマンド名	機能	必要な実行権限	参照先
htm-db-status	データベースの容量情報 (使用量と総容量), およびデータベースファイルの格納先を表示します。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.3.2
htm-dvm-setup	Tuning Manager server のデータベースに, 接続先 Device Manager の情報を設定します。 また, 現在設定されている接続先 Device Manager の情報を表示します。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.3.3
htm-dump	次に示す保守情報を採取します。 ・ Tuning Manager server のインストール時のログ ・ Main Console の保守情報	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.3.4
htm-getlogs	次に示す保守情報を採取します。 ・ Tuning Manager server のインストール時のログ ・ Main Console の保守情報 ・ Performance Reporter の保守情報 ・ PFM - Manager の保守情報 ・ エージェントの保守情報 (Store データベースは採取対象外)	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.3.5

Performance Reporter のコマンドの一覧を次の表に示します。

表 8-3 Performance Reporter のコマンド

コマンド名	機能	必要な実行権限	参照先
jpcasrec update [※]	Store データベースの記録方法に関する定義情報を変更します。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.4.2
jpcasrec output [※]	Store データベースの記録方法に関する定義情報を出力します。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.4.3
jpcaspsv update [※]	Store データベースの保存条件に関する定義情報を変更します。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.4.4
jpcaspsv output [※]	Store データベースの保存条件に関する定義情報を出力します。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.4.5
jpcpragsetup	PFM - Agent のアイコンを設定します。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.4.6
jpcprauth	PFM - Manager に接続するための認証キーファイルを作成します。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.4.7
jpcprras	Performance Reporter の資料を採取します。	Windows : Administrators Solaris および Linux : root ユーザー	8.4.8

注※

コマンド名は, コマンドとサブコマンドを組み合わせた形式で記載しています。

注意

Windows Server 2008 または Windows Server 2012 で UAC (User Account Control) 機能が有効に設定されている場合、Tuning Manager シリーズでは、管理者として実行しているコマンドプロンプトでコマンドを実行することを推奨します。詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。

8.3 Main Console のコマンド

Main Console のコマンドを使用すると、Tuning Manager server のデータベースを管理したり、Device Manager との連携に関する設定をしたりできます。

ここでは、Main Console のコマンドについて説明します。

8.3.1 htm-db-setup

形式

Windows の場合：

```
htm-db-setup    [{{ /s | /size } <追加する容量>  
                | [{{ /a | /areapath } <データベースファイルの格納先フォルダ  
                のパス> ]  
                | { /h | /help }}}
```

Solaris および Linux の場合：

```
htm-db-setup    [{{ -s | --size } <追加する容量>  
                | [{{ -a | --areapath } <データベースファイルの格納先ディレ  
                クトリのパス> ]  
                | { -h | --help }}}
```

機能

データベースの総容量を増やす場合に使用します。

前提条件

htm-db-setup コマンドを実行する場合は、次の条件を満たしていることを確認してください。

- Tuning Manager server がインストールされているマシンに、ほかの Hitachi Command Suite 製品がインストールされている場合、Tuning Manager server およびほかの Hitachi Command Suite 製品のサービスが停止していること。
- Tuning Manager server をインストールしたマシン上で、htm-db-setup コマンドを実行すること。
- htm-db-setup コマンド以外に、「8. ユーティリティ」に記載されている Tuning Manager server のコマンドが実行されていないこと。
- Windows 環境の場合、HiRDB/EmbeddedEdition_HD0 のサービスが起動していること。

注意

- このコマンドで、現在のデータベースの総容量を少なくする指定はできません。
- このコマンドを実行する場合、事前に hcmsbackups コマンドを使ってデータベースのバックアップを取得することをお勧めします。データベースのバックアップ手順については、「3.3 データベースのバックアップ」を参照してください。
- Tuning Manager server をクラスタ構成で運用している場合には、実行系ノードだけでこのコマンドを実行してください。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/bin/

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/

オプション

htm-db-setup コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-4 htm-db-setup コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/ 任意	注記
-s(/s) --size(/ size)	Tuning Manager server のデータベースの容量を拡張します。	現在の総容量に追加したい容量 指定できる値は、2～30の2の倍数です。 データベースの最大容量は、32GBです。インストール時のデータベースの容量は2GBなので、指定できる最大値は30です。	必須	なし
-a(/a) --areapath(/ areapath)	Tuning Manager server のデータベースの格納先ディレクトリを指定します。	データベースファイルの格納先ディレクトリのパス パスの入力できる文字は次のとおり。 Windows: 0-9 a-z A-Z . _ () スペース : ¥ Solaris および Linux : 0-9 a-z A-Z . _ /	任意	<ul style="list-style-type: none">格納先ディレクトリのパスは、93 バイト以下の絶対パスで指定してください。ルートディレクトリは指定しないでください。スペースを含むパスを指定する場合、パスを「」（引用符）で囲みます。存在しないディレクトリパスも指定できます。指定されたパスの途中のディレクトリが存在しない場合、そのディレクトリのサブディレクトリも含めて、ディレクトリが作成されます。「: (コロン)」は、Windows のドライブレターにだけ使用できます。半角スペースまたは「. (ピリオド)」だけの値は、指定できません。

オプション	目的	値	必須/任意	注記
				<ul style="list-style-type: none"> 半角スペースまたは「.」がディレクトリ名の先頭または末尾に含まれるパスは指定できません。例えば、パス中の最後のディレクトリ名が、「.(ピリオド)」の連続であるパス("C:\\$aaa¥. . . ."など)や、「.(ピリオド)」と半角スペースの組み合わせであるパス("C:\\$aaa ¥. . ."など)は指定しないでください。 指定したディレクトリには、コマンドの実行ユーザーに対して read および write 権限が必要です。さらに、Windows では、SYSTEM ユーザーに対して read および write 権限も必要です。 Windows の場合、次のパスも指定できません。 <ul style="list-style-type: none"> ネットワークドライブ 予約デバイス名(CON, AUX, PRN, NUL など)を含むパス
-h(/h) --help(/help)	コマンドのオプションや使用方法を表示します。	なし	任意	オプションが指定されていないコマンドの場合、そのコマンドのオプションや使用方法が表示されます。

戻り値

htm-db-setup コマンドを実行した場合の戻り値を次の表に示します。

表 8-5 htm-db-setup コマンドを実行した場合の戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
100	オプションのシンタックスエラー
101	オプションに指定した値が不正
111	Hitachi Command Suite 製品のサービスがすべて停止していない
251	データベース格納領域の空き領域不足, areapath オプションの不正指定, または環境不正
255	データベース格納領域の空き領域不足, areapath オプションの不正指定, または異常終了

8.3.2 htm-db-status

形式

htm-db-status

機能

データベースの容量情報 (使用量と総容量), およびデータベースファイルの格納先を表示します。

前提条件

htm-db-status コマンドを実行する場合は、次の条件を満たしていることを確認してください。

- Tuning Manager server をインストールしたマシン上で、htm-db-status コマンドを実行すること。
- htm-db-status コマンド以外に、「8. ユーティリティ」に記載されている Tuning Manager server のコマンドが実行されていないこと。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/bin/

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/

戻り値

htm-db-status コマンドを実行した場合の戻り値を次の表に示します。

表 8-6 htm-db-status コマンドを実行した場合の戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
255	異常終了

8.3.3 htm-dvm-setup

形式

Windows の場合：

```
htm-dvm-setup      [{ /d | /dvm } <Device Manager のホスト名または IP アドレス>
                   [{ /n | /nameport } <Device Manager のポート番号> ]
                   [{ /s | /serviceport } <Device Manager と Tuning
Manager server 間の接続に使用するポート番号> ]
                   [{ /o | /os } <OS の種別> ]
                   | { /c | /local }
                   | { /l | /list }
                   | { /h | /help }
```

Solaris および Linux の場合：

```
htm-dvm-setup      [{ -d | --dvm } <Device Manager のホスト名または IP
アドレス>
                   [{ -n | --nameport } <Device Manager のポート番号> ]
                   [{ -s | --serviceport } <Device Manager と Tuning
Manager server 間の接続に使用するポート番号> ]
                   [{ -o | --os } <OS の種別> ]
                   ]
```

```
| { -c | --local }  
| { -l | --list }  
| { -h | --help }
```

機能

htm-dvm-setup コマンドは次の機能を提供します。

- Tuning Manager server の接続先 Device Manager を登録する機能
- 登録済みの接続先 Device Manager の情報を表示する機能

接続先 Device Manager が Tuning Manager server とは別のホストにインストールされている場合でも、Tuning Manager server と同じマシンにインストールされている場合でも、htm-dvm-setup コマンドを使って登録します。接続先 Device Manager が Tuning Manager server とは別のホストにインストールされている場合、Device Manager がインストールされているホスト (Device Manager ホスト) でも Tuning Manager server が接続するための設定をする必要があります。Device Manager での設定方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。

前提条件

htm-dvm-setup コマンドを実行する場合は、次の条件を満たしていることを確認してください。

- Tuning Manager server のサービスが停止していること。
- Tuning Manager server をインストールしたマシン上で、htm-dvm-setup コマンドを実行すること。
- htm-dvm-setup コマンド以外に、「8. ユーティリティ」に記載されている Tuning Manager server のコマンドが実行されていないこと。
- Windows 環境の場合、HiRDB/EmbeddedEdition _HD0 のサービスが起動していること。
- Tuning Manager server のデータベースが起動していること。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/bin/

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/

オプション

htm-dvm-setup コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-7 htm-dvm-setup コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/任意	注記
-d (/d) --dvm (/dvm)	Device Manager ホストのホスト名または IP アドレスを指定します。指定したホスト名または IP アドレスは、Device Manager と Tuning Manager server 間の接続に使用されます。	ホスト名を指定する場合： <ul style="list-style-type: none"> 名前解決後の IP アドレスが IPv4 アドレスであるホスト名を指定します。 ホスト名は 1 バイト以上 32 バイト以下の半角英数字で指定します。空白文字は指定できません。 FQDN 形式のホスト名は使用できません。ドメイン名を除いたホスト名を指定してください。 接続先の Device Manager がクラスタ構成で運用されている場合は、論理ホスト名を指定します。 IP アドレスを指定する場合： <ul style="list-style-type: none"> IPv4 アドレスを指定します。 接続先の Device Manager がクラスタ構成で運用されている場合は、論理 IP アドレスを指定します。 	任意。 次のオプションを指定した場合は、必須。 <ul style="list-style-type: none"> nameport オプション serviceport オプション os オプション 	このオプションを指定した場合、必ず Device Manager ホストで htmsetup コマンドを実行してください。また、すでに接続先の Device Manager を登録している環境でこのオプションを指定した場合、接続先 Device Manager に関する既存の情報は、すべて新しい情報で上書きされます。
-n (/n) --nameport (/nameport)	Device Manager ホストの HiRDB によって使用されるポート番号 (pd_name_port に指定されているポート番号) を指定します。	指定できる値の範囲は 5001 から 65535 までです。指定を省略した場合は 23032 が設定されます。	任意	Device Manager ホストの HiRDB によって使用されるポート番号については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。
-s (/s) --serviceport (/serviceport)	Device Manager ホストの HiRDB と Tuning Manager server ホストの HiRDB との接続のために使用されるポート番号 (pd_service_port に指定されているポート番号) を指定します。	指定できる値の範囲は 5001 から 65535 までです。指定を省略した場合は 24220 が設定されます。	任意	Device Manager ホストの HiRDB と Tuning Manager server ホストの HiRDB との接続のために使用されるポート番号については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を

オプション	目的	値	必須/任意	注記
				参照してください。
-o (/o) --os (/os)	Device Manager ホストの OS の種別を指定します。	Windows, Linux または Solaris (x64) の場合: pc Solaris (SPARC) の場合: ws 指定を省略した場合は Tuning Manager server ホストの OS と同じ種別が設定されます。	任意	なし
-c (/c) --local (/local)	Tuning Manager server と同じホストにインストールされている Device Manager を接続先に指定します。	なし	任意	すでに接続先の Device Manager を登録している環境でこのオプションを指定した場合、接続先 Device Manager に関する既存の情報は、すべて新しい情報で上書きされます。
-l (/l) --list (/list)	登録済みの Device Manager ホストの情報を表示します。	なし	任意	なし
-h (/h) --help (/help)	コマンドのオプションや使用方法を表示します。	なし	任意	オプションが指定されていないコマンドの場合、そのコマンドのオプションや使用方法が表示されます。

list オプション指定時の表示

list オプションを指定してコマンドを実行した場合、登録済みの接続先 Device Manager の情報が表示されます。表示結果の 1 行目にヘッダーが、2 行目に各項目の設定値がコンマ区切りで表示されます。表示項目と出力される値について次の表に示します。

表 8-8 list オプション指定時の表示項目

表示項目	説明	出力される値
Device Manager host	接続先 Device Manager のホスト名または IP アドレス	dvm オプションに指定した値が表示されます。 local オプションを指定して接続先 Device Manager を登録した場合は、"localhost"と表示されます。
name port number	Device Manager ホストの HiRDB によって使用されるポート番号	nameport オプションに指定した値が表示されます。 local オプションを指定して接続先 Device Manager を登録した場合は、何も表示されません。
service port number	Device Manager ホストの HiRDB と Tuning Manager server ホストの HiRDB との接続のために使用されるポート番号	serviceport オプションに指定した値が表示されます。 local オプションを指定して接続先 Device Manager を登録した場合は、何も表示されません。

表示項目	説明	出力される値
os	Device Manager ホストの OS の種別	os オプションに指定した値が表示されます。 local オプションを指定して接続先 Device Manager を登録した場合は、何も表示されません。

戻り値

htm-dvm-setup コマンドを実行した場合の戻り値を次の表に示します。

表 8-9 htm-dvm-setup コマンドを実行した場合の戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
100	オプションのシンタックスエラー
101	オプションに指定した値が不正
110	データベースが起動していない
111	Tuning Manager server のサービスがすべて停止していない
255	異常終了

8.3.4 htm-dump

形式

Windows の場合：

```
htm-dump      [{{ /d | /direct } <格納先フォルダ>
               [{{ /z | /zip }}
               | { /h | /help }}}
```

Solaris および Linux の場合：

```
htm-dump      [{{ -d | --direct } <格納先ディレクトリ>
               [{{ -z | --zip }}
               | { -h | --help }}}
```

機能

次に示す保守情報を採取します。

- Tuning Manager server のインストール時のログ
- Main Console の保守情報

前提条件

htm-dump コマンドを実行する場合は、次の条件を満たしていることを確認してください。

- Tuning Manager server をインストールしたマシン上で、htm-dump コマンドを実行すること。
- htm-dump コマンド以外の Tuning Manager server の管理系コマンドが実行されていないこと。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%

Solaris の場合

/opt/HiCommand/TuningManager/bin/

Linux の場合

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/

オプション

htm-dump コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-10 htm-dump コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/ 任意	注記
-d(/d) --direct(/ direct)	採取した保守情報 の格納先を指定し ます。	保守情報の格納先 ディレクトリの絶 対パス	必須	<ul style="list-style-type: none">ディレクトリとして入力できる文字 は、ASCII 印字可能文字コード (0x20-7E) の中で、一部の特殊文字 (¥ / : , ; * ? " < > \$ % & ' `) を除 いたものです。ただし、Windows で は「¥ (円記号)」を、Solaris および Linux では「/ (スラント)」をファイ ルセパレーターとして利用できます。 また、Windows では「: (コロン)」 をドライブレターに使用できます。 指定したディレクトリが存在しない 場合は、自動で生成されます。ルートディレクトリは指定しないで ください。既存のディレクトリを指定する場合 は、ディレクトリが空である必要があ ります。半角スペース、または「. (ピリオド)」 だけの値は、指定できません。半角スペースまたは「. (ピリオド)」 がディレクトリ名の先頭または末尾 に含まれるパスは指定できません。指定したディレクトリには、コマンド の実行ユーザーに対して read、および write 権限が必要です。ネットワーク上のディレクトリ (¥¥で 始まるパス) は指定できません。Windows の場合、予約デバイス名 (CON, AUX, PRN, NUL など) を含む パスは指定できません。
-z(/z) --zip(/ zip)	採取した保守情報 を zip 形式でアー カイブします。	なし	任意	<ul style="list-style-type: none">アーカイブファイルは HTML.zip とい う名称で作成されます。アーカイブファイルの容量が 2GB 以 上になる場合は、アーカイブファイル は作成されません。アーカイブに成功した場合は、採取し た保守情報は削除されます。

オプション	目的	値	必須/ 任意	注記
-h (/h) --help (/help)	コマンドのオプションや使用方法を表示します。	なし	任意	オプションが指定されていないコマンドの場合、そのコマンドのオプションや使用方法が表示されます。

戻り値

htm-dump コマンドを実行した場合の戻り値を次の表に示します。

表 8-11 htm-dump コマンドを実行した場合の戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
100	オプションのシンタックスエラー
101	オプションに指定した値が不正
255	異常終了

8.3.5 htm-getlogs

形式

Windows の場合：

```
htm-getlogs    [{{ /d | /direct } <格納先フォルダ>
                [{{ /z | /zip }}
                | { /h | /help }}}
```

Solaris および Linux の場合：

```
htm-getlogs    [{{ -d | --direct } <格納先ディレクトリ>
                [{{ -z | --zip }}
                | { -h | --help }}}
```

機能

次に示す保守情報を採取します。

- Tuning Manager server のインストール時のログ
- Main Console の保守情報
- Performance Reporter の保守情報
- PFM - Manager の保守情報
- エージェントの保守情報※

注※

エージェントの Store データベースは採取対象に含まれません。Performance Management の jpcras コマンド (オプション指定は all all) を使って採取する必要があります。jpcras コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

前提条件

htm-getlogs コマンドを実行する場合は、次の条件を満たしていることを確認してください。

- Tuning Manager server をインストールしたマシン上で、htm-getlogs コマンドを実行すること。

- htm-getlogs コマンド以外の Tuning Manager server の管理系コマンドが実行されていないこと。
- jpcras コマンド, jpcprras コマンド, および htm-dump コマンドの前提条件を満たしていること。

実行権限

Windows の場合 :

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合 :

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合 :

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%bin%

Solaris の場合 :

/opt/HiCommand/TuningManager/bin/

Linux の場合 :

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/bin/

オプション

htm-getlogs コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-12 htm-getlogs コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/任意	注記
-d(/d) --dirct(/dirct)	採取した保守情報の格納先を指定します。	保守情報の格納先ディレクトリの絶対パス	必須	<ul style="list-style-type: none"> • ディレクトリとして入力できる文字は、ASCII 印字可能文字コード (0x20-7E) の中で、一部の特殊文字 (¥ / : , ; * ? " < > \$ % & ' `) を除いたものです。ただし、Windows では「¥ (円記号)」を、Solaris および Linux では「/ (スラント)」をファイルセパレーターとして利用できます。また、Windows では「: (コロン)」をドライブレターに使用できます。指定したディレクトリが存在しない場合は、自動で生成されます。 • ルートディレクトリは指定しないでください。 • 既存のディレクトリを指定する場合は、ディレクトリが空である必要があります。 • 半角スペース、または「. (ピリオド)」だけの値は、指定できません。 • 半角スペースまたは「. (ピリオド)」がディレクトリ名の先頭または末尾に含まれるパスは指定できません。 • 指定したディレクトリには、コマンドの実行ユーザーに対して read, および write 権限が必要です。

オプション	目的	値	必須/任意	注記
				<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク上のディレクトリ（¥で始まるパス）は指定できません。 Windows の場合、予約デバイス名（CON, AUX, PRN, NUL など）を含むパスは指定できません。
-z (/z) --zip (/zip)	採取した保守情報を zip 形式でアーカイブします。	なし	任意	<ul style="list-style-type: none"> アーカイブファイルは HTM.zip という名称で作成されます。 アーカイブファイルの容量が 2GB 以上になる場合は、アーカイブファイルは作成されません。 アーカイブに成功した場合は、採取した保守情報は削除されます。
-h (/h) --help (/help)	コマンドのオプションや使用方法を表示します。	なし	任意	オプションが指定されていないコマンドの場合、そのコマンドのオプションや使用方法が表示されます。

戻り値

htm-getlogs コマンドを実行した場合の戻り値を次の表に示します。

表 8-13 htm-getlogs コマンドを実行した場合の戻り値

戻り値	意味
0	正常終了
100	オプションのシンタックスエラー
101	オプションに指定した値が不正
255	異常終了

8.4 Performance Reporter のコマンド

Performance Reporter のコマンドを使用すると、Store データベースの記録方法および保存条件を設定したり、Performance Management のプログラムとの連携に関する設定をしたりできます。

ここでは、Performance Reporter のコマンドについて説明します。

8.4.1 コマンド入出力

ここでは、次に示すコマンド実行の前提条件、パラメーターファイルの作成、およびコマンド出力形式について説明します。

- jpcasrec update
- jpcasrec output
- jpcaspsv update
- jpcaspsv output

(1) コマンド実行の前提条件

コマンド実行の前提条件を次に示します。

- PFM - Manager の稼働状況の確認

コマンド実行時に PFM - Manager が稼働している必要があります。

- PFM - Agent の稼働状況の確認
Store データベースに関するコマンドおよびレポート結果出力コマンドを実行する場合は、対応する PFM - Agent が稼働している必要があります。
- config.xml^{*}ファイルに設定する<logging>, <vsa>の確認
config.xml^{*}に<logging>, <vsa>が設定されているか確認してください。
これらのタグは、必須項目です。設定されていない場合は、config.xml^{*}のファイル例を参考に記述してください。

注※

config.xml のファイル例については、「5.3.4 初期設定ファイルのファイル例」を参照してください。

- コマンドに指定するパラメーターファイルの作成
パラメーターファイルを引数として指定するコマンドを実行する場合、指定するパラメーターファイルを事前に作成する必要があります。
パラメーターファイルの作成については、「(2) パラメーターファイルの作成」を参照してください。また、パラメーターファイルに指定するパラメーターについては、各コマンドの「パラメーターファイルの形式」を参照してください。

(2) パラメーターファイルの作成

コマンドの引数には、XML 形式のパラメーターファイルを指定します。コマンドに指定するパラメーターファイルの作成について、次に説明します。

なお、「パラメーターファイル記述例」がパラメーターファイルを引数として指定する各コマンドの説明にありますので、そちらの記載も参照してください。

パラメーターファイルの記述方式

コマンドの引数に指定するパラメーターファイルの記述方式を次に示します。

- パラメーターは、XML バージョンとエンコーディングを指定した直後に、pr-cli-parameters タグで囲んで指定します。pr-cli-parameters タグの説明を次の表に示します。
pr-cli-parameters タグ以外の指定するパラメーターについては、各コマンドの「パラメーターファイルの形式」を参照してください。

表 8-14 pr-cli-parameters の説明

種別	説明	
意味	Performance Reporter コマンド入力のルートタグ	
指定可能値	なし	
省略	不可	
属性	ver	DTD ファイルのバージョン。コマンドのサポート範囲外の値ならば、パラメーターファイルエラーとなります。また、省略するとエラーとなります。サポート範囲については、「表 8-15」を参照してください。
親要素	なし	
子要素	report-definitions	レポート定義情報のルートタグ
	agent-store-db-record-definition	Store データベース記録方法変更定義情報のルートタグ

種別	説明	
	agent-store-db-preserve-definition	Store データベース保存条件変更定義情報のルートタグ
	launch-report	レポート出力定義情報のルートタグ
	launch-registration-report	登録レポート出力定義情報のルートタグ
	launch-combination-bookmark	複合レポート出力定義情報のルートタグ

- 「<」など XML 形式の書式制御文字を値に含める場合、XML 仕様が定める記法に従って記述する必要があります。
例えば、「<」の場合は「<」、「>」の場合は「>」と記述します。
- フィールド ID、レコード ID、date-range、report-interval など、コマンドのパラメーターファイル仕様で規定する固定のトークンから選択して指定する値は、仕様として明示的に制限されなにかぎり、大文字だけ、または小文字だけであれば使用できます。パラメーターに指定する値の定義は、各コマンドの「パラメーターファイルの形式」または DTD ファイルを参照してください。
- 「TRUE」を指定できるパラメーターについては、「true」も指定できます。また、「FALSE」を指定できるパラメーターについては、「false」も指定できます。
- 空白だけの要素値または属性値については、省略とみなします。また、要素値、属性値の前後に指定した半角空白は、無視します。
- 制御文字を要素または属性に指定するとエラーとなります。
- パラメーターファイルの DOCTYPE 宣言は固定です。パラメーターファイルの DOCTYPE 宣言には、パラメーターの記述を定義する DTD ファイル名を必ず指定してください。なお、DTD ファイルの格納先ディレクトリのパスを指定する必要はありません。

DOCTYPE 宣言の例を次に示します。

```
<!DOCTYPE pr-cli-parameters SYSTEM "<DTD ファイル名>">
```

また、コマンドがサポートする DTD ファイルの一覧を次の表に示します。

表 8-15 コマンドがサポートする DTD ファイル

コマンド名	DTD ファイル名	DTD ファイルのサポートバージョン
jpcasrec update	asrec_params.dtd	0100
jpcasrec output		
jpcaspsv update	aspsv_params.dtd	0100, 0110
jpcaspsv output		

- 「パラメーターファイルの形式」で指定する範囲外の値を指定した場合は、パラメーターファイルエラーとなります。
- 作成したパラメーターファイルは、XML 宣言で指定したエンコーディングで保存してください。

(3) コマンドの出力形式

コマンド処理の詳細情報を標準出力、標準エラー出力、トレースログファイルに出力します。詳細情報の出力先を次の表に示します。

表 8-16 詳細情報の出力

項目	出力先
実行結果	標準出力

項目	出力先
メッセージ	標準エラー出力
トレースログ	初期設定ファイル (config.xml) で指定したログ出力ディレクトリ下に「コマンド名_処理種別_log#.log (#:ログファイル番号[1~ログファイル生成数まで])」を出力します。例えば、Store データベースの記録方法を変更するコマンドを実行した場合「jpcasrec_update_log1.log」となります。 コマンドを実行するごとにログファイルの合計サイズを計算し、上限を超えると更新日付の古いファイルから削除されます。サイズの上限は、config.xml の「logFileSize」と「logFileNumber」を掛けた数値になります。

標準出力例

コマンド名、接続先 PFM - Manager ホスト名/IP アドレス、PFM - Manager 接続時刻、PFM - Manager 切断時刻をコマンド共通のタイトル行・終了行として付加します。

次の形式で出力されます。

```
<コマンド名> <サブコマンド名> connected to <接続先ホスト名> at yyyy MM dd
HH:MM:SS.mmm
<実行結果>
<コマンド名> <サブコマンド名> disconnected at yyyy MM dd HH:MM:SS.mmm
```

(凡例)

yyyy MM dd

西暦年、月、日を示します。ロケールによって設定されるデフォルトの形式または config.xml の「selectFormat」に指定した形式で表示します。日付フォーマットの設定については、「5.3.4 初期設定ファイルのファイル例」を参照してください。

HH:MM:SS.mmm

時間:分:秒. ミリ秒を示します。

ログ仕様については、「7.3.4 Performance Reporter のログ」を参照してください。

ヘルプ参照オプション

コマンドに「-h」オプションを指定すると、コマンドのヘルプを参照できます。コマンドの第1引数に「-h」オプションを指定すると、それ以降は無視してヘルプを出力します。また、コマンドラインの書式不正の場合にも出力されます。

(4) コマンドの同時実行

次の表に示すコマンドは、同時実行（多重実行、および並列実行）ができません。

多重実行とは、コマンドとサブコマンドの組み合わせが同一であるコマンドを同時に実行することです。並列実行とは、コマンドとサブコマンドの組み合わせが異なるコマンドを同時に実行することです。

表 8-17 同時実行できないコマンド

コマンド	サブコマンド
jpcasrec	update
	output
jpcaspsv	update
	output

8.4.2 jpcasrec update

形式

jpcasrec update <入力ファイル>

機能

jpcasrec update コマンドは、エージェントに接続し Store データベースの記録方法に関する定義情報を変更します。変更する定義情報は、コマンドライン引数として指定された XML 形式のパラメーターファイルから取得します。1 つのパラメーターファイルに複数の Store データベース定義情報を指定し、一括して変更できます。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%tools%

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/tools/

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/
tools/

オプション

jpcasrec update コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-18 jpcasrec update コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/任意	注記
<入力ファイル>	Store データベースの記録方法定義情報を変更するための、XML 形式のパラメーターファイルを指定します。	後述の「パラメーターファイルの形式」に基づいて作成されたファイルです。絶対ファイルパス名、相対ファイルパス名、ファイル名を指定でき、絶対ファイルパス名以外の場合、カレントディレクトリを基点とします。	必須	なし

パラメーターファイルの形式

XML タグ仕様

表 8-19 agent-store-db-record-definition

種別	説明
意味	Store データベース記録方法変更定義情報のルートタグ
指定可能値	なし

種別	説明
省略	不可
属性	なし
親要素	pr-cli-parameters
子要素	service (複数指定できます)

表 8-20 service

種別	説明	
意味	エージェントを特定するサービスを指定します。	
指定可能値	なし	
省略	不可	
属性	id	サービス ID (4~258 文字) 1 桁目はエージェントのプロダクト ID を指定します。プロダクト ID については、各 PFM・Agent マニュアルを参照してください。 2 桁目は「A」(Agent Collector) を指定します。
親要素	agent-store-db-record-definition	
子要素	record (省略できません。複数指定できます)	

表 8-21 record

種別	説明	
意味	変更するレコード ID を指定します。	
指定可能値	なし	
省略	不可	
属性	id	レコード ID (1~8 文字)。各 PFM・Agent のマニュアルに記述されているレコード ID を指定します。
親要素	service	
子要素※	log (1record に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	collection-interval (1record に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	collection-offset (1record に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	logif (1record に 1 回だけ指定できます。省略できます)	

注※

子要素を省略した場合、該当項目は更新しません。また、子要素を指定する場合は、記載順に指定します。

表 8-22 log

種別	説明
意味	Store データベースに記録するパフォーマンスデータを収集するかどうかを指定します。
指定可能値	半角英字 <ul style="list-style-type: none"> 「Yes」: パフォーマンスデータを収集します (ただし、「Collection Interval=0」の場合、収集しません)。 「No」: パフォーマンスデータを収集しません。 ただし、大文字・小文字どちらでも指定できます。

種別	説明
	<p>注意: PFM - Agent が収集したパフォーマンスデータを Tuning Manager server に表示させるためには、このタグに、次の両方の条件を満たした値を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PFM - Agent が求める指定条件 • Tuning Manager server が求める指定条件 <p>PFM - Agent が求める指定条件については、各 PFM - Agent のマニュアルの、レコードの記載形式について説明している個所を参照してください。</p> <p>Tuning Manager server が求める指定条件については、「6.1.5」を参照してください。</p>
省略	可 (省略時は log を更新しません)
属性	なし
親要素	record
子要素	なし

表 8-23 collection-interval

種別	説明
意味	パフォーマンスデータの収集間隔を秒数で指定します。
指定可能値	<p>次の半角数字</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 • 60～3,600 のうち 60 の倍数かつ 3,600 の約数 • 3,600～86,400 のうち 3,600 の倍数かつ 86,400 の約数 <p>上記の数値以外を指定した場合、パフォーマンスデータが正しく格納されないことがあります。また、0 を指定した場合、パフォーマンスデータは収集されません。</p> <p>注意: PFM - Agent が収集したパフォーマンスデータを Tuning Manager server に表示させるためには、このタグに、次の両方の条件を満たした値を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PFM - Agent が求める指定条件 • Tuning Manager server が求める指定条件 <p>PFM - Agent が求める指定条件については、各 PFM - Agent のマニュアルの、レコードの記載形式について説明している個所を参照してください。</p> <p>Tuning Manager server が求める指定条件については、「6.1.5」を参照してください。</p>
省略	可 (省略時は collection-interval を更新しません)
属性	なし
親要素	record
子要素	なし

表 8-24 collection-offset

種別	説明
意味	パフォーマンスデータの収集処理のタイミングをずらして開始する場合のオフセット値を秒数で指定します。
指定可能値	<p>半角数字</p> <p>0～32,767 (ただし、Collection Interval で指定した値の範囲内を指定してください)</p> <p>注意: PFM - Agent が収集したパフォーマンスデータを Tuning Manager server に表示させるためには、このタグに、次の両方の条件を満たした値を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PFM - Agent が求める指定条件 • Tuning Manager server が求める指定条件 <p>PFM - Agent が求める指定条件については、各 PFM - Agent のマニュアルの、レコードの記載形式について説明している個所を参照してください。</p> <p>Tuning Manager server が求める指定条件については、「6.1.5」を参照してください。</p>

種別	説明
省略	可（省略時は collection-offset を更新しません）
属性	なし
親要素	record
子要素	なし

表 8-25 logif

種別	説明
意味	パフォーマンスデータを Store データベースに記録する判断条件を指定します。
指定可能値	なし 注意： PFM - Agent が収集したパフォーマンスデータを Tuning Manager server に表示させるためには、このタグに、次の両方の条件を満たした値を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> PFM - Agent が求める指定条件 Tuning Manager server が求める指定条件 PFM - Agent が求める指定条件については、各 PFM - Agent のマニュアルの、レコードの記載形式について説明している個所を参照してください。 Tuning Manager server が求める指定条件については、「6.1.5」を参照してください。
省略	可（省略時は logif を更新しません）
属性	delete "yes"（この属性の指定時は、子要素の指定は無視して登録されている expression を削除します。この属性の省略時は、子要素の指定に従って判断条件を登録します）
親要素	record
子要素	expression（複数指定できます。省略できます） and（複数の expression が存在する場合に複数指定できます。省略できます） or（複数の expression が存在する場合に複数指定できます。省略できます）

表 8-26 expression

種別	説明
意味	パフォーマンスデータを Store データベースに記録する判断条件を指定します。
指定可能値	<p>条件式は「<フィールド><条件>"<値>」の形式で指定します。フィールド・条件・値の区切りに空白は使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 右辺にフィールドを指定できません。 expression 属性を複数指定する場合は、2つの expression 属性を、論理演算子を表すタグ「and」または「or」で囲って指定する2項演算子の形式とし、2項演算子のネストを許します。多項演算の指定はできません。 条件以外に等号、不等号の文字を使用する場合は、直前に「¥」を指定します。「¥」を指定する場合は、「¥¥」を指定します。 <p><フィールド> フィールドは、レコードに含まれるフィールドを「PFM - Manager 名」で指定します。PFM - Manager 名については、各 PFM - Agent マニュアルのレコードの説明を参照してください。</p> <p><条件> 条件に指定する値を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「=」：フィールドの値と"<値>"が等しい。 「<」：フィールドの値が"<値>"より小さい。 「<=」：フィールドの値が"<値>"より小さいか等しい。 「>」：フィールドの値が"<値>"より大きい。 「>=」：フィールドの値が"<値>"より大きいか等しい。 「<>」：フィールドの値と"<値>"が異なる。

種別	説明
	<p>XMLの表記として「<」は「&lt;」、 「>」は「&gt;」を指定します。</p> <p>文字列フィールドの場合は、ASCIIコードの昇順に比較します。大文字と小文字は区別されます。</p> <p>"<値>"</p> <p>各 PFM-Agent のマニュアルに記述されているフィールドの形式に合わせて指定します。次に示す設定範囲で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字 (指定値をそのまま設定) 整数 (Integer で許される範囲の値) 小数 (Double で許される範囲の値で、小数点以下が 4 桁以上の場合、IEEE754 規格の Round to nearest の仕様※1 に従って 4 桁に丸めます) 日付 (時刻を"HH:mm:ss"固定の形式で指定します) <p>値に制御文字および「() [] <> =」の文字は指定できません。指定した場合はエラーになります。</p> <p>文字列を指定する場合は、ワイルドカード文字を使用できます。</p> <p>使用できるワイルドカード文字を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> *: 任意の 0 文字以上の文字列 ?: 任意の 1 文字 ¥: 「*」, 「?」 および 「¥」 をワイルドカードではなく文字として扱う場合 <p>例えば、「¥*」と指定した場合は、文字「*」として扱います。※2</p>
省略	不可
属性	なし
親要素	logif and or
子要素	なし

注※1

IEEE754 規格の Round to nearest の仕様を次に示します。

- 丸める対象となる数と 2 つの近似値との距離を比べて、丸める対象となる数に最も近い近似値に丸めます。
- 丸める対象となる数と 2 つの近似値との距離が同じ場合、2 つの近似値を 2 進表現していちばん下の桁が「0」となる近似値に丸めます。

注※2

「¥」の次にワイルドカードを含む文字列が値として指定された場合に、指定したフィールドの文字列と完全一致すると、値の判定は真となります。

例えば、値に「¥*abc」と指定した場合、対象のフィールドに「¥*abc」と格納されているときも、「*abc」と格納されているときも真と判定されます。

表 8-27 and

種別	説明
意味	expression で指定した論理式の AND 演算を指定します。
指定可能値	なし
省略	可
属性	なし
親要素	logif and or
子要素	expression (複数指定できます。省略できます)

種別	説明
	and (複数の expression が存在する場合に複数指定できます。省略できます)
	or (複数の expression が存在する場合に複数指定できます。省略できます)

表 8-28 or

種別	説明
意味	expression で指定した論理式の OR 演算を指定します。
指定可能値	なし
省略	可
属性	なし
親要素	logif and or
子要素	expression (複数指定できます。省略できます) and (複数の expression が存在する場合に複数指定できます。省略できます) or (複数の expression が存在する場合に複数指定できます。省略できます)

パラメーターファイル記述例を次に示します。

パラメーターファイル記述例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE pr-cli-parameters SYSTEM "asrec_params.dtd">
<pr-cli-parameters ver="0100">
<agent-store-db-record-definition>
  <service id="TAIhost1">
    <record id="PD_CIND">
      <log>Yes</log>
      <collection-interval>60</collection-interval>
      <collection-offset>0</collection-offset>
      <logif>
        <and>
          <and>
            <expression>RECORD_TIME="10:26:50"</expression>
            <expression>UNIQUE_KEYS>"40"</expression>
          </and>
          <or>
            <expression>INSTANCE="abc"</expression>
            <expression>INSTANCE="xyz"</expression>
          </or>
        </and>
      </logif>
    </record>
    <record id="PD_CINF">
      <log>Yes</log>
      <collection-interval>300</collection-interval>
      <collection-offset>10</collection-offset>
      <logif delete="yes"/>
    </record>
    <record id="PD_DEV">
      <log>No</log>
    </record>
  </service>
</agent-store-db-record-definition>
</pr-cli-parameters>
```

パラメーターの記述を定義する DTD ファイルを次に示します。

パラメーターの記述を定義する DTD ファイル

```
<!ELEMENT pr-cli-parameters (agent-store-db-record-definition)>
<!ATTLIST pr-cli-parameters ver (0100) #REQUIRED>
```

```

<!ELEMENT agent-store-db-record-definition      (service+)>
<!ELEMENT service                             (record+)>
<!ATTLIST service                             id CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT record                              (log?, collection-interval?,
                                         collection-offset?, logif?)>
<!ATTLIST record                              id CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT log                                 (#PCDATA)>
<!ELEMENT collection-interval                (#PCDATA)>
<!ELEMENT collection-offset                  (#PCDATA)>
<!ELEMENT logif                              (expression| and| or)?>
<!ATTLIST logif                              delete CDATA #IMPLIED>
<!ELEMENT expression                          (#PCDATA)>
<!ELEMENT and                                ((expression| or| and), (expression| or| and))>
<!ELEMENT or                                  ((expression| or| and), (expression| or| and))>

```

注意事項

- 各タグの指定値は、「6.2.2 パフォーマンスデータの記録方法の設定」で説明されている注意に従って設定してください。
- サービス ID、レコード ID、各レコード ID のフィールド名、指定できる値の範囲については、各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。
- サービス ID、レコード ID ごとに変更できるパラメーターが異なります。詳細は各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。
- 指定するサービス ID、レコード ID によって、Sync Collection With の扱いになっているレコードがあります。その場合、Collection interval および Collection offset は指定できません。詳細は各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。
- 指定したサービス ID が、エージェントのプロダクト以外の場合はエラーとします。
- 同一サービス ID を複数回指定した場合、エラーとします。
- 同一レコード ID を複数回指定した場合、エラーとします。
- 複数の Store データベース記録方法定義を、サービス ID 単位ごとに連続登録しているとき、どれかの定義登録が失敗すると、コマンドはその定義の登録を中断し、ほかのサービス ID 単位の定義がある場合はそれを登録します。
- logif タグの and および or タグの下には 2 つの要素しか指定できません。

記述例を次に示します。

```

<and>
  <expression><式 1></expression>
  <or>
    <expression><式 2></expression>
    <or>
      <expression><式 3></expression>
      <or>
        <expression><式 4></expression>
        <expression><式 5></expression>
      </or>
    </or>
  </or>
</and>

```

expression タグに指定する式の記述例を次に示します。

```

<expression>SEGMENTS_RETRANSMITTED_PER_SEC>"100"</expression>
<expression>RECORD_TIME>"11:22:33"</expression>

```

戻り値

0	正常終了しました。
1	コマンドライン形式不正です。
2	コマンドを実行した OS ユーザーに実行権限がありません。
3	出力ファイルの作成に失敗しました。

5	DTD ファイルと不整合のためパラメーターを解析できません。
10	1 件以上の Store データベース定義の更新に失敗しました。
100	環境が不正です。
200	メモリーエラーが発生しました。
202	ファイルアクセスエラーが発生しました。
222	通信処理でエラーが発生しました。
255	予期しないエラーが発生しました。

使用例

Store データベースの記録方法に関する定義内容を記述したパラメーターファイル (asrec_update.xml) を指定する場合のコマンド実行例を次に示します。

```
jpcasrec update asrec_update.xml
```

出力例

コマンド処理の詳細情報を標準出力、標準エラー出力、トレースログファイルに出力します。ログ仕様については、「[7.3.4 Performance Reporter のログ](#)」を参照してください。

3 つのサービス ID を指定し、1 つがエラーとなった場合の標準出力形式を次に示します。service タグで指定したサービス ID ごとに実行結果を表示します (OK または ERR)。

標準出力の出力例

```
jpcasrec update connected to hostname at yyyy MM dd HH:MM:SS.mmm
update result OK : TA1host1
update result OK : TA1host2
update result ERR : TA1host3
jpcasrec update disconnected at yyyy MM dd HH:MM:SS.mmm
```

8.4.3 jpcasrec output

形式

```
jpcasrec output -o <出力ファイル>
                <サービス ID>
```

機能

jpcasrec output コマンドは、Store データベースの記録方法に関する定義情報を XML 形式で出力します。出力ファイルは、jpcasrec update コマンドの入力ファイルとして指定できます。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%tools¥

Solaris の場合：

Linux の場合 :

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/
tools/

オプション

jpcasrec output コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-29 jpcasrec output コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/任意	注記
-o<出力ファイル>	表示結果を出力する XML 形式ファイルの名称を指定します。	絶対ファイルパス名, 相対ファイルパス名, ファイル名を指定でき, 絶対ファイルパス名以外の場合, カレントディレクトリを基点とします。	必須	指定されたディレクトリが存在しない場合は, エラーになります。
<サービス ID>	表示対象エージェントを示すサービス ID を指定します。	指定値の条件を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 4~258 文字 1 桁目はエージェントの製品 ID を指定します。製品 ID については, 各 PFM - Agent マニュアルを参照してください。 2 桁目は「A」(Agent Collector) を指定します。 	必須	ワイルドカード文字は使用できません。

注意事項

- サービス ID, レコード ID の指定範囲については, 各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。
- 更新できない定義情報は, 出力ファイルにコメントとして出力されます。

戻り値

0	正常終了しました。
1	コマンドライン形式不正です。
2	コマンドを実行した OS ユーザーに実行権限がありません。
3	出力ファイルの作成に失敗しました。
5	DTD ファイルと不整合のためパラメーターを解析できません。
10	1 件以上の Store データベース定義の更新に失敗しました。
100	環境が不正です。
200	メモリーエラーが発生しました。
202	ファイルアクセスエラーが発生しました。
222	通信処理でエラーが発生しました。
255	予期しないエラーが発生しました。

使用例

サービス ID 「TA1host1」の PFM - Agent の Store データベースの記録方法に関する定義情報をパラメータファイル (asrec_output.xml) に出力する場合のコマンド実行例を次に示します。

```
jpcasrec output -o asrec_output.xml TA1host1
```

出力例

コマンド処理の詳細情報を標準出力、標準エラー出力、トレースログファイルに出力します。ログ仕様については、「[7.3.4 Performance Reporter のログ](#)」を参照してください。

標準出力形式を次に示します。引数で指定したサービス ID の実行結果を表示します (OK または ERR)。

標準出力の出力例

```
jpcasrec output connected to hostname at yyyy MM dd HH:MM:SS.mmm
output result OK : TA1host1
jpcasrec output disconnected at yyyy MM dd HH:MM:SS.mmm
```

出力ファイル

このコマンドの出力ファイル例を次に示します。

出力ファイル例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE pr-cli-parameters SYSTEM "asrec_params.dtd">
<pr-cli-parameters ver="0100">
<agent-store-db-record-definition>
  <service id="TA1host1">
    <record id="PD_CIND">
      <!-- Description : Content Index Detail -->
      <log>Yes</log>
      <collection-interval>600</collection-interval>
      <collection-offset>0</collection-offset>
      <logif>
        <and>
          <or>
            <expression>RECORD_TIME<";"01:23:45"</expression>
            <expression>INTERVAL<";"2000"</expression>
          </or>
          <expression>INSTANCE<";"INST"</expression>
        </and>
      </logif>
    </record>
    <record id="PD_CINF">
      <!-- Description : Content Index Filter Detail -->
      <log>No</log>
      <collection-interval>60</collection-interval>
      <collection-offset>0</collection-offset>
      <logif> </logif>
    </record>
    <record id="PD_DEV">
      <!-- Description : Devices Detail -->
      <log>Yes</log>
      <collection-interval>480</collection-interval>
      <collection-offset>60</collection-offset>
      <logif> </logif>
    </record>
    :
    :
    :
  </service>
</agent-store-db-record-definition>
</pr-cli-parameters>
```

8.4.4 jpcaspsv update

形式

jpcaspsv update <入力ファイル>

機能

jpcaspsv update コマンドは、エージェントに接続し Store データベースの保存条件に関する定義情報を変更します。変更する保存条件定義情報は、コマンドライン引数として指定された XML 形式のパラメーターファイルから取得します。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>\PerformanceReporter\tools\

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/tools/

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/
tools/

オプション

jpcaspsv update コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-30 jpcaspsv update コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/任意	注記
<入力ファイル>	Store データベースの保存条件定義情報を変更するための、XML 形式のパラメーターファイルを指定します。	このパラメーターファイルは、後述の「パラメーターファイルの形式」に基づいて作成されたファイルです。絶対ファイルパス名、相対ファイルパス名、ファイル名を指定でき、絶対ファイルパス名以外の場合は、カレントディレクトリを基点とします。	必須	なし

パラメーターファイルの形式

XML タグ仕様

表 8-31 agent-store-db-preserve-definition

種別	説明
意味	Store データベース保存条件定義情報のルートタグ
指定可能値	なし

種別	説明
省略	不可
属性	なし
親要素	pr-cli-parameters
子要素	service (複数指定できます)

表 8-32 service

種別	説明	
意味	エージェントを特定するサービスを指定します。	
指定可能値	なし	
省略	不可	
属性	id	サービス ID (4~258 文字) 1 桁目はエージェントの製品 ID を指定します。製品 ID については、各 PFM・Agent マニュアルを参照してください。 2 桁目は「S」(Agent Store) を指定します。
親要素	agent-store-db-preserve-definition	
子要素※	product-interval (1service に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	product-detail (1service に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	product-log (1service に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	ex-product-interval (1service に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	ex-product-detail (1service に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	ex-product-log (1service に 1 回だけ指定できます。省略できます)	

注※ 子要素を指定する場合は、記載順に指定します。

表 8-33 product-interval

種別	説明
意味	PI レコードの保存期間を指定します。 対象となる Store データベースの条件は次のどちらかになります。 ・ バージョン 08-00 以前 ・ バージョン 08-10 以降、かつ Store バージョンが 1.0 注 Tuning Manager シリーズのエージェントの場合、「08-00 以前」を「05-50 以前」に、「08-10 以降」を「05-70 以降」に読み替えてください。
指定可能値	なし
省略	可 (省略時は product-interval を更新しません)
属性	なし
親要素	service
子要素※	minute-drawer (1product-interval に 1 回だけ指定できます。省略できます)
	hour-drawer (1product-interval に 1 回だけ指定できます。省略できます)
	day-drawer (1product-interval に 1 回だけ指定できます。省略できます)
	week-drawer (1product-interval に 1 回だけ指定できます。省略できます)
	month-drawer (1product-interval に 1 回だけ指定できます。省略できます)

注※ 子要素を指定する場合は、記載順に指定します。

表 8-34 minute-drawer

種別	説明
意味	分単位の PI レコードの保存期間を指定します。
指定可能値	半角英数字で指定します。大文字、小文字の区別はしません。 次に示す値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「minute」: 1 分 ・ 「hour」: 1 時間 ・ 「day」: 1 日 ・ 「n days」: n 日 (ただし, n は 2~6) ・ 「week」: 1 週間 ・ 「month」: 1 か月 ・ 「year」: 1 年
省略	可 (省略時は minute-drawer を更新しません)
属性	なし
親要素	product-interval
子要素	なし

表 8-35 hour-drawer

種別	説明
意味	時間単位の PI レコードの保存期間を指定します。
指定可能値	半角英数字で指定します。大文字、小文字の区別はしません。 次に示す値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「hour」: 1 時間 ・ 「day」: 1 日 ・ 「n days」: n 日 (ただし, n は 2~6) ・ 「week」: 1 週間 ・ 「month」: 1 か月 ・ 「year」: 1 年
省略	可 (省略時は hour-drawer を更新しません)
属性	なし
親要素	product-interval
子要素	なし

表 8-36 day-drawer

種別	説明
意味	日単位の PI レコードの保存期間を指定します。
指定可能値	半角英数字で指定します。大文字、小文字の区別はしません。 次に示す値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「day」: 1 日 ・ 「n days」: n 日 (ただし, n は 2~6) ・ 「week」: 1 週間 ・ 「month」: 1 か月 ・ 「year」: 1 年
省略	可 (省略時は day-drawer を更新しません)
属性	なし
親要素	product-interval
子要素	なし

表 8-37 week-drawer

種別	説明
意味	週単位の PI レコードの保存期間を指定します。
指定可能値	半角英数字で指定します。大文字、小文字の区別はしません。 次に示す値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> 「week」: 1 週間 「month」: 1 か月 「year」: 1 年
省略	可 (省略時は week-drawer を更新しません)
属性	なし
親要素	product-interval
子要素	なし

表 8-38 month-drawer

種別	説明
意味	月単位の PI レコードの保存期間を指定します。
指定可能値	半角英数字で指定します。大文字、小文字の区別はしません。 次に示す値が指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> 「month」: 1 か月 「year」: 1 年
省略	可 (省略時は month-drawer を更新しません)
属性	なし
親要素	product-interval
子要素	なし

表 8-39 product-detail

種別	説明
意味	PD レコードの保存レコード数を指定します。 対象となる Store データベースの条件は次のどちらかになります。 <ul style="list-style-type: none"> バージョン 08-00 以前 バージョン 08-10 以降, かつ Store バージョンが 1.0 注 Tuning Manager シリーズのエージェントの場合, 「08-00 以前」を「05-50 以前」に, 「08-10 以降」を「05-70 以降」に読み替えてください。
指定可能値	なし
省略	可 (省略時は product-detail を更新しません)
属性	なし
親要素	service
子要素	detail-record (1PD レコードに 1 回だけ指定できます。省略できます)

表 8-40 detail-record

種別	説明
意味	PD レコードの保存レコード数の上限を指定します。
指定可能値	なし
省略	可 (省略時は detail-record を更新しません)
属性	id PD レコード ID (各 PFM - Agent のマニュアルのレコード ID を参照してください。省略はできません)

種別	説明	
	max-rec	0~2,147,483,647 (省略できません)
親要素	product-detail	
子要素	なし	

表 8-41 product-log

種別	説明	
意味	PL レコードの保存レコード数の上限を指定します。 対象となる Store データベースの条件は次のどちらかになります。 <ul style="list-style-type: none"> バージョン 08-00 以前 バージョン 08-10 以降, かつ Store バージョンが 1.0 注 Tuning Manager シリーズのエージェントの場合, 「08-00 以前」を「05-50 以前」に, 「08-10 以降」を「05-70 以降」に読み替えてください。	
指定可能値	なし	
省略	可 (省略時は product-log を更新しません)	
属性	なし	
親要素	service	
子要素	log-record (1PL レコードに 1 回だけ指定できます。省略できます)	

表 8-42 log-record

種別	説明	
意味	PL レコードの保存レコード数の上限を指定します。	
指定可能値	なし	
省略	可 (省略時は log-record を更新しません)	
属性	id	PL レコード ID (各 PFM - Agent のマニュアルのレコード ID を参照してください。省略できません)
	max-rec	0~2,147,483,647 (省略できません)
親要素	product-log	
子要素	なし	

表 8-43 ex-product-interval

種別	説明	
意味	PI レコードの保存期間を指定します。 対象となる Store データベースの条件は, バージョン 08-10 以降, かつ Store バージョンが 2.0 です。 注 Tuning Manager シリーズのエージェントの場合, 「08-10 以降」を「05-70 以降」に読み替えてください。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は ex-product-interval を更新しません。
属性	なし	
親要素	service	
子要素	ex-interval-record (1PI レコードに 1 回だけ指定できます。省略できます)	

注意: このタグを指定する場合は, pr-cli-parameters の ver 属性を「0110」にしてください。

表 8-44 ex-interval-record

種別	説明	
意味	PI レコードの保存期間を指定します。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は ex-interval-record を更新しません。
属性	id	PI レコード ID PI レコード ID については、各 PFM・Agent マニュアルのレコードについて説明している章を参照してください。id は省略できません。
親要素	ex-product-interval	
子要素※	minute-drawer-days (lex-interval-record に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	hour-drawer-days (lex-interval-record に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	day-drawer-weeks (lex-interval-record に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	week-drawer-weeks (lex-interval-record に 1 回だけ指定できます。省略できます)	
	month-drawer-months (lex-interval-record に 1 回だけ指定できます。省略できます)	

注※ 子要素を指定する場合は、上記の順序で指定します。

表 8-45 minute-drawer-days

種別	説明	
意味	分単位の PI レコードの保存期間を指定します。 値は日数で指定します。366 日（1 年相当）まで指定できます。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は minute-drawer-days を更新しません。
属性	period	0～366（省略できません）
親要素	ex-interval-record	
子要素	なし	

表 8-46 hour-drawer-days

種別	説明	
意味	時間単位の PI レコードの保存期間を指定します。 値は日数で指定します。366 日（1 年相当）まで指定できます。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は hour-drawer-days を更新しません。
属性	period	0～366（省略できません）
親要素	ex-interval-record	
子要素	なし	

表 8-47 day-drawer-weeks

種別	説明	
意味	日単位の PI レコードの保存期間を指定します。 値は週の数で指定します。522 週（10 年相当）まで指定できます。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は day-drawer-weeks を更新しません。
属性	period	0～522（省略できません）
親要素	ex-interval-record	

種別	説明
子要素	なし

表 8-48 week-drawer-weeks

種別	説明	
意味	週単位の PI レコードの保存期間を指定します。 値は週の数で指定します。522 週（10 年相当）まで指定できます。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は week-drawer-weeks を更新しません。
属性	period	0～522（省略できません）
親要素	ex-interval-record	
子要素	なし	

表 8-49 month-drawer-months

種別	説明	
意味	月単位の PI レコードの保存期間を指定します。 値は月数で指定します。120 か月（10 年相当）まで指定できます。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は month-drawer-months を更新しません。
属性	period	0～120（省略できません）
親要素	ex-interval-record	
子要素	なし	

表 8-50 ex-product-detail

種別	説明	
意味	PD レコードの保存期間を指定します。 対象となる Store データベースの条件は、バージョン 08-10 以降、かつ Store バージョンが 2.0 の場合です。 注 Tuning Manager シリーズのエージェントの場合、「08-10 以降」を「05-70 以降」に読み替えてください。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は ex-product-detail を更新しません。
属性	なし	
親要素	service	
子要素	ex-detail-record（1PD レコードに 1 回だけ指定できます。省略できます）	

注意：このタグを指定する場合は、pr-cli-parameters の ver 属性を「0110」にしてください。

表 8-51 ex-detail-record

種別	説明	
意味	PD レコードの保存期間を指定します。 値は日数で指定します。366 日（1 年相当）まで指定できます。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は ex-detail-record を更新しません。
属性	id	PD レコード ID

種別	説明	
		PD レコード ID については、各 PFM - Agent マニュアルのレコードについて説明している章を参照してください。 id は省略できません。
	period	0~366 (省略できません)
親要素	ex-product-detail	
子要素	なし	

表 8-52 ex-product-log

種別	説明	
意味	PL レコードの保存期間を指定します。 対象となる Store データベースの条件は、バージョン 08-10 以降、かつ Store バージョンが 2.0 の場合です。 注 Tuning Manager シリーズのエージェントの場合、「08-10 以降」を「05-70 以降」に読み替えてください。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は ex-product-log を更新しません。
属性	なし	
親要素	service	
子要素	ex-log-record (1PL レコードに 1 回だけ指定できます。省略できます)	

注意：このタグを指定する場合は、pr-cli-parameters の ver 属性を「0110」にしてください。

表 8-53 ex-log-record

種別	説明	
意味	PL レコードの保存期間を指定します。 値は日数で指定します。366 日 (1 年相当) まで指定できます。	
指定可能値	なし	
省略	可	省略時は ex-log-record を更新しません。
属性	id	PL レコード ID PL レコード ID については、各 PFM - Agent マニュアルのレコードについて説明している章を参照してください。 id は省略できません。
	period	0~366 (省略できません)
親要素	ex-product-log	
子要素	なし	

パラメーターファイルの記述例を次に示します。

パラメーターファイル記述例 (Store バージョンが 1.0 の場合)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE pr-cli-parameters SYSTEM "aspsv_params.dtd">
<pr-cli-parameters ver="0110">
<agent-store-db-preserve-definition>
  <service id="TS1host1">
    <product-interval>
      <minute-drawer>day</minute-drawer>
      <hour-drawer>day</hour-drawer>
      <day-drawer>week</day-drawer>
      <week-drawer>month</week-drawer>
      <month-drawer>year</month-drawer>
      <!-- year-drawer : Year -->
    </product-interval>
  </service>
</agent-store-db-preserve-definition>
</pr-cli-parameters>
```

```

    </product-interval>
  <product-detail>
    <detail-record id="PD" max-rec="30000"/>
    <detail-record id="PD_THRD" max-rec="30000"/>
    <detail-record id="PD_ADRS" max-rec="30000"/>
    <detail-record id="PD_PDI" max-rec="30000"/>
    <detail-record id="PD_PEND" max-rec="30000"/>
  </product-detail>
</product-log>
  <log-record id="PL" max-rec="30000"/>
  <log-record id="RM" max-rec="30000"/>
</product-log>
</service>
</agent-store-db-preserve-definition>
</pr-cli-parameters>

```

パラメーターファイル記述例 (Store バージョンが 2.0 の場合)

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE pr-cli-parameters SYSTEM "aspsv_params.dtd">
<pr-cli-parameters ver="0110">
  <agent-store-db-preserve-definition>
    <service id="TS1host1">
      <ex-product-interval>
        <ex-interval-record id="PI">
          <minute-drawer-days period="10"/>
          <hour-drawer-days period="10"/>
          <day-drawer-weeks period="10"/>
          <week-drawer-weeks period="10"/>
          <month-drawer-months period="10"/>
        </ex-interval-record>
        <ex-interval-record id="PI_LOGD">
          <minute-drawer-days period="10"/>
          <hour-drawer-days period="10"/>
          <day-drawer-weeks period="10"/>
          <week-drawer-weeks period="10"/>
          <month-drawer-months period="10"/>
        </ex-interval-record>
      </ex-product-interval>
      <ex-product-detail>
        <ex-detail-record id="PD" period="10"/>
        <ex-detail-record id="PD_THRD" period="10"/>
        <ex-detail-record id="PD_ADRS" period="10"/>
        <ex-detail-record id="PD_PDI" period="10"/>
        <ex-detail-record id="PD_PEND" period="10"/>
      </ex-product-detail>
      <ex-product-log>
        <ex-log-record id="PL" period="10"/>
        <ex-log-record id="RM" period="10"/>
      </ex-product-log>
    </service>
  </agent-store-db-preserve-definition>
</pr-cli-parameters>

```

パラメーターの記述を定義する DTD ファイルの記述例を次に示します。

パラメーターの記述を定義する DTD ファイルの記述例

```

<!ELEMENT pr-cli-parameters (agent-store-db-preserve-definition)>
<!ATTLIST pr-cli-parameters ver (0100|0110) #REQUIRED>
<!ELEMENT agent-store-db-preserve-definition (service+)>
<!ELEMENT service (product-interval?, product-detail?,
product-log?,
ex-product-interval?, ex-product-
detail?, ex-product-log?)>
<!ATTLIST service id CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT product-interval (minute-drawer?, hour-drawer?, day-
drawer?, week-drawer?,
month-drawer?)>
<!ELEMENT minute-drawer (#PCDATA)>
<!ELEMENT hour-drawer (#PCDATA)>
<!ELEMENT day-drawer (#PCDATA)>
<!ELEMENT week-drawer (#PCDATA)>

```

```

<!ELEMENT month-drawer                (#PCDATA)>
<!ELEMENT product-detail              (detail-record*)>
<!ELEMENT detail-record               EMPTY>
<!ATTLIST detail-record               id CDATA #REQUIRED>
<!ATTLIST detail-record               max-rec CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT product-log                 (log-record*)>
<!ELEMENT log-record                  EMPTY>
<!ATTLIST log-record                  id CDATA #REQUIRED>
<!ATTLIST log-record                  max-rec CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT ex-product-interval         (ex-interval-record*)>
<!ELEMENT ex-interval-record          (minute-drawer-days?, hour-drawer-days?,
month-drawer-months?)>
<!ATTLIST ex-interval-record          id CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT minute-drawer-days          EMPTY>
<!ATTLIST minute-drawer-days         period CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT hour-drawer-days            EMPTY>
<!ATTLIST hour-drawer-days           period CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT day-drawer-weeks            EMPTY>
<!ATTLIST day-drawer-weeks           period CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT week-drawer-weeks           EMPTY>
<!ATTLIST week-drawer-weeks          period CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT month-drawer-months         EMPTY>
<!ATTLIST month-drawer-months        period CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT ex-product-detail           (ex-detail-record*)>
<!ELEMENT ex-detail-record            EMPTY>
<!ATTLIST ex-detail-record           id CDATA #REQUIRED>
<!ATTLIST ex-detail-record           period CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT ex-product-log              (ex-log-record*)>
<!ELEMENT ex-log-record               EMPTY>
<!ATTLIST ex-log-record              id CDATA #REQUIRED>
<!ATTLIST ex-log-record              period CDATA #REQUIRED>

```

注意事項

- 各タグの指定値は、各 PFM - Agent のマニュアルの「パフォーマンスデータの収集の設定」に関する注意に従って設定してください。
- 指定できるサービス ID、レコード ID については、各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。
- 指定したサービス ID が、エージェントのプロダクト以外の場合はエラーとします。
- 同一サービス ID を複数回指定した場合、エラーとします。
- 同一レコード ID を複数回指定した場合、エラーとします。
- 複数の Store データベース保存条件定義を連続登録中に、どれかの定義登録が失敗した場合、コマンドはその定義の登録を中断し、ほかの定義があればそれを登録します。
- minute-drawer～month-drawer の各保存期間の指定は、それぞれの単位の保存期間であって、相互の関連はありません。
- ex-product-interval タグ、ex-product-detail タグ、および ex-product-log タグは、Store バージョンが 1.0 のときに指定しても無視されます。また、product-interval タグ、product-detail タグ、および product-log タグは、Store バージョンが 2.0 のときに指定しても無視されます。Store バージョンが 1.0 と 2.0 による処理内容の違いを次の表に示します。

表 8-54 Store バージョンが 1.0 と 2.0 による処理内容の違い

Service 直下のタグ	Store バージョンが 1.0 の場合 (PFM - Agent 08-00 以前※も含む)	Store バージョンが 2.0 の場合
product-interval	有効	無効
product-detail	有効	無効
product-log	有効	無効
ex-product-interval	無効	有効

Service 直下のタグ	Store バージョンが 1.0 の場合 (PFM - Agent 08-00 以前※も含む)	Store バージョンが 2.0 の場合
ex-product-detail	無効	有効
ex-product-log	無効	有効

注※ Tuning Manager シリーズのエージェントの場合、「08-00 以前」を「05-50 以前」に読み替えてください。

- pr-cli-parameters の ver 属性が"0100"のパラメーターファイルで、ex-product-interval タグ、ex-product-detail タグ、および ex-product-log タグが使用された場合、対象サービスに対する更新がエラーとなります。pr-cli-parameters の ver 属性による処理内容の違いを次の表に示します。

表 8-55 pr-cli-parameters の ver 属性による処理内容の違い

Service 直下のタグ	pr-cli-parameters の ver 属性が "0100"	pr-cli-parameters の ver 属性が "0110"
product-interval	正常	正常
product-detail	正常	正常
product-log	正常	正常
ex-product-interval	エラー	正常
ex-product-detail	エラー	正常
ex-product-log	エラー	正常

戻り値

0	正常終了しました。
1	コマンドライン形式不正です。
2	コマンドを実行した OS ユーザーに実行権限がありません。
3	出力ファイルの作成に失敗しました。
5	DTD ファイルと不整合のためパラメーターを解析できません。
10	1 件以上の Store データベース定義の更新に失敗しました。
100	環境が不正です。
200	メモリーエラーが発生しました。
202	ファイルアクセスエラーが発生しました。
222	通信処理でエラーが発生しました。
255	予期しないエラーが発生しました。

使用例

Store データベースの保存条件に関する定義情報を記述したパラメーターファイル (aspsv_update.xml) を指定する場合のコマンド実行例を次に示します。

```
jpcaspsv update aspsv_update.xml
```

出力例

コマンド処理の詳細情報を標準出力、標準エラー出力、トレースログファイルに出力します。ログ仕様については、「7.3.4 Performance Reporter のログ」を参照してください。

3 つのサービス ID を指定し、1 つがエラーとなった場合の標準出力形式を次に示します。service タグで指定したサービス ID ごとに実行結果を表示します (OK または ERR)。

標準出力の出力例

```
jpcaspsv update connected to hostname at yyyy MM dd HH:MM:SS.mmm  
update result OK : TS1host1  
update result OK : TS1host2  
update result ERR : TS1host3  
jpcaspsv update disconnected at yyyy MM dd HH:MM:SS.mmm
```

8.4.5 jpcaspsv output

形式

```
jpcaspsv output -o <出力ファイル>  
<サービス ID>
```

機能

jpcaspsv output コマンドは、エージェントに接続して Store データベースの保存条件に関する定義情報を取得し、XML 形式で出力します。出力ファイルは、jpcaspsv update コマンドの入力ファイルとして指定できます。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%tools%

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/tools/

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/
tools/

オプション

jpcaspsv output コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-56 jpcaspsv output コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/任意	注記
-o <出力ファイル>	表示結果を出力する XML 形式ファイルの名称を指定します。	絶対ファイルパス名、相対ファイルパス名、ファイル名を指定でき、絶対ファイルパス名以外の場合、カレントディレクトリを基点とします。	必須	指定されたディレクトリが存在しない場合は、エラーになります。
<サービス ID>	表示対象エージェントを示すサービス ID を指定します。	指定値の条件を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">4~258 文字1 桁目はエージェントの製品 ID を指	必須	ワイルドカード文字は使用できません。

オプション	目的	値	必須/任意	注記
		定します。プロダクト ID については、各 PFM - Agent マニュアルを参照してください。 ・ 2 桁目は「S」(Agent Store) を指定します。		

注意事項

- ・ 指定できるサービス ID については、各 PFM - Agent のマニュアルを参照してください。
- ・ 指定したサービス ID が、エージェントのプロダクト以外の場合はエラーとします。
- ・ 更新できない定義情報は、出力ファイルにコメントとして出力されます。

戻り値

0	正常終了しました。
1	コマンドライン形式不正です。
2	コマンドを実行した OS ユーザーに実行権限がありません。
3	出力ファイルの作成に失敗しました。
5	DTD ファイルと不整合のためパラメーターを解析できません。
10	1 件以上の Store データベース定義の更新に失敗しました。
100	環境が不正です。
200	メモリーエラーが発生しました。
202	ファイルアクセスエラーが発生しました。
222	通信処理でエラーが発生しました。
255	予期しないエラーが発生しました。

使用例

サービス ID 「TS1host1」の PFM - Agent の Store データベースの記録方法に関する定義情報をパラメーターファイル (aspsv_output.xml) に出力する場合のコマンド実行例を次に示します。

```
jpcaspsv output -o aspsv_output.xml TS1host1
```

出力例

コマンド処理の詳細情報を標準出力、標準エラー出力、トレースログファイルに出力します。ログ仕様については、「7.3.4 Performance Reporter のログ」を参照してください。

標準出力の出力例を次に示します。引数で指定したサービス ID の実行結果を表示します (OK または ERR)。

標準出力の出力例

```
jpcaspsv output connected to hostname at yyyy MM dd HH:MM:SS.mmmm
output result OK : TS1host1
jpcaspsv output disconnected at yyyy MM dd HH:MM:SS.mmmm
```

出力ファイル

出力ファイルの内容は、Store バージョンが 1.0 か 2.0 かによって異なります。具体的には service タグ直下の出力が次の表のように変化します。

表 8-57 Store バージョンが 1.0 と 2.0 による出力内容の違い

Service 直下のタグ	Store バージョンが 1.0 の場合 (PFM - Agent 08-00 以前※も含む)	Store バージョンが 2.0 の場合
product-interval	出力される	出力されない
product-detail	出力される	出力されない
product-log	出力される	出力されない
ex-product-interval	出力されない	出力される
ex-product-detail	出力されない	出力される
ex-product-log	出力されない	出力される

注※ Tuning Manager シリーズのエージェントの場合、「08-00 以前」を「05-50 以前」に読み替えてください。

Store バージョンが 1.0 の場合の出力ファイル例を次に示します。

出力ファイル例 (Store バージョンが 1.0 の場合)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE pr-cli-parameters SYSTEM "aspsv_params.dtd">
<pr-cli-parameters ver="0110">
<agent-store-db-preserve-definition>
  <service id="TSlhost1">
    <product-interval>
      <minute-drawer>month</minute-drawer>
      <hour-drawer>month</hour-drawer>
      <day-drawer>month</day-drawer>
      <week-drawer>month</week-drawer>
      <month-drawer>month</month-drawer>
      <!-- year-drawer : Year -->
    </product-interval>
    <product-detail>
      <detail-record id="PD" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_THRD" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_ADRS" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_PDI" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_PEND" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_THD" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_IMAG" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_PAGF" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_CINF" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_CIND" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_GEND" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_SVC" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_DEV" max-rec="20000"/>
      <detail-record id="PD_ELOG" max-rec="20000"/>
    </product-detail>
    <product-log>
      <log-record id="PL" max-rec="20000"/>
      <log-record id="RM" max-rec="20000"/>
    </product-log>
  </service>
</agent-store-db-preserve-definition>
</pr-cli-parameters>
```

Store バージョンが 2.0 の場合の出力ファイル例を次に示します。

出力ファイル例 (Store バージョンが 2.0 の場合)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE pr-cli-parameters SYSTEM "aspsv_params.dtd">
<pr-cli-parameters ver="0110">
<agent-store-db-preserve-definition>
  <service id="TSlhost1">
    <ex-product-interval>
      <ex-interval-record id="PI">
        <minute-drawer-days period="10"/>
      </ex-interval-record>
    </ex-product-interval>
  </service>
</agent-store-db-preserve-definition>
</pr-cli-parameters>
```

```

        <hour-drawer-days period="10"/>
        <day-drawer-weeks period="10"/>
        <week-drawer-weeks period="10"/>
        <month-drawer-months period="10"/>
        <!-- year-drawer-years period="10" -->
    </ex-interval-record>
    <ex-interval-record id="PI_LOGD">
        <minute-drawer-days period="10"/>
        <hour-drawer-days period="10"/>
        <day-drawer-weeks period="10"/>
        <week-drawer-weeks period="10"/>
        <month-drawer-months period="10"/>
        <!-- year-drawer-years period="10" -->
    </ex-interval-record>
</ex-product-interval>
<ex-product-detail>
    <ex-detail-record id="PD" period="10"/>
    <ex-detail-record id="PD_THRD" period="10"/>
    <ex-detail-record id="PD_ADRS" period="10"/>
    <ex-detail-record id="PD_PDI" period="10"/>
    <ex-detail-record id="PD_PEND" period="10"/>
</ex-product-detail>
<ex-product-log>
    <ex-log-record id="PL" period="10"/>
    <ex-log-record id="RM" period="10"/>
</ex-product-log>
</service>
</agent-store-db-preserve-definition>
</pr-cli-parameters>

```

8.4.6 jpcpragtsetup

形式

```
jpcpragtsetup
```

機能

jpcpragtsetup コマンドは、Performance Reporter の画面に表示する PFM - Agent のアイコンおよび [レコードの説明] 画面と [フィールドの説明] 画面で表示するレコードとフィールドの説明ファイルを Performance Reporter 実行環境に取り込むコマンドです。新たな PFM - Agent を PFM - Manager に接続した場合、このコマンドを実行してください。

このコマンドを実行する前に、Performance Reporter 実行環境に取り込みたい PFM - Agent のアーカイブファイルを、Performance Reporter のインストール先ディレクトリ下の setup ディレクトリにコピーしてください。また、このコマンドを実行したあとは、Performance Reporter サービスの再起動が必要です。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%tools

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/tools

Linux の場合 :

```
<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/  
tools
```

注意事項

jpcpragsetup コマンドに引数を指定しないでください。引数を指定するとエラーとなります。

戻り値

0	すべてのアーカイブファイルの処理が正常終了しました。
1	setup ディレクトリまたは descriptions ディレクトリがありません。
2	コマンドを実行した OS ユーザーに実行権限がありません。
3	アーカイブファイルの処理でエラーになりました。
4	image ファイルのコピー先ディレクトリがありません。
5	アーカイブファイルがありません。
6	引数が不正です。
7	メモリー不足です。
8	予期しないエラーが発生しました。
9	pregetinfo.exe ファイルが見つかりません。

8.4.7 jpcprauth

形式

```
jpcprauth -user <ユーザー名> [-password <パスワード>] [-y] [-nocheck]
```

機能

jpcprauth コマンドは、Tuning Manager server が PFM - Manager に接続するための認証キーファイルを作成するコマンドです。

Tuning Manager server は、デフォルトの状態では「ADMINISTRATOR」ユーザーを使用して PFM - Manager に接続します。次のどれかに該当する場合は、jpcprauth コマンドを実行して認証キーファイルを作成する必要があります。

- PFM - Manager を PFM 認証モードで運用していて、PFM - Manager の「ADMINISTRATOR」ユーザーの情報を変更した場合
- PFM - Manager の認証モードを JP1 認証モードに切り替えた場合
- PFM - Manager の認証モードを JP1 認証モードに切り替えたあと、PFM 認証モードに戻した場合

PFM - Manager のユーザーアカウントを管理する方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。

実行権限

Windows の場合 :

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合 :

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>%PerformanceReporter%tools

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/tools

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/
tools

オプション

jpcprauth コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-58 jpcprauth コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/任意	注記
-user <ユーザー名>	PFM - Manager のログイン認証に使用するユーザー名を指定します。	PFM - Manager のログイン認証に使用するユーザー名	必須	<ul style="list-style-type: none"> ASCII 文字コードの 0x20～0x7e に対応する値を指定します。ただし、英数字以外の文字は、そのまま指定できない場合があります。Windows の場合は、「表 8-59」を参照してください。Solaris および Linux の場合は、「表 8-60」を参照してください。 1～31 バイトの値を指定します。 大文字と小文字は、区別されません。 先頭または末尾に 1 つ以上の連続する半角スペースを指定した場合は、無視されます。
-password <パスワード>	PFM - Manager のログイン認証に使用するパスワードを指定します。	PFM - Manager のログイン認証に使用するパスワード	任意	<ul style="list-style-type: none"> このオプションを省略した場合は、パスワードとして空文字(長さ 0 バイトの文字列)を指定した認証キーファイルが作成されます。 ASCII 文字コードの 0x20～0x7e に対応する値を指定します。ただし、英数字以外の文字は、そのまま指定できない場合があります。Windows の場合は、「表 8-59」を参照してください。Solaris および Linux の場合は、「表 8-60」を参照してください。 0～32 バイトの値を指定します。

オプション	目的	値	必須/任意	注記
				<ul style="list-style-type: none"> 大文字と小文字は、区別されます。 先頭または末尾に1つ以上の連続する半角スペースを指定した場合は、無視されます。
-y	すでに認証キーファイルが存在する場合に強制的に認証キーファイルを更新します。	なし	任意	このオプションを省略した場合で、すでに認証キーファイルが存在するときは、認証キーファイルを更新するかどうかを確認するメッセージが出力されます。
-nocheck	PFM・Managerへの接続確認を省略します。	なし	任意。 ただし、クラスタ環境の待機系ノードで jpcprauth コマンドを実行する場合は、必須。	このオプションを省略した場合は、user オプション、およびpassword オプションに指定した値で PFM・Manager へ接続して、ログインできるかどうかを確認します。

表 8-59 user オプションまたは password オプションの値の指定方法 (Windows の場合)

ユーザー名またはパスワードに含まれる文字	値の指定方法	値の指定例	
		ユーザー名またはパスワード	指定する値
「" (引用符)」	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー名またはパスワードを「" (引用符)」で囲みます。 "を¥"に置き換えます。 	A"BCDEF	"A¥"BCDEF"
「¥ (円記号)」	(1)ユーザー名またはパスワードの末尾に「¥ (円記号)」が含まれる場合： <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名またはパスワードを「" (引用符)」で囲みます。 ¥を4つの¥に置き換えます。 	ABCDEF¥	"ABCDEF¥¥¥¥"
	(2)ユーザー名またはパスワードの末尾に「¥ (円記号)」が連続して含まれる場合： <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名またはパスワードを「" (引用符)」で囲みます。 それぞれの¥を4つの¥に置き換えます。 	ABCDEF¥¥	"ABCDEF¥¥¥¥¥¥¥¥"
	(3)¥"の直前に「¥ (円記号)」が含まれる場合： <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名またはパスワードを「" (引用符)」で囲みます。 ¥を4つの¥に置き換えます。 	A¥¥"BCDEF	"A¥¥¥¥¥"BCDEF"
	(4)¥"の直前に「¥ (円記号)」が連続して含まれる場合： <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名またはパスワードを「" (引用符)」で囲みます。 それぞれの¥を4つの¥に置き換えます。 	A¥¥¥"BCDEF	"A¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥"BCDEF"

ユーザー名またはパスワードに含まれる文字	値の指定方法	値の指定例	
		ユーザー名またはパスワード	指定する値
	(1)~(4)以外の個所に「¥ (円記号)」が含まれる場合： ユーザー名またはパスワードを「" (引用符)」で囲みます。「¥ (円記号)」をほかの文字に置き換える必要はありません。	A¥BCDEF	"A¥BCDEF"
半角スペース	ユーザー名またはパスワードを「" (引用符)」で囲みます。	A BCDEF	"A BCDEF"

ユーザー名またはパスワードにこの表で説明している文字が含まれない場合は、そのまま値として指定できます。

表 8-60 user オプションまたは password オプションの値の指定方法 (Solaris および Linux の場合)

ユーザー名またはパスワードに含まれる文字	値の指定方法	値の指定例	
		ユーザー名またはパスワード	指定する値
「' (アポストロフィ)」	<ul style="list-style-type: none"> 「' (アポストロフィ)」を「" (引用符)」で囲みます。 「' (アポストロフィ)」以外の文字 (文字列) を「' (アポストロフィ)」で囲みます。 	A'BCDEF	'A''''BCDEF'
「! (感嘆符)」	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー名またはパスワードを「' (アポストロフィ)」で囲みます。 次のどれかのシェルで <code>jpegprauth</code> コマンドを実行します。 sh, bash, ksh, zsh 	A!BCDEF	'A!BCDEF'
半角スペース, 「" (引用符)」, 「# (番号記号)」, 「\$ (ドル記号)」, 「% (パーセント)」, 「& (アンパサンド)」, 「((始め丸括弧)」, 「) (終わり丸括弧)」, 「* (アスタリスク)」, 「+ (正符号)」, 「, (コンマ)」, 「- (負符号)」, 「. (ピリオド)」, 「/ (スラント)」, 「: (コロン)」, 「; (セミコロン)」, 「< (不等号 (より小))」, 「= (等号)」, 「> (不等号 (より大))」, 「? (疑問符)」, 「[(始め角括弧)」, 「¥ (円記号)」,	ユーザー名またはパスワードを「' (アポストロフィ)」で囲みます。	A BCDEF	'A BCDEF'

ユーザー名またはパスワードに含まれる文字	値の指定方法	値の指定例	
		ユーザー名またはパスワード	指定する値
「] (終わり角括弧)」, 「^ (アクセントマーク)」, 「_ (アンダーライン)」, 「` (アクセントマーク)」, 「{ (始め波括弧)」, 「 (ストローク)」, 「} (終わり波括弧)」, 「~ (波記号)」			

ユーザー名またはパスワードにこの表で説明している文字が含まれない場合は、そのまま値として指定できます。

注意事項

- ・ クラスタ環境の待機系ノードで `jpcprauth` コマンドを実行する場合は、必ず `nocheck` オプションを指定してください。
- ・ `jpcprauth` コマンドを実行する前に、**Tuning Manager server** のサービスと **PerformanceReporter** のサービスを停止する必要があります。サービスを停止する方法については、「[1.5.1 サービスを停止する](#)」を参照してください。
ただし、**Tuning Manager server** をクラスタ環境で運用している場合は、クラスタソフトウェアからサービスを停止してください。
- ・ **PFM - Manager** の認証モードを **JP1** 認証モードに切り替えた場合で、`jpcprauth` コマンドを実行するときは、**JP1/Base** が起動している必要があります。
- ・ `nocheck` オプションを省略して `jpcprauth` コマンドを実行する場合は、**PFM - Manager** が起動している必要があります。

戻り値

0	正常終了しました。
1	コマンドライン形式不正です。
2	コマンドを実行した OS ユーザーに実行権限がありません。
3	認証キーファイルの作成に失敗しました。
11	指定したユーザー名およびパスワードで PFM - Manager のログイン認証に失敗しました。
80	ユーザーによって、認証キーファイルの作成が中断されました。
200	メモリー不足です。
202	ファイルアクセスでエラーが発生しました。
222	通信処理でエラーが発生しました。
255	予期しないエラーが発生しました。

8.4.8 jpcprras

形式

`jpcprras` <ディレクトリ名>

機能

jpcprras コマンドは、Performance Reporter の資料を採取するコマンドです。Performance Reporter の実行中にトラブルが発生した場合に使用します。このコマンドを実行して採取した資料は、指定したディレクトリに格納されます。

トラブルが発生した場合、このコマンドで採取できる資料以外にも必要な資料があります。トラブル発生時に採取が必要な資料については、「7.3 トラブル発生時に採取が必要な資料」を参照してください。

実行権限

Windows の場合：

Administrators 権限を持つユーザー

Solaris および Linux の場合：

root ユーザー権限を持つユーザー

格納先ディレクトリ

Windows の場合：

<Tuning Manager server のインストール先フォルダ>\PerformanceReporter\tools\

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/TuningManager/PerformanceReporter/tools/

Linux の場合：

<Tuning Manager server のインストール先ディレクトリ>/PerformanceReporter/
tools/

オプション

jpcprras コマンドのオプションを次の表に示します。

表 8-61 jpcprras コマンドのオプション一覧

オプション	目的	値	必須/任意	注記
<ディレクトリ名>	採取した資料を格納するディレクトリ名を指定します。	ディレクトリ名は、半角英数字、半角空白文字、または次に示す半角記号を指定できます。 : / ¥ 半角空白文字を含む場合、" "で囲んでください。" "で囲まない場合は、半角空白文字までを指定ディレクトリとします。	必須	このオプションには、フロッピーディスクなどリムーバブルメディアのディレクトリ名を指定しないでください。

注意事項

- jpcprras コマンドを異なるプロンプトから複数同時に実行すると、情報が正常に取得できません。複数同時に実行しないでください。
- 引数は、「形式」にある順番で指定してください。
- 引数を指定しない場合は、エラーとなります。

- 存在するディレクトリ名を指定してください。ディレクトリが存在しない場合は、エラーとなります。
- ディレクトリ名を相対パスで指定しないでください。
- ディレクトリ名として **Performance Reporter** のインストール先のディレクトリを指定しないでください。
- **OS** の最大パス長を超えるような長いディレクトリ名を指定しないでください。ファイルがコピーまたは作成されません。
- ディレクトリ名として、配下にファイルまたはディレクトリのない空のディレクトリを指定してください。
- ディレクトリ名として指定したディレクトリに、**2GB** の空き容量があることを確認してください。
- 共通コンポーネントのインストール先ディレクトリに、**770MB** の空き容量があることを確認してください。
- ファイルの採取でエラーが発生した場合、採取中のファイルまたはディレクトリが残ります。この場合、残ったファイルやディレクトリを必要に応じて削除してください。
- クラスタシステムで運用している場合は、クラスタシステムのすべてのノードで実行してください。

戻り値

0	正常終了しました。
1	コマンドライン形式不正です。
2	コマンドを実行した OS ユーザーに実行権限がありません。
3	書き込みエラーです。
4	出力先ディレクトリがありません。
5	出力先ディレクトリが空ではありません。
7	メモリー不足です。
8	予期しないエラーが発生しました。
9	pregetinfo.exe ファイルが見つかりません。
255	<ul style="list-style-type: none"> • レジストリキーのオープンに失敗しました。 • Performance Reporter のインストール先の取得に失敗しました。 • バッチファイルが存在しないなどの理由で、CreateProcess によるバッチの起動に失敗しました。 • signal でエラーが発生しました。 • GetExitCodeProcess でエラーが発生しました。

使用例

Solaris ホストで、すべての資料を採取し、/tmp/prras ディレクトリに格納する場合のコマンド実行例を次に示します。

```
jpcprras /tmp/prras
```

共通コンポーネント

この章では、共通コンポーネントの使用方法について説明します。共通コンポーネントは、すべての Hitachi Command Suite 製品によって使用される一般的な機能を提供します。おのこの Hitachi Command Suite 製品は、それらの機能を使用するために共通コンポーネントをバンドルしています。

- 9.1 共通コンポーネントの概要
- 9.2 共通コンポーネントのインストールとアンインストール
- 9.3 統合ログイン
- 9.4 共通コンポーネントのコマンド
- 9.5 共通コンポーネントのサービス (Windows)
- 9.6 共通コンポーネントの使用ポート
- 9.7 共通コンポーネントの常駐プロセス
- 9.8 共通コンポーネントのトラブルシューティング
- 9.9 共通コンポーネントの保守情報の採取
- 9.10 管理サーバのホスト名または IP アドレスの変更
- 9.11 Hitachi Command Suite 製品の URL の変更
- 9.12 Web Client からアプリケーションを起動するための設定
- 9.13 ユーザーアカウントに関するセキュリティの設定
- 9.14 System アカウントのロックに関する設定
- 9.15 警告バナーの設定
- 9.16 監査ログの採取
- 9.17 共通コンポーネントのメッセージ一覧

9.1 共通コンポーネントの概要

共通コンポーネントは、すべての Hitachi Command Suite 製品で使用する機能を備えています。この章では、次の機能について説明します。

- 統合ログファイルの使用（「9.3 統合ロギング」を参照）
- 共通コンポーネントによって使用されるポート（「9.6 共通コンポーネントの使用ポート」を参照）
- Web Client からアプリケーションを起動するための設定（「9.12 Web Client からアプリケーションを起動するための設定」を参照）
- ユーザーアカウントに関するセキュリティの設定（「9.13 ユーザーアカウントに関するセキュリティの設定」を参照）
- 警告バナーの設定（「9.15 警告バナーの設定」を参照）
- 監査ログの採取（「9.16 監査ログの採取」を参照）

また、Hitachi Command Suite 製品の運用開始後に共通コンポーネントの設定を変更する方法についても説明します。

- 管理サーバのホスト名または IP アドレスの変更（「9.10 管理サーバのホスト名または IP アドレスの変更」を参照）
- Hitachi Command Suite 製品の URL の変更（「9.11 Hitachi Command Suite 製品の URL の変更」を参照）

9.2 共通コンポーネントのインストールとアンインストール

共通コンポーネントは、必ず Device Manager や Tuning Manager server など Hitachi Command Suite 製品のインストールまたはアンインストールの一環としてインストールまたはアンインストールされます。共通コンポーネントだけをインストールまたはアンインストールすることはできません。

Tuning Manager server インストール時に共通コンポーネントがインストールまたはアップグレードされるかどうかは、次の要因によって決まります。

- 共通コンポーネントがまだシステムにインストールされていない場合には、インストールされます。
- すでにインストールされている共通コンポーネントバージョンが、インストールしようとしている共通コンポーネントバージョンよりも古い場合、同じである場合には、以前のバージョンが上書きされ、共通コンポーネントがアップグレードされます。
- すでにインストールされている共通コンポーネントバージョンが、インストールしようとしている共通コンポーネントバージョンよりも新しい場合には、すでにインストールされているバージョンはそのままになります。

Tuning Manager server アンインストール時に共通コンポーネントがアンインストールされるか、そのまま残されるかは、次の要因によって決まります。

- ほかの Hitachi Command Suite 製品がその共通コンポーネントを使用中である場合には、共通コンポーネントはアンインストールされません。共通コンポーネントは、共通コンポーネントを使用中の最後の Hitachi Command Suite 製品がアンインストールされるまでアンインストールされません。

- 共通コンポーネントが Tuning Manager server だけによって使用中である場合には、Tuning Manager server アンインストールプロセスの一環としてアンインストールされます。

9.3 統合ロギング

共通コンポーネントは、Hitachi Command Suite 製品に対して、ログ出力のための共通ログファイルと共通ライブラリーを提供します。Tuning Manager server ではこの情報を使用して、ログファイルの詳細を表示します。

ここでは、そのログファイルと、共通コンポーネントトレースログの出力ファイル数およびファイルサイズの変更方法を説明します。

なお、この節で説明する共通コンポーネントが出力するログのほかに、Tuning Manager server 固有のログとして、Main Console が出力するログ、および Performance Reporter が出力するログがあります。これらのログについては、「7.3.3 Main Console のログ」、および「7.3.4 Performance Reporter のログ」を参照してください。

9.3.1 統合ロギング出力

Tuning Manager server および共通コンポーネントによって出力されるログファイルとその内容を示します

表 9-1 統合ロギング出力

ログタイプ	ログ名	説明	フォルダ (Windows)	ディレクトリ (Solaris および Linux)
Hitachi Command Suite 共通トレースログファイル	hntr2*.log	共通コンポーネントで作成される統合トレースログ情報。ファイル名のアスタリスク (*) は、ファイル番号を示します。ファイル数とファイルサイズの指定については、「9.3.2」を参照してください。 エラーコード KAIC00000 ~KAIC09999 のメッセージ内の文字は、次のとおりに変換されて出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 改行文字 : @に変換 • @ : ¥@に変換 	C:\Program Files\Hitachi\¥HNTRLib2¥spool	/var/opt/hitachi/HNTRLib2/spool
イベントログ/syslog ファイル	イベントログ	Windows のイベントログ (監査ログを含む)。監査ログの詳細については、「9.16」を参照してください。	イベントビューア	該当なし
	syslog	Solaris および Linux のシステムログ (監査ログを含む)。監査ログの詳細については、「9.16」を参照してください。	該当なし	/etc/syslog.conf によって定義される

9.3.2 共通コンポーネントトレースログのプロパティ

(1) トレースログファイルの設定 (Windows)

共通コンポーネントのトレースログファイルのファイル数やファイルサイズを変更する場合は、Windows HNTRLlib2 ユーティリティを使って設定します。

注意

トレースログファイルの設定を変更すると、共通トレースログを使用するそのほかのプログラム製品に影響が及びます。

共通コンポーネントのトレースログファイルを設定するには、次の手順を実行します。

1. Administrator 権限を持つユーザー ID でシステムにログインします。
2. 次の場所に格納されている Windows HNTRLlib2 ユーティリティを実行します。
`%SystemDrive%\Program Files\Hitachi\HNTRLlib2\bin\hntr2util.exe`
3. [Hitachi Network Objectplaza Trace Utility 2] ダイアログの [Number of Files] に、トレースログファイル数を指定します。
トレースログファイルは、最大 16 個指定できます。デフォルトは 4 個です。
4. [Hitachi Network Objectplaza Trace Utility 2] ダイアログの [File Size] に、トレースログのファイルサイズを指定します。
トレースログのファイルサイズが指定した値になると、次のファイルに切り替えられます。
トレースログのファイルサイズは、8KB~4096KB で指定できます。デフォルトは 256KB です。[Buffer] の値よりも大きい値を指定してください。
5. [OK] ボタンをクリックします。
6. 変更を適用するために、OS を再起動します。

(2) トレースログファイルの設定 (Solaris および Linux)

共通コンポーネントのトレースログファイルのファイル数やファイルサイズを変更する場合は、ユーティリティプログラム (hntr2util) を使って設定します。

注意

トレースログファイルの設定を変更すると、共通トレースログを使用するそのほかのプログラム製品に影響が及びます。

共通コンポーネントのトレースログファイルを設定するには、次の手順を実行します。

1. root 権限でシステムにログインします。
2. 次の場所に格納されているユーティリティプログラムを実行します。
`/opt/hitachi/HNTRLlib2/bin/hntr2util`
3. メニューで、2 (Number of log files) を指定します。
4. サブメニューで、トレースログファイル数を指定し、[Enter] キーを押します。
トレースログファイルは、最大 16 個指定できます。デフォルトは 4 個です。
5. メニューで、1 (Size of a log file) を指定します。
6. サブメニューで、トレースログのファイルサイズを指定し、[Enter] キーを押します。
トレースログのファイルサイズが指定した値になると、次のファイルに切り替えられます。
トレースログのファイルサイズは、8KB~4096KB で指定できます。デフォルトは 256KB です。[Size of buffer] の値よりも大きい値を指定してください。
7. 設定内容を確認して [e] キーを押したあと、[Enter] キーを押します。

8. 変更後の設定を保存するために、[y] キーを押して終了します。
9. 次のコマンドを実行して、メモリマップドファイルを削除します。

```
# rm /opt/hitachi/HNTRLib/mmap/hntrmmap.mm
```
10. 変更を適用するために、OS を再起動します。

9.4 共通コンポーネントのコマンド

共通コンポーネントのコマンドは、コマンド名が「hcmds」で始まります。共通コンポーネントのコマンドで共通の注意事項を次に示します。

- Administrator 権限 (Windows の場合) または root 権限 (Solaris および Linux の場合) でログインしてください。
- コマンドライン全体が、コマンド名を含めて 255 文字を超えないようにしてください。

9.4.1 ユーザーアカウントを管理するサーバの登録

(1) 形式

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsprmset  
{/print |  
 /host <ホスト名または IP アドレス>  
 /port <ポート番号>}
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsprmset  
{-print |  
 -host <ホスト名または IP アドレス>  
 -port <ポート番号>}
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsprmset  
{-print |  
 -host <ホスト名または IP アドレス>  
 -port <ポート番号>}
```

(2) 機能

ユーザーアカウントを管理するサーバのホスト名、およびポート番号を登録します。

ユーザーアカウントは、Device Manager がインストールされているサーバの共通コンポーネントで管理されています。host オプションには、Device Manager がインストールされているサーバのホスト名、または IP アドレスを指定してください。

参考

Tuning Manager server と Device Manager が別のサーバにインストールされている場合、サーバごとの役割を明確にするため、次の呼称を使ってサーバを区別することがあります。

Device Manager がインストールされているサーバの呼称：プライマリーサーバまたはユーザーアカウントを管理するサーバ

Tuning Manager server がインストールされているサーバの呼称：セカンダリーサーバ

hcmdsprmset コマンドを実行すると共通コンポーネントのプロパティファイル (hssso.conf) が更新されます。

print オプションを指定して hcmdsprmset コマンドを実行すると、現在の登録内容が表示されず。

注意

- hcmdsprmset コマンドの実行後に、Tuning Manager server がインストールされているサーバを再起動してください。
- Tuning Manager server と Device Manager が同じサーバにインストールされている場合、host オプションには 127.0.0.1 を指定してください。

(3) オプション

表 9-2 hcmdsprmset コマンドのオプション一覧

オプション	目的
-host (/host)	ユーザーアカウントを管理するサーバのホスト名、または IP アドレスを指定します。コマンドライン全体が、コマンド名を含めて 255 文字を超える場合は、ホスト名の代わりに IP アドレスを指定してください。
-port (/port)	ユーザーアカウントを管理するサーバのポート番号を指定します。
-print (/print)	次に示す情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• ユーザーアカウントを管理しているサーバのホスト名、または IP アドレス• ユーザーアカウントを管理しているサーバのポート番号

(4) 結果

コマンドの実行結果は、ログに出力されます。ログにはログレベルに応じたメッセージが出力されるため、ログレベルによってはコマンドラインと同じメッセージが出力されます。

ログファイルの格納先は、次のとおりです。

Windows の場合：

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%log%hcmdsprmsetn.log

Solaris の場合：

/var/opt/HiCommand/Base/log/hcmdsprmsetn.log

Linux の場合：

/var/<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/log/hcmdsprmsetn.log

コマンドの戻り値を次に示します。

- 0 : 正常終了
- 255 : 失敗

9.5 共通コンポーネントのサービス (Windows)

Windows では、おのおのの Hitachi Command Suite 製品を使用するために、共通コンポーネントサービスが登録されます。サービス名と機能との対応を次に示します。

Tuning Manager server だけの場合：

- 「Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2」- Hitachi Command Suite 共通トレースサービス
- 「HBase Storage Mgmt Web Service」- Hitachi Command Suite 共通 Web サービス
- 「HBase Storage Mgmt Common Service」- Hitachi Command Suite シングルサインオンサービス

- 「HiCommand Suite TuningManager」 - Tuning Manager
- 「HiCommand Suite TuningService」 - Tuning Manager SOAP-API サービス※
- 「HiCommand Performance Reporter」 - Performance Reporter サービス

Device Manager と Tuning Manager server が共存する場合：

- 「Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2」- Hitachi Command Suite 共通トレースサービス
- 「HBase Storage Mgmt Web Service」 - Hitachi Command Suite 共通 Web サービス
- 「HBase Storage Mgmt Web SSO Service」 - シングルサインオン用の Hitachi Command Suite 共通 Web サービス
- 「HBase Storage Mgmt Common Service」 - Hitachi Command Suite シングルサインオンサービス
- 「HCS Device Manager Web Service」 - Device Manager のサブレットサービス
- 「HiCommand Suite TuningManager」 - Tuning Manager
- 「HiCommand Suite TuningService」 - Tuning Manager SOAP-API サービス※
- 「HiCommand Performance Reporter」 - Performance Reporter サービス

注※

Tuning Manager server が内部的に使用するサービスです。

9.6 共通コンポーネントの使用ポート

Tuning Manager server が必要とする共通コンポーネントの使用ポートを次に示します。

表 9-3 共通コンポーネントの使用ポート一覧

デフォルトポート番号	用途
23015	HBase Storage Mgmt Web Service のアクセスポート (non-SSL)
23016	HBase Storage Mgmt Web Service のアクセスポート (SSL)
23017	HBase Storage Mgmt Common Service の AJP ポート
23018	HBase Storage Mgmt Common Service の停止要求受信ポート
23019	HiCommand Suite TuningManager の AJP ポート
23020	HiCommand Suite TuningManager の停止要求受信ポート
23021	HiCommand Suite TuningService (Tuning Manager SOAP-API サービス) の AJP ポート※1
23022	HiCommand Suite TuningService (Tuning Manager SOAP-API サービス) の停止要求受信ポート※1
23023	HiCommand Performance Reporter の AJP ポート
23024	HiCommand Performance Reporter の停止要求受信ポート
23025	HCS Device Manager Web Service の AJP ポート※2
23026	HCS Device Manager Web Service の停止要求受信ポート※2
23031	HBase Storage Mgmt Web SSO Service のアクセスポート※2※3
23032	HiRDB のアクセス用ポート
45001~46000	HiRDB のクライアント側ワークポート※4
46001~49000	HiRDB のサーバ側ワークポート※4

注※1

Windows および Solaris の場合に、Tuning Manager server が内部的に使用するポートです。

注※2

Tuning Manager server と Device Manager を同一ホストにインストールしている場合に、共通コンポーネントが使用するポートです。

注※3

Windows の場合に、共通コンポーネントが使用するポートです。

注※4

Windows Server 2003, Solaris, および Linux の場合に、共通コンポーネントが使用するポートです。

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合、共通コンポーネントは OS が動的に割り当てたポートを使用します。

9.6.1 Windows のポート変更

HBase Storage Mgmt Web Service のポート変更は次の手順で実施してください。

1. HBase Storage Mgmt Web Service および HiCommand Suite TuningManager を停止します。
2. 以下のファイルをテキストエディターで開きます。
`<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>\httpsd\conf\httpsd.conf`
3. httpsd.conf の Listen で始まる行の数字を新しいポート番号の数字に修正します。
4. ユーザープロパティファイル (user.properties) の portNumberCLI プロパティに、httpsd.conf に指定したポート番号と同じ番号を指定します。
同じポート番号を指定しない場合、報告系コマンドが HBase Storage Mgmt Web Service にアクセスできません。
ユーザープロパティファイルの設定については、「[1.6 ユーザープロパティファイルの設定について](#)」を参照してください。
5. Device Manager を Tuning Manager server とリモート接続して運用している場合で、Device Manager がインストールされているサーバの HBase Storage Mgmt Web Service のポートを変更したときは、hcmdsprmset コマンドを実行し、ユーザーアカウントを管理するサーバのポート番号を再登録します。
hcmdsprmset コマンドの詳細については、「[9.4.1 ユーザーアカウントを管理するサーバの登録](#)」を参照してください。

注意

hcmdsprmset コマンドの port オプションには、httpsd.conf で指定した新しいポート番号と同じ番号を指定します。

6. hcmdschgurl コマンドを実行し、Web Client の起動に使用する URL 情報を変更します。
URL 情報を変更する方法については、「[9.11 Hitachi Command Suite 製品の URL の変更](#)」を参照してください。
7. HBase Storage Mgmt Web Service および HiCommand Suite TuningManager を再起動します。
8. Tuning Manager server を新しいポート番号 (<new-port-number>) を指定して開きます。
`http://<htm-hostname>:<new-port-number>/TuningManager/`

注意

SSL が有効に設定されているポートに変更した場合、コマンドを使用するには次のオプションを指定してください。

--port <port-number>

Example: htm-storage -u user-ID -w password --port <port-number>

手順で説明したこと以外の項目を次の表にまとめます。

表 9-4 Windows のポート変更

ポート	変更方法
23015 HBase Storage Mgmt Web Service のアクセスポート (non-SSL)	次に示すファイルの Listen ディレクティブを変更してください。 <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%httpsd%conf%httpsd.conf シングルサインオンするために、httpsd.conf ファイルのポート番号と hssso.conf ファイルのポート番号を同じに設定しておく必要があります。 <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%conf%hssso.conf
23016 HBase Storage Mgmt Web Service のアクセスポート (SSL)	次に示すファイルの Listen ディレクティブを変更してください。 <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%httpsd%conf%httpsd.conf シングルサインオンするために、httpsd.conf ファイルのポート番号と hssso.conf ファイルのポート番号を同じに設定しておく必要があります。 <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%conf%hssso.conf
23017 HBase Storage Mgmt Common Service の AJP ポー ト	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。両方のプロパティ に同じ値を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%redirector %workers.properties の worker.worker1.port プロパティ • <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers %HiCommand%usrconf%usrconf.properties の webserver.connector.ajp13.port プロパティ
23018 HBase Storage Mgmt Common Service の停止要求 受信ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。 <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers %HiCommand%usrconf%usrconf.properties の webserver.shutdown.port プロパティ
23019 HiCommand Suite TuningManager の AJP ポート	<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%redirector %workers.properties の worker.worker2.port と<共通コンポーネントのイン ストール先フォルダ>%CC%web%containers%TuningManager%usrconf %usrconf.properties の webserver.connector.ajp13.port を同じポート番 号に設定しておく必要があります。
23020 HiCommand Suite TuningManager の 停止要求受信ポート	<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers %TuningManager%usrconf.properties の webserver.shutdown.port を変 更してください。
23021 Tuning Manager SOAP-API service の AJP ポート※	<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%redirector %workers.properties の worker.worker3.port と<共通コンポーネントのイン ストール先フォルダ>%CC%web%containers%TuningService%usrconf %usrconf.properties の webserver.connector.ajp13.port を同じポート番 号に設定しておく必要があります。
23022 Tuning Manager SOAP-API service の停止要求受信ポー ト※	<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers %TuningService%usrconf%usrconf.properties の webserver.shutdown.port を変更してください。
23023 HiCommand Performance Reporter の AJP ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。両方のプロパティ に同じ値を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%redirector %workers.properties の worker.worker4.port プロパティ

ポート	変更方法
	<ul style="list-style-type: none"> ・ <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers%PerformanceReporter%usrconf%usrconf.properties の webserver.connector.ajp13.port プロパティ
23024 HiCommand Performance Reporter の停止要求 受信ポート	<p>次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。</p> <p><共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers%PerformanceReporter%usrconf%usrconf.properties の webserver.shutdown.port プロパティ</p>
23031 HBase Storage Mgmt Web SSO Service のアクセス ポート	<p>次に示すファイルの Listen ディレクティブを変更してください。</p> <p><共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%httpsd%conf%hssso_httpsd.conf</p> <p>ポート番号を次の形式で指定します。</p> <p>Listen 127.0.0.1:<ポート番号></p>
23032 HiRDB のアクセス 用ポート	<p>次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。すべてのプロパティに同じ値を設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%HDB%CONF%emb%HiRDB.ini の PDNAMEPORT プロパティ ・ <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%HDB%CONF%pdsys の set pd_name_port プロパティ ・ <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%database%work%def_pdsys の set pd_name_port プロパティ

注※

Tuning Manager server が内部的に使用するポートです。

9.6.2 Solaris のポート変更

HBase Storage Mgmt Web Service のポート変更は次の手順で実施してください。

1. HBase Storage Mgmt Web Service および HiCommand Suite TuningManager を停止します。
2. 以下のファイルをテキストエディターで開きます。
/opt/HiCommand/Base/httpsd/conf/httpsd.conf
3. httpsd.conf の Listen で始まる行の数字を新しいポート番号の数字に修正します。
4. ユーザープロパティファイル (user.properties) の portNumberCLI プロパティに、httpsd.conf に指定したポート番号と同じ番号を指定します。
同じポート番号を指定しない場合、報告系コマンドが HBase Storage Mgmt Web Service にアクセスできません。
ユーザープロパティファイルの設定については、「1.6 ユーザープロパティファイルの設定について」を参照してください。
5. Device Manager を Tuning Manager server とリモート接続して運用している場合で、Device Manager がインストールされているサーバの HBase Storage Mgmt Web Service のポートを変更したときは、hcmdsprmset コマンドを実行し、ユーザーアカウントを管理するサーバのポート番号を再登録します。
hcmdsprmset コマンドの詳細については、「9.4.1 ユーザーアカウントを管理するサーバの登録」を参照してください。

注意

hcmdsprmset コマンドの port オプションには、httpsd.conf で指定した新しいポート番号と同じ番号を指定します。

6. `hcmdschgurl` コマンドを実行し、**Web Client** の起動に使用する URL 情報を変更します。
URL 情報を変更する方法については、「[9.11 Hitachi Command Suite 製品の URL の変更](#)」を参照してください。
7. **HBase Storage Mgmt Web Service** および **HiCommand Suite TuningManager** を再起動します。
8. **Tuning Manager server** を新しいポート番号 (<new-port-number>) を指定して開きます。
`http://<htm-hostname>:<new-port-number>/TuningManager/`

注意

SSL が有効に設定されているポートに変更した場合、コマンドを使用するには次のオプションを指定してください。

`--port <port-number>`

Example: `htm-storage -u user-ID -w password --port <port-number>`

手順で説明したこと以外の項目を次の表にまとめます。

表 9-5 Solaris のポート変更

ポート	変更方法
23015 HBase Storage Mgmt Web Service のアクセスポート (non-SSL)	以下のファイルの Listen ディレクティブを変更してください。 /opt/HiCommand/Base/httpsd/conf/httpsd.conf シングルサインオンするために、httpsd.conf ファイルのポート番号と hssso.conf ファイルのポート番号を同じに設定しておく必要があります。 /opt/HiCommand/Base/conf/hssso.conf
23016 HBase Storage Mgmt Web Service のアクセスポート (SSL)	以下のファイルの Listen ディレクティブを変更してください。 /opt/HiCommand/Base/httpsd/conf/httpsd.conf シングルサインオンするために、httpsd.conf ファイルのポート番号と hssso.conf ファイルのポート番号を同じに設定しておく必要があります。 /opt/HiCommand/Base/conf/hssso.conf
23017 HBase Storage Mgmt Common Service の AJP ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。両方のプロパティに同じ値を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • /opt/HiCommand/Base/CC/web/redirector/workers.properties の worker.worker1.port プロパティ • /opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/HiCommand/usrconf/usrconf.properties の webserver.connector.ajpl3.port プロパティ
23018 HBase Storage Mgmt Common Service の停止要求受信ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。 /opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/HiCommand/usrconf/usrconf.properties の webserver.shutdown.port プロパティ
23019 HiCommand Suite TuningManager の AJP ポート	/opt/HiCommand/Base/CC/web/redirector/workers.properties の worker.worker2.port と /opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/TuningManager/usrconf/usrconf.properties の webserver.connector.ajpl3.port を同じポート番号に設定しておく必要があります。
23020 HiCommand Suite TuningManager の停止要求受信ポート	/opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/TuningManager/usrconf/usrconf.properties の webserver.shutdown.port を変更してください。
23021 AJP port of Tuning Manager SOAP-API service の AJP ポート※	/opt/HiCommand/Base/CC/web/redirector/workers.properties の worker.worker3.port と /opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/TuningService/usrconf/usrconf.properties の webserver.connector.ajpl3.port を同じポート番号に設定しておく必要があります。

ポート	変更方法
23022 Tuning Manager SOAP-API service の停止要求受信ポ ート※	/opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/TuningService/usrconf/ usrconf.properties の webserver.shutdown.port を変更してください。
23023 HiCommand Performance Reporter の AJP ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。両方のプロパティ に同じ値を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • /opt/HiCommand/Base/CC/web/redirector/workers.properties の worker.worker4.port プロパティ • /opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/PerformanceReporter/ usrconf/usrconf.properties の webserver.connector.ajp13.port プロパティ
23024 HiCommand Performance Reporter の停止要求 受信ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。 /opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/PerformanceReporter/ usrconf/usrconf.properties の webserver.shutdown.port プロパティ
23032 HiRDB のアクセス 用ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。すべてのプロパ ティに同じ値を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • /opt/HiCommand/Base/HDB/CONF/emb/HiRDB.ini の PDNAMEPORT プロパ ティ • /opt/HiCommand/Base/HDB/CONF/pdsys の set pd_name_port プロパ ティ • /opt/HiCommand/Base/database/work/def_pdsys の set pd_name_port プロパティ

注※

Tuning Manager server が内部的に使用するポートです。

9.6.3 Linux のポート変更

HBase Storage Mgmt Web Service のポート変更は次の手順で実施してください。

1. HBase Storage Mgmt Web Service および HiCommand Suite TuningManager を停止しま
す。
2. 以下のファイルをテキストエディターで開きます。
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/httpsd/conf/httpsd.conf
3. httpsd.conf の Listen で始まる行の数字を新しいポート番号の数字に修正します。
4. ユーザープロパティファイル (user.properties) の portNumberCLI プロパティに、
httpsd.conf に指定したポート番号と同じ番号を指定します。
同じポート番号を指定しない場合、報告系コマンドが HBase Storage Mgmt Web Service にア
クセスできません。
ユーザープロパティファイルの設定については、「[1.6 ユーザープロパティファイルの設定につ
いて](#)」を参照してください。
5. Device Manager を Tuning Manager server とリモート接続して運用している場合で、Device
Manager がインストールされているサーバの HBase Storage Mgmt Web Service のポートを
変更したときは、hcmdsprmset コマンドを実行し、ユーザーアカウントを管理するサーバの
ポート番号を再登録します。
hcmdsprmset コマンドの詳細については、「[9.4.1 ユーザーアカウントを管理するサーバの登
録](#)」を参照してください。

注意

hcmdsprmset コマンドの port オプションには、httpsd.conf で指定した新しいポート番号と同じ番号を指定します。

- hcmdschgurl コマンドを実行し、Web Client の起動に使用する URL 情報を変更します。
URL 情報を変更する方法については、「9.11 Hitachi Command Suite 製品の URL の変更」を参照してください。
- HBase Storage Mgmt Web Service および HiCommand Suite TuningManager を再起動します。
- Tuning Manager server を新しいポート番号 (<new-port-number>) を指定して開きます。
http://<htm-hostname>:<new-port-number>/TuningManager/

注意

SSL が有効に設定されているポートに変更した場合、コマンドを使用するには次のオプションを指定してください。

```
--port <port-number>
```

```
Example: htm-storage -u user-ID -w password --port <port-number>
```

手順で説明したこと以外の項目を次の表にまとめます。

表 9-6 Linux のポート変更

ポート	変更方法
23015 HBase Storage Mgmt Web Service のアクセスポート (non-SSL)	以下のファイルの Listen ディレクティブを変更してください。 <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/httpsd/conf/ httpsd.conf シングルサインオンするために、httpsd.conf ファイルのポート番号と hssso.conf ファイルのポート番号を同じに設定しておく必要があります。 <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/conf/hssso.conf
23016 HBase Storage Mgmt Web Service のアクセスポート (SSL)	以下のファイルの Listen ディレクティブを変更してください。 <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/httpsd/conf/ httpsd.conf シングルサインオンするために、httpsd.conf ファイルのポート番号と hssso.conf ファイルのポート番号を同じに設定しておく必要があります。 <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/conf/hssso.conf
23017 HBase Storage Mgmt Common Service の AJP ポー ト	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。両方のプロパティ に同じ値を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"><共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/redirector/ workers.properties の worker.worker1.port プロパティ<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/containers/ HiCommand/usrconf/usrconf.properties の webserver.connector.ajp13.port プロパティ
23018 HBase Storage Mgmt Common Service の停止要求 受信ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。 <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/containers/ HiCommand/usrconf/usrconf.properties の webserver.shutdown.port プロパティ
23019 HiCommand Suite TuningManager の AJP ポート	<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/redirector/ workers.properties の worker.worker2.port と<共通コンポーネントのイン ストール先ディレクトリ>/CC/web/containers/TuningManager/usrconf/ usrconf.properties の webserver.connector.ajp13.port を同じポート番 号に設定しておく必要があります。
23020	<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/containers/ TuningManager/usrconf/usrconf.properties の webserver.shutdown.port を変更してください。

ポート	変更方法
HiCommand Suite TuningManager の停止要求受信ポート	
23023 HiCommand Performance Reporter の AJP ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。両方のプロパティに同じ値を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/redirector/workers.properties の worker.worker4.port プロパティ ・ <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/containers/PerformanceReporter/usrconf/usrconf.properties の webserver.connector.ajp13.port プロパティ
23024 HiCommand Performance Reporter の停止要求受信ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。 <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>/CC/web/containers/PerformanceReporter/usrconf/usrconf.properties の webserver.shutdown.port プロパティ
23032 HiRDB のアクセス用ポート	次に示すファイルのプロパティに指定する値を変更してください。すべてのプロパティに同じ値を設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/HDB/CONF/emb/HiRDB.ini の PDNAMEPORT プロパティ ・ <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/HDB/CONF/pdsysの set_pd_name_port プロパティ ・ <共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/database/work/def_pdsys の set_pd_name_port プロパティ

9.7 共通コンポーネントの常駐プロセス

9.7.1 Windows 版

表 9-7 共通コンポーネントの常駐プロセス (Windows)

プロセス	機能
hntr2srv.exe	Hitachi Command Suite 共通トレースサービスプロセス サービスコントロールパネルからのイベントを処理します。
hntr2mon.exe	Hitachi Command Suite 共通トレース情報採取プロセス 統合トレース情報を採取します。
httpsd.exe	Hitachi Command Suite 共通 Web サービス
httpsd.exe	シングルサインオン用の Hitachi Command Suite 共通 Web サービス※1※2
rotatelog.exe	Hitachi Command Suite 共通 Web サービス用のログ分割ユーティリティ
hcmdssvctl.exe cjstartweb.exe	Hitachi Command Suite サーブレットサービス 以下のサービスはサーブレットとして起動します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Hitachi Command Suite シングルサインオンサービス※1 ・ Tuning Manager ・ Tuning Manager SOAP-API サービス※3 ・ Performance Reporter サービス ・ Device Manager のサーブレットサービス※1
pdservice.exe	HiRDB のプロセスサーバの制御※4

注※1

同じホストに Device Manager がインストールされている場合に起動されるサービスです。

注※2

クラスタリソースへの登録はしないでください。

注※3

Tuning Manager server が内部的に使用するサービスです。

注※4

常に起動していることが前提です。手動での停止や、クラスタリソースへの登録はしないでください。

9.7.2 Solaris および Linux 版

表 9-8 共通コンポーネントの常駐プロセス (Solaris および Linux)

プロセス	機能
hntr2mon	Hitachi Command Suite 共通トレース情報採取プロセス 統合トレース情報を採取します。
httpsd	Hitachi Command Suite 共通 Web サービス
rotatelog	Hitachi Command Suite 共通 Web サービス用のログ分割ユーティリティ
hcmdssso cjstartweb	Hitachi Command Suite サブレットサービス (Hitachi Command Suite シングルサインオンサービス) 同じホストに Device Manager がインストールされている場合に起動されるサブレットサービスです。
hcmdstm cjstartweb	Hitachi Command Suite サブレットサービス (Tuning Manager)
hcmdsts cjstartweb	Hitachi Command Suite サブレットサービス (Tuning Manager SOAP-API サービス) ※1
hcmdspr cjstartweb	Hitachi Command Suite サブレットサービス (Performance Reporter サービス)
hcmdsdm cjstartweb	Hitachi Command Suite サブレットサービス (Device Manager のサブレットサービス) 同じホストに Device Manager がインストールされている場合に起動されるサブレットサービスです。
pdpred	HiRDB のプロセスサーバプロセス※2

注※1

Solaris の場合に、Tuning Manager server が内部的に使用するサービスです。

注※2

常に起動していることが前提です。手動での停止や、クラスタリソースへの登録はしないでください。

9.8 共通コンポーネントのトラブルシューティング

HBase Storage Mgmt Web Service と HBase Storage Mgmt Common Service のサービスがどちらも起動できない場合の原因と解決方法をまとめます。

次の表に示す方法で解決できない場合は、hcmdsgetlogs コマンドによって保守情報を採取し、システム管理者と連絡をとってください。

表 9-9 原因と解決方法

原因	解決方法
サービスで使用するポート番号がすでに使用されている。	HBase Storage Mgmt Web Service, または HBase Storage Mgmt Common Service のポート番号を変更してください。詳細については、「9.6」を参照してください。
システムリソースが不十分である。	メモリスワップ領域, または利用可能なメモリーの量を増加してください。

9.9 共通コンポーネントの保守情報の採取

エラーメッセージの対処方法の説明で、顧客問い合わせ窓口と連絡を取るよう要求している場合は、保守情報を集める一括ログファイル採取コマンド (hcmdsgetlogs) を使用してください。また、必要に応じて、JavaVM のスレッドダンプを採取してください (詳細については、「9.9.2 共通コンポーネントの JavaVM スレッドダンプの採取」を参照してください)。

9.9.1 hcmdsgetlogs コマンド

(1) 形式

Windows の場合 :

```
hcmdsgetlogs /dir <フォルダ名> [/types <製品名>[ <製品名> ...]] [/arc <アーカイブファイル名>] [/logtypes <ログファイル種別>[ <ログファイル種別> ...]]
```

Solaris および Linux の場合 :

```
hcmdsgetlogs -dir <ディレクトリ名> [-types <製品名>[ <製品名> ...]] [-arc <アーカイブファイル名>] [-logtypes <ログファイル種別>[ <ログファイル種別> ...]]
```

(2) 機能

hcmdsgetlogs コマンドは、トラブルが発生したときに、保守情報を採取するためのコマンドです。Hitachi Command Suite 製品のログファイルを採取して、アーカイブファイルにまとめます。

hcmdsgetlogs コマンドを実行するときは、製品名やログファイルの種別を指定しないで、すべての保守情報を採取することを推奨します。

(3) オプション

- dir <フォルダ名> および dir <ディレクトリ名>
ログファイルを格納するローカルディスク上のディレクトリを指定します。
あらかじめディレクトリを作成している場合は、ディレクトリを空にしてください。
指定したディレクトリが存在しない場合は、ディレクトリが新規に作成されます。
指定できるパスの最大長は 41 バイトです。Tuning Manager server 以外の製品のログファイルを収集する場合の最大長については、各製品のマニュアルを参照してください。
ディレクトリパスとして指定できる文字は、ASCII 印字可能文字コード (0x20-7E) の中で、一部の特殊文字 (¥ / : , ; * ? " < > | \$ % & ' `) を除いたものです。ただし、Windows では"¥",":","/"を、Solaris および Linux では"/"をパスの区切り文字として利用できます。パスの末尾にはパスの区切り文字を指定しないでください。
Windows の場合、パス中に空白を指定するときは、パスを引用符 (") で囲んで指定してください。Solaris および Linux の場合、パス中に空白を指定できません。
types オプションを省略した場合、または types オプションの値に TuningManager を指定した場合、dir オプションの値に指定できるディレクトリに次の条件が追加されます。

- ルートディレクトリは指定できません。
- 指定したディレクトリには、コマンドの実行ユーザーに対して read 権限および write 権限が必要です。
- Windows の場合、予約デバイス名 (CON, AUX, PRN, NUL など) を含むパスは指定できません。
- Windows の場合、"/"をパスの区切り文字として使用できません。

- types <製品名>[<製品名> ...]

障害などが原因で、特定のログファイルしか収集できない場合に、ログファイルを収集する製品の名称を指定します。複数の製品名を指定するときは、値と値の間にスペースを挿入します。types オプションを指定しない場合、共通コンポーネントに登録されているすべての製品がログ出力の対象となります。

Tuning Manager server のログファイルを収集するには、製品名として TuningManager を指定します。

types オプションと logtypes オプションを同時に使用する場合は、logtypes オプションの値に必ず log を指定してください。

- arc <アーカイブファイル名>

作成されるアーカイブファイルの名称を指定します。arc オプションを指定しない場合、ファイル名は「HiCommand_log」になります。

アーカイブファイルが出力される時に、各アーカイブファイルの種類に応じた拡張子 (.jar, .hdb.jar, .db.jar または .csv.jar) が付けられます。アーカイブファイルは、dir オプションで指定したディレクトリの下に出力されます。

アーカイブファイルの名称として指定できる文字は、ASCII 印字可能文字コード (0x20-7E) の中で、一部の特殊文字 (¥ / : , ; * ? " < > | \$ % & ' `) を除いたものです。Solaris および Linux の場合、空白は指定できません。

- logtypes <ログファイル種別>[<ログファイル種別> ...]

障害などが原因で、特定のログファイルしか収集できない場合に、収集するログファイルの種別を指定します。複数の種別を指定するときは、値と値の間にスペースを挿入します。logtypes オプションを指定しない場合、すべてのログファイルが収集されます。

収集するログファイルの種別として logtypes オプションに指定する値と、作成されるアーカイブファイルとの対応を次の表に示します。

表 9-10 logtypes オプションに指定する値と、作成されるアーカイブファイルとの対応

logtypes オプションに指定する値	作成されるアーカイブファイル			
	<アーカイブファイル名>.jar	<アーカイブファイル名>.hdb.jar	<アーカイブファイル名>.db.jar	<アーカイブファイル名>.csv.jar
log	作成される	作成される	—	—
db	—	—	作成される	—
csv	—	—	—	作成される

(4) 結果

コマンド実行結果は、画面に出力されるメッセージ、またはコマンドの戻り値で確認します。

コマンドの戻り値を次に示します。

- 0: 正常終了
- 1: 引数エラー
- 2: 異常終了

(5) 注意事項

- hcmsdgetlogs コマンドは、多重実行できません。
- hcmsdgetlogs コマンド終了時に、メッセージ KAPM05318-I または KAPM05319-E が出力されない場合、dir オプションで指定するディレクトリに十分な空き容量がないため hcmsdgetlogs コマンドが途中で終了しています。dir オプションで指定するディレクトリに十分な空き容量を確保したあとで、再度 hcmsdgetlogs コマンドを実行してください。
- Tuning Manager server をクラスタ構成で運用している場合には、実行系ノードと待機系ノードそれぞれで hcmsdgetlogs コマンドを実行してください。
- 同じオプションを 2 回以上指定した場合、最初に指定したオプションが有効となります。
- エージェントの Store データベースは収集対象に含まれません。Performance Management の jpcras コマンド（オプション指定は all all）を使って収集する必要があります。jpcras コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

(6) 使用例

Hitachi Command Suite 製品の保守情報を採取する場合で、アーカイブファイル名を「hicmd_log」とするときの使用例を次に示します。

Windows の場合：

```
hcmsdgetlogs /dir <任意のフォルダ> /arc hicmd_log
```

Solaris および Linux の場合：

```
hcmsdgetlogs -dir <任意のディレクトリ> -arc hicmd_log
```

Tuning Manager server の保守情報だけを採取する場合の使用例を次に示します。

Windows の場合：

```
hcmsdgetlogs /dir <任意のフォルダ> /types TuningManager
```

Solaris および Linux の場合：

```
hcmsdgetlogs -dir <任意のディレクトリ> -types TuningManager
```

9.9.2 共通コンポーネントの JavaVM スレッドダンプの採取

調査のために、JavaVM のスレッドダンプを採取していただく場合があります。

以下の手順で JavaVM のスレッドダンプを採取してください。なお、スレッドダンプを採取したあとは動作が不安定になる場合があるので、サービスを再起動してください。

(1) HBase Storage Mgmt Common Service のスレッドダンプ

Windows の場合：

- a. <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers%HiCommand に dump というファイルを作成します。
- b. HBase Storage Mgmt Common Service サービスを停止します。
- c. Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用している場合は javacorexxx .xxx.txt ファイルが、Oracle JDK を使用している場合は HiCommand.log ファイルが、次のフォルダに出力されます。
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers%HiCommand
Oracle JDK を使用している場合、サービスを再起動するたびに HiCommand.log ファイルが新規に作成されるため、出力後は別名で保存しておくことをお勧めします。

Solaris の場合 :

- a. `kill -3 <PID>`を実行します。<PID>は HBase Storage Mgmt Common Service のプロセス ID で、`/opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/HiCommand/logs/cjstdout.log` ファイルの最後に記述されている Process ID を指定します。
- b. Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用している場合は `javacorexxx.xxxx.txt` ファイルが、Oracle JDK を使用している場合は `HiCommand.log` ファイルが、次のディレクトリに出力されます。
`/opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/HiCommand`
Oracle JDK を使用している場合、プロセスを再起動するたびに `HiCommand.log` ファイルが新規に作成されるため、出力後は別名で保存しておくことをお勧めします。

Linux の場合 :

- a. `kill -3 <PID>`を実行します。<PID>は HBase Storage Mgmt Common Service のプロセス ID で、<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/`CC/web/containers/HiCommand/logs/cjstdout.log` ファイルの最後に記述されている Process ID を指定します。
- b. Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用している場合は `javacorexxx.xxxx.txt` ファイルが、Oracle JDK を使用している場合は `HiCommand.log` ファイルが、次のディレクトリに出力されます。
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/`CC/web/containers/HiCommand`
Oracle JDK を使用している場合、プロセスを再起動するたびに `HiCommand.log` ファイルが新規に作成されるため、出力後は別名で保存しておくことをお勧めします。

(2) HiCommand Suite TuningManager のスレッドダンプ

Windows の場合 :

- a. <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers %TuningManager に `dump` というファイルを作成します。
- b. HiCommand Suite TuningManager サービスを停止します。
- c. Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用している場合は `javacorexxx.xxxx.txt` ファイルが、Oracle JDK を使用している場合は `TuningManager.log` ファイルが、次のフォルダに出力されます。
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers %TuningManager
Oracle JDK を使用している場合、サービスを再起動するたびに `TuningManager.log` ファイルが新規に作成されるため、出力後は別名で保存しておくことをお勧めします。

Solaris の場合 :

- a. `kill -3 <PID>` を実行します。<PID>は HiCommand TuningManager のプロセス ID で、`/opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/TuningManager/logs/cjstdout.log` ファイルの最後に記述されている Process ID を指定します。
- b. Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用している場合は `javacorexxx.xxxx.txt` ファイルが、Oracle JDK を使用している場合は `TuningManager.log` ファイルが、次のディレクトリに出力されます。
`/opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/TuningManager`
Oracle JDK を使用している場合、プロセスを再起動するたびに `TuningManager.log` ファイルが新規に作成されるため、出力後は別名で保存しておくことをお勧めします。

Linux の場合 :

- a. kill -3 <PID> を実行します。<PID>は HiCommand TuningManager のプロセス ID で、<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/containers/TuningManager/logs/cjstdout.log ファイルの最後に記述されている Process ID を指定します。
- b. Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用している場合は javacorexxx .xxxx .txt ファイルが、Oracle JDK を使用している場合は TuningManager.log ファイルが、次のディレクトリに出力されます。
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/containers/TuningManager
Oracle JDK を使用している場合、プロセスを再起動するたびに TuningManager.log ファイルが新規に作成されるため、出力後は別名で保存しておくことをお勧めします。

(3) HiCommand Performance Reporter のスレッドダンプ

Windows の場合 :

- a. <共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers %PerformanceReporter に dump というファイルを作成します。
- b. HiCommand Performance Reporter サービスを停止します。
- c. Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用している場合は javacorexxx .xxxx .txt ファイルが、Oracle JDK を使用している場合は PerformanceReporter.log ファイルが、次のフォルダに出力されます。
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%CC%web%containers %PerformanceReporter
Oracle JDK を使用している場合、サービスを再起動するたびに PerformanceReporter.log ファイルが新規に作成されるため、出力後は別名で保存しておくことをお勧めします。

Solaris の場合 :

- a. kill -3 <PID> を実行します。<PID>は HiCommand Performance Reporter のプロセス ID で、 /opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/PerformanceReporter/logs/cjstdout.log ファイルの最後に記述されている Process ID を指定します。
- b. Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用している場合は javacorexxx .xxxx .txt ファイルが、Oracle JDK を使用している場合は PerformanceReporter.log ファイルが、次のディレクトリに出力されます。
/opt/HiCommand/Base/CC/web/containers/PerformanceReporter
Oracle JDK を使用している場合、プロセスを再起動するたびに PerformanceReporter.log ファイルが新規に作成されるため、出力後は別名で保存しておくことをお勧めします。

Linux の場合 :

- a. kill -3 <PID> を実行します。<PID>は HiCommand Performance Reporter のプロセス ID で、<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/containers/PerformanceReporter/logs/cjstdout.log ファイルの最後に記述されている Process ID を指定します。
- b. Hitachi Command Suite 製品に同梱された JDK を使用している場合は javacorexxx .xxxx .txt ファイルが、Oracle JDK を使用している場合は PerformanceReporter.log ファイルが、次のディレクトリに出力されます。

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/CC/web/containers/
PerformanceReporter

Oracle JDK を使用している場合、プロセスを再起動するたびに PerformanceReporter.log ファイルが新規に作成されるため、出力後は別名で保存しておくことをお勧めします。

9.10 管理サーバのホスト名または IP アドレスの変更

Tuning Manager server や Device Manager がインストールされているマシン（管理サーバ）のホスト名または IP アドレスを変更する場合、次に示す項目を参照してください。

Tuning Manager server をインストールしたマシンのホスト名または IP アドレスを変更する場合には、PFM - Manager でもホスト名または IP アドレスの設定を見直す必要があります。特に、変更後のホスト名が 32 バイトを超える場合、ホスト名を変更する前に PFM - Manager が提供する監視ホスト名設定機能を使用して任意のホスト名（エイリアス名）を監視ホスト名に設定しておく必要があります。PFM - Manager のホスト名または IP アドレスの設定を変更する手順、および監視ホスト名設定機能の使用方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」を参照してください。

なお、Tuning Manager server が監視対象とするホストを監視ホスト名設定機能を使って監視する場合、監視条件によっては Tuning Manager server で設定が必要になります。詳細については、「6.1.8 Agent-less モードでホストを監視するための運用手順」の「(6) ホスト名にエイリアスを設定している場合の運用手順」を参照してください。

9.10.1 Device Manager がインストールされているマシンのホスト名または IP アドレスを変更する場合

Device Manager のホスト名または IP アドレスを変更したあと、次の手順を実施してください。Device Manager のホスト名または IP アドレスの変更については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。

次の手順は、Tuning Manager server をインストールしているホスト上で実施してください。また、Tuning Manager server と Device Manager が同一ホストにインストールされている場合は、この手順を実行する必要はありません。

1. Tuning Manager server のサービスだけを停止します。
Tuning Manager server のサービス停止の手順については、「1.5 サービスの停止」を参照してください。
2. サービスの状態が次のとおりであることを確認します。
<起動しているサービス>
 - HBase Storage Mgmt Common Service
 - HBase Storage Mgmt Web Service
 - HiCommand Server<停止しているサービス>
 - HiCommand Suite TuningManager
3. 次のコマンドを使用し、ユーザーアカウントを管理するサーバに接続するための情報を再設定します。
ユーザーアカウントは、接続先の Device Manager がインストールされているホストの共通コンポーネントによって管理されています。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsprmsset /host <Device Manager のホスト名または IP アドレス> /port <Device Manager のポート番号>
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsprmsset -host <Device Manager のホスト名または IP アドレス> -port <Device Manager のポート番号>
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsprmsset -host <Device Manager のホスト名または IP アドレス> -port <Device Manager のポート番号>
```

4. Hitachi Command Suite 関連サービスを再起動します。
Hitachi Command Suite 関連サービスの再起動については、「1.4 サービスの起動」を参照してください。
5. Tuning Manager server と Device Manager との接続設定をします。
Tuning Manager server と Device Manager との接続設定については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」を参照してください。

9.10.2 Tuning Manager server がインストールされているマシンのホスト名を変更する場合

次の手順を実施してください。

1. 共通コンポーネントの設定を変更します。
「(1) 共通コンポーネントの設定を変更する」を参照して手順を実施してください。
2. PFM - Manager およびエージェントの設定を見直します。
この手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」を参照してください。
3. Tuning Manager server がインストールされているマシンのホスト名を変更し、マシンを再起動します。
「(2) Tuning Manager server ホストのホスト名を変更する」を参照して手順を実施してください。
4. Tuning Manager server の起動 URL を変更します。
「9.10.4 Tuning Manager server の起動 URL を変更する」を参照して手順を実施してください。

(1) 共通コンポーネントの設定を変更する

1. Hitachi Command Suite 製品のすべてのサービスを停止します。
サービスの停止方法については Hitachi Command Suite 製品の各マニュアルを参照してください。
2. SSL を使用している場合は、再度 SSL を設定します。
変更後のホスト名を使用して、再度 SSL を設定してください。SSL の設定については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」の、Device Manager のセキュリティ設定について説明している章を参照してください。
3. 次に示す設定ファイルのホスト名を指定している個所を、変更後のホスト名に変更します。
 - httpsd.conf ファイル
<ファイルの場所>

Windows の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%httpsd%conf%httpsd.conf

Solaris の場合 :

/opt/HiCommand/Base/httpsd/conf/httpsd.conf

Linux の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/httpsd/conf/httpsd.conf

<変更箇所>

ServerName パラメーターの値を変更後のホスト名に変更します。

SSL を設定している場合は、さらに次の手順を実施してください。

- ・ <VirtualHost>タグに指定するホスト名を変更後のホスト名に変更します。
- ・ <VirtualHost>タグ内の ServerName パラメーターの値を変更後のホスト名に変更します。

- pdsys ファイル, def_pdsys ファイル (クラスタ構成の場合だけ)

<ファイルの場所>

Windows の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%HDB%CONF%pdsys

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%database%work%def_pdsys

Solaris の場合 :

/opt/HiCommand/Base/HDB/CONF/pdsys

/opt/HiCommand/Base/database/work/def_pdsys

Linux の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/HDB/CONF/pdsys

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/database/work/def_pdsys

<変更箇所>

pdunit パラメーターの x オプションの値に仮想ホスト名を指定します。

- pdutysys ファイル, def_pdutysys ファイル (クラスタ構成の場合だけ)

<ファイルの場所>

Windows の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%HDB%CONF%pdutysys

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%database%work%def_pdutysys

Solaris の場合 :

/opt/HiCommand/Base/HDB/CONF/pdutysys

/opt/HiCommand/Base/database/work/def_pdutysys

Linux の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/HDB/CONF/pdutysys

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/database/work/def_pdutysys

<変更箇所>

実行系ノードの設定ファイル, 待機系ノードの設定ファイル共に, pd_hostname パラメーターの値に実行系ノードのホスト名を指定します。

- HiRDB.ini ファイル (クラスタ構成の場合だけ)

<ファイルの場所>

Windows の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%HDB%\CONF\emb\HiRDB.ini

Solaris の場合 :

/opt/HiCommand/Base/HDB/CONF/emb/HiRDB.ini

Linux の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/HDB/CONF/emb/HiRDB.ini

<変更箇所>

EDHOST パラメーターの値に仮想ホスト名を指定します。

- cluster.conf ファイル (クラスタ構成の場合だけ)

<ファイルの場所>

Windows の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%conf%\cluster.conf

Solaris の場合 :

/opt/HiCommand/Base/conf/cluster.conf

<変更箇所>

該当するホスト名を変更後のホスト名に変更します。

4. Hitachi Command Suite 製品のすべてのサービスを起動します。
サービスの起動方法については Hitachi Command Suite 製品の各マニュアルを参照してください。
5. Hitachi Command Suite 製品のすべてのサービスが起動していることを確認します。
サービスが起動していることを確認する方法については、「1.4.2 サービスの状態を確認する (起動時)」を参照してください。

(2) Tuning Manager server ホストのホスト名を変更する

1. Tuning Manager server ホストのホスト名を変更し、マシンを再起動します。
2. Hitachi Command Suite 製品のすべてのサービスが起動していることを確認します。
サービスが起動していることを確認する方法については、「1.4.2 サービスの状態を確認する (起動時)」を参照してください。
3. PFM - Manager 関連のすべてのサービスが起動していることを確認します。
4. 各エージェントホストで、エージェント関連のサービスを再起動します。
 - PFM - Manager 関連のサービスの起動確認については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。
 - 各エージェントのサービスの再起動については、各エージェントのマニュアルを参照してください。
 - サーバのホスト名変更の手順は、必ずすべての変更が終わったあとに実施してください。変更手順の途中で実施した場合は、システムが正しく起動できなくなる場合があります。

9.10.3 Tuning Manager server がインストールされているマシンの IP アドレスを変更する場合

次の手順を実施してください。

1. 共通コンポーネントの設定を変更します。

- 「(1) 共通コンポーネントの設定を変更する」を参照して手順を実施してください。
2. PFM・Manager およびエージェントの設定を見直します。
この手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」を参照してください。
 3. Tuning Manager server がインストールされているマシンの IP アドレスを変更し、マシンを再起動します。
「(2) Tuning Manager server ホストの IP アドレスを変更する」を参照して手順を実施してください。
 4. Tuning Manager server の起動 URL を変更してください。
「9.10.4 Tuning Manager server の起動 URL を変更する」を参照して手順を実施してください。

(1) 共通コンポーネントの設定を変更する

1. Hitachi Command Suite 製品のすべてのサービスを停止します。
サービスの停止方法については Hitachi Command Suite 製品の各マニュアルを参照してください。
2. 次に示す設定ファイルに変更前の IP アドレスを指定している場合は、変更後の IP アドレスに修正します。

IP アドレスではなく、ホスト名を指定している場合、修正する必要はありません。

httpsd.conf ファイル

<ファイルの場所>

Windows の場合：

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%httpsd%\conf\httpsd.conf

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/Base/httpsd/conf/httpsd.conf

Linux の場合：

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/httpsd/conf/httpsd.conf

<変更箇所>

ServerName パラメーターの値を変更後の IP アドレスに変更します。

(2) Tuning Manager server ホストの IP アドレスを変更する

1. Tuning Manager server ホストの IP アドレスを変更し、マシンを再起動します。
2. Hitachi Command Suite 製品のすべてのサービスが起動していることを確認します。
サービスが起動していることを確認する方法については、「1.4.2 サービスの状態を確認する (起動時)」を参照してください。
3. PFM・Manager 関連のすべてのサービスが起動していることを確認します。
PFM・Manager 関連のサービスの起動確認については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」を参照してください。
4. 各エージェントホストで、エージェント関連のサービスを再起動します。
 - 各エージェントのサービスの再起動については、各エージェントのマニュアルを参照してください。
 - RADIUS サーバを利用してアカウントを認証している場合は、exauth.properties ファイルの設定も変更する必要があります。
exauth.properties ファイルの設定方法については、マニュアル「Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド」を参照してください。

9.10.4 Tuning Manager server の起動 URL を変更する

Tuning Manager server がインストールされているマシンのホスト名または IP アドレスを変更した場合は、Hitachi Command Suite 製品にアクセスするための URL を更新する必要があります。

hcmdschgurl コマンドを使用して URL の情報を変更する手順を次に示します。

1. Tuning Manager server を停止します。
Tuning Manager server の停止については、「1.5 サービスの停止」を参照してください。
2. サービスの状態が次のとおりであることを確認します。
<起動しているサービス>
 - HBase Storage Mgmt Common Service
 - HBase Storage Mgmt Web Service
 - HiCommand Server<停止しているサービス>
 - HiCommand Suite TuningManager
3. 次のコマンドを使用し、Tuning Manager server の起動 URL を変更します。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdschgurl /change  
"http://<変更前の Tuning Manager server ホストのホスト名または IP アドレス>:<変更前の Tuning Manager server のポート番号>" "http://<変更後の Tuning Manager server ホストのホスト名または IP アドレス>:<変更後の Tuning Manager server のポート番号>"
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdschgurl -change "http://<変更前の Tuning Manager server ホストのホスト名または IP アドレス>:<変更前の Tuning Manager server のポート番号>" "http://<変更後の Tuning Manager server ホストのホスト名または IP アドレス>:<変更後の Tuning Manager server のポート番号>"
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdschgurl -change  
"http://<変更前の Tuning Manager server ホストのホスト名または IP アドレス>:<変更前の Tuning Manager server のポート番号>" "http://<変更後の Tuning Manager server ホストのホスト名または IP アドレス>:<変更後の Tuning Manager server のポート番号>"
```

hcmdschgurl コマンドの詳細については、「9.11 Hitachi Command Suite 製品の URL の変更」を参照してください。

9.11 Hitachi Command Suite 製品の URL の変更

Tuning Manager server の操作を開始し、次の変更を加えた場合、Web Client の起動に使用するアクセス情報（URL 情報）を変更する必要があります。

- Tuning Manager server がインストールされているホストの IP アドレスの変更
- HBase Storage Mgmt Web Service が使用するポートの変更
- SSL を使用するため、または SSL の使用を中止するための Tuning Manager server システム設定の変更

アクセス情報は、共通コンポーネントのデータベースに格納されています。

データベースに保存された情報を変更するには、次に説明する hcmdschgurl コマンドを使用します。

形式

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdschgurl {/list | /change <変更前の URL> <変更後の URL>}
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdschgurl {-list | -change <変更前の URL> <変更後の URL>}
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdschgurl {-list | -change <変更前の URL> <変更後の URL>}
```

機能

共通コンポーネントが提供するリポジトリに格納されている、アプリケーションの起動に使用されるアクセス情報（URL 情報）を更新します。

オプション

list：現在設定されている URL とプログラムのリストを表示します。

change：現在登録されている URL に関する情報を、新規 URL に関する情報で上書きします。現在登録されている URL と新規 URL を指定してください。指定する URL は、プロトコルとポートを含む完全な URL である必要があります。指定する URL を、"で囲むこともできます。IPv6 アドレスを使用する場合は、IP アドレスを[]で囲んでください。

コマンドライン全体が、コマンド名を含めて 255 文字を超える場合は、URL に含まれるホスト名を IP アドレスに換えて指定してください。

戻り値

0：正常終了

1：引数のエラー

2：URL がない

253：データベースの復元に失敗

254：データベースのバックアップに失敗

255：異常終了

エラーの詳細については、次のログファイルの内容を参照してください。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%log%HcmdsChangeURLn.log
```

Solaris の場合：

```
/var/opt/HiCommand/Base/log/HcmdsChangeURLn.log
```

Linux の場合：

```
/var/<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/log/HcmdsChangeURLn.log
```

hcmdschgurl コマンドの実行例と手順を次に示します。この例では、URL 情報 http://192.168.11.33:23015 を http://192.168.11.55:23015 に変更します。

1. list オプションを指定してコマンドを実行し、現在のデータベースに登録された URL 情報を検索します。

Windows の場合：

```
C:%Program Files%HiCommand%Base%bin%hcmdschgurl /list
```

```
http://192.168.11.33:23015
```

```
Tuning Manager
```

Solaris および Linux の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdschgurl -list
```

```
http://192.168.11.33:23015
```

```
Tuning Manager
```

2. change オプションを指定してコマンドを実行し、URL 情報を更新します。

Windows の場合 :

```
C:¥Program Files¥HiCommand¥Base¥bin¥hcmdschgurl /change "http://  
192.168.11.33:23015" "http://192.168.11.55:23015"
```

```
The URL was changed from "http://192.168.11.33:23015" to "http://  
192.168.11.55:23015".
```

Solaris および Linux の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdschgurl -change "http://  
192.168.11.33:23015" "http://192.168.11.55:23015"
```

```
The URL was changed from "http://192.168.11.33:23015" to "http://  
192.168.11.55:23015".
```

3. list オプションを指定してコマンドを実行し、結果を確認します。

Windows の場合 :

```
C:¥Program Files¥HiCommand¥Base¥bin¥hcmdschgurl /list
```

```
http://192.168.11.55:23015
```

```
Tuning Manager
```

Solaris および Linux の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdschgurl -list
```

```
http://192.168.11.55:23015
```

```
Tuning Manager
```

9.12 Web Client からアプリケーションを起動するための設定

Web Client のグローバルタスクバーエリアで、[起動] - [リンク] を選択すると、ユーザーが登録したアプリケーションを起動できるリンクダイアログが表示されます。よく使用する Web アプリケーションや参照する情報（機器の配置図など）をこのウィンドウに登録することで、必要なアプリケーションを Web Client から簡単に呼び出せます。アプリケーションの登録または登録の解除には、hcmdslink コマンドを使用します。ここでは、hcmdslink コマンドの使用方法を説明します。

形式

Windows の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>¥bin¥hcmdslink {/add | /  
delete } /file <ユーザー設定のアプリケーションファイル> [/nolog] /user <ユー  
ザー識別子> /pass <パスワード>
```

Solaris の場合 :

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdslink {-add | -delete } -file <ユーザー設定  
のアプリケーションファイル> [-nolog] -user <ユーザー識別子> -pass <パスワード>
```

Linux の場合 :

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdslink {-add | -delete} -file <ユーザー設定のアプリケーションファイル> [-nolog] -user <ユーザー識別子> -pass <パスワード>
```

機能

必要なアプリケーションを Web Client から起動できるように、Web アプリケーションのリンクを登録したり、削除したりします。

ユーザー設定のアプリケーションファイルで、アプリケーション名、URL、および表示名を指定します。次に、hcmdslink コマンドを使用してその情報を登録します。Web Client のグローバルタスクバーエリアで、[起動] - [リンク] を選択したときに表示されるリンクダイアログに、登録したアプリケーションへのリンクが表示されます。

注意

アプリケーションを起動するためのリンクを登録したあとは、hcmdslink コマンドで 사용되는ユーザー設定のアプリケーションファイルを削除しないでください。これを削除すると、登録したアプリケーションのリンクを削除できなくなります。

オプション

add : Web アプリケーションを登録します。

delete : Web アプリケーションを削除します。

file : ユーザー設定のアプリケーションファイルの名前を指定します。Solaris および Linux の場合、空白を含むパスは指定しないでください。

nolog : コマンドラインにメッセージを表示しないようにします。ただし、このオプションを指定しても、オプションエラーのメッセージは表示されます。

user : ユーザー定義のアプリケーションリンクの登録または削除に使用するユーザー ID を指定します。Admin 権限を持つユーザーのユーザー ID を指定します。

pass : ユーザー定義のアプリケーションリンクの登録または削除に使用するユーザー ID のパスワードを指定します。

ユーザー設定のアプリケーションファイル

次に、ユーザー設定のアプリケーションファイルのコード例を示します。

```
@TOOL-LINK
@NAME SampleApp
@URL http://SampleApp/index.html
@DISPLAYNAME SampleApplication
@DISPLAYORDER 1
@ICONURL http://SampleApp/graphic/icon.gif
@TOOL-END
```

注意

ユーザー設定のアプリケーションファイルのコーディングには、ASCII 文字コードだけを使用します。また、Carriage Return (CR) および Line Feed (LF) 以外の制御コードは使用できません。

ユーザー設定のアプリケーションファイルで指定する項目は、次のとおりです。

@TOOL-LINK : 開始キー。開始キーと終了キーの間の情報が、設定情報です。この項目は必須です。

@NAME : 登録用のキーとして使用される情報。一意の名前を指定します。この項目は必須です。この名前の最大長は 256 バイトです。英数字だけを使用してください。

@URL : Web Client から呼び出す URL。この URL の最大長は 256 バイトです。IPv6 アドレスは使用できません。IPv6 環境ではホスト名で指定してください。

@DISPLAYNAME : Web Client のグローバルタスクバーエリアで、[起動] - [リンク] を選択したときに表示されるリンクダイアログに示される名前。情報を指定しない場合、

@NAME で指定した名前が表示されます。指定できる文字は、Unicode のコードポイント U+10000 ~ U+10FFFF の範囲で、最大 80 文字です。

@DISPLAYORDER : Web Client のグローバルタスクバーエリアで、[起動] - [リンク] を選択したときに表示されるリンクダイアログに示されるアプリケーションの順序。アプリケーションは、この値が小さいほど上に表示されます。値は-2147483648 から 2147483647 の範囲で指定できます。

@ICONURL: リンクの横に表示されるアイコンの URL。この URL の最大長は 256 バイトです。IPv6 アドレスは使用できません。IPv6 環境ではホスト名で指定してください。

@TOOL-END : 終了キー。この項目は必須です。

戻り値

0 : 正常終了

255 : 異常終了

nolog オプションを指定しない場合は、出力メッセージから、コマンドが成功したかどうかを判断できます。nolog オプションを指定した場合、メッセージは出力されません。そのため、コマンドの戻り値を使用して、コマンドが成功したかどうかを判断する必要があります。

エラーの詳細については、次のログファイルの内容を参照してください。

Windows の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%log%hcmdslinkn.log

Solaris の場合 :

/var/opt/HiCommand/Base/log/hcmdslinkn.log

Linux の場合 :

/var/<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/log/hcmdslinkn.log

コマンドの実行例 (Windows の場合)

アプリケーションのリンクを追加する場合

```
C:%Program Files%HiCommand%Base%bin%hcmdslink /add /file C:  
%SampleLink.txt /user system /pass manager
```

アプリケーションのリンクを削除する場合

```
C:%Program Files%HiCommand%Base%bin%hcmdslink /delete /file C:  
%SampleLink.txt /user system /pass manager
```

コマンドの実行例 (Solaris および Linux の場合)

アプリケーションのリンクを追加する場合

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdslink -add -file /opt/SampleLink.txt -  
user system -pass manager
```

アプリケーションのリンクを削除する場合

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdslink -delete -file /opt/SampleLink.txt -  
user system -pass manager
```

9.13 ユーザーアカウントに関するセキュリティの設定

Tuning Manager server では、ユーザーのパスワードが第三者に推測されないように、パスワードの条件（最小文字数、文字種の組み合わせなど）を設定できます。また、同じユーザー ID に対して不正なパスワードが繰り返し入力された場合に、そのユーザーアカウントを自動的にロックできます。

セキュリティの設定は Web Client からでも操作できます。ただし、クラスタ構成の環境の場合には、Web Client から設定すると実行系ノードだけに反映されます。待機系ノードに反映するときは、

ノードを切り替えてから同一の設定を実施してください。Web Client での操作方法については、「4.4 ログイン時のセキュリティオプションの設定」を参照してください。

セキュリティの設定についての注意事項を次に示します。

- バージョン 05-10 以降の Hitachi Command Suite 製品をインストールすると、ユーザーアカウントのロック機能、およびパスワードの複雑性チェック機能が使用できるようになります。これらの機能は、すべての Hitachi Command Suite 製品のユーザーに対して有効になるので、バージョン 05-00 以前の Hitachi Command Suite 製品の操作で、次の現象が起こるおそれがあります。
 - 正しいユーザー ID とパスワードを指定しても、ログインできない。
ユーザーアカウントがロックされているおそれがあります。該当するアカウントのロックを解除するか、または新しいユーザーアカウントを登録するなどの適切な対処をしてください。
 - パスワードが変更できない、またはユーザーアカウントが追加できない。
指定したパスワードが、パスワードの入力規則に従っていないおそれがあります。出力されるメッセージに従って、適切なパスワードを指定してください。
- 外部認証サーバと連携してユーザーを認証する場合、パスワードの文字種の組み合わせは外部認証サーバでの設定が適用されます。ただし、Hitachi Command Suite 製品にユーザーのパスワードを登録する場合は、Hitachi Command Suite 製品で規定された文字種を使用する必要があります。
- 外部認証サーバと連携してユーザーを認証する場合、自動ロックの制御は、外部認証サーバでの設定が適用されます。

パスワードの条件や、アカウントのロックに関する設定は、security.conf ファイルを使って実施します。

security.conf ファイルの格納先を次に示します。

Windows の場合：

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%conf%sec

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/Base/conf/sec

Linux の場合：

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/conf/sec

security.conf ファイルで設定するパスワードの条件は、ユーザーアカウントを追加するとき、またはパスワードを変更するときに適用されます。既存のユーザーアカウントのパスワードには適用されないため、パスワードが設定した条件を満たしていない場合でも、システムにログインできます。

security.conf ファイルでの設定値を変更した場合は、直ちに変更後の値が有効になります。security.conf ファイルの設定値を次に示します。

9.13.1 password.min.length

パスワードの最小文字数を指定します。指定できる値の範囲は、1～256 です。

デフォルト：4

9.13.2 password.min.uppercase

パスワードに含める大文字の最小数を指定します。指定できる値の範囲は、0～256 です。0 を指定した場合、大文字の数に制限はなくなります。

デフォルト：0（制限なし）

9.13.3 password.min.lowercase

パスワードに含める小文字の最小数を指定します。指定できる値の範囲は、0～256 です。0 を指定した場合、小文字の数に制限はなくなります。

デフォルト：0（制限なし）

9.13.4 password.min.numeric

パスワードに含める数字の最小数を指定します。指定できる値の範囲は、0～256 です。0 を指定した場合、数字の数に制限はなくなります。

デフォルト：0（制限なし）

9.13.5 password.min.symbol

パスワードに含める記号の最小数を指定します。指定できる値の範囲は、0～256 です。0 を指定した場合、記号の数に制限はなくなります。

デフォルト：0（制限なし）

9.13.6 password.check.userID

ユーザー ID と同じパスワードを設定できるようにするかを指定します。指定できる値は、`true` または `false` です。`true` を指定した場合、ユーザー ID と同じパスワードは設定できなくなります。`false` を指定した場合、ユーザー ID と同じパスワードを設定できます。

デフォルト：`false`（ユーザー ID と同じパスワードを設定できる）

9.13.7 account.lock.num

ユーザーアカウントが自動的にロックされるまでの、ログインの失敗回数を指定します。ユーザーがログインに連続して失敗した回数が指定値に達すると、ユーザーアカウントが自動的にロックされます。ただし、初期状態では、**System** アカウントはロックされません。**System** アカウントもロックの対象にしたい場合は、「[9.14 System アカウントのロックに関する設定](#)」を参照してください。指定できる値の範囲は、0～10 です。0 を指定した場合、ユーザーがログインに何度失敗しても、ユーザーアカウントはロックされません。

デフォルト：0（ユーザーアカウントをロックしない）

シングルサインオン機能を利用しているほかの Hitachi Command Suite 製品でログインに失敗した回数も、失敗回数としてカウントされます。例えば、失敗回数が 3 回に設定されている場合、ユーザーが、**Device Manager** で 1 回、**Replication Manager** で 1 回、**Global Link Availability Manager** で 1 回、連続してログインに失敗すると、ユーザーアカウントが自動的にロックされます。

失敗回数を変更した場合、その値は、変更後にログインに失敗したときから適用されます。

ログイン中のユーザーがいるときに、再度そのユーザーでログインを試行し、失敗回数が指定値に達すると、そのユーザーアカウントはロックされます。ただし、すでにログインしているユーザーは操作を継続できます。

ユーザーアカウントのロックは、Web Client から解除できます。ユーザーアカウントのロックを解除するためには、User Management 権限が必要です。ユーザーアカウントのロックを解除する方法については、「4.3.5 ユーザーアカウントのロック状態を変更する」を参照してください。

9.14 System アカウントのロックに関する設定

System アカウントは、初期状態ではロックの対象外です。System アカウントをロックの対象にすれば、ほかのユーザーアカウントと同じように自動ロックの設定をしたり、ロック状態を変更したりできます。

ここでは、System アカウントをロックの対象に設定する方法について説明します。

注意

- 設定の変更を有効にするには、共通コンポーネントのサービスを再起動する必要があります。
- System アカウントをロックの対象に設定した場合は、v6.1 未満を含むすべての Hitachi Command Suite 製品で、System アカウントが自動ロックおよび手動ロックの対象になります。
- System アカウントを含め、すべてのユーザーアカウントがロックされた場合は、コマンドを使用してロックを解除する必要があります。コマンドを使用してロックを解除する方法については、「7.2.8 すべてのユーザーアカウントがロックされた」を参照してください。

System アカウントをロックの対象にしたい場合は、user.conf ファイルに account.lock.system プロパティを追加します。user.conf ファイルの格納先を次に示します。user.conf ファイルが存在しない場合は、新規に作成してください。

Windows の場合：

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%conf%user.conf

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/Base/conf/user.conf

Linux の場合：

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/conf/user.conf

次のように account.lock.system プロパティを追加します。

```
account.lock.system = true
```

注意

account.lock.system プロパティに false を指定した場合は、System アカウントがロックの対象外になります。

user.conf ファイルの内容を変更した場合は、変更内容を有効にするために、共通コンポーネントのサービスを再起動する必要があります。いったんサービスを停止し、その後、サービスを起動してください。

サービスを停止する方法については、「1.5.1 サービスを停止する」を参照してください。サービスを起動する方法については、「1.4.1 サービスを起動する」を参照してください。

9.15 警告バナーの設定

Hitachi Command Suite 製品では、ログイン時のセキュリティリスク対策として、任意のメッセージ（警告バナー）を表示できます。不正なアクセスを試みようとする第三者に対し、事前に警告を発することで、データの破壊や情報の漏洩などのリスクを軽減できます。

Windows では Admin 権限、Solaris および Linux では root 権限を持ったユーザーであれば、メッセージを自由に設定できます。ログイン画面に表示できるメッセージは、1,000 文字以内です。同じ内容のメッセージをロケールごとに別の言語で登録しておくこと、Web ブラウザーのロケールに合わせて、メッセージを自動的に切り替えられます。

クラスタシステムで運用している場合、実行系ノードだけでなく、待機系ノードにも同一の設定をしてください。

9.15.1 メッセージの編集

HTML ファイル形式でメッセージを編集します。使用できる最大文字数は 1,000 文字です。通常の文字のほかに、HTML タグを使用して、フォント属性の変更や任意の位置での改行などの操作もできます（タグも文字数としてカウントされます）。使用できる文字コードは Unicode (UTF-8) です。

メッセージの編集例を次に示します。

```
<center><b>Warning Notice!</b></center>
This is a <b>Hitachi, Ltd.</b> computer system, which may be accessed
and used only for authorized <b>Hitachi, Ltd.</b> business by authorized
personnel. Unauthorized access or use of this computer system may
subject violators to criminal, civil, and/or administrative action. All
information on this computer system may be intercepted, recorded, read,
copied, and disclosed by and to authorized personnel for official
purposes, including criminal investigations.<BR>
Such information includes sensitive data encrypted to comply with
confidentiality and privacy requirements. Access or use of this computer
system by any person, whether authorized or unauthorized, constitutes
consent to these terms. There is no right of privacy in this system.
```

注意

- メッセージを登録する際、HTML の構文のチェックおよび修正はされません。ユーザーが編集した状態のまま登録されるので、HTML の構文規則に従って正しく編集してください。メッセージ中の HTML の構文に問題がある場合、ログイン画面が正しく表示されないおそれがあります。
- メッセージに使用する文字は、文字コードが Unicode (UTF-8) であること以外、制限はありません。HTML の構文で使用する文字 (<, >, ", ', &) を表示する場合は、HTML のエスケープシーケンスを使用してください。例えば、ログイン画面に「&」を表示する場合は、HTML ファイルでは「&」と記述します。
- 表示するメッセージを任意の位置で改行したい場合、HTML タグの
を使用してください。メッセージ中で改行しても、登録時には無視されます。

英語 (bannermsg.txt) と日本語 (bannermsg_ja.txt) のメッセージのサンプルファイルが次の場所にあります。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%sample%resource
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/sample/resource
```

Linux の場合：

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/sample/resource

このサンプルファイルはインストールの際に上書きされてしまうので、利用する場合はコピーしたものを編集してください。

9.15.2 メッセージの登録

メッセージの設定は、ロケールと組で指定します。メッセージが設定されているロケールに対して再設定した場合、メッセージは上書きされます。hcmdsbanner コマンドの実行時にロケールの指定を省略すると、デフォルトのロケールに対するメッセージとして設定されます。編集したメッセージを hcmdsbanner コマンドで登録します。次のコマンドを実行してください。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsbanner /add /file <ファイル名> [/locale <ロケール名>]
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsbanner -add -file <ファイル名> [-locale <ロケール名>]
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsbanner -add -file <ファイル名> [-locale <ロケール名>]
```

<ファイル名>：メッセージを格納したファイルを絶対パスで指定します。

<ロケール名>：メッセージに使用した言語のロケールを指定します（英語は en, 日本語は ja です）。省略するとサーバに設定されているブラウザのデフォルトのロケールになります。

hcmdsbanner コマンドの実行結果は、hcmdsbanner*n*.log にも出力されます。

ログファイルの格納先は、次のとおりです。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%log%hcmdsbannern.log
```

Solaris の場合：

```
/var/opt/HiCommand/Base/log/hcmdsbannern.log
```

Linux の場合：

```
/var/<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/log/hcmdsbannern.log
```

9.15.3 メッセージの削除

登録したメッセージを、hcmdsbanner コマンドで削除します。次のコマンドを実行してください。

Windows の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%bin%hcmdsbanner /delete [/locale <ロケール名>]
```

Solaris の場合：

```
/opt/HiCommand/Base/bin/hcmdsbanner -delete [-locale <ロケール名>]
```

Linux の場合：

```
<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/bin/hcmdsbanner -delete [-locale <ロケール名>]
```

<ロケール名>: 削除したいメッセージのロケールを指定します (英語は en, 日本語は ja です)。省略するとサーバに設定されているブラウザのデフォルトのロケールになります。

hcmdsbanner コマンドの実行結果は, hcmdsbanner n .log にも出力されます。

ログファイルの格納先は, 次のとおりです。

Windows の場合 :

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%log%hcmdsbanner n .log

Solaris の場合 :

/var/opt/HiCommand/Base/log/hcmdsbanner n .log

Linux の場合 :

/var/<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/log/hcmdsbanner n .log

9.16 監査ログの採取

Tuning Manager server をはじめ, 日立の Hitachi Command Suite 製品では, 法規制, セキュリティ評価基準, 業界ごとの各種基準に従っていることなどを監査者や評価者に証明するために, 監査ログにユーザーの操作内容を記録できます。監査ログを採取するには, 環境設定ファイル (auditlog.conf) を編集する必要があります。環境設定ファイルについては, 「[9.16.2 監査ログの環境設定ファイルの編集](#)」を参照してください。

監査ログは, Windows の場合はイベントログファイル (アプリケーションログファイル) に出力され, Solaris および Linux の場合は syslog ファイルに出力されます。

表 9-11 監査ログの種別と説明

種別	説明
StartStop	ハードウェアまたはソフトウェアの起動と終了を示す事象。 <ul style="list-style-type: none">OS の起動と終了ハードウェアコンポーネント (マイクロ含む) の起動と終了ストレージシステム上のソフトウェア, SVP 上のソフトウェア, Hitachi Command Suite 製品の起動と終了
Failure	ハードウェアまたはソフトウェアの異常を示す事象。 <ul style="list-style-type: none">ハードウェア障害ソフトウェア障害 (メモリーエラーなど)
LinkStatus	機器間のリンク状態を示す事象。 <ul style="list-style-type: none">リンクアップまたはダウン
ExternalService	日立の Hitachi Command Suite 製品と外部サービスとの通信結果を示す事象。 <ul style="list-style-type: none">NTP サーバや DNS サーバなどの通信管理サーバとの通信 (SNMP)
Authentication	機器, 管理者, またはエンドユーザーが, 接続または認証を試みて, 成功または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none">FC ログイン機器認証 (FC-SP 認証, iSCSI ログイン認証, SSL サーバ/クライアント認証)管理者またはエンドユーザー認証
AccessControl	機器, 管理者, またはエンドユーザーがリソースへのアクセスを試みて成功または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none">機器のアクセスコントロール管理者またはエンドユーザーのアクセスコントロール
ContentAccess	重要なデータへのアクセス (アクセスログが監査されるようなシステムへのアクセス) を試みて成功または失敗したことを示す事象。

種別	説明
	<ul style="list-style-type: none"> HTTP サポート時のコンテンツへのアクセス 監査ログファイルへのアクセス
ConfigurationAccess	管理者が許可された運用操作を実行し、操作が正常終了または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> 構成情報の参照または更新 アカウントの追加、削除などのアカウント設定の更新 セキュリティの設定 監査ログ設定の参照または更新
Maintenance	保守操作を実行し、操作が正常終了または失敗したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> ハードウェアコンポーネント増設または減設 ソフトウェアコンポーネント増設または減設
AnomalyEvent	しきい値のオーバーなどの異常が発生したことを示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> ネットワークトラフィックのしきい値オーバー CPU 負荷のしきい値オーバー 内部に一時保存した監査ログの上限到達前通知やラップアラウンド 異常な通信の発生を示す事象。 <ul style="list-style-type: none"> 通常使用するポートへの SYN フラッド攻撃やプロトコル違反 未使用ポートへのアクセス（ポートスキャンなど）

採取できる監査ログは、製品ごとに異なります。以降では、Tuning Manager server で採取できる監査ログについて説明します。ほかの製品の監査ログについては、それぞれのマニュアルを参照してください。

9.16.1 Tuning Manager server で監査ログに出力する種別と監査事象

Tuning Manager server で監査ログに出力する種別と監査事象を次の表に示します。それぞれの監査事象には、重要度 (Severity) が設定されています。重要度によって、出力する監査ログをフィルタリングできます。

表 9-12 監査ログに出力する種別と監査事象

種別	種別の説明	監査事象	Severity	メッセージ ID
StartStop	ソフトウェアの起動と終了	SSO サーバの起動成功	6	KAPM00090-I
		SSO サーバの起動失敗	3	KAPM00091-E
		SSO サーバの停止	6	KAPM00092-I
Authentication	管理者またはエンドユーザーの認証	ログインの成功	6	KAPM01124-I
		ログインの成功 (外部認証サーバログイン)	6	KAPM02450-I
		ログインの失敗 (ユーザー ID またはパスワードの誤り)	4	KAPM02291-W
		ログインの失敗 (ロック中のユーザーでログイン)	4	KAPM02291-W
		ログインの失敗 (存在しないユーザーでログイン)	4	KAPM02291-W
		ログインの失敗 (権限なし)	4	KAPM01095-E
		ログインの失敗 (認証失敗)	4	KAPM01125-E
		ログインの失敗 (外部認証サーバ認証失敗)	4	KAPM02451-W
		ログアウトの成功	6	KAPM08009-I

種別	種別の説明	監査事象	Severity	メッセージID
	アカウントの自動ロック	アカウントの自動ロック（認証の連続失敗またはアカウントの有効期限切れ）	4	KAPM02292-W
ConfigurationAccess	ユーザーの登録 (GUI)	ユーザーの登録成功	6	KAPM07230-I
		ユーザーの登録失敗	3	KAPM07240-E
	ユーザーの削除 (GUI)	単一ユーザーの削除成功	6	KAPM07231-I
		単一ユーザーの削除失敗	3	KAPM07240-E
		複数ユーザーの削除成功	6	KAPM07231-I
		複数ユーザーの削除失敗	3	KAPM07240-E
	パスワードの変更 (管理者画面から変更)	管理者によるパスワード変更成功	6	KAPM07232-I
		管理者によるパスワード変更失敗	3	KAPM07240-E
	パスワードの変更 (自ユーザー用画面から変更)	旧パスワードが正しいかを判断するための認証処理で失敗	3	KAPM07239-E
		ログインユーザー自身のパスワード変更成功 (自ユーザー画面から変更)	6	KAPM07232-I
		ログインユーザー自身のパスワード変更失敗 (自ユーザー画面から変更)	3	KAPM07240-E
	プロフィールの変更	プロフィールの変更成功	6	KAPM07233-I
		プロフィールの変更失敗	3	KAPM07240-E
	権限の変更	権限の変更成功	6	KAPM02280-I
		権限の変更失敗	3	KAPM07240-E
	アカウントのロック	アカウントのロック成功※1	6	KAPM07235-I
		アカウントのロック失敗	3	KAPM07240-E
	アカウントのロック解除	アカウントのロック解除成功※2	6	KAPM07236-I
		アカウントのロック解除失敗	3	KAPM07240-E
	認証方式変更	認証方式の変更成功	6	KAPM02452-I
		認証方式の変更失敗	3	KAPM02453-E
	認可グループの追加 (GUI)	認可グループの追加成功	6	KAPM07247-I
		認可グループの追加失敗	3	KAPM07248-E
	認可グループの削除 (GUI)	単一認可グループの削除成功	6	KAPM07249-I
		単一認可グループの削除失敗	3	KAPM07248-E
		複数認可グループの削除成功	6	KAPM07249-I
		複数認可グループの削除失敗	3	KAPM07248-E
	認可グループの権限変更 (GUI)	認可グループの権限変更成功	6	KAPM07250-I
		認可グループの権限変更失敗	3	KAPM07248-E
	ユーザーの登録 (GUI または CLI)	ユーザーの登録成功	6	KAPM07241-I
ユーザーの登録失敗		3	KAPM07242-E	
ユーザー情報の更新 (GUI または CLI)	ユーザー情報の更新成功	6	KAPM07243-I	
	ユーザー情報の更新失敗	3	KAPM07244-E	

種別	種別の説明	監査事象	Severity	メッセージ ID
	ユーザーの削除 (GUI または CLI)	ユーザーの削除成功	6	KAPM07245-I
		ユーザーの削除失敗	3	KAPM07246-E
	認可グループの登録 (GUI または CLI)	認可グループの登録成功	6	KAPM07251-I
		認可グループの登録失敗	3	KAPM07252-E
	認可グループの削除 (GUI または CLI)	認可グループの削除成功	6	KAPM07253-I
		認可グループの削除失敗	3	KAPM07254-E
	認可グループの権限変更 (GUI または CLI)	認可グループの権限変更成功	6	KAPM07255-I
		認可グループの権限変更失敗	3	KAPM07256-E
	データベースのバックアップまたはリストア	hcmsdbbackups コマンドによるバックアップ成功	6	KAPM05561-I
		hcmsdbbackups コマンドによるバックアップ失敗	3	KAPM05562-E
		hcmsdb コマンドによる全体リストアの成功	6	KAPM05563-I
		hcmsdb コマンドによる全体リストアの失敗	3	KAPM05564-E
		hcmsdb コマンドによる部分リストアの成功	6	KAPM05565-I
		hcmsdb コマンドによる部分リストアの失敗	3	KAPM05566-E
	データベースのデータの入出力	hcmsdbmove コマンドによるデータ出力の成功	6	KAPM06543-I
		hcmsdbmove コマンドによるデータ出力の失敗	3	KAPM06544-E
		hcmsdbmove コマンドによるデータ入力成功	6	KAPM06545-I
		hcmsdbmove コマンドによるデータ入力失敗	3	KAPM06546-E
	データベース領域の作成または削除	hcmsdbsetup コマンドによるデータベース領域の作成成功	6	KAPM06348-I
		hcmsdbsetup コマンドによるデータベース領域の作成失敗	3	KAPM06349-E
		hcmsdbsetup コマンドによるデータベース領域の削除成功	6	KAPM06350-I
		hcmsdbsetup コマンドによるデータベース領域の削除失敗	3	KAPM06351-E
	認証データの入出力	hcmsauthmove コマンドによるデータ出力の成功	6	KAPM05832-I
		hcmsauthmove コマンドによるデータ出力の失敗	3	KAPM05833-E
		hcmsauthmove コマンドによるデータ入力成功	6	KAPM05834-I
		hcmsauthmove コマンドによるデータ入力失敗	3	KAPM05835-E

種別	種別の説明	監査事象	Severity	メッセージID
ExternalService	外部認証サーバとの通信	ディレクトリサーバとの通信成功	6	KAPM10116-I
		ディレクトリサーバとの通信失敗	3	KAPM10117-E
		RADIUS サーバとの通信成功	6	KAPM10118-I
		RADIUS サーバとの通信失敗(未応答)	3	KAPM10119-E
		Kerberos サーバとの通信成功	6	KAPM10120-I
		Kerberos サーバとの通信失敗(未応答)	3	KAPM10121-E
		DNS サーバとの通信成功	6	KAPM10122-I
		DNS サーバとの通信失敗(未応答)	3	KAPM10123-E
	外部認証サーバとの認証	ディレクトリサーバとの TLS ネゴシエーションに成功	6	KAPM10124-I
		ディレクトリサーバとの TLS ネゴシエーションに失敗	3	KAPM10125-E
		ディレクトリサーバで情報検索用ユーザーの認証に成功	6	KAPM10126-I
		ディレクトリサーバで情報検索用ユーザーの認証に失敗	3	KAPM10127-E
	外部認証サーバでのユーザー認証	ディレクトリサーバでユーザーの認証成功	6	KAPM10128-I
		ディレクトリサーバでユーザーが存在しない	4	KAPM10129-W
		ディレクトリサーバでユーザーの認証失敗	4	KAPM10130-W
		RADIUS サーバでユーザーの認証成功	6	KAPM10131-I
		RADIUS サーバでユーザーの認証失敗	4	KAPM10132-W
		Kerberos サーバでユーザーの認証成功	6	KAPM10133-I
		Kerberos サーバでユーザーの認証失敗	4	KAPM10134-W
	外部認証サーバから情報取得	ディレクトリサーバからユーザーの情報取得に成功	6	KAPM10135-I
		ディレクトリサーバからユーザーの情報取得に失敗	3	KAPM10136-E
		DNS サーバから SRV レコードの取得成功	6	KAPM10137-I
		DNS サーバから SRV レコードの取得失敗	3	KAPM10138-E

注※1

パスワードが設定されていないユーザーの認証方式を変更したことによるアカウントのロックについては、監査ログに記録されません。

注※2

ユーザーにパスワードを設定したことによるアカウントのロックの解除については、監査ログに記録されません。

9.16.2 監査ログの環境設定ファイルの編集

Tuning Manager server の監査ログを採取するには、環境設定ファイル (auditlog.conf) を編集する必要があります。環境設定ファイルの Log.Event.Category で採取する監査事象の種別を設定することで、監査ログを取得できるようになります。

監査ログの環境設定ファイルの変更を反映するには、Tuning Manager server および共通コンポーネントの再起動が必要です。

監査ログは、Windows の場合はイベントログファイル (アプリケーションログファイル) に出力され、Solaris および Linux の場合は syslog ファイルに出力されます。

注意

監査ログは大量に出力されるおそれがあるので、ログサイズの変更、採取したログの退避、保管などを実施してください。

auditlog.conf ファイルの格納先を次に示します。

Windows の場合：

<共通コンポーネントのインストール先フォルダ>%conf%sec%auditlog.conf

Solaris の場合：

/opt/HiCommand/Base/conf/sec/auditlog.conf

Linux の場合：

<共通コンポーネントのインストール先ディレクトリ>/conf/sec/auditlog.conf

auditlog.conf ファイルに設定する項目を次の表に示します。

表 9-13 auditlog.conf に設定する項目

項目	説明
Log.Facility	syslog ファイルに監査ログメッセージを出力するときに使用される分類 (Facility) を数値で指定します。 Log.Facility と各監査事象に設定されている重要度 (「表 9-12」を参照) を組み合わせた値が、syslog ファイル出力のフィルタリングに使用されます。Log.Facility に指定できる値については、「表 9-14」を参照してください。監査事象の重要度と syslog.conf ファイルの重要度の対応については、「表 9-15」を参照してください。 Log.Facility は、Solaris および Linux の場合だけ有効です。Windows の場合、指定しても無視されます。また、指定できない値、または、数値ではない文字を指定した場合は、デフォルト値が仮定されます。 デフォルト値：1
Log.Event.Category	採取する監査事象の種別を指定します。複数指定する場合は、「, (コンマ)」で区切ります。種別と「, (コンマ)」の間にスペースを入れないでください。指定されていない場合、監査ログは出力されません。指定できる種別については、「表 9-12」を参照してください。大文字、小文字は区別されません。指定できる種別以外の名称を指定した場合は、無視されます。 デフォルト値：(指定なし)
Log.Level	採取する監査事象の重要度 (Severity) を指定します。指定した値以下の重要度を持つ監査事象が、イベントログファイルに出力されます。

項目	説明
	<p>Tuning Manager server で出力する監査事象および監査事象の重要度 (Severity) については、「表 9-12」を参照してください。監査事象の重要度とイベントログの種類に対応については、「表 9-15」を参照してください。</p> <p>Log.Level は、Windows の場合だけに有効です。Solaris および Linux の場合、指定しても無視されます。また、指定できる値以外の数値、または、数値以外の文字を指定した場合は、デフォルト値が仮定されます。</p> <p>指定できる値：0～7 (重要度 (Severity)) デフォルト値：6</p>

次に Log.Facility に指定できる値と、対応する syslog.conf ファイルでの指定値を示します。

表 9-14 Log.Facility に指定できる値と syslog.conf での指定値の対応

Facility	対応する syslog.conf での指定値
1	user
2	mail*
3	daemon
4	auth*
6	lpr*
16	local0
17	local1
18	local2
19	local3
20	local4
21	local5
22	local6
23	local7

注※ 指定しないことを推奨します。

次に監査事象の重要度、syslog.conf ファイルの重要度の指定値およびイベントログの種類に対応を示します。

表 9-15 監査事象の重要度、syslog.conf の重要度、およびイベントログの種類対応

監査事象の重要度	syslog.conf の重要度	イベントログの種類
0	emerg	エラー
1	alert	
2	crit	
3	err	
4	warning	警告
5	notice	情報
6	info	
7	debug	

次に auditlog.conf ファイルの例を示します。

```
# Specify an integer for Facility. (specifiable range: 1-23)
Log.Facility 1
# Specify the event category.
```

```
# You can specify any of the following:
# StartStop, Failure, LinkStatus, ExternalService,
# Authentication, AccessControl, ContentAccess,
# ConfigurationAccess, Maintenance, or AnomalyEvent.
Log.Event.Category Authentication,ConfigurationAccess
# Specify an integer for Severity. (specifiabile range: 0-7)
Log.Level 6
```

この例の場合、Authentication および ConfigurationAccess の監査事象が出力されます。Windows の場合、「エラー」、「警告」および「情報」の監査ログが出力されます。Solaris および Linux の場合、分類が user として syslog.conf ファイルに定義された syslog ファイルに監査ログが出力されます。

9.16.3 監査ログの出力形式

監査ログの出力形式を説明します。

- Windows Server 2003 の場合

[イベントビューア] - [アプリケーション] で、イベントを開いたときに表示される [イベントのプロパティ] - [説明] の内容

```
<プログラム名> [<プロセス ID>]: <メッセージ部>
```

- Windows Server 2008 および Windows Server 2012 の場合

[イベントビューア] - [Windows ログ] - [アプリケーション] で、イベントを開いたときに表示される [イベントプロパティ] の [全般] タブの内容

```
<プログラム名> [<プロセス ID>]: <メッセージ部>
```

- Solaris および Linux の場合

syslog ファイルの内容

```
<日付・時刻> <サーバ名 (または、IP アドレス)> <プログラム名> [<プロセス ID>]: <メッセージ部>
```

<メッセージ部>の出力形式と内容を説明します。

<メッセージ部>には、半角で 953 文字まで表示されます。

メッセージ部の出力形式

```
<統一識別子>,<統一仕様リビジョン番号>,<通番>,<メッセージ ID>,<日付・時刻>,<検出エンティティ>,<検出場所>,<監査事象の種類>,<監査事象の結果>,<監査事象の結果サブジェクト識別情報>,<ハードウェア識別情報>,<発生場所情報>,<ロケーション識別情報>,<FQDN>,<冗長化識別情報>,<エージェント情報>,<リクエスト送信元ホスト>,<リクエスト送信元ポート番号>,<リクエスト送信先ホスト>,<リクエスト送信先ポート番号>,<一括操作識別子>,<ログ種別情報>,<アプリケーション識別情報>,<予約領域>,<メッセージテキスト>
```

表 9-16 メッセージ部に出力される情報

項目※	内容
統一識別子	「CELFSS」固定
統一仕様リビジョン番号	「1.1」固定
通番	監査ログのメッセージの通番
メッセージ ID	メッセージ ID メッセージ ID およびメッセージテキストについては、マニュアル「Hitachi Command Suite Software メッセージガイド」を参照してください。
日付・時刻	メッセージが出力された日付と時刻

項目※	内容
	「yyyy-mm-ddThh:mm:ss.s <タイムゾーン>」の形式で出力されます。
検出エンティティ	コンポーネント名やプロセス名
検出場所	ホスト名
監査事象の種別	事象の種別
監査事象の結果	事象の結果
監査事象の結果サブジェクト識別情報	事象に応じた、アカウント ID、プロセス ID または IP アドレス
ハードウェア識別情報	ハードウェアの型名や製番
発生場所情報	ハードウェアのコンポーネントの識別情報
ロケーション識別情報	ロケーション識別情報
FQDN	完全修飾ドメイン名
冗長化識別情報	冗長化識別情報
エージェント情報	エージェント情報
リクエスト送信元ホスト	リクエストの送信元のホスト名
リクエスト送信元ポート番号	リクエストの送信元のポート番号
リクエスト送信先ホスト	リクエストの送信先のホスト名
リクエスト送信先ポート番号	リクエストの送信先のポート番号
一括操作識別子	プログラム内で操作の通番
ログ種別情報	「BasicLog」固定
アプリケーション識別情報	プログラムの識別情報
予約領域	出力されません。
メッセージテキスト	監査事象に応じた内容 表示できない文字は、アスタリスク (*) に置き換えて出力されます。

注※

監査事象によっては、出力されない項目もあります。

監査事象「ログイン」で出力されるメッセージ部の例

```
CELFSS,1.1,0,KAPM01124-I,2006-05-15T14:08:23.1+09:00,HBase-SSO,management-
host,Authentication,Success,uid=system,,,,,,,,,,,,BasicLog,,, "The login process
has completed properly."
```

9.17 共通コンポーネントのメッセージ一覧

この節では、共通コンポーネントおよび HiRDB が出力するエラーメッセージの形式について説明します。次に示す形式のエラーメッセージが出力された場合は、マニュアル「Hitachi Command Suite Software メッセージガイド」を参照して、各メッセージの説明および対処を確認してください。

- 共通コンポーネントが出力するエラーメッセージの形式
 - KAPMnnnnnnn -z <メッセージテキスト>
 - KDJEnnnnnnn -z <メッセージテキスト>
 - KEHGnnnnnnn -z <メッセージテキスト>
- HiRDB が出力するエラーメッセージの形式

KFFAmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFCmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFDmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFHmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFImmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFKmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFLmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFQmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFRmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFSmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFUmmmmmm -z<メッセージテキスト>
KFFXmmmmmm -z<メッセージテキスト>

共通コンポーネントおよび HiRDB のエラーメッセージは、メッセージ ID とメッセージテキスト (エラーメッセージ本文) で構成されます。mmmmmm はメッセージ番号、z はメッセージレベルを表します。

jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の見積もり方法

この章では、jpcrpt コマンドを使用してレポートを HTML 形式で出力する場合に必要なメモリー量の見積もり方法を説明します。

jpcrpt コマンドで、大量データのレポートを HTML 形式で出力すると、メモリー不足が発生してレポートが表示できない場合があります。そのため、運用に応じたメモリー見積もりを実施して、適切なレポート設定をする必要があります。

- [A.1 メモリー見積もりを実施する前に](#)
- [A.2 jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の見積もり方法](#)
- [A.3 jpcrpt コマンドで必要なメモリー量とデフォルトのメモリー量との比較およびメモリー拡張の検討](#)
- [A.4 注意事項](#)

A.1 メモリー見積もりを実施する前に

この章で説明する見積もり方法で対象となるメモリーは、Java のヒープ領域です。Java のヒープ領域は、プログラム上で使用できる範囲は限定されています。例えば、物理メモリーを 4GB 搭載した環境でも、物理メモリーの空き領域には関係なく、プログラムが別途確保したヒープ領域を使用します。そのため、メモリーが大量に搭載された環境でも、メモリー見積もりを必ず実施してください。

注意

マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド」に記載されている仮想メモリー容量は、今回の見積もり方法で対象となる Java のヒープ領域を含んでいます。そのため、メモリー拡張を実施する場合は、Tuning Manager の仮想メモリー容量に、拡張したメモリー量を追加して、システムを見直す必要があります。

A.2 jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の見積もり方法

jpcrpt コマンドでレポートを HTML 出力する場合に必要なメモリー量は、次の計算式で算出してください。

```
jpcrpt コマンドで必要なメモリー量 (単位: MB) =  
( <グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値>  
  |  
<データ変換用のワーク領域の最大値> )  
+ 10*
```

注※

コマンド実行時に最低限必要とするメモリー量です。

参考

「グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値」または、「データ変換用のワーク領域の最大値」の大きい方の値を選択します。

「グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値」の見積もり方法については「[A.2.1 グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値の見積もり方法](#)」を、「データ変換用のワーク領域の最大値」の見積もり方法については「[A.2.2 データ変換用のワーク領域の最大値の見積もり方法](#)」を、それぞれ参照してください。

A.2.1 グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値の見積もり方法

jpcrpt コマンドは、レポート定義にグラフ表示の設定がある場合、グラフを含むレポートを HTML 形式で出力できますが、グラフ画像の生成時にメモリーを一時的に大きく消費します。

運用で実行する各レポートに対して「グラフ作成で必要なメモリー量」を見積もり、その中で最大の値を「グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値」として使用してください。

なお、jpcrpt コマンドで出力しようとしているレポート定義にグラフ表示の設定がない場合、「グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値」の値は 0 となり見積もりは不要です。

グラフ作成で必要なメモリー量は、次の計算式で算出してください。

```
グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値 (単位: バイト) =  
( <1 回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値> * 9 )  
  |  
( <1 回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値> * 1.5  
  + <グラフ描画用ワーク領域> )
```

注意

運用で実行する各レポートから「1回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値」を算出する場合、特にレコード数がデータ量に大きく影響するため、レコード数が多いレポートに絞って計算することをお勧めします。

参考

「<1回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値> * 9」または、「<1回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値> * 1.5 + <グラフ描画用のワーク領域>」の大きい方の値を選択します。

「1回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値」の見積もり方法については、「(1) 1回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値の見積もり方法」を、「グラフ描画用のワーク領域」の見積もり方法については「(2) グラフ描画用ワーク領域の見積もり方法」を参照してください。

(1) 1回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値の見積もり方法

運用で実行する各レポートに対して「1回のレポートデータ受信に必要なデータ量」を見積もり、その中で最大の値を「1回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値」として使用してください。

1回のレポートデータ受信に必要なデータ量は、次の計算式で算出してください。

$$1 \text{ 回のレポートデータ受信に必要なデータ量 (単位: バイト)} = \text{<レコードサイズ>} * \text{<レコード数>}$$

レコードサイズの求め方

レコードサイズとは、1レコードあたりのデータ量（表または CSV 形式でレポートを出力した場合の「データ 1 行あたりのデータ量」）を表します。

レコードサイズは、次の計算式で算出してください。

$$\begin{aligned} \text{レコードサイズ (単位: バイト)} &= \\ &\text{<選択したフィールド*\のサイズの合計>} \\ &+ \\ &\text{<選択したフィールド*\の数> * 2} \\ &+ 34 \end{aligned}$$

注※

次のフィールドは、レポートに出力するフィールドとして選択していない場合でも、必ず取得されます。

- ・履歴レポートの場合：[Date and Time] フィールドと ODBC キーフィールド
- ・リアルタイムレポートの場合：[Record time] フィールドと ODBC キーフィールド

ODBC キーフィールドについては、各 PFM - Agent マニュアルのレコードの説明を参照してください。

フィールドの形式とサイズの対応を次の表に示します。

なお、次の表に記載しているサイズは、レポート表示時に必要なサイズであり、各エージェントのマニュアルに記載されているデータ型一覧のサイズとは異なります。

表 A-1 フィールド形式とサイズの対応

フィールドの形式	サイズ (単位: バイト)
文字列 (char, string)	<文字列長> * 2
日付/時刻 (time_t, timeval)	16
上記以外のフィールド	13

レコード数の求め方

レコード数とは、1 レポートあたりの表または CSV 形式でレポートを出力した場合の「データの行数」を表します。

レコード数は、対象レポートの入力条件（レコードのインスタンス数、データ収集期間およびレポートの表示期間など）から、次の計算式で算出してください。

$$\text{レコード数} = \text{〈データの取得回数〉} * * \text{〈インスタンス数〉}$$

注※

データの取得回数は、レポートの表示期間および収集間隔により、計算式が異なります。

- ・データ収集間隔 \geq レポート表示間隔の場合：

$$\text{データの取得回数} = \text{〈レポート表示期間〉} / \text{〈データ収集間隔〉}$$

- ・データ収集間隔 $<$ レポート表示間隔の場合：

$$\text{データの取得回数} = \text{〈レポート表示期間〉} / \text{〈レポート表示間隔〉}$$

なお、インスタンス数はレコードのインスタンス数で、監視システムを構成する各装置の数に依存します。インスタンス数の求め方については、各エージェントのマニュアルの、ディスク占有量の見積もり方法について記載している個所を参照してください。

(2) グラフ描画用ワーク領域の見積もり方法

運用で実行する各レポートに対して「グラフ描画用のワーク領域のメモリー量」を見積もり、その中で最大の値を「グラフ描画用のワーク領域のメモリー量の最大値」として使用してください。

なお、グラフの種類により、計算式が異なります。

集合縦棒／積み上げ縦棒／集合横棒／積み上げ横棒／円グラフの場合

次の計算式で算出してください。

$$\text{グラフ描画用ワーク領域 (単位: バイト)} = (\text{100} * \text{〈グラフ選択フィールド数〉} + \text{300}) * \text{〈表示インスタンス数〉}^{*1}$$

注※1

表示インスタンス数は、次の条件により値が異なります。

- ・レコード数 $<$ インスタンス数の場合： 〈レコード数〉
- ・レコード数 \geq インスタンス数の場合： 〈インスタンス数〉

折れ線／面／積み上げ面グラフの場合

次の計算式で算出してください。

$$\text{グラフ描画用ワーク領域 (単位: バイト)} = (\text{50} * \text{〈表示時間点数〉}^{*2} + \text{500}) * (\text{〈表示インスタンス数〉}^{*3} | \text{〈グラフ表示フィールド数〉}^{*3})$$

注※2

表示時間点数は、次の計算式で算出してください。

$$\text{表示時間点数} = \text{〈レコード数〉} / \text{〈インスタンス数〉}$$

計算の結果、小数点以下を切り上げた整数部を使用してください。

注※3

計算式に設定する値は、次の条件により異なります。

マルチインスタンスまたはマルチエージェントの場合、表示インスタンス数に値を設定して計算します。

- ・レコード数 < インスタンス数の場合：表示インスタンス数 = <レコード数>
 - ・レコード数 ≥ インスタンス数の場合：表示インスタンス数 = <インスタンス数>
- シングルインスタンスの場合、グラフ表示フィールド数に値を設定して計算します。
- ・グラフ表示フィールド数 = <グラフ選択フィールド数>

A.2.2 データ変換用のワーク領域の最大値の見積もり方法

jpccrpt コマンドは、エージェントからの情報を View Server サービスを経由してレポート出力します。View Server サービスから受信した内部形式のデータを HTML 形式に変換するときに、メモリーを一時的に大きく消費します。

運用で実行する各レポートに対して「データ変換に必要なワーク領域」を見積もり、その中で最大の値を「データ変換用のワーク領域の最大値」として使用してください。

なお、jpccrpt コマンドで出力しようとしているレポート定義にテーブル表示の設定がない場合、「データ変換用のワーク領域の最大値」の値は 0 となり見積もりは不要です。

データ変換用のワーク領域は、次の計算式で算出してください。

$$\text{データ変換用のワーク領域 (単位: バイト)} = ((\text{<選択したフィールドごとのワーク領域のサイズの合計>} + 26) * \text{<レコード数>} + 42) * 3$$

「選択したフィールドごとのワーク領域のサイズの合計」の見積もり方法については、「(1) 選択したフィールドごとのワーク領域のサイズの合計を見積もる方法」を、「レコード数」の見積もり方法については、「A.2.1 グラフ作成時に必要なメモリー量の最大値の見積もり方法」の「(1) 1 回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値の見積もり方法」を参照してください。

(1) 選択したフィールドごとのワーク領域のサイズの合計を見積もる方法

選択したフィールドごとのワーク領域のサイズの合計を次の表を参照して算出します。

フィールドのデータ型とワーク領域のサイズの対応を次の表に示します。

表 A-2 フィールドのデータ型とワーク領域のサイズの対応

フィールドのデータ型	ワーク領域のサイズ (単位: バイト)
char ^{*1} , string	次の計算式で算出してください。 <フィールドサイズ> ^{*1} * 2 + 98
short	次の計算式で算出してください。 (<n> + <m>) ^{*2} * 2 + 96 例えば、整数部 (<n>) の桁数が 5 桁の場合、ワーク領域のサイズは 108 となります。
long, ulong	次の計算式で算出してください。 (<n> + <m>) ^{*2} * 2 + 96 例えば、整数部 (<n>) の桁数が 10 桁の場合、ワーク領域のサイズは 122 となります。
float, double	次の計算式で算出してください。 (<n> + <m>) ^{*2} * 2 + 106 例えば、整数部 (<n>) の桁数が 10 桁の場合、ワーク領域のサイズは 132 となります。
time_t	136

フィールドのデータ型	ワーク領域のサイズ (単位: バイト)
	固定値です。

注※1

[Date and Time] フィールドなどフィールドのデータ型が char 型のフィールドの場合でも、格納される値が日時のフィールドのときは、次のサイズとします (単位: バイト)。

- [Date and Time] フィールドの場合: 136
- [Date] フィールドの場合: 118
- [Time] フィールドの場合: 114

また、フィールドサイズは、「表 A-1 フィールド形式とサイズの対応」を参照してください。

注※2

- n: 数値を 10 進表記した場合の整数部の桁数を表します。
- m: 次の計算式で算出した値の整数部を表します。

$$m = (\langle n \rangle - 1) / 3$$

A.3 jpcrpt コマンドで必要なメモリー量とデフォルトのメモリー量との比較およびメモリー拡張の検討

「A.2 jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の見積もり方法」で見積もった jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の値が、デフォルトの使用可能なメモリー量の範囲内か確認してください。範囲内であれば、問題ありません。

初期設定ファイル (config.xml) の maxFetchCount (<command>タグ配下) に、「A.2 jpcrpt コマンドで必要なメモリー量の見積もり方法」で算出したレコード数の中で、最大の値を設定してください。

config.xml への設定方法については、「5.3 Performance Reporter の初期設定」を参照してください。

jpcrpt コマンドのメモリー量におけるデフォルト値と拡張可能範囲を、次の表に示します。

表 A-3 jpcrpt コマンドの使用可能メモリー量

対象	デフォルト値 (単位: MB)	拡張可能範囲 (単位: MB)
jpcrpt コマンド	64	65 ~ 1024

jpcrpt コマンドが使用するメモリーの上限值を拡張する場合、-mx オプションで最大ヒープサイズを指定してください。

-mx オプションの詳細については、マニュアル「Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド」を参照してください。

コマンドの実行例

ヒープサイズを 256MB に拡張する場合のコマンドライン例を次に示します。

```
jpcrpt -o <出力ファイル> -mx 256 <入力ファイル>
```

A.4 注意事項

jpccrpt コマンドは、エージェントからの情報を View Server サービスを経由してレポート出力します。View Server サービスの拡張可能なメモリー量の最大値は 384MB（デフォルトでは 256MB※）となります。

注※

PFM - Manager のバージョンが 09-00 以降の場合です。

次の計算式で算出された値が、384MB を超える場合は、表示期間やデータ収集間隔を調整したり、レポート定義にフィルタを設定したりすることで、レコード数を減らすことを検討してください。

View Server サービスの拡張可能なメモリー量の最大値と比較する値（単位：MB）＝ <1 回のレポートデータ受信に必要なデータ量の最大値> * 2 + 30

ただし、メモリー使用量削減機能を有効にしている場合、ViewServer サービスのメモリー量をデフォルト値から変更する必要はありません。

このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

- [B.1 関連マニュアル](#)
- [B.2 このマニュアルでの表記](#)
- [B.3 このマニュアルで使用している略語](#)
- [B.4 KB（キロバイト）などの単位表記について](#)

B.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

Hitachi Tuning Manager 関連

- Hitachi Command Suite Tuning Manager Software インストールガイド (3020-3-W42)
- Hitachi Command Suite Tuning Manager Software ユーザーズガイド (3020-3-W43)
- Hitachi Command Suite Tuning Manager - Agent for RAID (3020-3-W44)
- Hitachi Command Suite Tuning Manager - Storage Mapping Agent (3020-3-W45)
- Hitachi Command Suite Tuning Manager - Agent for SAN Switch (3020-3-W46)
- Hitachi Command Suite Tuning Manager - Agent for Network Attached Storage (3020-3-W47)

Hitachi Device Manager, および Hitachi Tiered Storage Manager 関連

- Hitachi Command Suite Software ユーザーズガイド (3020-3-W02)
- Hitachi Command Suite Software CLI リファレンスガイド (3020-3-W03)
- Hitachi Command Suite Software メッセージガイド (3020-3-W05)
- Hitachi Command Suite Software インストールガイド (3020-3-W07)
- Hitachi Command Suite Software システム構成ガイド (3020-3-W08)

JP1/Performance Management 関連

- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド (3020-3-R31)
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 運用ガイド (3020-3-R32)
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management リファレンス (3020-3-R33)
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management - Agent Option for Platform (Windows(R)用) (3020-3-R48)
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management - Agent Option for Platform (UNIX(R)用) (3020-3-R49)
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle (3020-3-R52)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド (3021-3-041)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management 運用ガイド (3021-3-042)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management リファレンス (3021-3-043)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management - Agent Option for Platform(Windows(R)用) (3021-3-056)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management - Agent Option for Platform(UNIX(R)用) (3021-3-057)
- JP1 Version 10 JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle (3021-3-059)

JP1 関連

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド (3020-3-K01)
- JP1 Version 9 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-R71)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3020-3-R77)
- JP1 Version 10 JP1/Base 運用ガイド (3021-3-001)

B.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
Adobe Flash Player	Adobe(R) Flash(R) Player
AIX	Tuning Manager シリーズがサポートしている AIX の総称です。
Device Manager	Hitachi Device Manager Software
Dynamic Link Manager	Hitachi Dynamic Link Manager Software
Dynamic Provisioning	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Hitachi Dynamic Provisioning Thin Provisioning
Hitachi AMS2000 シリーズ	Hitachi Adaptable Modular Storage 2000 シリーズ
HP-UX	Tuning Manager シリーズがサポートしている HP-UX の総称です。
HTM - Agent for NAS	Hitachi Tuning Manager - Agent for Network Attached Storage
HTM - Agent for RAID	Hitachi Tuning Manager - Agent for RAID
HTM - Agent for SANRISE	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> JP1/HiCommand Tuning Manager - Agent for SANRISE Entry JP1/HiCommand Tuning Manager - Agent for SANRISE Enterprise
HTM - Agent for SAN Switch	Hitachi Tuning Manager - Agent for SAN Switch
HTM - Storage Mapping Agent	Hitachi Tuning Manager - Storage Mapping Agent
HUS100 シリーズ	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Hitachi Unified Storage 150 Hitachi Unified Storage 130 Hitachi Unified Storage 110
JDK	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> JDK Java Development Kit
JP1/IM	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> JP1/IM - Manager JP1/IM - View
JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
Linux	Tuning Manager server がサポートしている Red Hat Enterprise Linux(R)の総称です。
NAS Manager	Hitachi NAS Manager Software
Oracle	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Oracle9i Oracle Database 10g Oracle Database 11g
Performance Management	JP1/Performance Management
PFM - Agent	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> HTM - Agent for NAS HTM - Agent for RAID HTM - Agent for SAN Switch HTM - Agent for SANRISE

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
	<ul style="list-style-type: none"> • HTM - Storage Mapping Agent • PFM - Agent for Cosminexus • PFM - Agent for DB2 • PFM - Agent for Domino • PFM - Agent for Enterprise Applications • PFM - Agent for Exchange Server • PFM - Agent for HiRDB • PFM - Agent for IIS • PFM - Agent for JP1/AJS • PFM - Agent for Microsoft SQL Server • PFM - Agent for OpenTP1 • PFM - Agent for Oracle • PFM - Agent for Platform • PFM - Agent for Service Response • PFM - Agent for Virtual Machine • PFM - Agent for WebLogic Server • PFM - Agent for WebSphere Application Server • PFM - Agent for WebSphere MQ
PFM - Agent for Cosminexus	JP1/Performance Management - Agent Option for uCosminexus Application Server
PFM - Agent for DB2	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JP1/Performance Management - Agent Option for IBM(R) DB2(R) Universal Database(TM) • JP1/Performance Management - Agent Option for IBM DB2
PFM - Agent for Domino	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JP1/Performance Management - Agent Option for Domino • JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino
PFM - Agent for Enterprise Applications	JP1/Performance Management - Agent Option for Enterprise Applications
PFM - Agent for Exchange Server	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Exchange Server
PFM - Agent for HiRDB	JP1/Performance Management - Agent Option for HiRDB
PFM - Agent for IIS	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server
PFM - Agent for JP1/AJS	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • JP1/Performance Management - Agent Option for JP1/AJS2 • JP1/Performance Management - Agent Option for JP1/AJS3
PFM - Agent for Microsoft SQL Server	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) SQL Server
PFM - Agent for OpenTP1	JP1/Performance Management - Agent Option for OpenTP1
PFM - Agent for Oracle	JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle
PFM - Agent for Platform	<p>次の製品を区別する必要がない場合の表記です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PFM - Agent for Platform (UNIX) • PFM - Agent for Platform (Windows)

このマニュアルでの表記	製品名称または意味
PFM - Agent for Platform (UNIX)	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform (UNIX 用)
PFM - Agent for Platform (Windows)	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform (Windows 用)
PFM - Agent for Service Response	JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response
PFM - Agent for Virtual Machine	JP1/Performance Management - Agent Option for Virtual Machine
PFM - Agent for WebLogic Server	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> JP1/Performance Management - Agent Option for BEA WebLogic Server JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle(R) WebLogic Server
PFM - Agent for WebSphere Application Server	JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere Application Server
PFM - Agent for WebSphere MQ	JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere MQ
PFM - Base	JP1/Performance Management - Base
PFM - Manager	JP1/Performance Management - Manager
Replication Manager	Hitachi Replication Manager Software
Solaris, または Solaris (SPARC)	Tuning Manager server がサポートしている Solaris の総称です。
Storage Navigator	次の製品を区別する必要がない場合の表記です。 <ul style="list-style-type: none"> Storage Navigator Web Console
Storage Navigator Modular 2	Hitachi Storage Navigator Modular 2
Sun Cluster	Sun Microsystems Sun Cluster
Tiered Storage Manager	Hitachi Tiered Storage Manager Software
Tuning Manager server	Hitachi Tuning Manager Software
VMware	VMware(R)
VMware ESX	VMware vSphere(R) ESX
VMware ESXi	VMware vSphere(R) ESXi(TM)

- PFM - Manager, PFM - Agent および PFM - Base を総称して、Performance Management と表記することがあります。
- Tuning Manager server および PFM - Agent を総称して、Tuning Manager シリーズと表記することがあります。
- HP-UX, Solaris, Linux および AIX を総称して、UNIX と表記することがあります。

B.3 このマニュアルで使用している略語

このマニュアルで使用している略語を次の表に示します。

略語	正式名称
AJP	Apache JServ Protocol
API	Application Programming Interface
ASCII	American Standard Code for Information Interchange

略語	正式名称
CIDR	Classless Inter-Domain Routing
CLPR	Cache Logical PaRtition
CSV	Comma Separated Value
DKA	DisK Adapter
DNS	Domain Name System
DTD	Document Type Definition
FQDN	Fully Qualified Domain Name
GUI	Graphical User Interface
ID	IDentifier
IP	Internet Protocol
IPv4	Internet Protocol version 4
IPv6	Internet Protocol version 6
JavaVM	Java Virtual Machine
JSP	JavaServer Pages
KDC	Key Distribution Center
LAN	Local Area Network
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
LU	Logical Unit
MPIO	MultiPath I/O
NFS	Network File System
NIC	Network Interface Card
NTFS	NT File System
NTP	Network Time Protocol
ODBC	Open DataBase Connectivity
OS	Operating System
PNG	Portable Network Graphics
RAS	Reliability Availability Serviceability
SAN	Storage Area Network
SLPR	Storage Logical PaRtition
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
SSL	Secure Sockets Layer
SSO	Single Sign-On
SVP	SerVice Processor
TLS	Transport Layer Security
URL	Uniform Resource Locator
VMFS	VMware Virtual Machine File System
WWN	World Wide Name
XML	eXtensible Markup Language

B.4 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）、1PB（ペタバイト）はそれぞれ $1,024$ バイト、 $1,024^2$ バイト、 $1,024^3$ バイト、 $1,024^4$ バイト、 $1,024^5$ バイトです。

索引

A

- account.lock.num 458
- Admin 77
- Agent-less ホスト 126
- Agent-less ホストの情報をリフレッシュする手順 127
- Agent-less モード 119
- Agent-less モードから Agent モードへの切り替え 128
- Agent-less モードでホストを監視するための運用手順 126
- Agent インスタンスの数が 1 つの Tuning Manager server で監視できる上限を超える 172
- Agent ホスト 126
- Agent モード 119
- Agent モードから Agent-less モードへの切り替え 129

C

- Collection Interval 135
- Collection Offset 135

D

- Description 134
- Detail Records 134
- Device Manager がインストールされているマシンのホスト名または IP アドレスを変更する場合 447

E

- exauth.properties ファイル 76

H

- hcmdsbanner コマンド [メッセージの削除] 461
- hcmdsbanner コマンド [メッセージの登録] 461
- hcmdschgurl コマンド 453

- hcmdsdbtrans コマンド 69
- hcmdsgetlogs コマンド 442
- hcmdsunlockaccount コマンド 181
- Hitachi Command Suite 共通トレースログ 429
- Hitachi Command Suite 製品共通のユーザー認証 77
- Hitachi Command Suite 製品の URL の変更 452
- Hitachi Command Suite 製品のインストール先が異なるマシンへの移行 69
- hntr2*.log 429
- htm-db-setup コマンド 380
- htm-db-setup コマンドのオプション一覧 381
- htm-db-status コマンド 382
- htm-dump コマンド 387
- htm-dump コマンドのオプション一覧 388
- htm-dvm-setup コマンド 383
- htm-dvm-setup コマンド [実行手順] 88
- htm-dvm-setup コマンドのオプション一覧 385
- htm-getlogs コマンド 389
- htm-getlogs コマンドのオプション一覧 390
- htmsetup コマンド 89

I

- Interval Records 134

J

- JP1/IM との連携 47
- jpcaspsv output コマンド 416
- jpcaspsv output コマンドのオプション一覧 416
- jpcaspsv update コマンド 405
- jpcaspsv update コマンドのオプション一覧 405
- jpcasrec output コマンド 402
- jpcasrec output コマンドのオプション一覧 403
- jpcasrec update コマンド 395
- jpcasrec update コマンドのオプション一覧 395
- jpcpragtsetup コマンド 419
- jpcprauth コマンド 420

jpcprauth コマンドのオプション一覧 421
jpcprras コマンド 424
jpcprras コマンドのオプション一覧 425

L

Linux のポート変更 438
Log 134
Log Records 134
LOGIF 135

M

Main Console のコマンド 380
Main Console のログ 187

O

Oracle JDK を使用する場合の設定 53

P

password.check.userID 458
password.min.length 457
password.min.lowercase 458
password.min.numeric 458
password.min.symbol 458
password.min.uppercase 458
Performance Reporter 115
Performance Reporter のコマンド 391
Performance Reporter のログ 191
Period (Day) 139
Period - Day Drawer (Week) 139
Period - Hour Drawer (Day) 138
Period - Minute Drawer (Day) 138
Period - Month Drawer (Month) 139
Period - Week Drawer (Week) 139
Period - Year Drawer (Year) 139
PFM - Manager に接続する 420
Product Alarm - PA 153
Product Interval - Day Drawer 141
Product Interval - Hour Drawer 141
Product Interval - Minute Drawer 141
Product Interval - Month Drawer 141
Product Interval - Week Drawer 141
Product Interval - Year Drawer 142

R

RetentionEx 138

S

security.conf 457
Solaris のポート変更 436
syslog 185, 429
System アカウントをロックの対象にしたい 459
System アカウントをロックの対象に設定する 459

T

Tuning Manager server がインストールされているマシンの IP アドレスを変更する場合 450
Tuning Manager server がインストールされているマシンのホスト名を変更する場合 448
Tuning Manager server で監査ログに出力する種別と監査事象 463
Tuning Manager server に接続できる Web 端末を制限する 46
Tuning Manager server の管理と設定 25
Tuning Manager server の起動 URL を変更する 452
Tuning Manager server のデータ取得 118
Tuning Manager server のデータベース 60
Tuning Manager server のライセンスについて 56
Tuning Manager server ホストを分割する方法 172

U

User Management 77
user.conf ファイルの格納先 459

V

View 77

W

Web Client からアプリケーションを起動するための設定 454
Web ブラウザーで日本語を表示する 33
Windows イベントログ 184
Windows のポート変更 434

あ

アカウントの自動ロック 84
アカウントのロック 82
アプリケーションバーエリア 28

い

移行先サーバでのデータベースのインポート 72

移行先サーバへの Hitachi Command Suite 製品のインストール 70
移行元サーバでのデータベースのエクスポート 71
一時ライセンスキー 56
イベントログ 429
インフォメーションエリア 28

え

永久ライセンスキー 56
エージェント 117
エクスプローラエリア 27

か

外部認可サーバ 76
外部認証 77
外部認証サーバ 76
過去データ収集期間 154
仮想化サーバを監視対象外にする手順 126
仮想環境への Tuning Manager server 導入手順 124
仮想環境を監視するための運用手順 124
監査ログの環境設定ファイルの編集 467
監査ログの採取 462
監査ログの出力形式 469
管理画面 26
管理サーバのホスト名または IP アドレスの変更 447
管理者としてのログイン 32
管理者メニュー (エクスプローラエリア) 28

き

共通コンポーネント 427
 アンインストール 428
 インストール 428
 概要 428
 ログ出力 429
共通コンポーネントの JavaVM スレッドダンプの採取 444
共通コンポーネントのコマンド 431
共通コンポーネントのサービス (Windows) 432
共通コンポーネントの常駐プロセス 440
共通コンポーネントの常駐プロセス (Solaris および Linux) 441
共通コンポーネントの常駐プロセス (Windows) 440
共通コンポーネントの使用ポート 433
共通コンポーネントのトラブルシューティング 441
共通コンポーネントの保守情報の採取 442

け

警告バナー 85
権限
 ユーザー 77

こ

異なるプラットフォームのマシンへの移行 69
コマンド
 Main Console 380
 Performance Reporter 391
 共通コンポーネント 431
コマンド一覧 [Main Console および Performance Reporter] 378
コマンドがサポートする DTD ファイル [Performance Reporter] 393
コマンド実行の前提条件 [Performance Reporter] 391
コマンドで保守情報を採取する方法 194
コマンド入出力 [Performance Reporter] 391
コマンドの記載形式 378
コマンドの指定方法 378
コマンドの出力形式 [Performance Reporter] 393
コマンドの同時実行 [Performance Reporter] 394
コマンドの文法の説明に使用する記号 378
コマンドを使用してロックを解除 181

さ

サービスの起動 34
サービスの停止 37
削除
 ユーザー 83

し

手動でログファイルを収集する方法 196
上限値 152
情報取得元 118
初期のユーザーアカウント 34
シングルサインオンモード (SSO モード) 76

す

すべてのユーザーアカウントがロックされた場合 181

せ

セカンダリーサーバ 431
セキュリティ 83
設定 (エクスプローラエリア) 28

た

- 対処の手順 170
- タイトルエリア 28

つ

- 追加
 - ユーザー 78
- ツールの設定 87

て

- ディスク容量の確認 [イベントデータ] 153
- ディスク容量の確認 [パフォーマンスデータ] 151
- データ更新の遅れが発生する 170
- データベース管理 59
- データベースの移行 69
- データベースの作業領域 176
- データベースの作業領域が不足する 176
- データベースの使用量 60
- データベースの総容量 60
- データベースの総容量の拡張手順 67
- データベースの総容量の縮小手順 68
- データベースの総容量の変更 63
- データベースの総容量の見積もり方法 64
- データベースの総容量を縮小する 68
- データベースのバックアップ 60
- データベースの容量が不足する 172
- データベースの容量表示 60
- データベースのリストア 62
- データベースを移行する場合の注意事項 69
- データベースを再作成する手順 176

と

- 統合ロギング 429
- トラブルシューティング 170
- トラブル発生時に採取が必要な資料 184
- トラブル発生時の状況を確認するための情報 197
- トラブルへの対処方法 169
- トレースログファイルの設定 (Linux) 430
- トレースログファイルの設定 (Solaris) 430
- トレースログファイルの設定 (Windows) 430

な

- ナビゲーションエリア 28

に

- 入力文字の制限事項 28

- 認可グループ 76
- 認証キーファイルを作成する 420

は

- パスワード
 - 条件 84
 - 変更 81
- パフォーマンスデータの保存条件の設定 137
- パラメーターファイルの記述方式 [Performance Reporter] 392
- パラメーターファイルの形式 (jpcaspsv update コマンド) 405
- パラメーターファイルの形式 (jpcasrec update コマンド) 395
- パラメーターファイルの作成 [Performance Reporter] 392

ひ

- 非常ライセンスキー 56
- ビルトインアカウント 34

ふ

- プライマリーサーバ 431
- プロファイル
 - ユーザー 80

へ

- ヘルプ参照オプション [Performance Reporter] 394
- 変更
 - パスワード 81

ほ

- ポーリング 118
- ポーリングスケジュール 154
- ポーリングの再試行オプションの設定 155
- 保守情報の採取方法 194
- ホストの監視モード 119
- ホストの監視モードの判別 128
- ホストの監視モードを切り替える手順 128
- ホストの情報取得元 (ホストの監視モード) の選択 119
- ホストを Agent-less ホストとして監視対象に追加する手順 126
- 本番稼働後の性能問題発生時および構成変更時の運用手順 125, 127
- 本番稼働後の容量情報監視時の運用手順 125

め

メッセージ一覧

Main Console 203

Performance Reporter 289

共通コンポーネント 470

ゆ

ユーザー

権限 77

削除 83

自動ロック 84

追加 78

プロフィール 80

ロック状態 82

ユーザーアカウントに関するセキュリティの設定 456

ユーザーアカウントのロックを解除 181

ユーザーアカウントを管理するサーバ 431

ユーザーアカウントを管理するサーバの登録 431

ユーザー権限 77

ユーザープロパティファイルの設定について 39

ユーティリティ 377

ら

ライセンス管理 55

ライセンスキーの登録 56

ライセンスと Tuning Manager server のバージョン情報
の見方 57

り

リソース (エクスプローラエリア) 27

ろ

ログアウト 34

ログイン画面 33

ログファイル 429

ロック状態 82

ロックの対象外 459

